

目 次（2024年度専門科目）

次世代教育学 [FE+他学科小学校免許希望者]	1
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ	3
フィールドワーク	5
基礎ゼミナールⅡ [通年]教育経営学科	7
ゼミナールⅠ(基礎)	8
課題研究Ⅰ 《通年》	10
課題研究Ⅰ 《通年》	11
ゼミナールⅠ(基礎)	12
ゼミナールⅠ(基礎)	14
ゼミナールⅠ(基礎)	16
ゼミナールⅠ(基礎)	18
ゼミナールⅠ(基礎)	20
教育実習事前・事後指導(幼稚園)	22
ゼミナールⅠ(基礎)	24
ゼミナールⅠ(基礎)	26
ゼミナールⅠ(基礎)	27
ゼミナールⅠ(基礎)	28
ゼミナールⅠ(基礎)	30
ゼミナールⅠ(基礎)	32
ゼミナールⅠ(基礎)	34
ゼミナールⅠ(基礎)	36
ゼミナールⅠ(基礎)	38
ゼミナールⅠ(基礎)	40
ゼミナールⅠ(基礎)	42
ゼミナールⅠ(基礎)	44
教育実習事前・事後指導(小学校) 《通年》	46
ゼミナールⅠ(基礎)	48
ゼミナールⅠ(基礎)	49
キャリアマネジメントⅣ [公務員]	51
ゼミナールⅡ(応用)	52
ゼミナールⅡ(応用)	54
ゼミナールⅡ(応用)	56
ゼミナールⅡ(応用)	57
ゼミナールⅡ(応用)	59
ゼミナールⅡ(応用)	61
ゼミナールⅡ(応用)	63
ゼミナールⅡ(応用)	65
ゼミナールⅡ(応用)	67
ゼミナールⅡ(応用)	69
課題研究Ⅱ 《通年》	70
課題研究Ⅱ 《通年》	72
ゼミナールⅡ(応用)	74
ゼミナールⅡ(応用)	75
ゼミナールⅡ(応用)	76
ゼミナールⅡ(応用)	77
ゼミナールⅡ(応用)	79
ゼミナールⅡ(応用)	80
ゼミナールⅡ(応用)	82
ゼミナールⅡ(応用)	84
ゼミナールⅡ(応用)	86
ゼミナールⅡ(応用)	88
教育実習事前・事後指導(英語) 《通年》	90
ゼミナールⅡ(応用)	91
ゼミナールⅡ(応用)	93
アスレティックトレーナー現場実習Ⅰ	95
アスレティックトレーナー現場実習Ⅲ	97
アスレティックトレーナー現場実習Ⅴ	99
インクルーシブスポーツ [アダプテッドスポーツ]	101
インターンシップ [FE]	103
インターンシップ [PP]	105
インターンシップ(企業) [BC]	106
インターンシップ(公務員) [BC]	108
インターンシップⅠ [BC]	110
音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)	112
音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)	113
音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)	114
音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)	115
卒業研究 [BC]	116
卒業研究 [BC]	118

目 次（2024年度専門科目）

卒業研究 [BC]	119
卒業研究 [BC]	121
卒業研究 [BC]	123
卒業研究 [FC]	125
卒業研究 [FE]	126
卒業研究 [FE]	127
卒業研究 [FE]	128
卒業研究 [FE]	130
卒業研究 [FE]	131
卒業研究 [PP]	132
卒業研究 [PP]	133
卒業研究 [PP]	135
卒業研究 [PP]	136
卒業研究 [PP]	138
卒業研究 [PP]	139
卒業研究 [FE]	140
解剖学Ⅰ《連続》	141
整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》	143
整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》	145
整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》	146
スポーツアナリティクスⅠ	147
整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》	149
ゼミナールⅠ(基礎)	151
ゼミナールⅠ(基礎)	152
ゼミナールⅠ(基礎)	153
ゼミナールⅠ(基礎)	154
スポーツ栄養学実習	156
ゼミナールⅠ(基礎)	157
スポーツアナリティクス実習	159
スポーツアナリティクスⅡ	161
ゼミナールⅠ(基礎)	163
ゼミナールⅠ(基礎)	165
ゼミナールⅠ(基礎)	167
ゼミナールⅠ(基礎)	168
ゼミナールⅠ(基礎)	169
ゼミナールⅠ(基礎)	171
ゼミナールⅠ(基礎)	173
ゼミナールⅠ(基礎)	174
ゼミナールⅠ(基礎)	176
ゼミナールⅠ(基礎)	178
ゼミナールⅠ(基礎)	179
ゼミナールⅠ(基礎)	181
整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》	183
ゼミナールⅠ(基礎)	185
ゼミナールⅠ(基礎)	187
ゼミナールⅠ(基礎)	189
ゼミナールⅠ(基礎)	190
ゼミナールⅠ(基礎)	192
ゼミナールⅠ(基礎)	193
ゼミナールⅠ(基礎)	195
ゼミナールⅠ(基礎)	197
ゼミナールⅠ(基礎)	199
ゼミナールⅠ(基礎)	201
ゼミナールⅠ(基礎)	202
ゼミナールⅠ(基礎)	203
ゼミナールⅠ(基礎)	205
ゼミナールⅠ(基礎)	207
運動生理学実習	209
ゼミナールⅠ(基礎)	211
ゼミナールⅠ(基礎)	213
ゼミナールⅠ(基礎)	215
ゼミナールⅠ(基礎)	217
ゼミナールⅠ(基礎)	219
ゼミナールⅡ(応用)	220
ゼミナールⅡ(応用)	222
ゼミナールⅡ(応用)	224
ゼミナールⅡ(応用)	226
ゼミナールⅡ(応用)	228
ゼミナールⅡ(応用)	229
ゼミナールⅡ(応用)	231
ゼミナールⅡ(応用)	232
ゼミナールⅡ(応用)	233
ゼミナールⅡ(応用)	234
ゼミナールⅡ(応用)	235
ゼミナールⅡ(応用)	236
ゼミナールⅡ(応用)	238
ゼミナールⅡ(応用)	240

目 次（2024年度専門科目）

ゼミナールⅡ(応用)	242
ゼミナールⅡ(応用)	244
ゼミナールⅡ(応用)	246
ゼミナールⅡ(応用)	248
ゼミナールⅡ(応用)	250
ゼミナールⅡ(応用)	252
ゼミナールⅡ(応用)	253
ゼミナールⅡ(応用)	255
ゼミナールⅡ(応用)	257
ゼミナールⅡ(応用)	259
ゼミナールⅡ(応用)	261
ゼミナールⅡ(応用)	263
ゼミナールⅡ(応用)	264
ゼミナールⅡ(応用)	266
ゼミナールⅡ(応用)	268
ゼミナールⅡ(応用)	270
ゼミナールⅡ(応用)	272
ゼミナールⅡ(応用)	274
ゼミナールⅡ(応用)	276
ゼミナールⅡ(応用)	278
ゼミナールⅡ(応用)	280
整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ) [2021年度入学生用]	282
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	284
整復臨床実習Ⅰ《通年》	286
整復臨床実習Ⅱ《通年》	288
整復臨床実習Ⅲ《通年》	290
整復臨床実習Ⅳ《通年》	292
卒業研究 [FC]	294
卒業研究 [FC]	295
卒業研究 [FC]	296
卒業研究 [FC]	297
卒業研究 [FC]	298
卒業研究 [FC]	299
卒業研究 [FE]	300
卒業研究 [FE]	302
卒業研究 [FE]	304
卒業研究 [FE]	306
卒業研究 [PH]	308
卒業研究 [PH]	309
卒業研究 [PH]	310
卒業研究 [PH]	311
卒業研究 [PH]	312
卒業研究 [PH]	314
卒業研究 [PP]	315
卒業研究 [PP]	317
卒業研究 [PP]	319
卒業研究 [PP]	320
卒業研究 [PP]	322
卒業研究 [PP]	323
卒業研究 [PP]	324
卒業研究 [PP]	325
卒業研究 [PP]	327
卒業研究 [PP]	329
卒業研究 [PP]	331
卒業研究 [PP]	333
卒業研究 [PP]	335
卒業研究 [PP]	336
体力学実習	337
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》	338
特別演習Ⅲ [社会調査士系]《通年》	340
運動学特論A	342
器械運動Ⅰ(基礎)	343
器械運動Ⅰ(基礎)	344
運動器の解剖と機能Ⅰ	345
教育心理学	346
スポーツ科学入門 [PP用]	347
体育原理 [PP以外用]	348
健康科学概論	349
社会調査法	350
英語文学	351
陸上Ⅰ(基礎) [PP男子用]	352
幼児と表現	353
経済学概論	354
子どもの保健	355
都市計画論	356
公共経営論	358
教職入門	359

目 次（2024年度専門科目）

言葉の理解 [FE2422組用]	361
自然の理解 [FE2431組用]	363
スポーツ科学入門 [PS用]	364
スポーツ心理学 [PP/PH1、2年生用]	365
陸上Ⅰ(基礎) [PP男子用]	366
現代経営実践演習基礎Ⅰ	367
自然の理解 [FE2432組用]	368
教育の思想と原理 [FC,FE初等]	369
日本語表現Ⅰ [BC留学生用]	370
剣道Ⅰ(基礎) [PP1年生男子用]	371
言葉の理解 [FE2421組用]	372
自然の理解 [FE2433組用]	374
スポーツ心理学 [PP/PH1、2年生用]	375
陸上Ⅰ(基礎) [PP女子用、他学科+PP2年生以上]	376
アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)	377
資格検定対策Ⅰ(語学系)	378
英語の理解 [FE2422組用]	379
自然の理解 [他学科]	380
陸上Ⅰ(基礎) [PS用]	381
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [A]	382
実践英文法(基礎)	383
陸上Ⅰ(基礎) [他学科+PP2年生以上]	384
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [B]	385
基礎柔道整復学Ⅰ(総論)	386
法学概論	387
体育原理 [PP用]	388
剣道Ⅰ(基礎) [PP1年生女子用]	389
保育原理	390
プロジェクト・ゼロ	391
簿記入門	393
教育の思想と原理 [FE英語,PP2421組用]	394
剣道Ⅰ(基礎) [PP1年生男子用]	395
水泳Ⅰ(基礎)	396
経営学概論	397
英語の理解 [FE2421組用]	398
教育の思想と原理 [FE英語,PP2422組用]	399
器械運動Ⅰ(基礎) [他学科+PP2年生以上]	400
水泳Ⅰ(基礎)	401
次世代教育学 [FC]	402
異文化コミュニケーション論 [英語教員・日本語教師希望者限定]	403
器械運動Ⅰ(基礎)	404
スポーツ心理学 [PS用]	405
トレーナー論	406
器械運動Ⅰ(基礎)	407
社会福祉学	408
国際交流実習Ⅰ(基礎)	409
海外研修	410
ミクロ経済学	411
基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)	412
マクロ経済学	413
スポーツデータサイエンス入門 [PS用]	414
運動学	415
生理学	416
リーディング・スキル(基礎) [英語教員希望者限定]	417
現代経営論	418
幼児と健康	419
簿記演習	420
公共経営セミナー	421
時事英語	422
スポーツデータサイエンス入門 [PP用]	423
保健体育科指導法Ⅰ(基礎) [PP+他学科]	424
トレーニング科学Ⅰ(基礎)	425
統計学基礎	426
健康管理概論	427
保健体育科指導法Ⅰ(基礎) [PP+他学科]	428
関係法規	429
ニュージーランド保育	430
日本語表現Ⅱ [BC留学生用]	431
水泳Ⅰ(基礎) [健康科学科用]	432
地域政策論	433
スポーツ経営学入門	435
資格検定対策Ⅱ(情報系)	436
幼児と人間関係	437
運動学特論B	438
異文化コミュニケーション	439
英語文学史	440
器楽演習Ⅰ [FC2422]	441

目 次（2024年度専門科目）

図画工作Ⅰ [FC2421]	443
日本の伝統文化 [留学生用A]	444
臨床柔道整復学Ⅰ (骨折Ⅰ)	445
SDGs入門	446
特別支援教育総論	448
トレーニング演習Ⅰ (基礎) [A]	449
器楽演習Ⅰ [FC2421]	450
図画工作Ⅰ [FC2422]	452
実践英文法 (応用)	453
トレーニング演習Ⅰ (基礎) [B]	454
保育者論	455
社会の理解 [FE2431組用]	456
水泳Ⅰ (基礎)	457
流通論	458
特別支援教育	459
発育と発達	461
レクリエーション論	462
水泳Ⅰ (基礎)	463
社会の理解 [FE2432組用]	464
社会の理解 [FE2433組用]	465
現代経営実践演習基礎Ⅱ	466
基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)	467
経営組織論	468
発達心理学 [FE/PP]	469
器械運動Ⅱ (応用)	470
資格検定対策Ⅲ(簿記系)	471
知的障害児教育Ⅰ	472
器楽演習Ⅰ [B]	474
器楽演習Ⅱ [A]	475
保育内容「健康」指導法	476
比較文化論	477
器楽演習Ⅰ [C]	478
器楽演習Ⅱ [B]	479
器楽演習Ⅰ [A][不開講]	480
器楽演習Ⅱ [C][不開講]	481
英語文法 [英語教員希望者限定]	482
教育相談(初等)	483
運動生理学	485
公衆衛生学	486
文章作成	487
音楽の理解 [FE2333組用]	488
保健体育科指導法Ⅱ (応用) [PP教員希望者用]	489
柔道Ⅰ (基礎) [PP男子用]	490
保育実習指導Ⅰ B (施設)	491
臨床柔道整復学Ⅱ (骨折Ⅱ)	492
スポーツ施設論	493
原価計算	494
総合日本語Ⅰ (基礎) [BC留学生用]	495
音楽の理解 [FE2331組用]	496
保健体育科指導法Ⅱ (応用) [PP教員希望者用]	497
剣道Ⅰ (基礎) [2年生以上男子用]	498
子ども家庭支援の心理学	499
音楽の理解 [FE2332組用]	500
スタジオエクササイズ	501
運動障害と予防および救急処置 [PP4年次、PH2年次]	502
剣道Ⅰ (基礎) [2年生以上男子用]	503
柔道Ⅰ (基礎) [PP男子用]	504
外科学Ⅰ	505
体育行政学	506
剣道Ⅰ (基礎) [2年生以上男子用]	508
保健体育科指導法Ⅱ (応用) [再履修者用+他学科]	509
総合日本語Ⅱ (応用) [BC秋入学生用]	510
財務会計	511
社会科教育法 [FE2331組用]	512
国語科教育法 [他学科A]	513
算数科教育法 [FE2332組用]	514
美術の理解 [FE2333組用]	515
バスケットボールⅠ (基礎)	516
柔道Ⅰ (基礎) [PH男子用]	517
保育内容総論	518
現代経営実践演習基礎Ⅲ	519
スポーツ産業論	520
社会科教育法 [FE2333組用]	521
国語科教育法 [他学科B]	522
算数科教育法 [FE2331組用]	523
美術の理解 [FE2332組用]	524
剣道Ⅰ (基礎) [2年生以上女子用]	525

目 次（2024年度専門科目）

バスケットボールⅠ(基礎)	526
柔道Ⅰ(基礎) [PH女子用]	527
スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅰ	528
病理学Ⅰ	529
データサイエンス入門	530
社会科教育法 [FE2332組用]	531
算数科教育法 [FE2333組用]	532
レクリエーション実習	533
柔道Ⅰ(基礎) [PP女子用]	534
消費者行動論	535
柔道Ⅰ(基礎) [PP男子用]	536
保育マネジメント演習Ⅰ	537
英語学概論	538
検査・測定と評価Ⅰ	539
柔道Ⅰ(基礎) [PP男子用]	540
器楽演習Ⅱ [FC2321]	541
資格検定対策Ⅳ(ビジネス系)	542
マーケティング総論	543
英語科教育法Ⅰ(基礎)	544
美術の理解 [FE2331組用]	545
柔道Ⅰ(基礎) [次世代女子・PP女子用]	546
器楽演習Ⅱ [FC2322]	547
柔道整復解剖生理演習Ⅰ	548
国際関係論	549
保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP免許取得者]	550
柔道Ⅰ(基礎) [次世代男子用]	551
ソフトボール [PP女子+他学科女子用]	552
スポーツメンタルトレーニング論	553
ソフトボール [PP女子+他学科女子用]	554
障害児保育	555
社会的養護Ⅰ	556
教育評価	557
アスレティックトレーナー実習Ⅰ	558
キャリアマネジメントⅠ [公務員]	559
キャリアマネジメントⅠ	560
キャリアマネジメントⅠ [中高保体教員]	561
保育内容「人間関係」指導法	562
ビジネスマナー	563
特別活動の指導法 [FE用][A]	564
知的障害児教育Ⅱ	565
スポーツ栄養学	566
スポーツ栄養学	567
剣道Ⅱ(応用)	568
柔道Ⅱ(応用) [PP男子用]	569
特別活動の指導法 [FE用][B]	570
器楽演習Ⅰ [A]	571
器楽演習Ⅱ [A]	572
サッカー [PP男子用]	573
ソフトボール [PP男子用]	574
ハンドボールⅠ(基礎)	575
トレーニング演習 [PH用]	576
国語科教育法 [FE2333組用]	577
器楽演習Ⅰ [B]	578
器楽演習Ⅱ [B]	579
サッカー [PP男子用]	580
ソフトボール [PP男子用]	581
ハンドボールⅠ(基礎)	582
柔道Ⅱ(応用) [PP女子用]	583
陸上Ⅱ(応用)	584
器楽演習Ⅰ [C]	585
器楽演習Ⅱ [C]	586
アスレティックリハビリテーション基礎	587
リーディング・スキル (応用) [英語教員希望者限定]	588
生活の理解	589
教育相談(中等)	590
総合的な学習の時間の指導法 [他学科][再履修]	592
特別活動の指導法 [他学科][再履修]	593
スポーツバイオメカニクス [PP]	594
トレーニング論Ⅰ(基礎)	595
スポーツメディア論 [BC用]	596
英語のリズムとイントネーション	597
運動・健康の理解 [FE2331組用]	598
教育課程論 [C]	599
現代企業論	600
バスケットボールⅡ(応用)	601
基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)	602
管理会計	603

目 次（2024年度専門科目）

国語科教育法 [FE2332組用]	604
プロジェクト研究	605
総合日本語Ⅱ(応用) [BC留学生用]	606
教育課程論 [A]	607
経営管理論	608
世界経済論	609
教育課程論 [B]	610
バレーボールⅠ(基礎) [他学科+PP3年生以上]	611
柔道Ⅱ(応用) [PH男子用]	612
保育内容「造形表現」指導法 [FC2321組用]	613
保育内容「音楽表現」指導法 [FC2322組用]	614
マーケティングリサーチ	615
国語科教育法 [FE2331組用]	617
バレーボールⅠ(基礎) [PP用]	618
柔道Ⅱ(応用) [PH女子用]	619
保育内容「造形表現」指導法 [FC2322組用]	620
保育内容「音楽表現」指導法 [FC2321組用]	621
スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ	622
行政法Ⅰ	623
国際経済学	624
社会科教育法 [他学科A]	625
算数科教育法 [他学科B]	626
教育課程論 [D]	627
発達障害児教育総論 [FE用]	628
発達障害児教育総論 [他学科]	629
体育社会学	630
バレーボールⅠ(基礎) [他学科+PP3年以上用]	632
ラグビー [男子用]	633
アスレティックトレーナー実習Ⅱ	634
応用マクロ経済学	635
社会科教育法 [他学科B]	636
算数科教育法 [他学科A]	637
総合的な学習の時間の指導法 [FE用][A]	638
体育実技の指導法	639
バレーボールⅠ(基礎) [PP用]	640
ラグビー [女子用]	641
保育マネジメント演習Ⅱ	642
臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)	643
現代ビジネス概論	644
ビジネス心理学	645
スポーツイベント論 [eスポーツ]	646
総合的な学習の時間の指導法 [FE用][B]	647
検査・測定と評価Ⅱ	648
バレーボールⅠ(基礎) [PP用]	649
サッカー [PP女子用]	650
保育内容「言葉」指導法	651
武道指導論 [剣道]	652
武道指導論 [柔道]	653
サッカー [PP女子用]	654
保育実習指導Ⅰ A(保育所)	655
日本語教育概論Ⅰ	656
柔道整復解剖生理演習Ⅱ	657
英語科教育法Ⅱ(応用)	658
フィットネスプログラム論	659
ソフトボール [PP男子+他学科男子]	660
子どもの理解と援助	661
日本語学Ⅰ	662
肢体不自由児の心理・生理・病理	663
トレーニング演習Ⅱ(応用)	664
ソフトボール [PP男子+他学科男子]	665
柔道Ⅱ(応用) [PP男子用]	666
社会的養護Ⅱ	667
内科学Ⅰ	668
企業経営実践論Ⅰ	669
社会学概論	670
トレーニング演習Ⅱ(応用)	671
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP教員希望者用]	672
コーチング論	674
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP教員希望者用]	675
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP免許取得者]	677
学校支援ボランティア [FE/PP]	678
学校支援ボランティア [FE/PP]	679
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [英語免許、保体免許用]	680
理科実験の指導法Ⅱ(理科教師塾)	682
スポーツ文化論	683
子ども子育て教育相談	684
基礎柔道整復学Ⅴ(保存療法)	685

目 次（2024年度専門科目）

ビジネス特別講義Ⅰ	686
教育実習事前・事後指導(保健体育)	687
幼児心理学Ⅰ	688
臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)	690
スポーツ健康実習	691
スポーツ健康実習 [PH/PP4年生用]	692
ゼミナールⅠ(基礎)	693
情報分析論	694
スピーキング・スキル	696
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE2222組用]	697
課題研究Ⅰ《通年》	699
課題研究Ⅰ《通年》	700
課題研究Ⅰ《通年》	701
課題研究Ⅰ《通年》	702
上級英語文法 [英語教員希望者限定]	703
臨床柔道整復学Ⅳ(捻挫)	704
道德教育の理論及び指導法 [PP2231組用]	705
体育科教育法 [FE2231組用]	707
スポーツ・レクリエーション演習	709
体育測定・評価	710
幼児英語指導法Ⅰ	711
幼児体育指導法Ⅰ	712
言語学	713
柔道整復解剖生理演習Ⅲ	714
家庭科教育法 [他学科A]	715
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC]	717
日本語教育概論Ⅱ	719
家庭科教育法 [他学科B]	720
体育心理学 [PP/PH3年生～]	722
キャリアマネジメントⅡ [中高保体教員]	723
キャリアマネジメントⅡ [公務員]	725
キャリアマネジメントⅡ [公務員]	726
日本語学Ⅱ	727
解剖・生理学実習Ⅰ	728
経済政策論	729
健康運動実習 [健康科学科用]	730
行政法Ⅱ	731
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE2221組用]	732
理科教育法 [他学科3年A]	734
ハンドボールⅡ(応用)	735
バレーボールⅡ(応用) [バレーボールコーチ資格用]	736
社会言語学	737
リハビリテーション医学Ⅰ	738
スポーツマーケティング論	740
経済情報処理	741
理科教育法 [他学科3年B]	742
ゼミナールⅠ(基礎)	743
道德教育の理論及び指導法 [PP2232組用]	744
体育心理学 [PP/PH3年生～]	746
器楽演習Ⅲ [FC]	747
スポーツ器具論 [不開講]	749
ビジネス英書講読	750
道德教育の理論及び指導法 [PP2233組用]	751
上級オーラルコミュニケーション	753
器楽演習Ⅳ [FC]	754
体育科教育法 [FE2232組用]	756
整形外科学Ⅰ	758
労働経済学	759
健康管理とスポーツ医学 [PP/PH用]	760
武道指導演習Ⅰ(基礎)	762
保育マネジメント演習Ⅲ	763
体育科教育法 [FE2233組用]	764
公衆衛生学Ⅰ	766
家庭科教育法 [FE2233組用]	767
生活科教育法 [FE2231組用]	769
小学校英語科教育法 [FE2232組用]	770
内科学Ⅱ	771
金融論	772
家庭科教育法 [FE2231組用]	773
生活科教育法 [FE2232組用]	775
小学校英語科教育法 [FE2233組用]	776
障害者スポーツ論	777
労働法規	778
家庭科教育法 [FE2232組用]	779
生活科教育法 [FE2233組用]	781
小学校英語科教育法 [FE2231組用]	782
ビジネス特別講義Ⅱ	783

目 次（2024年度専門科目）

剣道Ⅲ(発展)	784
武道指導演習Ⅱ(応用)	785
臨床柔道整復学Ⅶ(臨床応用)	786
公衆衛生学Ⅱ	787
ビジネスプレゼンテーション	788
企業経営実践論Ⅱ	789
英語科教育法Ⅳ(実践)	791
ベンチャー企業論	792
リーディング・スキル(実践) [英語教員希望者限定]	793
言葉の理解 [FC再履修用]	794
教育社会学	795
ライティング・スキル [英語教員希望者限定]	797
小学校英語科教育法 [他学科B]	798
体育科教育法 [他学科]	799
スポーツのリスクマネジメント	801
スポーツ健康論	802
幼児心理学Ⅱ	803
幼児英語指導法Ⅱ	804
トレーニング論Ⅱ(応用)	805
スポーツ相談の実際	806
キャリアマネジメントⅢ [中高保体教員]	807
キャリアマネジメントⅢ [公務員]	809
労働衛生学	810
キャリアマネジメントⅢ [公務員]	811
日本語教授法Ⅰ	812
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [他学科]	813
子どもとマルチメディア [A]	815
臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)	816
地方自治論	817
道德教育の理論及び指導法 [FE2231組用]	818
子どもの食と栄養 [FC2221組用]	820
子どもとマルチメディア [B]	821
労働安全衛生法	822
交通経済論	823
道德教育の理論及び指導法 [FE2232組用]	825
生涯体育教育総論	827
子どもの食と栄養 [FC2222組用]	828
リハビリテーション医学Ⅱ	829
アジア経済論	831
ブランド戦略論	833
道德教育の理論及び指導法 [FE2233組用]	834
保育実習指導Ⅱ(保育所)	836
小学校英語科教育法 [他学科A]	837
バレーボールⅡ(応用) [教職用]	838
スポーツマネジメント実践論	839
生活科教育法 [他学科A]	840
柔道整復解剖生理演習Ⅳ	841
健康管理とスポーツ医学 [BC用]	842
生活科教育法 [他学科B]	844
英語教授法特論	845
病理学	846
整形外科Ⅱ	847
スポーツマネジメント演習	848
図画工作科教育法 [FE2233組用]	850
音楽科教育法 [FE2231組用]	851
図画工作科教育法 [FE2232組用]	853
音楽科教育法 [FE2232組用]	854
図画工作科教育法 [FE2231組用]	856
音楽科教育法 [FE2233組用]	857
図画工作科教育法 [他学科A]	859
図画工作科教育法 [他学科B]	860
発達心理学A [FC再履修]	861
発達心理学B [FE再履修]	862
発達心理学C [FE/PP再履修]	863
日本語教授法Ⅱ	864
課題研究Ⅱ《通年》	865
課題研究Ⅱ《通年》	866
課題研究Ⅱ《通年》	867
課題研究Ⅱ《通年》	868
課題研究Ⅱ《通年》	869
教育心理学A [FC幼稚園再履修]	870
教育心理学B [FE初等再履修]	871
教育心理学C [PP/FE中等再履修]	872
教育の思想と原理A [FC再履修]	873
教育の思想と原理B [FE初等再履修]	874
教育の思想と原理C [FE中等再履修]	875
教育方法・技術論(初等) [再履修]	876

目 次（2024年度専門科目）

教育方法・技術論(中等) [再履修]	878
学校図書館メディアの構成	880
情報メディアの活用	881
道德教育の理論及び指導法(中等) [再履修]	882
臨床柔道整復学演習Ⅱ	884
生徒指導・進路指導論(初等) [再履修]	886
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP教員希望者+他学科]	887
整復学実技Ⅶ(総合)	889
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP教員希望者+他学科]	890
幼児体育指導法Ⅲ	892
コミュニティスポーツ論	893
日本語教育演習Ⅰ	894
日本語教育実習Ⅰ	895
柔道整復治療学	896
臨床柔道整復学演習Ⅰ	897
幼児心理学Ⅲ	898
特別支援教育論B [再履修]	899
特別支援教育論C [再履修]	900
総合的な学習の時間の指導法(中等) [再履修]	901
総合的な学習の時間の指導法(初等) [再履修]	902
特別活動の指導法(初等) [再履修]	903
特別活動の指導法(中等) [再履修]	904
学習指導と学校図書館	905
スポーツメディア論 [PP用]	906
日本語教育演習Ⅱ	908
臨床柔道整復学演習Ⅲ	909
日本語教育実習Ⅱ	911
スポーツ施設経営論 [PP4年生用]	912
道德教育の理論及び指導法(初等) [再履修]	913
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP免許取得者]	915
幼児英語指導法Ⅲ	916
教育課程論(中等) [再履修]	917
教育課程論(初等) [再履修]	918
教育課程論(初等) [再履修]	919
教職実践演習(中学校・高等学校) [英語]	920
保育・教職実践演習(幼稚園)	921
保育マネジメント演習Ⅳ	922
教職実践演習(小学校)	923
教職実践演習(中学校・高等学校)	924
財政学	925
民法Ⅱ	926
経営戦略論	927
数の理解	928
知的障害児の心理・生理・病理	929
スポーツバイオメカニクスⅡ(応用)	930
スポーツバイオメカニクス実習	931
スポーツバイオメカニクスⅡ(応用)	932
救急処置 [AT]	933
救急処置 [CSCS,衛生管理者：資格取得者のみ]	934
アスレティックリハビリテーションⅡ	935
トレーニング指導実習	936
防災キャンプ	937
野外活動	939
水泳Ⅰ(基礎) [次世代+再履修者用]	941
キャンプ実習 [1年生用]	942
インクルーシブスポーツ [レスキュースノーケラー用]	943
インクルーシブスポーツ [ネット型スポーツ]	944
キャンプ実習 [1年生用]	945
幼児と環境	946
保育内容「環境」指導法	948
保育実習ⅠB(施設)	950
スポーツと食事 [AT用]	951
保育実習ⅠA(保育所)	952
アスレティックトレーナーの役割	953
アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ	954
スポーツ心理学 [PP3年生以上かつAT希望者用]	955
保育実習Ⅱ(保育所)	956
解剖・生理学実習Ⅱ	957
アスレティックリハビリテーションⅠ	958
予防とコンディショニングⅡ	959
アスレティックトレーナー現場実習Ⅳ	960
インターンシップ [FC][不開講]	962
サービスマーケティングⅠ	963
サービスマーケティングⅡ	964
サービスマーケティングⅢ	965
介護等体験実習 《通年》	966
学校支援ボランティア [FC][不開講]	967

目次（2024年度専門科目）

教育実習Ⅰ(中学校・高等学校) [保健体育]	968
教育実習Ⅰ(幼稚園)	969
教育実習Ⅱ(中学校) [保健体育]	970
教育実習Ⅱ(幼稚園)	971
健康運動実習 [健康運動指導士用]	972
卒業研究 [BC]	973
卒業研究 [BC]	974

科目コード	20305				区分	専門基礎科目			
授業科目名	次世代教育学 [FE + 他学科小学校免許希望者]				担当者名	畠中 要輔／鈺 悠介／大野呂 浩志／小川 智 勢子／濱嶋 幸司／竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育をになう「教師」育成のために、学校教育の現代的課題に焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察することを目的とし、学修成果として、教職に対する理解を深めることができるようになります。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な資質能力を身につけるために、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識を常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目標とします。

<授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・これからの教育に関するプレゼンテーションの準備：1～2時間程度・これからの教育に関するグループでの発表打合せ：1時間程度・これからの教育に関する発表後の振り返りと修正：1～2時間程度

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。
※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

<教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要、教育経営学科プロジェクト「スクールフェス」について
2	次世代教育を考える1	授業、先生について考えてみよう（理想の教師、楽しい授業）
3	次世代教育を考える2	自分達の体験してきていない学校を見てみよう
4	次世代教育を考える3	授業案を考えてみよう（自由な発想、学びについて）
5	次世代教育を考える4	チーム決め、夢の授業、探求学習授業の作り方
6	次世代教育を考える5	チームビルディング、自分の探究したい学びとは
7	学校現場を学ぶ1	小学校見学事前講座
8	学校現場を学ぶ2	小学校見学事前講座
9	学校現場を学ぶ	小学校見学
10	学校現場を学ぶ4	小学校見学の振り返り、模擬授業について
11	授業を経験する1	模擬授業1 授業準備
12	授業を経験する2	模擬授業2 模擬授業実施
13	授業を経験する3	模擬授業の振り返り、本番指導案づくり
14	スクールフェス授業作り1	授業案チームプレゼン
15	スクールフェス授業作り2	振り返り、本番指導案づくり、備品購入についてチームで計画を立てる
16	スクールフェス模擬授業1	スクールフェス 模擬授業準備
17	スクールフェス模擬授業2	スクールフェス 模擬授業
18	スクールフェス模擬授業3	スクールフェス 模擬授業
19	スクールフェス1	スクールフェス準備
20	スクールフェス2	スクールフェス振り返り
21	地域課題探求1	地域課題探求
22	地域課題探求2	地域課題探求発表
23	表現教育	表現教育ワークショップ
24	表現教育	表現教育ワークショップ
25	表現教育	表現教育ワークショップ
26	表現教育	表現教育ワークショップ
27	表現教育	表現教育ワークショップ
28	表現教育	表現教育ワークショップ

29	表現教育	表現教育ワークショップ
30	表現教育	表現教育ワークショップ

科目コード	36610			区 分	コア科目				
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習 I			担当者名	三浦 孝仁／吉岡 利貢／明石 啓太／田中 耕作／佐々木 史之／保科 圭汰／國友 亮佑／江波戸 智希／桂 秀樹／小村 淳／山本 清人／原田 悠平／前田 誠一／品田 直宏／宮本 彩				
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルができるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表） 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	目標に向けた自主的なトレーニング③	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
16	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。

26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	目標に向けた自主的なトレーニング⑦	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
29	目標に向けた自主的なトレーニング⑧	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
30	まとめ	振り返り

科目コード	53046				区分	コア科目			
授業科目名	フィールドワーク				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

フィールドワークの技法を学ぶとともに、実際に地域を限定したフィールドワークを行い、まちづくりなどの実践を多面的に理解することを目的とする。また、最後に調査の成果発表を実施する。「現場」で最大限の知見をつかみとるスキルを学ぶ。今年度のテーマは、カフェプロジェクトと連携し「地域に開かれたイベント開催」。

<授業の到達目標>

1. フィールドワークのための事前情報収集ができる。2. インタビュー調査で聞き取りした内容をまとめることができる。3. フィールド内外の情報を組み合わせた地域課題解決の提案ができる。

<授業の方法>

授業の序盤はフィールドワークとは何かについて、また実施に当たって必要とされるマナーや技術について学ぶ。中盤ではフィールドに出て学んだことを実践するとともに、五感をフル活用して情報や知見を獲得する。最後に調査の成果を全体に発表する。積極性をもって社会課題に直接的に接し、現場の人とコミュニケーションを図り、教室だけでは得がたい学びを得る。成果物として、イベントを開催する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習: 次回授業の内容について下調べをする(1時間)。復習: 進捗報告を作成する。成果発表の準備をする(1時間)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

1. 授業態度(30%): フィールドワークにおけるマナーや貢献を評価。2. 進捗報告(30%): 調査などの進捗や疑問点をフィードバックすることによる授業への貢献を評価。3. 成果発表(40%): 自主的な学習のまとめを評価。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、チームビルディング	授業の概要、進め方の説明、自己紹介、グループワーク
2	フィールドワークとは何か	具体的な事例をもとにして、フィールドワークとは何かを学ぶ
3	フィールドワークのプロセス	フィールドワークにもとづく研究のプロセス(「問い」を立てる、課題の決定、調査方法の検討、データ収集、データの整理・分析、研究成果の公表)
4	事前学習	テーマについて、関係者から話を伺う
5	問いを立てる	まず行ってみる
6	課題の決定	フィールドで問いを再考する
7	調査方法の検討	文献を参照する
8	調査方法の検討	ひな形を作る
9	データ収集	現地視察とインタビュー、アンケートの実施
10	データ収集	現地視察とインタビュー、アンケートの実施
11	データの整理・分析	調査の実施
12	データの整理・分析	調査の実施
13	イベント開催	成果の披露、アンケート収集
14	イベント開催	成果の披露、アンケート収集
15	振り返り	振り返りから学ぶ
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

科目コード	14101			区 分					
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]教育経営学科			担当者名	高橋 章二／三堀 仁／中家 淳悟／小澤 尚子 ／木野 正一郎				
配当年次	2年	配当学期		単位数	2.00単位	授業方法		卒業要件	

<授業の概要>

<授業の到達目標>

<授業の方法>

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

物事に対する構成を理解すること。論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究および課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 100%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I における年間の進行方法について
2	医療（1）	理想の医療について
3	医療（2）	人から情報を仕入れる方法について（問診、視診、触診）
4	医療（3）	人から情報を仕入れる方法について（関節可動域、徒手筋力検査）
5	障がい（1）	各種障がいについて（知的、精神、身体）
6	障がい（2）	各種障がいに対するコミュニケーション手法について
7	障がい者スポーツ（1）	身体障がい者を対象としたスポーツ
8	障がい者スポーツ（2）	知的障がい者を対象としたスポーツ
9	障がい者スポーツ（3）	精神障がい者を対象としたスポーツ
10	障がい者スポーツ（4）	課外学習（特別支援学校でのスポーツ演習）
11	障がい者スポーツ（5）	課外学習（障がい者スポーツイベント内におけるスポーツ演習）
12	測定と評価（1）	体格と筋力の関係について
13	測定と評価（2）	競技における傷害の特徴について
14	測定と評価（3）	傷害調査方法について
15	中間まとめ	医療従事者における情報入手、出力、現場対応応用について
16	計測（1）	検査・測定演習（1）
17	計測（2）	検査・測定演習（2）
18	運動器疾患（1）	運動器疾患の概要について
19	運動器疾患（2）	運動器疾患（骨疾患）について
20	運動器疾患（3）	運動器疾患（筋疾患）について
21	運動器疾患（4）	運動器疾患（神経疾患、その他疾患）について
22	リハビリテーション（1）	リハビリテーションについて
23	リハビリテーション（2）	リハビリテーション計画作成について
24	運動器疾患に対する評価演習（1）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の先行研究について調査報告
25	運動器疾患に対する評価演習（2）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の実施計画について検討会
26	運動器疾患に対する評価演習（3）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習
27	運動器疾患に対する評価演習（4）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習データの処理方法について
28	運動器疾患に対する評価演習（5）	各種テーマに沿った運動器疾患のリハビリテーションに関する評価・測定結果と先行研究との比較
29	運動器疾患に対する評価演習（6）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する調査発表（1）

科目コード	55009				区 分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ
25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法、結果の書き方
28	課題研究を発表する④	方法、結果の書き方
29	課題研究を発表する⑤	考察、まとめ
30	課題研究を発表する⑥	参考文献の書き方

科目コード	55009				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ
25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法、結果の書き方
28	課題研究を発表する④	方法、結果の書き方
29	課題研究を発表する⑤	考察、まとめ
30	課題研究を発表する⑥	参考文献の書き方

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。
2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎 固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎 固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎 固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎 固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎 固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎 固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎 固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎 固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎 固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎 固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8

27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。
2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

高野良子・武内清編著 『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』 [第3版] 学文社
2024年3月25日

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7

26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

3年次には、特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や、特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について、先行研究や関連する文献を渉猟することを授業の基調にする。文献を渉猟した結果得られた知見について、自分なりの指針をもって整理する能力の養成とともに、整理した内容をわかりやすく説明する能力や説明を聞いたり、事前に読んだ資料から、指針やテーマに沿った質問や意見を発表する能力も養成する。

<授業の到達目標>

(1) 文献の内容を正確に読解できる。(2) 他者の意見を十分に理解することができる。(3) 自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。(4) 特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し、次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

<授業の方法>

自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ、そのレジュメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考を鍛錬する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：毎回、自らの論文に関連するあらたな文献を講読し、得られた知見を論文に反映させ、全体としてどのような知見が得られたことになるか、今後の課題について、報告できるようにレジュメに整理する(3-4時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	特別支援教育の現状について整理し、その課題の具体について理解する。先行研究に関する調査の仕方や表記の基礎について理解する。
2	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育の現状について、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、大学における特別支援教育の現状と課題について報告し、内容について議論する。
3	研究の方向性の検討	特別支援教育の現状と課題及び自らの将来的な就労イメージを踏まえ、自らが2年間で深めようとする研究の方向を定める。
4	研究の方向性発表準備	自分の研究の方向性について、仮テーマと仮の問題提起をもって、発表し、発表内容について議論する。
5	文献講読 1	知的障害特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読 2	肢体不自由特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
7	文献講読 3	病弱教育に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	文献講読 4	聾教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
9	文献講読 5	盲教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
10	文献講読 6	幼稚園・保育所における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読 7	小学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
12	文献講読 8	中学校・高等学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読 9	大学における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
14	文献講読 10	社会人・就労場面の障害の認知やそれらへの対応について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
15	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う

16	イントロダクション②	研究法について理解する
17	文献講読 1 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
18	文献講読 1 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
19	文献講読 1 5	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
20	文献講読 1 6	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
21	文献講読 1 7	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
22	文献講読 1 8	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
23	文献講読 1 9	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
24	文献講読 2 0	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
25	文献講読 2 1	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
26	文献講読 2 2	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
27	文献講読 2 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
28	文献講読 2 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑫
29	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について、レジメにまとめ、設定された時間内に発表し、内容や発表の仕方について議論する。
30	論文発表会	論文発表を行う

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	前田 一誠			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。
2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8

27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ(基礎)では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー(「道徳教育推進教諭」)になれるような資質・能力を養成することを目標としたい。「考え、議論する道徳」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道徳教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

<授業の方法>

・前期は、道徳的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集(知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング)→②ディベート(思考力・判断力・表現力等、討議)→③まとめ(学びに向かう力、人間性等)の探究学習のサイクルを回す。・後期は、前期に課題検討し、皆さんが獲得・蓄積した様々な諸課題の中から、自分が深めたいと思った問い(課題)を集中的に探究し、研究成果(レポート、ポスター等)をまとめる。その際、ICT機器を活用して、先行実践研究

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前期は、毎回の授業で行うディベートの準備として、授業内でも情報探索する時間を設けるが、各自で情報を集める努力をしてほしい。賛否の両面から教育課題を多面的・多角的に考察し、「何が課題となっているのか」ととことん探究するように準備に当たること。後期は、各自が興味・関心を抱いたテーマを個々に深めていくので、雑誌や学会誌などに掲載された先行実践研究論文を読むなどして、自分なりの独創的なアイデアを論文にまとめるように準備を深めてほしい。テーマの決定や、探究の進め方、論文のまとめ方(研究計画)は担当教員が伴走的に指

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度等(関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識)30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価(知識・理解)70%

<教科書>

木野正一郎(2016年4月15日) 新発想!道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社

押谷由夫・柳沼良太編(2014年7月7日) 道徳の時代をつくる!ー道徳教科化への始動ー 教育出版株式会社

田中博之編(2021年12月5日) 高等学校 探究授業の創り方ー教科・科目別授業モデルの提案ー 学事出版株式会社

<参考書>

明治図書出版株式会社(月刊誌) 雑誌『道徳教育』(月刊誌) 明治図書出版株式会社

木野正一郎(2023年3月1日) 『早稲田大学教職大学院紀要第15号』「高等学校『地理探究』を想定した小単元プログラムの開発と評価ー『探究的な学習のための活動系列モデル』を援用した取組を通してー」(注:講義にて配布します) 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

木野正一郎(2024年3月1日) 『早稲田大学教職大学院紀要第16号』「『包括的セクシュアリティ教育』を援用した小単元プログラムの実践と評価ー『課題予防的生徒指導』に向けた取組を通してー」(注:講義にて配布します) 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ(基礎)の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎ー解説編ー	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎ー実践編Ⅰー①<ブレイン・ストーミングⅠ>	現代的な教育課題Ⅰの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
4	研究の基礎ー実践編Ⅰー②<ディベートⅠと総括Ⅰ>	現代的な教育課題Ⅰの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
5	研究の基礎ー実践編Ⅱー①<ブレイン・ストーミングⅡ>	現代的な教育課題Ⅱの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
6	研究の基礎ー実践編Ⅱー②<ディベートⅡと総括Ⅱ>	現代的な教育課題Ⅱの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
7	研究の基礎ー実践編Ⅲー①<ブレイン・ストーミングⅢ>	現代的な教育課題Ⅲの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。

8	研究の基礎－実践編Ⅲ－②＜ディベートⅢと総括Ⅲ＞	現代的な教育課題Ⅲの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
9	研究の基礎固めⅠ	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固めⅡ	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固めⅢ	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固めⅣ	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固めⅤ	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固めⅥ	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。新たな問い、探究してみたい問いを持つてみる。
16	研究指導Ⅰ－研究計画づくり①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導Ⅰ－指導計画づくり②	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導Ⅰ－指導計画づくり③	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導Ⅱ－課題の探究活動①	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション①
20	研究指導Ⅱ－課題の探究活動②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション②
21	研究指導Ⅱ－課題の探究活動③	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション③
22	研究指導Ⅱ－課題の探究活動④	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション④
23	研究指導Ⅱ－課題の探究活動⑤	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑤
24	研究指導Ⅱ－課題の探究活動⑥	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑥
25	研究指導Ⅱ－課題の探究活動⑦	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑦
26	研究指導Ⅱ－課題の探究活動⑧	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑧
27	研究指導Ⅲ－研究成果の発表①	探究した課題について、その研究発表(研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題)をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
28	研究指導Ⅲ－研究成果の発表②	探究した課題について、その研究発表(研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題)をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
29	研究指導Ⅲ－研究成果の発表③	探究した課題について、その研究発表(研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題)をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
30	研究の総括	研究成果の発表と総括

科目コード	51008				区分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)				担当者名	檜 日佳/小崎 遼介/宮原 舞/塚本 千晴 /未定			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと(60分) 復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、復習をし、授業課題をすること(60分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、チーム貢献度10%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

環太平洋大学(2023.3) 教育実習の手引き(幼稚園)

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の意義と実習ルール	実習の意義と目標、実習ルールの確認
2	実習の意義と目標	実習の意義と目標の確認
3	実習の段階と実習の心構え	実習の段階と流れ、実習生としての心構え
4	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解
5	指導案の作成(1)	発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」
6	指導案の作成(2)	ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」
7	保育教材の作成(1)	自己紹介教材の作成と発表
8	保育教材の作成(2)	お楽しみ会やお別れ会の準備と発表
9	模擬保育(1)	模擬保育と振り返り(1)
10	模擬保育(2)	模擬保育と振り返り(2)
11	模擬保育(3)	模擬保育と振り返り(3)
12	実習書類の作成、実習前オリエンテーション	実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習記録の書き方	記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察
14	実習までの準備	実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	中原 朋生			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I では、「ニュージーランド保育」を全体テーマとして設定し、ニュージーランド保育の独自性と日本との共通性、応用可能性に関する研究を行う。全体テーマに関わる各自のテーマを決めて、最終的にパワーポイントのプレゼン発表をする。なお、ニュージーランド保育の考え方を応用した東岡山IPUこども園における遊びの展開の指導計画を作成する。

<授業の到達目標>

ニュージーランド保育におけるカリキュラム（テファリキ）、環境構成、記録（ラーニングストーリー）の手法を学び、日本保育への応用可能性を説明できる。

<授業の方法>

ニュージーランド保育、特に保育カリキュラム「テファリキ」の原理・柱を全体ディスカッションにより総合的に学ぶ。また、各自がニュージーランド保育に関する個別テーマも探求し、その進捗状況を発表する活動も行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は「テファリキ」の該当箇所を事前に読み（英文を含む）、全体ディスカッションための問いを毎回考える（2時間程度）。復習はゼミでの議論の振り返り（1時間程度）。個別のテーマの進捗については、担当者は2時間程度の準備と予習が必要となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

全体テーマの取り組み（発表・演習）の状況（50%）、個別プレゼン発表（50%） なお、グループ内の相互評価を採り入れ、発表やレポートの評価、改善点も学生グループで探求する。

<教科書>

大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈編著・神代典子訳 『ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファアーリキ 子どもが輝く保育・教育のひみつを探る』 建帛社
2024年4月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	テーマの確認とゼミナール研究の進め方
2	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析①	ニュージーランドの文化背景とテファリキ
3	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析②	4つの原理と5つの柱
4	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析③	原理1 エンパワメント
5	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析④	原理2 全人的発達
6	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析⑤	原理3 家族と地域
7	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析⑥	原理4 関係性
8	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析⑦	ストランド1 幸福
9	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析⑧	ストランド2 帰属感
10	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析⑨	ストランド3 貢献
11	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析⑩	ストランド4 コミュニケーション
12	ニュージーランド保育カリキュラム「テファリキ」の分析⑪	ストランド5 探究
13	ラーニングストーリーの分析①	テファリキに準拠した活動の記録
14	ラーニングストーリーの分析②	個別記録の概要
15	ラーニングストーリーの分析③	グループ記録
16	ストランド1 幸福の応用①	ストランド1 幸福を応用した東岡山IPUこども園で実践可能な指導案作成
17	ストランド1 幸福の応用②	ストランド1 幸福を応用した遊びの実践
18	ストランド1 幸福の応用③	ストランド1 幸福を応用した遊びの振り返り

19	ストランド2 帰属感の応用①	ストランド2 帰属感を応用した東岡山IPU子ども園で実践可能な指導案作成
20	ストランド2 帰属感の応用②	ストランド2 帰属感を応用した遊びの実践
21	ストランド2 帰属感の応用③	ストランド2 帰属感を応用した遊びの振り返り
22	ストランド3 貢献の応用①	ストランド3 貢献を応用した東岡山IPU子ども園で実践可能な指導案作成
23	ストランド3 貢献の応用②	ストランド3 貢献を応用した遊びの実践
24	ストランド3 貢献の応用③	ストランド3 貢献を応用した遊びの振り返り
25	ストランド4 コミュニケーションの応用①	ストランド4 コミュニケーションを応用した東岡山IPU子ども園で実践可能な指導案作成
26	ストランド4 コミュニケーションの応用②	ストランド4 コミュニケーション遊びの実践
27	ストランド4 コミュニケーションの応用③	ストランド4 コミュニケーションの応用した遊びの振り返り
28	ストランド5 探究の応用①	ストランド5 探究を応用した東岡山IPU子ども園で実践可能な指導案作成
29	ストランド5 探究を応用②	ストランド5 探究を応用した遊びの実践
30	ストランド5 探究を応用③	ストランド5 探究を応用した遊びの振り返り 5つのストランド全体の振り返り

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	高崎 展好			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは、音楽表現の可能性、有効性について研究及び実践を行います。音楽表現及び演奏制作による学内外での表現活動を通して、専門性に裏付けられた豊かな創造性、音楽表現力、表現活動から生じるコミュニケーション力を養います。これらをどのように保育・教育現場で活用できるかを考察する。

<授業の到達目標>

ゼミナール学生全員で演奏制作研究及び研究発表（コンサート）を行います。企画・計画・運営に関する実践力を身につけ学内外での研究発表を以って研究作品を創り上げることを目標とする。上記目標を達成するために、ゼミナール I では、基礎的な音楽基礎力の育成、合唱や合奏を通じた音楽表現力、専門的な知識と技術の修得を目指します。

<授業の方法>

学生が主体となって様々な音楽表現活動を行う。音楽を愛好する心情と積極的な活動の取組み、参加意欲が求められる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究作品制作、研究発表に支障が出ないよう準備や練習などを授業時間外での取組みが必要とされる。配布された楽譜等の読譜の予習 60分以上、授業で取り組んだ研究作品の復習 60分以上（必要に応じて補講を行う場合もある）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、作品制作への取組み姿勢 30%、研究発表 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I（基礎）の目的、内容、授業方法、評価の仕方について理解する。
2	研究指導 1	研究テーマの検討・設定研究作品制作指導
3	研究指導 2	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
4	研究指導 3	作品制作技術指導
5	研究指導 4	作品制作技術指導
6	研究指導 5	作品制作技術指導
7	研究指導 6	作品制作技術指導
8	研究指導 7	作品制作技術指導
9	研究指導 8	研究発表に向けた研究指導
10	研究指導 9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導13	研究発表に向けた研究指導及び準備
15	前期研究発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
16	研究指導14	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
17	研究指導15	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
18	研究指導16	作品制作技術指導
19	研究指導17	作品制作技術指導
20	研究指導18	作品制作技術指導
21	研究指導19	作品制作技術指導
22	研究指導20	作品制作技術指導
23	研究指導21	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導22	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導23	研究発表に向けた研究指導
26	研究指導24	研究発表に向けた研究指導
27	研究指導25	研究発表に向けた研究指導
28	研究指導26	研究発表に向けた研究指導及び準備
29	後期研究発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
30	総括	本講義のまとめ

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	宮原 舞			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「人と音・音楽とのかかわり」をテーマに、乳幼児期を中心とした音楽的発達・音楽的行動などに関する探究を行う。各自が関心をもつ音楽教育のトピックについて調査、発表、議論等を行う。

<授業の到達目標>

1. 人間の生活における音・音楽の位置づけや、乳幼児と音・音楽とのかかわりについて理解する。2. 音楽教育に関する諸問題について、自分なりの見解をもち、それを言葉や文章で表現できるようになる。

<授業の方法>

乳幼児の音楽的発達・音楽的行動に関して理解を深めるため、映像資料・文献資料の分析、遊びの体験・提案などを取り入れた演習形式で実施する。受講生各自が興味を持つトピックについてグループディスカッションを実施するため、学生の主体的な参加を求める。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】担当者はテーマにそって資料を集めレジュメを作成する(2時間程度)。担当者以外は、ディスカッションに備えて各回のテーマについて事前学習を行う(1時間程度)。【復習】各回のディスカッションを振り返り、要点やテーマに対する自身の意見をまとめておくこと(1時間程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題に対する取り組みと授業内での発表 50% レポート課題 50%

<教科書>

授業で適宜紹介する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	私たちの生活と音・音楽	サウンドスケープ
3	乳幼児期の遊びにおける音・音楽①	わらべうたについて考察する(唱え歌、絵かき歌)
4	乳幼児期の遊びにおける音・音楽②	わらべうたについて考察する(おはじき歌、おてだま)
5	乳幼児期の遊びにおける音・音楽③	わらべうたについて考察する(まりつき、縄跳び・ゴム跳び)
6	乳幼児期の遊びにおける音・音楽④	わらべうたについて考察する(じゃんけん、お手合わせ)
7	乳幼児期の遊びにおける音・音楽⑤	わらべうたについて考察する(身体あそび、鬼あそび)
8	乳幼児の音楽的行動の観察①	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る
9	乳幼児の音楽的行動の観察②	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る
10	乳幼児の音楽的行動の観察③	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る
11	乳幼児の音楽的行動の観察④	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る
12	乳幼児の音楽的行動の観察⑤	映像資料から乳幼児の音楽的発達・音楽的行動を読み取る
13	国内外の表現教育に学ぶ①	ダルクローズによるリトミック
14	国内外の表現教育に学ぶ②	オルフェメソッド コダーイシステム 他
15	前期まとめ	前期の学習を振り返り、意見交流をする。
16	私たちの生活と音・音楽	オノマトペについて
17	音楽教育に関する研究動向の把握①	文献購読と意見交流
18	音楽教育に関する研究動向の把握②	文献購読と意見交流
19	音楽教育に関する研究動向の把握③	文献購読と意見交流
20	音楽教育に関する研究動向の把握④	文献購読と意見交流
21	音楽教育に関する研究動向の把握⑤	文献購読と意見交流
22	音楽教育に関する研究動向の把握⑥	文献購読と意見交流
23	音楽教育に関する研究動向の把握⑦	文献購読と意見交流
24	音楽教育に関する研究動向の把握⑧	文献購読と意見交流
25	音楽教育に関する研究動向の把握⑨	文献購読と意見交流
26	音楽教育に関する研究動向の把握⑩	文献購読と意見交流
27	研究計画①	研究の進め方を学ぶ
28	研究計画②	研究テーマを焦点化する
29	研究計画③	研究計画を立てる
30	まとめ	1年間の振り返りと今後の課題について考える

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナール I (基礎)」は、本学卒業必修科目である。「子どもの心に寄り添う保育」について考えることのできる保育者の育成をねらいとしていく。そのためにはまず、自然やもの、人の面白さや不思議さ、美しさなどに感動する心を育むことをねらいとする。子ども達と製作を行い、よりよい造形活動の在り方とはどのようなものかを学んでほしい。子どもが瞳を輝かせて取り組めるような造形活動やその活動の具体的な援助方法を考えるという作業を通して、保育士や幼稚園教諭に必要な「心に寄り添う」表現や技術の養成をしたいと考えている。

<授業の到達目標>

造形表現を中心とした保育・幼児教育に関する専門知識と技術を身につけている。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク等)を取り入れ、作品制作、美術館鑑賞、子どもの行事企画運営、学会参加等の実践活動により授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で必要な資料や作品作りに取り組むなど、準備学習(60分程度)を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50% (積極性・協調性・相互促進性など) 課題(作品・レポート)、発表等 50%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

- 村田夕紀 楽しい"造形"がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに
 村田夕紀 まずは絵あそびから始めよう! 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに
 村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標と注意事項、成績評価法、実践活動について説明する。
2	こども発達学科・ゼミナール理解	3年生一年間の履修確認を行い、目標設定をする。
3	こども発達学科・ゼミナール理解	クラス内の相互理解を図る。
4	造形表現の教材研究(1)	地域の美術館について調べる。
5	造形表現の教材研究(2)	美術館鑑賞①
6	造形表現の教材研究(3)	作品を制作する。
7	造形表現の教材研究(4)	作品を制作する。
8	造形表現の教材研究(5)	作品を制作する。
9	造形表現の教材研究(6)	作品を制作する。
10	造形表現の教材研究(7)	作品提出と鑑賞会
11	プレゼンテーションとは①	役割りとその具体的な内容の確認
12	プレゼンテーション作成①	発表内容のプレゼンテーション作成
13	プレゼンテーションに挑戦しよう①	プレ発表
14	ゼミナール活動報告会(1)	報告会に出席し、発表する。
15	前期総括	前期の振り返りと夏季休暇、保育・教育実習について
16	後期の目標設定	後期の履修確認を行い、目標設定を行う。
17	造形表現の教材研究(8)	美術館鑑賞②
18	造形表現の教材研究(9)	作品を制作する。
19	造形表現の教材研究(10)	作品を制作する。
20	造形表現の教材研究(11)	作品を製作する。
21	造形表現の教材研究(12)	作品を制作する。
22	企画案の作成	実践内容について討議
23	事業企画の準備	行事の準備
24	事業運営の実践	子どもを対象とした事業の企画・運営の実践
25	造形表現の教材研究(13)	作品提出と鑑賞会
26	プレゼンテーションとは②	役割りとその具体的な内容の確認
27	プレゼンテーション作成②	発表内容のプレゼンテーション作成
28	プレゼンテーションに挑戦しよう②	プレ発表

29	ゼミナール活動報告会(2)	報告会に参加し、発表する。
30	全体総括	3年生の一年間を振り返り、残り一年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。3年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとられない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	小川 正人				
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、ゼミ論文や卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年前期は、4年次のゼミ論文や卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究・ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。3年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとられない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査な

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。3年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとられない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

初回の授業で決定する。

<参考書>

初回の授業で決定する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初回の授業で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナール I」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

<授業の方法>

4年前期： 3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期： (1) 卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「経営」「リーダーシップ」「ブランディング・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方ははじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められるコミュニケーション能力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年前期は、個人のパーパス、ビジョンを明文化し、どのタイプの研究活動を行っていくかを明確にするために、社会課題解決型のブランドとは何かについて考察する。1、2年次に、マーケティング総論、マーケティング特論で学び、テストマーケティングを行った商品の商品化も推進し、キッチンカーやイベント等を活用して「稼ぐ」を学ぶ。3年後期は、前期の活動をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問も実施していく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。各

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1		各所属ゼミのシラバスに従う。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	山本 満理子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「公共経営」「ソーシャルイノベーション」「ポリティカルイノベーション」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。3年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとられない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的・専門的知識や技能の修得を行う。また、各自、ゼミ論文作成に必要な基礎的能力を身に付けるとともに社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すために、本科目は、3つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容。②社会人に求められる必要最低限の教養や専門的知識を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容。③ゼミ論文作成

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、自己の進路を探究し、学び続けることができる。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得している。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけている。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌や先行研究を調査する。（2時間）。実技活動など実践においてはデモンストレーションを行う（1時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（2時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度：20%調査・研究の課題発表：50%体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題：30%

<教科書>

必要に応じて用意する。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要・研究や調査の仕方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究 (1)	体育・スポーツに関する文献の講読 (1)
4	体育・運動学の研究 (2)	体育・スポーツに関する実技活動
5	体育・運動学の研究 (3)	体育・スポーツに関する活動まとめ
6	研究テーマ (仮) の設定 (1)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (1)
7	研究テーマ (仮) の設定 (2)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (2)
8	研究テーマに沿った文献研究 (1)	先行研究の要約と発表 (1)
9	研究テーマに沿った文献研究 (2)	先行研究の要約と発表 (2)
10	研究テーマに沿った文献研究 (3)	先行研究の要約と発表 (3)
11	研究テーマに沿った文献研究 (4)	先行研究の要約と発表 (4)
12	研究テーマに沿った文献研究 (5)	先行研究の要約と発表 (5)
13	研究テーマに沿った文献研究 (6)	先行研究の要約と発表 (6)
14	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
15	中間まとめ	前期の総括と夏季休暇中の課題設定
16	研究の方法 (1)	予備調査に向けた方法論の検討 (1)
17	研究の方法 (2)	予備調査に向けた方法論の検討 (2)
18	研究の方法 (3)	予備調査に向けた方法論の検討 (3)
19	研究の方法 (4)	予備調査に向けた方法論の検討 (4)
20	予備調査 (1)	調査・データ収集の実施 (1)
21	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
22	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)
23	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
24	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)

25	予備調査 (6)	結果の発表及び改善点についての討議 (3)
26	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
27	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
28	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
29	研究計画の立案 (3)	研究計画書の作成と発表 (3)
30	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(10)	献立の作成
12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(11)	献立の作成
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(12)	献立の作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(13)	調理実習
15	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(14)	献立作成・調理実習のまとめ
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究	文献の探し方・読み方

	(1)	
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読(1)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読(2)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読(3)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読(4)
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ(1)
22	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ(2)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(1)	研究計画の作成(1)
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(2)	研究計画の作成(2)
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(3)	研究計画の発表
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(4)	研究計画の考察
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(5)	実験・測定・調査の実施
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(6)	実験・測定・調査のデータ分析
29	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(7)	実験・測定・調査のデータ発表
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠの総括と課題発表

科目コード	51009			区分	コア				
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校) 《通年》			担当者名	小川 智勢子/安井 正郎/奥山 優/木野 正一郎/坂根 清貴/三堀 仁/千葉 照久/大崎卓己/藤井 健太郎/内田 仁志/白石 翔/林 栄昭/練苧 千之/鈺 悠介/高橋 章二				
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の到達目標>

教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

<授業の方法>

講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

模擬授業を行う教科・単元に関する資料を収集し、熟読しておく。模擬授業までに、担当教諭に事前指導を受ける。その際、学習指導案も作成しておく。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

この科目は、教育経営学科のDP4(周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。)及びDP6(高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。)と関連付けられている。教育実習を通して、教育実践の中で現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養う。多様化・複雑化する社会に対応できる総合的な実践力を育むための科目である。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、トレーニングやコーチングにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。また、バイオメカニクスの分析手法を用いて、動作を測定する技術の習得、科学的データを読み解く能力を育成する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

<授業の方法>

文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。※トレーニングやコーチング、または自分の専門分野に関する文献研究を1週間で1本行う。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。※文献研究発表および課題研究発表について、適時教員からフィードバックなお、最終課題については、ゼミナールⅡにおけるゼミ論文を見据えた計画書を作成し提出する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	コーチング・トレーニング領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読(コーチング)
6	文献研究④	論文抄読(コーチング)
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読(トレーニング)
9	文献研究⑥	論文抄読(トレーニング)
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読(専門競技)
12	文献研究⑧	論文抄読(専門競技)
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	走種目の動作測定
17	データ分析①	走種目の動作分析
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳種目の動作測定
20	データ分析②	跳種目の動作分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	投種目の動作測定
23	データ分析③	投種目の動作分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29	課題研究	研究計画の作成(4)
30	課題研究発表	研究計画の発表

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(10)	献立の作成
12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(11)	献立の作成
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(12)	献立の作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(13)	調理実習
15	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(14)	献立作成・調理実習のまとめ
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究	文献の探し方・読み方

	(1)	
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読(1)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読(2)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読(3)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読(4)
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ(1)
22	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ(2)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(1)	研究計画の作成(1)
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(2)	研究計画の作成(2)
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(3)	研究計画の発表
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(4)	研究計画の考察
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(5)	実験・測定・調査の実施
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(6)	実験・測定・調査のデータ分析
29	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(7)	実験・測定・調査のデータ発表
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠの総括と課題発表

科目コード	65050				区分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅣ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

<授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習 (1)	政治
3	問題演習 (2)	経済
4	問題演習 (3)	日本史
5	問題演習 (4)	世界史
6	問題演習 (5)	地理
7	問題演習 (6)	生物・地学
8	二次試験対策(1)	集団討論・集団面接等(1)
9	二次試験対策(2)	集団討論・集団面接等(2)
10	二次試験対策(3)	集団討論・集団面接等(3)
11	二次試験対策(4)	集団討論・集団面接等(4)
12	二次試験対策(5)	集団討論・集団面接等(5)
13	二次試験対策(6)	集団討論・集団面接等(6)
14	二次試験対策(7)	集団討論・集団面接等(7)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

<授業の方法>

4年前期：3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期：(1)卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

<授業の方法>

4年前期：3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期：(1)卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55008				区分	必須			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が関心を持って取り組むことができるように教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法についても指導する。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し、明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表を行う。4年次で卒業研究を履修しない学生は、4年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書を前期に書く。各自の研究テーマに応じて、先行研究調査、テーマ対象調査、分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションして論文の中身を深めて行く。後期にゼミ論文を完成させる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前期の前半は、ゼミナールⅠの続きとして、ポジティブ心理学ガイドを読み、プレゼン資料を作成する。前期の後半からは各自の研究テーマに基づいて、研究準備を授業外の時間でも週に数時間はかけて進めて行く。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な意欲 60%、提出された論文 40%

<教科書>

クリスチャン・ヴァン・ニューワーバーグ、ペイジ・ウィリアムズ ポジティブ心理学ガイド ミネルヴァ書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミ生で年間スケジュールを作成・確認して、ゼミでのルールを決める。
2	ポジティブ心理学ガイドについての紹介と発表計画	テキストを速読して、自分が担当したい章を決める。
3	ポジティブ心理学ガイド①	担当した章について発表する。
4	ポジティブ心理学ガイド②	担当した章について発表する。
5	ポジティブ心理学ガイド③	担当した章について発表する。
6	ポジティブ心理学ガイド④	担当した章について発表する。
7	ポジティブ心理学ガイド⑤	担当した章について発表する。
8	ポジティブ心理学ガイド⑥	担当した章について発表する。
9	ポジティブ心理学についてのまとめ	ゼミナールⅠでの学びと比較して、前期前半の学びを総括する。
10	ゼミ論テーマについての探求①	各自がテーマについて発表し、メンバーとディスカッションをする。
11	ゼミ論テーマについての探求②	各自がテーマについて発表し、メンバーとディスカッションをする。
12	ゼミ論テーマについての探求③	各自がテーマについて発表し、メンバーとディスカッションする。
13	ゼミ論テーマについての探求④	各自がテーマについて発表し、メンバーとディスカッションする。
14	ゼミ論テーマについての探求⑤	各自がテーマについて発表し、メンバーとディスカッションする。
15	前期のまとめ	前期の学びを全員で総括する。
16	研究テーマの決定とスケジュール確認	後期のはじめにテーマを確定して、スケジュールを決める。
17	課題研究	進捗確認とディスカッション
18	課題研究	進捗確認とディスカッション
19	課題研究	進捗確認とディスカッション
20	課題研究	進捗確認とディスカッション
21	課題研究	進捗確認とディスカッション
22	課題研究	進捗確認とディスカッション
23	課題研究	進捗確認とディスカッション
24	課題研究	進捗確認とディスカッション
25	課題研究	進捗確認とディスカッション
26	課題研究	進捗確認とディスカッション
27	課題研究	進捗確認とディスカッション
28	課題研究	進捗確認とディスカッション
29	課題研究	進捗確認とディスカッション
30	総括	学びの総括をする。

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅠ」における調査・研究活動を踏まえて、ゼミ論文を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマをどのような方法で調査し、研究するのか、その結果からどのようなことが言えるのかについて検討する。その全体をゼミ論文としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身につける。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して、社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に、自らのキャリアについて省察し、明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、ゼミ論文として仕上げることを目標とする。

<授業の方法>

4年前期：3年次のゼミナールⅠで企画した調査活動、研究活動、事業活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合、フィージビリティスタディ、プロトタイプ・リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期：(1)卒業研究履修者は、12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等を各演習で指示する。毎回、次の演習までに事前課題に対する予習が必要である。また、授業中に行った課題のまとめを求める。予習・復習に4時間程度を必要とする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成績評価は、積極的な演習 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%のウエイトとする。提出・発表された課題に対しては、演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバックを行う。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1		各所属ゼミのシラバスに従う。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		

27	
28	
29	
30	

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、ゼミ論文を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

<授業の方法>

4年前期においては3年次における研究活動・事業行動、調査活動を更に深め、ゼミナール活動(研究)内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、担当教員が評価を行う。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「経営」「リーダーシップ」「ブランディング・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方ははじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められるコミュニケーション能力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

4年前期は、個人のパーパス、ビジョンに沿って、どのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。「卒業研究」を履修する場合は、「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。4年生で「卒業研究」を履修しない学生は、4年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1		各所属ゼミのシラバスに従う。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

<授業の方法>

4年前期：3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期：(1)卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

<授業の方法>

4年前期：3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期：(1)卒業研究履修者 12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。(2)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習とも1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習参加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身につけさせることを目的とする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時にキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げるのが目標である。

<授業の方法>

4年前期(4-1)3年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合はフィージビリティ・スタディ(新たな事業、商品やサービス、プロジェクトなどが実現可能なものかどうか、どれくらい利益が取れるかを事前に調査し検討し、計画の内容を変更したり、計画そのものを取り消したり、複数案から最適案を選んだり、代替案を検討したりすること)、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のため活動する。4年後期(4-2)(1)卒業研究履修者：

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示する。毎回、次回の演習までに事前課題に対する、予習が必要である。また、授業中に行った課題のまとめが必要。(予習・復習ともに1時間程度必要)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

積極的な演習・授業への参加30%、進捗報告30%、発表会・報告書40%

<教科書>

特になし

<参考書>

その都度支持する

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	前期の実施内容内容を発表し、各自で計画を立てる
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16	オリエンテーション	後期の実施事項を発表し、各自で計画を立てる
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		

科目コード	55008			区 分					
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)			担当者名	大池 淳一				
配当年次	4年	配当学期		単位数	4.00単位	授業方法		卒業要件	

<授業の概要>

<授業の到達目標>

<授業の方法>

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55010				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測） 2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス①	ガイダンス、グループ決め、テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス、新グループ決め、新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう
23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
28	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ、発表する

29	課題研究発表②	今までの課題研究をまとめ、発表する
30	課題研究発表③	今までの課題研究をまとめ、発表する

科目コード	55010				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測） 2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス①	ガイダンス、グループ決め、テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス、新グループ決め、新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう
23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
28	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ、発表する

29	課題研究発表②	今までの課題研究をまとめ、発表する
30	課題研究発表③	今までの課題研究をまとめ、発表する

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	中原 朋生			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ニュージーランド研究の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。

<授業の到達目標>

これまでのニュージーランド保育研究を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

<授業の方法>

ニュージーランド保育の研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物(100%)

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析(目的・方法・内容・結果の吟味)
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定(変更可能性あり)
18	序論の執筆(卒業研究の場合)	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業（ゼミナール）では、将来様々の形で子どもとの教育と発育に関わるときに子どもの自主的な発問を促し、問題解決に導く能力を育成することを目的とする。特にICTの利活用能力は不可欠であり、そのスキルを活かし方を探求していく。ICTを理活用して子どもに問題解決能力を養育する方法を研究する。

<授業の到達目標>

子どもの自主的な探究心を育み科学的な解答を持ちながら導いていく。子どもに「なぜ」の疑問を持たせ考えさせ正しい推論と正しい解答、問題解決能力を持つ子どもを育てることに必要なことを探求できる能力を身につけていく。

<授業の方法>

・情報の収集から現代の状況把握と未来の予想を行う。・先行研究から知見を深める。・ICTを利活用した実践的な制作。（音楽・映像メディア、CG、DTP、WEB、GAME、etc）・ICTの利活用スキルの更なる習得と指導する能力を身に付ける。・子どもへの実践活動

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

30コマ（1コマ90分）は、課題の整理と成果発表の場であり、それ以外に課題発表準備や成果物の制作時間が必要である。個人差はあるが、120分相当の取り組みを要する。また、これ以外にフィールドワークとして実践活動（IPUこども園等へ出向いての活動）の準備、実践、結果総括の時間が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個人レポート課題 40% グループワークへの貢献度 30%、フィールドワークへの貢献度 30%、

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的・目標を理解する
2	研究テーマ決定①	個人発表プレゼンテーション
3	研究テーマ決定②	グループワーク・ディスカッション
4	研究計画	個人発表プレゼンテーション
5	先行研究調査①	文献調査
6	先行研究調査②	調査結果発表準備
7	先行研究調査報告	個人発表プレゼンテーション
8	課題の考察①	課題の考察グループワーク
9	課題の考察②	研究テーマの絞り込み（研究テーマと副題の決定）
10	研究計画①	コンテンツのプランニング
11	研究計画②	個人発表プレゼンテーション
12	研究計画③	グループワーク・ディスカッション
13	コンテンツ制作①	研究テーマに合わせたコンテンツ制作
14	コンテンツ制作②	研究テーマに合わせたコンテンツ制作
15	フィールドワーク（データ収集）①	制作したコンテンツについてのデータ収集
16	フィールドワーク（データ収集）②	制作したコンテンツについてのデータ収集
17	データ処理・分析①	データ処理分析の方法を検討
18	データ処理・分析②	データ結果について個人発表プレゼンテーション
19	データ処理・分析③	グループワーク・ディスカッション
20	序論制作①	序論の制作（研究テーマ設定の動機、理由、意義）
21	序論制作②	個人発表・フィードバック
22	概論制作①	論文の全体構成検討
23	概論制作②	個人発表・フィードバック
24	本論制作①	全体像、概要の構築
25	本論制作②	個人発表・フィードバック
26	本論制作③	グループワーク・ディスカッション
27	研究成果まとめ1	発表シナリオ
28	研究成果まとめ1	データ処理
29	研究成果まとめ1	レポート制作
30	研究成果発表	発表と口頭試問

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	宮原 舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「人と音・音楽とのかかわり」をテーマに、乳幼児期を中心とした音楽的発達・音楽的行動などに関する研究を行う。各自が興味・関心をもつテーマを定めて文献研究・調査を行い、受講生同士で発表・議論を行いながら論文を執筆する。

<授業の到達目標>

1. 人間の生活における音・音楽の位置づけや、乳幼児と音・音楽のかかわりについて深く理解する。2. 音楽教育に関する諸問題や先行研究に対して考察を深め、自分なりの見解を他者に分かりやすく説明することができる。

<授業の方法>

各自が興味・関心をもつテーマについて文献研究・調査を行い、内容や進捗状況について受講生同士で交流・議論を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習】テーマにそって文献研究・調査を行い、レジュメを作成する(2時間程度)。【復習】授業内のディスカッションで得た気づきや疑問、今後の課題をまとめる(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題に対する取り組みと授業内での発表 50%論文・研究発表 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	研究指導①	研究テーマの検討・設定
3	研究指導②	文献研究の方法について
4	研究指導③	文献収集、先行研究に基づく批判的検討
5	研究指導④	文献収集、先行研究に基づく批判的検討
6	研究指導⑤	文献収集、先行研究に基づく批判的検討
7	研究指導⑥	文献収集、先行研究に基づく批判的検討
8	研究指導⑦	文献収集、先行研究に基づく批判的検討
9	研究指導⑧	研究方法の検討
10	研究指導⑨	研究方法の検討
11	研究指導⑩	データの収集と分析
12	研究指導⑪	データの収集と分析
13	研究指導⑫	データの収集と分析
14	研究指導⑬	データの収集と分析
15	中間発表	進捗状況と今後の研究計画について
16	研究指導⑭	論文構成について
17	研究指導⑮	論文構成について
18	研究指導⑯	データの分析と考察
19	研究指導⑰	データの分析と考察
20	研究指導⑱	データの分析と考察
21	研究指導⑲	データの分析と考察
22	研究指導⑳	データの分析と考察
23	研究指導㉑	論文執筆・研究発表に向けて
24	研究指導㉒	論文執筆・研究発表に向けて
25	研究指導㉓	論文執筆・研究発表に向けて
26	研究指導㉔	論文執筆・研究発表に向けて
27	研究指導㉕	論文執筆・研究発表に向けて
28	研究指導㉖	論文執筆・研究発表に向けて
29	研究指導㉗	論文執筆・研究発表に向けて
30	論文提出・研究発表	

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「ゼミナールⅡ(応用)」は、本学卒業必修科目である。「子どもの心に寄り添う保育」について考えることのできる保育者の育成をねらいとしていく。そのためにはまず、自然やもの、人の面白さや不思議さ、美しさなどに感動する心を育むことをねらいとする。子ども達と製作を行い、よりよい造形活動の在り方とはどのようなものかを学んでほしい。子どもが瞳を輝かせて取り組めるような造形活動やその活動の具体的な援助方法を考えるという作業を通して、保育士や幼稚園教諭に必要な「心に寄り添う」表現や技術の養成をしたいと考えている。

<授業の到達目標>

造形表現を中心とした保育・幼児教育に関する専門知識と技術を身につけている。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク等)を取り入れ、作品制作、美術館鑑賞、子どもの行事企画運営、学会参加等の実践活動により授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で必要な作品作りや論文作成等に取り組むなど、準備学習(90分程度)を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50% (積極性・協調性・相互促進性など) 課題(作品・ゼミ論文)、発表等 50%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

- 村田夕紀 楽しい“造形”がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに
 村田夕紀 まずは絵あそびから始めよう! 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに
 村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標と注意事項、成績評価法、実践活動について説明する。
2	こども発達学科・ゼミナール理解	4年生一年間の履修確認を行い、目標設定をする。
3	こども発達学科・ゼミナール理解	クラス内の相互理解を図る。
4	造形表現の教材研究(1)	地域の美術館について調べる。
5	造形表現の教材研究(2)	美術館鑑賞①
6	造形表現の教材研究(3)	作品を制作する。
7	造形表現の教材研究(4)	作品を制作する。
8	造形表現の教材研究(5)	作品を制作する。
9	造形表現の教材研究(6)	作品を制作する。
10	造形表現の教材研究(7)	作品提出と鑑賞会
11	プレゼンテーションとは	役割りとその具体的な内容の確認
12	プレゼンテーション作成	発表内容のプレゼンテーション作成
13	プレゼンテーションに挑戦しよう	プレ発表
14	ゼミナール活動報告会	報告会に出席し、発表する。
15	前期総括	前期の振り返りと夏季休暇、保育・教育実習について
16	後期の目標設定	後期の履修確認を行い、目標設定を行う。
17	造形表現の教材研究(8)	美術館鑑賞②
18	論文の読み方(1)	先行研究論文を検索する。
19	論文の読み方(2)	先行研究論文の読み方
20	論文の書き方(1)	ゼミ論文の題目を決定する。
21	論文の書き方(2)	ゼミ論文を作成する。
22	論文の書き方(3)	ゼミ論文を作成する。
23	中間発表	ゼミ論文中間発表会に出席し、発表をするとともに、他の学生の発表には質問をしたり感想を述べたりする。
24	論文の書き方(4)	ゼミ論文を作成する。
25	論文の書き方(5)	ゼミ論文を作成する。
26	論文の書き方(6)	役割りとその具体的な内容の確認
27	論文の書き方(7)	発表内容のプレゼンテーション作成

28	プレ発表会に挑戦しよう	プレ発表
29	ゼミナール論文発表会	ゼミ論文発表会に出席し、発表する。
30	全体総括	4年生の一年間と大学生生活を振り返る。

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%なお、ゼミ論文を提出することを必須とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30	ゼミ内研究発表会	統括

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%, 中間発表 20%, 論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

20	中間発表①	をよりよいものにする。 それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする（なお、テーマ設定を再考してもらってもかまわない）。

<授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。3. 研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自が設定したテーマに沿って研究を進め、適宜（できるだけ短い間隔で）経過報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文（知識・理解） 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）

18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。(第2回目)
30	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

3年次には、特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や、特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について、先行研究や関連する文献を渉猟した。本ゼミナールでは、3年次に培われた基礎的知識を礎に、次世代の特別な教育的ニーズへの対応について、制度・施策や教育内容・方法等の観点から整理し、展望できる資料をまとめる。

<授業の到達目標>

(1) 文献の内容を正確に読解できる。(2) 他者の意見を十全に理解することができる。(3) 自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。(4) 特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し、次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

<授業の方法>

自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ、そのレジュメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考の深化・統合を図る。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：毎回、自らの論文に関連するあらたな文献を講読し、得られた知見を論文に反映させ、全体としてどのような知見が得られたことになるか、今後の課題について、報告できるようにレジュメに整理する(2-3時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	3年次までの取り組みを振り返り、子どもの特別な教育的ニーズについて知見を整理する。さらに各自が整理した知見を元に、将来的に特別教育的ニーズに対応するために「何が必要か」「何ができるか」等の具体的な解決策を提案できる論文の構想を考える。
2	論文構成	将来、特別教育的ニーズに対応に関する各自の論文構成について発表し、論理性的の観点から議論する。
3	文献講読 1	知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献講読 2	幼児期の知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
5	文献講読 3	小学校における障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読 4	中学校・高等学校における知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
7	文献講読 5	肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	文献講読 6	保育園・幼稚園の肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
9	文献講読 7	小学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
10	文献講読 8	中学校・高等学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読 9	病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
12	文献講読 10	保育所・幼稚園における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読 1 1	小学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
14	文献講読 1 2	中学校・高等学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う

15	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う
16	イントロダクション②	各自の論文中間発表における課題と今後の論文作成に関する展望の発表
17	文献講読 1 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
18	文献講読 1 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
19	文献講読 1 5	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
20	文献講読 1 6	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
21	文献講読 1 7	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
22	文献講読 1 8	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
23	文献講読 1 9	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
24	文献講読 2 0	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
25	文献講読 2 1	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
26	文献講読 2 2	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
27	文献講読 2 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
28	文献講読 2 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑫
29	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について，レジメにまとめ，設定された時間内に発表し，内容や発表の仕方について議論する。
30	論文発表会	論文発表を行う

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡ(応用)では、3年生の『ゼミナールⅠ(基礎)』で深めてきた探究成果(社会人に求められる基礎的知識)を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文としてまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

<授業の到達目標>

3年生の『ゼミナールⅠ(基礎)』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー(「道德教育推進教諭」)になれるような資質・能力を養成することを目標としたい。「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ(3年生:『ゼミナールⅠ(基礎)』の個人テーマ)について、レポート(課題)作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果(実践研究論文)へと集約させる。<参考:3年生:『ゼミナールⅠ(基礎)』の内容>・前期は、道德的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集(知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング)→②ディベート(思考力・判断力・表現力等、討議)→③

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い(情報探索)、その結果を事前にレポートにまとめたり(論点整理)、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習(発表準備等)を1時間、復習(内容の振り返り)を1時間程度求める。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度等(関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識)30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価(知識・理解)70%

<教科書>

木野正一郎(2016年4月15日) 新発想!道德のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道德性を深化する みくに出版株式会社

押谷由夫・柳沼良太編(2014年7月7日) 道德の時代をつくる!ー道德教科化への始動ー 教育出版株式会社

田中博之編(2021年12月5日) 高等学校 探究授業の創り方ー教科・科目別授業モデルの提案ー 学事出版株式会社

<参考書>

田沼茂紀(2022年4月10日) 道德教育学の構想とその展開 株式会社北樹出版

木野正一郎(2023年3月1日) 『早稲田大学教職大学院紀要第15号』「高等学校『地理探究』を想定した小単元プログラムの開発と評価ー『探究的な学習のための活動系列モデル』を援用した取組を通してー」(注:講義にて配布します) 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

木野正一郎(2024年3月1日) 『早稲田大学教職大学院紀要第16号』「『包括的セクシュアリティ教育』を援用した小単元プログラムの実践と評価ー『課題予防的生徒指導』に向けた取組を通してー」(注:講義にて配布します) 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ(応用)の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰー課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰー課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
4	研究指導Ⅰー課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰー課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
7	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱー課題の探究の成果発表(中間)	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、

14	報告) ① 研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告) ②	うち10分は仲間から相互評価を受ける) をする。 各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける) をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告) ③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける) をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文の書き方講座	実践研究論文の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり(章立てなどの「型」を教えます。)・文章の書き方(英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。)・接続詞の使い方(長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。)・引用の方法(出典の明記と文中への投影方法を教えます。)
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化①	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化②	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化③	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化④	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑤	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
27	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑥	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告) ①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。
29	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告) ②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。
30	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告) ③	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	前田 一誠			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする（なお、テーマ設定を再考してもらってもかまわない）。

<授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。3. 研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自が設定したテーマに沿って研究を進め、適宜（できるだけ短い間隔で）経過報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文（知識・理解） 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）

18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。(第2回目)
30	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。

科目コード	51010			区分	コア科目				
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)《通年》			担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美				
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

<授業の到達目標>

①事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付ける。②事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立する。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬授業の準備、指導案の作成(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育j実習・実習報告 30% (一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。)

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、準備
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成(1)	指導案作成の手順
5	指導案の作成(2)	指導技術の工夫
6	模擬授業(1)	模擬授業を実施
7	模擬授業(2)	模擬授業を実施
8	模擬授業(3)	模擬授業を実施
9	模擬授業(4)	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告①	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告②	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告③	実習報告とディスカッション
14	教育実習の報告④	実習報告とディスカッション
15	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	清田 美紀			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。研究課題の立案及び解決のための過程において、課題解決に向けた情報収集や相互に議論することを通して、研究の進め方について、その理解を図っていく。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法の基礎的事項について理解できる。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究内容を論文にまとめ、発表ができる。

<授業の方法>

研究課題の決定に際しては、多様な視点をもてるようにするため議論を中心とする。研究の進捗状況を互いに情報交流しながら、その過程をポートフォリオとして記録させる。ICTを積極的に活用し、教員および履修者間で共有する。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 30%，論文 40%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	白石 翔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 50%, 中間発表 30%, 論文 20%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	36509				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー現場実習Ⅰ				担当者名	江波戸 智希／河野 儀久			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要なとされる役割についての意義と考え方を学び、具体的な評価から問題点抽出、予防・リハビリテーション介入までのプロセスを理解し、アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー現場実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

<授業の到達目標>

検査・測定と評価についての手法であるHOPSやアスレティックリハビリテーション、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場やオンラインで行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価、予防とコンディショニング、アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲50%、提出レポート50%

<教科書>

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤ 検査・測定と評価（公財）日本スポーツ協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	問診の方法を見学して理解する。
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	視診の方法を見学して理解する。
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	触診の方法を見学して理解する。
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	関節可動域方法を見学して理解する。
5	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑤	徒手筋力検査方法を見学して理解する。
6	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑥	アライメント検査方法を見学して理解する。
7	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑦	スペシャルテストを見学して理解する。
8	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑧	関節弛緩性検査を見学して理解する。
9	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑨	上肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
10	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑩	下肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
11	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑪	体幹のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
12	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑫	応急処置方法を見学して理解する。
13	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑬	テーピング法を見学して理解する。
14	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑭	ストレッチングを見学して理解する。
15	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑮	総合見学実習

16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

科目コード	36511				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー現場実習Ⅲ				担当者名	江波戸 智希／河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーに必要とされるストレッチング・テーピングなどのコンディショニング手法、外傷・障害に対する応急処置についてスポーツ現場を通して学習、実践する。競技特性を理解し、競技に応じた対応について理解する。

<授業の到達目標>

各種疾患およびコンディションに対して、適切な評価に基づくストレッチング、テーピング、応急処置の技術を習得し、実際に選手に対して適応可能となることを目標とする。

<授業の方法>

トレーニングセンターなど実際のスポーツ現場における実習形式で行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に運動器の解剖と機能、検査測定と評価、予防とコンディショニング等について60分以上、テキストを読んで準備する。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）30%、実技試験70%で評価する。

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ現場実習（IPU付属鍼灸整骨院）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
2	スポーツ現場実習（トレーニングセンター）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
3	スポーツ現場実習（柔道）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
4	スポーツ現場実習（剣道）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
5	スポーツ現場実習（レスリング）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
6	スポーツ現場実習（ダンス）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
7	スポーツ現場実習（陸上競技）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
8	スポーツ現場実習（駅伝・長距離）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
9	スポーツ現場実習（ラグビー）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
10	スポーツ現場実習（バスケットボール）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
11	スポーツ現場実習（ハンドボール）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
12	スポーツ現場実習（サッカー）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
13	スポーツ現場実習（バレーボール）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
14	スポーツ現場実習（野球）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
15	スポーツ現場実習（ソフトボール）	ストレッチング、テーピング、応急処置を実践する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	36513				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー現場実習Ⅴ				担当者名	江波戸 智希／河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーとしてのすべての役割を理解、実践する総括的な実習である。運動器の解剖と機能や障害学を理解し、外傷を呈したアスリートに対し、適切な検査、測定から導いたアスレティックリハビリテーションプログラムを実践する一連の流れを習得する。また、必要に応じて栄養学や救急処置などの知識もコーディネートする。

<授業の到達目標>

各種競技、疾患に対するアスレティックトレーナーの一連の流れ（疾患や解剖の理解→救急処置→検査測定と評価→アスレティックリハビリテーション）ができ、選手のスムーズな競技復帰に貢献できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

スポーツ現場、コンディショニングルーム、トレーニングセンターにて実践形式の実習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

アスレティックトレーナーとして総合的な能力が求められるため、授業前に各テキストを読むなど60～90分の準備を行う。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）50%、実技試験50%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックリハビリテーション実習①	柔道選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
2	アスレティックリハビリテーション実習②	剣道選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
3	アスレティックリハビリテーション実習③	レスリング選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
4	アスレティックリハビリテーション実習④	ダンス選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
5	アスレティックリハビリテーション実習⑤	陸上短距離選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
6	アスレティックリハビリテーション実習⑥	陸上長距離選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
7	アスレティックリハビリテーション実習⑦	陸上投擲選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
8	アスレティックリハビリテーション実習⑧	ラグビー選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
9	アスレティックリハビリテーション実習⑨	バスケットボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
10	アスレティックリハビリテーション実習⑩	ハンドボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
11	アスレティックリハビリテーション実習⑪	サッカー選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
12	アスレティックリハビリテーション実習⑫	バレーボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
13	アスレティックリハビリテーション実習⑬	野球選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
14	アスレティックリハビリテーション実習⑭	ソフトボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
15	アスレティックリハビリテーション実習⑮	自転車競技選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施

16	アスレティックリハビリテーション実習 ⑩	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施①
17	アスレティックリハビリテーション実習 ⑪	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施②
18	アスレティックリハビリテーション実習 ⑫	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施③
19	アスレティックリハビリテーション実習 ⑬	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施④
20	アスレティックリハビリテーション実習 ⑭	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑤
21	アスレティックリハビリテーション実習 ⑮	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑥
22	アスレティックリハビリテーション実習 ⑯	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑦
23	アスレティックリハビリテーション実習 ⑰	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑧
24	アスレティックリハビリテーション実習 ⑱	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑨
25	アスレティックリハビリテーション実習 ⑲	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑩
26	アスレティックリハビリテーション実習 ⑳	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑪
27	アスレティックリハビリテーション実習 ㉑	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑫
28	アスレティックリハビリテーション実習 ㉒	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑬
29	アスレティックリハビリテーション実習 ㉓	総合学習	アスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施⑭
30	アスレティックリハビリテーション実習 ㉔	まとめ	

科目コード	40401			区 分	コア科目				
授業科目名	インクルーシブスポーツ [アダプテッドスポーツ]			担当者名	宮本 彩				
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

インクルーシブスポーツとは、共生的な社会の実現に向けて障がいの有無や程度にかかわらず多様な人々が共に実施できるスポーツを指す。本授業では、インクルーシブスポーツとは何か、共生社会とどのように関わっていくのかということを実践を通して修得する。本授業を通じて学生が、誰もが同じ社会の中で共に生きるためにどのように工夫・協力し合えばよいかを考え、行動に移す力を身につけ、新たなスポーツやゲームを考案することによって指導と実践に必要な基本的知識について理解することを目的とする。担当教員の実務経験を活かし、実践的な授業

<授業の到達目標>

多様な人々が共に実施できるインクルーシブスポーツの意義や必要性について理解し、誰もがスポーツを楽しむための工夫・協力の方策や指導ができることを目標とする。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし、誰もが共にスポーツをするために、どのような工夫・協力し合えばよいかを考え、最善の方法を見つけ出し、実践していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信された資料からポイントをまとめ、誰もが共にスポーツをするための技術や体力を向上させるルールを考える（30分）。復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる（30分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、 レポート課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の内容を説明する。インクルーシブスポーツあるいはアダプテッドスポーツの概念について学ぶ。
2	障がい者スポーツの意義とパラリンピックの理念	障がい者スポーツの意義について受講者自身の考えを共有しながら、パラリンピックの理念の重要性を学ぶ。
3	パラリンピックの歴史、目的及び意義	グループワークを基にパラリンピックの歴史や目的及び意義を学び、時代ごとの社会背景なども踏まえてその位置づけについて議論する。
4	車椅子競技の探求	パラリンピックで実施されている車椅子競技のルールや参加条件等を調べ、その特徴を学ぶ。
5	車椅子競技の体験	車椅子競技の体験を通じて、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
6	アダプテッドスポーツの概念	アダプテッドスポーツの概念について学ぶ。また、意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。
7	アダプテッドスポーツの体験	アダプテッドスポーツの1つであるアンブティサッカーを体験し、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
8	インクルーシブスポーツの概念	インクルーシブスポーツの概念について学ぶ。また、意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。
9	インクルーシブスポーツの体験	アダプテッドスポーツの1つであるウォーキングサッカーを体験し、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
10	専門競技ごとの障がい者スポーツの調査	受講者自身が行っている専門競技ごとの障がい者スポーツの有無や取り組み等について調べる。
11	専門競技ごとの障がい者スポーツの調査結果の報告	前回の授業内で調べた内容を他の受講者に発表する。
12	インクルーシブスポーツのプログラム企画	受講生は数名ごとのグループに分かれ、インクルーシブスポーツの概念を基にしたプログラムを企画する。
13	学生によるインクルーシブスポーツの実践①	各グループが企画したインクルーシブスポーツのプログラムを実践する。
14	学生によるインクルーシブスポーツの実践②	各グループが企画したインクルーシブスポーツのプログラムを実践する。
15	まとめ	今までの実践を踏まえたグループで自由討論を行い、レポートを提出する。

16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

科目コード	53014				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ [FE]				担当者名	濱嶋 幸司／影山 映里			
配当年次	3年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。2. 就職活動に必要な書類を知り、作成できる。3. 卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

<授業の方法>

・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業を決める・企業の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として希望する企業調べを実施する。事後学習として実習企業の分析をする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後学習における課題への取組：100% ①事前学習：キャリアセンター主催のガイダンスへの参加②企業インターンシップ等への参加③事後学習：提出レポート

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前学習1	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前学習2	本学におけるインターンシップ申し込みシステム
4	事前学習3	企業研究 1
5	事前学習4	企業研究 2
6	事前学習5	企業研究 3
7	事前学習6	インターンシップ書類作成 1
8	事前学習7	インターンシップ書類作成 2
9	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
10	インターンシップ2日目	担当業務への従事・日誌の作成 1
11	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成 2
12	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成 3
13	インターンシップ5日目	担当業務への従事・日誌の作成 4
14	インターンシップ振り返り	体験報告書の作成
15	事後指導	インターンシップ報告書のチェックと評価
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

科目コード	53014				区分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ [PP]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	3年	配当学期	通年集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、就業体験（インターンシップ）を実際に行い、その体験を通して仕事観や人生観を育成し、残りの学生生活ですべきことを明確にすることをねらいとして行われる。

<授業の到達目標>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を醸成する」「残りの学生生活ですべきことを明確にする」科目である。体育学科ディプロマポリシー4に記されている「体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる」を目標に学ぶ。

<授業の方法>

講義と実習を年間を通して15コマ実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として希望する企業調べを実施する。事後学習として実習企業の分析をする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後学習における課題への取組：100%＜内訳＞1）キャリアセンター主催のガイダンスへの参加し、レポート：10%2）企業インターンシップ等への5回参加後レポート（詳細はルーブリックの内容確認）の平均値：90% ※6回以上の参加については、加点する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前指導1	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前指導2	本学におけるインターンシップ申し込みシステム
4	事前指導3	企業研究 1
5	事前指導4	企業研究 2
6	事前指導5	外部講師によるマナー講座
7	事前指導6	インターンシップ書類作成 1
8	事前指導7	インターンシップ書類作成 2
9	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
10	インターンシップ2日目	担当業務への従事、日誌の作成 1
11	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成 2
12	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成 3
13	インターンシップ5日目	担当業務への従事・日誌の作成 4
14	インターンシップ振り返り	受け入れ先へのお礼状、体験報告書の作成
15	事後指導	インターンシップ報告会
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	53079				区 分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	インターンシップ(企業) [BC]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、1週間程度のインターンシップ体験をもとに、学生が企業で働くうえで獲得すべき職場文化について理解することを目的とする。挨拶、電話の対応、報告、連絡、相談の具体、法令遵守、マナーを学ぶ。また、インターンシップ先での業務活動をレポートとしてまとめ、教員が指導、助言を行い、報告会等でのグループ討議を通じて実践的な学びを共有する。

<授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。

<授業の方法>

企業等でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義(座学)を行う。どちらも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・実習・レポートのすべてを完了しなければ、単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。インターンシップ実習の受け入れについての覚書を大学と取り交わした企業にて、1週間程度の実習を行う。実習前後の個

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N3以上に合格していなければならない。インターンシップ期間中は、すべての日程に参加することを原則とする。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 40% 授業態度 30% レポート課題・報告書 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業・科目の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備(1)	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備(2)	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか?
4	インターンシップ事前準備(3)	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー(1)	ビジネスマナーの理解と実践
6	インターンシップに必要なマナー(2)	履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	業界・企業研究	業界・企業研究の基本的な考え方、実習先についての調査・分析
8	個別面談	インターンシップ実施前の個別面談
9	インターンシップ実習(1)	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習(2)	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習(3)	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習(4)	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習(5)	各実習先での就業体験
14	インターンシップ実習体験のまとめ	インターンシップ実習体験のレポート作成
15	インターンシップ報告会	インターンシップ実習体験の報告とフィードバック
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		

27	
28	
29	
30	

科目コード	53080				区 分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	インターンシップ（公務員） [BC]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

本科目では、1週間程度のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。事前学習では演習（ロールプレイング）を通じ、社会人に求められるビジネスマナー・ビジネスコミュニケーション（具体的には挨拶、電話対応、報告・連絡・相談、コンプライアンス：法令遵守等）を学ぶ。事後学習ではインターンシップ先での業務活動をレポートとしてまとめ、教員が指導・助言を行い、成果報告会（プレゼンテーション）等での

<授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

<授業の方法>

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。インターンシップ実習の受け入れについての覚書を

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N3以上に合格していなければならない。インターンシップ期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（1時間）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える（1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価40%、授業態度30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション）30%

<教科書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業・科目の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備（1）	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備（2）	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？
4	インターンシップ事前準備（3）	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー（1）	ビジネスマナーの理解と実践
6	インターンシップに必要なマナー（2）	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）研究	組織研究の基本的な考え方、実習先についての調査・分析
8	個別面談	インターンシップ実施前の個別面談
9	インターンシップ実習（1）	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習（2）	各実習先での就業体験

11	インターンシップ実習（3）	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習（4）	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習（5）	各実習先での就業体験
14	インターンシップ実習体験のまとめ	インターンシップ実習体験のレポート作成
15	インターンシップ体験・成果報告会	インターンシップ実習体験の成果報告とフィードバック
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	53047				区分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	インターンシップ I [BC]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

本科目では、1週間程度のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。事前学習では演習（ロールプレイング）を通じ、社会人に求められるビジネスマナー・ビジネスコミュニケーション（具体的には挨拶、電話対応、報告・連絡・相談、コンプライアンス：法令遵守等）を学ぶ。事後学習ではインターンシップ先での業務活動をレポートとしてまとめ、教員が指導・助言を行い、成果報告会（プレゼンテーション）等での

<授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

<授業の方法>

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。インターンシップ実習の受け入れについての覚書を

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N3以上に合格していなければならない。インターンシップ期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（1時間）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える（1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価40%、授業態度30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション）30%

<教科書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業・科目の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備（1）	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備（2）	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？
4	インターンシップ事前準備（3）	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー（1）	ビジネスマナーの理解と実践
6	インターンシップに必要なマナー（2）	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）研究	組織研究の基本的な考え方、実習先についての調査・分析
8	個別面談	インターンシップ実施前の個別面談
9	インターンシップ実習（1）	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習（2）	各実習先での就業体験

11	インターンシップ実習（3）	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習（4）	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習（5）	各実習先での就業体験
14	インターンシップ実習体験のまとめ	インターンシップ実習体験のレポート作成
15	インターンシップ体験・成果報告会	インターンシップ実習体験の成果報告とフィードバック
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	32420				区 分	コア科目			
授業 科目名	音楽表現指導理論・実習 I (基礎)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。総合芸術と位置付けられているマーチングの理解を深め、基本技術、基本動作、マーチングの起源や歴史、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の基礎を学ぶ。

<授業の到達目標>

マーチングの基本的な知識や動作、各楽器の起源や歴史、取り扱い方を習得する。

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（練習方法の実践）・討論（練習効果の検証）・まとめ（練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	マーチングの歴史（1）	西洋音楽史
3	マーチングの歴史（2）	マーチングの起源と歴史
4	管楽器の基礎知識（1）	管楽器の起源と歴史
5	管楽器の基礎知識（2）	管楽器の構造、取り扱い方
6	打楽器の基礎知識（1）	打楽器の起源と歴史
7	打楽器の基礎知識（2）	打楽器の構造、取り扱い方
8	カラーガードの基礎知識（1）	カラーガードの起源と歴史
9	カラーガードの基礎知識（2）	カラーガードの手具の構造、取り扱い方
10	管楽器の基本技術（1）	トランペットの基本技術について学ぶ
11	管楽器の基本技術（2）	メロフォンについて学ぶ
12	管楽器の基本技術（3）	バリトンについて学ぶ
13	管楽器の基本技術（4）	ユーフォニアムについて学ぶ
14	管楽器の基本技術（5）	チューバについて学ぶ
15	打楽器の基本技術（1）	スネアドラムについて学ぶ
16	打楽器の基本技術（2）	テナードラムについて学ぶ
17	打楽器の基本技術（3）	バスドラムについて学ぶ
18	打楽器の基本技術（4）	シンバルについて学ぶ
19	打楽器の基本技術（5）	鍵盤楽器について学ぶ
20	カラーガードの基本技術（1）	フラッグについて学ぶ
21	カラーガードの基本技術（2）	セーバーについて学ぶ
22	カラーガードの基本技術（3）	ライフルについて学ぶ
23	マーチングの基本動作（1）	立位姿勢について学ぶ
24	マーチングの基本動作（2）	楽器の構え方について学ぶ
25	マーチングの基本動作（3）	バイシクルステップ
26	マーチングの基本動作（4）	ストレートレグ
27	マーチングの基本動作（5）	フォワードマーチ
28	マーチングの基本動作（6）	バックフォワードマーチ
29	マーチングの基本動作（7）	スライド
30	総括	授業のまとめ

科目コード	32421				区分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰで学んだことから応用的な技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の応用形を身につけ様々な表現方法について学ぶ。

<授業の到達目標>

マーチングの応用的な知識や動作、各楽器の応用的な技術・指導力を身につける。

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的で応用的な練習方法の提案）・フィールドワーク（応用的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（応用的な練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の技術（1）	ブレスコントロール
3	管楽器の技術（2）	ロングトーン
4	管楽器の技術（3）	リップスラー
5	管楽器の技術（4）	タンギング（1）、シングルタンギング
6	管楽器の技術（5）	タンギング（2）、ダブルタンギング
7	管楽器の技術（6）	タンギング（3）、トリプルタンギング
8	打楽器の技術（1）	シングルストローク（トラディショナルグリップ）
9	打楽器の技術（2）	ダブルストローク（トラディショナルグリップ）
10	打楽器の技術（3）	トリプルストローク（トラディショナルグリップ）
11	打楽器の技術（4）	シングルストローク（マッチドッググリップ）
12	打楽器の技術（5）	ダブルストローク（マッチドッググリップ）
13	打楽器の技術（6）	トリプルストローク（マッチドッググリップ）
14	カラーガードの技術（1）	スピン（フラッグ）
15	カラーガードの技術（2）	トス（フラッグ）
16	カラーガードの技術（3）	コンビネーション（フラッグ）
17	カラーガードの技術（4）	スピン（セーバー）
18	カラーガードの技術（5）	トス（セーバー）
19	カラーガードの技術（6）	コンビネーション（セーバー）
20	カラーガードの技術（7）	スピン（ライフル）
21	カラーガードの技術（8）	トス（ライフル）
22	カラーガードの技術（9）	コンビネーション（ライフル）
23	マーチングの動作（1）	ラインでの動作
24	マーチングの動作（2）	ボックスでの動作
25	マーチングの動作（3）	フォロワーリーダーでの動作
26	マーチングの動作（4）	ローテーションでの動作
27	マーチングの動作（5）	ジャズウォーク
28	マーチングの動作（6）	ジャズラン
29	マーチングの動作（7）	コンビネーション
30	総括	授業のまとめ

科目コード	32422				区分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅱで学んだことから発展させた技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の発展形を身につけ様々な表現方法について発展的なアプローチを学ぶ。

<授業の到達目標>

マーチングの応用を発展させた知識や動作、各楽器の発展的な技術・指導力を身につける。

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（応用を発展させた効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（発展的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（発展的な練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の演奏表現技術（1）	楽曲を用いた演奏表現技術（スローテンポ）
3	管楽器の演奏表現技術（2）	楽曲を用いた演奏表現技術（ミドルテンポ）
4	管楽器の演奏表現技術（3）	楽曲を用いた演奏表現技術（ハイテンポ）
5	管楽器の演奏表現技術（4）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の4拍子）
6	管楽器の演奏表現技術（5）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の3拍子）
7	管楽器の演奏表現技術（6）	楽曲を用いた演奏表現技術（8分の6拍子）
8	打楽器の演奏表現技術（1）	楽曲を用いた演奏表現技術（スネアドラム）
9	打楽器の演奏表現技術（2）	楽曲を用いた演奏表現技術（テナードラム）
10	打楽器の演奏表現技術（3）	楽曲を用いた演奏表現技術（バスドラム）
11	打楽器の演奏表現技術（4）	楽曲を用いた演奏表現技術（マリンバ）
12	打楽器の演奏表現技術（5）	楽曲を用いた演奏表現技術（ビブラフォン）
13	打楽器の演奏表現技術（6）	楽曲を用いた演奏表現技術（ドラムセット）
14	カラーガードの演技表現技術（1）	フラッグを使った演技表現技術（スローテンポ）
15	カラーガードの演技表現技術（2）	フラッグを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
16	カラーガードの演技表現技術（3）	フラッグを使った演技表現技術（ハイテンポ）
17	カラーガードの演技表現技術（4）	セーバーを使った演技表現技術（スローテンポ）
18	カラーガードの演技表現技術（5）	セーバーを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
19	カラーガードの演技表現技術（6）	セーバーを使った演技表現技術（ハイテンポ）
20	カラーガードの演技表現技術（7）	ライフルを使った演技表現技術（スローテンポ）
21	カラーガードの演技表現技術（8）	ライフルを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
22	カラーガードの演技表現技術（9）	ライフルを使った演技表現技術（ハイテンポ）
23	マーチングの動作表現技術（1）	ドリルの中での演技表現技術（スローテンポ）
24	マーチングの動作表現技術（2）	ドリルの中での演技表現技術（ミドルテンポ）
25	マーチングの動作表現技術（3）	ドリルの中での演技表現技術（ハイテンポ）
26	マーチングの動作表現技術（4）	ドリルの中での演技表現技術（ホームムーブ）
27	マーチングの動作表現技術（5）	ドリルの中での演技表現技術（ボディワーク）
28	マーチングの動作表現技術（6）	ドリルの中での演技表現技術（キャラクター）
29	マーチングの動作表現技術（7）	ドリルの中での演技表現技術（コンビネーション）
30	総括	授業のまとめ

科目コード	32423				区 分	コア			
授業 科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰ～Ⅲで学んだことを実践し、マーチングや様々な音楽表現において指導する際に教材として使用出来る楽曲や作品を制作する能力を身につける。

<授業の到達目標>

音楽表現指導の際、教材として実際に使用できる楽曲や作品制作をする技術、技能を身につける。

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（発展で学んだことを実践させ楽曲や作品制作の構想）・フィールドワーク（楽曲や作品制作の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（楽曲や作品制作の講評）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30、%実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の楽曲制作（1）	記譜法について
3	管楽器の楽曲制作（2）	調号について
4	管楽器の楽曲制作（3）	コードネームについて
5	管楽器の楽曲制作（4）	コード進行について
6	管楽器の楽曲制作（5）	楽曲アレンジ（基礎）
7	管楽器の楽曲制作（6）	楽曲アレンジ（応用）
8	打楽器の楽曲制作（1）	打楽器の記譜法（基礎）
9	打楽器の楽曲制作（2）	打楽器の記譜法（応用）
10	打楽器の楽曲制作（3）	打楽器の特性の理解（音域）
11	打楽器の楽曲制作（4）	打楽器の効果（音楽効果）
12	打楽器の楽曲制作（5）	楽曲アレンジ（打楽器基礎）
13	打楽器の楽曲制作（6）	楽曲アレンジ（打楽器応用）
14	カラーガードのコレオグラフ（1）	フラッグを使った振付（スローテンポ）
15	カラーガードのコレオグラフ（2）	フラッグを使った振付（ミドルテンポ）
16	カラーガードのコレオグラフ（3）	フラッグを使った振付（ハイテンポ）
17	カラーガードのコレオグラフ（4）	セーバーを使った振付（スローテンポ）
18	カラーガードのコレオグラフ（5）	セーバーを使った振付（ミドルテンポ）
19	カラーガードのコレオグラフ（6）	セーバーを使った振付（ハイテンポ）
20	カラーガードのコレオグラフ（7）	ライフルを使った振付（スローテンポ）
21	カラーガードのコレオグラフ（8）	ライフルを使った振付（ミドルテンポ）
22	カラーガードのコレオグラフ（9）	ライフルを使った振付（ハイテンポ）
23	マーチングの作品制作（1）	ドリルデザイン（パレーディング）
24	マーチングの作品制作（2）	ドリルデザイン（ボックスを使ったデザイン）
25	マーチングの作品制作（3）	ドリルデザイン（ラインコンビネーション）
26	マーチングの作品制作（4）	ドリルデザイン（フォロワーリーダーパターン）
27	マーチングの作品制作（5）	ドリルデザイン（モーフィング）
28	マーチングの作品制作（6）	ドリルデザイン（ステージング）
29	マーチングの作品制作（7）	ドリルデザイン（ジェネラルエフェクト）
30	総括	授業のまとめ

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（12,000字以上）を完成することを目標とする。

<授業の到達目標>

ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。①研究テーマは、自分で決める。②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

<授業の方法>

4年前期：ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。
4年後期：卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出メ切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。研究（計画書作成）方法

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

科目コード	55000				区 分	キャリア形成			
授業 科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

これまでの学びの集大成として卒論を書く。それにあたり文献研究や論文の書き方について指導を受ける。

<授業の到達目標>

4年間の学びの集大成を1年かけて書き上げる。先行研究などの参考文献を活用して、大学院進学へつながるクオリティの論文を書く。

<授業の方法>

各自の研究テーマに応じて先行研究調査や分析を行い、ゼミメンバーでディスカッションをして知見を深め、論文を完成させていく。ディベート、輪読、大学外のフィールドワークを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自のテーマに応じた研究を進める。毎週進捗状況を発表しあう。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価においては、who cares, what we know, what we don't know, so whatの4つの観点からと、なぜそのテーマにしたのか今後のキャリア・進学との関連性を重視する。

<教科書>

適宜資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	論文のテーマを決める	ゼミ生の討論や個別コーチングによるテーマ決め その1)
2	論文のテーマを決める	ゼミ生の討論や個別コーチングによるテーマ決め その2)
3	論文のテーマを決める	ゼミ生の討論や個別コーチングによるテーマ決め その3)
4	論文の骨子を決める	ゼミ生の討論や個別コーチングによる骨子決め その1)
5	論文の骨子を決める	ゼミ生の討論や個別コーチングによる骨子決め その2)
6	論文の骨子を決める	ゼミ生の討論や個別コーチングによる骨子決め その3)
7	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
8	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
9	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
10	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
11	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
12	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
13	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
14	先行研究	図書館やオンラインで先行研究を探す
15	夏休みの計画	夏休みにどのような研究活動をするか計画を作る
16	夏休みの研究成果	夏休みの研究成果を発表する
17	執筆を始める	目次を決める
18	執筆と研究を並行して進める	書くことと、研究を続ける
19	進捗状況の確認	各自が進捗を発表する
20	執筆と研究	引き続き執筆と研究を進め、指導教官が各自にコメントをする
21	執筆と研究	引き続き執筆と研究を進め、指導教官が各自にコメントをする
22	執筆と研究	引き続き執筆と研究を進め、指導教官が各自にコメントをする
23	執筆と研究	引き続き執筆と研究を進め、指導教官が各自にコメントをする
24	執筆と研究	引き続き執筆と研究を進め、指導教官が各自にコメントをする
25	進捗報告	ゼミ生どうしてディスカッションをして、各自の論文のロジックを検証する
26	進捗報告	ゼミ生どうしてディスカッションをして、各自の論文のロジックを検証する
27	進捗報告	ゼミ生どうしてディスカッションをして、各自の論文のロジックを検証する
28	論文の仕上げ	輪読をする
29	論文の仕上げ	輪読をする
30	総まとめ	各自が学びを発表する

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	前期・後期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文を完成することを目標とする。

<授業の到達目標>

ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて、各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。①研究テーマは自分で決める。②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

<授業の方法>

4年前期：ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として、前期末に「中間発表会」を開催する。4年後期：卒業研究の成果物としての卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業や行政での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業や行政での仕事の進め方の基礎を体得することができる。研究（計画書）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習において指示する。毎回、次の演習までに事前課題に対する予習を必要とする。また、授業中に行った課題のまとめが必要である。（予習・復習とも1時間程度は必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終審査会において、執筆した卒業論文を評価する。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（20,000字程度を目安）を完成することを目標とする。

<授業の到達目標>

ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。①研究テーマは、自分で決める。②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

<授業の方法>

4年前期：ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。
4年後期：卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。研究（計画書作成）方法

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	4単位

<授業の概要>

「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（12,000字以上）を完成することを目標とする。

<授業の到達目標>

ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。①研究テーマは、自分で決める。②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

<授業の方法>

4年前期：ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。
4年後期：卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。研究（計画書作成）方法

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

29		
30		

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	宮原 舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡ（応用）では、3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』で深めてきた探究成果（社会人に求められる基礎的知識）を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文としてまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

<授業の到達目標>

3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道德教育推進教諭」）になれるような資質・能力を養成することを目標としたい。「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ（3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の個人テーマ）について、レポート（課題）作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（実践研究論文）へと集約させる。＜参考：3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の内容＞・前期は、道德的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現力等、討議）→③

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い（情報探索）、その結果を事前にレポートにまとめたり（論点整理）、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）70%

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日） 新発想！道德のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道德性を深化する みくに出版株式会社

押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日） 道德の時代をつくる！ー道德教科化への始動ー 教育出版株式会社

田中博之編（2021年12月5日） 高等学校 探究授業の創り方ー教科・科目別授業モデルの提案ー 学事出版株式会社

<参考書>

田沼茂紀（2022年4月10日） 道德教育学の構想とその展開 株式会社北樹出版

木野正一郎（2023年3月1日） 『早稲田大学教職大学院紀要第15号』「高等学校『地理探究』を想定した小単元プログラムの開発と評価ー『探究的な学習のための活動系列モデル』を援用した取組を通してー」（注：講義にて配布します） 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

木野正一郎（2024年3月1日） 『早稲田大学教職大学院紀要第16号』「『包括的セクシュアリティ教育』を援用した小単元プログラムの実践と評価ー『課題予防的生徒指導』に向けた取組を通してー」（注：講義にて配布します） 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰー課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰー課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
4	研究指導Ⅰー課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰー課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
7	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰー課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱー課題の探究の成果発表（中間	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、

14	報告) ① 研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告) ②	うち10分は仲間から相互評価を受ける) をする。 各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける) をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告) ③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける) をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文の書き方講座	実践研究論文の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり(章立てなどの「型」を教えます。)・文章の書き方(英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。)・接続詞の使い方(長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。)・引用の方法(出典の明記と文中への投影方法を教えます。)
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化①	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化②	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化③	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化④	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑤	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
27	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑥	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告) ①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。
29	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告) ②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。
30	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告) ③	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30	ゼミ内研究発表会	統括

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期卒業論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、自身が関心を持っている分野・内容など、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

本科目における到達目標は、体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得するとともに、自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけることとして、卒業論文を執筆することにある。

<授業の方法>

論文作成の方法を学びながら、課題発表やディスカッションを展開し、それぞれ研究や調査を行う。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。その成果として学年末において卒業研究発表にてプレゼンテーションする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
2	研究課題の決定	研究課題を決定する。
3	文献調査①	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
4	文献調査②・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
5	文献調査③・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
6	予備実験調査・実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備調査・実験を実施する。
7	予備調査・実験Ⅰのデータ分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験Ⅰで取得したデータを分析し、調査方法やプロトコルの見直しを検討する。
8	予備調査・実験Ⅱ	予備実験Ⅰの結果をもとに、修正された調査方法や研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験Ⅱを実施する。
9	予備調査・実験Ⅱデータの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備調査・実験Ⅱで取得したデータを分析し、プロトコルの見直しを検討する。
10	本調査・実験①	本調査・実験の実施し、データを取集する。
11	本調査・実験②	本調査・実験の実施し、データを取集する。
12	本調査・実験③	本調査・実験の実施し、データを取集する。
13	本調査・実験④	本調査・実験の実施し、データを取集する。
14	本調査・実験⑤	本調査・実験の実施し、データを取集する。
15	本調査・実験⑥	本調査・実験の実施し、データを取集する。
16	データ分析①	本調査・実験で取得したデータを分析する。
17	データ分析②	本調査・実験で取得したデータを分析する。
18	データ分析③	本調査・実験で取得したデータを分析する。
19	データ分析結果の検討①	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
20	データ分析結果の検討②	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	データ分析結果の検討③	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
22	統計分析①	得られた結果を統計学的に分析する。
23	統計分析②	得られた結果を統計学的に分析する。
24	結果の考察①	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
25	結果の考察②	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
26	結果の考察③	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
27	プレゼンテーション準備①	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。

28	プレゼンテーション準備②	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
29	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
30	全体のまとめ	卒業研究活動全体を通じた総括

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）
27	個別指導（6）	プレゼンの理解
28	個別指導（7）	プレゼン資料の作成
29	個別指導（8）	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30	ゼミ内研究発表会	統括

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	林 栄昭			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
30	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出

科目コード	27100				区分	コア科目			
授業科目名	解剖学 I 《連続》				担当者名	百田 龍輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

<授業の到達目標>

1) 内分泌系では 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎などの形態が説明できるようになる。2) 感覚器系では 視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚の形態が説明できるようになる。3) 神経系では 中枢神経（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）と末梢神経（自律神経、脳神経、脊髄神経）の形態が説明できるようになる。4) 骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

<授業の方法>

教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す講義予定範囲を教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30%・評価試験70%

<教科書>

岸 清・石塚 寛 編 解剖学 医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版

<参考書>

坂井建夫・大谷 修 著 プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系） 医学書院
自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 2021 https://apps.apple.com/app/id1117998129 解剖学的構造と生理学 Anatomy & Physiologyhttps://a
松村 譲児（2021年4月19日） イラスト解剖学 中外医学社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	内分泌系 1 骨格系総論	下垂体筋の形態・作用・補助装置
2	内分泌系 2 骨格筋総論 1	下垂体ホルモン・松果体筋の形態・作用
3	内分泌系 3 骨格筋総論 2	甲状腺上体 副腎など筋の形態・作用・補助装置
4	内分泌系 4 まとめ 1	膵臓1から3回のまとめ
5	内分泌系 5 頭部の筋	下小体 松果体顔面筋・咀嚼筋
6	内分泌系 6 頭部の筋	精巣・卵巣広頸筋・胸鎖乳突筋等
7	中枢神経 1 胸部の筋	神経系概要大胸筋・小胸筋・肋間筋等
8	中枢神経 2 まとめ 2	神経組織（神経細胞・支持細胞） 5～7回目のまとめ
9	中枢神経 3 腹部の筋	脳室系・髄膜・脳脊髄液腹直筋・内外腹斜筋等
10	中枢神経 4 上肢帯の筋	大脳・大脳皮質・大脳白質・大脳核上肢帯の筋
11	中枢神経 5 上肢の筋	間脳・中脳上肢の筋
12	中枢神経 6 まとめ 3	橋、延髄 脳9から11回目のまとめ
13	中枢神経 7 下肢帯の筋	脊椎・上向き伝導路下肢帯の筋
14	中枢神経 8 下肢の筋	視覚・聴覚・下向き伝導路下肢の筋
15	末梢神経 1 まとめ 4	脳神経113. 14回目のまとめ
16	末梢神経 2	脳神経 2
17	末梢神経 3	脊髄神経の構造
18	末梢神経 4	頸神経叢・腕神経叢
19	末梢神経 5	腰神経叢
20	末梢神経 6	仙骨神経叢・デルマトーム
21	末梢神経 7	自律神経（交感神経）
22	末梢神経 8	自律神経（副交感神経）

23	感覚器 1	外皮・皮膚
24	感覚器 2	視覚器・眼球
25	感覚器 3	聴覚器
26	感覚器 4	平衡器
27	感覚器 5	嗅覚器
28	感覚器 6	味覚器
29	まとめ1	神経系 (まとめ)
30	まとめ2	神経系 (演習)

科目コード	40115				区分	コア科目			
授業科目名	整復学実技 I (包帯法 I) 《連続》				担当者名	河野 儀久／簀戸 崇史			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な基本包帯法に関する知識および技術の習得を目標とする。整復臨床実習 I の受講生として、ふさわしい身なり、態度、知識の習得を目標とする。

<授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「包帯固定学」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復師のための救急医学

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション-授業内容、成績評価の説明-	授業内容、評価法を説明する。
2	包帯の種類、包帯の扱い方	包帯の理解を深める
3	包帯基本の導入	包帯の種類を説明する。
4	基本包帯法練習 -包帯の扱い方-	包帯の扱い方を説明する。
5	基本包帯法練習①-環行帯-	環行帯の巻き方を説明する。
6	基本包帯法①②③ 環行帯-螺旋帯-蛇行帯	環行帯、螺旋帯、蛇行帯の説明が出来る。
7	基本包帯法④ 折転帯	折転帯の説明が出来る。
8	基本包帯法練習①④ 環行帯-折転帯	前腕部、下腿部、大腿部における折転帯の巻き方を説明する。
9	基本包帯法練習⑤-亀甲帯-	亀甲帯の巻き方を説明する。
10	基本包帯法練習⑤-亀甲帯-	肘、膝関節における亀甲帯の巻き方を説明する。
11	基本包帯法練習⑥-麦穂帯-	麦穂帯の巻き方を説明する。
12	基本包帯法練習⑥-肩、股、手関節部 麦穂帯-	肩、股、手関節における麦穂帯の巻き方を説明する。
13	基本包帯法確認テスト	基本包帯法の実技評価
14	基本包帯法確認テスト	基本包帯法の実技評価
15	テーピング固定法 (1)	足関節のテーピングについて説明する。
16	テーピング固定法 (2)	足関節のテーピング固定法の基礎を学習する。
17	テーピング固定法 (3)	足関節のテーピング固定法の応用を学習する。
18	テーピング固定法 (4)	関節のテーピング理論について説明する。
19	冠名包帯法①	デゾー包帯法
20	冠名包帯法①	デゾー包帯法
21	冠名包帯法②	ジュール包帯法
22	冠名包帯法②	ジュール包帯
23	冠名包帯法③	ヴェルポー包帯
24	冠名包帯法③	ヴェルポー包帯
25	部位別包帯①	頭部・顔面部 下腿部・大腿部
26	部位別包帯②	足関節部・手指部・足趾部
27	評価テスト	実技評価

28	評価テスト	実技評価
29	評価テスト	実技評価
30	評価テスト	実技評価

科目コード	40116				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ) 《連続》				担当者名	簗戸 崇史/河野 儀久			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な固定に先だった検査の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な冠名包帯、固定材料に関する知識および技術の習得を目標とする。

<授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。(毎回、1時間程度) 復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。(毎回、2時間程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、実技試験 80%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「包帯固定学」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 「柔道整復師のための救急医学」 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体表解剖	上肢
2	体表解剖	上肢
3	体表解剖	上肢
4	体表解剖	下肢
5	体表解剖	下肢
6	体表解剖	体幹
7	確認テスト①	体表解剖
8	確認テスト①	体表解剖
9	可動域計測	上肢
10	可動域計測	上肢
11	可動域計測	上肢
12	可動域計測	下肢
13	可動域計測	下肢
14	可動域計測	体幹
15	確認テスト②	可動域計測
16	確認テスト②	可動域計測
17	MMT、腱反射	上肢
18	MMT、腱反射	上肢
19	MMT、腱反射	下肢
20	MMT、腱反射	体幹
21	確認テスト③	MMT、腱反射
22	確認テスト③	MMT、腱反射
23	テーピング	足関節
24	テーピング	膝関節
25	ヒューマンキャリー	徒手搬送
26	ヒューマンキャリー	MILS、頸椎固定、スパインボード
27	確認テスト④	ヒューマンキャリー(口頭試問)
28	確認テスト④	ヒューマンキャリー(口頭試問)
29	確認テスト(再テスト)	確認テスト①-④の不合格者のみ
30	確認テスト(再テスト)	確認テスト①-④の不合格者のみ

科目コード	40212				区分	柔道整復実技科目			
授業科目名	整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	坂本 賢広／畑島 紀昭			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する評価スキル・整復・固定法を学ぶ。臨床で通用する実技技術の修得を目指す。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価する。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する評価スキル・整復・固定法の修得を目標とする。

<授業の方法>

教科書を中心に授業を進め評価スキル・整復・固定法の実技を学習する。実技の修得には反復練習が求められ、授業内では繰り返し練習を実施する。実技の修得確認のため実技試験を複数回実施する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogleクラスルームにて配信する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書にて次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。また必要に応じて動画や資料を配信する。(毎回、1時間程度)
復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲10%・実技試験90%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 (2016) 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 南江堂
全国柔道整復学校協会 (2017) 「包帯固定学 改訂第2版」 南江堂
全国柔道整復学校協会 (2022) 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 (2020) 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容と成績評価方法を説明する。
2	上肢臨床検査法①	上肢可動域測定の測定方法の習得
3	上肢臨床検査法②	上肢可動域測定の測定方法の習得
4	上肢臨床検査法③	上肢徒手筋力テストの測定方法の習得
5	上肢臨床検査法④	上肢徒手筋力テストの測定方法の習得
6	上肢臨床検査法⑤	上肢画像所見(X-P, CT, MRI)の見方の習得
7	上肢臨床検査法⑥	上肢画像所見(X-P, CT, MRI)の見方の習得
8	上肢臨床検査法⑦	上肢腱反射の測定方法の習得
9	肩腱板損傷の診察	徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
10	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
11	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
12	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
13	肩鎖関節上方脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
14	肩鎖関節上方脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
15	肩関節烏口下脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
16	肩関節烏口下脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
17	肩関節烏口下脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
18	肩関節烏口下脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
19	肘関節後方脱臼脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
20	肘関節後方脱臼脱臼の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
21	肘関節後方脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
22	肘関節後方脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
23	まとめ①	上肢臨床検査法(関節可動域)の確認
24	まとめ②	上肢臨床検査法(関節可動域)の確認
25	まとめ③	上肢臨床検査法(徒手筋力テスト、画像の見方)の確認
26	まとめ④	上肢臨床検査法(徒手筋力テスト、腱反射)の確認
27	まとめ⑤	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の確認
28	まとめ⑥	肩鎖関節上方脱臼の確認
29	まとめ⑦	肩関節前方脱臼の確認
30	まとめ⑧	肘関節後方脱臼の確認

科目コード	35211				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツアナリティクスⅠ				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、様々な競技でデータの活用が進んでおり、スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ、スポーツ統計とも呼ばれており、データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では、スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

<授業の方法>

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	映像技術（1）	競技場面を撮影する際の基本知識・技術
3	映像技術（2）	映像撮影に必要とされる機器について
4	映像技術（3）	アプリ・タブレット端末等を用いた撮影技術
5	情報技術（1）	データアーカイブ
6	情報技術（2）	ネットワークを用いた即時フィードバック
7	情報技術（3）	特殊環境でのネットワーク活用
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し、分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し、分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し、分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し、分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
13	動作分析（6）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
14	ゲーム分析（1）	ゲーム分析のねらいと方法
15	ゲーム分析（2）	ベースボール型スポーツにおける実践①
16	ゲーム分析（3）	ベースボール型スポーツにおける実践②
17	ゲーム分析（4）	ベースボール型スポーツにおけるゲーム分析実践
18	ゲーム分析（5）	ネット型スポーツにおける実践①
19	ゲーム分析（6）	ネット型スポーツにおける実践②
20	ゲーム分析（7）	ネット型スポーツにおけるゲーム分析実践
21	ゲーム分析（8）	ゴール型スポーツにおける実践①
22	ゲーム分析（9）	ゴール型スポーツにおける実践②
23	ゲーム分析（10）	ゴール型スポーツにおけるゲーム分析実践
24	ゲーム分析（11）	武道における実践①
25	ゲーム分析（12）	武道における実践②
26	ゲーム分析（13）	武道における試合分析
27	ゲーム分析（14）	ダンス系スポーツにおける実践①

28	ゲーム分析 (15)	ダンス系スポーツにおける実践②
29	ゲーム分析 (16)	ダンス系スポーツにおける分析評価
30	ゲーム分析 (17)	まとめ

科目コード	40213				区分	専門基礎			
授業科目名	整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	畑島 紀昭／坂本 賢広			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に対する評価スキル・整復・固定法を学ぶ。臨床で通用する実技技術を修得を目指す。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価する。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に対する評価スキル・整復・固定法の修得を目標とする。

<授業の方法>

教科書を中心に授業を進め評価スキル・整復・固定法の実技を学習する。実技の修得には反復練習が求められ、授業内では繰り返し練習を実施する。実技の修得確認のため実技試験を複数回実施する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogleクラスルームにて配信する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。また必要に応じて動画や資料を配信する。(毎回、1時間程度)
 復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲10%・実技試験90%

<教科書>

全国柔道整復学校協会(2022) 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂
 全国柔道整復学校協会(2016) 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂
 全国柔道整復学校協会(2017) 包帯固定学 改訂第2版 南江堂

<参考書>

目崎 登 「運動器疾患ワークブック」 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	肘内障の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
2	肘内障の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
3	示指PIP関節背側脱臼の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
4	示指PIP関節背側脱臼の固定	固定方法、固定前・後の確認
5	第5中手骨頸部骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
6	第5中手骨頸部骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
7	肋骨骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
8	肋骨骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
9	定型的鎖骨骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
10	定型的鎖骨骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
11	定型的鎖骨骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
12	定型的鎖骨骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
13	上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
14	上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
15	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
16	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
17	コーレス骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
18	コーレス骨折の診察及び整復	整復方法、診察、徒手検査、合併症、併発症、後遺症、患者介助方法の確認
19	コーレス骨折の固定	固定具作成、固定方法、固定前・後の確認
20	コーレス骨折の固定	固定方法、固定前・後の確認
21	まとめ①	肘内障の確認
22	まとめ②	示指PIP関節背側脱臼の確認
23	まとめ③	第5中手骨頸部骨折の確認
24	まとめ④	肋骨骨折の確認
25	まとめ⑤	定型的鎖骨骨折の確認①
26	まとめ⑥	定型的鎖骨骨折の確認②
27	まとめ⑦	上腕骨外科頸外転型骨折の確認
28	まとめ⑧	上腕骨骨幹部三角筋付着部の確認

29	まとめ⑨	コーレス骨折の確認①
30	まとめ⑩	コーレス骨折の確認②

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

<授業の到達目標>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義および実技 2. 調査および発表

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 文献検索プレゼンテーションの内容 2. 小テスト（国家試験問題等） 3. データの収集・処理・プレゼンまでの内容

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
28	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
29	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
30	まとめ	苦手分野の復習

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	古山 喜一				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナール I (基

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いことによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(予習・復習等) 研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度(50%)、学習意欲(30%)、レポート(20%)で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する1
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する1
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性を発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1
22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2
23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3
24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29	総括4	研究進捗状況発表会4
30	総括5	研究進捗状況発表会5

科目コード	55007			区分	キャリア形成科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	畑島 紀昭				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことができるような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する

<授業の到達目標>

専門領域の現状を理解し、課題を見出すことができる。課題に沿った論文の検索、精査をすることができる。精査した内容を客観的に評価し内容をプレゼンテーションすることができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査）省察活動（課題に対するまとめ、プレゼンスライド作成、実践活動）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、プレゼンテーション・レポート 40%、取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	柔道整復師の衛生管理について①	柔道整復師の衛生管理の現状把握1
2	柔道整復師の衛生管理について②	柔道整復師の衛生管理の現状把握2
3	柔道整復師の衛生管理について③	柔道整復師の衛生管理の現状把握3
4	柔道整復師の衛生管理について④	柔道整復師の衛生管理の問題点1
5	柔道整復師の衛生管理について⑤	柔道整復師の衛生管理の問題点2
6	医療現場の衛生管理について①	医療現場の衛生管理について1
7	医療現場の衛生管理について②	医療現場の衛生管理について2
8	医療現場の衛生管理について③	医療現場の衛生管理について3
9	医療現場の衛生管理について④	柔道整復師と他の医療資格との比較1
10	医療現場の衛生管理について⑤	柔道整復師と他の医療資格との比較2
11	情報整理①	衛生管理について1
12	情報整理②	衛生管理について2
13	情報整理③	衛生管理について3
14	まとめ	前半のまとめ1
15	まとめ	前半のまとめ2
16	疑問・問題点の抽出及び整理①	疑問・問題点の抽出及び整理1
17	疑問・問題点の抽出及び整理②	疑問・問題点の抽出及び整理2
18	疑問・問題点の抽出及び整理③	疑問・問題点の抽出及び整理3
19	実験計画①	実験計画1
20	実験計画②	実験計画2
21	実験の実施①	実験の実施1
22	実験の実施②	実験の実施2
23	実験の実施③	実験の実施3
24	実験結果に対する考察①	考察1
25	実験結果に対する考察②	考察2
26	実験結果に対する考察③	考察3
27	実験結果に対する考察④	考察とまとめ1
28	実験結果に対する考察⑤	考察とまとめ2
29	プレゼンテーション①	プレゼンテーション1
30	プレゼンテーション②	プレゼンテーション2

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	坂本 賢広				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること。論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30% 課題レポート70%

<教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修 彼末一之 編集 生理学 改訂第4版 南江堂

<参考書>

編者 赤間高雄 発行者 曾根良介 (2014年3月31日) はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】 (株)化学同人

編著者 藤本敏夫 大久保衛 発行者 前田茂 (2020年9月30日) やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 新スポーツ医学【改訂新版】 嵯峨野書院

著 Scott K. Powers Edward T. Howley (2020年8月25日発行 第1版第1刷) 日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I における年間の進行方法について
2	スポーツ医学とは	スポーツと医学について
3	スポーツ医学 (内科) とは	内科系スポーツ障害について
4	メディカルチェック	メディカルチェックの内容について
5	アスリートの健康管理	アスリートの健康管理体制について
6	スポーツ医学 (内科) (1)	循環器系および呼吸器系について
7	スポーツ医学 (内科) (2)	消化器系と腎・泌尿器系について
8	スポーツ医学 (内科) (3)	血液・免疫・アレルギーについて
9	スポーツ医学 (内科) (4)	内分泌代謝系について
10	スポーツ医学 (内科) (5)	熱中症について
11	測定と評価 (1)	心拍数について
12	測定と評価 (2)	乳酸について
13	測定と評価 (3)	酸化ストレスについて
14	まとめ	前半まとめ (1)
15	まとめ	前半まとめ (2)
16	スポーツ医学 (内科) (6)	スポーツ活動と疲労について
17	スポーツ医学 (内科) (7)	女性スポーツ医学について
18	スポーツ医学 (内科) (8)	スポーツ精神医学について
19	スポーツ医学 (内科) (9)	アンチドーピングについて
20	スポーツ医学 (内科) (10)	スポーツ活動による血液性状について
21	スポーツ医学 (内科) (11)	運動強度について
22	測定と評価 (4)	酸化ストレスおよび抗酸化力について
23	測定と評価 (5)	心拍数からみた運動強度について
24	測定と評価 (6)	運動負荷試験について
25	研究計画 (1)	研究計画 (1)
26	研究計画 (2)	研究計画 (2)

27	実験の実施	実験の実施
28	実験結果に対する考察 (1)	考察 (1)
29	実験結果に対する考察 (2)	考察 (2)
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション

科目コード	25206			区分	コア科目					
授業科目名	スポーツ栄養学実習				担当者名	保科 圭汰				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択	

<授業の概要>

スポーツ栄養学の知識を基に自身の食生活を適切に管理できるようになるための実践方法を学ぶ。また、脱水状態の把握や血糖値の変化など生理学的応答と栄養補給の関係を理解するとともに食事調査の手法を理解し栄養教育・栄養指導のスキルを習得する。

<授業の到達目標>

本講義では、スポーツ現場において用いられる食事調査やコンディション把握に関する測定を実践し、科学的根拠に基づいた栄養サポートについて知る。また、献立の立案や栄養指導について学び、自身の競技に向けたコンディショニングのみならず、指導者としての知識・スキルを身につけることを目標とする。

<授業の方法>

実習として授業テーマに基づいた測定やグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて栄養指導媒体の作成やプレゼンテーションを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として授業テーマに関連したキーワードについてインターネットや参考書等で調べ、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べること。（2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題提出 30%、最終レポート 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ栄養サポートの概念	スポーツ栄養学の概念、スポーツ栄養マネジメントとは
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義、方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事調査の分析
4	エネルギー消費量の算定①	要因加算法を用いたエネルギー消費量の算定
5	エネルギー消費量の算定②	各種エネルギー消費量の算定方法の原理、加速度計法によるエネルギー消費量の算定
6	身体組成の計測と増量・減量①	身体組成の原理、インピーダンス法による測定
7	身体組成の計測と増量・減量②	皮下脂肪厚法による測定、増量・減量の計画
8	生化学データと食事①	尿検査データの解釈、脱水状態の把握
9	生化学データと食事②	貧血に関わる指標と食事
10	生化学データと食事③	血糖値の変化と補食の関係
11	献立の立案と栄養計算①	献立の計画方法
12	献立の立案と栄養計算②	競技別の献立作成
13	献立の立案と栄養計算③	競技別の献立作成（発表、見直し）
14	献立の立案と栄養計算④	生活環境別の献立作成
15	献立の立案と栄養計算⑤	生活環境別の献立作成（発表、見直し）
16	栄養教育の方法	栄養教育と行動科学
17	栄養指導の計画①	行動計画の考え方
18	栄養指導の計画②	集団教育と個人教育
19	ジュニアアスリートへの食育①	ジュニアアスリートに対する食育の計画立案
20	ジュニアアスリートへの食育②	栄養指導媒体の作成
21	ジュニアアスリートへの食育③	ジュニアアスリートを対象とした食育の実践
22	期分けに応じた栄養指導①	期分けに応じた栄養指導の計画立案
23	期分けに応じた栄養指導②	栄養指導媒体の作成
24	期分けに応じた栄養指導③	期分けに応じた栄養指導の実践
25	目的別の栄養指導①	目的別の栄養指導の計画立案
26	目的別の栄養指導②	栄養指導媒体の作成
27	目的別の栄養指導③	目的別の栄養指導の実践
28	補食の立案	運動後に適した補食の立案
29	補食の作成	立案した補食の作成
30	まとめ	本授業のまとめ

科目コード	55007			区分	キャリア形成科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	佐藤 典子				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。3年次前期では、ポジティブ心理学に基づいたコーチングについて学ぶことで、人生の生き方の指針を得る。その他に時事問題についてプレゼンしたり、リーダーシップ論について学ぶ。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年次は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、プレゼンテーションの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な参加態度 60%、発表スキル 20%、提出物20% - 発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

ロバート・ビスワス・ディーナー2021年3月4日第2刷発行 ポジティブ・コーチングの教科書 - 成長を約束するツールとストラテジー 草思社

<参考書>

適宜指定する

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業概要、年間の目標設定、チーム作り
2	ポジティブコーチングとは①	テキストの理解と演習
3	リーダーシップ理論と応用①	リーダーとマネジャーの違い、ファロアシップとの関連性
4	時事問題①	時事経済・経営トピックを選び、プレゼンテーションとディスカッション
5	ポジティブコーチング②	テキスト第2章 強みを活かして成長する
6	リーダーシップ理論と応用②	状況対応リーダーシップとは (Situational Leadership)
7	時事問題②	時事経済・経営トピックを選び、プレゼンテーションとディスカッション
8	中間振り返り	ここまでの総括と目標とのすり合わせ、授業の軌道修正
9	ポジティブコーチング③	テキスト第3章 ポジティブ性の力を利用する 幸福は流動資産である
10	リーダーシップ・スタイル理論と応用③	EI（感情知性）について学び、効果的なリーダーシップスタイルを理解する
11	時事問題③	時事経済・経営トピックを選び、プレゼンテーションとディスカッション
12	コーチング・デモンストレーション	コーチングスキルとマインドセットを具現化する
13	リーダーシップとコーチング	企業のリーダーがコーチング能力を必要とするのはなぜか
14	タイムマネジメントとエネルギーマネジメント	時間の有効活用をエネルギーマネジメントの観点から考察して、具体的アクションにつなげる
15	総括と計画	前期のまとめと夏休みの計画を立てる
16	チーム作りと目標設定	各自後期の目標設定
17	ポジティブコーチング ④	テキスト第4章 目標と未来への希望
18	ポジティブコーチング ⑤	テキスト第5章 ポジティブな特性を理解する
19	業界研究 ①	前期の学びから希望業種・職種を選択、発表
20	業界研究 ②	前期の学びから希望業種・職種を選択、発表
21	業界研究 ③	前期の学びから希望業種・職種を選択、発表
22	中間振り返り	ここまでの総括と目標とのすり合わせ、授業の軌道修正
23	研究活動	「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを決めて各自が研究する

24	研究活動	「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていかを決めて各自が研究する
25	研究活動	「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていかを決めて各自が研究する
26	研究活動発表	成果を発表してフィードバックを受ける
27	研究活動発表	成果を発表してフィードバックを受ける
28	研究活動発表	成果を発表してフィードバックを受ける
29	1年の振り返り	学びの統合と個人目標との照らし合わせ
30	今後の計画	4年生になったときの達成目標、卒論・ゼミ論の決定など

科目コード	25305				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツアナリティクス実習				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、様々な競技でデータの活用が進んでおり、スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ、スポーツ統計とも呼ばれており、データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では、スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

<授業の方法>

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	映像技術（1）	競技場面を撮影する際の基本知識・技術
3	映像技術（2）	映像撮影に必要とされる機器について
4	映像技術（3）	アプリ・タブレット端末等を用いた撮影技術
5	情報技術（1）	データアーカイブ
6	情報技術（2）	ネットワークを用いた即時フィードバック
7	情報技術（3）	特殊環境でのネットワーク活用
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し、分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し、分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し、分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し、分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
13	動作分析（6）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
14	ゲーム分析（1）	ゲーム分析のねらいと方法
15	ゲーム分析（2）	ベースボール型スポーツにおける実践①
16	ゲーム分析（3）	ベースボール型スポーツにおける実践②
17	ゲーム分析（4）	ベースボール型スポーツにおけるゲーム分析実践
18	ゲーム分析（5）	ネット型スポーツにおける実践①
19	ゲーム分析（6）	ネット型スポーツにおける実践②
20	ゲーム分析（7）	ネット型スポーツにおけるゲーム分析実践
21	ゲーム分析（8）	ゴール型スポーツにおける実践①
22	ゲーム分析（9）	ゴール型スポーツにおける実践②
23	ゲーム分析（10）	ゴール型スポーツにおけるゲーム分析実践
24	ゲーム分析（11）	武道における実践①
25	ゲーム分析（12）	武道における実践②
26	ゲーム分析（13）	武道における試合分析
27	ゲーム分析（14）	ダンス系スポーツにおける実践①

28	ゲーム分析 (15)	ダンス系スポーツにおける実践②
29	ゲーム分析 (16)	ダンス系スポーツにおける分析評価
30	ゲーム分析 (17)	まとめ

科目コード	35212				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツアナリティクスⅡ				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、様々な競技でデータの活用が進んでおり、スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ、スポーツ統計とも呼ばれており、データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では、スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

<授業の方法>

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	映像技術（1）	競技場面を撮影する際の基本知識・技術
3	映像技術（2）	映像撮影に必要とされる機器について
4	映像技術（3）	アプリ・タブレット端末等を用いた撮影技術
5	情報技術（1）	データアーカイブ
6	情報技術（2）	ネットワークを用いた即時フィードバック
7	情報技術（3）	特殊環境でのネットワーク活用
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し、分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し、分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し、分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し、分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
13	動作分析（6）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
14	ゲーム分析（1）	ゲーム分析のねらいと方法
15	ゲーム分析（2）	ベースボール型スポーツにおける実践①
16	ゲーム分析（3）	ベースボール型スポーツにおける実践②
17	ゲーム分析（4）	ベースボール型スポーツにおけるゲーム分析実践
18	ゲーム分析（5）	ネット型スポーツにおける実践①
19	ゲーム分析（6）	ネット型スポーツにおける実践②
20	ゲーム分析（7）	ネット型スポーツにおけるゲーム分析実践
21	ゲーム分析（8）	ゴール型スポーツにおける実践①
22	ゲーム分析（9）	ゴール型スポーツにおける実践②
23	ゲーム分析（10）	ゴール型スポーツにおけるゲーム分析実践
24	ゲーム分析（11）	武道における実践①
25	ゲーム分析（12）	武道における実践②
26	ゲーム分析（13）	武道における試合分析
27	ゲーム分析（14）	ダンス系スポーツにおける実践①

28	ゲーム分析 (15)	ダンス系スポーツにおける実践②
29	ゲーム分析 (16)	ダンス系スポーツにおける分析評価
30	ゲーム分析 (17)	まとめ

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

「AI (人工知能)」、「e-Learning」、「電子教科書」をキーワードとして、レポート (課題) 作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果 (レポートあるいは制作物) へと集約させる。

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習 (発表準備等) を1時間、復習 (内容の振り返り) を1時間程度を求める。

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

授業態度等 (関心・意欲・態度) 30%、レポート・課題の内容と到達度 (知識・理解) 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎 1	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献の読み方など)
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献のまとめ方など)
5	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表 (第1回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表 (第2回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表 (第3回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表 (第4回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表 (第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表 (第6回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表 (第7回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表 (第8回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表 (第9回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表 (第10回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導① 1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導② 1	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得する。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指します。PCを持参の上、臨んでください。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを身につける。2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につける。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進めます。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめます。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定します。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求めます。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・学習意欲 30%、先行研究レビューの進捗状況・改善30%、課題への取り組み40%

<教科書>

浦野研ほか はじめての英語教育研究 研究社

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献の読み方など)
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献の読み方など)
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表(第1回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表(第2回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表(第3回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表(第4回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表(第6回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表(第7回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表(第8回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表(第9回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表(第10回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導①2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導①3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導②5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、英語教育分野またはグローバル問題の分野について広く学び、自分の探究したいテーマを模索する。

<授業の到達目標>

1. 研究テーマを絞り込むことができる。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につける。

<授業の方法>

(1)講義（教員による解説と問いの提示） (2)グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3)ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4)省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進めます。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめます。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定します。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求めます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等 40%、レポート・課題の内容 60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献の読み方など)
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献の読み方など)
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表(第1回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表(第2回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表(第3回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表(第4回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導①2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導①3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
21	研究指導②3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
22	研究指導②4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
23	研究指導②5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
24	研究指導②6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
25	研究指導②7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
26	研究指導②8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
27	研究指導②9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
28	研究指導②10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
29	研究指導②11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	三堀 仁				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、社会人、とりわけ教職に就く人材を育成することを目的とする。学校現場では今即戦力が求められている。就職してすぐに指導者として活躍できるような実践力を学生の段階から身に付けることが必要である。高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けることができるように、演習等を中心とした授業を行う。

<授業の到達目標>

①教職につくための規範意識を身に付ける。②他者と協働して課題解決する力を身に付ける。③教師として必要な基本的な指導力を身に付ける。

<授業の方法>

講義及び演習の形態をとる。資料を事前に配付し、自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に与えられた課題に対する意見を持つ。また、自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40%）、課題提案内容・意見交換（30%）、レポート・提出物（30%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業づくりとは	授業づくりの必要性とポイント
2	授業づくりと学級経営①	学級目標の設定、学級経営案
3	授業づくりと学級経営②	学級担任がつくる安心の場、学級の雰囲気づくり
4	授業づくりと学級経営③	ほめ方、しかり方、居心地のよい環境づくり
5	児童理解と学級づくり①	児童理解の大切さ、日記指導
6	児童理解と学級づくり②	学年会の持ち方、保護者との信頼関係の構築
7	学級のルールづくり①	聞く・話す、授業準備、心構え
8	学級のルールづくり②	安全な生活、自立した学級
9	教材研究①	資料を教材化する、児童の実態から教材をつくる
10	教材研究②	教材研究を楽しむ
11	授業構想①	学習指導要領を押さえる、教材の価値から構想する
12	授業構想②	児童の経験から構想する、児童の意識の流れをつかむ
13	授業展開①	1時間の見通しを持つ、単元の導入
14	授業展開②	発問の仕方、音読・動作化
15	授業改善①	児童をよとる、授業分析
16	授業改善②	評価を指導に生かす、週案の活用
17	指導技術①	板書の仕方
18	指導技術②	ノート指導
19	指導技術③	話し合いのさせ方
20	指導技術④	新聞づくり
21	指導技術⑤	机間指導
22	指導技術⑥	振り返りカードの活用
23	指導技術⑦	個人差に応じた指導
24	研究論文に向けて①	個人研究論文のテーマ構想
25	研究論文に向けて②	研究仮説の設定
26	研究論文に向けて③	研究論文の組み立て
27	研究論文に向けて④	資料収集の仕方
28	研究論文に向けて⑤	研究論文概要の作成
29	授業の振り返り	1年間の反省と次年度へ向けての目標設定
30	授業のまとめ	1年間の授業のまとめ、今後への期待

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	高橋 章二				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育) から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育) から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー(聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力)を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート(課題)作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果(レポートあるいは制作物)へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習(発表準備等)を1時間、復習(内容の振り返り)を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度等(関心・意欲・態度)30%、ゼミレポート・最終レポート、到達度評価で(知識・理解)70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献の読み方など)
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献のまとめ方など)
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表(第1回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表(第2回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表(第3回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表(第4回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表(第6回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表(第7回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表(第8回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表(第9回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表(第10回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10

29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	林 栄昭				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミでは、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、特別支援教育・インクルーシブ教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、特別支援教育・インクルーシブ教育の視点から社会人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生の特別支援教育・インクルーシブ教育への興味・関心やテーマの具体性を高めるため、特別支援学校現場の視察や学習支援の内容、方法等に関する実地調査等の機会を設けるようにする。ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミレポート・最終レポート、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎 4	特別支援学校現場の視察
6	研究の基礎 5	特別支援学校現場での学習支援等に関する実地調査
7	研究の基礎 6	特別支援学校現場での学習支援等に関する実地調査
8	研究の基礎 7	特別支援学校現場での学習支援等に関する実地調査
9	研究の基礎 8	特別支援学校現場での視察及び実地調査のまとめ（結果資料の作成・発表・協議）
10	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9

28	研究指導②	10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション	10
29	研究指導②	11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション	11
30	研究のまとめ		研究成果の発表と総括	

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業（ゼミナール）では、将来様々の形で子どもとの教育と発育に関わるときに子どもの自主的な発問を促し、問題解決に導く能力を育成することを目的とする。特にICTの利活用能力は不可欠であり、そのスキルを活かし方を探求していく。ICTを理活用して子どもに問題解決能力を養育する方法を研究する。

<授業の到達目標>

子どもの自主的な探究心を育み科学的な解答を持ちながら導いていく。子どもに「なぜ」の疑問を持たせ考えさせ正しい推論と正しい解答、問題解決能力を持つ子どもを育てることに必要なことを探求できる能力を身につけていく。

<授業の方法>

・情報の収集から現代の状況把握と未来の予想を行う。・先行研究から知見を深める。・ICTを利活用した実践的な制作。（音楽・映像メディア、CG、DTP、WEB、GAME、etc）・ICTの利活用スキルの更なる習得と指導する能力を身に付ける。・子どもへの実践活動

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

30コマ（1コマ90分）は、課題の整理と成果発表の場であり、それ以外に課題発表準備や成果物の制作時間が必要である。個人差はあるが、120分相当の取り組みを要する。また、これ以外にフィールドワークとして実践活動（IPUこども園等へ出向いての活動等）の準備、実践、結果総括の時間が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個人レポート課題 40% グループワークへの貢献度 30%、フィールドワークへの貢献度 30%、

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミ目標、個人目標の設定
2	研究方法1-1（論文読み合わせ）	子どもとの教育と発育に関わるICTの課題について
3	研究方法1-2（内容考察）	先行研究のレビュー・発表
4	研究方法1-3（情報収集・検索）	それぞれの観点での発表準備
5	研究方法1-4（発表・フィードバック）	発表とフィードバック
6	研究方法2-1（ディスカッション）	ディスカッションの各パートのスキル
7	研究方法2-2（ディスカッション）	ディスカッションの各パートのスキル
8	制作活動1-1	コンテンツ制作
9	制作活動1-2	コンテンツ制作
10	研究方法3-1（ディスカッション）	コンテンツ制作のブラッシュアップ
11	研究方法3-2（ディスカッション）	コンテンツ制作のブラッシュアップ
12	研究方法4（研究方法）	研究計画の考察
13	制作活動2-1	コンテンツ制作
14	制作活動2-2	コンテンツ制作
15	研究方法5（発表・フィードバック）	発表とフィードバック
16	研究目的（プレゼンテーション）	課題を見つけ出し研究の目的を考える
17	研究テーマ	各自のテーマ発表と、グループワーク
18	研究方法ディスカッション	研究方法についてのグループワーク
19	先行研究調査	文献検索・情報収集
20	研究活動1	研究テーマの絞り込み（研究テーマと副題の決定）
21	研究活動2	コンテンツ制作
22	研究活動3	フィールドワーク（データ収集）
23	研究活動4	コンテンツ制作（ブラッシュアップ）
24	研究活動5	フィールドワーク（データ収集）
25	研究活動6	概論制作
26	研究活動7	発表とフィードバック
27	研究活動8	ディスカッション
28	研究成果まとめ1	本論制作
29	研究成果まとめ2	発表準備
30	研究成果発表	発表と口頭試問

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	酒井 健太郎				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「哲学」と聞いてどのようなことを思い浮かべるだろうか? 「難しい」?あるいは「役に立ちそうもない」?哲学についてしばしば提出されるこの2つの見解(もちろんこれらだけには限らないのだが)は、哲学の持つ特質に依拠している。すなわち、哲学はあらゆる学問の中でも一二を争うほど抽象的な思考能力を必要とするのである。この抽象性のゆえに、たしかに哲学の議論はしばしば「難解」であり、また「役に立ちそうもない」という印象を持たれるのであろう。しかし、哲学が抽象的な思考能力を必要とすることは、必ずしも、その対象とするトピック

<授業の到達目標>

①文献の内容を精確に読解できる②他者の意見を十全に理解することができる③自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。

<授業の方法>

文献の講読を行う。毎回1人の担当者を決めレジュメを切ってきてもらう。そのレジュメに基づき議論を行い、文献の内容についての理解を深めることを通じて哲学的思考力を養う。なお、使用する文献は参加者の興味関心に応じて初回の授業時に決定する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習:担当者がレジュメを切るための準備を行うのはもちろんであるが、担当者以外も文献を熟読し内容を理解したうえで質問等を考えておく。(1-2時間)事後学習:当日の議論の内容、その議論の結果さらに生じた疑問点などについて各自でまとめておく。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	哲学という学問についての解説、講読文献・担当者の決定
2	文献講読1	宇宙の始まりの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
3	文献講読2	宇宙の始まりの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献講読3	水槽の中の脳の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
5	文献講読4	水槽の中の脳の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読5	意識の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
7	文献講読6	意識の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	レポートの書き方講座(基礎)	成績評価に必要なレポートの執筆方法の基礎的な部分の解説
9	文献講読7	日常の中の推論の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
10	文献講読8	日常の中の推論の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読9	他者の痛みの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
12	文献講読10	他者の痛みの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読11	AIの思考の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
14	文献講読12	AIの思考の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
15	ゼミ前半のまとめ	ゼミ前半部の文献講読結果のまとめを教員を中心に参加者全員で行う
16	文献講読13	意味の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
17	文献講読14	意味の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
18	文献講読15	デザイナーペーパーの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
19	文献講読16	デザイナーペーパーの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
20	文献講読17	ジェンダーの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
21	文献講読18	ジェンダーの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
22	文献講読19	道徳と宗教の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
23	文献講読20	道徳と宗教の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
24	レポートの書き方講座(応用)	成績評価に必要なレポートの執筆方法の応用的な部分の解説
25	文献講読21	道徳と直観の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
26	文献講読22	道徳と直観の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
27	文献講読23	芸術の基準の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
28	文献講読24	芸術の基準の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
29	文献講読25	これまで行ってきた文献講読について獲得した知見を、担当者ごとに発表する

科目コード	55007				区分	コア			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	大久保 諒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、科学的な発達心理学の観点から、保育の実践に活かす研究（理論やデータ）について、その基本を学習する。より具体的には、次の4つの内容へ取り組む。① 保育の実践と科学的な発達心理学の研究のつながりを理解する。② 科学的な発達心理学の研究がどのように生み出されているか、第一歩目の部分を体験し、レポートにまとめる。③ 保育の実践に役立てられそうな研究知見について調べ、レジュメにまとめて発表する。④ 保育の実践の場へ赴き、保育の実践と科学的な発達心理学の研究のつながりについて実感を深める。

<授業の到達目標>

① 保育の実践と科学的な発達心理学の研究のつながりを説明できるようになる。③ 自分でデータを整理し、レポートにまとめて発表できるようになる。② 自分で研究資料を整理し、レジュメにまとめて発表できるようになる。

<授業の方法>

① 各回、教員の用意した研究資料について担当者がレジュメを作成・発表し、全員で議論を行う。② 教員の用意する研究資料は、いくつかのテーマに分かれている。テーマごとに類似の研究を全員で体験し、各自でレポートにまとめ、知見を深める。③ 研究資料に関するレジュメの制作・発表や、研究の実体験を通して学んだ内容について、保育の実践の場へ赴いて両者のつながりを実感することができるか確かめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に担当者は研究資料をレジュメにまとめる責任を負い、担当者以外も研究資料へ予め目を通しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分程度を要する。また、授業後には研究資料やレジュメの振り返り、実際に体験した研究についてレポートを書き進める課題へ取り組まなければならない。各回、これらの学習に60分程度を要する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論の貢献度：30%、レジュメ課題の成績：35%、レポート課題の成績：35%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

杉村伸一郎・坂田 陽子（編）（2004/4） 実験で学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版
 村上香奈・山崎浩一（編）（2018/3） よくわかる心理学実験実習 ミネルヴァ書房
 大出敦・直江健介（著）（2020/8） アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生のためのプレゼン上達術 慶応義塾大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの説明、研究資料の提示、役割分担
2	研究資料をレジュメにまとめる方法	研究資料の読み方、レジュメの作成の仕方、発表の仕方
3	研究と実践のつながり①	研究と実践の相互依存関係、ケース・スタディ
4	研究と実践のつながり②	現象の観察、不思議への気づき、理論とデータ、実践への応用
5	感情の発達に関する研究資料の検討①	恐怖や不安の発達に関する研究
6	感情の発達に関する研究資料の検討②	報酬的感情の発達に関する研究
7	保育の実践の場を体験する①	恐怖や不安、報酬的感情の役割を保育の実践の場面で確かめる
8	感情の発達に関する研究の体験①	報酬的感情の発達に関する研究を体験する
9	感情の発達に関する研究の体験②	研究データを整理・分析する
10	感情の発達に関する研究の体験③	研究をレポートとして発表する
11	感情の発達に関する研究資料の検討③	恐怖や不安、報酬的感情の問題の発達に関する研究
12	感情の発達に関する研究資料の検討④	アタッチメントの発達に関する研究
13	感情の発達に関する研究資料の検討⑤	アタッチメントの問題の発達に関する研究
14	保育の実践の場を体験する②	アタッチメントの役割を保育の実践の場で確かめる
15	前半のまとめ	前半の学習内容の振り返り、各研究テーマの関連性
16	認知の発達に関する研究資料の検討①	選択的注意の発達に関する研究
17	認知の発達に関する研究資料の検討②	抑制機能の発達に関する研究
18	認知の発達に関する研究資料の検討③	ワーキングメモリの発達に関する研究
19	認知の発達に関する研究資料の検討④	実行機能の問題の発達に関する研究
20	認知の発達に関する研究の体験①	抑制機能の発達に関する研究を体験し、研究データを整理・分析する
21	認知の発達に関する研究の体験②	研究をレポートとして発表する
22	保育の実践の場を体験する③	抑制機能の役割を保育の実践の場で確かめる
23	社会性の発達に関する研究資料の検討①	バイオロジカルモーションへの選好の発達に関する研究
24	社会性の発達に関する研究資料の検討②	社会的感染の発達に関する研究

25	社会性の発達に関する研究資料の検討③	共感性の発達に関する研究について
26	社会性の発達に関する研究資料の検討④	社会性の問題の発達に関する研究
27	社会性の発達に関する研究の体験①	社会的な選好の発達に関する研究を体験し、研究データを整理・分析する
28	社会性の発達に関する研究の体験②	研究をレポートとして発表する
29	保育の実践の場を体験する④	社会的な選好の役割を保育の実践の場で確かめる
30	後半のまとめ	後半の学習内容の振り返り、各研究テーマの関連性

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	小崎 遼介				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は保育内容健康分野についての探究を行う。社会人として求められる一般教養、知識、技能や態度を育成する。東岡山IPU子ども園との連携を通して、子どもの理解、保育實際を扱う。

<授業の到達目標>

1. 運動・健康・安全の視点から研究資料を収集し、要約やプレゼンテーションができる。2. 研究テーマを決めその計画を立案し、運動・安全をはじめとした領域「健康」について考察できる。

<授業の方法>

身体活動や運動能力といった測定などの体験をし、その前後に講義をする。測定したデータの発表とテーマにそったディスカッションを実施し、理解度や授業態度の確認を行う。教育現場での安全について学ぶ。また教育現場での安全教育、防災教育、応急処置などについて調査・検討を行う。学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する（予習1時間）。授業内のディスカッションの要点をまとめる（復習1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での発表 50%、レポート 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	身体計測①	様々な身体組成の測定方法について学ぶ。
3	身体計測②	身体組成の測定をし評価する。
4	体力測定①	身体組成に関連する体力を挙げ測定する。
5	身体組成と体力の関連①	平均値等を利用して身体組成データを分析する。
6	身体組成と体力の関連②	相関関係等を利用して身体組成と体力との関連を分析する。
7	防災教育1	大学の防災教育を考える。
8	防災教育2	実習先などの防災教育を考える。
9	安全教育	生活安全・交通安全・災害安全
10	応急処置	幼児教育現場での応急処置
11	心肺蘇生法	幼児教育現場での心肺蘇生法
12	身体活動量の評価①	身体活動量の測定方法を知り、安静時と運動時を実測する。
13	身体活動量の評価②	安静時及び運動時の身体活動量について考察する。
14	身体活動量の評価③	身体活動強度とエネルギー代謝との関連を理解する。
15	身体活動量の評価④	食事、身体組成、体力、身体活動との関連について理解する。
16	運動遊び	運動遊びの実態調査
17	幼児教育現場の健康	現代の健康課題について考える
18	保護者と健康	幼児教育現場での保護者と子どもを取り巻く健康について考える
19	特別な配慮	健康における特別な配慮が必要な場合について考える。
20	睡眠と健康	乳幼児の睡眠について考える
21	文献研究①	文献の探し方と読み方について学ぶ。
22	文献研究②	論文抄読をする。
23	文献研究④	論文抄読をする。
24	文献研究⑤	論文抄読をする。
25	文献研究⑥	論文抄読をする。
26	研究計画①	研究計画を作成について学ぶ。
27	研究計画②	研究計画を作成する。
28	研究計画③	研究計画を発表する。
29	研究計画④	研究計画の推敲をする。
30	まとめ	全体のまとめと今後の課題について考える

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	小堀 浩志				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は現代経営学科で学ぶ者の意識を啓発し、経営学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、経営学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 経営学・スポーツビジネスに関する調査・研究を通して、経営学・スポーツビジネスの専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、経営学・スポーツビジネスの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業態度：30%②課題提出・意見交換：50%③自主学習・積極性：20%

<教科書>

特になし

<参考書>

原田宗彦 スポーツ地域マネジメント 持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略 株式会社学芸出版社
 畑・小野里 基本・スポーツマネジメント 大修館書店
 坂下昭宣 経営学への招待〔第3版〕 株式会社白桃書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	経営学をベースとしたキャリア教育(1)	企業経営に向けた課題の探求
3	テーマ設定	現在の企業・組織経営または、スポーツビジネスに関する課題・問題を探る
4	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(2)	経営学に向けた講座(2)
5	課題発表(1)	1回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
6	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(3)	経営学・スポーツビジネスに向けた講座(3)
7	課題発表(2)	2回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
8	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(4)	経営学・スポーツビジネスに向けた講座(4)
9	課題発表(3)	3回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
10	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(5)	経営学・スポーツビジネスに向けた講座(5)
11	これまでのまとめ	3回の報告内容について総括し、現在の課題・問題について整理する。
12	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(6)	組織経営に向けた講座(1)
13	先行研究を調べる	整理された課題・問題をもとに、先行研究をレビューする。
14	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(7)	組織経営に向けた講座(2)
15	課題発表(4)	先行研究のレビューし、新たな視点を検討する(1)。
16	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(8)	組織経営に向けた講座(3)
17	課題発表(5)	先行研究のレビューをし、新たな視点を検討する(2)。
18	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(9)	組織経営に向けた講座(4)
19	課題発表(6)	先行研究のレビューをし、新たな視点を検討する(3)。

20	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(10)	組織経営に向けた講座(5)
21	研究テーマの選定(1)	これまでの課題発表をまとめ、研究テーマを設定する。
22	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	研究テーマの選定(2)	研究テーマの発表をし、今後の方向性について討議する。
24	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	研究方法の検討	研究テーマに沿った研究方法について討議する。
26	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	調査対象の検討	研究テーマに沿った調査対象について討議する。
28	経営学・スポーツビジネスをベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	研究計画の作成	テーマを設定し、具体的な研究研究を作成する。
30	全体のまとめ	ゼミナール I と総括と課題発表

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	SACKO Salif				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学のうちでも、学校体育や地域のスポーツを対象に基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとに学校体育や地域のスポーツについての課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ディスカッションへの参加態度 20%、先行研究に関わるレポート 30%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%提出物や発表内容に関するフィードバックは毎時間の授業内で実施する。

<教科書>

岡出美則, 松田恵示, 近藤智靖, 友添秀則編(2015) 体育科教育学の現在 創文企画

<参考書>

大谷尚(2019) 質的研究の考え方 名古屋大学出版会
高橋健夫編著(2003) 体育授業を観察評価する 明和出版
相原正道ほか(2020) 地域スポーツ論 晃洋書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育科教育学の現代的課題を知る	体育科教育に関する文献の精読(1)
3	体育科教育学の現代的課題を知る	体育科教育に関する文献の精読(2)
4	体育科教育学の現代的課題を知る	体育科教育に関する文献の精読(3)
5	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(1)
6	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(2)
7	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(3)
8	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(4)
9	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(5)
10	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(6)
11	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(1)
12	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(2)
13	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(3)
14	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(4)
15	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画立案
16	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(1)
17	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(2)
18	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(3)
19	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(4)

20	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (1)
21	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (2)
22	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (3)
23	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (4)
24	予備調査／実験	予備調査／実験を踏まえた研究計画の立案
25	研究計画の立案	研究計画書の作成 (1)
26	研究計画の立案	研究計画書の作成 (2)
27	研究計画の立案	研究計画書の作成 (3)
28	研究計画の立案	研究計画書の読み合わせと協力体制の整備 (1)
29	研究計画の立案	研究計画書の読み合わせと協力体制の整備 (2)
30	まとめ	ゼミナール I の総括と次年度の見通しについて

科目コード	40301				区 分	柔道整復学実技			
授業科目名	整復学実技V(下肢・固定法I)《連続》				担当者名	小玉 京士朗/坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技VIでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、治療手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義の事前課題（実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度））復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験90%、学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂
全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・包帯固定学 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の内容、評価方法、受講態度について
2	固定法	固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について
3	下肢における評価（1）	関節可動域、下肢長について
4	下肢における評価（2）	MMT、代償運動について
5	下肢における評価（3）	ケーススタディによる評価方法（代償運動と動作分析）について
6	大腿骨頸部骨折（1）	大腿骨頸部骨折における概要および整復法について
7	大腿骨頸部骨折（2）	大腿骨頸部骨折における固定法（クラーメル固定）について
8	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における概要と整復法について
9	股関節脱臼（2）	股関節脱臼における固定法（クラーメル固定）について
10	大腿骨骨幹部骨折（1）	大腿骨骨幹部骨折における概要と整復法について
11	大腿骨骨幹部骨折（2）	大腿骨骨幹部骨折における固定法について
12	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折における概要と整復法について
13	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼における概要と整復法について
14	膝蓋骨疾患の処置	膝蓋骨骨折および膝蓋骨脱臼における固定法について
15	下腿骨骨折（1）	下腿骨骨折における概要について
16	下腿骨骨折（2）	下腿骨骨折における整復法、固定法（クラーメル固定）について
17	下腿骨骨折（3）	下腿骨骨折における整復法、固定法（ギプス固定）について
18	下肢外傷の応急処置（1）	下肢外傷の応急処置（救急搬送固定）
19	下肢外傷の応急処置（2）	下肢外傷の応急処置（循環、神経学的所見の確認）
20	下肢外傷における評価（1）	関節可動域訓練と可動域について
21	下肢外傷における評価（2）	アライメントとマルアライメントについて
22	下肢外傷における評価（3）	筋周径と運動療法について
23	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（1））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
24	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（2））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について
25	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（3））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（視診から鑑別疾患、対処法の指示）について

26	ケーススタディ(膝関節周囲の運動器疾患 (1))	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価(画像評価)について
27	ケーススタディ(膝関節周囲の運動器疾患 (2))	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価(理学所見)と治療指針について
28	ケーススタディ(膝関節周囲の運動器疾患 (3))	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価(視診から鑑別疾患、対処法の指示)について
29	総復習(1)	大腿骨頸部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の評価、整復法について
30	総復習(2)	大腿骨骨幹部骨折、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼、下腿骨骨折および評価、整復法について

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	中島 治彦				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方及び自己紹介
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	アスリートのコンディショニングに関する情報(1)	研究テーマ及び文献収集方法の紹介
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	アスリートのコンディショニングに関する情報(2)	研究テーマ及び文献収集方法の紹介
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	アスリートのコンディショニングに関する情報(3)	収集した文献の発表及び内容の検討
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	アスリートのコンディショニングに関する情報(4)	収集した文献の発表及び内容の検討
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	アスリートのコンディショニングに関する情報(5)	収集した文献の発表及び内容の検討
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	アスリートのコンディショニングに関する情報(6)	収集した文献の発表及び内容の検討
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	アスリートのコンディショニングに関する情報(7)	収集した文献の発表及び内容の検討

16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	アスリートのコンディショニングに関する情報(8)	収集した文献の発表及び内容の検討
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座4)
19	アスリートのコンディショニングに関する情報(9)	収集した文献の発表及び内容の検討
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	アスリートのコンディショニングに関する情報(10)	収集した文献の発表及び内容の検討
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	アスリートのコンディショニングに関する情報(11)	課題研究テーマの策定
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	アスリートのコンディショニングに関する情報(12)	課題研究テーマの策定
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	アスリートのコンディショニングに関する情報(13)	課題研究テーマの策定
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	アスリートのコンディショニングに関する情報(14)	課題研究テーマの策定
30	全体のまとめ	ゼミナールIと総括と課題発表

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。後期は主にゼミ論文作成に向けた準備を行っていく。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題（ゼミ論文に向けた準備度合い）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習①	コンディショニングとは 要因 グループワーク
4	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習②	運動能力・フィジカルパフォーマンスとは フィジカル・体力とは 要因
5	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習③	怪我とは 怪我予防のための要因
6	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの階層
7	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑤	競技スポーツのパフォーマンスとは
8	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑥	競技スポーツのフィジカルパフォーマンスとは
9	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑦	リハビリ、リコンディショニングの階層
10	フィジカル測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	フィジカル測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	フィジカル測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	フィジカル測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	フィジカル測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り

26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30	全体のまとめ	ゼミナール I の統括と課題

科目コード	55007			区 分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	明石 啓太				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、トレーニングやバイオメカニクスにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。また、バイオメカニクスの分析手法を用いて、動作を測定する技術の習得、科学的データを読み解く能力を育成する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

<授業の方法>

文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。※トレーニングやバイオメカニクス、または自分の専門分野に関する文献研究を1週間で1本行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。※文献研究発表および課題研究発表について、適時教員からフィードバック

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	バイオメカニクス領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読（バイオメカニクス）
6	文献研究④	論文抄読（バイオメカニクス）
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	走種目の動作測定
17	データ分析①	走種目の動作分析
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳種目の動作測定
20	データ分析②	跳種目の動作分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	投種目の動作測定
23	データ分析③	投種目の動作分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29	課題研究	研究計画の作成(4)
30	課題研究発表	研究計画の発表

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業態度：30%②課題提出・意見交換：50%③自主学習・積極性：20%

<教科書>

特になし

<参考書>

松橋・高岡 スポーツまちづくりの教科書 青弓社
畑・小野里 基本・スポーツマネジメント 大修館書店
柳沢・木村・清水 テキスト 体育・スポーツ経営学 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	テーマ設定	現在の体育・スポーツに関する課題・問題を探る
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	課題発表(1)	1回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	課題発表(2)	2回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	課題発表(3)	3回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	これまでのまとめ	3回の報告内容について総括し、現在の課題・問題について整理する。
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	先行研究を調べる	整理された課題・問題をもとに、先行研究をレビューする。
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	課題発表(4)	先行研究のレビューし、新たな視点を検討する(1)。
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	課題発表(5)	先行研究のレビューをし、新たな視点を検討する(2)。
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座(4)

19	課題発表(6)	先行研究のレビューをし、新たな視点を検討する(3).
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	研究テーマの選定(1)	これまでの課題発表をまとめ、研究テーマを設定する.
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	研究テーマの選定(2)	研究テーマの発表をし、今後の方向性について討議する.
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	研究方法の検討	研究テーマに沿った研究方法について討議する.
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	調査対象の検討	研究テーマに沿った調査対象について討議する.
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	研究計画の作成	テーマを設定し、具体的な研究研究を作成する.
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠと総括と課題発表

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	田中 耕作			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、運動生理学やトレーニングにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。

<授業の到達目標>

本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

<授業の方法>

文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	トレーニング科学領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読
6	文献研究④	論文抄読
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	最大酸素摂取量の測定
17	データ分析①	ランニングエコノミーおよび乳酸性作業閾値の測定
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳躍能力の測定
20	データ分析②	跳躍能力における測定結果の分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	無酸素性作業能力の測定
23	データ分析③	無酸素性作業能力における測定結果の分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29	課題研究	研究計画の作成(4)
30	課題研究発表	研究計画の発表

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	十河 直太				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。これらを修得し、ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	スポーツ科学とは	スポーツ科学を勉強する意義を考える。
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	スポーツ科学センターの見学	スポーツ科学の研究施設を見学し、研究とは何かを学ぶ。
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	研究についてのディスカッション	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	論文抄読1	興味を持った論文を読み、発表する。
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	論文抄読2	味を持った論文を読み、発表する。
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	実験機器を用いた測定1	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	実験機器を用いた測定2	スポーツ科学センターの実験機器を用いて測定法を学ぶ。
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	データ処理	測定データの処理法を学ぶ。
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座(4)
19	研究テーマを探る1	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。

20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	研究テーマを探る 2	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	研究計画を寝る	研究を実施するための計画を立てる。
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	実験・測定	実験または測定を行う。
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	測定結果のデータ処理・まとめ 1	研究成果をまとめる。
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	測定結果のデータ処理・まとめ 2	パワーポイントで発表用のスライドを作成する。
30	全体のまとめ	ゼミナール I と総括と課題発表

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールは3年次段階で実施することから、日本語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究 (1)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究 (2)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究 (3)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究 (4)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究 (5)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究 (6)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究 (7)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究 (8)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究 (9)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究 (10)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究 (11)	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習 (1)	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。
14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。

21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30	課題研究のまとめ (3)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	佐々木 史之				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

Googleクラスルームを用いて、課題の提出をするとともに、対面またはオンラインで、作成したレジュメを発表してもらい、発表した内容について全員で討論を行い、知識を深めていく。さらに研究に必要な基礎的知識を身につけ、体験や実践を取り入れていく。授業形態については、対面かオンラインかを事前に連絡して実施する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への取り組み50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング指導教本(三訂版) 大修館書店

日本スポーツ心理学会 スポーツ心理学事典 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究について	研究の種類や方法を理解し、研究テーマを考える
3	論文紹介	論文の構成内容を理解する
4	論文検索	論文の検索方法を理解し、興味ある分野の論文を調べる
5	研究テーマの探求	多くの論文を閲覧し、研究テーマを探求する
6	レジュメの書き方	検索した論文内容のまとめ方を理解する
7	先行研究の読解・レジュメ作成1	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
8	先行研究発表①	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
9	先行研究発表②	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
10	先行研究の読解・レジュメ作成2	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
11	先行研究発表③	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
12	先行研究発表④	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
13	先行研究の読解・レジュメ作成3	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
14	先行研究発表⑤	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
15	先行研究発表⑥	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
16	これまでの振り返りと今後の展望	これまでの研究活動を振り返り、今後の研究の方向性を検討する
17	心理技法	リラクゼーショントレーニング、イメージトレーニングについて学び、実践する
18	思い込み、観念運動体験	人間の思い込みについて学び、シュブリエルの振り子を用いて観念運動を体験する
19	心理検査法1	性格、不安等に関する心理検査について学び、実践する
20	心理検査法2	気分、ストレス等に関する心理検査について学び、実践する
21	心理検査レジュメ作成	研究で使用したい、または興味のある心理検査について調べ、レジュメを作成する
22	心理検査レジュメ発表	心理検査レジュメを発表し、共有する
23	図書館での文献探し	本学附属図書館にて文献を探し、資料収集をする
24	図書文献レジュメ作成	図書館で得られた資料をまとめ、レジュメを作成する
25	図書文献レジュメ発表①	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
26	図書文献レジュメ発表②	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
27	Googleフォームの活用	Googleフォームについて学び、実際にアンケートを作り、実践する
28	アンケート集計作業	アンケート集計方法について学び、実践する
29	統計	研究に必要な統計について学び、実践する

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	清田 美紀				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、体育科教育学やスポーツ教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。2. 体育科教育、体育・スポーツ社会学の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。3. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：発表準備のレジュメ、プレゼン等（1時間程度）復習：発表内容の省察、修正（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

知識的領域50%については、自身が興味・関心をもった内容について、情報を収集し、整理した内容の理解に基づいて、自身の考えを深めること。レポートによる。態度的領域30%については、積極的な取り組み態度、出席状況。技能的領域20%については、情報収集・整理し、まとめた研究成果を発表する際のスキルを主に評価する。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献の読み方など)
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(文献のまとめ方など)
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表(第1回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表(第2回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表(第3回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表(第4回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表(第5回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表(第6回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表(第7回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表(第8回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表(第9回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表(第10回目) / 研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①(筋力・パワー)
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②(スピード・アジリティ)
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③(持久力)
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30	全体のまとめ	ゼミナール I の統括と課題

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	白石 翔				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、体育科教育学、体育・スポーツ社会学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、体育科教育、体育・スポーツ社会学の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：発表準備のレジュメ、プレゼン等（1時間程度） 復習：発表内容の省察、修正（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文に関するレポート・課題の内容 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	平田 佳弘				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

剣道指導論、武道指導論に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

全国教育系大学剣道連盟(2004年9月1日) 教育剣道の科学 (株)大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と授業の進め方、準備物、評価方法について
2	体育・スポーツ科学研究とは何かを知る。	「研究とは? 体育学とは? スポーツ科学研究とは?」について調べ、自分の興味関心のある分野を探していく。
3	自分の研究テーマを決定していくための情報のつかみ方を知る。	図書館の使い方、論文検索サイトや使用方法を知り、興味のある論文を探して内容を理解していく方法を学ぶ。
4	体育・スポーツに関する最新情報(1)	各自の興味・関心に基づく文献、論文を探して、熟読し理解する。
5	体育・スポーツに関する最新情報(2)	各自の興味関心に基づく文献・論文等の内容を発表し、内容について、ゼミ学生、指導教員ともに全員で協議、検討する。
6	体育・スポーツに関する最新情報(3)	各自の興味関心に基づく文献・論文等の内容を発表し、内容について、ゼミ学生、指導教員ともに全員で協議、検討する。
7	体育・スポーツに関する最新情報(4)	各自の興味関心に基づく文献・論文等の内容を発表し、内容について、ゼミ学生、指導教員ともに全員で協議、検討する。
8	武道に関する最新情報(1)	武道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
9	武道に関する最新情報(2)	武道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
10	武道に関する最新情報(3)	武道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
11	武道に関する最新情報(4)	武道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
12	剣道に関する最新情報(1)	剣道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
13	剣道に関する最新情報(2)	剣道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
14	剣道に関する最新情報(3)	剣道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
15	剣道に関する最新情報(4)	剣道に関する各自の興味関心のある文献を探し、まとめ、発表し、ディスカッションしていく。
16	剣道の歴史と文化について知る。	剣術流派の発生、防具の発明、剣術の競技化等、剣道の歴史について調査し(グルー

17	剣道の思想・原理について知る。	ブワーク)、発表し、ディスカッションする。 武の精神誌、武道的身体知、剣道の「一本」と「機」、「事理一致」、「残心」等について調査し(グループワーク)、発表、ディスカッションする。
18	日本古来の伝統文化とヨーロッパ文化を比較検討していく。	日本古来の伝統文化「武士・剣術」「剣道」とヨーロッパの文化「騎士」「騎士道」を比較して、共通点や相違点は何か、文化を比較検討していく。
19	剣道の運動と技術について理解する。(1)	剣士の体力(パワー、敏捷性、姿勢、骨密度等)、剣道運動(生体負荷、障害事例、移動分布、足さばき等)、剣道動作(構えの体重配分、面打撃動作解析、打撃力等)について調査し、発表、ディスカッションする。
20	剣道の運動と技術について理解する。(2)	剣士の体力(パワー、敏捷性、姿勢、骨密度等)、剣道運動(生体負荷、障害事例、移動分布、足さばき等)、剣道動作(構えの体重配分、面打撃動作解析、打撃力等)について調査し、発表、ディスカッションする。
21	剣道の指導と評価について知る。(1)	年齢に応じた剣道指導、剣道の観察学習の在り方、剣道授業における教材づくり等を調査し、実践する。
22	剣道の指導と評価について知る。(2)	剣道稽古法(形による稽古法、打ち込み稽古、掛かり稽古、日本の学習方法等)、剣道授業評価法(新学習指導要領に基づいた評価、スキル評価、審判法)について調査し、発表し、ディスカッションする。
23	ゼミ論文作成について知る。	論文とは何か、レポートとの違いは何かを理解し、論文作成のための計画を練り、発表し合う。
24	ゼミ論文の研究テーマを決める。	各自の「剣道に関する」研究テーマを決め、研究計画を作成し、仮説がどのような方法であれば立証されるか、についてゼミで全体ディスカッションを行う。
25	ゼミ論文についての個別指導(1)	ゼミ論文の内容、構成、体裁等の指導
26	ゼミ論文についての個別指導(2)	ゼミ論文の内容、構成、体裁等の指導
27	ゼミ論文についての個別指導(3)	ゼミ論文の内容、構成、体裁等の指導
28	ゼミ論文についての個別指導(4)	ゼミ論文の内容、構成、体裁等の指導
29	ゼミ内でのゼミ論文発表会	定期試験を兼ねた発表会(自己評価、他者評価)
30	全体のまとめ	ゼミナールIと総括と課題発表

科目コード	55007			区 分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	片桐 夏海				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、社会人としての適性や課題を見極め、課題解決への糸口を見出すことにある。本科目は、2つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学（特に担当教員専門の専門である体育・スポーツ社会学）をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした学習。②社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する学習。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。①自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。②体育・スポーツに関する専門的な研究領域に触れ、体育・スポーツに携わる専門家として必要な思考法や身体性を学び身に付ける。③自らの学習経験を自省的に考察し、課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

受講者の興味関心に基づいた研究発表のプレゼンテーションと、全体でのディスカッションを中心に行なう。その他、受講生の興味関心に沿って、学術論文や学術書の輪読を行う。必要に応じて、現場実習を交えフィードバックを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各自の研究関心に基づいた発表（40%）、ディスカッションへの参加と貢献（30%）、レポート課題（30%）

<教科書>

特になし

<参考書>

ピエール・ブルデュー（石崎晴己訳）1991/12/30 構造と実践 藤原書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	自分史を書く	スポーツ歴を中心軸に、自分史を作成する。自らを題材に人生観を展望するきっかけにする。
3	自分史（発表）①	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
4	自分史（発表）②	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
5	P.ブルデュー「スポーツ社会学のための計画表」『構造と実践』pp280-287.を読む	「スポーツ社会学」という学問の性質をブルデューから学ぶ。
6	自分の関心に沿った論文・資料の探し方、テーマ設定の仕方	キーワードの設定、検索方法、概略の把握など、資料検索について学ぶ。
7	論文紹介（発表）①	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
8	論文紹介（発表）②	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
9	論文紹介（発表）③	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
10	論文紹介（発表）④	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
11	論文紹介（発表）⑤	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。全体を通しての討論
12	ゼミとしてのテーマ設定	受講者の興味関心を総合し、共通するテーマや議論の土台を確認し、全体で読み進めるべき書籍を選定する。
13	輪読・発表①	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
14	輪読・発表②	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
15	前期総括（ふりかえり）	前期の取り組みについてふりかえり、改善点や取り組むべき課題を再確認する。
16	輪読・発表③	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
17	輪読・発表④	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
18	輪読・発表⑤	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。

19	総合討論	る。 これまでの議論をふりかえり、いくつかのテーマに絞って討議を行い、より理解を深める。
20	論文の書き方①	論文の構成と種類について
21	論文の書き方②	問題関心の確認とテーマの設定、研究の意義について
22	論文の書き方③	先行研究の検討、研究方法、議論の土台の設定の仕方について
23	論文の書き方④	データの収集、調査の方法について
24	論文の書き方⑤	データの読み方、提示の仕方、データから導き出せる事実について
25	研究計画の立案、検討	各自の関心に沿って研究計画を立案してみる。
26	論文指導①	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
27	論文指導②	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
28	論文指導③	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
29	論文指導④	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
30	全体のふりかえり、まとめ	1年間を振り返り、軌跡を確認し、次年度へ向けた準備、課題を確認する。

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)			担当者名	伊藤 三千雄				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4. ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究(1)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読(1)
4	体育・運動学の研究(2)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読(2)
5	体育・運動学の研究(3)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読(3)
6	研究テーマ(仮)の設定(1)	各自が関心を持った研究テーマの発表(1)
7	研究テーマ(仮)の設定(2)	各自が関心を持った研究テーマの発表(2)
8	研究テーマに沿った文献研究(1)	先行研究の要約と発表(1)
9	研究テーマに沿った文献研究(2)	先行研究の要約と発表(2)
10	研究テーマに沿った文献研究(3)	先行研究の要約と発表(3)
11	研究テーマに沿った文献研究(4)	先行研究の要約と発表(4)
12	研究テーマに沿った文献研究(5)	先行研究の要約と発表(5)
13	研究テーマに沿った文献研究(6)	先行研究の要約と発表(6)
14	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
15	中間まとめ	前期の総括と夏季休暇中の課題設定
16	研究の方法(1)	予備調査に向けた方法論の検討(1)
17	研究の方法(2)	予備調査に向けた方法論の検討(2)
18	研究の方法(3)	予備調査に向けた方法論の検討(3)
19	研究の方法(4)	予備調査に向けた方法論の検討(4)
20	予備調査(1)	調査・データ収集の実施(1)
21	予備調査(2)	調査・データ収集の実施(2)
22	予備調査(3)	調査・データ収集の実施(3)
23	予備調査(4)	結果の発表及び改善点についての討議(1)
24	予備調査(5)	結果の発表及び改善点についての討議(2)
25	予備調査(6)	結果の発表及び改善点についての討議(3)
26	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
27	研究計画の立案(1)	研究計画書の作成と発表(1)
28	研究計画の立案(2)	研究計画書の作成と発表(2)

29	研究計画の立案（3）	研究計画書の作成と発表（3）
30	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理

科目コード	25304			区分	コア科目				
授業科目名	運動生理学実習			担当者名	十河 直太／眞鍋 芳江／伊藤 三千雄／吉岡 利貢				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、主に健康増進、生活習慣病の予防のために、運動を実際の生活に取り入れる場合に必要な基礎知識、測定や評価を理解し修得することを目的とする。これまでに「生理学」「運動生理学（基礎）」「トレーニング演習」「栄養学」「運動学」等にて学習した内容をもとに、身体運動に伴って生じる各器官（運動器系、神経-筋骨格系、呼吸器系、循環器系）の生理反応や身体機能について測定・評価を行う。実習を通じて、身近な生理現象から運動生理学について理解を深める。なお、競技力向上のための運動生理学については、「体力学実習」の授業に

<授業の到達目標>

各種測定機器を用いて、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能を測定・評価することができる。得られたデータについて論理的に考察し、レポートにまとめることができる。実習を通じ、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能について理論を理解し、実践に繋げることができる。

<授業の方法>

本授業は、複数の教員が担当するオムニバス授業である。テーマに沿った内容を電子資料やパワーポイント等を用いて解説するとともに、テーマについてディスカッション、グループワークを行う。小テストやレポート課題はGoogle classroomを用いて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、測定結果の考察やレポート課題 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	各種測定と評価（1）	エネルギー代謝からみた競技・健康づくり
3	各種測定と評価（2）	乳酸測定1（LT測定）
4	各種測定と評価（3）	乳酸測定2（クーリングダウンの効果）
5	各種測定と評価（4）	乳酸測定データの分析と考察、まとめ
6	各種測定と評価（5）	身体組成と運動による変化
7	各種測定と評価（6）	運動と血圧応答
8	各種測定と評価（7）	運動と血液の役割、データ分析と考察、まとめ
9	各種測定と評価（8）	運動時の呼吸循環系応答：最大酸素摂取量の測定実習
10	各種測定と評価（9）	最大酸素摂取量の評価
11	各種測定と評価（10）	呼吸循環系応答の測定データの分析と考察
12	各種測定と評価（11）	身体組成と必要栄養素量①（糖質）
13	各種測定と評価（12）	身体組成と必要栄養素量②（脂質）
14	各種測定と評価（13）	身体組成と必要栄養素量②（脂質）
15	各種測定と評価（14）	前期のまとめ・振り返り
16	各種測定と評価（15）	骨粗鬆症と運動の効果
17	各種測定と評価（16）	運動時の呼吸循環系応答①：最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
18	各種測定と評価（17）	運動時の呼吸循環系応答①の測定データ分析と評価
19	各種測定と評価（18）	運動時の呼吸循環系応答①の測定データ分析と評価
20	各種測定と評価（19）	運動時の呼吸循環系応答②：暑熱環境下における最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
21	各種測定と評価（20）	運動時の呼吸循環系応答②の測定データ分析と評価
22	各種測定と評価（21）	心電図について
23	各種測定と評価（22）	心電図の評価
24	各種測定と評価（23）	運動と加齢
25	各種測定と評価（24）	運動と脳機能の関係、まとめ

26	各種測定と評価（25）	身体組成と必要栄養素量④（ビタミン）
27	各種測定と評価（26）	身体組成と必要栄養素量⑤（ミネラル）
28	各種測定と評価（27）	身体組成と必要栄養素量⑥（食物繊維・水）
29	各種測定と評価（28）	身体組成と必要栄養素量⑦
30	各種測定と評価（29）	後期のまとめ・振り返り

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	浦 佑大				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

Googleクラスルームを用いて、課題の提出をするとともに、対面またはオンラインで、作成したレジュメを発表してもらい、発表した内容について全員で討論を行い、知識を深めていく。さらに研究に必要な基礎的知識を身につけ、体験や実践を取り入れていく。授業形態については、対面かオンラインかを事前に連絡して実施する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への取り組み50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング指導教本(三訂版) 大修館書店

日本スポーツ心理学会 スポーツ心理学事典 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究について	研究の種類や方法を理解し、研究テーマを考える
3	論文紹介	論文の構成内容を理解する
4	論文検索	論文の検索方法を理解し、興味ある分野の論文を調べる
5	研究テーマの探求	多くの論文を閲覧し、研究テーマを探求する
6	レジュメの書き方	検索した論文内容のまとめ方を理解する
7	先行研究の読解・レジュメ作成1	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
8	先行研究発表①	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
9	先行研究発表②	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
10	先行研究の読解・レジュメ作成2	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
11	先行研究発表③	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
12	先行研究発表④	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
13	先行研究の読解・レジュメ作成3	研究テーマに関する内容の論文を熟読し、レジュメを作成する
14	先行研究発表⑤	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
15	先行研究発表⑥	作成した先行研究レジュメを、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
16	これまでの振り返りと今後の展望	これまでの研究活動を振り返り、今後の研究の方向性を検討する
17	心理技法	リラクゼーショントレーニング、イメージトレーニングについて学び、実践する
18	思い込み、観念運動体験	人間の思い込みについて学び、シュブリエルの振り子を用いて観念運動を体験する
19	心理検査法1	性格、不安等に関する心理検査について学び、実践する
20	心理検査法2	気分、ストレス等に関する心理検査について学び、実践する
21	心理検査レジュメ作成	研究で使用したい、または興味のある心理検査について調べ、レジュメを作成する
22	心理検査レジュメ発表	心理検査レジュメを発表し、共有する
23	図書館での文献探し	本学附属図書館にて文献を探し、資料収集をする
24	図書文献レジュメ作成	図書館で得られた資料をまとめ、レジュメを作成する
25	図書文献レジュメ発表①	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
26	図書文献レジュメ発表②	調べた図書文献の内容を、メンバーの半分が発表し、全員で討論する
27	Googleフォームの活用	Googleフォームについて学び、実際にアンケートを作り、実践する
28	アンケート集計作業	アンケート集計方法について学び、実践する
29	統計	研究に必要な統計について学び、実践する

科目コード	55007				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	柴山 慧			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学のうちでも、学校体育や地域のスポーツを対象に基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとに学校体育や地域のスポーツについての課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ディスカッションへの参加態度 20%、先行研究に関わるレポート 30%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%提出物や発表内容に関するフィードバックは毎時間の授業内で実施する。

<教科書>

岡出美則, 松田恵示, 近藤智靖, 友添秀則編(2015) 体育科教育学の現在 創文企画

<参考書>

大谷尚(2019) 質的研究の考え方 名古屋大学出版会
高橋健夫編著(2003) 体育授業を観察評価する 明和出版
相原正道ほか(2020) 地域スポーツ論 晃洋書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育科教育学の現代的課題を知る	体育科教育に関する文献の精読(1)
3	体育科教育学の現代的課題を知る	体育科教育に関する文献の精読(2)
4	体育科教育学の現代的課題を知る	体育科教育に関する文献の精読(3)
5	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(1)
6	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(2)
7	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(3)
8	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(4)
9	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(5)
10	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表(6)
11	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(1)
12	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(2)
13	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(3)
14	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め(4)
15	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画立案
16	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(1)
17	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(2)
18	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(3)
19	研究方法の理解	予備調査/実験に向けての方法論の模索(4)

20	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (1)
21	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (2)
22	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (3)
23	予備調査／実験	予備調査／実験の実施と改善点についてのフィードバック (4)
24	予備調査／実験	予備調査／実験を踏まえた研究計画の立案
25	研究計画の立案	研究計画書の作成 (1)
26	研究計画の立案	研究計画書の作成 (2)
27	研究計画の立案	研究計画書の作成 (3)
28	研究計画の立案	研究計画書の読み合わせと協力体制の整備 (1)
29	研究計画の立案	研究計画書の読み合わせと協力体制の整備 (2)
30	まとめ	ゼミナール I の総括と次年度の見通しについて

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	品田 直宏				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、スポーツコーチング・トレーニングの方法および研究について学ぶことで、課題解決への糸口を見出すことである。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養、非認知能力をグループワークを通じ高め、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し、発表すると

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し発表する、論理的思考能力を力に身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学・コーチングに関する調査・研究の課題発表 50%、レポート課題50%で評価する。

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	「スポーツコーチング」について	「コーチング」とは何かについて学ぶ
3	研究の種類、方法、事例研究について	研究の方法、実施手順説明、および論文の書き方
4	「スポーツパフォーマンス研究」について	スポーツパフォーマンス研究についての説明、および論文検索
5	「トレーニング」について	「トレーニング」について、原理原則に基づくトレーニング方法および文献紹介
6	「プライオメトリックトレーニング」について	「プライオメトリックトレーニング」の方法および文献紹介
7	文献研究①	文献の探し方
8	垂直跳躍能力の測定方法	マットスイッチを用いた垂直跳躍運動能力の測定方法および測定
9	文献研究②	論文抄読
10	「バネ」とはなにか	「バネ」とは何か、測定した垂直跳躍運動能力から討論および考察を行う
11	文献研究③	論文抄読
12	「コントロールテスト」について	「コントロールテスト」の意義および測定方法、論文紹介
13	文献研究④	論文抄読
14	討論	自身の興味のある研究テーマについて討論を行う
15	発表	自身の興味のある研究テーマについて、パワーポイントを用いた発表を行う
16	「性差」について	「性差」を考慮したコーチングについて学ぶ
17	文献研究⑤	論文抄読
18	「チームマネジメント」について	「チームマネジメント」の方法および事例の紹介を行う
19	文献研究⑥	論文抄読
20	測定データの取り扱い方	測定したデータの取り扱い方について、エクセルを用いたグラフの作成方法や統計について学ぶ
21	文献研究⑦	論文抄読
22	卒論に向けたテーマについて考える	卒論に向けたテーマについての討論を行う
23	文献研究⑧	論文抄読
24	文献研究発表準備①	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備①
25	文献研究⑨	論文抄読

26	文献研究発表準備②	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備②
27	文献研究⑩	論文抄読
28	文献研究発表準備③	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備③
29	文献研究発表	これまで読んできた論文について、パワーポイントを用いた発表および討論を行う
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠの総括と課題発表

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	矢野 智彦				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	アスリートのコンディショニングに関する情報(1)	研究テーマ及び文献収集方法の紹介
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	アスリートのコンディショニングに関する情報(2)	研究テーマ及び文献収集方法の紹介
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	アスリートのコンディショニングに関する情報(3)	収集した文献の発表及び内容の検討
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	アスリートのコンディショニングに関する情報(4)	収集した文献の発表及び内容の検討
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	アスリートのコンディショニングに関する情報(5)	収集した文献の発表及び内容の検討
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	アスリートのコンディショニングに関する情報(6)	収集した文献の発表及び内容の検討
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	アスリートのコンディショニングに関する情報(7)	収集した文献の発表及び内容の検討

16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	アスリートのコンディショニングに関する情報(8)	収集した文献の発表及び内容の検討
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座4)
19	アスリートのコンディショニングに関する情報(9)	収集した文献の発表及び内容の検討
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	アスリートのコンディショニングに関する情報(10)	収集した文献の発表及び内容の検討
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	アスリートのコンディショニングに関する情報(11)	課題研究テーマの策定
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	アスリートのコンディショニングに関する情報(12)	課題研究テーマの策定
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	アスリートのコンディショニングに関する情報(13)	課題研究テーマの策定
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	アスリートのコンディショニングに関する情報(14)	課題研究テーマの策定
30	全体のまとめ	ゼミナールIと総括と課題発表

科目コード	55007			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	國友 亮佑				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

<教科書>

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①(筋力・パワー)
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②(スピード・アジリティ)
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③(持久力)
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30	全体のまとめ	ゼミナール I の統括と課題

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、現代経営学科で学ぶ者の意識を啓発し、経営学・スポーツビジネスの基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、経営学・スポーツビジネスをもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 経営学・スポーツビジネスに関する調査・研究を通して、経営学・スポーツビジネスの専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、仮説に対する研究を行い、ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、各進捗を発表資料にまとめる(約2時間)。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる(約30分)。最終的にはゼミ論文としてまとめる。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、自身の研究テーマに関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠにおける年間の進行方法について
2	組織・企業経営(1)	理想の組織・企業経営について
3	組織・企業経営(2)	理念体系について
4	組織・企業経営(3)	リーダーシップとフォロワーシップ
5	組織・企業経営に関する先行研究(1)	組織・企業経営の目的
6	組織・企業経営に関する先行研究(2)	経営管理①
7	組織・企業経営に関する先行研究(3)	経営管理②
8	組織・企業経営に関する先行研究(4)	モチベーション
9	組織・企業経営に関する先行研究(5)	組織・企業経営の成長戦略
10	組織・企業経営に関する先行研究(6)	基本的な競争戦略のタイプ
11	組織・企業経営に関する先行研究(7)	市場の発展と競争戦略
12	企業の組織構造(1)	組織構造論
13	企業の組織構造(2)	環境と組織構造
14	企業の組織構造(3)	組織構造の定義
15	中間まとめ	中間発表
16	企業の組織文化(1)	組織文化とは何か(1)
17	企業の組織文化(2)	組織文化とは何か(2)
18	組織文化の機能(1)	組織文化の機能
19	組織文化の機能(2)	組織文化の逆機能
20	組織文化マネジメント(1)	組織文化マネジメントの発送
21	組織文化マネジメント(2)	組織文化の創造
22	組織文化マネジメント(3)	組織文化の変革
23	企業のリーダーシップ(1)	リーダーシップとは何か
24	企業のリーダーシップ(2)	リーダーシップの機能
25	企業のリーダーシップ(3)	変革型リーダーシップと新リーダーシップ概念
26	スポーツマーケティング戦略(1)	スポーツマーケティングの考え方
27	スポーツマーケティング戦略(2)	スポーツマーケティング・マネジメント

28	スポーツマーケティング戦略（3）	ブランド・マーケティング
29	スポーツマーケティング戦略（4）	プロモーション戦略
30	最終発表	今までまとめた研究成果を発表する

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高崎 展好			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは、音楽表現の可能性、有効性について研究及び実践を行います。音楽表現及び演奏制作による学内外での研究発表を通して、専門性に裏付けられた技能、技術はもとより、豊かな創造性、表現活動から生じる表現力やコミュニケーション力を養います。これらをどのように保育・教育現場で活用できるかを考察、研究を行う。

<授業の到達目標>

ゼミナール学生全員で演奏制作研究及び研究発表（アウトリーチ・コンサート）を行います。企画・計画・運営に関する実践力を身につけ学内外での研究発表を以って研究作品を創り上げることを目標とする。上記目標を達成するために、ゼミナールⅡ（応用）では、より専門性を追求した合唱や器楽合奏を通じた演奏表現研究を行い、知識、技術、技能の修得及び、音楽表現の可能性、有効性を明らかにする。ゼミ論文、または、芸術制作研究発表を最終評価とする。

<授業の方法>

学生が主体となって様々な音楽表現研究、演奏表現活動を行う。音楽を愛好する心情と積極的な活動の取組み、参加意欲が求められる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究作品制作、研究発表に支障が出ないよう準備や練習などを授業時間外での取組みが必要とされる。配布された楽譜等の読譜の予習 60分以上、授業で取り組んだ研究作品の復習 60分以上（必要に応じて補講を行う場合もある）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、作品制作への取組み姿勢 30%、ゼミ論文または芸術制作研究発表（ゼミ論発表含む） 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的、内容、授業方法、評価の仕方について理解する。
2	研究指導 1	研究テーマの検討・設定研究作品制作指導
3	研究指導 2	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
4	研究指導 3	研究作品制作技術指導
5	研究指導 4	研究作品制作技術指導
6	研究指導 5	研究作品制作技術指導
7	研究指導 6	研究作品制作技術指導
8	研究指導 7	研究作品制作技術指導
9	研究指導 8	研究発表に向けた研究指導
10	研究指導 9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導 1 0	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導 1 1	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導 1 2	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導 1 3	研究発表に向けた研究指導及び準備
15	前期研究発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
16	研究指導 1 4	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
17	研究指導 1 5	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
18	研究指導 1 6	研究作品制作技術指導
19	研究指導 1 7	研究作品制作技術指導
20	研究指導 1 8	研究作品制作技術指導
21	研究指導 1 9	研究作品制作技術指導
22	研究指導 2 0	研究作品制作技術指導
23	研究指導 2 1	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導 2 2	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導 2 3	研究発表に向けた研究指導及び準備
26	研究指導 2 4	研究発表に向けた研究指導及び準備
27	研究指導 2 5	研究作品の学内外での発表（コンサート）
28	研究指導 2 6	ゼミ論及びゼミ論（制作作品）発表に向けたスライド資料作成
29	後期研究発表	ゼミ論提出及び、ゼミ論（制作作品）発表

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「哲学」と聞いてどのようなことを思い浮かべるだろうか? 「難しい」?あるいは「役に立ちそうもない」?哲学についてしばしば提出されるこの2つの見解(もちろんこれらだけには限らないのだが)は、哲学の持つ特質に依拠している。すなわち、哲学はあらゆる学問の中でも一二を争うほど抽象的な思考能力を必要とするのである。この抽象性のゆえに、たしかに哲学の議論はしばしば「難解」であり、また「役に立ちそうもない」という印象を持たれるのであろう。しかし、哲学が抽象的な思考能力を必要とすることは、必ずしも、その対象とするトピック

<授業の到達目標>

①文献の内容を精確に読解できる②他者の意見を十全に理解することができる③自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる④哲学的思考力を用いて現実的問題を考察しようとする態度を持つことができる。

<授業の方法>

文献の講読を行う。毎回1人の担当者を決めレジュメを切ってきてもらう。そのレジュメに基づき議論を行い、文献の内容についての理解を深めることを通じて哲学的思考力を養う。なお、使用する文献は参加者の興味関心に応じて初回の授業時に決定する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習:担当者がレジュメを切るための準備を行うのはもちろんであるが、担当者以外も文献を熟読し内容を理解したうえで質問等を考えておく。(1-2時間)事後学習:当日の議論の内容、その議論の結果さらに生じた疑問点などについて各自でまとめておく。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	哲学的思考と現実的問題の関係について考察するための準備を行う
2	文献講読1	教育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
3	文献講読2	教育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献講読3	保育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
5	文献講読4	保育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読5	こどもと哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
7	文献講読6	こどもと哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	ゼミ論文執筆講座(基礎)	成績評価に必要なゼミ論文の執筆方法の基礎的な部分の解説
9	文献講読7	美術と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
10	文献講読8	美術と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読9	音楽と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
12	文献講読10	音楽と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読11	法律と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
14	文献講読12	法律と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
15	ゼミ前半のまとめ	ゼミ前半のまとめを行う
16	文献講読13	キリスト教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
17	文献講読14	キリスト教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
18	文献講読15	ユダヤ教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
19	文献講読16	ユダヤ教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
20	文献講読17	イスラム教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
21	文献講読18	イスラム教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
22	文献講読19	仏教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
23	ゼミ論文執筆講座(応用)	仏教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
24	文献講読20	成績評価に必要なゼミ論文の執筆方法の応用的な部分の解説
25	文献講読21	道徳と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
26	文献講読22	道徳と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
27	文献講読23	倫理と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
28	文献講読24	倫理と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
29	文献講読25	これまで行ってきた文献講読について獲得した知見を、担当者ごとに発表する

科目コード	55008				区分	コア			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、科学的な発達心理学の観点から、保育の実践に役立つ文献研究・理論研究（研究資料の探索と活用）の基本を学習する。その上で、各自の興味・関心に基づき、1つの研究テーマを探求する課題の完遂を目指す。

<授業の到達目標>

① 保育の実践と科学的な発達心理学の研究のつながりを説明できるようになる。② 保育の実践に生きる研究テーマを見つけ出せるようになる。③ 研究資料を調べて、レジュメへまとめ、発表できるようになる。④ 自らの作業の成果の有用性や改善点・修正点を保育の実践の場で検討できるようになる。

<授業の方法>

前半は、教員の用意した研究資料について担当者がレジュメを作成・発表し、全員で議論を行う。また、保育の実践の場へ赴き、それらの学習内容の有用性や改善点・修正点を検討する。後半は、教員の指導の下、各自が研究テーマを設定し、研究資料を調べあげ、レポートにまとめて発表する。また、それらの成果の有用性や改善点・修正点について、保育の実践の場において検討する。
※ なお、ゼミナールの進行においては、Google Classroomを利用する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に担当者は研究資料を発表に向けてまとめる責任を負い、担当者以外も研究資料へ予め目を通しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。また、授業後には研究資料の振り返りや更なる収集、自らの研究テーマについてレポートを継続的を書き進める課題へ取り組まなければならない。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

議論への貢献度 / 研究への積極性：50%、レジュメ等の課題の成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

杉村伸一郎・坂田陽子(編) (2004/4) 実験で学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版
村上香奈・山崎浩一(編) (2018/3) よくわかる心理学実験実習 ミネルヴァ書房
大出敦・直江 健介(著) (2020/8) アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生のためのプレゼン上達術 慶応義塾大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの説明, 研究資料の提示, 役割分担
2	研究資料をレジュメにまとめる方法	研究資料の読み方, レジュメの作成の仕方, 発表の仕方
3	研究と実践のつながり	現象の観察, 不思議への気づき, 理論とデータ, 実践への応用, ケース・スタディ
4	感情の発達に関する研究資料の検討①	恐怖や不安の発達に関する研究
5	感情の発達に関する研究資料の検討②	報酬的感情の発達に関する研究
6	感情の発達に関する研究資料の検討③	アタッチメントの発達に関する研究
7	保育の実践の場を体験する①	保育の実践の場で、感情の発達に関する研究の学習成果の有用性を検討する
8	認知の発達に関する研究資料の検討①	選択的注意の発達に関する研究
9	認知の発達に関する研究資料の検討②	抑制機能の発達に関する研究
10	認知の発達に関する研究資料の検討③	ワーキングメモリの発達に関する研究
11	社会性の発達に関する研究資料の検討①	バイオロジカルモーションへの選好の発達に関する研究
12	社会性の発達に関する研究資料の検討②	社会的感染の発達に関する研究
13	社会性の発達に関する研究資料の検討③	共感性の発達に関する研究
14	保育の実践の場を体験する②	保育の実践の場で、認知と社会性の発達に関する研究の学習成果の有用性を検討する
15	前半のまとめ	前半の学習内容の振り返り、各研究テーマの関連性、後半に向けて
16	科学的な研究のレポート①	レポートの構成
17	科学的な研究のレポート②	レポートの書式
18	研究テーマの決定①	研究テーマを見つけ出すポイント
19	研究テーマの決定②	研究テーマを精緻化するポイント
20	研究テーマの決定③	研究テーマの発表・議論
21	保育の実践の場を体験する③	研究テーマの妥当性を保育の実践の場で確かめる
22	研究テーマの決定④	研究テーマの改良・修正
23	研究資料の収集と精査①	研究資料の調べ方、研究資料の整理の仕方
24	研究資料の収集と精査②	研究資料を調べあげる
25	研究資料の収集と精査③	研究資料を調べあげる(つづき)

26	研究資料の収集と精査④	研究資料を調べあげる（つづき）
27	研究資料の収集と精査⑤	研究成果の発表と議論
28	保育の実践の場を体験する④	研究成果の妥当性を保育の実践の場で確かめる
29	後半のまとめ①	研究成果の改善点・修正点を検討する
30	後半のまとめ②	レポートの完成、ゼミナール全体のまとめ

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、保育内容健康に関する分野の研究を行う。研究テーマについては、保育内容の中の、運動・睡眠・安全・ケガ・防災などを取り扱う。そのほかに関しては、教育学学士として相応しい研究テーマであれば認める。

<授業の到達目標>

幼児を取り巻く健康に関する課題に対して、科学的根拠等客観的な視点から調査検討を行い理解を深める。研究するための方法（資料の集め方やまとめ方、研究計画の立て方、調査や実験等の方法、分析、考察等）、論文の書き方の基本を学んだ後、テーマを決めて論文にまとめる。

<授業の方法>

学生が自分の関心にそって研究テーマを決め、資料を集めて整理し発表する。授業は発表とテーマにそったディスカッションが中心となり、学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する。（予習1時間） 授業内のディスカッションの要点をまとめる。（復習1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題の提出と内容 50%、研究論文(ゼミ論文)の内容および発表50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方
2	研究指導1	研究テーマの検討・設定
3	研究指導2	研究テーマの検討・設定
4	研究指導3	研究テーマの検討・設定
5	研究指導4	研究テーマの検討・設定
6	研究指導5	研究のための資料整理
7	研究指導6	研究のための資料整理
8	研究指導7	研究のための資料整理
9	研究指導8	研究のための資料整理
10	研究指導9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導13	研究発表準備
15	中間研究発表	研究のアウトライン、研究の中間発表。
16	研究指導14	研究方法について
17	研究指導15	研究方法について
18	研究指導16	研究方法について
19	研究指導17	研究発表に向けた研究指導
20	研究指導18	研究発表に向けた研究指導
21	研究指導19	研究発表に向けた研究指導
22	研究指導20	研究発表に向けた研究指導
23	研究指導21	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導22	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導23	研究発表に向けた研究指導
26	研究指導24	研究発表に向けた研究指導
27	研究指導25	研究発表準備
28	研究指導26	研究発表準備
29	後期研究発表	研究結果を発表する
30	研究発表	研究結果を発表する

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。3年次に引き続き、研究とはなにか、研究の有用性、渉猟の方法等、研究へ結びつく課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは4年次段階で実施することから、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的な研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。事前の文献検索には2時間以上を必要とする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度(50%)、学習意欲(30%)、レポート(20%)で評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	内容 受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	論文抄読1	抄読する論文分野の選択1
3	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査1
4	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査2
5	論文抄読2	抄読する論文分野の選択2
6	論文抄読3	抄読する論文分野の決定
7	論文抄読4	専門領域の論文抄読1
8	論文抄読5	専門領域の論文抄読2
9	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査3
10	論文抄読6	個別発表と全体発表
11	論文抄読7	専門領域の論文抄読3
12	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査4
13	論文の書き方	論文の構成を確認する1
14	論文の書き方	個人発表と全体発表
15	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査5
16	論文の書き方	論文の構成を確認する2
17	論文の書き方	論文の構成を確認する3
18	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査6
19	論文抄読8	スポーツ医学分野論文抄読1
20	論文抄読9	スポーツ医学分野論文抄読2
21	論文抄読10	スポーツ医学分野論文抄読3
22	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査1
23	論文抄読11	スポーツ医学分野論文抄読4
24	論文抄読12	スポーツ医学分野論文抄読5
25	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査2
26	論文抄読13	健康運動関連の論文抄読1
27	論文抄読14	健康運動関連の論文抄読2
28	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査3
29	論文抄読15	健康運動関連の論文抄読3

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

近年、障がい者を取り巻く環境は大きく変化しつつあるが、障がい者に対するスポーツや運動形態について不明瞭なことが多い。本科目は、障がい者スポーツの現状課題を抽出し、検証を実施することで障がい者が日常生活や運動・スポーツをより過ごしやすい環境作りを立案、発表出来ることを目標とする。

<授業の到達目標>

1. 課題に対し研究計画を立てることができる。2. 課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。3. 客観的手法を用いた内容をまとめ、実践報告書・研究論文作成することができる。

<授業の方法>

1. グループワーク(専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施) 2. 省察活動(課題に対するまとめ、研究実践レポート・研究論文作成)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ(毎回、1時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題、取り組み姿勢と受講態度・意欲60%、研究実践レポート 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡにおける年間の進行方法について
2	障がい者スポーツの現状と課題(1)	障がい者、障がい者スポーツの現状と課題の抽出
3	障がい者スポーツの現状と課題(2)	抽出課題に対する調査(1)
4	障がい者スポーツの現状と課題(3)	抽出課題に対する調査報告(1)
5	障がい者スポーツの現状と課題(4)	抽出課題に対する調査(2)
6	障がい者スポーツの現状と課題(5)	抽出課題に対する調査報告(2)
7	障がい者スポーツの現状と課題(6)	抽出課題に対する調査(3)
8	障がい者スポーツの現状と課題(7)	抽出課題に対する調査報告(3)
9	課題研究立案(1)	抽出課題の検証方法立案(1)
10	課題研究立案(2)	抽出課題の検証方法報告(1)
11	課題研究立案(3)	抽出課題の検証方法立案(2)
12	課題研究立案(4)	抽出課題の検証方法報告(2)
13	課題研究立案(5)	抽出課題の検証方法立案(3)
14	課題研究立案(6)	抽出課題の検証方法報告(3)
15	課題研究立案(7)	抽出課題、課題検証について(中間報告)
16	課題研究検証実践(1)	課題検証実践(計測)(1)
17	課題研究検証実践(2)	抽出課題の検証方法報告(1)
18	課題研究検証実践(3)	課題検証実践(計測)(2)
19	課題研究検証実践(4)	抽出課題の検証方法報告(2)
20	課題研究検証実践(5)	課題検証実践(計測)(3)
21	課題研究検証実践(6)	課題検証実践(計測)(4)
22	課題研究検証実践(7)	課題検証実践(計測)(5)
23	課題研究検証実践結果討論(1)	計測結果報告検討会(1)
24	課題研究検証実践結果討論(2)	計測結果報告検討会(2)
25	課題研究検証実践結果討論(3)	計測結果報告検討会(3)
26	課題研究検証実践結果討論(4)	計測結果報告(スライド)(1)
27	課題研究検証実践結果討論(5)	計測結果報告(スライド)(2)
28	まとめ(1)	研究実践レポート作成(1)
29	まとめ(2)	研究実践レポート作成(2)
30	まとめ(3)	研究実践レポート作成(3)

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

<授業の到達目標>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義および実技 2. 調査および発表

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

1. 文献検索プレゼンテーションの内容 2. 小テスト(国家試験問題等) 3. データの収集・処理・プレゼンまでの内容

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
28	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
29	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
30	まとめ	苦手分野の復習

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展
26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1	プレゼンテーション
29	プレゼンテーション2	プレゼンテーション
30	まとめ	まとめ

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	宮本 彩			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展
26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1	プレゼンテーション
29	プレゼンテーション2	プレゼンテーション
30	まとめ	まとめ

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

<授業の方法>

グループワーク(専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施)省察活動(課題に対するまとめ、論文作成)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ(毎回、1時間程度)復習：振り返りレポート(毎回、1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題 30% 研究実践レポート 40% 学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展
26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1	プレゼンテーション
29	プレゼンテーション2	プレゼンテーション
30	まとめ	まとめ

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。3年次に引き続き、研究とはなにか、研究の有用性、渉猟の方法等、研究へ結びつく課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは4年次段階で実施することから、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。事前の文献検索には2時間以上を必要とする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

【Web授業】①課題提出50% ②意見交換50%【対面授業】課題達成度(50%)、学習意欲(30%)、レポート(20%)で評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	内容 受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	論文抄読1	抄読する論文分野の選択1
3	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査1
4	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査2
5	論文抄読2	抄読する論文分野の選択2
6	論文抄読3	抄読する論文分野の決定
7	論文抄読4	専門領域の論文抄読1
8	論文抄読5	専門領域の論文抄読2
9	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査3
10	論文抄読6	個別発表と全体発表
11	論文抄読7	専門領域の論文抄読3
12	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査4
13	論文の書き方	論文の構成を確認する1
14	論文の書き方	個人発表と全体発表
15	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査5
16	論文の書き方	論文の構成を確認する2
17	論文の書き方	論文の構成を確認する3
18	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査6
19	論文抄読8	スポーツ医学分野論文抄読1
20	論文抄読9	スポーツ医学分野論文抄読2
21	論文抄読10	スポーツ医学分野論文抄読3
22	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査1
23	論文抄読11	スポーツ医学分野論文抄読4
24	論文抄読12	スポーツ医学分野論文抄読5
25	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査2
26	論文抄読13	健康運動関連の論文抄読1
27	論文抄読14	健康運動関連の論文抄読2
28	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査3

29	論文抄読15	健康運動関連の論文抄読3
30	まとめ	総括

科目コード	55008			区 分	コア科目				
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)			担当者名	明石 啓太				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間(4時間)。実践力養成に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。ただし、ゼミナール課題の提出を単位認定の必須条件とする。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

深代千之, 川本竜史, 石毛勇介, 若山章信 (2010) バイオメカニクスで読み解くスポーツ動作の科学 東京大学出版会
 阿江通良, 藤井範久 (2013) スポーツバイオメカニクス20講 朝倉書店
 深代千之, 桜井伸二, 平野裕一, 阿江通良 (2012) スポーツバイオメカニクス 朝倉書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	実践力養成に向けた講座(1)
2	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	実践力養成に向けた講座(2)
4	研究課題の決定	研究課題を決定する。
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	実践力養成に向けた講座(3)
6	文献調査	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	実践力養成に向けた講座(4)
8	研究計画の立案	研究課題を解明するために適切な研究計画を立案する。
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	実践力養成に向けた講座(5)
10	予備実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験を実施する。
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	実践力養成に向けた講座(6)
12	予備実験データの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験で取得したデータを分析する。
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	実践力養成に向けた講座(7)
14	本実験Ⅰ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	実践力養成に向けた講座(8)
16	本実験Ⅱ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1)

18	リア教育(9) データ分析	本実験で取得したデータを分析する。
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2)
20	データ分析結果の検討	本実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3)
22	統計分析	得られた結果を統計学的に分析する。
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4)
24	結果の考察	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察していく。
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5)
26	プレゼンテーション準備	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
27	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(6)
28	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
29	キャリア教育のまとめ	2年間のキャリア教育を通じた総括
30	全体のまとめ	2年間のゼミナールを通じた総括

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、仮説に対する研究を行い、ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、各進捗を発表資料にまとめる(約2時間)。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる(約30分)。最終的にはゼミ論文としてまとめる。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実践的な態度:50%、自身の研究テーマに関する調査・研究発表・論文提出:50%をもって評価する。なお、卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の課題提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠにおける年間の進行方法について
2	健康増進活動(1)	理想の健康増進活動について
3	健康増進活動(2)	フレイル・サルコペニア
4	健康増進活動(3)	ロコモティブシンドローム
5	健康づくりに関する先行研究(1)	健康づくり教室の目的
6	健康づくりに関する先行研究(2)	健康づくり教室の実践①
7	健康づくりに関する先行研究(3)	健康づくり教室の実践②
8	健康づくりに関する先行研究(4)	筋力トレーニング
9	健康づくりに関する先行研究(5)	有酸素トレーニング
10	健康づくりに関する先行研究(6)	脳トレーニング
11	健康づくりに関する先行研究(7)	ニュースポーツによるトレーニング
12	測定と評価(1)	体格と筋力の関係について
13	測定と評価(2)	競技における傷害の特徴について
14	測定と評価(3)	傷害調査方法について
15	中間まとめ	中間発表
16	計測(1)	検査・測定演習(1)
17	計測(2)	検査・測定演習(2)
18	運動器疾患(1)	運動器疾患の概要について
19	運動器疾患(2)	運動器疾患(骨疾患)について
20	運動器疾患(3)	運動器疾患(筋疾患)について
21	運動器疾患(4)	運動器疾患(神経疾患、その他疾患)について
22	リハビリテーション(1)	リハビリテーションについて
23	リハビリテーション(2)	リハビリテーション計画作成について
24	運動器疾患に対する評価演習(1)	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の先行研究について調査報告
25	運動器疾患に対する評価演習(2)	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の実施計画について検討会
26	運動器疾患に対する評価演習(3)	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習

27	運動器疾患に対する評価演習（４）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習データの処理方法について
28	運動器疾患に対する評価演習（５）	各種テーマに沿った運動器疾患のリハビリテーションに関する評価・測定結果と先行研究との比較
29	運動器疾患に対する評価演習（６）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する調査発表（１）
30	最終発表	今までまとめた研究成果を発表する

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田中 耕作			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつくテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につけることが出来るよう学生を支援する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールではそれぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解できるようにする。実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価できるようにする。

<授業の方法>

原則として、講義・演習・実技等の形態をとる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究 (1)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究 (2)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究 (3)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究 (4)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究 (5)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究 (6)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究 (7)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究 (8)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究 (9)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究 (10)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究 (11)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習 (1)	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。
14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。

21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30	課題研究のまとめ (3)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。

科目コード	55008			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)			担当者名	片桐 夏海				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間(4時間)。実践力養成に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題60%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題の設定③	研究課題の確認及び研究方法の検討
5	研究計画書の作成①	研究計画書のまとめと発表
6	研究計画書の作成②	研究計画書のまとめと発表
7	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
8	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
9	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑦	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	中間報告①	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
15	中間報告②	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
16	論文の作成①	研究背景・研究目的・研究方法の整理
17	論文の作成②	研究背景・研究目的・研究方法の整理
18	論文の作成③	論文の執筆と進捗状況の報告
19	論文の作成④	論文の執筆と進捗状況の報告
20	論文の作成⑤	論文の執筆と進捗状況の報告
21	論文作成の個別指導①	論文の構成・内容についての指導
22	論文作成の個別指導②	論文の構成・内容についての指導
23	論文作成の個別指導③	論文の構成・内容についての指導
24	論文作成の個別指導④	論文の構成・内容についての指導
25	論文作成の個別指導⑤	論文の構成・内容についての指導
26	論文作成の個別指導⑥	論文の構成・内容についての指導
27	論文作成の個別指導⑦	論文の体裁についての指導
28	研究成果の報告①	研究成果の発表と討議
29	研究成果の報告②	研究成果の発表と討議

科目コード	55008			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができること。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文の内容と到達度（知識・理解） 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて 1	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成 1	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）

20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
21	中間発表 1	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
24	研究課題の遂行とその報告 1	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
28	最終確認 1	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。(第2回目)
30	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。

科目コード	55008			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)			担当者名	伊藤 仁美				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とします。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。

<授業の到達目標>

(1) 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できる。(2) リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につけている。(3) 研究を論文および制作物としてまとめ、発表できる。

<授業の方法>

(1) 発表（学生による説明と問いの提示） (2) ディスカッション（問いに対する回答） (3) 省察活動（まとめと発表） (4) 個別指導

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗よく状況の報告を授業の中で発表、討論をします。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求めます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、論文への取り組み 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッション

20	課題研究の遂行とその報告5	を行う。(第4回目) 各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
23	中間発表3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
26	研究課題の遂行とその報告3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
27	研究課題の遂行とその報告4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。(第2回目)
30	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とします。

<授業の到達目標>

(1) 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できる。(2) リサーチ・リテラシー(聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力)を身につけている。(3) 研究を論文および制作物としてまとめ、発表できる。

<授業の方法>

(1) 発表(学生による説明と問いの提示) (2) ディスカッション(問いに対する回答) (3) 省察活動(まとめと発表) (4) 個別指導

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗よく状況の報告を授業の中で発表、討論をします。各回、予習(発表準備等)を1時間、復習(内容の振り返り)を1時間程度を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、論文への取組および口頭発表 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ(応用)の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第2回目)
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第3回目)
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第4回目)
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第5回目)
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第6回目)
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第7回目)
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第8回目)
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)

20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。(第2回目)
30	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。

科目コード	55008			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)			担当者名	三堀 仁				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人、とりわけ教職に就くことを目指す学生に実践力を身に付けさせることをねらいとしたものである。教師として、子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長を目指した生涯学習力を身に付けさせることを重視している。また、修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる力を身に付けることも目指している。授業は演習を中心に行う。後半は個人研究（ゼミ論）を完成させるための取組を行う。

<授業の到達目標>

①教職につくための規範意識、使命感、責任感を持つ。②他者と協働して課題解決する力を身に付ける。③教師として必要な指導力を身に付ける。④論文の作成の仕方を理解する。

<授業の方法>

基本的に演習の形態をとる。自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。後半は個人研究について発表し合う場面を設定する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする。個人研究は日常の中で随時取り組む。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40%）、課題提案内容・意見交換（30%）、レポート・提出物（30%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ゼミの活動について	ゼミの活動について話し合い共有する。
2	ゼミ論に向けて	個人研究に関しての日常の取組について理解する。
3	場面指導について	学校現場で見られる「場面指導」をテーマにした話し合いの方法を理解する。
4	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
5	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
6	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
7	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
8	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
9	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
10	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
11	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
12	ゼミ論の構想	ゼミ論文へ向けての個人研究の取組を発表する。
13	ゼミ論の構想	ゼミ論文へ向けての個人研究の取組を発表する。
14	ゼミ論の構想	ゼミ論文作成に向けての論文構成を固める。
15	ゼミ論の構想	ゼミ論文作成に向けての論文構成を固める。
16	ゼミ論のテーマ設定	ゼミ論文のテーマと概要を考える。
17	ゼミ論の章立て	ゼミ論文の章立てを考える。
18	ゼミ論の概要執筆	ゼミ論文の各章の概要を執筆する。
19	ゼミ論の概要執筆	ゼミ論文の各章の概要を執筆する。
20	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
21	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
22	ゼミ論中間発表会	他のゼミと共同でのゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。
23	ゼミ論中間発表会	他のゼミと共同でのゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。
24	ゼミ論への取組	中間発表会で指導を受けた点に留意してゼミ論文を執筆する。
25	ゼミ論への取組	ゼミ論文を執筆する。
26	ゼミ論への取組	ゼミ論文を執筆する。
27	ゼミ論への取組	ゼミ論文を執筆する。ゼミ論発表会に向けて準備をする。
28	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
29	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
30	ゼミナールのまとめ	ゼミナールのまとめをするとともに、今後の社会人としての生活に意欲を持つ。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高橋 章二			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は教育経営学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、初等教育及び特別支援教育の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、現代の教育の現状をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 教育課題に関する調査・研究を通して、初等教育の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、初等教育、特別支援教育に関する専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間(4時間)。実践力養成に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題(ゼミ論文)60%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題の設定③	研究課題の確認及び研究方法の検討
5	研究計画書の作成①	研究計画書のまとめと発表
6	研究計画書の作成②	研究計画書のまとめと発表
7	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
8	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
9	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑦	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	中間報告①	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
15	中間報告②	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
16	論文の作成①	研究背景・研究目的・研究方法の整理
17	論文の作成②	研究背景・研究目的・研究方法の整理
18	論文の作成③	論文の執筆と進捗状況の報告
19	論文の作成④	論文の執筆と進捗状況の報告
20	論文の作成⑤	論文の執筆と進捗状況の報告
21	論文作成の個別指導①	論文の構成・内容についての指導
22	論文作成の個別指導②	論文の構成・内容についての指導
23	論文作成の個別指導③	論文の構成・内容についての指導
24	論文作成の個別指導④	論文の構成・内容についての指導
25	論文作成の個別指導⑤	論文の構成・内容についての指導
26	論文作成の個別指導⑥	論文の構成・内容についての指導
27	論文作成の個別指導⑦	論文の体裁についての指導
28	研究成果の報告①	研究成果の発表と討議
29	研究成果の報告②	研究成果の発表と討議

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	林 栄昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、3年次に培われた基礎知識をもとに、特別支援教育やインクルーシブ教育の視点から、学生がそれぞれに設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、お互いに発表し、意見を交換しながら、論文としてまとめていく。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文に向けての課題レポート 30%、ゼミ論文40%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究の内容、方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究の内容、方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究の内容、方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）

19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	論文(ゼミ内)検討会	作成した論文についてのレジメ、発表資料をまとめ、設定時間内で発表し、その内容や仕方について議論する。
30	論文発表会	論文発表を行う

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題(ゼミ論文または卒業論文)50%発表プレゼンテーションおよびゼミ論文について、文字数、発表の仕方、内容、発表時間等から評価しフィードバックする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールは4年次段階で実施することから、英語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究 (1)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究 (2)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究 (3)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究 (4)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究 (5)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究 (6)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究 (7)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究 (8)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究 (9)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究 (10)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究 (11)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習 (1)	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。
14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。

21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30	課題研究のまとめ (3)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

<参考書>

日本スポーツ心理学会 スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30	まとめ	最終ゼミ論文発表

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大井 理緒			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度30%、課題40%、プレゼン30%※卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける

<教科書>

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%, 中間発表 20%, 論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

20	中間発表①	をよりよいものにする。 それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	十河 直太			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、仮説に対する研究を行い、ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、各進捗を発表資料にまとめる(約2時間)。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる(約30分)。最終的にはゼミ論文としてまとめる。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、自身の研究テーマに関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠの振り返りとゼミナールⅡにおける年間の進行方法について
2	健康増進活動(1)	理想の健康増進活動について
3	健康増進活動(2)	フレイル・サルコペニア
4	健康増進活動(3)	ロコモティブシンドローム
5	健康づくりに関する先行研究(1)	健康づくり教室の目的
6	健康づくりに関する先行研究(2)	健康づくり教室の実践①
7	健康づくりに関する先行研究(3)	健康づくり教室の実践②
8	健康づくりに関する先行研究(4)	筋力トレーニング
9	健康づくりに関する先行研究(5)	有酸素トレーニング
10	健康づくりに関する先行研究(6)	脳トレーニング
11	健康づくりに関する先行研究(7)	ニュースポーツによるトレーニング
12	測定と評価(1)	体格と筋力の関係について
13	測定と評価(2)	競技における傷害の特徴について
14	測定と評価(3)	傷害調査方法について
15	中間まとめ	中間発表
16	計測(1)	検査・測定演習(1)
17	計測(2)	検査・測定演習(2)
18	運動器疾患(1)	運動器疾患の概要について
19	運動器疾患(2)	運動器疾患(骨疾患)について
20	運動器疾患(3)	運動器疾患(筋疾患)について
21	運動器疾患(4)	運動器疾患(神経疾患、その他疾患)について
22	リハビリテーション(1)	リハビリテーションについて
23	リハビリテーション(2)	リハビリテーション計画作成について
24	運動器疾患に対する評価演習(1)	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の先行研究について調査報告
25	運動器疾患に対する評価演習(2)	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の実施計画について検討会
26	運動器疾患に対する評価演習(3)	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習
27	運動器疾患に対する評価演習(4)	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習デー

28	運動器疾患に対する評価演習（5）	<p>タの処理方法について</p> <p>各種テーマに沿った運動器疾患のリハビリテーションに関する評価・測定結果と先行研究との比較</p>
29	運動器疾患に対する評価演習（6）	<p>各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する調査発表（1）</p>
30	最終発表	<p>今までまとめた研究成果をゼミ論文として発表する</p>

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる(2~3時間)。調査・研究する課題の発表準備(3時間)。基礎的知識獲得に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題50%、プレゼン30%、受講態度20%、※卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%, 中間発表 20%, 論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

20	中間発表①	をよりよいものにする。 それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	浦 佑大			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行うことで理解を深めていく。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%, 中間発表 20%, 論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

國部雅大 2023/3/7 これからの体育・スポーツ心理学 英治出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55008				区分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	柴山 慧			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行うことで理解を深めていく。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする(1時間程度)。進捗状況の報告準備をする(30分程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%, 中間発表 20%, 論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

安宅和人 2010/11/24 イシューからはじめよ—知的生産の「シンプルな本質」 英治出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目はスポーツにおけるコーチングを理解し、よりよいコーチになる為の基礎的知識と専門的知識の習得を行うと共に、自身が専門とする競技への理解を深めていく。また、得た知識を適切な方法で他者へと伝える方法を学んでいく。そのため、①『スポーツ科学をもとにした課題発見・知識の習得』②『それらを適切に伝え、実践力を養成する』内容とし、授業を展開する。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、スポーツコーチングにおける理解を深め、専門種目におけるパフォーマンス構造を理解すると共に、それらを高める方法、およびコーチング能力を高め、自身が実践できるだけでなく、他者に対して適切なコーチングを実践できるようになることを目標としている。

<授業の方法>

専門誌や論文の抄読、グループワークを中心に展開する。専門的な機器を扱い、パフォーマンスの測定やデータの分析も行い、課題発表を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の専門とする競技種目に関する専門的知識およびトレーニング方法やパフォーマンス構造を十分理解する為に、専門誌や論文を予習・復習として抄読すること。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、中間課題 30%、ゼミ論文発表50%。

<教科書>

特になし

<参考書>

日本コーチング学会(2017/4/4) コーチング学への招待 大修館書店

福永 哲夫(著), 山本 正嘉(著)(2018/10/1) 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方(体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ) 市村出版

高松 薫(2021/3/22) 競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望: 実践と研究の場における知と技の好循環を求めて 筑波大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツコーチングの理解	スポーツにおけるコーチング方法の理解と事例紹介
2	専門種目におけるパフォーマンス構造①	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
3	専門種目におけるパフォーマンス構造②	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
4	専門種目におけるパフォーマンス構造(発表)	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造とそれらを高める方法を発表する
5	スポーツコーチングにおけるハラスメント	スポーツコーチングの現場における様々なハラスメントについて理解する
6	海外におけるスポーツコーチング	海外におけるスポーツコーチングの事例紹介
7	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける事例研究のまとめ方
8	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける横断的な研究のまとめ方
9	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおけるインタビュー形式の研究のまとめ方
10	ゼミ論(卒論)のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
11	ゼミ論(卒論)のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
12	ゼミ論(卒論)のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
13	ゼミ論(卒論)のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
14	ゼミ論(卒論)のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
15	ゼミ論(卒論)中間発表	ゼミ論(卒論)のテーマの決定・発表
16	体組成の測定	BODPODを用いた体組成の測定方法の理解
17	動作分析①	ジャンプ運動における動作分析
18	動作分析②	疾走動作における動作分析
19	膝関節・股関節筋力の測定	バイオデックスを用いた膝関節・股関節筋力の測定
20	測定データの分析と処理	測定したデータの分析しおよび適切な方法で提示する方法の理解
21	ゼミ論(卒論)の執筆	緒言・方法の執筆
22	ゼミ論(卒論)の執筆	緒言・方法の執筆

23	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言・方法の執筆
24	ゼミ論の進捗状況確認	進捗状況の発表および質疑応答
25	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
26	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
27	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
28	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
29	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
30	発表	スライドを用いたゼミ論の発表

科目コード	55008			区分	コア科目				
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)			担当者名	矢野 智彦				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間(4時間)。実践力養成に必要な自主学習(7時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。最終課題 50%。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1) 学校教育の現状と展望
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2) 体育を専門とする教員に求められる専門性とその可能性
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3) 国内外の授業方法の発展と現在(生徒指導を中心に)
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4) 国内外の授業方法の発展と現在(生徒指導を中心に)
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5) 教職のキャリア開発(養成・採用・研修の実際と課題)
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1) 一般行政系公務員の職務と専門性
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2) 一般行政系公務員の職務と専門性
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3) 公安系公務員(消防)の職務と専門性
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座(4) 公安系公務員(警察)の職務と専門性
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5) 公安系公務員(自衛官)の職務と専門性
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1) 業種・業界の研究
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2) 職種・職務の研究
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3) 外資系企業の研究
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4) 体育・スポーツ系の業種・業界の研究
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(15)	企業人養成に向けた講座(5) 体育・スポーツを学んだ者の強みと弱点

16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(16)	実践力養成に向けた講座(1)
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(17)	実践力養成に向けた講座(2)
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(18)	実践力養成に向けた講座(3)
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(19)	実践力養成に向けた講座(4)
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(20)	実践力養成に向けた講座(5)
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(21)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1) 一般企業での体験活動
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(22)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2) 消防学校での体験活動
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(23)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3) 中・高等学校教育の観察参与
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(24)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4) スポーツ業界の学内インターンシップ
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(25)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5) 体験活動の振り返りと総括
26	キャリア教育のまとめ(1)	2年間のキャリア教育を通じた総括(1) 2年間で実施した内容の振り返り
27	キャリア教育のまとめ(2)	2年間のキャリア教育を通じた総括(2) 卒業後の進路の現状と展望の確認
28	キャリア教育のまとめ(3)	2年間のキャリア教育を通じた総括(3) 体育・スポーツを学んだ意義と今後のキャリアの接点の確認
29	キャリア教育のまとめ(4)	2年間のキャリア教育を通じた総括(4) 将来のキャリアの展望と現在の課題の確認
30	全体のまとめ	2年間のゼミナールを通じた総括

科目コード	40301				区 分	柔道整復学実技			
授業科目名	整復学実技V(下肢・固定法I)[2021年度入学 生用]				担当者名	小玉 京士朗/坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技VIでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、治療手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義の事前課題（実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度））復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験90%、学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂
全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・包帯固定学 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の内容、評価方法、受講態度について
2	固定法	固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について
3	下肢における評価（1）	関節可動域、下肢長について
4	下肢における評価（2）	MMT、代償運動について
5	下肢における評価（3）	ケーススタディによる評価方法（代償運動と動作分析）について
6	大腿骨頸部骨折（1）	大腿骨頸部骨折における概要および整復法について
7	大腿骨頸部骨折（2）	大腿骨頸部骨折における固定法（クラーメル固定）について
8	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における概要と整復法について
9	股関節脱臼（2）	股関節脱臼における固定法（クラーメル固定）について
10	大腿骨骨幹部骨折（1）	大腿骨骨幹部骨折における概要と整復法について
11	大腿骨骨幹部骨折（2）	大腿骨骨幹部骨折における固定法について
12	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折における概要と整復法について
13	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼における概要と整復法について
14	膝蓋骨疾患の処置	膝蓋骨骨折および膝蓋骨脱臼における固定法について
15	下腿骨骨折（1）	下腿骨骨折における概要について
16	下腿骨骨折（2）	下腿骨骨折における整復法、固定法（クラーメル固定）について
17	下腿骨骨折（3）	下腿骨骨折における整復法、固定法（ギブス固定）について
18	下肢外傷の応急処置（1）	下肢外傷の応急処置（救急搬送固定）
19	下肢外傷の応急処置（2）	下肢外傷の応急処置（循環、神経学的所見の確認）
20	下肢外傷における評価（1）	関節可動域訓練と可動域について
21	下肢外傷における評価（2）	アライメントとマルアライメントについて
22	下肢外傷における評価（3）	筋周径と運動療法について
23	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（1））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
24	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（2））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について

25	ケーススタディ(股関節周囲の運動器疾患 (3))	股関節周囲の運動器疾患に対する評価(視診から鑑別疾患、対処法の指示)について
26	ケーススタディ(膝関節周囲の運動器疾患 (1))	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価(画像評価)について
27	ケーススタディ(膝関節周囲の運動器疾患 (2))	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価(理学所見)と治療指針について
28	ケーススタディ(膝関節周囲の運動器疾患 (3))	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価(視診から鑑別疾患、対処法の指示)について
29	総復習(1)	大腿骨頸部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の評価、整復法について
30	総復習(2)	大腿骨骨幹部骨折、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼、下腿骨骨折および評価、整復法について

科目コード	36614				区分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習 I				担当者名	品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技スポーツパフォーマンス実習 I では、各々が専門とする競技の基本的な運動技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、指導法・研究法を学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）を把握し、それに応じた目標や課題を設定し、合理的なトレーニングを実践できるようになること。

<授業の方法>

実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくことと理解し易い。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・取り組み60%、レポート 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	受講ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト①	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト②	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	各競技における基礎的体力	各々が専門とする競技における基礎的体力について理解を深める
5	各競技における基礎的体力の養成①	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に走動作に焦点をあて解説する
6	基礎的体力の養成②	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に跳動作に焦点をあて解説する
7	基礎的体力の養成③	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に投動作に焦点をあて解説する
8	基礎的体力の養成④	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング①の考案・実施
9	基礎的体力の養成⑤	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング②の考案・実施
10	各競技における専門的体力	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力について理解を深める
11	専門的体力の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力を高めるトレーニング方法について理解を深める
12	専門的技術の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的技術を高めるトレーニング方法について理解を深める
13	トレーニングメニューの立案	各々が専門とする競技におけるトレーニングメニューを立案する
14	競技会の振り返り①	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する
15	専門競技の解説（発表）	各々が専門とする競技について、必要とされる基礎体力・専門的体力・技術について、またそれらを高めるためのトレーニング方法についてをまとめ解説する（発表）
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	目標設定・トレーニング計画	各々が専門とする競技について、後期における最大目標を設定し、それに沿ったトレーニング計画を立案する
18	コントロールテスト③	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
19	コントロールテスト④	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
20	コントロールテストの評価	各々のコントロールテスト結果を前期測定分・後期測定分間の比較を行う
21	専門的トレーニングの実施①	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
22	専門的トレーニングの実施②	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
23	専門的トレーニングの実施③	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
24	専門的トレーニングの実施④	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
25	鍛錬期のトレーニング計画の立案	各々が専門とする競技における鍛錬期（準備期）のトレーニング計画について立案する

26	レジスタンストレーニング①	各々が専門とする競技における筋力を高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
27	レジスタンストレーニング②	各々が専門とする競技におけるパワーを高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
28	競技会の振り返り②	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する②
29	次年度計画の立案	各々が専門とする競技の次年度計画を立案し、それに沿ったトレーニング計画を立案する
30	1年間の競技の振り返り（発表）	1年間の各々の基礎体力・専門的体力・技術の変化について、コントロールテスト結果や試合結果から振り返り、それらをまとめて解説する（発表）

科目コード	53030				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅰ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

患者様と接する臨床実習が大学附属接骨院で開始されるが、その臨床実習を開始するにあたり過不足の無い内容を実習を通して学ぶ。その為には、安心・安全な医療を提供し、国民から必要とされている接骨院がどのような機能を果たせば良いのか、あるいは安価で質の良い医療を提供する為に我々はこの様な社会的基盤づくりが必要なのかといった柔道整復術に関わる方策問題に始まり、実際に患者様から痛みの原因を患者様の背景を含めて探り出す医療面接技法に到るまでを学習する。

<授業の到達目標>

患者に寄り添った施術を理解し、病態情報の的確な評価、後療法プログラムの立案、ゴール設定、管理ができるようになる。

<授業の方法>

接骨院実習および少人数制のグループ単位を基本とし、実技・実習形態で行う。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（30%）、実習レポート（70%）で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会・監修 運動学 医歯薬出版

<参考書>

ヘレン・J・ヒスロップ、ジャクリン・モントゴメリー 新・徒手筋力検査法 協同医書出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	接骨院実習・ガイダンス	実習内容の説明
2	接骨院実習・身体計測	肢長・周囲径等
3	接骨院実習・関節可動域測定法	人体の面と線及び運動
4	接骨院実習・関節可動域測定法	上肢の計測
5	接骨院実習・関節可動域測定法	体幹及び下肢の計測
6	接骨院実習・関節可動域測定法	総合1
7	接骨院実習・関節可動域測定法	総合2
8	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	上肢の徒手筋力検査（MMT）
9	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	下肢の徒手筋力検査（MMT）
10	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	体幹の徒手筋力検査（MMT）
11	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	総合1
12	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	総合2
13	接骨院実習・神経学的検査法	上肢・下肢・体幹の神経学的検査法
14	接骨院実習・柔道整復師の保険施術について、施術協定、保険外診療など	保険で使用する傷病名、保険給付の仕組み
15	接骨院実習・接骨院の受付、施術者、スタッフの心掛けルール	接骨院での服装、挨拶、言葉使い、患者の立場になって、リスク管理等
16	接骨院実習・施術	上肢の手技療法1(stretching)
17	接骨院実習・施術	上肢の手技療法2 (massage)
18	接骨院実習・施術	上肢の運動療法
19	接骨院実習・施術	下肢・体幹の手技療法1(stretching)
20	接骨院実習・施術	下肢・体幹の手技療法2 (massage)
21	接骨院実習・施術	下肢・体幹の運動療法
22	接骨院実習・物理療法	物理療法機器の適応と禁忌及び実際の取り扱い1
23	接骨院実習・物理療法	物理療法機器の適応と禁忌及び実際の取り扱い2
24	接骨院実習・診察技法	問診に必要な技法と態度
25	接骨院実習・診察技法	臨床における施術録（カルテ）の書き方
26	接骨院実習・診察技法	紹介状・お礼状の書き方・問診のシュミレーション

27	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際（ロールプレイ）1
28	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際（ロールプレイ）2
29	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際（ロールプレイ）3
30	まとめ	総復習

科目コード	53031				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅱ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することも行う。

<授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネジメントが実行できる。

<授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髪、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えらるる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学ばなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施
18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施
21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施

28	接骨院実習	臨床実習施設で実施
29	接骨院実習	臨床実習施設で実施
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

科目コード	53063				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅲ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。実習指導者のもとで、将来柔道整復師を目指す学生として対象者の検査・測定評価を実施し、それにより障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療計画の立案・実施、再評価ができるようにする。

<授業の到達目標>

8つの目標を設定し、臨床実習に臨む事とする。①専門職としての適性を培いふさわしい態度をとることができる。②対象者のリスク管理に配慮できる。③柔道整復の施術を施行するための情報収集・検査測定ができる。④得られた情報を整理し、疾患と障害の構造を把握することができる。⑤目標を設定し、治療・援助計画を立案することができる。⑥対象者の再評価、治療計画の変更ができる。⑦患者との良好なコミュニケーションが取れる。⑧他の職種間との良好な連携が取れる。

<授業の方法>

整復臨床実習Ⅱを修了した者が本実習を受講することが出来る。臨床実習施設において4月～9月の期間中に1週間の現場実習を行う。実習指導者に従い、初診患者に対する医療面接および検査・測定の一部を実施する。後療法においては、実習指導者に従い、手技療法、物理療法、運動療法の一部を実施する。担当患者について実習指導者とともに対応し、その疾患についてレポート作成およびプレゼンテーションを実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例(担当患者)・実習内容(実技・講義・討論)をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学ばなかったのか」についてレポート(A4-1枚程度)を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか1
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
17	接骨院実習	到達目標の確認2
18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
21	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	到達目標の確認1	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
29	接骨院実習	到達目標の確認 3
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

科目コード	53064				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅳ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

整復臨床実習Ⅲで得た実習経験をもとに、更なる柔道整復業務の研鑽に務める。臨床実習施設および臨床実習施設において患者施術の補助をする。実習指導者のもとで、将来柔道整復師を目指す学生として対象者の検査・測定評価を実施し、それにより障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療計画の立案・実施、再評価ができるようにする。

<授業の到達目標>

整復臨床実習Ⅲで得られた到達目標を理解し、以下8つの到達目標の更なる研鑽に努める。①専門職としての適性を培いふさわしい態度をとることができる。②対象者のリスク管理に配慮できる。③柔道整復の施術を施行するための情報収集・検査測定ができる。④得られた情報を整理し、疾患と障害の構造を把握することができる。⑤目標を設定し、治療・援助計画を立案することができる。⑥対象者の再評価、治療計画の変更ができる。⑦患者との良好なコミュニケーションが取れる。⑧他の職種間との良好な連携が取れる。

<授業の方法>

整復臨床実習Ⅲを了した者が本実習を受講することが出来る。臨床実習施設において4月～9月の期間中に1週間の現場実習を行う。実習指導者に従い、初診患者に対する医療面接および検査・測定の一部を実施する。後療法においては、実習指導者に従い、手技療法、物理療法、運動療法の一部を実施する。担当患者について実習指導者とともに対応し、その疾患についてレポート作成およびプレゼンテーションを実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例(担当患者)・実習内容(実技・講義・討論)をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学ばなかったのか」についてレポート(A4-1枚程度)を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか1
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	到達目標の確認 1	到達目標の確認 3
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
17	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	到達目標の確認 4
21	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2

24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
29	接骨院実習	到達目標の確認 5
30	到達目標の確認 2	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

こども発達学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する保育者養成を目指している。それぞれ設定した次世代の発展と構築に貢献するテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを支援する。

<授業の到達目標>

上述の次世代の発展と構築に貢献するテーマに沿って研究を進め、研究を深める卒業論文または卒業制作を完成させる。

<授業の方法>

課題の整理と成果確認はゼミナールの構成員とともに共同でおこなうが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

30コマ（1コマ90分）は、課題の整理と成果確認の場であり、それ以外にフィールドワーク・情報収集結果総括の時間が必要である。卒業論文の執筆については、授業時間外に多くの時間を確保する必要があります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作への取り組み（30%） 卒業研究または卒業制作の成果物（70%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	研究目的・目標、研究方法
2	研究テーマ決定 1	文献検索
3	研究テーマ決定 2	文献・レビュー
4	バックグラウンド調査 1	フィールドワーク
5	バックグラウンド調査 2	データ処理
6	先行研究調査 1	文献調査活動
7	先行研究調査 2	参考、引用の文献決定
8	課題の考察 1	研究テーマの絞り込み（研究テーマと副題の決定）
9	課題の考察 2	課題の発掘
10	研究計画 1	研究方法の考察
11	研究計画 2	研究方法に基づく研究計画
12	フィールドワーク（データ収集） 1-1	フィールドワーク・情報収集の計画
13	フィールドワーク（データ収集） 1-2	フィールドワーク・情報収集の実施
14	フィールドワーク（データ収集） 1-3	フィールドワーク・情報収集の確認
15	データ処理・分析 1	データ処理方法の考察と計画
16	データ処理・分析 2	データ処理と分析
17	序論制作 1	論文の構成を考察
18	序論制作 2	序論の制作（研究テーマ設定の動機、理由、意義）
19	序論発表	序論の吟味
20	序論再構築	研究の方法の振り返りと整理
21	フィールドワーク（データ収集） 2-1	調査研究
22	フィールドワーク（データ収集） 2-2	データ処理と分析
23	本論制作 1	本論の制作
24	本論制作 2	全体像、概要の構築
25	中間発表	導き出される成果の構築
26	本論再構築	論文の再吟味
27	結論制作 1	論文全体の制作
28	結論制作 2	論文全体の確認修正
29	発表準備	卒業発表会の準備
30	研究成果発表	発表と口頭試問

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文を完成させる。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究への意欲(30%卒業研究(70%))

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

<授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. レポート発表及びディスカッションができる。3. 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。4. 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況に応じて個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（2～3時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文または卒業制作 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

20	中間発表①	をよりよいものにする。 それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

<授業の到達目標>

・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・ レポート発表及びディスカッションができる。・ 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・ 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（2～3時間程度）

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、卒業論文70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

20	中間発表①	をよりよいものにする。 それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

<授業の到達目標>

・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・ レポート発表及びディスカッションができる。・ 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・ 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（2～3時間程度）

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、卒業論文・口頭発表70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

20	中間発表①	をよりよいものにする。 それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	高橋 章二			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%（事前課題、レポート等）で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意, 評価方法, 講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意, 評価方法, 講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%（事前課題、レポート等）で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

赤間高雄（2014年3月） はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】 化学同人

Scott K. Powers., Edward T. Howley（2020年8月）日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	受講上の注意, 評価方法, 講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	心拍数・運動負荷試験・乳酸測定の方法
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解

28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆など、履修者相互が議論を行うことで、研究に関わる手法に関する理解を深めていく。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題の決定に関しては、履修者の学術的関心を引き出すため、議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

安宅和人 2010/11/24 特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自、自己の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告する。報告内容に関する質疑応答を行い、研究内容をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、互いに検討し合うことで、完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告する。それぞれの研究内容について、ディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	4年	配当学期	集中	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）
27	個別指導（6）	プレゼンの理解
28	個別指導（7）	プレゼン資料の作成
29	個別指導（8）	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	十河 直太			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期卒業論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	4年	配当学期	集中	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	卒業研究⑬	発表資料作成
29	卒業研究⑭	発表資料作成
30	ゼミ内研究発表会	統括

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

<授業の到達目標>

研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとり、基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献研究、プレゼンテーションの準備等

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、研究論文 50%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	研究方法の精査
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	4年	配当学期	集中	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000			区分	コア科目				
授業科目名	卒業研究 [PP]			担当者名	白石 翔				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのために、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした「4年間の学習の成果」と位置付けている。

<授業の到達目標>

本科目における到達目標は、体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得するとともに、自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけることとして、卒業論文を執筆することにある。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。その成果として学年末において卒業研究発表にてプレゼンテーションする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

<教科書>

随時教員が設定する。

<参考書>

随時教員が設定する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
2	研究課題の決定	研究課題を決定する。
3	文献調査①	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
4	文献調査②	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
5	文献調査③	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
6	予備実験調査・実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備調査・実験を実施する。
7	予備調査・実験Ⅰのデータ分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験Ⅰで取得したデータを分析し、調査方法やプロトコルの見直しを検討する。
8	予備調査・実験Ⅱ	予備実験Ⅰの結果をもとに、修正された調査方法や研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験Ⅱを実施する。
9	予備調査・実験Ⅱデータの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備調査・実験Ⅱで取得したデータを分析し、プロトコルの見直しを検討する。
10	本調査・実験①	本調査・実験の実施し、データを取集する。
11	本調査・実験②	本調査・実験の実施し、データを取集する。
12	本調査・実験③	本調査・実験の実施し、データを取集する。
13	本調査・実験④	本調査・実験の実施し、データを取集する。
14	本調査・実験⑤	本調査・実験の実施し、データを取集する。
15	本調査・実験⑥	本調査・実験の実施し、データを取集する。
16	データ分析①	本調査・実験で取得したデータを分析する。
17	データ分析②	本調査・実験で取得したデータを分析する。
18	データ分析③	本調査・実験で取得したデータを分析する。
19	データ分析結果の検討①	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
20	データ分析結果の検討②	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	データ分析結果の検討③	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
22	統計分析①	得られた結果を統計学的に分析する。
23	統計分析②	得られた結果を統計学的に分析する。
24	結果の考察①	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
25	結果の考察②	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
26	結果の考察③	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。

27	プレゼンテーション準備①	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
28	プレゼンテーション準備②	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
29	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
30	全体のまとめ	卒業研究活動全体を通じた総括

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	品田 直宏			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

日本コーチング学会（2017/4/4） コーチング学への招待 ?大修館書店

福永 哲夫（著）、山本 正嘉（著）（2018/10/1） 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ） 市村出版

高松 薫（2021/3/22） 競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望：実践と研究の場における知と技の好循環を求めて ? 筑波大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論中間発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論中間発表会	卒業論文に向けてのテーマ（仮）取り組みたい内容、方法を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	柴山 慧			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を卒業論文、またはゼミ論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

<授業の到達目標>

研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとり、基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献研究、プレゼンテーションの準備等

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、研究論文 50%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定 (1)	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定 (2)	研究テーマ発表と討議 (2)
5	研究方法の決定 (1)	研究方法の精査
6	研究方法の決定 (2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定 (3)	結果の検討
8	研究方法の決定 (4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範 (1)	良い例
10	卒業論文の模範 (2)	悪い例
11	研究計画の立案 (1)	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案 (2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験 (1)	予備実験 (1)
14	予備実験 (2)	予備実験 (2)
15	中間報告 (1)	中間報告 (1)
16	論文の組み立て (1)	章立て検討
17	論文の組み立て (2)	章立て発表
18	実験 (1)	実験準備
19	実験 (2)	実験実施 (1)
20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29	個別指導 (8)	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	明石 啓太			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードバックの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期卒業論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表

科目コード	36304			区分	コア科目				
授業科目名	体力学実習			担当者名	田中 耕作				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本実習は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす方法を学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 各種体力・形態を測定することができる2) 測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3) 測定結果をトレーニングに活かすことができる

<授業の方法>

実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

オンデマンド教材による予習をした上で実習に臨み、実習後には所定のレポートを提出すること

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業レポート70%、総合レポート30%

<教科書>

<参考書>

西園 秀嗣（2004年4月） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	体力学とは
2	体力測定の歴史 (1) ラボテスト	実験室における各種体力測定の歴史を学ぶ
3	体力測定の歴史 (2) フィールドテスト	フィールドにおける各種体力測定の歴史を学ぶ
4	形態の計測法	マルチン式人体計測法、ボディラインスキャナによる計測法
5	形態の評価	計測結果の理解と効果的なフィードバックの方法
6	体脂肪率・筋厚の測定法	皮脂肪法、空気置換法、超音波法による測定
7	体脂肪率・筋厚の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
8	最大挙上重量の測定法	1RMの測定法
9	最大挙上重量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
10	等速性最大筋力の測定法	股関節、膝関節および足関節の測定
11	等速性最大筋力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
12	ペダリングパワーの測定法	ハイパワー自転車エルゴメータによる下肢パワーの測定
13	ペダリングパワーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
14	各種競技動作の分析法	3次元動作解析システムを用いた各種競技動作の分析
15	各種競技動作の評価	分析結果の理解と効果的なフィードバックの方法
16	最大酸素摂取量の測定法 (1)	トレッドミルを用いた最大酸素摂取量の測定
17	最大酸素摂取量の測定法 (2)	自転車エルゴメータを用いた最大酸素摂取量の測定
18	最大酸素摂取量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
19	ランニングエコノミーの測定法	最大下強度および超最大強度のランニングエコノミーの測定
20	ランニングエコノミーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
21	無酸素性作業閾値の測定法	呼気ガスおよび乳酸を用いた無酸素性作業閾値の測定
22	無酸素性作業閾値の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
23	心拍数・心拍出量の測定法	心拍数およびインピーダンス法を用いた心拍出量の測定
24	心拍数・心拍出量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
25	跳躍能力の測定法	マットスイッチシステムを用いた各種跳躍能力の測定
26	跳躍能力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
27	疾走速度の測定法	レーザードップラー方式距離計測装置を用いた疾走速度の測定
28	疾走速度の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
29	フィードバックプレゼンテーション (1)	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
30	今後の課題と構想	今後の課題を発見し、実現するための構想を練る

科目コード	40302				区分	柔道整復実技			
授業科目名	整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	坂本 賢広／小玉 京士朗			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（理学検査、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、所見手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験90% 学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	下肢機能の評価	下肢関節の可動域測定法
2	下肢機能の評価	下肢機能の筋力評価（MMT）
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理論実技
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理学検査
5	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの固定法
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理学検査
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの固定法
9	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の理論実技
10	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
11	膝部の整復固定実技	膝蓋骨脱臼の理論実技
12	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
13	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法1
14	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法2
15	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理論実技
16	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理学検査
17	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の固定法
18	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査1
19	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査2
20	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査1
21	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査2
22	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理論実技
23	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理学検査
24	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の固定法
25	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理学検査
26	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の固定法
27	まとめ1	総復習1
28	まとめ2	総復習2
29	まとめ3	総復習3

科目コード	53062			区分	コア科目キャリア形成				
授業科目名	特別演習Ⅲ [社会調査士系]《通年》			担当者名	小堀 浩志				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「経営・マネジメント」「商学・マーケティング」「会社に関する法的問題」「現代経済」等の各領域について、担当教員の専門領域や学生が関心のある現代社会のトピックについて取り扱う。調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習することを目的とする。調査実施のすべての段階を経験し、社会調査を実践の場で実施できる人材を育成することを目標とする。現状の意識と行動と事実との関係性を調査ベースに追求していく。先行研究調査、文献調査を踏まえRQと仮説を明確にし、質問紙とインタビュー調査

<授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（G科目）である。「社会調査法」「プロジェクト研究（社会調査系）」「マーケティングリサーチ」の科目を単位取得済み、あるいは履修中であること。「情報分析論」「統計学」を履修すること。調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する授業である。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールド

<授業の方法>

自分のノートPCを授業【PC演習時】に持ってこられること、MS-Excelが使用できることが履修条件である。学内外でインタビュー調査も実施する。これによって、調査企画・個々情報の管理・調査倫理・調査票の作成・集計・コーディング・エラーチェック・統計的分析・報告書の作成といった社会調査全般の技術を習得し、併せて調査に臨む姿勢を学ぶ。既存文献調査を含めた調査課題の理解、ネット情報検索、論点の設定、調査企画書の作成、質問紙調査、インタビュー調査の実施、調査データの整理、傾向の把握、統計的推定、統計的検定作業の実

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回、次週の演習範囲を明示する。授業で積極的に発言・ディスカッションできるように次週のテーマに関わる情報収集、準備学習をすること（毎週最低でも1時間の予習が必要）。また、演習の度にまとめ・報告を提出する。次週の演習までに提出することが必要である（毎週最低でも1時間の復習時間が必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み：30%、調査報告：20%、レポート：50%6回以上の欠席は評価対象外とする。提出課題は、クラスルームの「課題」に提出が必要。これは、演習内容の理解と進捗を確認するものである。理解ミスや不足点を各自にクラスルームの「課題」上、でコメントを返す。また、次週の演習冒頭で宿題・進捗に対するコメントをフィードバックし、理解度と調査内容の完成度を高めていく。

<教科書>

<参考書>

金井雅之・渡邊大輔・小林盾(2012) 『社会調査の応用—量的調査編:社会調査士E・G科目対応』 弘文堂
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編著(2013) 『新・社会調査へのアプローチ——論理方法——』 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績基準、諸注意
2	社会調査とは、	調査の倫理、種類、調査事例、質的調査とは何かを理解する。
3	調査事例、質的調査の紹介	フィールドノート、参与観察、インタビュー
4	方法論のエッセンス(フィールドワークについて)	現象学的観察、観察から概念化、理論・推論のパターン、論理的に考える方法論、仮説創造、アブダクションについて、
5	[グループ作業] グループ討議およびテーマ設定	フィールドワークの各段階説明(初期・中期・後期) データ収集におけるフィールドノーツの書き方
6	[グループ作業] フィールドワーク演習	グループ作業を行う。町に出て、駅周辺あるいはショッピングモールで観察。
7	[グループ作業] フィールドワーク演習	フィールドノーツを作成(データ収集)、出来事が起こっている最中のメモを取っていく。
8	[グループ作業] フィールドワーク	暗黙知獲得の方法論、創造のプロセス 第2ステップ(仮説の一般化)、コーディング作業
9	[グループ作業] フィールドワーク	コーディング作業、カテゴリー化、GTAの演習
10	[グループ作業] フィールドワークについて(1)	都市型創造クラスター研究
11	[グループ作業] フィールドワークについて(2)	都市型創造クラスター研究、ディスカッション
12	[グループ作業] シナリオシンキングについて(1)	グランデッド・セオリー・アプローチ方法論の演習を実施

13	[グループ作業]シナリオシンキングについて (2)	シナリオロジックの明示、メタファ
14	[グループ作業]シナリオシンキングについて (3)	比喩 (メタファー) 、シナリオ作り (4つの世界の想定)
15	前期のまとめ	発表会
16	観察企業[組織] 参加挨拶 (目的理解期間)	会社 [組織] 紹介
17	ワークショップ (1) (目的理解期間)	イノベーションを起こそう!
18	テーマ紹介、調査テーマの決定、スケジュールの組み方	仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説 (概念化) と作業仮説
19	情報収集 (グループワーク)	グループで調査テーマを決める、問題 (群) を決める、テーマに沿って必要な情報収集
20	調査企画書の作成 (1) (グループワーク)	調査テーマ・仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説 (概念化) と作業仮説
21	調査企画書の作成 (2) (グループワーク)	情報収集結果に基づきワーディング、選択肢作成、ヒアリング項目の洗い出し。
22	調査の実施 (1) (グループワーク)	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
23	調査の実施 (2) (グループワーク)	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
24	調査データの整理 (グループワーク)	単純集計表・クロス集計確認、平均、分散、分位数、標準偏差、調査結果の大きな傾向の把握
25	調査全体の分析 (1) (グループワーク)	発表の方向性確認、不足情報の収集
26	調査全体の分析 (2) (グループワーク)	中間発表資料の作成
27	中間発表 (最終プレゼン準備)	全体討議、意見交換、不足情報の確認
28	最終発表会に向けた修正、追加情報収集、追加調査、追加資料作成 (最終プレゼン準備)	グループ討議、仮説の確認作業、発表資料の作成
29	最終資料完成作業 (最終プレゼン準備)	プレゼン準備、リハ
30	最終発表会	グループ単位で発表・討議する。

科目コード	27201				区分	専門基礎科目			
授業科目名	運動学特論 A				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動器外傷に対する治療および障害発生予防には身体機能の理解は必須である。運動学は、人間の身体運動の構造や性質を諸原理から選択し、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。

<授業の到達目標>

1. 運動学の領域と目的を理解し説明ができる。 2. 身体（骨・関節・筋・神経）の構造や機能について説明ができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）教科書を基にデジタル資料を配布し、講義を進めていく。時にグループディスカッションや発表を用いながら理解を深めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（解剖学（特に運動器系）の下調べ（毎回、1時間程度））復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，学習意欲10%

<教科書>

公益財団法人全国柔道整復学校協会 監修（2024年1月10日） 運動学 第3版 医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1 運動学の目的	A運動学とは/B運動学の領域と目的/C運動のとらえ方
2	2 運動の表し方	A運動の表示/B関節運動の表示/姿勢
3	3 身体運動と力学①	A身体運動に関する力/B人体における単一機械構造
4	3 身体運動と力学②	C運動の法則/D仕事と力学的エネルギー/重心
5	4 運動器の構造と機能①	A骨の構造と機能
6	4 運動器の構造と機能②	B関節の構造と機能
7	4 運動器の構造と機能③	C骨格筋の構造と機能
8	5 神経の構造と機能①	A神経細胞/運動単位
9	5 神経の構造と機能②	B末梢神経/C中枢神経
10	8 四肢と体幹の運動 (1)	A上肢帯の運動/B肩関節の運動
11	8 四肢と体幹の運動 (2)	C肘関節と前腕の運動/D手関節と手の運動
12	8 四肢と体幹の運動 (3)	E股関節の運動/F膝関節の運動
13	8 四肢と体幹の運動 (4)	F膝関節の運動/G足関節の運動
14	8 四肢と体幹の運動 (5)	H体幹と脊柱の運動/I頸椎の運動/L顔面および頭部の運動
15	8 四肢と体幹の運動 (6)	J胸郭と胸椎の運動/K腰椎，仙椎および骨盤運動
16		

科目コード	40123				区分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30% レポート：10% 実技：60%

<教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性について
2	マット運動	回転系接転技群
3	マット運動	回転系ほん転技群①
4	マット運動	回転系ほん転技群②
5	マット運動	回転系ほん転技群③
6	マット運動	連続技・技のつなぎ方について
7	とび箱運動	切り返し系切り返し跳び
8	とび箱運動	回転系回転跳び
9	鉄棒運動	支持系前方支持回転群
10	鉄棒運動	支持系後方支持回転群
11	鉄棒運動	懸垂系
12	総合練習	模擬演技の実践
13	マット運動	実技テスト
14	跳び箱運動	実技テスト
15	鉄棒運動	実技テスト
16		

科目コード	40123				区分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30% レポート：10% 実技：60%

<教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性について
2	マット運動	回転系接転技群
3	マット運動	回転系ほん転技群①
4	マット運動	回転系ほん転技群②
5	マット運動	回転系ほん転技群③
6	マット運動	連続技・技のつなぎ方について
7	とび箱運動	切り返し系切り返し跳び
8	とび箱運動	回転系回転跳び
9	鉄棒運動	支持系前方支持回転群
10	鉄棒運動	支持系後方支持回転群
11	鉄棒運動	懸垂系
12	総合練習	模擬演技の実践
13	マット運動	実技テスト
14	跳び箱運動	実技テスト
15	鉄棒運動	実技テスト
16		

科目コード	36501				区分	コア科目			
授業科目名	運動器の解剖と機能 I				担当者名	河野 儀久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」 日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	機能解剖学とは
2	体表区分	人体の区分
3	運動の表し方	基本多岐な関節運動
4	運動器の構造と機能	骨の構造
5	運動器の構造と機能	関節の九蔵と機能
6	運動器の構造と機能	靭帯の構造と機能
7	運動器の構造と機能	筋・腱の構造と機能
8	運動器の構造と機能	骨格筋の構造と機能
9	体幹の機能解剖と運動	脊柱の運動
10	体幹の機能解剖と運動	頸椎の運動
11	体幹の機能解剖と運動	胸椎の運動
12	体幹の機能解剖と運動	腰椎の運動
13	体幹の機能解剖と運動	仙椎の運動
14	体幹の機能解剖と運動	骨盤の運動
15	まとめ	総合学習
16		

科目コード	23211				区分	コア科目			
授業科目名	教育心理学				担当者名	安永 和央			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講義では、乳幼児期から成人期までの身体的・認知的発達について学び、これらの特徴を踏まえて、動機づけや学習指導、教育評価、学級集団等に関する理解を深める。

<授業の到達目標>

授業概要で述べる内容に関する理論的な知識や実践的な知識を獲得し、これらの知識を実際の保育・学校教育場面で活かすことができる力を身につける。

<授業の方法>

本科目はオンデマンド授業です。まず講義の動画を視聴し、その後教科書の指定されたページを各自で読んでもらいます。最後に、授業に関して理解できているかを確認するためのテストに解答してもらいます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の復習が必要である（学習時間：1時間～1時間30分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への出席、毎回の授業の最後に実施する確認テスト及び定期試験により総合的に評価する。

<教科書>

櫻井茂男 監修・黒田祐二 編著（2021年4月15日） 実践につながる教育心理学 [改訂版] 北樹出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、心理学における研究法の種類
2	心と身体の発達①	発達の特徴、臨界期、発達曲線、胎生期（胎児期）、乳児期、幼児期
3	心と身体の発達②	児童期、青年期、成人期、輻輳説、相互作用説、発達の最近接領域
4	認知と思考の発達	認知発達理論の背景、ピアジェの認知発達理論
5	記憶のメカニズム①	感覚記憶、短期記憶、長期記憶
6	記憶のメカニズム②	系列位置効果、意味記憶の深い理解、忘却
7	錯視の世界	知覚、盲点、融像、錯視、選択的注意
8	学習の理論	古典的條件づけ、道具的條件づけ
9	動機づけ①	欲求、外発的動機づけ、内発的動機づけ、統制的動機づけ、自律的動機づけ
10	動機づけ②	学習に対する価値づけ・期待、原因帰属、学習性無力感
11	学習指導	有意味受容学習、発見学習、協同学習、プログラム学習、適性処遇交互作用
12	教育評価	教育評価の時期・基準・主体、パフォーマンス評価、ルーブリック評価
13	学級集団	学級集団の種類・発達過程・機能、教師のリーダーシップ
14	パーソナリティ	類型論と特性論、行動観察法、面接法、心理検査法
15	定期試験	
16		

科目コード	35216				区分	専門基礎			
授業科目名	スポーツ科学入門 [PP用]				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマ ンド	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

<授業の到達目標>

スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

<授業の方法>

教科書を用いてオンデマンド形式で実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）

<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびレポートに取り組むこと。（所要時間：1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

<教科書>

大学スポーツ協会（2021年12月） マンガで学ぶ・スポーツ知への招待 KEIアドバンス

伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日） なるほど「最新・スポーツ科学入門」 化学同人

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ哲学入門	スポーツ哲学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。
14	スポーツ社会学入門	スポーツ社会学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。
15	まとめ	ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
16		

科目コード	25100				区分	専門基礎科目			
授業科目名	体育原理 [PP以外用]				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の提出 (約10分) 2. オンデマンド資料視聴①：解説と問いの提示 (約10分) 3. 意見交換：上記テーマに即した意見の提出と他のみんなの意見を確認する (約30分) 4. オンデマンド資料視聴②：解説と問いの提示 (約10分) 5. 授業後レポートの提出 (約30分)：字数制限有次週課題の確認 (→自宅学習：約30~60分)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回の授業で取り上げる問題について思考し、自分なりの回答を用意し、授業における討議において積極的に言葉にすることで思考し、体育・スポーツの本質に関わる自己内対話を行う。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

予習課題：20%、意見交換：20%、授業後レポート：40%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。なお10回目終了後、成績不良者は12回目以降、対面授業を行うこととします。

<教科書>

<参考書>

友添秀則、岡出美則 編 (2016年) 教養としての体育原理 大修館書店
高橋 徹 編 (2021年) はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学 サンメッセ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する 2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とは	体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する
3	体育とスポーツは何が違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
4	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、〈できる〉とはどういうことかを検討する
5	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
6	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
7	体育と指導者	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
8	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報(データ)に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
9	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
10	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ(遊び)について学び、自分の意見を検討する
11	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
12	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
13	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
14	スポーツと社会	スポーツ需要の質的变化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する
15	スポーツとコミュニティまとめ	1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する 2) 体育原理を総括する
16		

科目コード	25101				区分	専門基礎科目			
授業科目名	健康科学概論				担当者名	十河 直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

人が健康的に生きていくためには、複合的な要素を多く必要とする。本科目では、運動習慣の少ない者から多い者まで多岐にわたり、運動と健康に関連する要素を様々な面からアプローチする。また、実際の現場で行われている手法や現状、最新の研究結果も併せて紹介する。

<授業の到達目標>

健康の維持・増進の立場から運動やスポーツの目的や役割、意義を理解する。

<授業の方法>

授業では事前課題と事後課題、意見交換をGoogle classroomを用いて行うため、PC機器をインターネットに接続できる環境が必要である。オンデマンド形式で実施する際は、課題の視聴、回答あるいは意見交換を全てオンラインで行う。対面形式ではパワーポイントなどのスライドを提示する。授業内での課題提出をオンラインで行うこともあるため、対面形式で授業を実施する際もPCを必ず持参すること。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各講義内容に対して関連する参考書や論文に目を通し、予備知識を得ておくことと理解しやすい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講意欲・態度 30%，小テスト30%，期末試験 40%

<教科書>

<参考書>

ビクター カッチ, ウィリアム マッカードル, フランク カッチ(著) 2017/9/15 カラー運動生理学大事典:健康・スポーツ現場で役立つ理論と応用 西村書店

日本体育協会(監修), 田中 喜代次(編集) 2013/5/30 健幸華齡(Successful Aging)のためのエクササイズ サンライフ企画
安倍孝, 琉子 友男(編集) 2015/3/21 これからの健康とスポーツの科学 KSスポーツ医科学書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	運動・競技スポーツと健康の関係
2	運動とエネルギー供給機構	糖・脂質・タンパクの代謝経路と運動との関係
3	身体発達と加齢	幼児～青年～成人～高齢者にかけての変化と健康科学との関連
4	生活習慣病関連疾患(概要)	近年の生活習慣病の現状
5	生活習慣病関連疾患①	心血管疾患
6	生活習慣病関連疾患②	肝機能関連疾患
7	運動処方と食事療法	健康を維持するための運動・食事プログラムと実践例
8	アスリートの健康科学①	内科的・外科的アプローチ(概要)
9	アスリートの健康科学②	オーバートレーニング, 摂食障害, 過換気症候群
10	スポーツ傷害	外傷・障害に対する予防・対処法
11	ドーピング	フェアプレーとアンチドーピング
12	アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツの現状と課題
13	性差	性差が健康・運動に及ぼす影響
14	女性アスリート①	月経周期や女性ホルモンの役割
15	女性アスリート②	Female Athlete Triadと今後の課題
16		

科目コード	0				区分	専門基礎			
授業科目名	社会調査法				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

社会調査は「社会」を知るために、様々な方法を用いて関連する資料を収集し調べる営為である。調査によって得られるデータ（エビデンス）は、国や行政の政策決定はもちろん、個人の生活や歴史の状況の把握、企業などの方向性を決める判断基準、根拠となる。また、調査の質を保証することは、科学的な客観性（意味的普遍性）を持ったエビデンスを得るために必要不可欠である。同時に、世間にあふれる様々な調査の結果を鵜のみにするのではなく、その調査がいかなるものであるのかを知り、依拠するに足る妥当性を有しているかを判断するリテラシーも求

<授業の到達目標>

・社会調査の歴史、および昨今の社会調査事例を学び、その方法論の成立背景や変遷過程、合理性を理解し、それぞれの特色（メリットやデメリット）を説明できる。・既存の身近な社会調査を対象にして、その方法的な特色を説明できる。・上記2点を踏まえて、自ら調査目標を設定した上で適切な方法論で調査を設計できる。

<授業の方法>

主にPower Pointを用いた講義形式で行う。必要に応じて社会調査の実践的な課題を行うことで社会調査の基礎を体験する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回に該当する範囲について事前に調べて、関連するワード等を確認する専門用語が多い分野であるが、おおよそインターネット等で調べれば平易に理解可能である。週最低でも1時間の復習時間が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（30%）、課題提出（20%）、最終課題（50%）によって評価する。

<教科書>

<参考書>

三井さよ・三谷はるよ・西川知享・工藤保則編（2023年3月10日） 『はじめての社会調査』 世界思想社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション社会調査とは何か？ その目的と意義	「社会」について「正しく」知ることの意義（知識を構成する事実、通説、俗説について）、社会調査士資格について
2	社会調査の歴史	デュルケムの自殺論、シカゴ学派、ミッドルタウン調査（リンド夫妻）、ホーソン実験（メイヨー）、日本の社会調査
3	社会調査の方法論	問題意識、調査のマインド
4	調査倫理	適切な人間関係、倫理規程
5	調査の方法―質的調査	質的調査とは、質的調査の特性、質的調査の種類
6	質的調査の方法	参与観察、インタビュー
7	質的調査の分析	調査の進め方、分析の進め方、ライフヒストリー、ドキュメント分析
8	質的調査の事例	研究事例から具体的な方法を学ぶ
9	調査方法―量的調査	量的調査とは、量的調査の特徴
10	調査票調査の設計	問題設定、調査設計、調査票の作成
11	サンプリング	母集団と標本、無作為抽出法、目標精度
12	実査と分析	調査の手順、エディティング、コーディング、クリーニング
13	量的調査の事例	研究例から量的調査を学ぶ
14	公的統計	統計法、基幹統計、国勢調査
15	まとめと全体のふりかえり	何のために社会調査を行うのか、社会調査の可能性
16		

科目コード	24108			区分	専門基礎				
授業科目名	英語文学			担当者名	渡辺 浩				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

“今回このコースにおいては、中心的なテーマとして、英国の児童文学やファンタジーに関する歴史と背景、また作品そのものの鑑賞と批評を行う予定である。このことにより国際性と文化・文学の多様性も併せて学んでゆく。現在も英国では児童物語やファンタジーが盛んである。その種類と背景は、マザーグースにみられる童謡や妖精物語、政治・風刺小説から生まれた作品、また歴史や宗教に関する題材を含むものなど多岐にわたっている。そうした長い歴史を持つ英国児童文学の歴史と背景、作品を総合的に学習する。”

<授業の到達目標>

イギリスにおける児童文学やファンタジーの作品・作家を知るとともに、その歴史や文化的な背景を学ぶことを目指す。さらに興味のある作品等を原典を含めて読み進み英語力も養成することを目標とする。

<授業の方法>

“音声や動画教材を使用して、実際に作品に触れてゆく機会を設け、音読や簡単なディスカッション、Q&Aの時間を設けて双方向性の学習を図る予定である。メールその他による質問の受付、課題作成等のアドバイス・質問の対応は常時行う予定である。”

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

“テキスト内容や補助教材等の予習は一通りしっかり行い、疑問点等を明確にしておいていただきたい。毎回、前回の授業内容を基に、小テストを行う予定である（問題準備の内容は事前に通知予定）。毎回の準備と復習が全体の理解に大いに繋がると考えられる。”

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等課題（60%）、授業参加度（20%）、発音・その他授業中の活動（20%）

<教科書>

必要教材は全て授業中、もしくは事前に配布する（プリントと関連事項の説明込。）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	英国の童話の歴史と全体像の説明。授業の進め方の説明。	英国の児童文学は長い歴史があり、多くの著名な作家作品を生み出している。その全体像を学習する。
2	マザー・グースの伝統と内容について。	現在でも英国だけではなく世界的に影響のあるマザー・グースの内容紹介と学習を行う。
3	ピーター・ラビットの誕生。	英国の絵本の中心的な作品、ピーター・ラビットの誕生と背景を学ぶ。
4	熊のプーさんの背景について。	アニメキャラクターとしても有名な熊のプーさんの誕生と影響を学ぶ。
5	アリスとは誰か。	『不思議の国のアリス』は複雑な物語である。その誕生と内容を探る。
6	ロビン・フッドについて。	英国伝説の柱の一つロビン・フッド伝説を考察する。
7	アーサー王物語について。	英国だけでなく世界的な伝説であるアーサー王伝説について学ぶ。
8	ロビンソン・クルーソーについて	著名な英国冒険物語、『ロビンソン・クルーソー』について学ぶ。
9	ガリバーの背景について	英国冒険物語、ファンタジーの始祖ともいえる『ガリバー旅行記』を考察する。
10	ディケンズの童話について	英国の大作家、ディケンズの童話を中心に考察する。
11	シェイクスピアと童話	シェイクスピア作品と童話の関連を考察する。
12	ピーター・パンについて。	劇やアニメでおなじみのピーター・パン誕生とその歴史をさぐる。
13	ホビットの物語について。	『指輪物語』の元にもなったホビットの冒険物語を考察する。
14	ナルニアの背景について。	現在でも人気が高い『ナルニア国物語』の誕生と背景を考察する。
15	ハリー・ポッターについて	現代の童話、ハリー・ポッターの魅力について考察する。
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	品田 直宏／梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

<授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

<授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社

日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	34124				区分	専門基礎			
授業科目名	幼児と表現				担当者名	高崎 展好/後藤 由佳/宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本科目では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。そのため授業では、幼児期の表現の姿やその発達の特徴をふまえ、身体・造形・音楽表現などの様々な表現との豊かな関わりを育むための指導の在り方を体験を通して学ぶ。

<授業の到達目標>

(1) 幼児期の表現の姿やその発達の特徴を理解し、幼児の感性や創造性を豊かにするための知識を会得する。(2) 幼児の身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。(3) オペレッタという表現形式に関する基本的な理解を深め、オペレッタ上演の意義を理解する。(4) オペレッタの音楽や歌、ダンスや振り付けのリハーサルを通じて、表現力の向上を目指す。(5) グループワークやリーダーシップの役割を通じて、協力し合いながらオペレッタを上演するためのチームワー

<授業の方法>

領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについての講義を踏まえた上で、演習を行い、保育・幼児教育に必要な様々な「表現」を体験し、その手法を身につける。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書に指定されている、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領より領域「表現」について必ず予習を行うこと。また授業内容について振り返り学習を行い、理解を深めること。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲(20%)、毎回の授業内に提出する小レポートや課題作品(60%)、定期試験(20%)

<教科書>

平成29年3月告示 幼稚園教育要領
平成29年3月告示 保育所保育指針
平成29年3月告示 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要と導入	・幼児期の表現の重要性と特徴の概観・オペレッタの概要と意義の紹介・オペレッタ上演の目標と学習成果の明確化
2	幼児の表現の姿と発達	・幼児期の感性や創造性の発達段階の理解・身体表現、造形表現、音楽表現などの幼児の表現形式の特性と相互関係の考察
3	オペレッタの基本構成要素	・オペレッタの構成要素と役割の解説・台本の読み解きと役割分担の設定
4	オペレッタの役作りと表現指導	・役柄に対する理解と感情表現の指導法・声の使い方や表情のトレーニング
5	ダンスと振り付けの基礎	・ダンスの基本姿勢と動きの基礎・オリジナル振り付けの考案と練習
6	舞台演出と演技練習	・舞台上での位置取りと動きの確認・シーンごとの練習と指導
7	オペレッタの音楽とリハーサル	・音楽の基本的な要素とオペレッタの楽曲の解説・音楽と歌のリハーサル
8	舞台セットと衣装の準備	舞台セット(舞台背景、大道具、小道具)の設計と製作の基礎衣装のデザインと制作の手順
9	プロップスの活用	・小道具の選定と使い方の指導・オペレッタに必要なプロップスの準備と活用法
10	全体リハーサルと調整	・全体の動きや表現の調整と練習・音楽と歌、演技の統合
11	最終リハーサルと評価	・最終リハーサルの実施と振り返り・グループ内評価と改善点の特定
12	公演準備と舞台セッティング	・公演の準備と舞台のセッティング・公演日程とチケットの販売・配布
13	公演日: オペレッタ上演	実際の公演を行い、幼児とその保護者に向けてパフォーマンスを披露
14	公演後の振り返りと評価	・公演の反省と成果の評価・個人的な学びやグループの成長についての振り返り
15	総括と学習成果の確認	・振り返りと学習成果の評価・幼児の表現力向上に向けた今後の取り組みの提案
16	定期試験	

科目コード	28102				区分	専門基礎科目			
授業科目名	経済学概論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

<授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

<授業の方法>

講義形式で行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

経済学の基礎となる授業なので、わからないところを残さないよう、毎回予習・復習を30分程度行うこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

時々実施する確認テスト（60%）と最後のまとめテスト（40%）で評価する。

<教科書>

<参考書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022） 入門経済学〔第四版〕 創成社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15	小テスト	講義内容確認のテストを行う。
16		

科目コード	34312			区分	子どもの保健				
授業科目名	子どもの保健			担当者名	新沼 正子				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、保育者が身につけなければならない、子どもの「身体的発育・発達」や「保育現場における衛生管理（手洗いや排せ、衣服の着脱、清潔活動など）」、「安全教育・安全管理」等の保健課題を学習する。子ども（乳幼児期）の心身の発達段階を理解し、その発達には生活環境が大きく影響を与え、その関連性を学ぶ。専門職、保育士・幼稚園教諭として子どもの心身の保健の保持が図れる能力の基礎を培う。そのため、小児各期の身体発育、生理機能・精神運動機能の発達について基礎知識を習得する。

<授業の到達目標>

この授業の到達目標は、保育士や幼稚園教諭といった保育者だけでなく、大人は、子どもの保護者として「子どもの命を守る」責任ある事を自覚し、具体的な保健行動ができる態度を身につける事としている。具体的には、責任ある適切な保健行動ができるよう専門知識と技能を身に付ける。手洗いや清潔、衣服の着脱などの衛生管理や安全教育・安全管理により事故を未然に防ぐ技術や万が一の場合の適切な処置ができるよう実践を交えて修得できるようになる。

<授業の方法>

双方向の参加型の講義形式で授業する。但し、必要に応じてグループ討議・DVD等を取り入れる。毎授業ごとに課題を実施し、理解度を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：シラバスにて予告された学習内容を教科書にて事前に熟読する（1時間程度）。毎授業ごとに次にすべき予習事項を告知する。

復習：授業で学習した内容を日常生活の中で実践予想し、保育者として援助・指導できる専門技術について振り返る（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度15%、課題と小テスト等 35%、まとめテスト50%で総合的に評価する。

<教科書>

八木利津子 平松恵子 新沼正子（2020年3月23日発行） 子どもと社会の未来を拓く「子どもの保健」 青踏社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	子どもの心身の健康と保健の意義①	オリエンテーション、生命の保持増進と情緒の安定に係る保健活動の意義と子どもの保健を学ぶ目的
2	子どもの心身の健康と保健の意義②	健康の概念と健康指標
3	子どもの心身の健康と保健の意義③	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4	子どもの心身の健康と保健の意義④	発達障害の概念と心の健康課題
5	子どもの心身の健康と保健の意義⑤	地域における保健活動と児童虐待防止
6	身体的発達・発育と保健①	身体発育及び運動機能の発達と保健
7	身体的発達・発育と保健②	生理機能の発達と保健
8	子どもの心身の健康状態とその把握①	健康状態の観察
9	子どもの心身の健康状態とその把握②	慢性疾患のある子どもの保育
10	子どもの心身の健康状態とその把握③	不調等の早期発見、発育・発達の把握と健康診断
11	子どもの心身の健康状態とその把握④	保護者との連携と情報共有
12	子どもの疾病の予防と適切な対応①	主な疾病の特徴
13	子どもの疾病の予防と適切な対応②	感染症の基礎知識他
14	子どもの疾病の予防と適切な対応③	子どもの疾病の予防と多職種連携
15	まとめ	まとめと筆記試験
16		

科目コード	28118				区分	専門基礎			
授業科目名	都市計画論				担当者名	阿部 宏史			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

都市は成長、発展、衰退を繰り返しながら継続的に変化しており、国や自治体による公共経営では、都市の持続的発展を維持していくために、人口、産業、市街地などの変化を計画的、戦略的にコントロールしていくことが必要である。本講座では、身近な対象都市として岡山市とその周辺市町村を取り上げ、最近の都市づくりの課題や都市計画の仕組みを平易に解説する。また、各自が選んだ都市を対象として持続可能な都市づくりに向けた各自の意見をまとめるとともに、最近の政策課題についてグループワークを行う。講義を通じて、自治体における都市づくり

<授業の到達目標>

以下の3項目を到達目標とする。1. 都市の変化と都市問題の発生原因について、概要を理解している。2. 自治体の都市づくりにおいて考えられている政策や計画の概要を理解している。3. 具体的都市を対象として、都市づくりの課題と対応について意見を述べることができる。

<授業の方法>

第1～7回の授業では、講義や演習を通じて、最近の都市問題に対する理解を深める。第8回の授業では、都市問題に関する理解と考察に基づいて、グループ単位での意見交換を行う。第9～11回の授業では、最近の都市計画について概要と先進事例を解説する。第12～15回の授業では、岡山市や各自が対象として選択した都市の都市づくりを対象とした意見をまとめ、グループ討論を行う。①ディスカッション、②グループワーク、③プレゼンテーションに際しては、必要に応じてオンラインによる授業を併用していく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業テーマに沿って、国や自治体のホームページに掲載されている都市計画や都市づくりの事業などを参考資料として紹介し、調査や振り返りを行う。予習・復習を合わせて毎週4時間程度の学習時間とし、成績評価に反映する。都市づくりの課題や都市計画の構成を体系的に学習したい人のために、参考図書やインターネット資料などを紹介する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成績評価は、授業参加態度50%、授業経過レポート30%、最終報告評価20%程度とする。

<教科書>

岡山県庁_土木部都市局都市計画課 「岡山県の都市計画(最新年度版)」岡山県庁が年度毎に改訂し、PDFを以下のホームページに掲載している。<https://www.pref.okayama.jp/page/672085.html> 岡山県庁

<参考書>

五十畑弘(2020年6月15日) 図解入門 よくわかる「最新 都市計画の基本と仕組み」(<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784798060637>) (株)秀和システム

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを説明する。
2	都市と都市圏の形成	具体例として、岡山市、倉敷市などの都市と都市圏の形成について考察する。
3	都市の成長・衰退と都市問題：①人口	人口に着目して、少子化・高齢化、都市の成長・衰退と持続可能な発展における人口の課題を考察する。
4	都市の成長・衰退と都市問題：②産業経済	都市の産業経済に着目して、都市の成長・衰退との関係を考察する。
5	都市の成長・衰退と都市問題：③土地利用・住宅	都市における市街地の形成と土地利用・住宅問題の発生について考察する。
6	都市の成長・衰退と都市問題：④交通	自家用交通手段と公共交通手段を中心に、都市交通の課題について考察する。
7	都市の成長・衰退と都市問題：⑤都市環境	都市で発生している環境問題と地球環境への影響について考察する。
8	都市問題の発生原因と解決可能性の考察	①～⑤で解説した都市問題への対策について各自の意見をまとめるとともに、グループ単位で意見交換を行う。
9	都市計画の必要性と対応策：①市街地整備とまちづくり	都市計画のうち、市街地整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
10	都市計画の必要性と概要：②都市施設整備とまちづくり	都市計画のうち、都市施設整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
11	都市計画の必要性と概要：③景観・環境の保全とまちづくり	都市計画のうち、景観・環境保全の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
12	都市計画マスタープランの比較・考察	対象都市として岡山市を取り上げ、過去2時点の都市計画マスタープランを比較・検討し、都市づくりの変化と課題の推移を考察する。
13	岡山市の都市づくりに関する提言のまとめ	各自の考察結果に基づいてグループワークを行い、都市計画やまちづくりに関する

	め	提言とりまとめを行う。
14	対象都市における都市計画の調査	各自が対象として取り上げる都市について都市計画の概要を調査し、グループ単位によるプレゼン発表の準備を行う。
15	意見交換会による講義の総括	グループ単位の発表・意見交換会を通じて、講義の総括を行う。
16		

科目コード	0				区分	専門基礎			
授業科目名	公共経営論				担当者名	山本 満理子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	2単位

<授業の概要>

現代においては、国・地方公共団体だけでなく、企業や民間組織、そして私たち市民一人ひとりも公共経営の担い手です。本科目では、公共経営のエッセンスを学ぶとともに、社会に出た後それぞれの立場から「公共を運営する」プレーヤーとしての視野を身につけることを目的とします。

<授業の到達目標>

公共経営のしくみを理解し、学んだ知識を活用し、公共経営のプレーヤーとしての視野を身につける。

<授業の方法>

基本的には教科書の内容をもとに進めますが、将来、公共経営のプレーヤーとして活躍できるよう、公共経営を実際に担う様々なプレーヤーから直接に話を聞く機会や先行事例研究などのPBLなども設ける予定です。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習30分 復習30分

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席等）30%、課題レポート30%、プレゼンや質疑、グループワークにおける貢献度40%により成績評価を行う。

<教科書>

杉永佳甫編（2015.4.1） 『公共経営学入門』 大阪大学出版会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	公共経営学とは	ガイダンス、公共とは、公益に資する行動とは
2	政府のしくみと役割	政府とは何か、中央政府／地方政府とは
3	市民社会と地方自治体	市民社会、協働
4	日本の社会問題と経済	経済格差、グローバリゼーション、少子高齢化
5	新しい公共経営	新公共経営論、NPO法人
6	公共経営の戦略マネジメントモデル	公共経営戦略マネジメント、SWOT分析
7	新しい公共の担い手-NPOとソーシャルビジネス	ソーシャルビジネスとは、ソーシャルビジネスの成長支援
8	CSR（企業の社会的責任）と持続可能性	CSRとは、世界と日本のCSR
9	公共経営とソーシャル・キャピタル-人と地域社会をつなぐ絆	ソーシャル・キャピタルとは、ソーシャル・キャピタルと公共経営
10	グローバル化と新しい公共	グローバル化とは、地球環境
11	文化による地域づくり	文化と地域、文化振興
12	スポーツ振興と地域づくり	スポーツのもつ公共性、生涯スポーツ
13	高齢社会と社会保障	日本の高齢化、高齢者福祉
14	環境問題と公共経営-持続可能な発展に向けた環境ガバナンス	環境問題、持続可能な発展
15	被災地支援の取り組み-阪神・淡路大震災と東日本大震災から学ぶ、授業のまとめ	災害と市民活動、授業のまとめ
16		

科目コード	21100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教職入門				担当者名	久田 孝			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よるこびややりがいを、実際の学校現場での実践、事例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめて上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回1時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート・小テスト 70%※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・代表編著2020, 4 『新しい視点から見た教職入門』 大学教育出版
「渡邊 正樹 2020, 3, 27」「女性スポーツ研究センター 2020, 12」「学校安全と危機管理」「女性アスリートダイアリー2021」
「大修館書店」「大修館書店」
文部科学省 2010, 3 生徒指導提要 教育図書

<参考書>

梶田叡一 2010, 8 改訂 実践教育評価辞典 文溪堂
梶田叡一 2012, 8 教育フォーラム50<やる気>を育てる 金子書房
日本学校メンタルヘルス学会 2017, 9 学校メンタルヘルスハンドブック 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	求められる教師像	教師（学校）をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。
4	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。
6	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
7	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。
8	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
9	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
10	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
11	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
12	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。

13	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
14	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
15	まとめ	①これまでの学びをふり返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見直しをもつ。
16		

科目コード	22200				区分	専門基礎科目			
授業科目名	言葉の理解 [FE2422組用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校教育の指導者に求められる、国語の知識・技能、思考力・判断力・表現力等を高めていくことを目的としています。そのために、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化といった内容領域ごとに小学校国語教科書の教材を用いて具体的に講義を行います。特に物語文の教材において言葉を通して作者が織りなす表現技術について学ぶことを重視します。また講義と並行してグループディスカッション、発表などの演習も取り入れていきます。

<授業の到達目標>

小学校国語科における内容について理解することを到達目標とします。また、その内容に関わる言語活動を実際に経験する中で、ことばの学習の面白さ、奥深さを実感するとともに、授業実践の基礎となる国語の知識・技能、思考力・判断力・表現力を向上させることを目的とします。さらには小学校の教師として必要な素材研究・教材研究の領域も網羅します。

<授業の方法>

話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化といった内容領域ごとに講義を行います。特に読むことに時間を割きます。その後で個人の考えをまとめる→グループディスカッション、発表等演習的な授業の流れとします。個人用パソコンも使用するときは指示しますので持参して下さい。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で扱う教材は前もって紹介しますのでもし機会があれば前もって読んでおくとよいでしょう。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回のレポート30%、授業中の態度20%、最終レポート50%とします。

<教科書>

<参考書>

文部科学省(2018/2/28) 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の目標と概要授業の説明・成績判定について小学校国語科の内容についての概観
2	言葉の由来や変化、方言について	教科書教材「和語・漢語・外来語」を通して言葉の由来や変化について学びます。さらに方言を通して方言の広がり方などを学び言葉のおもしろさについて理解を深めます。
3	伝統的な言語文化主に古典を教材にして言葉の持つリズムや響きを味わいます。文法的なことは極力省き描写そのものを味わうようにします。	古典を教材として言葉の響きやリズムを味わうために音読を積極的に取り入れます。さらに同じ言葉でも昔と現代では意味が違っていたり、古語一語だけで人物の様子や人間関係が分かたりする描写を通して言葉の持つおもしろさに迫ります。
4	教材を原文で読む試み 第2学年教材「スイミー」	教材を原文で読んでみて、場面の理解と情景の想像を深めよう教科書教材を原文で読み情景描写をつかもう例えば「美しい」一語にしてもprettyとbeautifulがあります。原文ではどう使い分けられているか、そこから叙述を読み取るようにします。
5	物語を劇化することにより話の内容を理解しよう	「あなたは映画監督 物語の台本を作ろう」小学校第1学年教材「くじらぐも」を教材にして音読劇の台本作りをします。台本作りを通して作品の舞台背景や叙述の工夫を読み取るようにします。
6	場面を理解する音読の工夫音読で自分の読み取りを表現する「おおきなかぶ」	学習のめあて全文を読んで内容を理解しよう。自分の理解した内容を友達に音読で伝えよう「大きなかぶ」を教材に、友達の意見と対比するためにこの教材文をどう読むか、個別に考え他の意見と比較し叙述を味わうようにします。
7	書くこと「読書感想文を書きましょう」	小中学校では必ず書く読書感想文の書き方を学習します。さらに公立小学校で課される作文コンクールについても取り上げ、書き方について考察します。
8	「話すこと・聞くこと」(1)「どちらを選びますか」を基に、説得力のある話し型(方ではなく)を学びます。	二つの話し型を聞いてどちらが説得力があるか考えます。そしてその原因を考え、説得力のある話し型の条件を考えます。
9	「話すこと・聞くこと」(2) 説得力のある提案をしましょう	5年生教材「提案しよう、言葉とわたしたち」を基に、説得力のある話し型を考えます。
10	「話すこと・聞くこと」(3) 話すこと・聞くことのまとめとしてディベートをし	話すこと・聞くことのまとめとしてディベートを演習として学習します。テーマを決め賛成派、反対派、判定者に分かれてディベートを行います。時間が許せばビブ

11	てみましょう。 読むこと（説明的な文章）（1）よく分かる文章構成を考えましょう	リオバトルも紹介します。 「創造力のスイッチを入れよう」を基に、実証型の説明文の読み方について考察し、分かりやすい文章構成について学びます。
12	読むこと（物語文）（2）作者の文章構成の工夫について学びましょう。	4年生教材「ごんぎつね」を取り上げます。そして作者の文章の表現の工夫について学びます。合わせて読書についても言及します。
13	読むこと（物語文）（3）作者の工夫について学びましょう	「大造じいさんとガン」を基に、作者の表現の工夫について学びます。そして描写により読者が書かれていないことを自然に想像している（感動を覚えている）効果について考えます。
14	サブタイトルを通して物語の内容をつかもう	教材文のテーマだけでは物語の内容はつかめません。そのため読者が物語の内容が一目で分かるようなサブタイトルをつけます。その学習を通して要約する力を身に付けます。
15	まとめと復習	全体の内容のまとめと復習をします。そして学校現場での素材研究・教材研究の在り方を学習します。
16		

科目コード	22201				区分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [FE2431組用]				担当者名	平松 茂			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の生活科や理科を指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

<授業の到達目標>

1. 動植物、物理、化学などのいろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

<授業の方法>

1. 返却されたレポートを見返し、必要に応じて質問する。2. 記録を取りながら受講し、児童の気持ちになって観察・実験を行う。3. 観察・実験結果の考察を個人でまとめ、グループで共有する。4. スマホ、タブレットPC、プロジェクタを活用する。5. 講義の終末に活動を振り返り、発見や気づき、講義の要点などをレポートにまとめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、学習指導要領への位置づけや授業のポイントをつかむ。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んだりして自主レポートを提出する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲15%，観察・実験の技能20%，事前・事後レポート15%，定期考査50%

<教科書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	淡水微生物の観察	微生物の生態、顕微鏡観察
2	ゾウリムシの遺伝学	観察とスケッチ、細胞分裂、からだのつくり
3	春の植物・I P U第一キャンパスを探索	ルーペで観察、植物の繁殖戦略
4	春の植物をじっくり楽しむ	スマホレンズで接近撮影、私の植物図鑑
5	ミツバチのことば・驚くべき行動	フリッシュ先生の研究 尻振りダンスで情報伝達
6	ジバチの仲間の不思議な行動	本能のなせる業と悲しさ
7	視覚の科学、目のつくりとはたらき	光のスペクトル、盲点を見つけよう、立体観
8	音の科学① 音と遊ぼう	耳、音、聞こえるということ ストロー笛
9	音の科学② 音を伝える	真空と音、糸電話・バネ電話
10	カルメ焼きの化学	重曹の熱分解、実践して初めて分かること
11	岩石や鉱物・化石に親しむ	岩石や化石はどのようにしてできるのか
12	天気図に親しむ 私は気象予報士	天気図の書き方・読み方、天気予報
13	電池の科学	ボルタ電池、備長炭電池、バナナ電池
14	夏の星座を見つけよう	七夕にまつわる星座、夏の大三角、星座早見盤
15	冬のカモを見分けよう	岡山で観察できる身近な野鳥、渡り鳥カモ
16		

科目コード	35216				区分	専門基礎			
授業科目名	スポーツ科学入門 [PS用]				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

<授業の到達目標>

スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

<授業の方法>

教科書およびプレゼンテーション資料を用いて実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）

<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびディスカッションに取り組むこと。（所要時間：1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

<教科書>

大学スポーツ協会（2021年12月） マンガで学ぶ・スポーツ知への招待 KEIアドバンス
伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日） なるほど「最新・スポーツ科学入門」 化学同人

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門 (1)	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門 (2)	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ哲学入門	スポーツ哲学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。
14	スポーツ社会学入門	スポーツ社会学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。
15	まとめ	ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
16		

科目コード	35207				区分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PP/PH1、2年生用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

<授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

<授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組み、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する(1時間程度)・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

<教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

<参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理 (1)	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理 (2)	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング (1)	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング (2)	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング (3)	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング (4)	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	40105				区分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	品田 直宏／梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

<授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

<授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	54006				区分	コア科目			
授業科目名	現代経営実践演習基礎 I				担当者名	横内 浩平			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員をを目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

得になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	民主政治の基本原理
3	政治(2)	日本国憲法の基本的性格
4	政治(3)	基本的人権の保障(1)
5	政治(4)	基本的人権の保障(2)
6	政治(5)	基本的人権の保障(3)
7	政治(6)	各国の政治制度(1)
8	政治(7)	各国の政治制度(2)
9	政治(8)	国会(1)
10	政治(9)	国会(2)
11	政治(10)	内閣
12	政治(11)	裁判所(1)
13	政治(12)	裁判所(2)
14	政治(13)	地方自治
15	政治(14)	政治分野まとめ
16		

科目コード	22201				区分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [FE2432組用]				担当者名	平松 茂			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の生活科や理科を指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

<授業の到達目標>

1. 動植物、物理、化学などのいろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

<授業の方法>

1. 返却されたレポートを見返し、必要に応じて質問する。2. 記録を取りながら受講し、児童の気持ちになって観察・実験を行う。3. 観察・実験結果の考察を個人でまとめ、グループで共有する。4. スマホ、タブレットPC、プロジェクタを活用する。5. 講義の終末に活動を振り返り、発見や気づき、講義の要点などをレポートにまとめる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、学習指導要領への位置づけや授業のポイントをつかむ。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んだりして自主レポートを提出する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲15%，観察・実験の技能20%，事前・事後レポート15%，定期考査50%

<教科書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	淡水微生物の観察	微生物の生態、顕微鏡観察
2	ゾウリムシの遺伝学	観察とスケッチ、細胞分裂、からだのつくり
3	春の植物・I P U第一キャンパスを探索	ルーペで観察、植物の繁殖戦略
4	春の植物をじっくり楽しむ	スマホレンズで接近撮影、私の植物図鑑
5	ミツバチのことば・驚くべき行動	フリッシュ先生の研究 尻振りダンスで情報伝達
6	ジバチの仲間の不思議な行動	本能のなせる業と悲しさ
7	視覚の科学、目のつくりとはたらき	光のスペクトル、盲点を見つけよう、立体観
8	音の科学① 音と遊ぼう	耳、音、聞こえるということ ストロー笛
9	音の科学② 音を伝える	真空と音、糸電話・バネ電話
10	カルメ焼きの化学	重曹の熱分解、実践して初めて分かること
11	岩石や鉱物・化石に親しむ	岩石や化石はどのようにしてできるのか
12	天気図に親しむ 私は気象予報士	天気図の書き方・読み方、天気予報
13	電池の科学	ボルタ電池、備長炭電池、バナナ電池
14	夏の星座を見つけよう	七夕にまつわる星座、夏の大三角、星座早見盤
15	冬のカモを見分けよう	岡山で観察できる身近な野鳥、渡り鳥カモ
16		

科目コード	21116				区分	専門基礎			
授業科目名	教育の思想と原理 [FC,FE初等]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問いではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要と

<授業の到達目標>

①教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。②「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。③「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。

<授業の方法>

アクティブラーニングを組み込んだ講義形式。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の指定された箇所を熟読する（1時間）復習：教科書の指定された箇所に関連する文献を参照する（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（50%）、事後課題（50%）

<教科書>

酒井健太郎（2024年4月20日）※この発売日より早い段階で購入可能 教育の思想と原理—古典といっしょに現代の問題を考える 晃洋書房

<参考書>

勝野正章、庄井良信（2022年12月20日） 問いからはじめる教育学 改訂版 有斐閣

岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大（2020年10月20日） 問いからはじめる教育史 有斐閣

汐見稔幸、伊東毅、高田文子、東宏行、増田修治（2011年4月30日） よくわかる教育原理 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	「教育とは何か」（教科書序章）
2	子ども（1）	子どもと家族（ルソー、ケイ、アリエス）（教科書第1章）
3	子ども（2）	遊び（ロック、ホイジンガ、カイヨワ）（教科書第2章）
4	子ども（3）	保育（フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ）（教科書第3章）
5	教員（1）	教育の方法（ペスタロッチ、ヘルバルト、ヴィゴツキー）（教科書第4章）
6	教員（2）	教養（イソクラテス、サン・ヴィクトルのフーゴー、ニーチェ）（教科書第5章）
7	教員（3）	教えないことによる教育と学習（ソクラテス、ルソー、デューイ）（教科書第6章）
8	幕間	教育思想と教育原理の連続性
9	学校（1）	教育カリキュラム（プラトン、コメニウス、フンボルト）（教科書第7章）
10	学校（2）	道徳的発達（アリストテレス、貝原益軒、ギリガン）（教科書第8章）
11	学校（3）	場としての学校（アリストテレス、デューイ、イリイチ）（教科書第9章）
12	社会（1）	国と教育（プラトン、福沢諭吉、デュルケム）（教科書第10章）
13	社会（2）	宗教と教育（アウグスティヌス、トマス、ルター）（教科書第11章）
14	社会（3）	メリトクラシー（プラトン、イソクラテス、アリストテレス、ヤング、サンデル）（教科書第12章）
15	総括	「教育とは何か」再考（教科書終章）
16		

科目コード	10106				区分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現 I [BC留学生用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

<授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

<授業の方法>

15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度） 復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明 レベル判定試験
2	第1課 音と音楽の効果 (1)	導入
3	第1課 音と音楽の効果 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第2課 いい数字・悪い数字 (1)	導入
6	第2課 いい数字・悪い数字 (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第3課 「面白い」日本 (1)	導入
9	第3課 「面白い」日本 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第4課 くしゃみ (1)	導入
12	第4課 くしゃみ (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15	フィードバックと総復習	フィードバックと総復習
16		

科目コード	40108				区分	体育実技			
授業科目名	剣道 I (基礎) [PP1年生男子用]				担当者名	中島 治彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	教職選択必修

<授業の概要>

日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育教員になれば、武道専門家でなくても武道の授業を担当しなければならないこととなった。従って、この授業では、剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）ようにする事を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領等、剣道に関する書籍を1時間程度読んでおく事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・出席50%、剣道実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日） 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本授業の内容説明と剣道着袴採寸	本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。
2	剣道着・袴の着用方法と剣道理念について	剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習
3	剣道防具と竹刀について	前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて
4	剣道の礼法について	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。
5	基本動作について（素振り）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。
6	基本動作について（足さばき）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	剣道防具の着用	防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。
9	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法）	基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。
11	基本稽古（応じ技・引き技）	相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと確認実技試験	これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。
13	互角稽古	これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	試合（団体戦における戦い方の学習）	5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。
16		

科目コード	22200				区分	専門基礎科目			
授業科目名	言葉の理解 [FE2421組用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校教育の指導者に求められる、国語の知識・技能、思考力・判断力・表現力等を高めていくことを目的としています。そのために、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化といった内容領域ごとに小学校国語教科書の教材を用いて具体的に講義を行います。特に物語文の教材において言葉を通して作者が織りなす表現技術について学ぶことを重視します。また講義と並行してグループディスカッション、発表などの演習も取り入れていきます。

<授業の到達目標>

小学校国語科における内容について理解することを到達目標とします。また、その内容に関わる言語活動を実際に経験する中で、ことばの学習の面白さ、奥深さを実感するとともに、授業実践の基礎となる国語の知識・技能、思考力・判断力・表現力を向上させることを目的とします。さらには小学校の教師として必要な素材研究・教材研究の領域も網羅します。

<授業の方法>

話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化といった内容領域ごとに講義を行います。特に読むことに時間を割きます。その後で個人の考えをまとめる→グループディスカッション、発表等演習的な授業の流れとします。個人用パソコンも使用するときは指示しますので持参して下さい。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で扱う教材は前もって紹介しますのでもし機会があれば前もって読んでおくとよいでしょう。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回のレポート30%、授業中の態度20%、最終レポート50%とします。

<教科書>

<参考書>

文部科学省(2018/2/28) 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の目標と概要授業の説明・成績判定について小学校国語科の内容についての概観
2	言葉の由来や変化、方言について	教科書教材「和語・漢語・外来語」を通して言葉の由来や変化について学びます。さらに方言を通して方言の広がり方などを学び言葉のおもしろさについて理解を深めます。
3	伝統的な言語文化主に古典を教材にして言葉の持つリズムや響きを味わいます。文法的なことは極力省き描写そのものを味わうようにします。	古典を教材として言葉の響きやリズムを味わうために音読を積極的に取り入れます。さらに同じ言葉でも昔と現代では意味が違っていたり、古語一語だけで人物の様子や人間関係が分かったりする描写を通して言葉の持つおもしろさに迫ります。
4	教材を原文で読む試み 第2学年教材「スイミー」	教材を原文で読んでみて、場面の理解と情景の想像を深めよう教科書教材を原文で読み情景描写をつかもう例えば「美しい」一語にしてもprettyとbeautifulがあります。原文ではどう使い分けられているか、そこから叙述を読み取るようにします。
5	物語を劇化することにより話の内容を理解しよう	「あなたは映画監督 物語の台本を作ろう」小学校第1学年教材「くじらぐも」を教材にして音読劇の台本作りをします。台本作りを通して作品の舞台背景や叙述の工夫を読み取るようにします。
6	場面を理解する音読の工夫音読で自分の読み取りを表現する「おおきなかぶ」	学習のめあて全文を読んで内容を理解しよう。自分の理解した内容を友達に音読で伝えよう「大きなかぶ」を教材に、友達の意見と対比するためにこの教材文をどう読むか、個別に考え他の意見と比較し叙述を味わうようにします。
7	書くこと「読書感想文を書きましょう」	小中学校では必ず書く読書感想文の書き方を学習します。さらに公立小学校で課される作文コンクールについても取り上げ、書き方について考察します。
8	「話すこと・聞くこと」(1)「どちらを選びますか」を基に、説得力のある話し型(方ではなく)を学びます。	二つの話し型を聞いてどちらが説得力があるか考えます。そしてその原因を考え、説得力のある話し型の条件を考えます。
9	「話すこと・聞くこと」(2) 説得力のある提案をしましょう	5年生教材「提案しよう、言葉とわたしたち」を基に、説得力のある話し型を考えます。
10	「話すこと・聞くこと」(3) 話すこと・聞くことのまとめとしてディベートをし	話すこと・聞くことのまとめとしてディベートを演習として学習します。テーマを決め賛成派、反対派、判定者に分かれてディベートを行います。時間が許せばビブ

11	てみましょう。 読むこと（説明的な文章）（1）よく分かる文章構成を考えましょう	リオバトルも紹介します。 「創造力のスイッチを入れよう」を基に、実証型の説明文の読み方について考察し、分かりやすい文章構成について学びます。
12	読むこと（物語文）（2）作者の文章構成の工夫について学びましょう。	4年生教材「ごんぎつね」を取り上げます。そして作者の文章の表現の工夫について学びます。合わせて読書についても言及します。
13	読むこと（物語文）（3）作者の工夫について学びましょう	「大造じいさんとガン」を基に、作者の表現の工夫について学びます。そして描写により読者が書かれていないことを自然に想像している（感動を覚えている）効果について考えます。
14	サブタイトルを通して物語の内容をつかもう	教材文のテーマだけでは物語の内容はつかめません。そのため読者が物語の内容が一目で分かるようなサブタイトルをつけます。その学習を通して要約する力を身に付けます。
15	まとめと復習	全体の内容のまとめと復習をします。そして学校現場での素材研究・教材研究の在り方を学習します。
16		

科目コード	22201				区分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [FE2433組用]				担当者名	平松 茂			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の生活科や理科を指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

<授業の到達目標>

1. 動植物、物理、化学などのいろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

<授業の方法>

1. 返却されたレポートを見返し、必要に応じて質問する。2. 記録を取りながら受講し、児童の気持ちになって観察・実験を行う。3. 観察・実験結果の考察を個人でまとめ、グループで共有する。4. スマホ、タブレットPC、プロジェクタを活用する。5. 講義の終末に活動を振り返り、発見や気づき、講義の要点などをレポートにまとめる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、学習指導要領への位置づけや授業のポイントをつかむ。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んだりして自主レポートを提出する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲15%，観察・実験の技能20%，事前・事後レポート15%，定期考査50%

<教科書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	淡水微生物の観察	微生物の生態、顕微鏡観察
2	ゾウリムシの遺伝学	観察とスケッチ、細胞分裂、からだのつくり
3	春の植物・I P U第一キャンパスを探索	ルーペで観察、植物の繁殖戦略
4	春の植物をじっくり楽しむ	スマホレンズで接近撮影、私の植物図鑑
5	ミツバチのことば・驚くべき行動	フリッシュ先生の研究 尻振りダンスで情報伝達
6	ジバチの仲間の不思議な行動	本能のなせる業と悲しさ
7	視覚の科学、目のつくりとはたらき	光のスペクトル、盲点を見つけよう、立体観
8	音の科学① 音と遊ぼう	耳、音、聞こえるということ ストロー笛
9	音の科学② 音を伝える	真空と音、糸電話・バネ電話
10	カルメ焼きの化学	重曹の熱分解、実践して初めて分かること
11	岩石や鉱物・化石に親しむ	岩石や化石はどのようにしてできるのか
12	天気図に親しむ 私は気象予報士	天気図の書き方・読み方、天気予報
13	電池の科学	ボルタ電池、備長炭電池、バナナ電池
14	夏の星座を見つけよう	七夕にまつわる星座、夏の大三角、星座早見盤
15	冬のカモを見分けよう	岡山で観察できる身近な野鳥、渡り鳥カモ
16		

科目コード	35207				区分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PP/PH1、2年生用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

<授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

<授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組み、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する(1時間程度)・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

<教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

<参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理 (1)	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理 (2)	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング (1)	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング (2)	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング (3)	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング (4)	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	40105			区 分	コア科目				
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP女子用、他学科 + PP2年生以上]			担当者名	品田 直宏 / 梶谷 亮輔				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

<授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

<授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことがことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社

日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を使い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を使い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を使い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を使い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	36520				区分	専門基礎			
授業科目名	アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)				担当者名	宮本 彩/矢野 智彦/三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

アスリートはスポーツで高みを目指す中で、競技スキルを磨くだけでなく、コミュニケーション能力や協調性、自己管理能力など、社会でも求められる様々なスキルも同時に培う必要があります。本授業では、これまでの経験を振り返り、クロスオーバースキルとして特に役立つとされている10項目（コミュニケーション能力、協調性、自己管理能力、冷静さ、勝利思考、成長思考、意欲、達成力、適応力、乗り越える力）について考えていきます。

<授業の到達目標>

本授業を通して、自分自身の強みを理解するとともに、そのことについて、人に伝えられるようになる。

<授業の方法>

ペアワークやグループワークによる自己探求課題レポート等を基にした自己表現及び発表

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の授業内容について、授業後に振り替えるとともに、次回のキーワードについて下調べを行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での発表を含めた受講態度 50%レポートを含む課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	競技スポーツ科学科が求めるアスリート像について	競技スポーツ科学科での学び方、取り組み方
2	自身が目指すアスリート像	受講者自身が目指しているアスリート像を具体的に言葉にし、小グループごとに発表する
3	理想とされるアスリート像とは	第1回目・第2回目の授業内容を振り返り、共通する能力は何かを考える。また、五訓の理解を深める。
4	五訓の実践例を考える	五訓の具体的な実践例を話し合う。また、クロスオーバースキルとは何かを学ぶ。
5	クロスオーバースキル“自己管理”	クロスオーバースキルのうち“自己管理”の重要性について話し合い、学科の特徴であるマルチサポートについて理解を深める。
6	クロスオーバースキル“成長思考・勝利思考”	クロスオーバースキルのうち、“成長思考・勝利思考”として、競技スポーツ科学科での学びを活かした戦い方を考える。
7	トップアスリートの講話に向けた事前学習①	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
8	トップアスリートからの講話①	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
9	トップアスリートの講話を受けての事後学習①	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
10	トップアスリートの講話に向けた事前学習②	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
11	トップアスリートからの講話②	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
12	トップアスリートの講話を受けての事後学習②	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
13	4年間での目標宣言①	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
14	4年間での目標宣言②	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
15	4年間での目標宣言③	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
16		

科目コード	54000				区 分	コア科目			
授業科目名	資格検定対策 I (語学系)				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、日本語能力試験N2に合格することを目標としている。日本語能力試験は、言語知識（文字・語彙・文法）、読解、聴解からなるが、本授業では、言語知識分野を扱う。授業外の学習を重視し、授業外に指定の教材で文字・語彙の自習をしてもらい、授業の初めに毎回小テストを実施する。文法は予習（知識理解）を前提とし、授業では演習を中心に進める。読解と聴解については、適宜課題を与え、自習してもらい、誤りが多かった問題を中心に解説する。試験の可否には、授業外にどれだけ受講者が自主的に学習するかどうかが大きく影響するため、本

<授業の到達目標>

日本語能力試験N2レベルの日本語能力を身につけることを目標とする。試験対策の授業であるが、試験対応の技術ではなく、日本語能力試験N2レベルの日本語能力を身につけることを目的としている。

<授業の方法>

オリエンテーションで提示したスケジュールに沿って、授業の初めにN2レベルの文字・語彙の小テストを毎回実施し、言語知識の学習を中心に行う。試験前らは、N2レベル模擬問題を使用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

単に授業を聞いて内容を理解したと思うだけでは、試験に合格できない。多くの問題に挑戦し、自身の理解を確かめ、理解できた知識を覚えなければならない。したがって、本授業では課題を多く出す。復習と課題で2時間程度の準備学習が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題の提出20%、小テスト30%、期末テスト40%、授業参加度10% 課題に関するフィードバックは授業内で行う。授業外の質問にも適宜対応する。

<教科書>

ABK（公益財団法人 アジア学生文化協会） TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 ASK
星野恵子・辻和子 ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文字・語彙 UNICOM

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法の説明。課題・質問のやり取りの説明
2	文字・語彙1 文法1.	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
3	文字語彙2 文法2 (1)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
4	文字語彙3 文法2 (2)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
5	語彙4 文法3	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
6	語彙5 文法4	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
7	語彙6 文法5 (1)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
8	語彙7 文法5 (2)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
9	語彙8 文法6 (1)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
10	語彙9 文法6 (2)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
11	語彙10 文法7 (1)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
12	語彙11 文法7 (2)	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
13	語彙12 文法8	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
14	期末テスト	テスト
15	まとめ	テスト返却、フィードバック
16		

科目コード	22205				区分	専門基礎科目			
授業科目名	英語の理解 [FE2422組用]				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

令和2年度(2020年)より小学校で教科としての英語が導入された。そのため、小学校教員や小学校教員を志望する学生は、指導法のみならず、英語についての専門知識を身につけておくことが求められる。そこで、本授業では、コミュニケーション論、第二言語習得理論、英語学、異文化理解等、小学校の教員を志望する学生が知っておくべき内容についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 小学校教員に必要なコミュニケーション論、第二言語習得理論、英語学、異文化理解等の基礎的な知識・技能を身につけている。
2. 身につけた知識・技能を活用し、学習内容に関連する事柄について考え、他者に分かりやすく具体的に伝えることができる。

<授業の方法>

小学校で英語を教えるために必要な知識・技能を獲得するため、講義を聴く(約20分)。一方向の授業とならないよう、担当者は受講者とのやり取りを大切にしながら授業を展開する。次に、学習した内容を学習者同士が自分の言葉で説明することで、理解度(知識の正確さ)を確認する(約10分)。最後に、身につけた知識を活用し、本時の学習に関連する内容についての演習やグループ・ディスカッションを行う(約50分)。終末に、リフレクションシートを記入する(約10分)。なお、資料の受け渡しや課題提出、成果物の共有には、Google C

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の終末に、次回の授業内容にかかわる予習内容を提示する。そこで提示された課題について次回授業までに自分の考えを整理しておくこと。正解か不正解かではなく、自分で考えることが大切である。適宜、インターネットや書籍を参照する必要がある。この課題には1時間程度を要する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出 30%、グループワーク 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

酒井英樹 他(2017年6月23日) 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論 三省堂
綾部保志(2019年12月25日) 小学校英語への専門的アプローチ:ことばの世界を拓く 春風社
寺沢拓敬(2020年2月22日) 小学校英語のジレンマ 岩波書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	初回ガイダンス	成績、評価、授業運営などの説明
2	コミュニケーション能力	コミュニケーションの定義、プロセス、学習指導要領における位置づけ
3	第二言語習得理論、個人差要因	英語学習の共通性と多様性
4	英語の音声	英語のプロソディ
5	英語の文字	文字の種類、特徴、指導
6	英語の発音と綴りの関係	音と文字・綴りのずれ
7	英語の書き方	記号、段落、書体
8	日本語のローマ字表記	訓令式ローマ字とヘボン式ローマ字の違い
9	英語の語彙	単語の特徴
10	英語の文法	文法の注意点
11	相互作用の中で生じる発話の意味と働き	話し手と聞き手の相互作用によることばの働き
12	現代社会における英語	現代社会における英語の位置づけと日本の英語教育政策
13	絵本、児童文学	絵本の意義、選び方、活用方法
14	異文化理解	異文化とは
15	まとめと復習	最終レポートの発表会
16		

科目コード	22201				区分	専門基礎科目			
授業科目名	自然の理解 [他学科]				担当者名	平松 茂			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

身の回りの自然には、私たちが気付いていないだけで不思議で神秘的な現象があふれている。授業では観察・実験を通して、現象を発見したり楽しんだりしながら、自らの手で探究する面白さに気付く。これらの活動は、小学校の生活科や理科を指導するときの基本であり、そのために必要な知識や技能の習得と理解を進める。

<授業の到達目標>

1. 動植物、物理、化学などのいろいろな観察・実験を行って、自然の不思議さや面白さに気付く。2. 身の回りの自然を理科の観点で見直し、学習するねらいや考え方に気付く。3. 指導者としての知識や技能を身に付け、観察・実験の方法を習得する。4. 指導の着眼点や重点などを見付けられるようになる。

<授業の方法>

1. 返却されたレポートを見返し、必要に応じて質問する。2. 記録を取りながら受講し、児童の気持ちになって観察・実験を行う。3. 観察・実験結果の考察を個人でまとめ、グループで共有する。4. スマホ、タブレットPC、プロジェクタを活用する。5. 講義の終末に活動を振り返り、発見や気づき、講義の要点などをレポートにまとめる。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・テーマを手掛かりに、学習指導要領への位置づけや授業のポイントをつかむ。・授業中の疑問や気づきをまとめたり、発展課題に取り組んだりして自主レポートを提出する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲15%，観察・実験の技能20%，事前・事後レポート15%，定期考査50%

<教科書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	淡水微生物の観察	微生物の生態、顕微鏡観察
2	ゾウリムシの遺伝学	観察とスケッチ、細胞分裂、からだのつくり
3	春の植物・I P U第一キャンパスを探索	ルーペで観察、植物の繁殖戦略
4	春の植物をじっくり楽しむ	スマホレンズで接近撮影、私の植物図鑑
5	ミツバチのこぼさ・驚くべき行動	フリッシュ先生の研究 尻振りダンスで情報伝達
6	ジバチの仲間の不思議な行動	本能のなせる業と悲しさ
7	視覚の科学、目のつくりとはたらき	光のスペクトル、盲点を見つけよう、立体観
8	音の科学① 音と遊ぼう	耳、音、聞こえるということ ストロー笛
9	音の科学② 音を伝える	真空と音、糸電話・バネ電話
10	カルメ焼きの化学	重曹の熱分解、実践して初めて分かること
11	岩石や鉱物・化石に親しむ	岩石や化石はどのようにしてできるのか
12	天気図に親しむ 私は気象予報士	天気図の書き方・読み方、天気予報
13	電池の科学	ボルタ電池、備長炭電池、バナナ電池
14	夏の星座を見つけよう	七夕にまつわる星座、夏の大三角、星座早見盤
15	冬のカモを見分けよう	岡山で観察できる身近な野鳥、渡り鳥カモ
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PS用]				担当者名	品田 直宏／梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

<授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

<授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	61007				区分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習 I (基礎) [A]				担当者名	國友 亮佑 / 三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。競技スポーツ科学科用の科目になります。

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

<授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間) 復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。(1時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度(授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度) 30%、実技試験 70%

<教科書>

IPU環太平洋大学 トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

<参考書>

NSCA ジャパン NSCA決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCA ジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニクマニュアル第3版 NSCAジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニクについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニクについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニクについて
5	上半身のエクササイズ④	下背部のエクササイズテクニク
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニクについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニクについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニクについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハングクリーンのエクササイズテクニクについて
11	パワーエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニクについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	65020				区 分	専門基礎			
授業科目名	実践英文法（基礎）				担当者名	井上 聡			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。事前課題（英検2級、英検準1級、TOEICの問題演習）をもとに、グループで教え合いを行い、講師の解説を傾聴し、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）によるアクティブ・ラーニング型の授業となります。PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。スマホの使用は、原則認めません。

<授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

<授業の方法>

事前課題の教え合い（40分）解説の傾聴（30分）意見交換（20分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：整序問題（90分程度）※英検・TOEICの文法演習復習：理解度確認テスト（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%，グループワーク 20%，理解度確認テスト 40%，意見交換 10%

<教科書>

等になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（1）	授業の進め方、教材の使い方、予行演習（英検2級演習）
2	オリエンテーション（2）	授業の進め方、教材の使い方、予行演習（英検準1級演習）
3	英検2級演習（1）	教え合い、解説、振り返り
4	英検準2級演習（2）	教え合い、解説、振り返り
5	英検準2級演習（3）	教え合い、解説、振り返り
6	英検2級演習（4）	教え合い、解説、振り返り
7	英検準2級演習（1）	教え合い、解説、振り返り
8	英検準2級演習（2）	教え合い、解説、振り返り
9	英検準2級演習（3）	教え合い、解説、振り返り
10	英検準2級演習（4）	教え合い、解説、振り返り
11	TOEIC演習（1）	教え合い、解説、振り返り
12	TOEIC演習（2）	教え合い、解説、振り返り
13	TOEIC演習（3）	教え合い、解説、振り返り
14	TOEIC演習（4）	教え合い、解説、振り返り
15	TOEIC演習（5）	教え合い、解説、振り返り
16		

科目コード	40105				区分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [他学科+PP2年生以上]				担当者名	品田 直宏／梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。

<授業の到達目標>

陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。

<授業の方法>

対面授業による実技のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題、小テストを行う。履修上限は70名とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

運動習慣のない者、また体力に自信のない者は、自主練習等を行い授業に臨むことが望ましい。参考図書（陸上競技入門）やルールブックを熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、陸上競技の概要	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳①	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	走幅跳②	助走の確認、記録の測定
9	砲丸投①	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
10	砲丸投②	グライド投法、記録の測定
11	800m走	800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定
12	跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
14	砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
15	800m走の歴史と指導上の留意点の理解	オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
16		

科目コード	61007				区分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習 I (基礎) [B]				担当者名	國友 亮佑 / 三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。競技スポーツ科学科用の科目になります。

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

<授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間) 復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。(1時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度(授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度) 30%、実技試験 70%

<教科書>

IPU環太平洋大学 トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニックについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニックについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニックについて
5	上半身のエクササイズ④	下背部のエクササイズテクニック
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハンγκクリーンのエクササイズテクニックについて
11	パワーエクササイズ②	ハンγκクリーンのエクササイズテクニックについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	27103			区分	専門基礎科目				
授業科目名	基礎柔道整復学 I (総論)			担当者名	古山 喜一				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師は、業務として柔道整復を行うことができる国家資格、あるいはその国家資格を持つ者で、柔道整復師法においては「厚生労働大臣の免許を受けて、柔道整復を業とする者」と定義される。柔道整復師の社会への役割を理解し、業務範囲について理解する。

<授業の到達目標>

柔道整復術は日本古来固有の伝統医療、代替医療であり、柔道整復師は日本国でのみ認められている日本固有の国家資格である。その成り立ちを理解し、各組織の損傷や評価、整復法・治療法を理解する事が到達目標である。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、解説を行う。疾患や外傷についての理解を深めるため、実際の症例をスライドを確認しながら、補足説明を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次週の授業範囲の教科書確認・下調べ(毎回1時間程度) 復習：小テスト・定期テストに備え、過去問題等を実施すること(毎回1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会(2011.12.20) 「柔道整復学・理論編」南江堂 南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	概説	柔道整復師の沿革と業務範囲、倫理綱領
2	総論	人体に加わる力・損傷に関する身体の基礎的条件、損傷時に加わる力
3	各組織の損傷-骨-	骨の損傷
4	各組織の損傷-筋・腱-	筋・腱の損傷
5	各組織の損傷-靭帯-	靭帯の損傷
6	各組織の損傷-神経-	神経の損傷
7	各組織の損傷-皮膚-	皮膚の損傷
8	各組織の損傷-血管-	血管の損傷
9	評価	末梢神経、血管系、リンパ系、皮膚の損傷
10	治療法-整復-	評価の信頼性、妥当性、確実性
11	治療法-固定-	整復法
12	治療法-後療-	固定法
13	治療法-指導-	後療法
14	治療法-管理-	指導管理(1)
15	まとめ	指導管理(2) 総合
16		

科目コード	13300				区分	コア科目			
授業科目名	法学概論				担当者名	山本 満理子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「社会あるところ法あり」という言葉が表すように、人間が集まり一定の社会が形作られるとそこには一定のルールが必要になります。また、社会と一口に言っても、家庭、学校、職場（労働）、経済取引、医療現場、スポーツなど、様々な部分的な社会の場面が考えられます。この講義では、そのような具体的な場面に例を取りながら、実際に生活の中でどのように法が関わっているのかを学び、学生がこの先社会生活を営む中で役に立つ知識を涵養し、それらを活かすことができるように考える力を身につけていきます。また、公務員行政職（上級）で課される専

<授業の到達目標>

①学生が社会生活を営む中で直面しうる問題を認識できる。②それらに対して法的にどのように対応しうるのかを知り、理解できる。③これらの知識を別の事例にも応用していく能力を身につける。

<授業の方法>

シラバスの予定に沿い、教科書を参照しながら講義形式で進行する予定ですが、この限りではありません。毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読して臨みましょう。Google Classroomを使用した小テストを行うこともあります。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読しておく。（60分）復習：レジュメや板書ノートをまとめなおす（60分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

<教科書>

高橋 雅夫（2020年3月） Next教科書シリーズ 法学 弘文堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	法の学び方	教科書p1～p10
2	法の概念	教科書p11～p22
3	法の目的・機能	教科書p23～p34
4	法の存在形式（法源論）	教科書p35～p44
5	法の分類	教科書p45～p54
6	法の解釈と適用	教科書p55～p66
7	日本国憲法	教科書p67～p106
8	家族と法	教科書p107～p126
9	財産と法	教科書p127～p150
10	犯罪と刑罰(1)	教科書p151～p159
11	犯罪と刑罰(2)	教科書p160～p170
12	裁判と法	教科書p213～p232
13	行政と法(1)	教科書p233～p240
14	行政と法(2)	教科書p241～p256
15	まとめ	
16		

科目コード	25100				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	体育原理 [PP用]				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の確認（約10分） 2. テーマに沿った解説と問いの提示①（約10分） 3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分） 4. テーマに沿った解説と問いの提示②（約10分） 5. 上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分）：字数制限有 6. プレゼン発表もしくは課題レポート作成次週課題の確認（

科目コード	40108				区分	体育実技			
授業科目名	剣道 I (基礎) [PP1年生女子用]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	教職選択必修

<授業の概要>

日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育教員になれば、武道専門家でもなくても武道の授業を担当しなければならないこととなった。従って、この授業では、剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）ようにする事を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領等、剣道に関する書籍を1時間程度読んでおく事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・出席50%、剣道実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日） 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本授業の内容説明と剣道着袴採寸	本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。
2	剣道着・袴の着用方法と剣道理念について	剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習
3	剣道防具と竹刀について	前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて
4	剣道の礼法について	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。
5	基本動作について（素振り）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。
6	基本動作について（足さばき）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	剣道防具の着用	防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。
9	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法）	基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。
11	基本稽古（応じ技・引き技）	相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと確認実技試験	これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。
13	互角稽古	これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	試合（団体戦における戦い方の学習）	5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。
16		

科目コード	21106				区分	専門基礎科目			
授業科目名	保育原理				担当者名	中原 朋生			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育原理は東岡山IPUこども園の実際の観察を導入しつつ「保育の基本」「発達過程に応じた保育」「保育所保育指針の考え方」「保育の歴史と思想」「保育職務の全体像」について学習し保育者に必要となる見方・考え方の基礎を培う。

<授業の到達目標>

本授業の終了後、学生は「保育の基本」「発達過程に応じた保育」「保育所保育指針の考え方」「保育の歴史と思想」「保育職務の全体像」に関する見方・考え方を使用して、保育実践、子どもの実態、保育制度の現状を説明できるようになる。

<授業の方法>

講義では、保育原理に関するワークシート、教科書、パワーポイントを使用する。学生が保育を観察する視点や概念を習得するための講義45分程度、こども園における観察、グループ討議、発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、保育原理のワークシートと教科書の予習（60分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習（60分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課し合計30時間の予習・復習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で完成させるワークシート（30%）、双方向学習の取り組み状況（30%）、最終レポート試験（40%）。ワークシート、最終レポート試験は、Aキーワード（授業で講義した見方・考え方）、B論理性（文章の構成）、Cオリジナリティー（自分自身の意見）の3つの観点から採点し、改善の方向性を学生に示すことで、フィードバックする。

<教科書>

池田隆英・上田敏丈・楠本恭之・中原朋生編著（2016年4月5日）『改訂 なぜからはじめる保育原理』 建帛社
厚生労働省（2018年2月）『保育所保育指針解説』 フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育の基礎（1）保育の理念と概念	保育と人間形成、養護、教育、養護と教育の一体化、子どもの最善の利益
2	保育の基礎（2）保育対象としての子ども	子どものイメージ、子どもの法的定義、子ども理解の方法
3	保育の基礎（3）福祉としての保育	敗戦と戦災孤児、児童福祉法の成立、保育所と幼稚園の起源、
4	保育の基礎（4）保育所保育の制度	児童福祉法における保育所と保育士の位置づけ、データでみる保育所、保育所の現代的ニーズ
5	発達過程に応じた保育（1）	発達過程、発達課題、愛着理論
6	発達過程に応じた保育（2）	発達の最近接領域、遊びの発達
7	保育所保育指針の考え方（1）保育所保育の基本原則	保育所の役割、保育の目標、保育の方法、保育の環境、保育所の社会的責任
8	保育所保育指針の考え方（2）養護に関する基礎事項	養護の理念、生命の保持、情緒の安定、ねらいと内容
9	保育所保育指針の考え方（3）保育の計画及び評価	全体的な計画の作成、指導計画の作成、保育内容の評価
10	保育所保育指針の考え方（4）幼児教育施設の共有事項	育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、幼稚園教育要領
11	保育所保育指針の考え方（5）保育のねらいと内容	乳児保育の3領域、5領域の考え方
12	保育の歴史と思想（1）子どもの発見	子どもの発見、アリエス、ルソーの保育思想、消極教育
13	保育の歴史と思想（2）近代保育思想	フレーベル、幼稚園、恩物、児童神性論
14	保育の歴史と思想（3）日本の保育史	保育所の歴史、幼稚園の歴史、倉橋惣三、城戸幡太郎
15	保育職務の全体像	保育者の労働環境、保育者の在職と離職、保育職務
16		

科目コード	28119				区分	専門基礎科目			
授業科目名	プロジェクト・ゼロ				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義の目的は、経営を学ぶ第一段階として、基本的な経営知識、人的資源管理、プロジェクト運営について体験的に学習することである。今年度は、IPUのキャンパスに学生自身の手によりCafeを創るプロジェクトを実施する。学外の若手社会起業家やカフェ経営者等から、直接、実践的な経営のノウハウを学んだうえで、チームでプロジェクトを進める。講義終了後、希望者は学生団体「夢実現ラボ（仮称）」に所属し、継続してカフェ運営やイベントプロデュースに携わることができる。

<授業の到達目標>

本講義では、次の点を到達目標とする。1. 自分が感じたことを素直に伝え、仲間と議論して、仲間と何かを生み出すことを楽しいと思うことができる。2. プロジェクトを成功させるためのチームビルディングやリーダーシップについて、体験から学んだことを言語化することができる。3. 基本的な経営ノウハウを学び、起業やビジネスへの興味を深め、積極的に実践に生かそうとすることができる。

<授業の方法>

グループディスカッション中心の授業のため、受講者数を制限する（最大20名）。Cafeプロジェクトにチームで取り組み、実践を振り返り、相互にフィードバックするプロセスを体験する。少人数での、課題をめぐる協働学習（PBL: Project Based Learning）である。毎回、PCを持参のこと。受講希望者は、GoogleFormからエントリーシートを提出のこと。第1回授業で、URLを提示する。エントリーシートの内容により、受講者を選抜する。・4/14(日)：エントリーシート〆切・4/16(火)頃：履修

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業のテーマに沿って、フィールド調査、アンケート調査、販促物の制作、振り返り、チーム活動などを行う。授業外に、毎週2～3時間程度の準備学習を目安とする。成績評価に反映する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. チーム評価 30% ・グループワークに全員が参画しているか? ・学習内容を積極的に活用しているか? ・目的に対し、有効な議論を行っているか? ・活動、プレゼンテーションの内容 等 2. 個人(チーム活動)評価 40% ・時間を守り、授業に出席しているか? ・チームに貢献しているか? 等 3. 個人(レポート)評価 30% ・期限内に提出しているか? ・指定された内容、分量を記述しているか? ・深く検討しているか?

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション&プロジェクトって何? (4/11)	授業の概要、進め方、評価方法、そしてプロジェクトとは何かについて理解する。COONさんの紹介および前回のメンバーから体験談を聞き、履修希望者はエントリーする。・4/14(日)：エントリーシート〆切・4/16(火)頃：履修者決定通知・4/18(木)：第2回授業・4/19(金)：履修登録修正〆切
2	自己紹介、チームビルディング (4/18)	自己分析ワークを通し、相互理解を深める。コミュニケーションツールSlackの使い方学ぶ。(宿題) Slack内で自己紹介+α
3	カフェ業界を知ろう (4/25)	実際のカフェ経営者から、カフェを取り巻く業界やブランド戦略について話を聴く。(宿題) 代表的なカフェのブランド戦略を調べる。GW明けに、調査結果をプレゼン。
4	カフェのブランド戦略① (5/9)	ESG経営について理解する。調査した各社のブランド戦略をプレゼンし、それぞれのESG戦略について再調査する。自分たちが創りたいCafeのブランド戦略についてプレインストーミングする。(宿題) 各自でブランド戦略をまとめ、ロゴをデザインし、翌々週のプレゼンテーションの準備をする
5	カフェのブランド戦略② (5/23)	自分が創りたいCafeのブランド戦略およびロゴについて、ひとりひとりプレゼンテーション。OCで創り上げるCafeについて、チームを形成し、戦略を練る。
6	プロジェクトマネジメント (5/30)	プロジェクトマネジメントの手法を知り、実際にカフェを作る際のチーム構成や役割分担、スケジュールやタスク管理方法について決めていく。
7	収支をシュミレーションしてみよう! (6/6)	自分たちがやりたいカフェ&イベントには何が必要でどのように調達するか、売上予想と利益はどれぐらいになるかシュミレーションし、実際にカフェの収支計画を立ててみる。
8	原価計算 (6/13)	詳細な原価計算の方法を知り、精度を上げた収支計画を立てる。
9	チームマネジメントとリーダーシップ (6/20)	チームが最大の成果を上げるには何が必要か、どのように行動したらよいか考える。
10	広報・マーケティング①(6/27)	ブランドについて理解を深め、チラシをデザインしてみる。ブランド戦略の上でどのようにマーケティング戦略を策定していくのかを考える。

11	広報・マーケティング② (7/4)	チラシ、POP、インスタグラム等をデザインする。
12	オペレーションの検討 (7/11)	実際のカフェ経営者から、コーヒーの淹れ方やオペレーションのコツを学ぶ
13	直前の準備作業 (7/18)	仕込み、備品類の確認やオペレーションの確認、出店に関して最終確認と準備を行う。
14	オープンキャンパスでカフェ開店 (7/21日曜)	自分たちのCafeを実現させよう！
15	学んだことを今後に生かす (7/25)	振り返り。プレゼンテーション。
16		

科目コード	28106			区分	専門基礎科目				
授業科目名	簿記入門			担当者名	大池 淳一				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目及び後期開講の「簿記演習」と併せて日商簿記検定3級を履修者全員が受験し合格することを旨とする科目である。そのため後期の「簿記演習」も履修すること。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つので、経済経営学部の学生は全員履修することが望ましい。本科目では、簿記の入門編として、簿記の基本原則である取引の範囲・取引の8要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理を学び、総合問題対策として問題集などを利用して、簿記の基本的な技術を習得するとともに、経済経営学部生全員で1

<授業の到達目標>

① 簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解する。② 基礎的な取引の仕訳ができるようになる。③ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。④ 日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につける。

<授業の方法>

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④ 本科目では、後期開講の「簿記演習」と併せて履修し、日商簿記検定3級合格を目指している。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）3時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）3時間に費やす必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/2/16) 2024年度版 スッキリわかる 日商簿記3級 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記とは
2	仕訳①	商品売買①、数字の書き方
3	仕訳②	商品売買②
4	仕訳③	現金、普通預金、定期預金、当座預金
5	仕訳④	手形、貸付金・借入金
6	仕訳⑤	その他債権債務、その他費用、有形固定資産
7	総勘定元帳（略式）	勘定への記入
8	試算表の作成	試算表の問題演習
9	精算表	問題を使用した解き方の説明
10	決算整理仕訳①	問題を使用した解き方の説明
11	決算整理仕訳②	問題を使用した解き方の説明
12	財務諸表の作成①	日商簿記検定での解き方の説明
13	財務諸表の作成②	日商簿記検定での解き方の説明
14	問題演習	日商簿記検定での解き方の説明
15	まとめ	本科目のまとめとアンケート
16		

科目コード	21116				区分	専門基礎			
授業科目名	教育の思想と原理 [FE英語,PP2421組用]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問いではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要と

<授業の到達目標>

①教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。②「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。③「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。

<授業の方法>

アクティブラーニングを組み込んだ講義形式。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の指定された箇所を熟読する（1時間）復習：教科書の指定された箇所に関連する文献を参照する（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（50%）、事後課題（50%）

<教科書>

酒井健太郎（2024年4月20日）※この発売日より早い段階で購入可能 教育の思想と原理—古典といっしょに現代の問題を考える 晃洋書房

<参考書>

勝野正章、庄井良信（2022年12月20日） 問いからはじめる教育学 改訂版 有斐閣

岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大（2020年10月20日） 問いからはじめる教育史 有斐閣

汐見稔幸、伊東毅、高田文子、東宏行、増田修治（2011年4月30日） よくわかる教育原理 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	「教育とは何か」（教科書序章）
2	子ども（1）	子どもと家族（ルソー、ケイ、アリエス）（教科書第1章）
3	子ども（2）	遊び（ロック、ホイジンガ、カイヨワ）（教科書第2章）
4	子ども（3）	保育（フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ）（教科書第3章）
5	教員（1）	教育の方法（ペスタロッチ、ヘルバルト、ヴィゴツキー）（教科書第4章）
6	教員（2）	教養（イソクラテス、サン・ヴィクトルのフーゴー、ニーチェ）（教科書第5章）
7	教員（3）	教えないことによる教育と学習（ソクラテス、ルソー、デューイ）（教科書第6章）
8	幕間	教育思想と教育原理の連続性
9	学校（1）	教育カリキュラム（プラトン、コメニウス、フンボルト）（教科書第7章）
10	学校（2）	道徳的発達（アリストテレス、貝原益軒、ギリガン）（教科書第8章）
11	学校（3）	場としての学校（アリストテレス、デューイ、イリイチ）（教科書第9章）
12	社会（1）	国と教育（プラトン、福沢諭吉、デュルケム）（教科書第10章）
13	社会（2）	宗教と教育（アウグスティヌス、トマス、ルター）（教科書第11章）
14	社会（3）	メリトクラシー（プラトン、イソクラテス、アリストテレス、ヤング、サンデル）（教科書第12章）
15	総括	「教育とは何か」再考（教科書終章）
16		

科目コード	40108				区分	体育実技			
授業科目名	剣道 I (基礎) [PP1年生男子用]				担当者名	平田 佳弘			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	教職必修

<授業の概要>

日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育教員になれば、武道専門家でなくても武道の授業を担当しなければならないこととなった。従って、この授業では、剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）ようにする事を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領等、剣道に関する書籍を1時間程度読んでおく事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、剣道実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日） 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本授業の内容説明と剣道着袴採寸	本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。
2	剣道着・袴の着用方法と剣道理念について	剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習
3	剣道防具と竹刀について	前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて
4	剣道の礼法について	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。
5	基本動作について（素振り）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。
6	基本動作について（足さばき）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	剣道防具の着用	防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。
9	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法）	基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。
11	基本稽古（応じ技・引き技）	相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと確認実技試験	これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。
13	互角稽古	これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	試合（団体戦における戦い方の学習）	5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。
16		

科目コード	40112				区分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎)				担当者名	明石 啓太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1: 本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2: 施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、水泳理論①	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ。
2	水泳理論②	安全な水泳授業の実施について学ぶ。
3	水泳理論③	各泳法の技術理論や指導法について学ぶ。
4	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
5	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
6	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
7	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
10	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
11	グループ別練習①	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
12	グループ別練習②	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
13	水中運動	水中でのウォーキングやアクアビクスを体験する。
14	泳力テスト	泳力の習熟レベルをチェックする。
15	まとめ	授業で学んだことを総括する。
16		

科目コード	28101				区分	専門基礎科目			
授業科目名	経営学概論				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は、経営学という学問領域全般を扱う。理論を中心に経営学を学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

経営学のベースを学び、経営学や企業について考える力を身につける。そして、これからの経営学関連の科目へとつなげる。

<授業の方法>

配布資料等を適宜活用しながらの進行とする。各自、資料を印刷して紙ベースでの受講あるいは資料をダウンロードしてPCで記入すること。※スマートフォンは認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎授業1時間程度の予習をおこなうこと。レポートを課すため、復習にも1.5時間程度を費やすこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題 30%レポート 40%受講態度等 30%

<教科書>

<参考書>

講義内で紹介。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義概要説明
2	企業とは？	企業の所有は誰なの？
3	経営者の役割	意思決定とドメイン設定
4	企業の役割	戦略の採り方、社会貢献
5	生産システム	トヨタ生産システム
6	イノベーション	類型と事例
7	流通	川上から川下までをみる
8	モノを売るために - 出店戦略、販売	商圏、ブランド戦略、先行者優位
9	組織を知る	組織の構造から企業をみる
10	業務管理	科学的管理法など
11	モチベーション	マズローの欲求階級など
12	給与と働き方	年功序列？成果主義？
13	雇用形態の変化	終身雇用制、個人事業主
14	ビジネスモデル	ビジネスモデルキャンパス、ワーク
15	ICT (AIなど)	今後の企業について考える
16		

科目コード	22205				区分	専門基礎科目			
授業科目名	英語の理解 [FE2421組用]				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

令和2年度(2020年)より小学校で教科としての英語が導入された。そのため、小学校教員や小学校教員を志望する学生は、指導法のみならず、英語についての専門知識を身につけておくことが求められる。そこで、本授業では、コミュニケーション論、第二言語習得理論、英語学、異文化理解等、小学校の教員を志望する学生が知っておくべき内容についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 小学校教員に必要なコミュニケーション論、第二言語習得理論、英語学、異文化理解等の基礎的な知識・技能を身につけている。
2. 身につけた知識・技能を活用し、学習内容に関連する事柄について考え、他者に分かりやすく具体的に伝えることができる。

<授業の方法>

小学校で英語を教えるために必要な知識・技能を獲得するため、講義を聴く(約20分)。一方向の授業とならないよう、担当者は受講者とのやり取りを大切にしながら授業を展開する。次に、学習した内容を学習者同士が自分の言葉で説明することで、理解度(知識の正確さ)を確認する(約10分)。最後に、身につけた知識を活用し、本時の学習に関連する内容についての演習やグループ・ディスカッションを行う(約50分)。終末に、リフレクションシートを記入する(約10分)。なお、資料の受け渡しや課題提出、成果物の共有には、Google C

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の終末に、次回の授業内容にかかわる予習内容を提示する。そこで提示された課題について次回授業までに自分の考えを整理しておくこと。正解か不正解かではなく、自分で考えることが大切である。適宜、インターネットや書籍を参照する必要がある。この課題には1時間程度を要する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出 30%、グループワーク 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

酒井英樹 他(2017年6月23日) 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論 三省堂
綾部保志(2019年12月25日) 小学校英語への専門的アプローチ:ことばの世界を拓く 春風社
寺沢拓敬(2020年2月22日) 小学校英語のジレンマ 岩波書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	初回ガイダンス	成績、評価、授業運営などの説明
2	コミュニケーション能力	コミュニケーションの定義、プロセス、学習指導要領における位置づけ
3	第二言語習得理論、個人差要因	英語学習の共通性と多様性
4	英語の音声	英語のプロソディ
5	英語の文字	文字の種類、特徴、指導
6	英語の発音と綴りの関係	音と文字・綴りのずれ
7	英語の書き方	記号、段落、書体
8	日本語のローマ字表記	訓令式ローマ字とヘボン式ローマ字の違い
9	英語の語彙	単語の特徴
10	英語の文法	文法の注意点
11	相互作用の中で生じる発話の意味と働き	話し手と聞き手の相互作用によることばの働き
12	現代社会における英語	現代社会における英語の位置づけと日本の英語教育政策
13	絵本、児童文学	絵本の意義、選び方、活用方法
14	異文化理解	異文化とは
15	まとめと復習	最終レポートの発表会
16		

科目コード	21116				区分	専門基礎			
授業科目名	教育の思想と原理 [FE英語,PP2422組用]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問いではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要と

<授業の到達目標>

①教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。②「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。③「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。

<授業の方法>

アクティブラーニングを組み込んだ講義形式。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の指定された箇所を熟読する（1時間）復習：教科書の指定された箇所に関連する文献を参照する（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（50%）、事後課題（50%）

<教科書>

酒井健太郎（2024年4月20日）※この発売日より早い段階で購入可能 教育の思想と原理—古典といっしょに現代の問題を考える 晃洋書房

<参考書>

勝野正章、庄井良信（2022年12月20日） 問いからはじめる教育学 改訂版 有斐閣

岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大（2020年10月20日） 問いからはじめる教育史 有斐閣

汐見稔幸、伊東毅、高田文子、東宏行、増田修治（2011年4月30日） よくわかる教育原理 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	「教育とは何か」（教科書序章）
2	子ども（1）	子どもと家族（ルソー、ケイ、アリエス）（教科書第1章）
3	子ども（2）	遊び（ロック、ホイジンガ、カイヨワ）（教科書第2章）
4	子ども（3）	保育（フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ）（教科書第3章）
5	教員（1）	教育の方法（ペスタロッチ、ヘルバルト、ヴィゴツキー）（教科書第4章）
6	教員（2）	教養（イソクラテス、サン・ヴィクトルのフーゴー、ニーチェ）（教科書第5章）
7	教員（3）	教えないことによる教育と学習（ソクラテス、ルソー、デューイ）（教科書第6章）
8	幕間	教育思想と教育原理の連続性
9	学校（1）	教育カリキュラム（プラトン、コメニウス、フンボルト）（教科書第7章）
10	学校（2）	道徳的発達（アリストテレス、貝原益軒、ギリガン）（教科書第8章）
11	学校（3）	場としての学校（アリストテレス、デューイ、イリイチ）（教科書第9章）
12	社会（1）	国と教育（プラトン、福沢諭吉、デュルケーム）（教科書第10章）
13	社会（2）	宗教と教育（アウグスティヌス、トマス、ルター）（教科書第11章）
14	社会（3）	メリトクラシー（プラトン、イソクラテス、アリストテレス、ヤング、サンデル）（教科書第12章）
15	総括	「教育とは何か」再考（教科書終章）
16		

科目コード	40123				区分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎) [他学科 + PP2年生以上]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30% レポート：10% 実技：60%

<教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性について
2	マット運動	回転系接転技群
3	マット運動	回転系ほん転技群①
4	マット運動	回転系ほん転技群②
5	マット運動	回転系ほん転技群③
6	マット運動	連続技・技のつなぎ方について
7	とび箱運動	切り返し系切り返し跳び
8	とび箱運動	回転系回転跳び
9	鉄棒運動	支持系前方支持回転群
10	鉄棒運動	支持系後方支持回転群
11	鉄棒運動	懸垂系
12	総合練習	模擬演技の実践
13	マット運動	実技テスト
14	跳び箱運動	実技テスト
15	鉄棒運動	実技テスト
16		

科目コード	40112				区分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎)				担当者名	明石 啓太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1: 本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2: 施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、水泳理論①	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ。
2	水泳理論②	安全な水泳授業の実施について学ぶ。
3	水泳理論③	各泳法の技術理論や指導法について学ぶ。
4	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
5	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
6	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
7	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
10	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
11	グループ別練習①	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
12	グループ別練習②	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
13	水中運動	水中でのウォーキングやアクアビクスを体験する。
14	泳力テスト	泳力の習熟レベルをチェックする。
15	まとめ	授業で学んだことを総括する。
16		

科目コード	20305			区分	専門基礎					
授業科目名	次世代教育学 [FC]				担当者名	後藤 由佳				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修	

<授業の概要>

「次世代教育学」は、こども発達学科の卒業必修科目である。本授業では、次代の社会を担い、自立して課題解決能力を持つ子どもを育てることができる資質・能力を培い、保育士・幼稚園教諭等の養成と地球的視野から持続可能なグローバル社会の発展と構築へ貢献できる国際人の育成を目的とする。

<授業の到達目標>

1. 豊かな人間性を保持し、乳幼児や児童との関わりを持てるようになる。 2. 保育・教育への情熱と関心を持ち、日々学び続けられるようになる。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。講義、課題発見のためのグループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れ、授業を実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具の準備、予習・復習等(60分程度)を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度, 受講意欲 30%, 発表(プレゼンテーションの内容と方法・技術) 50%, レポート 20%

<教科書>

平成29年3月告示 幼稚園教育要領
平成29年3月告示 保育所保育指針
平成29年3月告示 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要と導入	・幼児期の表現の重要性と特徴の概観・オペレッタの概要と意義の紹介・オペレッタ上演の目標と学習成果の明確化
2	幼児の表現の姿と発達	・幼児期の感性や創造性の発達段階の理解・身体表現、造形表現、音楽表現などの幼児の表現形式の特性と相互関係の考察
3	オペレッタの基本構成要素	・オペレッタの構成要素と役割の解説・台本の読み解きと役割分担の設定
4	オペレッタの役作りと表現指導	・役柄に対する理解と感情表現の指導法・声の使い方や表情のトレーニング
5	ダンスと振付けの基礎	・ダンスの基本姿勢と動きの基礎・オリジナル振付けの考案と練習
6	舞台演出と演技練習	・舞台上での位置取りと動きの確認・シーンごとの練習と指導
7	オペレッタの音楽とリハーサル	・音楽の基本的な要素とオペレッタの楽曲の解説・音楽と歌のリハーサル
8	舞台セットと衣装の準備	舞台セット(舞台背景、大道具、小道具)の設計と製作の基礎衣装のデザインと制作の手順
9	プロップスの活用	・小道具の選定と使い方の指導・オペレッタに必要なプロップスの準備と活用法
10	全体リハーサルと調整	・全体の動きや表現の調整と練習・音楽と歌、演技の統合
11	最終リハーサルと評価	・最終リハーサルの実施と振り返り・グループ内評価と改善点の特定
12	公演準備と舞台セッティング	・公演の準備と舞台のセッティング・公演日程とチケットの販売・配布
13	公演日: オペレッタ上演	実際の公演を行い、幼児とその保護者に向けてパフォーマンスを披露
14	公演後の振り返りと評価	・公演の反省と成果の評価・個人的な学びやグループの成長についての振り返り
15	総括と学習成果の確認	・振り返りと学習成果の評価・幼児の表現力向上に向けた今後の取り組みの提案
16	定期試験	

科目コード	24104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	異文化コミュニケーション論 [英語教員・日本語教師希望者限定]				担当者名	細井 健			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えていきます。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します

<授業の到達目標>

①異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。②相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付ける。③自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界（特に英語圏）の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3) ディスカッション（問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト購読や各授業テーマにおける自身の体験・経験の掘り起こしを予習とします（1時間程度）。授業後は学んだ内容をどのように生かし、実践していきたいかをレポートにまとめます（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、まとめテスト 20%

<教科書>

原沢伊都夫（2013） 異文化理解入門 研究社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と異文化理解の意義について考える。
2	文化とは①	文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。
3	文化とは②	私たちが属している文化に気づき、そこから異文化とは何か考える。
4	異文化適応①	私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。
5	異文化適応②	ゲームを行い、異文化に接触したときの疑似体験をする。その体験から感じたことを話し合う。
6	視点を変える	いくつかの活動を通じて、視点を変える練習をする。
7	ステレオタイプ	自分が持っている固定観念に気付く活動を行う。また、固定観念を持つ理由を学ぶ。
8	差別と異文化理解	映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。
9	世界の価値観	様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。
10	異文化トレーニング	異文化を理解するトレーニングを1つ体験し、異文化理解の方法を知る。
11	異文化受容	異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。
12	自分を知る	自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。
13	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非言語コミュニケーションをしているか内省する。
14	コミュニケーションスタイル	自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。
15	まとめ	多文化共生社会に参画するために、異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるとは。
16		

科目コード	40123				区分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30% レポート：10% 実技：60%

<教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性について
2	マット運動	回転系接転技群
3	マット運動	回転系ほん転技群①
4	マット運動	回転系ほん転技群②
5	マット運動	回転系ほん転技群③
6	マット運動	連続技・技のつなぎ方について
7	とび箱運動	切り返し系切り返し跳び
8	とび箱運動	回転系回転跳び
9	鉄棒運動	支持系前方支持回転群
10	鉄棒運動	支持系後方支持回転群
11	鉄棒運動	懸垂系
12	総合練習	模擬演技の実践
13	マット運動	実技テスト
14	跳び箱運動	実技テスト
15	鉄棒運動	実技テスト
16		

科目コード	35207			区分	専門基礎科目				
授業科目名	スポーツ心理学 [PS用]			担当者名	佐々木 史之				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

<授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

<授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組み、授業に参加してもらう。授業は講義とディスカッションを行い、グループ発表を通してお互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なう。また、授業で学んだ内容を実際に実践してレポートを提出してもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する(1時間程度)・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、課題20%、最終レポート20%

<教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

<参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理 (1)	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理 (2)	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング (1)	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング (2)	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング (3)	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング (4)	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	36100				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーナー論				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

我が国では、「トレーナー」という職業の定義が曖昧な現状があるため、まずは競技スポーツおよび一般の人々を対象とする「トレーナー」の職種とその仕事内容（職域、資格）を理解する必要がある。その中でも特に競技スポーツに関わる「トレーナー」についての基本的知識や技術を紹介する。

<授業の到達目標>

日本における「トレーナー」の種類と仕事内容（職域、資格）、特にAT（アスレティックトレーナー）とS&C（ストレングス&コンディショニング）コーチの違いを理解する。またそれぞれの仕事において必要となる基本知識を身につける。

<授業の方法>

トレーナーという職業についてディスカッションし、トレーナーに必要な技能や知識について考えていく。タブレットを活用し、それぞれのトレーナー（ATとS&C）がどのようにスポーツ現場で働いて、どのような違いがあるのかインターネットから調べまとめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の講義内容に関してインターネットや文献で調べてくる。（1時間）復習：講義の中でディスカッションした内容に関して要点をレポートにまとめる。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組みと課題提出状況）30%、試験（小テスト、期末試験）70%

<教科書>

<参考書>

日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト アスレティックトレーナーの役割 文光堂
NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	「トレーナー」の種類と職域	日本における「トレーナー」制度ATとS&Cの仕事と職域
3	トレーナーと倫理	トレーナーに関わる可能性がある医療関係法規と法的諸問題
4	ATの役割と業務①	メディカルチェック
5	ATの役割と業務②	救急処置・ケア
6	ATの役割と業務③	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
7	コンディショニング①	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
8	コンディショニング②	ウェイトコントロール（増量と減量）
9	S&Cの役割と業務①	筋力向上トレーニングの基礎理論①
10	S&Cの役割と業務②	筋力向上トレーニングの基礎理論②
11	S&Cの役割と業務③	筋力向上トレーニングの基礎理論③
12	S&Cの役割と業務④	パワー向上トレーニングの基礎理論
13	S&Cの役割と業務⑤	持久力向上の基礎理論
14	S&Cの役割と業務⑥	各種体力測定と評価
15	まとめ	授業の総復習
16		

科目コード	40123				区分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばす。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する。（約20分）予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる。（約20分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30% レポート：10% 実技：60%

<教科書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性について
2	マット運動	回転系接転技群
3	マット運動	回転系ほん転技群①
4	マット運動	回転系ほん転技群②
5	マット運動	回転系ほん転技群③
6	マット運動	連続技・技のつなぎ方について
7	とび箱運動	切り返し系切り返し跳び
8	とび箱運動	回転系回転跳び
9	鉄棒運動	支持系前方支持回転群
10	鉄棒運動	支持系後方支持回転群
11	鉄棒運動	懸垂系
12	総合練習	模擬演技の実践
13	マット運動	実技テスト
14	跳び箱運動	実技テスト
15	鉄棒運動	実技テスト
16		

科目コード	34107				区分	コア科目			
授業科目名	社会福祉学				担当者名	小倉 毅			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

核家族化や、急速な少子・高齢化の進展、さらには人権意識の向上などを背景に、生活困窮者や児童、病弱者、障害者、高齢者などの尊厳と自立、社会参加を支える活動の重要性が高まっている。本講義では、社会福祉の意義・理念を理解したうえで、法体系や制度、福祉サービス体系における公私の役割活動について学習する。

<授業の到達目標>

社会福祉が、私達の身近な生活のなかに深く関わり、生活を支えているものであるということを理解する。また、それらの問題・ニーズに気づくための視点を養い、問題・ニーズに対応し、これを軽減し解消するための制度、機関、専門職などの資源について知り、これらに適切につなぐための方法を身につける。

<授業の方法>

教科書に基づいて専門知識の理解し、講義ノートの作成を課す。適宜講義課題について小レポート作成をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習の方法（45分）下記の授業計画はテキストに準拠している。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。2) 復習の方法（45分）授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価は、授業態度 20%、定期試験 60%、レポート 20%の総合評価。

<教科書>

松井圭三・今井慶宗 「現代社会福祉要説」 ふくろう出版（2022年4月改訂）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	社会福祉を学ぶ視点	社会福祉の概念、少子高齢化と社会福祉
2	社会福祉の歴史	戦後を中心とした社会福祉の歴史
3	社会福祉の範囲と法体系	社会福祉の存在意義、社会福祉法、福祉6法
4	社会福祉の実施体制	社会福祉における国と地方公共団体の役割
5	社会福祉サービスの種類と財源	社会保険の種類と内容
6	社会保障制度（1）	社会的養護の仕組みと実施体系
7	社会保障制度（2）	生活保護制度の意味と内容
8	子どもと家族の福祉	児童福祉の概要、少子化と次世代育成支援
9	障害をもつ人の福祉	障害の捉え方と定義、障害者福祉サービスと施策
10	高齢者の福祉	高齢者の生活課題と福祉ニーズ、高齢者の福祉・保健サービス
11	地域福祉	地域福祉とは、福祉のまちづくり
12	社会福祉専門職と倫理	社会福祉の職種と職場、求められる倫理
13	ソーシャルワークの原理と機能	ソーシャルワークとは、ソーシャルワークの種類
14	権利擁護とサービスの質	権利擁護とは、サービスの指導監査と第三者評価
15	社会福祉のまとめ	ポイントの整理
16		

科目コード	53008			区分	コア科目				
授業科目名	国際交流実習 I (基礎)			担当者名	伊藤 仁美/Jason Witthaus				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、他国の人々と異文化交流や諸活動等の実体験を通じて、「コミュニケーション能力」や「異文化理解力」を身に付けることを目的とする。同時に、多国籍な学びの場を創出することによって、日本人、ひいては国際人としての自覚とアイデンティティの涵養を促すことをねらいとする。

<授業の到達目標>

基本的な英語の4技能を伸ばすことによって、ニュージーランドでの留學生活に対する不安を取り除くとともに、異文化環境で直面する状況に対応するための対処法を身につける。

<授業の方法>

本科目は、IPU NZへの留學を希望する学生の必修科目である。留學生活における様々な状況を想定し、それに対応するためのロールプレイやペアワークを通して様々な表現方法を習得する。また、グループワークを通じて留學先の社会環境を理解し、その成果についてプレゼンテーションを行う。Google Classroom を活用した課題の配布、グループ発表のプレゼンテーション資料の共有など、ICTの活用に努める。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業中での積極的な参加はもちろんだが、自分なりに状況を想定して学びたい表現を授業に持ってくるのが望ましい。各回の予習に60分、復習に60分が求められる。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席・授業態度・課題 30%、確認テスト 20%、グループワーク 20%、最終プレゼンテーション 30% 質問は授業の前後、または教員のオフィスアワーにおいて対応する。

<教科書>

辻勢都, 辻和成 (2015年2月20日) グローバルキャリアをめざして—語学留學のためのファーストステップ 三修社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	事前オリエンテーション	本科目で学ぶ内容の理解と ICT の活用方法を知る
2	飛行機内にて	機内アナウンスを聞き取ったり、客室乗務員とのやり取りを練習する
3	交通機関	目的地までの交通の便の確認や道に迷った時の対処法を学ぶとともに、日本とニュージーランドの交通システムの違いを理解する
4	学校でのオリエンテーション	キャンパスでよく使う英語を理解し、和製英語を避けたり、日常会話を自ら始めたり継続するための表現方法について学ぶ
5	電話をかける	留學先での電話利用に関する留意点を学ぶとともに、英語での基礎的な電話のかけ方・受け方について学ぶ
6	病気	病院で自分の体調を説明するときの英語を学ぶとともに、日本とニュージーランドの医療システムの違いを理解する
7	買い物	ニュージーランドのスーパーマーケットで商品を購入する際の英語を学ぶとともに、日本との違いを知る
8	eメール	英語メールの基礎的な書き方について学ぶ
9	確認テスト①	これまでの学習内容の定着度を確認する(やり取りする力を中心に)
10	日本の文化	日本の文化について発信する
11	プレゼンテーションの方法	効果的なプレゼンテーションの方法について学ぶ
12	プレゼンテーションの準備	グループごとにプレゼンテーションの準備を行う
13	プレゼンテーションの練習	グループごとにプレゼンテーションの練習を行う
14	最終プレゼンテーション	「日本を紹介する」というテーマで英語でプレゼンテーションをおこなう
15	確認テスト②・振り返り	これまでの学習内容の定着度を確認する(主に教科書・別途リーディング課題より出題)
16		

科目コード	53000				区 分	学科により異なる			
授業科目名	海外研修				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目はIPUNZ留学の読替科目であるため、IPUNZ留学生は履修してはならない。IPUNZ留学以外での海外留学・海外研修をする学生を対象としたものである。

<授業の到達目標>

海外での現地での研修プログラムに参加し、外国語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、現地の方々との交流や課外活動を通じて、異文化について学ぶ。また、それらの体験を通じ、母国語とその文化についての見識を深め、表現力・発信力を身につける。

<授業の方法>

講義・演習形式で事前研修・事後研修授業を行う。現地研修でフィールドワークを中心に、個別またはグループワークとプレゼンテーションを含む研修を実施する予定である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研修先の国や地域、また研修の目的を理解すること。海外研修期間は行動をまとめ、最終報告をすること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業貢献度（20％） 研修報告（80％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前研修（1）	現地についての事前知識・安全情報など、渡航に必要な知識を学ぶ
2	事前研修（2）	研修目的と研修中の注意事項、研修において課される課題説明を通して、研修計画をたてる
3	現地研修(1)	現地での研修を実施する
4	現地研修(2)	現地での研修を実施する
5	現地研修(3)	現地での研修を実施する
6	現地研修(4)	現地での研修を実施する
7	現地研修(5)	現地での研修を実施する
8	現地研修(6)	現地での研修を実施する
9	現地研修(7)	現地での研修を実施する
10	現地研修(8)	現地での研修を実施する
11	現地研修(9)	現地での研修を実施する
12	現地研修(10)	現地での研修を実施する
13	現地研修(11)	現地での研修を実施する
14	事後研修（1）	研修の成果報告を作成する
15	事後研修（2）	研修の成果を個人またはグループで報告・発表する
16		

科目コード	0				区分	専門基礎科目			
授業科目名	ミクロ経済学				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、消費者と生産者を中心として、消費者が限られた予算内で財(商品)を購入する際にどのような基準で意思決定をするのか、生産者が限られた資源(土地、労働等)をどのように有効に活用し財(商品)を生産するのか、そして市場における需要と供給、価格と数量の決まり方等、ミクロ経済学の基本的な考え方について学ぶ。これらの意思決定はわたしたちの生活にも身近なものであり、ミクロ経済学の考え方が現実の経済問題にどのように応用可能かについて理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、市場を構成する家計や企業といった各経済主体の選択行動の基礎理論と、そこから導かれる市場メカニズムについて説明する。この講義では、ミクロ経済学において最低限必要な「基礎知識」、「経済学的な考え方」、「分析手法」を習得することが目標となる。

<授業の方法>

板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、教科書・参考書・事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、最終課題50%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学で学ぶことを概観する。
2	需要と供給	グラフの見方を解説する。
3	消費者の行動	効用、予算制約について解説する。
4	消費の決定	消費がどのようにして決定されるかについて解説する。
5	生産者の行動	利潤、費用について解説する。
6	生産の決定	どのようにして生産が決定されるかについて解説する。
7	市場均衡	需要曲線と供給曲線、価格の決定を解説する。
8	経済厚生	余剰分析から経済厚生について考える。
9	完全競争と資源配分	パレート最適について解説する。
10	市場の失敗	市場メカニズムがうまく働かないケースを考える。
11	不完全競争	独占、寡占を考える。
12	公共財	公共財の特徴を解説する。
13	ゲーム論	ゲーム論の概要を解説する。
14	情報の経済学	エイジェンシー理論等の情報の経済学について概観する。
15	ミクロ経済学の世界	これまでの内容を踏まえて現実社会と照らし合わせてまとめる。
16		

科目コード	27104				区分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では頭部顔面骨折・胸骨骨折・肋骨骨折・脊椎骨折・前腕遠位端部骨折・手根骨骨折・中手骨骨折・指骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し、必要に応じて資料を配付する。確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogle classroomにて配信する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。(毎回、1時間程度) 復習：小テストを次の授業で実施する。(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲30% 小テスト20% 評価試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂
 目崎 登監修 運動器疾患ワークブック 医歯薬出版

<参考書>

標準整形外科学 医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	頭部・顔面骨折	頭蓋骨骨折 眼窩底破裂骨折
2	頭部・顔面骨折	上顎骨骨折 頬骨および頬骨弓骨折
3	頭部・顔面骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折及び下顎骨骨折
4	胸骨骨折	胸骨骨折(胸骨柄部・体部・剣状突起部)
5	肋骨骨折	肋骨骨折及び肋軟骨骨折
6	脊椎骨折	頸椎・胸椎・腰椎骨折
7	前腕遠位端部骨折	コーレス骨折
8	前腕遠位端部骨折	スミス骨折 バートン骨折 ショーファー骨折
9	手根骨骨折	舟状骨骨折
10	手根骨骨折	その他の手根骨
11	中手骨骨折	中手骨骨折
12	中手骨骨折	その他中手骨骨折
13	指骨骨折	基節骨・中節骨骨折
14	指骨骨折	マレットフィンガー・末節骨骨折
15	まとめ	総合評価
16		

科目コード	0				区分	専門基礎科目			
授業科目名	マクロ経済学				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。具体的には、マクロ経済学の基礎理論を正しく理解することを第一の目標とし、マクロ経済政策、失業や物価問題、経済成長など、今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当て、マクロ経済学の視点から分析・考察して自分なりの見解を導き出すことを第二の目標とする。

<授業の方法>

本講義は講義形式で行う。講義レジュメや各種資料は電子データ(pdfデータ)で配布するため、それらの参照用に、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)の持ち込み・利用を必要とする。また、分からない用語や内容については各種検索webサイトを利用して、授業中でも適時情報検索してもらう。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、必ずテキストの該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、またわからない専門用語も調べるなど、予習にはおよそ60分~90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が求められる。その他、日経ビジネスをはじめ新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくよう心掛けると良い。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

<教科書>

飯田幸裕・岩田幸訓(2018) 入門経済学〔第四版〕 創成社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	マクロ経済学を楽しむ方法
2	経済規模を測るGDP(1)	GDPとは何か、名目と実質、経済成長率
3	経済規模を測るGDP(2)	付加価値、三面等価の原則、GNI
4	供給サイドから見るGDP	潜在経済成長率、総要素生産性
5	需要サイドから見るGDP	寄与度、GDPの支出面
6	需要・供給と日本経済	新古典派とケインジアン考え方
7	生産・所得・需要の決定と消費関数	乗数効果、消費関数、45度線と所得水準
8	投資・政府支出の導入と国際経済への拡張	投資と政府支出、ISバランス
9	貨幣が持つ機能	貨幣とは、貨幣の機能
10	マネーサプライとハイパワードマネー	信用乗数、マネーストック
11	貨幣供給と貨幣需要	貨幣供給と物価、貨幣数量式、貨幣需要とは
12	マクロ経済政策	政策目標と政策手段、財政政策と金融政策
13	インフレーションと失業	インフレーションとは、失業率、フィリップス曲線
14	経済成長の理論	資本蓄積、労働人口、技術進歩、ハロッド=ドーマーの理論
15	総括	経済学と経営学
16		

科目コード	28124				区分	専門基礎			
授業科目名	スポーツデータサイエンス入門 [PS用]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

データサイエンスとは、「データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのこと」であり、統計学や情報科学・情報工学の知識を扱い、データを価値のあるものへと導いていく。本授業では、その入門として、スポーツデータの種類に応じて適切なデータの扱い方や、視覚化の方法を学ぶ。そして、身近なデータやグラフからその成り立ちや仕組みについて理解できるようになることを目指す科目である。

<授業の到達目標>

データの種類に応じて適切な扱い方を選択できるようになる。データの種類に応じて適切なグラフを作成できるようになる。日常生活、スポーツ活動中に目にするデータやグラフの意味を理解できるようになる。また、その仕組みが理解できるようになる。

<授業の方法>

講義の際は、ビデオやスライドを用いて解説を行う。Classroomを通じて資料配布や課題管理を行う。自分でまたはグループでPC作業を行うため、毎授業必ずPCを持参すること。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

与えられた課題に対して、事前学習1時間、事後学習2時間程度行うことが必要である。また授業内に終えることができなかった課題は、次の授業までに必ず提出が完了していること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題40%，中間課題20%，毎授業後の課題30%，意欲態度10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	授業の概要，到達目標，授業の進め方，成績評価について説明する。
2	データの種類について	データの種類について学ぶ
3	データの入力方法	データの入力方法や規則について学ぶ。
4	データの取り扱いについて	データの取り扱い方について学ぶ（欠損値や平滑化）
5	データビジュアライゼーション①	データを視覚化する方法を学ぶ（グラフの種類など）
6	データビジュアライゼーション②	サンプルデータを視覚化してみる
7	中間課題	中間課題に取り組む
8	身近なデータサイエンス①	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
9	身近なデータサイエンス②	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
10	スポーツにおけるデータサイエンス①	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
11	スポーツにおけるデータサイエンス②	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
12	スポーツにおけるデータサイエンス③	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する③
13	スポーツにおけるデータサイエンス④	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する④
14	スポーツにおけるデータサイエンス⑤	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する⑤
15	最終課題	最終課題に取り組む
16		

科目コード	35100				区分	専門基礎			
授業科目名	運動学				担当者名	早田 剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動学は、人間の身体運動の構造や性質を、諸原理から選択して、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。動きに関わる動作や意識に現れる「かたち」をその研究対象、分析対象にするという方法論をもち、そうした視点から現場の運動実践の問題解決に寄与しようとする理論を学ぶ。

<授業の到達目標>

1. 人間の運動と器械や動物の運動の違いを理解するとともに運動学の意義を示すことができる。2. 運動の外的構造と内的構造を理解する。3. 動感創発身体知や動感促発身体知について、実際の運動場面と照らし合わせて理解することができる。

<授業の方法>

1. 予習課題の提出：テーマに即した意見の提出と他学生の意見を確認する（約30分）2. オンデマンド資料視聴① 解説と問いの提示（約10分）3. 確認小テスト（約30分）4. オンデマンド資料視聴② 解説と問いの提示（約10分）5. 授業後レポートの提出（約30分）：字数制限有 次週課題の確認（

科目コード	36202			区 分	コア科目				
授業科目名	生理学			担当者名	十河 直太				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

主として、人の生理機能の基礎的なしくみについて学習する。また、生理学の応用として、運動時の反応や、発育・発達期及び中高年期における生理機能の特徴について学習する。さらに、水中という特殊環境や球技における生理的応答について学習する。

<授業の到達目標>

1. 人の生理機能の基礎的なしくみ及び運動が生理機能に及ぼす効果について、専門用語を理解し、体系化できる。2. 単に知識を習得するだけでなく、日常生活や体育・スポーツ活動に活用し、実践することができる。

<授業の方法>

1. パワーポイントや動画を用いて講義内容を解説する方法で毎回の授業を進める。2. 折に触れ、当該授業内容に関して発問するので、それに対して討議する。3. 授業の理解度を確認するため、毎回の授業の中間と終了前に小テストを実施する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回の講義内容を確認し、課題を再認する。各回の講義内容の教科書における該当箇所は、第1回目に配布するプリントに示しているので、それを参考にする。(1時間程度) 復習：振り返りレポートを5回に1回の割合で作成する。(2時間程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲10%、小テスト等40%、定期試験 50%

<教科書>

<参考書>

オストランド、ラダール、浅野訳(1995) 「運動生理学」 大修館書店
黒川隆志、山崎昌廣他(2000) 「健康スポーツ科学」 技報堂出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	1-15回目の授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	現代生活と生理学	現代生活における生理学の意義について解説
3	人のエネルギー供給機構	人のエネルギー供給機構に基づく、運動を発現させる理論的背景
4	酸素摂取の生理学(1)	運動中の酸素摂取動態、最大酸素摂取量
5	酸素摂取の生理学(2)	無酸素性作業閾値、無酸素性エネルギーの指標
6	呼吸器系のしくみと運動	呼吸器系のしくみと運動時の反応
7	循環器系のしくみと運動	循環器系のしくみと運動時の反応
8	筋系のしくみと運動	筋系のしくみ、力発揮から見た筋の働き
9	神経系のしくみと運動	神経系のしくみ、動作の神経調節機構、力の調節
10	消化・内分泌系のしくみと運動	消化・内分泌系のしくみと運動の効果
11	健康とは?、体力とは?	健康、体力の定義とその要因
12	発育・発達と運動	発育・発達に伴う体力・生理機能の変化
13	老化と運動	加齢に伴う体力・生理機能の変化
14	水中環境の生理学	水中環境(浮力、抵抗、水圧、水温)がもたらす生理的变化
15	球技の生理学	球技のエネルギー特性と各球技種目の選手に必要な生理的能力
16		

科目コード	65022			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	リーディング・スキル（基礎） [英語教員希望者限定]			担当者名	井上 聡				
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検2級レベルで、英文の速読・精読力と語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題に取り組み、課題の提出・採点・返却後に理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

<授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検2級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得た学びを「意見交換」の場で言語化できる。 ※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業日の前日 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの受験（1時間程度）と意見交換（10分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Generations Helping Each Other	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Metal Foam	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	A New Type of Chocolate	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	A New Way to Use a Computer	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Price of a Song	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	A Model Tourist Town	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	The Mysterious Mummies	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Female Pioneers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Counting Every Children	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Smart Stickers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Bibliotherapy	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Bringing Back Ancient Plants	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03
16		

科目コード	0				区 分	専門基礎			
授業 科目名	現代経営論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	履修必修

<授業の概要>

オムニバス形式で、『日本経済新聞』の読み方を、外部講師が解説。1年生が対象。

<授業の到達目標>

『日本経済新聞』が理解できる基礎力がつき、現代社会で起こっている社会・経済問題のポイントが理解できるようになる。

<授業の方法>

オムニバス形式の講義

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

最初の講義で指示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最初の講義で指示する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	34120				区分	専門基礎科目（領域・教科等に関する基礎理解）			
授業科目名	幼児と健康				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修／ 教員免許状 取得のため の選択科目

<授業の概要>

領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的な生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な環境設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を理解する。この科目は保育士資格取得の必須科目である。

<授業の到達目標>

現代の子どもの健康を取り巻く環境の変化や諸問題を把握した上で、子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達について理解する。また、各指針・要領の健康領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。

<授業の方法>

・講義形式ではパワーポイントを活用し、必要に応じて資料の配布を行う。・適宜ディスカッション、グループワークを用いて、交流を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す。また、授業内容のレポート課題を課すことがある。課題の提出はクラスルームから行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題60%、期末試験40%

<教科書>

なし

<参考書>

無藤隆、倉持清美（2020年8月25日） 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域健康 榊文書林
 酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日） 保育内容 健康 あなたならどうしますか？ 榊文書林
 松田博雄、金森三枝（2019年） 子どもの健康と安全 中央法規

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	領域「健康」のねらい	授業概要の解説と領域健康についての解説
2	健康について	健康とは何かを考え、グループワークを行う
3	幼児の身体の発達	形態、骨、歯、脳の発達
4	幼児の心の発達	精神的発達、知的発達、社会性の発達
5	幼児の生活習慣	幼児教育施設における生活習慣
6	生活習慣の形成（睡眠・食事・排泄）	睡眠、食事、排泄、衣服の着脱の自立について
7	幼児の体力・運動能力について	幼児期運動指針、運動能力、身体活動について
8	幼児の運動遊びについて①	幼児の遊びの意義、多様な動きについて
9	幼児の運動遊びについて②	用具を用いた運動遊び
10	子どもの健康をめぐる現状と課題	子どもの健康に関する近年のトピックを扱う
11	子どものケガと病気	幼児に起こりやすい怪我と疾病
12	安全教育	子どもへの安全教育、保育者への研修
13	事故予防	防災教育、リスクマネジメント、施設設備管理
14	ICTを活用した保育	保育現場でICTを用いた保育方法の理解
15	幼児教育の現代的課題と領域「健康」	授業内容全般における振り返りと生涯発達のなかで「健康」に関する学びを捉える
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	簿記演習				担当者名	大池 淳一			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は履修者全員が日商簿記検定3級を受験し合格を目指す。そのため「簿記入門」を履修し基本的な知識や技術を定着させておく必要がある。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つ。本科目では、企業が行う決算処理までのプロセスを複式簿記のしくみを使いながら演習形式で理解することが目的である。複式簿記は、企業の経済的な取引を貨幣という尺度で記録し、計算し、整理して会計報告書にまとめていくための企業会計の重要な手段である。本科目では、簿記の専門用語の理解に配慮しながら、記帳演習及び計算練

<授業の到達目標>

① 日商簿記検定3級を履修者全員が受験し合格する。② 日々の取引の仕訳から決算処理までのプロセスを理解する。③ 複式簿記の専門用語を理解し、仕訳および記帳技術を習得する。

<授業の方法>

① 授業では教科書に従い、主に演習形式で行う。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓不可）および定規を持参すること。③ 「簿記入門」の単位取得者あるいは商業高校等で日商簿記検定3級レベルを既習の者。④ 第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡すること）⑤ 本科目では、問題演習科目であるため、個人学修によるところが大きい。⑥ 既に日商簿記検定3級以上を取得者であっても是非とも履修し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読んでおき、例題を解いておくこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにする。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）3時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）3時間に費やす必要がある

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト・レポート70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/3/17) 2024年度版 スッキリわかる日商簿記3級 本試験予想問題集 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針
2	第1問対策①	仕訳，全範囲から出題①
3	第1問対策②	仕訳，全範囲から出題②
4	第1問対策③	仕訳，全範囲から出題③
5	第2問対策①	勘定記入①
6	第2問対策②	勘定記入②
7	第2問対策③	勘定記入③
8	第3問対策①	貸借対照表，損益計算書の作成①
9	第3問対策②	貸借対照表，損益計算書の作成②
10	第3問対策③	貸借対照表，損益計算書の作成③
11	模擬試験①	予想問題①
12	模擬試験②	予想問題②
13	模擬試験③	予想問題③
14	模擬試験④	予想問題④
15	模擬試験⑤	予想問題⑤
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	公共経営セミナー				担当者名	山本 満理子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、「公共とは何か」という問いから出発し、「公共経営とは何か」「なぜ公共経営が必要なのか」という問いに繋げ、公共経営の実務から公務員の社会的使命や役割を学び、それらの問いに対する答えを探る。学生たちは自ら考えて問いを立て、グループで協力し、自ら行動して答えを追究することが求められる。

<授業の到達目標>

①公共経営への関心や問題意識を持つこと②公共経営への理解を深めること③職業意識を涵養すること

<授業の方法>

グループワークを通して行政運営を模擬体験する。学生はそれぞれグループに属して自ら考え、研究し、課題を処理していく。この講義は学生主体でセミナーを構築し、能動的に学んでいくことで公共の担い手としての資質を磨いていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示される課題を各回までに行うとともに、随時グループワークの度に示される事後学習課題を提出する。各スタッフ同士の連携も必要である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度(出席等)30%、課題レポート30%、プレゼンや質疑、グループワークにおける貢献度40%により成績評価を行う。

<教科書>

<参考書>

松永佳甫(2015年4月) 公共経営学入門 大阪大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンスと事前準備(1)	具体的な活動内容の説明とグループ分けを行います
2	ガイダンスと事前準備(2)	グループ内の役割分担を決め、ワークの内容を検討します
3	グループワーク(1)課題設定	各グループの課題設定を行います
4	グループワーク(2)先行研究レビューなど	設定した課題について先行研究の調査と学習を行います
5	グループワーク(3)先行研究レビューなど	設定した課題について先行研究の調査と学習を行います
6	行政視点から学ぶ	これまでの学習を行政視点から考えます
7	模擬公務(1)	行政の仕事を模擬的に体験します(1)
8	「選挙管理行政の実務」(自治体とのセッション①)	自治体とのセッションを通して行政実務を学びます。
9	模擬公務(2)	行政の仕事を模擬的に体験します(2)
10	模擬公務(3)	行政の仕事を模擬的に体験します(3)
11	模擬公務(4)	行政の仕事を模擬的に体験します(4)
12	グループワークまとめ、プレゼン・セッション準備(1)	グループワークのまとめを行い、プレゼンやセッションの準備をします(1)
13	プレゼン・セッション準備(2)	グループワークのまとめを行い、プレゼンやセッションの準備をします(2)
14	プレゼンテーション(自治体とのセッション②)	公共経営セミナーの学びをプレゼンします
15	振り返り	公共経営セミナー全体を振り返ります
16		

科目コード	24102			区分	専門基礎				
授業科目名	時事英語			担当者名	竹下 厚志				
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

地球市民として、世界の人たちと様々な分野で交流を持つための基本的な英語コミュニケーション能力を育成することを目的とします。主なテーマをSDGsとして、私たちが直面しているグローバルイシューの解決について一緒に考えていながら、同時に英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことを目指します。

<授業の到達目標>

・SDGsについて基本的な知識を身に付けている。・英語コミュニケーション能力の5技能がバランスよく習得されている。・グローバルイシューについて論理的、批判的、多面的に思考しながら理解している。・SDGsの解決に向けた自分なりの解決策を提案することができる。

<授業の方法>

主に2つのパートから授業は構成されます。一つは英語コミュニケーションの技能習得を目的としたトレーニングです。5技能統合型の手法でCEFR B2レベル以上を目指します。もう一つはSDGsを中心としたグローバルイシューを通して思考力の向上を目指します。単に英文を理解するという表面的な学習ではなく、皆さんがその世界課題に対してどのように考え、解決のための行動を起こせるかについて一緒に考え、行動計画を立てたいと思います。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

扱っているテーマについて日ごろから社会情勢(世界情勢)に敏感になるための情報収集をしてください(毎日30分以上)。また、発表に向けて準備は万全にしてください(2時間以上)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加度40%、提出物提出20%、発表40%

<教科書>

<参考書>

竹下 厚志(2021年2月25日) SDGs 英語長文 Core 三省堂

竹下 厚志(2019年4月12日) SDGs 英語長文 三省堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	今後の学習の方向性の相談
2	テーマ学習①	身近なテーマについて意見交換
3	テーマ学習②	身近なテーマについて意見交換
4	テーマ学習③	身近なテーマについて意見交換
5	テーマ学習発表①	身近なテーマに関する意見発表
6	テーマ学習④	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
7	テーマ学習⑤	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
8	テーマ学習⑥	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
9	テーマ学習発表②	グローバルイシューに関する意見発表
10	テーマ学習⑦	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
11	テーマ学習⑧	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
12	テーマ学習⑨	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
13	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表①
14	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表②
15	SDGsに関する理解の確認と自分の学習軌跡の振り返り	SDGsに関するQAと振り返りレポート
16		

科目コード	28124				区分	専門基礎			
授業科目名	スポーツデータサイエンス入門 [PP用]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

データサイエンスとは、「データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのこと」であり、統計学や情報科学・情報工学の知識を扱い、データを価値のあるものへと導いていく。本授業では、その入門として、スポーツデータの種類に応じて適切なデータの扱い方や、視覚化の方法を学ぶ。そして、身近なデータやグラフからその成り立ちや仕組みについて理解できるようになることを目指す科目である。

<授業の到達目標>

データの種類に応じて適切な扱い方を選択できるようになる。データの種類に応じて適切なグラフを作成できるようになる。日常生活、スポーツ活動中に目にするデータやグラフの意味を理解できるようになる。また、その仕組みが理解できるようになる。

<授業の方法>

講義の際は、ビデオやスライドを用いて解説を行う。Classroomを通じて資料配布や課題管理を行う。自分でまたはグループでPC作業を行うため、毎授業必ずPCを持参すること。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

与えられた課題に対して、事前学習1時間、事後学習2時間程度行うことが必要である。また授業内に終えることができなかった課題は、次の授業までに必ず提出が完了していること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題40%，中間課題20%，毎授業後の課題30%，意欲態度10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	授業の概要，到達目標，授業の進め方，成績評価について説明する。
2	データの種類について	データの種類について学ぶ
3	データの入力方法	データの入力方法や規則について学ぶ。
4	データの取り扱いについて	データの取り扱い方について学ぶ（欠損値や平滑化）
5	データビジュアライゼーション①	データを視覚化する方法を学ぶ（グラフの種類など）
6	データビジュアライゼーション②	サンプルデータを視覚化してみる
7	中間課題	中間課題に取り組む
8	身近なデータサイエンス①	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
9	身近なデータサイエンス②	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
10	スポーツにおけるデータサイエンス①	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
11	スポーツにおけるデータサイエンス②	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
12	スポーツにおけるデータサイエンス③	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する③
13	スポーツにおけるデータサイエンス④	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する④
14	スポーツにおけるデータサイエンス⑤	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する⑤
15	最終課題	最終課題に取り組む
16		

科目コード	38200				区分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法 I (基礎) [PP+他学科]				担当者名	久田 孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 省察活動（まとめと振り返り） 3. 協働的活動とディスカッション 4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 「学校学習指導要領解説—保健体育編—」 東山書房

<参考書>

高橋健夫他（2010） 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える
16		

科目コード	61013				区分	コア			
授業科目名	トレーニング科学 I (基礎)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

<授業の到達目標>

各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価する能力を養うことを目標とする。

<授業の方法>

パワーポイントを用いたオンデマンド講義を視聴した上で、確認テストおよびディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：パワーポイントを用いたオンデマンド講義を視聴すること。復習：授業に対するコメントを翌日の17時までに回答した上で、次の授業で行う確認テストの準備を行うこと。（所要時間：2時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 毎回の評価：5点×15回（確認テストおよびディスカッション）2) 期末レポート評価：自身の経験およびディスカッションをもとにしたレポートで評価する。

<教科書>

<参考書>

宮下充正 スポーツコーチのためのトレーニング生理学 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	力強さを高めるためのトレーニング	最大筋力、筋肥大、レジスタンストレーニング
5	力強さを持続するためのトレーニング	筋持久力、サーキット・トレーニング
6	ねばり強さを高めるためのトレーニング	最大酸素摂取量、LT、インターバル・トレーニング
7	トレーニングの順序・組み合わせ	コンカレント・トレーニング、クロス・トレーニング
8	トレーニングと環境	寒冷、暑熱、高地
9	トレーニングと栄養補給	スポーツライフマネジメント、三大栄養素
10	コンディショニングの理論と方法	疲労と体力の関係性、オーバートレーニング症候群
11	トレーニング効果の評価方法 (1) ラボテスト	最大酸素摂取量、最大筋力、各種跳躍能力の測定と評価
12	トレーニング効果の評価方法 (2) フィールドテスト	筋力、パワーおよび跳躍能力の測定と評価
13	トレーニング計画の作成 (1) 陸上競技	課題設定と達成のための計画づくり
14	トレーニング計画の作成 (2) 球技	課題設定と達成のための計画づくり
15	トレーニング計画の作成 (3) 武道	課題設定と達成のための計画づくり
16		

科目コード	10303				区分	専門基礎科目			
授業科目名	統計学基礎				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

データ処理・分析は最近のビジネスにおいて必須となっている。急速にデジタル化が進む現代において、さまざまなデータを処理し、目的に応じた問題解決的な思考を身につけなければならない。行政においても政策・意思決定の客観的な証拠をデータで示す必要がある。そこで利用されるのが統計学である。本科目はそのような統計学の基礎について学ぶ。

<授業の到達目標>

データを処理・分析するためには、その方法だけではなく、データの特徴を把握し、結果を読み取る力が必要である。そこで、本科目では、データの処理・分析方法の基礎を身につけ、その結果を正しく読み取りして表すことができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

本科目は、パソコン（Excel）を利用する。したがって、毎回パソコンの持参が必須となる。はじめにデータの整理・見方、分析の方法を解説し、その分析手法をパソコンで確認する。例題としてデータを利用した作業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された内容や課題を予習することを必要とする。PCを操作してその方法を確認する。講義後は、取り扱った内容を復習し、次回の授業までに理解しておくことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題提出20%、最終課題50%で評価する。

<教科書>

<参考書>

講義内で紹介

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	統計学とは
2	表とグラフ	表やグラフの見方・読み方
3	表とグラフからわかること	実際のデータを表やグラフにして表す
4	データを基本的な表で表す	度数分布表
5	データを一つの数値で表す	平均値、中央値、最頻値
6	データの散らばり	四分位範囲、分散、標準偏差
7	異なるデータを比較する	標準化、偏差値
8	二つの質的変数の関係を見る	クロス表
9	二つの変数の関係をグラフで表す	散布図と相関
10	二つの変数の関係を数値で表す	相関係数
11	二つの変数の関係を式で表す	回帰分析
12	一部のデータから全体を把握する	母集団、標本、推定
13	標本の大きさを求める	標本設計
14	日本の統計の現状	公的統計
15	まとめ	最終課題と解説
16		

科目コード	36102				区分	コア科目			
授業科目名	健康管理概論				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生物学の基本的事項からはじまり、医学的な理解を深め、他の関連する授業の足がかりとなるよう講義する。また、自分自身の健康状態を把握し、よりいっそうの健康に関心を抱き、健康管理概論のベースを理解することを目的とする。医学は大きく分けて、病気の人と対峙し、病気の治療を目的としている臨床医学、生物学を基礎に、病気の病因・病態を解明することを目的としている基礎医学、「集団としてのヒト」を対象にした社会医学からなる。

<授業の到達目標>

臨床医学、基礎医学、社会医学の3つの分野について講義するとともに今日的なトピックの事項を勉強する。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容については授業時に随時通知する予定。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

入江由香子・中村栄太郎 編集（2006.7） 「健康運動指導のための健康管理概論」 杏林書院

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	序論	医事法規
2	からだの成り立ち (1)	細胞学、組織について
3	からだの成り立ち (2)	器官、系について
4	健康の概念	健康とは何か、体力とは何か、健康と体力の関連
5	現代社会と健康 (1)	健康障害とはどのように発生するか、日本人の平均寿命、少子高齢化
6	現代社会と健康 (2)	高齢社会の抱える問題、疾病構造の変化、生活習慣病
7	健康づくり施策概論、小テスト	世界のあゆみ、日本のあゆみ、健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割、小テスト
8	健康状態をどのように評価するか	個人の健康度、集団の健康度
9	健康増進のための方法論 (1)	健康と栄養、肥満とその予防
10	健康増進のための方法論 (2)	健康と運動、休養
11	ライフステージからみた健康管理	成長期の運動、老年期の運動
12	メディカルチェック (1)	メディカルチェック (1)
13	メディカルチェック (2)	メディカルチェック (2)
14	障害者と運動 (1)	障害とは、障害の種類、リハビリテーション
15	障害者と運動 (2)	レクリエーションとしての運動、障害者のスポーツ
16		

科目コード	38200				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法 I (基礎) [PP+他学科]				担当者名	久田 孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 省察活動（まとめと振り返り） 3. 協働的活動とディスカッション 4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 「学校学習指導要領解説―保健体育編―」 東山書房

<参考書>

高橋健夫他（2010） 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史の変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える
16		

科目コード	0				区分	コア			
授業科目名	関係法規				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師国家試験問題に十分に対応できるようになることを前提とし、「患者中心の医療」および「良質な医療を提供」がこれからの医療のスローガンであり、医療の質を問うだけでなく、医療従事者自身の技術や倫理観のレベルを問うものとなっていること等を学んでゆく。

<授業の到達目標>

法の基礎および意義、体系について理解し、柔道整復師法および医療従事者の資格法、医療法、その他の関係法規等についての基礎を理解する。

<授業の方法>

テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。單元ごとに小テストを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。單元ごとに小テストを行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期テスト50% 小テスト20% 学習意欲30%

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2024年4月1日） 関係法規 2024年版 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業進行上の注意事項説明
2	憲法と法制度	法の体系、憲法
3	柔道整復師関連事項	柔道整復師及び柔道整復に関する事項、患者の権利
4	柔道整復師法第1章 総論	柔道整復師法の目的、定義
5	第2章 免許・第3章 国家試験	柔道整復師免許、名簿、柔道整復師国家試験
6	第4章 業務・第5章 施術所	業務、施術所に関する事項
7	第6章 雑則・第7章 罰則	柔道整復師雑則、罰則（1）
8	第8章 指定登録機関、他	罰則（2）、指定登録機関、指定試験機関、附則
9	柔道整復師法のまとめ	まとめ、柔道整復師法小テスト
10	医療従事者の身分法（1）	医師法、歯科医師法
11	医療従事者の身分法（2）	保健師助産師看護師法、診療放射線技師法
12	医療従事者の資格法（3）、その他	臨床検査技師法、薬剤師法、他
13	医療法（1）	医療法
14	医療法（2）	医療法施行令、他
15	社会福祉関係法規、他	社会福祉関係法規、社会保険関係法規、他
16		

科目コード	53075				区 分	コア科目			
授業 科目名	ニュージーランド保育				担当者名	中原 朋生			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「ニュージーランド保育」を全体テーマとして設定し、ニュージーランド保育の独自性と日本との共通性、応用可能性に関する研究を行う。全体テーマに関わる各自のテーマを決めて、最終的にパワーポイントのプレゼン発表をする。

<授業の到達目標>

ニュージーランド保育におけるカリキュラム（テファリキ）、環境構成、記録（ラーニングストーリー）の手法を学び、日本保育への応用可能性を説明できる。

<授業の方法>

ニュージーランド保育、特に保育カリキュラム「テファリキ」の原理・柱を全体ディスカッションにより総合的に学ぶ。また、各自がニュージーランド保育に関する個別テーマも探求し、その進捗状況を発表する活動も行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習はニュージーランド保育に関する文献の該当箇所を事前に読み（英文を含む）、全体ディスカッションための問いを毎回考える（2時間程度）。復習は授業での議論の振り返り（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

全体テーマの取り組み（発表・演習）の状況（50%）、個別プレゼン発表（50%） なお、グループ内の相互評価を採り入れ、発表やレポートの評価、改善点も学生グループで探求する。

<教科書>

大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈編著・神代典子訳 『ニュージーランド乳幼児カリキュラム テ・ファーリキ 子どもが輝く保育・教育のひみつを探る』 建帛社

2021年9月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	テーマの確認とゼミナール研究の進め方
2	ニュージーランド保育の基礎	ニュージーランドの文化背景とテファリキ
3	ニュージーランド保育の原理	4つの原理と5つの柱
4	ニュージーランド保育の方法①	原理1 エンパワメント
5	ニュージーランド保育の方法②	原理2 全人的発達
6	ニュージーランド保育の方法③	原理3 家族と地域
7	ニュージーランド保育の方法④	原理4 関係性
8	ニュージーランド保育の実際	現地保育実習ガイダンス
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	10107				区分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅱ [BC留学生用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

<授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

<授業の方法>

15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。(30分程度) 復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。(30分程度) 復習課題、漢字の練習課題。(30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10% 課題のフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク
佐藤尚子・佐々木仁子

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明 レベル判定試験
2	第5課 私の町 (1)	導入
3	第5課 私の町 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第6課 この日に食べなきゃ! (1)	導入
6	第6課 この日に食べなきゃ! (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第7課 お相撲さんの世界 (1)	導入
9	第7課 お相撲さんの世界 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第8課 第一印象 (1)	導入
12	第8課 第一印象 (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15	フィードバックと総復習	フィードバックと総復習
16		

科目コード	40112				区分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎) [健康科学科用]				担当者名	明石 啓太			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施する。また、大学からスクールバスで移動する。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、水泳・水中運動の指導方法を理解し、授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じて教室での座学やオンデマンド学習を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度（20%）、実技テスト（40%）、毎回の課題（20%）、最終課題（20%）で評価する。

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、水泳理論	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ
2	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
3	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
4	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
5	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
6	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
7	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	フィンスイミング	フィンスイミングの基礎について学習する。
10	泳力テスト	クロールおよび平泳ぎの泳力の改善度をテストする。
11	水中運動・アクアビクス①	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
12	水中運動・アクアビクス②	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
13	水中運動・アクアビクス③	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
14	水中運動・アクアビクス④	水中ウォーキングやアクアビクスの模擬授業を行う。
15	水中運動・アクアビクス⑤	本講義で学んだことのまとめを行う。
16		

科目コード	28120				区分	専門基礎			
授業科目名	地域政策論				担当者名	阿部 宏史			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

私達が活動する地域は、成長・発展・衰退を繰り返しながら継続的に変化している。我が国の地方圏や都道府県などの地域では、人口の少子化・高齢化、経済社会機能の東京一極集中、地域間格差拡大、グローバル化進展、自然災害などによる様々な問題が発生しており、国や地方自治体による公共政策では、地域の持続可能な発展を維持していくために戦略的・計画的な政策が必要となっている。本講義では、我が国における地域課題の推移や国・地方自治体による政策について理解を深め、自治体による地域づくりに参加する人材としての基礎的素養を身につける

<授業の到達目標>

以下の3項目に対応できることを目標とする。1. 地域における人口・産業経済などの動きと地域課題の発生について、概要を理解している。2. SDGsなどに基づいて、グローバル社会と地域政策の関係について、概要を理解している。3. 具体的な地域を取り上げ、持続可能な地域づくりについて意見を述べることができる。

<授業の方法>

第1～7回の授業では、講義や演習を通して、最近の地域政策課題について理解を深める。第8回の授業では、最近の地域課題への対応について、グループ単位での意見交換を行う。第9～11回の授業では、最近の地域政策について、課題別に概要と取組事例を解説する。第12～15回の授業では、SDGsなどのグローバルな視点を加えながら、今後の地域づくりに関する各自の意見や提言をまとめ、グループワークを通じて意見を深化させ、最終レポートをまとめる。講義全体を通じて①ディスカッション、②グループワーク、③プレゼンテーション、場合に

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業テーマに沿って、国や自治体のホームページに掲載されている地域政策や計画などを参考資料として紹介し、各自による調査、振り返りなどを行う。予習・復習を合わせて毎週4時間程度の学習時間とし、成績評価に反映する。最近の地域課題や政策をより深く学習したい人のために、最新の参考図書を紹介していく。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加態度50%、授業成果レポート30%、最終プレゼンテーション評価20%とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを解説する。
2	経済社会の発展と地域課題の発生	日本の経済成長やグローバル化が地域課題の発生に及ぼしてきた影響を解説する。
3	地域の成長・衰退と地域課題：①人口	地域の人口に着目して、少子化・高齢化、人口減少、人口の大都市集中が地域の成長・衰退に及ぼしてきた影響を解説する。
4	地域の成長・衰退と地域課題：②産業集積	地域の産業に着目して、生産活動や雇用の集積と地域の成長・衰退の関係を解説する。
5	地域の成長・衰退と地域課題：③地域間交流と交通	地域の人口集積、経済活動の変化と地域間交流、広域交通の関係を解説する。
6	地域の成長・衰退と地域課題：④地域間格差	大都市圏と地方圏の間で発生している経済社会的格差の課題について解説する。
7	地域の成長・衰退と地域課題：⑤地域環境	地域で発生している環境問題と地球環境問題との関係について解説する。
8	地域問題の発生原因と対策の可能性	①～⑤で解説した地域課題への対応について、振り返り学習とグループワークを行う。
9	地域政策の概要：①人口・産業経済と地域づくり	人口、産業経済を対象とする地域政策の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
10	地域政策の概要：②社会基盤整備と地域づくり	産業、都市、交通などの基盤整備の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
11	地域政策の概要：③環境保全と地域づくり	地域における環境政策の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
12	SDGsに基づくグローバルな課題と地域政策の関連	SDGsによる持続可能な地域づくりを解説するとともに、国、自治体、企業の取り組みについて紹介する。
13	今後の地域政策に関する提案のまとめ	これまでの講義内容を踏まえながら、今後の地域政策について、各自の意見や提言の取りまとめを行う。
14	地域政策に関するグループワーク	各自の意見や提言に基づいて、グループ単位で意見交換と意見の取りまとめを行い、成果発表を行う。

15	最終成果の取りまとめ	講義全体を通じて得られた成果に基づいて、各自の成果報告をまとめる。
16		

科目コード	35217				区分	コア科目スポーツビジネス			
授業科目名	スポーツ経営学入門				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人間世界の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

<授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要となるスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

<授業の方法>

講義とグループワークを織り交ぜながら行っていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 次週課題（発表準備等）について1時間 復習 授業後の課題について1時間

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、 授業内容についての課題 40%、 レポートの課題 30%

<教科書>

畑攻・小野里真弓 基本・スポーツマネジメント 大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活 I	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活 II	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
12	スポーツの普及・振興を目指して I	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指して II	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツとマネジメント、スポーツ地域マネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ
16		

科目コード	54001				区分	コア科目			
授業科目名	資格検定対策Ⅱ(情報系)				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

現在の職場では仕事そのものがデジタル化とネットワーク化に対応しており、情報処理技術の基礎を理解している人材が求められている。ITパスポート資格は、職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を図るもので、実社会で役立つ有効な資格である。本科目では、主な出題範囲に分けて、企業と法務、経営戦略、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する知識を身につけ、資格取得を目指す。本講義ではストラテジ系とマネジメント系を取り扱う。

<授業の到達目標>

①資格試験対策勉強を通じて、企業活動における情報システムの重要性、情報システムの基礎および、仕事における情報システムとの関わりについてのイメージを持つ。②国家試験である情報処理技術者試験制度の概要、受験する意義および、ITパスポート試験の概要を理解する。③ITパスポート試験に合格するための力を身につける。

<授業の方法>

ITパスポート試験の出題範囲の各テーマごとに内容を解説して、問題演習をおこなう。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前学習：次回の授業で扱う問題について、自分で問題を解く(1時間程度)。・事後学習：授業で学んだテーマについて復習し、理解を深める(1時間程度)。・国家試験を受験する場合は、相応の自己学習が必要。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、課題 30%、期末課題 40%で評価する。

<教科書>

<参考書>

高橋 京介(2023年1月) いちばんやさしいITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集 SBクリエイティブ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	ITパスポート試験の概要、授業の進め方等の説明
2	ストラテジ系 (1) 企業とは	株式会社と経営理念、経営資源、経営組織
3	ストラテジ系 (2) 企業活動	業務分析、損益分岐点
4	ストラテジ系 (3) 法務	知的財産権、セキュリティ関連法規
5	ストラテジ系 (4) 経営戦略	SWOT分析、PPM
6	ストラテジ系 (5) 事業戦略	経営管理システム
7	ストラテジ系 (6) 技術戦略マネジメント	技術開発の戦略立案・計画
8	ストラテジ系 (7) 生産管理	エンジニアリングシステム、生産管理
9	ストラテジ系 (8) 情報システム戦略	情報システム戦略の意義と目的、業務プロセスの改善
10	ストラテジ系 (9) システム企画	システムの活用、企画プロセスと要件定義プロセス
11	マネジメント系 (1) 開発技術	要件定義、システム設計、プログラミング、運用プロセスと保守プロセス、ソフトウェア開発モデル
12	マネジメント系 (2) プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの意義・目的・考え方、3つの制約、PMBOK
13	マネジメント系 (3) サービスマネジメントとは	ITサービスマネジメントの意義・目的・考え方
14	マネジメント系 (4) ファシリティマネジメントとシステム監査	システム環境に関する考え方、システム監査の意義・目的・考え方、内部統制
15	試験対策	過去問題と疑似試験演習
16		

科目コード	34122				区分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児と人間関係				担当者名	中原 朋生			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、領域「人間関係」の指導を行う際に基盤となる専門的事項の知識を身につける。そのために授業では、現在、生じている人間関係に関する変化、幼児期の人間関係の育ちなどについて学ぶ。具体的にはテキスト、視聴覚教材（映像）を中心に、以下の内容について講義形式で行う。

<授業の到達目標>

(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。(2) 幼児期の人間関係および規定する諸要因の発達について理解する。

<授業の方法>

講義では、「幼児と人間関係」に関するGoogleクラスルーム課題、要領・指針を使用する。各個人がGoogleクラスルームに教育経験や自己の考えを記入する活動を15分程度、学生が概念を習得するための講義45分程度、ビデオ分析やグループ討議30分程度を組み合わせた講義を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、「子どもと人間関係」のGoogleクラスルーム課題と要領・指針の予習（30分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、Googleクラスルーム課題の復習（30分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課し、合計15時間の予習・復習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（30%）、第7回目の授業で課されるレポート（30%）、毎回の授業中に出題される小テスト（40%）

<教科書>

文部科学省（2018年2月） 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
厚生労働省（2018年2月） 『保育所保育指針解説』 フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	領域「人間関係」のねらいと内容及び評価	幼稚園教育要領・保育所保育指針における各領域のねらいと内容
2	現代の乳幼児を取り巻く人間関係	同心円拡大に対するSNSのインパクト
3	家族や地域との関わりと育ち	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「人間関係」、幼小の連携
4	幼児の人間関係①	身近な大人との関係性の発達
5	幼児の人間関係②	教師との関係性の発達
6	幼児の人間関係③	幼児・集団との関係性の発達
7	アタッチメント理論	ボウルヴィーの愛着形成論
8	幼児の自立	入園当初の子どもの人間関係
9	幼児の自己主張と自己抑制	保育者との人間関係
10	幼児の感情コントロール	友達との人間関係
11	幼児期における共同性の発達	ごっこ遊びと人間関係
12	幼児期における道徳性・規範意識の発達	コールバーグの道徳性発達論
13	特別な支援を必要とする子どもの人間関係①	被虐待児
14	特別な支援を必要とする子どもの人間関係②	発達障害児
15	乳幼児期の人間関係がその後続く人生に及ぼす影響	保育実践の動向、保育構想の向上
16		

科目コード	27300				区分	専門基礎			
授業科目名	運動学特論B				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動学は、人間の身体運動の構造や性質を諸原理から選択し、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。また、身体の成長・発達および加齢に伴い変化する運動の様相を観察し、正常な動きを理解した上で異常運動を学習する。

<授業の到達目標>

運動学の領域と目的を理解し、身体（骨・関節・筋・神経）の構造や機能についての基本的な知識を復習しながら、身体運動の分析や運動発達・学習について修得することを目標としている。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）教科書を基にデジタル資料を配布し、講義を進めていく。また、時にグループディスカッションや発表を用いながら理解を深めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））
復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2024年1月10日) 運動学 第3版 医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	運動学特論Aの振り返り	骨・関節・筋の構造と機能の復習
2	5 神経の構造と機能①	A神経細胞／運動単位
3	5 神経の構造と機能②	B末梢神経／C中枢神経
4	6 運動感覚	A感覚と知覚／B運動感覚と運動の制御機構
5	7 反射と随意運動①	C随意運動
6	7 反射と随意運動②	A反射／B連合運動と共同運動
7	11 運動発達①	A神経組織の成熟
8	11 運動発達②	B乳幼児期の運動発達/反射・反応/出生後早期に見られる反応
9	11 運動発達③	全身運動/歩行運動/上肢運動の発達
10	12 運動学習	学習、記憶、動機づけ
11	9 姿勢 (1)	A姿勢の分類／B重心／C立位姿勢
12	9 姿勢 (2)	D立位姿勢の制御／E機能肢位
13	10 歩行 (1)	A歩行周期／B歩行の運動学的分析
14	10 歩行 (2)	C歩行の運動力学的分析／D歩行時の筋活動／E歩行のエネルギー代謝
15	10 歩行 (3)	F走行／G異常歩行
16		

科目コード	24107				区分	コア科目			
授業科目名	異文化コミュニケーション				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

現代社会はグローバル化・多様化が進んだことにより、様々な考えや価値観を受け入れ、取り入れる国際的人材の育成が急務となりました。この授業では、「異文化」をキーワードとし、世界にある様々な価値観、考え方を学びながら、同時に自分の価値観、考え方といった自文化を振り返ります。その上で、異なる文化背景を持つ者とのようにコミュニケーションをとっていったらよいか学びます。なお、この授業は日本語教員資格取得に必要な科目です。

<授業の到達目標>

①周りには異文化があふれ、人が違えばその人の価値観、ものの見方も違うということが理解できる。②自分の持つ考え方・価値観など、「自文化」について客観的に見ることができるようになる。③意見が対立しても、相手の文化を尊重しながら、自分の考えを伝えることで、相手と自分を尊重した話し合いができるようになる。

<授業の方法>

基本的にはテキストに従って進めていく。知識を解説後、グループワークやディスカッションを中心に活動を行う。そして、活動でわかったこと、感じたこと、疑問に思ったことについて、グループで話し合い、グループまたは個人で発表し、意見交換を行う。大きなテーマについては、話し合ったことや調べたことについてレポートを提出してもらう（GoogleClassroomでの提出を求める）。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習）授業では、活動中心のため、教科書の事前学習が必要である。（30分）（復習）授業内容をまとめ、教科書の知識をどう使うかといった取り組みについての課題を求める。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

話し合いへの参加10%、授業中の課題・小テスト20%、事後課題30%、レポート40%

<教科書>

原沢 伊都夫 異文化理解入門 株式会社 研究社

<参考書>

ヒューマンアカデミー（2021年9月5日） 日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版 翔泳社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法の説明。異文化間教育とは
2	文化とは何か（1）	文化のモデル 常識・非常識について考える。
3	文化とは何か（2）	自分の文化について考える。 文化の特徴
4	異文化適応	異文化適応について理解する。自分の異文化適応を考える。
5	違いに気づく	文化の違いとは何か考える。
6	異文化の認識	固定観念・ファイリング・ステレオタイプとは何か学ぶ。
7	差別について考える①	差別の種類・差別が生まれる背景について学ぶ。 宿題（日常生活で差別につながりそうな問題を探す・発表準備・レジメ提出）
8	差別について考える②	宿題の発表 話し合い ニュースとなった出来事について確認し、意見交換をする。
9	世界の価値観	世界にある代表的な価値観について学ぶ。
10	異文化トレーニング①	様々な異文化トレーニングの方法を学ぶ。DIEメソッドを実際にしてみる。
11	異文化トレーニング②	DIEメソッドによる分析と結果の発表
12	異文化受容	異文化受容のプロセスについて学ぶ。
13	自分を知る	ジョハリの窓による分析
14	コミュニケーション	言語・非言語コミュニケーションとは何か学び、その重要性を理解する。
15	アサーティブ・コミュニケーション・まとめ	アサーティブ・コミュニケーションの方法を学ぶ。 多文化共生社会に向けて考える（レポート提出）。
16		

科目コード	24109			区分	専門基礎				
授業科目名	英語文学史			担当者名	渡辺 浩				
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

今回の内容については、英国の歴史と文化史を中心に据えて、その中で英文学史も紹介する内容である。すなわち国の歴史と文化をぬきにしては、当然文学も語れないからである。英国の歴史は、ストーンヘンジあたりから始めるとかなり長い歴史をもつ。古代・中世・近世・現代の流れの中で特に重要な出来事や現代にも影響を及ぼす内容を中心に学んでゆく。その時代ごとの学習の中で文学の紹介と考察を行う予定である。その間に英語力の養成も行うこととする。

<授業の到達目標>

英国の歴史と文化、また各時代の文学の特色をしっかりと学ぶ。テキストの英文そのものはそれほど難解ではないので、これを機にイギリス史の要点やそれに関連した英語の語句・用語も学んでもらいたい。

<授業の方法>

授業中のQ&Aを行いながら、各章ごとの要点を把握し授業を進める予定である。またメール等を含めて常時質問の受付、アドバイスの提供を行う。必要に応じて音声・動画教材を使用し、受講者が全体を把握しやすい環境を整え、積極的に授業に参加する環境を準備する。毎回小テストを行い、各章の理解度を整理し確認するプロセスで授業を実施してゆくので、理解度は深まるものと思われる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回のテーマがはっきりしているので、予習の際に、疑問点を明確にして望んでいただきたい。予習以上に復習が大切である。内容把握と英語力の向上に務めていただきたい。小テストは復習が基本になるので、納得が行くまで準備していただきたい。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト等課題(60%)、授業参加度(20%)、発音・その他授業中の活動(20%)

<教科書>

Adrian J. Pinnington (1996) On Britain (株)開文社出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Introduction	英国史・文化の紹介を行い、英国の全体像を把握する。
2	Stonehenge/Hadrian's Wall	ストーン・ヘンジとハドリアヌスの長城は古代英国の重要遺産である。この時代の文化と文学を紹介する。
3	The Arrival of the Anglo-Saxons/The Normans and Domesday Book	アングロサクソン人の到来により英語は発生する。この時代の文化と古英語・文学の紹介を行う。
4	The English Language	古代・中世・近代とどのように英語は発達したか、そのプロセスと文化・文学の学習を行う。
5	The Monarchy in Britain/The Government of Britain	英国王室と政府の歴史と背景を考察する。また文化と文学への関連と影響を学習する。
6	Religion in Britain/Festivals in Britain	英国の宗教と祭典を考察する。その歴史・社会的な関係と影響を学習する。
7	Education in Britain/The Universities in Britain	英国の学校・大学のシステムを学習する。合わせて文化・文学に関する関係を学ぶ。
8	Newspapers in Britain/The British Museum	英国の新聞の歴史と発展を学ぶ。ジャーナリズムと文化・文学の関係も考察する。
9	William Shakespeare	英国文学の柱であるシェークスピアの作品・歴史・文化的背景を考察する。
10	Sherlock Holmes and the Detective Story/The Culture of Children	ビクトリア朝の人気作品シャーロック・ホームズのシリーズの背景を考察する。
11	Popular Music in Britain/The National Trust	ビートルズを中心とした英国ポップと環境保護団体ナショナル・トラストの歴史と背景を学ぶ。
12	The Stores/Britain and the Railways	英国の有名デパートと鉄道の歴史と背景を学ぶ。文化・文学との関連も考察する。
13	Beer and Pubs/Tea and Food in Britain	英国のバブ文化と食べ物の歴史を学ぶ。文化・文学とも関連が深い内容である。
14	Britain and Sports/Britain and the World	英国のスポーツの歴史と背景を学ぶ。英国文化においてスポーツは重要な要素である。
15	Conclusion	英国の歴史・文化・文学の総まとめを行う。
16		

科目コード	21400				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [FC2422]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育・教育現場に必要とされるピアノ弾き歌い技術習得に向け、音楽のルールを学び、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の習得を目指します。本授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、Google Classを使用するため、PCを準備の上、望んでください。※幼稚園教諭 I

<授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。②ピアノ旋律演奏に必要な読譜力、ピアノ技術を身に付ける。③歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。④ピアノ・コード伴奏に必要な和音（コード）を学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また読譜力習得に向けたリズム・ソルフェージュを行い視唱力、初見力を高める。コードネームを用いて「子どもの歌」の伴奏付けができることを目標とする。

<授業の方法>

音楽理論を中心とした講義を中心に読譜のためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導の演習を交えながら授業を行う。講義では教科書、教材を中心に学習を進めるが、練習問題や楽譜等の資料を配布することが多いため、各自ファイルを準備することが好ましい。各テーマ（単元）で小テスト、実技テストを実施し習熟度を測る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に従って予習し、講義、演習で学んだ内容は必ず復習すること。特にピアノ未経験者や音楽や読譜に不安を抱いている学生は、予習45分、復習45分を行い、授業に望むこと。ピアノ技術、読譜力の習得は毎日の積み重ねが非常に重要です。自宅に電子ピアノや電子キーボードがあることが好ましい。※自宅にピアノが無い場合は、芸術センターピアノ独習室の活用、または、貸し出し用キーボードを活用の上、研鑽を積むこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学
坪野春枝 著（発行2021年3月15日） 最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】※応用問題※解答付 有限会社ケイ・エム・ピーkmp

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導譜表
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名、フラッシュ読譜演奏
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号、フラッシュ読譜演奏
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ基礎練習課題、フラッシュ読譜演奏
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ちょうちょう」
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「チューリップ」
10	楽典と演習3	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ぶんぶん」
11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「こぎつね」
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「おべんとう」
13	楽典と演習6	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「かたつむり」
14	楽典と演習7	音楽理論の復習及び、確認テスト
15	総括・試験	模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、ま

科目コード	21406				区分	専門基礎科目			
授業科目名	図画工作Ⅰ [FC2421]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「図画工作Ⅰ」は、国家資格である保育士資格取得における選択科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する基礎的専門知識と技術を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する基礎的専門知識と技術を身につけようとしている。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備しておくこと。また授業内に作品が完成しない場合は、次回の授業までに作品や課題のポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ) 50%、作品鑑賞とレポート提出 20%、授業課題やポートフォリオ等、作品の未完成は認められません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させること。

<教科書>

村田夕紀 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに

<参考書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに

村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい!0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	絵①鉛筆での下書き
3	造形表現の教材研究(2)	絵②水彩絵の具での色の塗り方
4	造形表現の教材研究(3)	絵③水彩絵の具での着彩 背景
5	造形表現の教材研究(4)	絵④水彩絵の具での着彩 細部
6	造形表現の教材研究(5)	絵⑤ポートフォリオの表紙に水彩画を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
7	造形表現の教材研究(6)	壁面製作①構図を決める
8	造形表現の教材研究(7)	壁面製作②土台パーツを切る
9	造形表現の教材研究(8)	壁面製作③パーツを貼る
10	造形表現の教材研究(9)	壁面製作④ポートフォリオの表紙に壁面造形を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
11	造形表現の教材研究(10)	造形遊び①スクラッチ(ひっかき絵)
12	造形表現の教材研究(11)	造形遊び②パスのカーボン紙絵
13	造形表現の教材研究(12)	造形遊び③
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り、作品鑑賞
15	全体総括	レポート提出
16		

科目コード	13103				区分	コア科目			
授業科目名	日本の伝統文化 [留学生用A]				担当者名	中島 治彦			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義および演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本古来の伝統文化である武道(剣道)を通して、そこに存在する日本人の精神を学ぶことを目的とする。世界的に競技者が多い剣道を題材にし、それらの歴史を武道の歴史として総合的に学び、さらに実践も行う。その実践から、「道」に込められた日本人の自己を鍛える価値観を考察し、武道の本質と言われる「心・技・体」の錬成が人間形成に及ぼす影響を武道の実践を通して体験的に学ぶ。

<授業の到達目標>

日本の伝統文化である武道とは何か、剣道とは何かが説明できるようになり、その中に存在する日本人特有の精神性(価値観、人生観、世界観)を発見することによって、国際理解を深める。またその実践を通して、「心・技・体」の錬成を自分自身で行い、国際社会で活躍できる資質を養うことを目的とする。

<授業の方法>

講義により武道というものを知り、実技においては基本的な技術面が習得できるようにする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

武道についての文献を書籍やインターネットで検索し読んでおく(30分程度)。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実技試験 70%、レポート 30%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟 2017年4月1日(第6版一部修正) 剣道講習会資料 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の目的・授業の概要、進め方の説明をする
2	武道とは何かを知る(1)	日本の伝統文化として受け継がれる武道全般の、歴史と変遷を知る。
3	武道とは何かを知る(2)	日本の伝統文化として受け継がれる武道の概略を知る。
4	「礼」(礼儀、礼節)を知る。	立礼、座礼、正座、座り方・立ち方(左座右起)道場への礼、師範への礼、お互いの礼の意味を理解する。
5	剣道の基本①	竹刀の持ち方と操作方法を学ぶ。
6	剣道の基本②	足さばきと体捌きの習得。
7	剣道具の装着	剣道具の正しい着用を学ぶ。
8	剣道の基本③	剣道具を着用しての基本技(面・小手・胴)の練習。
9	剣道の基本④	剣道具を着用しての連続技(小手面・小手胴)と応用技(返し胴・小手返し面)ができるようにする。
10	木刀による剣道基本技稽古法①	剣道の級審査について理解する。
11	木刀による剣道基本技稽古法②	木刀による剣道基本技稽古法を9本までを習得する。
12	日本剣道形について①	剣道の昇段審査について理解する。
13	日本剣道形について②	初段の審査に関して3本を習得する。
14	剣道の応用	相互に試合形式を実践する。
15	実技試験およびまとめ	基本技(面・小手・胴・小手面)の実技試験・まとめ。
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折、前腕骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。(毎回、1時間程度) 復習：小テストを次の授業で実施する。(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、評価試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	鎖骨骨折(1)	鎖骨骨折(中央)における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
2	鎖骨骨折(2)	鎖骨骨折(近位および遠位)における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
3	肩甲骨骨折(1)	肩甲骨骨折(肩甲骨体部骨折、肩甲骨辺縁部骨折、肩甲骨関節窩骨折)における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
4	肩甲骨骨折(2)	肩甲骨骨折(肩甲骨頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折)における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
5	上腕骨近位端部骨折(1)	結節上骨折(上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折)における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
6	上腕骨近位端部骨折(2)	結節下骨折(外科頸骨折、大結節骨折、小結節骨折、結節部貫通骨折)、骨端線離開における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
7	上腕骨骨幹部骨折(1)	上腕骨骨幹部骨折における概要、発生機序、転位について
8	上腕骨骨幹部骨折(2)	上腕骨骨幹部骨折における症状、合併症、整復法、固定法について
9	上腕骨遠位端部骨折(1)	上腕骨顆上骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
10	上腕骨遠位端部骨折(2)	上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
11	前腕骨近位端部骨折(1)	橈骨近位端部骨折(橈骨頭骨折、橈骨頸部骨折)における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
12	前腕骨近位端部骨折(2)	尺骨近位端部骨折(肘頭骨折、尺骨鉤上突起骨折)における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
13	前腕骨骨幹部骨折(1)	橈骨骨幹部骨折、尺骨骨幹部骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
14	前腕骨骨幹部骨折(2)	前腕骨脱臼骨折(モンテジア脱臼骨折、ガレアッツィ脱臼骨折)における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
15	まとめ	授業の総合評価を行う。
16		

科目コード	28117				区 分	専門基礎			
授業科目名	SDGs入門				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

2015年9月、国連サミットにて、加盟国の全会一致で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。そして、国連加盟193ヶ国が達成を目指す、2016年から2030年までの国際目標として「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」が掲げられた。SDGsは17のゴールおよび169のターゲットから構成されており、地球上の誰一人として取り残さない、持続可能で包摂的な世界の実現を目指すことが記されている。本講座ではこのSDGsの概要とその達成に向けた取

<授業の到達目標>

1. SDGs (持続可能な開発目標) について、成り立ちや主旨を理解する。2. 世界と自分自身の生活が不可分であることを認識し、自分事としてとらえ、どうしたらSDGs達成に貢献できるかを考えることができる。3. SDGs 17の目標間に発生するトレードオフを解消するアイデアを思考することができる。

<授業の方法>

講義の65%は、学内外からゲストスピーカーをお迎えし、SDGsの取組みを中心にお話を伺います。講演後は、自由闊達な意見交換をします。35%は、担当教員による講義とグループディスカッションです。但し、本講座の講義内容は、効果的な学習方法への改善を目指し、随時変更・調整されるため、当初授業計画から内容等が大幅に変更される場合があります。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業のテーマに沿って、参考図書、雑誌、動画の視聴、調査、振り返りなどを行う。予習復習を合わせて、毎週1時間程度。成績評価に反映します。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加態度 50%、 レポート 50%

<教科書>

<参考書>

編著：一般社団法人 Think the Earth、監修：蟹江憲史(2018/4/30) 未来を変える目標 SDGsアイデアブック 一般社団法人 Think the Earth
高橋真樹(2021/3/15) 日本のSDGs 大月書店
バウンド(2019/11/29) 60分でわかる! SDGs 超入門 株式会社技術評論社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	【9/26】オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを理解する
2	【10/10】SDGs(持続可能な開発目標)とは?	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：岡山県 JICA デスク 橋本千明様 https://www.opief.or.jp/jica/
3	【10/17】フェアトレードとSDGs	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：Mpraeso 合同会社代表 田口愛様 https://www.jpover.co.jp/ge/71/opinion/index_02.html
4	【10/24】環境と平和	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：呉工業高等専門学校 人文社会系分野 小倉亜紗美准教授 https://ipu-japan.ac.jp/news/12917/
5	【10/31】岡山市とSDGs	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：岡山市 市民生活局 スポーツ文化部 文化振興課 流尾正亮氏 https://note.com/becollaborative
6	【11/7】ここまでの振り返り	第2～5回の講演を聴き、どうしたら自分がSDGs達成に貢献できるかを考える。また、これらのSDGs 17の目標間に発生するトレードオフを解消するアイデアを思考する。
7	【11/14】カンボジア・トンレサップ湖での海洋プラスチックの撲滅を目指して	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：岡山大学低炭素・廃棄物循環研究センター副センター長 藤原健史教授 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id981.html
8	【11/21】みどりの食料システム戦略	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：農林水産省中国四国農政局 農村振興部長 都築慶剛氏 https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html
9	【11/28】現代アート×直島×まちづくり	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：ベネッセホールディングス 本社・直島統轄部 高橋 正勝氏 https://benesse-artsite.jp/about/
10	【12/5】AMDのウクライナ避難者支援活動	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深

11	【12/12】知ることは障がい無くす	める。ゲストスピーカー：NPO法人AMDA 副理事長 難波妙様 https://amda.or.jp/ SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：(株)ありがとうファーム 代表取締役 木庭 康輔 様 https://www.arigatou-farm.com/
12	【12/19】ドメスティック・バイオレンス(DV)とは	SDGsを実践している企業・団体よりゲストを招き、SDGsについて基本的な理解を深める。ゲストスピーカー：DVサバイバー 神坂様 https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201411/1.html#fifthSection
13	【1/9】水問題×SDGs	世界・日本の水問題に目を向け、すべての人が安全な水と衛生的な環境を得られるにはどうしたらよいか考える
14	【1/16】ESG経営	企業はなぜ「ESG経営」に取り組むのかを知り、なぜ、現代経営学科で「SDGs」を学ぶのかを考える https://jinjibu.jp/keyword/det1/846/
15	【1/23】振り返り	第1～14回を振り返り、どうしたら自分がSDGs達成に貢献できるかを考える。また、これらのSDGs 17の目標間に発生するトレードオフを解消するアイデアを思考する。
16		

科目コード	23403				区分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育総論				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、特別の支援を必要とする生徒の理解と特別な支援を必要とする生徒の教育課程及び支援方法、及び障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の把握や支援の方法について取り扱う。

<授業の到達目標>

特別支援教育について広汎な知識を渉猟し、障害をはじめとする特別な教育的ニーズを抱えた幼児・児童・生徒の教育について説明できるようになる。

<授業の方法>

オンデマンド

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に課された課題内容を理解し、自分なりの感想・意見を整理し、発表できるようにしておく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的参加 30%，課題への取り組み 40%，定期テスト 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクションー特別支援教育の理念と制度（1）	授業の進め方や成績評価方法について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を理解する。
2	特別支援教育の理念と制度（2）	近年の特別支援教育・インクルーシブ教育に関わる諸動向から現代的な教育課題を導き、次世代の特別支援教育のあり方について考える。
3	インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒	特別な教育的ニーズのある児童生徒と特別な教育的ニーズのない児童生徒のそれぞれの学びの成立について認知的側面から理解し、双方が同時に同じ教室で学習することが可能な授業のあり方について考える。
4	特別支援教育の歴史	障害のある子供の理解や障害への対応の歴史の変遷の概要を理解し、次世代の特別な教育的ニーズへの対応について考える。
5	特別支援教育の教育課程	特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の教育課程を取り上げ、自立活動の指導に目しながら、それぞれの教育課程を理解する。
6	自立活動の理解と教育	特別な教育的ニーズへの対応の基軸に位置付けられる自立活動の意義・概要・内容及びそれらの通常教育場面での汎用性について理解する。
7	視覚障害・聴覚障害の理解と教育	視覚障害・聴覚障害およびそれぞれの障害に対応した教育の概要について理解する。
8	知的障害の理解と教育	知的障害および知的障害に対応した教育の概要について理解する。
9	肢体不自由の理解と教育	肢体不自由および肢体不自由の状態に対応した教育の概要について理解する。
10	病弱・身体虚弱の理解と教育	病弱・身体虚弱および病弱・身体虚弱の状態に対応した教育の概要について理解する。
11	自閉症・情緒障害の理解と教育	自閉症・情緒障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
12	言語障害の理解と教育	言語障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
13	学習障害の理解と教育	学習障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
14	注意欠陥・多動性障害の理解と教育	注意欠陥・多動性障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
15	教育と福祉・医療・労働との連携	特別な教育的にニーズに対応した教育の効果を持続・発展することを目的とした教育と福祉・医療・労働等の連携の必要性を理解する。
16		

科目コード	61007				区分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習 I (基礎) [A]				担当者名	國友 亮佑 / 三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。この科目は体育学科用の科目になります。

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

<授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間) 復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。(1時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度(授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度) 30%、課題20%、実技試験 50%

<教科書>

IPU環太平洋大学 トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニクマニュアル第3版 NSCAジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニクについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニクについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニクについて
5	上半身のエクササイズ④	下背部のエクササイズテクニク
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニクについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニクについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニクについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハンγκクリーンのエクササイズテクニクについて
11	パワーエクササイズ②	ハンγκクリーンのエクササイズテクニクについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	21400				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [FC2421]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育・教育現場に必要とされるピアノ弾き歌い技術習得に向け、音楽のルールを学び、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の習得を目指します。本授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、Google Classを使用するため、PCを準備の上、望んでください。※幼稚園教諭 I

<授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。②ピアノ旋律演奏に必要な読譜力、ピアノ技術を身に付ける。③歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。④ピアノ・コード伴奏に必要な和音（コード）を学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また読譜力習得に向けたリズム・ソルフェージュを行い視唱力、初見力を高める。コードネームを用いて「子どもの歌」の伴奏付けができることを目標とする。

<授業の方法>

音楽理論を中心とした講義を中心に読譜のためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導の演習を交えながら授業を行う。講義では教科書、教材を中心に学習を進めるが、練習問題や楽譜等の資料を配布することが多いため、各自ファイルを準備することが好ましい。各テーマ（単元）で小テスト、実技テストを実施し習熟度を測る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に従って予習し、講義、演習で学んだ内容は必ず復習すること。特にピアノ未経験者や音楽や読譜に不安を抱いている学生は、予習45分、復習45分を行い、授業に望むこと。ピアノ技術、読譜力の習得は毎日の積み重ねが非常に重要です。自宅に電子ピアノや電子キーボードがあることが好ましい。※自宅にピアノが無い場合は、芸術センターピアノ独習室の活用、または、貸し出し用キーボードを活用の上、研鑽を積むこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学
坪野春枝 著（発行2021年3月15日） 最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】※応用問題※解答付 有限会社ケイ・エム・ピーkmp

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導譜表
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名、フラッシュ読譜演奏
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号、フラッシュ読譜演奏
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ基礎練習課題、フラッシュ読譜演奏
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ちょうちょう」
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「チューリップ」
10	楽典と演習3	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ぶんぶん」
11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「こぎつね」
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「おべんとう」
13	楽典と演習6	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「かたつむり」
14	楽典と演習7	音楽理論の復習及び、確認テスト
15	総括・試験	模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、ま

科目コード	21406				区分	専門基礎科目			
授業科目名	図画工作Ⅰ [FC2422]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「図画工作Ⅰ」は、国家資格である保育士資格取得における選択科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する基礎的専門知識と技術を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する基礎的専門知識と技術を身につけようとしている。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備しておくこと。また授業内に作品が完成しない場合は、次回の授業までに作品や課題のポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ) 50%、作品鑑賞とレポート提出 20%、授業課題やポートフォリオ等、作品の未完成は認められません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させること。

<教科書>

村田夕紀 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに

<参考書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに

村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい!0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	絵①鉛筆での下書き
3	造形表現の教材研究(2)	絵②水彩絵の具での色の塗り方
4	造形表現の教材研究(3)	絵③水彩絵の具での着彩 背景
5	造形表現の教材研究(4)	絵④水彩絵の具での着彩 細部
6	造形表現の教材研究(5)	絵⑤ポートフォリオの表紙に水彩画を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
7	造形表現の教材研究(6)	壁面製作①構図を決める
8	造形表現の教材研究(7)	壁面製作②土台パーツを切る
9	造形表現の教材研究(8)	壁面製作③パーツを貼る
10	造形表現の教材研究(9)	壁面製作④ポートフォリオの表紙に壁面造形を貼り、接着剤付き透明フィルムで補強
11	造形表現の教材研究(10)	造形遊び①スクラッチ(ひっかき絵)
12	造形表現の教材研究(11)	造形遊び②パスのカーボン紙絵
13	造形表現の教材研究(12)	造形遊び③
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り、作品鑑賞
15	全体総括	レポート提出
16		

科目コード	65021				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	実践英文法（応用）				担当者名	井上 聡			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、実践英文法（基礎）の発展編となります。協働学習を通して、英検準1級やTOEIC750点レベルの文法問題や読解問題に挑戦し、他者への説明力を養います。成績評価は、事前課題、協働学習への態度、理解度確認テスト、意見交換の質を軸に行います。この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参して臨んでください。

<授業の到達目標>

1. 事前課題に粘り強く取り組み、詳細なノートを作成・提出できる。2. 協同学習で教え合いを行い、設問の説明力を磨くことができる。3. 理解度確認テストを受験し、高い理解度を残すことができる。4. 意見交換の場で、自身の学びを適切に言語化できる。

<授業の方法>

教え合い（50分程度） 解説の傾聴（30分程度） 意見交換（10分）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の解答を作成・提出（90分程度） 復習：理解度確認テスト＋意見交換（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 40%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（1）	TOEIC文法演習
2	オリエンテーション（2）	英検準1級長文演習
3	文法・長文演習（1）	文法：TOEIC, 長文：英検
4	文法・長文演習（2）	文法：TOEIC, 長文：英検
5	文法・長文演習（3）	文法：TOEIC, 長文：英検
6	文法・長文演習（4）	文法：TOEIC, 長文：英検
7	文法・長文演習（5）	文法：TOEIC, 長文：英検
8	文法・長文演習（6）	文法：TOEIC, 長文：英検
9	文法・長文演習（7）	文法：TOEIC, 長文：英検
10	文法・長文演習（8）	文法：TOEIC, 長文：英検
11	重要構文演習（1）	演習・解説
12	重要構文演習（2）	演習・解説
13	重要構文演習（3）	演習・解説
14	重要構文演習（4）	演習・解説
15	重要構文演習（5）	演習・解説
16		

科目コード	61007				区分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習 I (基礎) [B]				担当者名	國友 亮佑 / 三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。この科目は体育学科用の科目になります。

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

<授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間) 復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。(1時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度(授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度) 30%、課題20%、実技試験 50%

<教科書>

IPU環太平洋大学 トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

<参考書>

NSCA ジャパン NSCA決定版 ストレングス トレーニング & コンディショニング 第4版 Book House HD

NSCA ジャパン NSCAレジスタンス トレーニングのためのエクササイズ テクニック マニュアル 第3版 NSCA ジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニックについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニックについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニックについて
5	上半身のエクササイズ④	下背部のエクササイズテクニック
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハンγκクリーンのエクササイズテクニックについて
11	パワーエクササイズ②	ハンγκクリーンのエクササイズテクニックについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	21107				区分	専門基礎科目			
授業科目名	保育者論				担当者名	中原 朋生			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

保育者論は、保育士をはじめ幼稚園教諭、保育教諭など多様化する保育者像を見すえ、子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶことを目的としている。保育士養成カリキュラムに準じて授業内容を設定し、保育者の役割と責務について具体的に学ぶ。目指す学習成果は、保育者の役割、保育者の倫理、保育者の資格と責務、保育士の専門性、保育者の協働と連携、保育者のキャリア形成などについてである。

<授業の到達目標>

子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶに当たって、5つの目標を設定している。1. 保育者の役割と倫理について理解すること。2. 保育士の制度的な位置づけを理解すること。3. 保育士の専門性について考察し、理解すること。4. 保育者の協働について理解すること。5. 保育者の専門職的成長について理解すること。などについて、事例や図表などによってわかりやすく授業を進める。

<授業の方法>

講義では、保育所保育指針を使用し、各単元のポイントをワークシートを使って予習し、授業で深めていく。また、グループワークで意見交換をしながら具体的に理解できるようにする。また東岡山IPUこども園における観察等も導入する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習=事前課題として「保育者論」のワークシートと保育所保育指針の予習復習=単元ごとに確認テスト

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題ワークシート等(予習)内容40% 振り返り(確認テスト)30% 最終レポート30%

<教科書>

厚生労働省（2018） 『保育所保育指針解説』 フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 保育者の役割	保育者の援助や環境構成の役割
2	保育者の倫理	保育士の専門的倫理の概念と必要性、法律との違い
3	保育者の資格と責務	保育士の法的・制度的な特質や、資格のあり方や責務
4	養護と教育	幼稚園や保育所保育の「養護」と「教育」の具体的な内容と実践
5	保育者の資質と能力	保育者としての資質や能力への気づきと身につける方法
6	専門的な知識・技術・判断	保育者としての専門的知識・技術・判断とはどのようなことか
7	保育の省察	保育士の保育の省察とは何かを理解
8	保育課程にかかわる保育者の専門性	計画・実践・評価・改善という保育のプロセスと保育者の専門性
9	保育者の専門性と自己評価	保育者の自己評価や保育評価の種類や観点の基礎
10	園での協働	職員の協働性や協力体制、職員間の連携
11	専門機関との連携	保育現場における専門機関との連携や協働
12	保護者および地域社会との協働	保育現場における保護者や地域社会との連携や協働
13	家庭的保育者等との連携	家庭的保育の概要や連携
14	保育者の専門性の発達	保育者の発達段階モデルと発達を促す要因
15	保育者のキャリア形成	保育者の学び、資質向上への研修によるキャリア形成
16		

科目コード	22202				区分	専門基礎科目			
授業科目名	社会の理解 [FE2431組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をういた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りや課題40%、試験60%により総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省 小学校学習指導要領解説社会編 日本文教出版社
北 俊夫 他 編 新編 新しい社会 3年～6年 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	社会科を学ぶ意義（オリエンテーション） 求められる初等社会科教育（1）	授業の概要（目的や内容、成績評価等）「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察
2	求められる初等社会科教育（2）	「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察—ICTの活用—
3	初等社会科教育の特質（1）	問題解決的な学習の授業原理
4	求められる初等社会科教育（3）	「見方・考え方」について具体教材から考察
5	求められる初等社会科教育（4）	「思考・判断・表現」について具体教材から考察
6	初等社会科教育の内容（1）	学習指導要領内容の改善点の理解第3学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
7	初等社会科教育の内容（2）	学習指導要領内容の改善点の理解第4学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
8	初等社会科教育の内容（3）	学習指導要領内容の改善点の理解第5学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
9	初等社会科教育の内容（4）	学習指導要領内容の改善点の理解第6学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
10	初等社会科教育の特質（2）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
11	初等社会科教育の特質（3）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
12	初等社会科教育の特質（4）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
13	初等社会科教育の新たな課題（1）	「主権者教育」・「防災教育」に関する考察—東日本大震災の復興支援との関連—
14	初等社会科教育の新たな課題（2）	「SDGs」に関する考察—総合的な学習の時間との関連—
15	社会の理解授業まとめ	授業の総括及び「授業評価アンケート」の実施
16		

科目コード	40112			区分	コア科目				
授業科目名	水泳 I (基礎)			担当者名	明石 啓太				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1: 本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2: 施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、水泳理論①	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ。
2	水泳理論②	安全な水泳授業の実施について学ぶ。
3	水泳理論③	各泳法の技術理論や指導法について学ぶ。
4	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
5	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
6	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
7	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
10	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
11	グループ別練習①	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
12	グループ別練習②	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
13	水中運動	水中でのウォーキングやアクアビクスを体験する。
14	泳力テスト	泳力の習熟レベルをチェックする。
15	まとめ	授業で学んだことを総括する。
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	流通論				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

企業をとりまく経営環境は、日々、変化している。社会人として、社会、経済の動向を的確に把握するためのメディアリテラシーは、必須のスキルである。本講義では、日経新聞電子版を活用しつつ、実際の新聞記事を読みながら日本経済の動向、企業の経営環境、各種の諸問題について考察していく。本講義の授業内容は、【現代経営論】の講義との連携を前提とした内容となっている。そのため、【流通論】を受講する学生は、【現代経営論】を同時に履修すること。また、本講義では日経新聞電子版が利用できることを前提としているため、受講期間（20

<授業の到達目標>

・調査対象、問題・課題等に対して、情報を調べて取捨選択し、分析評価して活用することができる。・PC, タブレット, スマートフォンを用いて日経新聞電子版を使用することができる。・習熟度試験にて、大学生としてふさわしい水準に到達する。

<授業の方法>

・毎回の講義では、【現代企業論】の講義内容に併せて、その内容の解説、事例等の検討を行う。・日経新聞電子版を使用し、個々の受講生が情報を検索しつつ、授業を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：講義時に指示したテキストの該当部分を読んでおくこと（毎回30分）②復習：配布プリントの重点箇所を中心として、理解を深めておくこと（毎回30分）③課題：参考書または講義時に指定した図書・文献等をもとにまとめること（毎回30分）④その他：日常的に世界経済の動向に関する報道をチェック、ノートの整理（毎回30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、各授業における課題の提出・内容30%、授業への参加姿勢40%。なお、レポート等についてはその都度模範解答を提示・説明する。

<教科書>

初回の講義で指示する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、学修環境の確認
2	メディアリテラシー1	情報検索、収集方法
3	メディアリテラシー2	情報の整理、分析
4	メディアリテラシー3	分析方法の紹介、活用
5	マクロ経済データ1	マクロ経済指標
6	マクロ経済データ2	マクロ経済指標とその情報検索
7	マクロ経済データ3	マクロ経済指標の情報分析
8	マクロ経済データ4	各国のマクロ経済指標の情報検索と分析
9	中間試験	
10	企業・業界の情報分析1	業種・業界ごとの情報収集と整理
11	企業・業界の情報分析2	業種・業界ごとの情報分析
12	企業・業界の情報分析3	企業情報の収集と整理
13	企業・業界の情報分析4	企業情報の分析
14	総括	
15	習熟度試験	
16		

科目コード	23402				区 分	コア			
授業科目名	特別支援教育				担当者名	高橋 章二／林 栄昭			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

特別な教育的ニーズのある幼児、児童または生徒の障害の特性や心身の発達、困難な状況について理解し、さらに対応する教育課程や支援の具体的な方法について理解する。

<授業の到達目標>

発達障害や軽度知的障害やその他の理由から特別なニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難さを理解し、対応するために必要な知識や支援方法を理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性や心身の発達、また教育課程及び支援の方法について理解し、概要を説明することができる。

<授業の方法>

授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に関連する事項について1時間程度予習を行う。また、講義終了後には、講義の中で説明した内容を適切に理解するために、必ず1時間程度復習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席及び授業態度20%、課題レポート3回（第3回講義終了時、第7回講義終了時、第13回講義終了時）30%、試験50%

<教科書>

H30・3 文部科学省特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼・小・中） 開隆堂出版株式会社

H30・3 文部科学省特別支援学校学習指導要領解説総自立活動編 開隆堂出版株式会社

<参考書>

適宜PowerPoint資料を配布する

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	特別支援教育の歴史の変遷と教育的意義	我国の明治期からの特別支援教育の歴史について理解する。
2	特別支援教育の制度改革と特別支援学校の役割	特殊教育から特別支援教育へどのように制度改革が行われていったのか。また、その中で特別支援学校の役割がどのように位置づけられたのかを理解する。
3	特別支援学校における教育課程編成についての基本的な考え方	特別支援学校の教育課程がどのように規定されているのか、小、中学校の教育課程と比較しながら理解する。
4	特別支援学校における教育課程の特色について	特別支援学校の教科等を合わせた指導、自立活動についての理解を深める。
5	個別の指導計画や個別の教育支援計画の意義とその作成	個別の指導計画や個別の教育支援計画意義について学び、実際に作成をする。
6	視覚特別支援学校における教育の実際	視覚障害の起因疾患について理解するとともに、視覚障害の障害特性に応じてどのような指導が行われているのかを理解する。
7	聴覚特別支援学校における教育の実際	聴覚障害の起因疾患について理解するとともに、聴覚障害の障害特性に応じてどのような指導が行われているのかを理解する。
8	肢体不自由特別支援学校の教育の実際	児童生徒への肢体不自由の起因疾患について理解するとともに、脳性まひ児の運動特性、認知特性について理解する。あわせて車いす体験を行う。
9	病弱特別支援学校の教育の実際	社会状況の変化による病類の変化を理解するとともに、病弱教育が直面する小児がんの子どもへの教育的支援を考える。
10	知的特別支援学校の教育の実際	知的障害の起因疾患についての理解をするとともに、知的障害の認知、コミュニケーションなどの障害特性について理解をする。
11	特別支援学校における特別支援教育推進のための校内組織のあり方について	特別支援学校において個々一人一人の教育的ニーズを把握して、個別最適化の教育を行うために、研究、研修など校内組織がどのように連携、協力しているのかを理解する。
12	特別支援学校と地域及び関係機関との連携	特別支援学校の教育活動をより効果的に行うために、どのような関係機関と連携し、協力しているのかを理解する。また、各関係機関の役割について理解を深める。
13	特別支援学校における家庭との連携	個々一人一人の児童生徒の社会的自立に向けて、学校と保護者がどのように連携していくことが必要なのかを考える。また、保護者の障害受容の過程について理解を深める。
14	特別支援教育と教師教育	特別支援教育を推進していくための専門性について理解するとともに、専門性を担保するために方法について考える。

15	特別支援学校における今後の課題と展望	医療的ケアなど今後特別支援教育が解決していくことが必要とされる諸課題について考える。
16		

科目コード	25103				区分	専門基礎科目			
授業科目名	発育と発達				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変わっていく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、人間の身体の発育・発達における基本的理解を深め（30分程度）、毎時の課題となるレポート作成に取り組む（90分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各單元ごとに資料を配布する。

<参考書>

（公財）日本スポーツ協会（2019） 公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト （公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邊貴子（2014） 幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ- ミネルヴァ書房
（財）健康・体力づくり事業財団（2008） 健康運動指導士養成講習会テキスト （財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時限の講義内容のまとめ
16		

科目コード	37504				区 分	コア			
授業 科目名	レクリエーション論				担当者名	高見 博子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講座を通じて、楽しさや心地よさを活用して人々を支援するための基礎的な考え方を学ぶ。本講座は、(公財)日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得のための必須科目である。

<授業の到達目標>

レクリエーション概論を理解して「楽しさを創る」ことで「人々の心を元気にする」ことができる理論や支援の理論・支援の方法を学び、現代社会において求められているレクリエーション像を多角的に捉えることのできる能力を身につけることを目標とする。その上で、(公財)日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター取得を目的とする。

<授業の方法>

教科書に沿って講義するが、単元ごとにミニ・レポートを出して理解度をチェックする。また、随時アイスブレイキングの方法等を指導していく。資格取得には現場実習が必須であり、資格認定上の必修科目はキャンプ実習である。そのほか、事業参加としては「課程認定校交流会(11~12月)」や「岡山スポーツフェスティバル(3月)」がある。授業内で地域に関わる活動への案内が適宜あり、参加によって現場実習と認められる場合がある。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間に配布された資料を読んでくる。また、授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める(2時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

定期試験40%, ミニレポート30%, 授業態度30%で評価する。

<教科書>

(公財)日本レクリエーション協会(2017) 「楽しさをとおした心の元気づくり」レクリエーション支援の理論と方法 (公財)日本レクリエーション協会

<参考書>

(財)日本レクリエーション協会 レジャー・カウンセリング 大修館書店
(財)日本レクリエーション協会 レクリエーション・マネジメント 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	レクリエーション概論	レクリエーションを学ぶにあたってレクリエーションの意味を理解する
2	レクリエーション概論	レクリエーション活動について理解するレクリエーション支援について理解する
3	レクリエーション概論	レクリエーション運動について理解するレクリエーション事業について理解する
4	楽しさと心の元気づくりの理論	楽しさを通じた心の元気づくりを理解する
5	楽しさと心の元気づくりの理論	ライフステージと心の元気づくり
6	楽しさと心の元気づくりの理論	子ども、高齢者、障害のある人の元気づくり
7	楽しさと心の元気づくりの理論	地域の絆づくりとレクリエーション
8	レクリエーション支援の理解	コミュニケーションと信頼関係づくり
9	レクリエーション支援の理解	良好な集団づくりの理論
10	レクリエーション事業の理解	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論
11	レクリエーション事業の理解	成功体験を支え合う対象者の関わり
12	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティー
13	レクリエーションの支援の方法	気持ちをひとつにするコミュニケーション技術
14	レクリエーションの支援の方法	良好な集団づくりの方法とアイスブレイキング
15	レクリエーションの支援の方法	レクリエーション活動を対象者に合わせる展開法・アレンジ法
16		

科目コード	40112				区 分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎)				担当者名	明石 啓太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1: 本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2: 施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、水泳理論①	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ。
2	水泳理論②	安全な水泳授業の実施について学ぶ。
3	水泳理論③	各泳法の技術理論や指導法について学ぶ。
4	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
5	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
6	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
7	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
10	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
11	グループ別練習①	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
12	グループ別練習②	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
13	水中運動	水中でのウォーキングやアクアビクスを体験する。
14	泳力テスト	泳力の習熟レベルをチェックする。
15	まとめ	授業で学んだことを総括する。
16		

科目コード	22202				区分	専門基礎科目			
授業科目名	社会の理解 [FE2432組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方を生かした論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りや課題40%、試験60%により総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省 小学校学習指導要領解説社会編 日本文教出版社
北 俊夫 他 編 新編 新しい社会3年～6年 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	社会科を学ぶ意義（オリエンテーション） 求められる初等社会科教育（1）	授業の概要（目的や内容、成績評価等）「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察
2	求められる初等社会科教育（2）	「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察—ICTの活用—
3	初等社会科教育の特質（1）	問題解決的な学習の授業原理
4	求められる初等社会科教育（3）	「見方・考え方」について具体教材から考察
5	求められる初等社会科教育（4）	「思考・判断・表現」について具体教材から考察
6	初等社会科教育の内容（1）	学習指導要領内容の改善点の理解第3学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
7	初等社会科教育の内容（2）	学習指導要領内容の改善点の理解第4学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
8	初等社会科教育の内容（3）	学習指導要領内容の改善点の理解第5学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
9	初等社会科教育の内容（4）	学習指導要領内容の改善点の理解第6学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
10	初等社会科教育の特質（2）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
11	初等社会科教育の特質（3）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
12	初等社会科教育の特質（4）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
13	初等社会科教育の新たな課題（1）	「主権者教育」・「防災教育」に関する考察—東日本大震災の復興支援との関連—
14	初等社会科教育の新たな課題（2）	「SDGs」に関する考察—総合的な学習の時間との関連—
15	社会の理解授業まとめ	授業の総括及び「授業評価アンケート」の実施
16		

科目コード	22202				区分	専門基礎科目			
授業科目名	社会の理解 [FE2433組用]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方を生かした論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りや課題40%、試験60%により総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省 小学校学習指導要領解説社会編 日本文教出版社
北 俊夫 他 編 新編 新しい社会3年～6年 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	社会科を学ぶ意義（オリエンテーション） 求められる初等社会科教育（1）	授業の概要（目的や内容、成績評価等）「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察
2	求められる初等社会科教育（2）	「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察—ICTの活用—
3	初等社会科教育の特質（1）	問題解決的な学習の授業原理
4	求められる初等社会科教育（3）	「見方・考え方」について具体教材から考察
5	求められる初等社会科教育（4）	「思考・判断・表現」について具体教材から考察
6	初等社会科教育の内容（1）	学習指導要領内容の改善点の理解第3学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
7	初等社会科教育の内容（2）	学習指導要領内容の改善点の理解第4学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
8	初等社会科教育の内容（3）	学習指導要領内容の改善点の理解第5学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
9	初等社会科教育の内容（4）	学習指導要領内容の改善点の理解第6学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
10	初等社会科教育の特質（2）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
11	初等社会科教育の特質（3）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
12	初等社会科教育の特質（4）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
13	初等社会科教育の新たな課題（1）	「主権者教育」・「防災教育」に関する考察—東日本大震災の復興支援との関連—
14	初等社会科教育の新たな課題（2）	「SDGs」に関する考察—総合的な学習の時間との関連—
15	社会の理解授業まとめ	授業の総括及び「授業評価アンケート」の実施
16		

科目コード	54007				区分	コア科目			
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅱ				担当者名	横内 浩平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員を目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。この授業は前期にある、現代経営実践演習基礎Ⅰを履修していることを前提として授業を行う。

<授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	政党と圧力団体
3	政治(2)	選挙制度(1)
4	政治(3)	選挙制度(2)
5	政治(4)	世論と行政機能の肥大化
6	政治(5)	国際政治と日本(1)
7	政治(6)	国際政治と日本(2)
8	政治(7)	開発途上国問題
9	政治(8)	政治分野まとめ
10	経済(1)	経済史
11	経済(2)	経済循環と企業の種類(1)
12	経済(3)	経済循環と企業の種類(2)
13	経済(4)	景気変動
14	経済(5)	金融政策
15	経済(6)	経済分野まとめ
16		

科目コード	27202				区 分	専門基礎			
授業 科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

臨床に必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

<授業の到達目標>

各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する。各脱臼における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂

<参考書>

目崎 登 「運動器疾患ワークブック」 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	脱臼総論	定義と概説
2	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
3	頸椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	胸椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	肩鎖関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
6	肩関節脱臼-前方・後方-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼-下方・上方-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肘関節脱臼-両骨-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼-単独・肘内障-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	手関節脱臼-関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
11	手関節脱臼-手根骨-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
15	まとめ	総説
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	経営組織論				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

本講義では、意識的に調整された複数の人間の活動の集合体である組織について、「組織理論」の観点から組織の基本的な概念や組織の形態について体系的に学修する。組織といっても多様であり、企業を対象組織としてのみ論じられたり、経験則のみで語られるような「組織理論」と異なり、実社会で使える理論や知識を提供する。それにより、組織デザインの方法や組織運営に関わる知識と技術を養い、組織運営を行う際に必要となる「モチベーション」や「リーダーシップ」に関する理論、「組織のコミュニケーション」に関する理論等を学修することで、学生

<授業の到達目標>

・身の回りにある「組織」はどのような組織か、「よりよい組織」とはどのような組織かを考え、自分の言葉・文章で伝えることができる。・経営組織論の基本的内容（理論や概念）を理解し、多様な組織の特徴を把握する。

<授業の方法>

・対面授業およびグループディカッション等によるアクティブラーニングを実施する。 GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有など、ICTの活用を努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）・グループディカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち発表することを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：予習課題を毎回2問提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。 ※日頃から新聞、雑誌、インターネット等、様々なメディアに取り上げられている経営組織に関する情報を収集し、 グループディスカッションの準備をしておく。 ・復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・授業態度 30%、リフレクション（振り返り）レポート 30%、最終テスト 40%（配布レジュメ等持ち込み可） 授業に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<参考書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション：経営組織論の基礎(1)	組織論の射程：組織論とは、学ぶ視点
2	経営組織論の基礎(2)	組織論の基本理論：個人の限界を乗り越える手段＝組織、組織論の古典、現代経営組織論
3	組織論の中の「個人」－マイクロ組織論－(1)	組織と人間の関係性：生産性向上における人間関係という経営課題
4	組織論の中の「個人」－マイクロ組織論－(2)	リーダーシップ論とモチベーション論
5	組織論の中の「個人」－マイクロ組織論－(3)	組織の中の個人の成長：キャリア論、組織社会化、人的資源管理
6	組織論の中の「個人」－マイクロ組織論－(4)	組織の中のグループ：小集団の意思決定とコミュニケーションとチーム意識
7	環境に囲まれた「組織」－マクロ組織論－(1)	環境と組織：組織を取り巻く環境、コンティンジェンシー（状況適応）理論
8	環境に囲まれた「組織」－マクロ組織論－(2)	組織の設計：組織の構成・構造、ネットワーク組織
9	環境に囲まれた「組織」－マクロ組織論－(3)	組織の変革と組織学習：組織変革のタイプ、組織構成員の意識改革
10	環境に囲まれた「組織」－マクロ組織論－(4)	組織間関係：組織間関係とは、組織間関係論の代表的理論、 コラボレーションとしての組織間関係
11	様々な組織体(1)	企業組織の組織論：コーポレート・ガバナンス、企業組織の国際比較
12	様々な組織体(2)	流通組織の組織論：外部環境の変化と組織、スーパーマーケット・卸売業組織
13	様々な組織体(3)	非営利組織の組織論：NPOの定義・歴史・運営、NPOと他組織の違い
14	様々な組織体(4)	医療機関の組織論：医療機関とその特徴、医療品業界・医療機器業界
15	様々な組織体(5)	スポーツ組織の組織論：スポーツ組織の形態、プロ組織とアマ組織全体の振り返り、受講の自己評価
16		

科目コード	23100				区分	コア			
授業科目名	発達心理学 [FE/PP]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目のキー・ワードは、「生涯発達」である。人は、誕生する前から生を終える直前まで、発達（変化）し続ける可能性にひらかれている。このことについて、様々な側面から多角的に学習を深めていく。

<授業の到達目標>

教育は、発達に支えられてこそ成り立ち、さらなる発達を促すように展開されることが望ましい。本科目の履修を通して、発達に関する多様な基礎的知見に触れ、これらのことが腑に落ちて理解できるだけの教養や専門性を獲得することが期待される。

<授業の方法>

毎回、講義内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。講義内容について、適宜、グループで見解を議論し合って発表する機会を設け、理解を広げていく。講義内容について、理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の講義内容は関連しており、次回の講義内容を理解するためには、前回の講義内容を理解しておくことが必要となる。講義内容は多岐にまたがるため、その広さに圧倒されることなく理解を定着させながら、講義全体を完走するには毎回の復習が特に重要となる。毎週、次回の講義時まで、配布資料や提示された関連文献の精読、講義内で求められた小課題への回答など、計2時間程度の準備学習が必要となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度：20%、複数回の小課題：30%、学期末試験：50%の結果を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

開地一夫・齋藤慈子（編）（2018/1） ベーシック発達心理学 東京大学出版会
 無藤隆・岡本祐子大坪治彦（編）（2009/1） よくわかる発達心理学[第2版] ミネルヴァ書房
 森口佑介（著）（2014/3） おさなごころを科学する：進化する乳児観 新潮社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の説明、発達と保育・教育の関係、子どもと大人のちがいがい
2	心と発達のモデル①	認知、感情、動機づけ、それらの相互作用と発達
3	心と発達のモデル②	社会性、それに基づく様々なコミュニケーションと発達
4	心と発達のモデル③	遺伝と環境、環境への適応、発達と進化や学習の関係
5	胎生期・周産期の発達	発生過程（形態形成）、誕生前の経験の影響、胎生期・周産期の知覚・運動発達
6	乳幼児期の発達①	乳幼児期の運動・知覚・認知の発達
7	乳幼児期の発達②	乳幼児期の感情・動機づけの発達
8	乳幼児期の発達③	乳幼児期の社会性の発達
9	就学後子ども期の発達①	教科学習や学校生活を支える認知発達
10	就学後子ども期の発達②	教科学習や学校生活を支える感情・動機づけの発達
11	青年期の発達①	脳の発達、仲間関係と発達
12	青年期の発達②	反抗期、アイデンティティの発達
13	成人期・中年期の発達	結婚・子育てと発達、仕事と発達
14	高齢期の発達	アンチ・エイジング、サクセスフル・エイジング
15	まとめ	授業全体の内容の振り返り
16		

科目コード	40124				区分	コア科目			
授業科目名	器械運動Ⅱ(応用)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技について技能の段階的な指導方法を学び、状況に応じた指導方法を習得し、実践する。

<授業の到達目標>

① 学習者の動きを見て、運動学習上の課題を見抜くことができるようになる。② ①を踏まえて、学習者に適切な指導・助言ができるようになる。③ 自らが技能の見本を実施することができるようになる。④ 実践を通じて器械運動の指導を行うことができる。

<授業の方法>

器械運動の指導方法や指導内容を考えると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、実際に指導することを主とする。そして、それぞれの技能を伸ばしたり、指導方法を考えたりする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったことや考えたことをまとめ、提出する。（約10分）予習：参考書の授業テーマに関する箇所を読んでくる。（約20分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。出席：40% 受講態度：10% 提出物：30% 実技（スキル）テスト：20%

<教科書>

<参考書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店
三木四郎（2005年） 新しい体育授業の運動学 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、器械運動の特性について
2	器械運動の模擬授業	マット運動の指導方法について
3	器械運動の実践指導	器械運動における安全配慮について
4	器械運動の模擬授業	マット運動の模擬授業を実践する
5	器械運動の実践指導	器械運動の教材・教具について
6	器械運動の模擬授業	とび箱運動の模擬授業を実践する
7	器械運動の実践指導	鉄棒運動の指導方法について
8	器械運動の実践指導	鉄棒運動の教材・教具について
9	器械運動の実践指導	器械運動の補助の仕方について
10	器械運動の評価方法について①	器械運動の技能採点・評価方法について
11	器械運動の評価方法について②	とび箱運動の技能評価を実践する
12	器械運動の評価方法について③	鉄棒運動の技能評価を実践する
13	器械運動の評価方法について④	マット運動の技能評価を実践する
14	器械運動の模擬授業	マット運動・鉄棒運動・とび箱運動の模擬授業を実践する
15	振り返り	器械運動の授業について振り返る
16		

科目コード	54002				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	資格検定対策Ⅲ(簿記系)				担当者名	大池 淳一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

日商簿記検定2級を履修者全員が受験し合格を目指す科目である。1年次に「簿記入門」「簿記演習」を履修し、日商簿記検定3級レベルの知識を身につけている学生が対象である。前期に同時開講の「財務会計」と「原価計算」を併せて履修すること。簿記検定を取得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つため、2年次後期までに日商簿記検定2級に合格を目指す。

<授業の到達目標>

日商簿記検定2級に受講者全員が合格する。

<授業の方法>

①「簿記入門」「簿記演習」を履修している、または商業高校等で日商簿記検定2級レベルの内容を学習済みであり、日商簿記検定2級を受験し合格することを目指す者に限る。②「財務会計」「原価計算」及び「管理会計」を同時に履修もしくは履修済みであること。③授業の方法は、授業では主に問題演習を行う。④電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓(関数電卓、スマートフォン不可)を持参すること。⑤第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること(他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情が

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。②授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③日商簿記の資格取得系科目の自宅学習は1日3時間{予習(1.5時間)では授業動画を視聴し、テキストを読み、例題を解く、問題演習を行うこと。復習(1.5時間)として問題演習を行うこと。}週に21時間を費やす必要がある。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%、②小テスト 70%フィードバック:締め切り後、すぐに解答を発表し、解説をする。

<教科書>

滝澤ななみ(2024/3/21) 2024年度版 スッキリわかる日商簿記2級 本試験予想問題集 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針
2	第1問対策	仕訳問題
3	第2問対策	精算表、財務諸表、連結会計
4	第3問対策	精算表、財務諸表、連結会計
5	第4問対策	仕訳、勘定記入、部門別個別原価計算
6	第5問対策	総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算
7	予想問題①	第1問～第3問
8	予想問題①	第4問・第5問
9	予想問題②	第1問～第3問
10	予想問題②	第4問・第5問
11	予想問題③	第1問～第3問
12	予想問題③	第4問・第5問
13	予想問題④	第1問～第3問
14	予想問題④	第4問・第5問
15	総合問題	2級全範囲
16		

科目コード	23407			区 分	コア科目				
授業科目名	知的障害児教育 I			担当者名	林 栄昭／大野呂 浩志				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

【履修上の注意】※ この科目は「特別支援教育」または「特別支援教育総論」のいずれかの単位を習得済みであることを履修条件とする。【授業の概要】 この授業は、特別支援学校学習指導要領を分析し、知的障害特別支援学校の教育実践並びに実際に編成されている教育課程を提示し、その内容を理解するとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解する。特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。

<授業の到達目標>

特別支援学校学習指導要領を基準として知的障害特別支援学校の教育において編成される教育課程が有する意義を理解する。児童又は生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの考え方を理解するとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解する。

<授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため、1～1.5時間程度の予復習をすることが望ましい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度20%、レポート提出30%、定期試験50%で評価する。

<教科書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性	知的障害の定義とその状態や学習上の特性を理解し、指導・支援の指針を描く。
2	特別支援学校学習指導要領の構成と特徴	特別支援学校学習指導要領（総則編・各教科等編・自立活動編）の構成と内容について、概要を知る。
3	特別支援学校（知的障害）における教育課程の意義と特徴	知的障害特別支援学校に独自の教育課程が編成されてここの意義やその特徴について、知的障害の特性を踏まえながら理解する。
4	知的障害特別支援学校における教育課程編成の方法	知的障害児教育特有の合わせた指導について理解し、生活年齢に合わせた指導形態の意義やその具体について理解する。
5	知的障害特別支援学校における各教科の目標、内容及び構造	知的障害特別支援学校における各教科等の概念や具体的な目標、内容及び構造について理解する。
6	知的障害特別支援学校における指導の形態（教科別の指導）	知的障害特別支援学校における各教科等の指導のうち、教科別の指導の意義や実態に応じた課題設定について理解する。
7	知的障害特別支援学校における指導の形態（領域別の指導）	知的障害特別支援学校における各教科等の指導のうち、自立活動の指導の重要性を理解し、領域別の指導の意義や実態に応じた課題設定について理解する。
8	知的障害特別支援学校における指導の形態（各教科等を合わせた指導）	知的障害特別支援学校における特有の各教科等を合わせた指導について、生活年齢に応じた具体的な内容を題材に、その意義と指導の特徴を理解する。
9	知的障害特別支援学校における自立活動の指導	特別な教育的ニーズのある子どもに特有の自立活動の指導について、指導の目標と内容項目の種類を合わせて理解する。
10	知的障害特別支援学校（小学部）の教育課程	知的障害特別支援学校における小学生の年齢に設定される教育課程の特徴を理解する。
11	知的障害特別支援学校（中学部）の教育課程	知的障害特別支援学校における中学生の年齢に設定される教育課程の特徴を理解する。
12	知的障害特別支援学校（高等部）の教育課程	知的障害特別支援学校における高校生の年齢に設定される教育課程の特徴を理解する。
13	知的障害特別支援学校における授業づくりと「個別の指導計画」の作成・活用	知的障害特別支援学校における授業づくりとの関係において、個別の指導計画の作成及び活用について理解する。また学校外との連携や将来の一貫した指導・支援につながる個別的教育支援計画の概要についても理解する。
14	自立活動の指導における「個別の指導計画」の作成・活用	障害のある子供の自立活動に特化した個別の指導計画の作成の意義や、その活用について、具体的な事例をもとに理解する。
15	知的障害特別支援学校における教育課程	ここまで学修してきた知的障害特別支援学校の教育課程を踏まえ、その評価と改善

16	の評価と改善(カリキュラムマネージメントの考え方)	のサイクルの重要性の理解をはじめ, 評価と改善のあり方についてその概要を理解する。
----	---------------------------	---

科目コード	21400			区分	専門基礎科目				
授業科目名	器楽演習 I [B]			担当者名	中家 淳悟				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

<授業の到達目標>

1. バイエル46番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グルーブレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル3～7番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル10～15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル21番、弾き歌い、日のまる	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル21番、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル31番、弾き歌い、海	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル31番、弾き歌い、海(2)	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル37番、弾き歌い、春が来た	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル37番、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ(2)	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21401			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	器楽演習Ⅱ [A]			担当者名	中家 淳悟／三好 啓子				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	34113				区分	コア科目（保育・幼児教育に関する理解）			
授業科目名	保育内容「健康」指導法				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／幼稚園教諭免許・保育士国家資格取得のための必修

<授業の概要>

本科目は、東岡山IPUこども園との連携授業科目である。東岡山IPUこども園の5歳児約70名を対象に、健康に関する子どもとの関わり方や、保育者の関わり方を実際に学ぶ。領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的な生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な生活環境の設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を学ぶ。また、ICTを活用した教材の作成方法、小学校とのつながりについて取り扱う。幼児教育施設における具体的な指導場面を想定した指導計画の立案、模擬保育と振り返りを通じ

<授業の到達目標>

領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。子どもの健康の保持・増進のための発育発達、基本的な生活習慣、体力・運動能力、安全、ICTの活用についての知識を理解し、適切な保育ができる。

<授業の方法>

東岡山IPUこども園での実践を通して、領域「健康」に関する子どもとの関わりや、教材づくり、指導法や、保育者と子どもとの関わりについて学ぶ。場合によっては子供への直接的な指導を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す。また、事前課題として指導案の立案、模擬授業の準備を課す場合がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後課題60%、模擬授業40%

<教科書>

なし

<参考書>

無藤隆、倉持清美（2020年8月25日） 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域健康（株）文書林
 酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日） 保育内容 健康 あなたならどうしますか？（株）文書林
 松田博雄、金森三枝（2019年） 子どもの健康と安全 中央法規

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	幼児と健康と保育内容健康指導法	授業概要の解説と領域健康についての解説・東岡山IPUこども園での授業運営ルール
2	健康のねらいおよび内容	ワクワクタイムの概要を掴む。東岡山IPUこども園での生活を知る。
3	幼児の動き	幼児の動きに関して、子どもとの関わりを通して学ぶ。
4	幼児期運動指針(基礎的な動作)	幼児期運動指針の中でも基礎的な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
5	幼児期運動指針(多様な動作)	幼児期運動指針の中でも多様な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
6	幼児期運動指針(動きの連続性)	幼児期運動指針の中でも動きの連続性について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
7	幼児と安全	幼児教育施設での安全管理の仕方について、保育者の話・子どもとの関わりを通して学ぶ。
8	子どもの安全教育事故予防	安全教育、防災教育、リスクマネジメント、施設設備管理
9	ICTを活用した保育	保育現場でICTを用いた保育方法の理解、幼少接続
10	感染症対策	東岡山IPUこども園での感染症対策について学ぶ。
11	指導案作成①	作成した指導案の安全およびねらいについて検討する
12	模擬保育①	園庭での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。
13	模擬保育②	室内での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。
14	指導案を作成し、ねらいを達成するための子供との関わりを実践する。	模擬保育：安全教育、防災教育
15	幼児教育の現代的課題と領域「健康」	授業内容全体の振り返りを通して、健康の指導全体について考える
16		

科目コード	24201				区 分	専門基礎			
授業 科目名	比較文化論				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	カリキュラ ムにより異 なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演 習	卒業要件	なし

<授業の概要>

異文化理解入門です。私たちは“様々な文化”の中で生活しています。その文化とはいったいどのようなことを指すのかについて、私たちの日常生活から改めて見つめていきます。そして、異文化は自分（たち）の文化とどのように違うのかについて理解を深め、皆さんが“地球市民”として生きていくために必要なことを一緒に考えていきたいと思えます。

<授業の到達目標>

・文化とは何を指すのかについて理解している。・自分に影響を与える（与えてきた）文化とは何かについて理解している。・他者に影響を与えている（与えてきた）と思われる文化について多面的に理解している。・異文化適応に必要な方略を身につけている。

<授業の方法>

一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各タスクの復習（1時間程度）や発表のための準備（2時間程度）は必要です。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度 30% レポート等の課題 30% 発表 40%

<教科書>

<参考書>

八代京子 町恵理子 小池浩子 吉田友子（2022年4月20日） 異文化トレーニング 三修社

原沢 伊都夫（2021年12月10日） 異文化理解入門 研究社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、外国人とのかかわり、日本文化、他国のイメージ
2	多文化と日本文化の比較分析（発表）①	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
3	多文化と日本文化の比較分析（発表）②	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
4	異文化コミュニケーション①	私の文化ーあなたの文化
5	異文化コミュニケーション②	見える文化ー見えない文化、パラダイムシフトー交渉トレーニング
6	コミュニケーション①	内容面と関係面、非言語コミュニケーション
7	コミュニケーション②	低コンテクストー高コンテクスト、自己開示ー相互コミュニケーション
8	見えない文化①	価値観、集団主義ー個人主義
9	見えない文化②	権力格差、差別意識
10	異なる文化のとらえ方①	ステレオタイプ、カテゴリー化、差別意識
11	異なる文化のとらえ方②	自文化中心主義ー文化相対主義
12	演習	異文化適応トレーニング
13	スピーチまたはプレゼンテーション①	これからの「私の文化」
14	スピーチまたはプレゼンテーション②	これからの「私の文化」
15	リフレクション	振り返りレポート
16		

科目コード	21400			区分	専門基礎科目				
授業科目名	器楽演習 I [C]			担当者名	中家 淳悟				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

<授業の到達目標>

1. バイエル46番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グルーブレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル3～7番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル10～15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル21番、弾き歌い、日のまる	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル21番、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル31番、弾き歌い、海	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル31番、弾き歌い、海(2)	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル37番、弾き歌い、春が来た	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル37番、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ(2)	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21401			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	器楽演習Ⅱ [B]			担当者名	中家 淳悟／三好 啓子／宮原 舞				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	21400				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ [A][不開講]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

<授業の到達目標>

1. バイエル46番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル3～7番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル10～15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル21番、弾き歌い、日のまる	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル21番、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル31番、弾き歌い、海	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル31番、弾き歌い、海(2)	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル37番、弾き歌い、春が来た	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル37番、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ(2)	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [C][不開講]				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	24200				区分	専門基礎科目			
授業科目名	英語文法 [英語教員希望者限定]				担当者名	井上 聡			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英文法について高校入試や大学入試レベルでの理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための素地を構築することです。指導範囲・内容・レベルが広範かつ高度であるため、オリジナル教材とデジタル解説教材を用い、オンデマンド形式で実施します。課題提出、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、しっかり時間管理を行い、個人差を解消しましょう。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業は中高英語教員免許取得のための必修科目ですので、教職課程を

<授業の到達目標>

1. 長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストで高得点を残すことができる。3. 授業後の意見交換において「学びの振り返り」ができる。

<授業の方法>

1. 例題・類題演習の提出 (90分程度) 2. 採点・返却 3. 理解度確認テスト (30分程度) 4. 意見交換 (10分) ※授業はすべて Google Classroom上で行われます。

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材による予習 (2時間程度) 復習：理解度確認テストの準備 (1時間程度)

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

事前学習 30%, 理解度確認テスト 30%, 意見交換 10%, 期末試験 30%

<教科書>

井上聡 (2022年4月3日) これからの英語教師のための深くて苦い英語文法 一粒社

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、課題提出の方法など
2	英文の構造	自動詞と他動詞、修飾語と付加詞、補語と目的語、OOとOC、文型の判別
3	語順と意味	前置詞と動詞、第4文型から第3文型に、文末焦点
4	基本時制	時制の一致、未来を表す表現、いろいろな未来、名詞節と副詞節
5	完了時制	ニュアンス、用法の判別、完了を表すキーワード、複合問題
6	法助動詞	ニュアンス、種類、丁寧な用言、書き換え、be to、慣用表現
7	仮定法	時制、反実仮想、倒置、様々な構文
8	文末焦点と態	文体の自然性、態の変換、特殊な変換、前置詞の使い方
9	不定詞	用法、時制、不定詞と動名詞、原形不定詞、特殊な構文
10	動名詞	時制を意識した書き換え、形態、語順、慣用表現
11	分詞	前置就職と後置修飾、形態、感情動詞、付帯状況、補語、分詞構文
12	比較	強調、様々な構文、書き換え
13	関係代名詞	情報量、格、制限用法と非制限用法、特殊な用法
14	関係副詞	関係代名詞との違い、関係副詞の成り立ち、特殊な用法、複合関係詞
15	接続詞と前置詞	等位接続詞と接続副詞、従位接続詞、前置詞のニュアンス
16	期末試験	

科目コード	23303			区分	コア科目（教員養成）				
授業科目名	教育相談(初等)			担当者名	石山 貴章				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教員に必要とされている「児童生徒理解」「アセスメント」「相談援助技術」「カウンセリングマインド」「キャリア支援」などの理論に依拠しながら、相談ケースを想定しつつ、どのようなアプローチが有効的・効果的なのかを検討しながら、教育相談を実践的に学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

① 学校教育現場で必要とされている教育相談の基本的理解を深める。② 教育相談に関する基本的理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解していく。③ 教育相談に関心を持ち、教育活動に活かしていく姿勢を身につける。

<授業の方法>

講義

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義で提示される講義資料は、各自、必ずファイリングして復習をしておくこと。第1回～第15回までの講義テーマについての予習を、参考図書等を基にして実施しておくこと。必要に応じて、参考書等で確認を行い、配布資料に転記、またはノートに記録をしておくこと。最終的に、配布資料がテキスト化されるように各自でデータを蓄積しておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終レポート試験課題（1600字程度）（目標①, ②, ③）

<教科書>

特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない
 特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない
 特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない

<参考書>

春日井敏之・伊藤美奈子（2012年10月30日） 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション～カウンセリングマインド～	1. 自己開示 2. カウンセリング・マインド 3. ラポール 4. 守秘義務 5. カタルシス
2	教育相談の基本的理解～カウンセリングの基本～	1. 聴く力と伝える力 2. スクールカウンセラー (SC) 3. スクールソーシャルワーカー (SSW) 4. コンサルテーション 5. カウンセリングアプローチ
3	構成的グループエンカウンター (Structured Group Encounter : SGE)	1. 勇気づけ (アドラー) 2. ロジャーズ (非指示的カウンセリング) 3. 無条件の肯定的受容 4. グループエンカウンター 5. アウェアネス 6. エクササイズ 7. ダイバーシティ 8. シェアリング
4	アンガーマネジメント	1. 怒りのメカニズム 2. “キレル”心理 3. ビリーフ (信念) 4. 怒りの対処 5. リフレーミング 6. ストレス・コーピング 7. 自尊心 (プライド)
5	いじめに関する相談支援①	1. 相談と対応 2. 同調圧力 3. 発達障害 4. 第三者委員会 5. 重大事態 6. ネットいじめ
6	いじめに関する相談支援②	1. 「いじめ」の構造 2. 「いじめ」の態様 3. 「いじめ」の定義 4. 「いじめ防止対策推進法」 5. 「いじめ予防プログラム」
7	不登校に関する相談支援	1. 不登校の現状 2. 適応障害 3. 隠れ不登校 4. 不登校へのアプローチ 5. 不登校特例校 6. 教育機会確保法 7. フリースクール 8. 適応指導教室 9. 夜間中学校
8	児童虐待に関する相談支援①	1. 被虐待児童候群 2. 児童虐待の現状 3. 早期発見・初期対応 4. SNS/DV 5. 相談対応 6. 児童虐待防 7. 虐待対応の手引き
9	児童虐待に関する相談支援②	1. しつけ (懲戒権) 2. 児童相談所 3. 教職員の心構え 4. 子ども・子育て応援プラン 5. 貧困対策 6. 子どもの最善の利益
10	教育相談の進め方～保護者対応と支援～	1. モンスターペアレント 2. 初期対応 3. 向き合うべき課題 4. 保護者対応力 5. ロールプレイ 6. モンスター・ティーチャー
11	LGBTQ+に関する相談支援	1. LGBTQ+ 2. 「性自認」「性的指向」「性表現」 3. トランスジェンダー 4. アンコンシャスバイアス 5. 学校における相談支援体制 6. ジェンダーレス 7. アウティング
12	アサーション	1. 行動療法 2. 自己表現 3. 主張訓練 4. ストローク 5. ディスカウント 6. DESC法
13	①ブレイン・ストーミング (BS) ②ジョハリの窓	1. ブレイン・ストーミング (BS法) 2. 親和図法 (インサイト) 3. マンダラート 4. ジョハリの窓
14	教育相談に関する様々なアプローチ	1. 芸術療法 2. 遊戯療法 3. フォーカシング 4. 内観療法 5. 森田療法 6. 対人

15 16	キャリア教育に関する相談支援 レポート試験	関係療法 7. 家族療法 8. ナラティブ・セラピー 9. 系統的脱感作法 10. 暴露療法 (エクスポージャー) 11. SUBI心の健康自己評価質問紙法 1. キャリア教育 2. 職業教育 3. 基礎的・汎用的能力 4. キャリア・パスポート
----------	--------------------------	--

科目コード	25301				区分	コア科目			
授業科目名	運動生理学				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の呼吸循環反応、運動時の代謝とホルモン調節など、様々な観点から運動の生理的機序を習得させ、さらにそれらの各種トレーニングによる効果などについて理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

運動生理学の基礎的な理論についての理解はもとより、最新の研究成果についての情報も収集しながら、実践的・実証的な知識を習得できる。また、これらを理解した上で、健康増進および競技パフォーマンスの向上のための方法について考えることができる。

<授業の方法>

講義

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマに関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくこと。(所要時間：2時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

1) 毎回の評価：5点×15回(確認テスト+レポート提出) 2) 期末レポート評価：25点 期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

<教科書>

勝田茂(2015年3月) 入門運動生理学 杏林書院

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	運動生理学とは	運動生理学の研究史
2	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造の理解、筋線維タイプと競技種目特性
3	筋力・筋パワー	筋収縮の様式、筋力に影響する要因とトレーニング効果
4	運動とエネルギー供給系	TCAサイクル、ATP-PC系・解糖系・酸化系
5	筋エネルギー代謝とトレーニング	各種トレーニングとエネルギー代謝
6	運動時の糖質・脂質・蛋白代謝	代謝とは、糖質・脂質・蛋白代謝の概要
7	運動とホルモン	筋肥大のメカニズム、筋肥大に影響する要因
8	運動と神経	ニューロンと興奮の伝導、運動単位の動員様式
9	運動と酸素摂取	呼吸の基礎概念、最大酸素摂取量、酸素借
10	無酸素性作業閾値(AT)	ATとは、ATを規定する因子、トレーニングとAT
11	体温と運動パフォーマンス	体温に影響する要因、運動と体温変化
12	スポーツと遺伝子	持久系能力に関連する遺伝子、スプリント・パワー系能力に関連する遺伝子
13	筋疲労の要因	筋機能の特性、遺伝の影響
14	トップアスリートの特性	呼吸循環機能、筋腱の構造と機能
15	まとめ	本講義のまとめ
16		

科目コード	36200				区分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

地域社会さらには国民全体の健康増進、疾病予防のための方策を学ぶ科目である。一次予防、二次予防および三次予防の理論に基づき、環境要因が健康あるいは社会全体に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法、保健、福祉、医療に関する知識を習得する。

<授業の到達目標>

本講義では、公衆衛生の意義、現状を認識し、環境・保健・疫学・医療・福祉・介護等について基礎的な理解をすることにより、変化の著しい社会・環境に対応・判断・行動できる能力を身につける。

<授業の方法>

パワーポイント（オンデマンド）による講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し解説すると共に授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習として授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べること。（2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点 50%（レポート課題，意見交換），小テスト 20%，最終課題 30%

<教科書>

<参考書>

内藤通孝（2014） 公衆衛生学入門 昭和堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	公衆衛生の定義	公衆衛生の意義と目的
2	環境と健康①	環境汚染と健康
3	環境と健康②	生活環境および特殊環境と健康
4	健康、疾病、行動に関わる統計資料	人口静態統計、人口動態統計
5	保健衛生統計	生命表、傷病統計、その他の保健統計
6	疫学の概念	疫学の定義、対象や領域
7	疾病の測定と評価	エビデンスに基づいた保健対策
8	ライフスタイルの現状と対策①	健康に関する行動と社会、食生活と食環境
9	ライフスタイルの現状と対策②	喫煙行動、飲酒行動、休養、歯科保健活動など
10	主要疾患の疫学と予防、対策	悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患の現状、予防と対策
11	感染症	感染症の対策と動向
12	我が国の医療・保健制度	医療制度、母子保健、高齢者保健、地域保健
13	我が国の医療・保健制度②	産業保健、学校保健、国際保健
14	保健・医療・福祉の関連法規	衛生法規、一般衛生法規
15	まとめ	本講義の復習
16		

科目コード	39208			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	文章作成			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本学科では、豊かな人間性を備えた、自己実現能力の育成、グローバルにもローカルにも貢献できる「グローバル人材」の養成を目指している。その目標を達成するためにはコミュニケーション能力の養成は不可欠である。本授業では、現在の社会的・政治的・文化的・学術的知識を持ち、現代社会の諸問題の創造的解決に向け、他者と協働・協力する能力の一つとして、日本語の文章によるコミュニケーション能力の育成を図る。本授業では、これまで学んできた日本語について復習し、文章作成の基礎から大学で必要とされる、レポート作成、論文作成の基礎

<授業の到達目標>

本授業の目標の一つは、大学生に必要とされる文章作成能力のうち、レポートの書き方を身につけ、卒業論文作成につなげることである。レポートは形式も重要であるが、客観的事実と主観的意見を書き分けなければならない。事実と意見を書き分け、意見にはその根拠となる事実を書けるようにする。二つ目の目標は、社会に出てから必要とされる文書作成能力を身につけることである。これについても形式、内容を分かりやすく、的確に伝えることができるようにする。

<授業の方法>

最初は、文章の書き方の基礎を勉強する。続いて、テーマに沿った文章を読み、そのテーマで使われる言葉を確認する。次に、同じテーマで文章を作成する。文章を書くにあたって、文体を整えること、書き言葉を使用すること、分かりやすい構成で書くことは非常に重要である。練習を繰り返すことによって、目的にあった、分かりやすい文章が書けるようにする。毎回、予習してきた言葉のテストを行う。また、ほぼ毎回課題を提出させる（課題はClassroomにて提出）。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テキストの読解部分をあらかじめ読み、分からない単語を調べておく。（30分程度）復習：課題を書く。授業中書けなかった課題は、自宅で書き、必ず提出する。（30分程度） また、授業で習った新しい言葉についても復習し、覚えてほしい。（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%（授業で返却・解説） 授業課題 30%（翌週返却・解説） 期末課題 50%

<教科書>

<参考書>

銅鍋子坂東実子（2013年3月1日） 大学生のための文章表現と口頭発表練習帳 国書刊行会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方の説明、文章表現とは何か説明
2	文章表現の基本	文章の書き方の基本 文体・形式
3	紹介文1①	自己紹介文：魅力的な自己紹介文を書くために、内容と構成を考える。
4	紹介文1②	自己紹介文を書く。
5	紹介文2①	故郷を紹介する：魅力的な紹介文にするための内容と構成を考える。
6	紹介文2②	故郷を紹介する文章を書く。
7	意見文1①	テーマに沿った意見文を書く。意見文を書く前に、意見を整理し、その根拠を確認する。それを基に構成を考える。
8	意見文1②	各自の書いてきた構成をグループで確認する。提出順序、根拠の客観性なの確認したのち、意見文を書く。
9	意見文2①	2つ目のテーマに沿った意見文を書く。意見文を書く前に、意見を整理し、その根拠を確認する。それを基に構成を考える。
10	意見文2②	各自の書いてきた構成をグループで確認する。提出順序、根拠の客観性なのを確認したのち、意見文を書く。
11	要約1	新聞記事を要約する。個人で要約した後、グループでチェックし、直した後、清書する。
12	要約2	コラムのような意見を含む文章の要約する。事実と筆者の意見を分ける。個人で要約した後、グループでチェックし、直した後、清書する。
13	レポートの書き方1	一般的なレポートの形式について学び、ベタ打ちされた内容を、形式に従って書き直す。
14	レポートの書き方2	ブックレポートの形式を学ぶ。簡単な文章を読んでそれについて紹介する文章を書く。
15	レポートの書き方3	報告書の形式を学ぶ。また、レポートの書き方のまとめを行う。
16		

科目コード	22104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2333組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で使用できる能力を身につける。

<授業の到達目標>

1. 音符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

<授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）*受講には五線紙ノートが必要。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

<教科書>

小谷野謙一(2014年2月10日) よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解について
2	音の長さ	音符、休符
3	音の高さ	五線、加線、音部記号、譜表
4	拍子、連符	いろいろな拍子、いろいろな連符
5	音名	音名、変化記号
6	楽譜の書き方	記譜法について
7	記号	強弱記号、速度記号、奏法に関する用語と記号
8	音程①	2、3、6、7度の音程
9	音程②	1、4、5、8度の音程
10	音階	長音階と短音階
11	和音	和音の種類、三和音、七の和音
12	コードネーム	コードネームについて理解する
13	コードネーム演習①	コードネームを使用した伴奏法
14	コードネーム演習②	コードネームを使用した伴奏法の応用
15	まとめ	復習と総括
16		

科目コード	38201				区分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP教員希望者用]				担当者名	柴山 慧/清田 美紀			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%， レポート 20%， 指導案20%， 模擬授業20%， 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房
 大修館書店 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅰのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導、器械運動・体づくり運動①（ここからクラス全体を半分に分けて、器械運動と体づくり運動、陸上競技と武道をそれぞれ実施）	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）、器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
5	教材研究、器械運動・体づくり運動②	教材の選定と作成、器械運動・体づくり運動の模擬授業
6	授業づくり、陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
7	授業実践、陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
8	教材研究、器械運動・体づくり運動①（半分に分けたグループを交代）	器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
9	器械運動・体づくり運動②	器械運動・体づくり運動の模擬授業
10	陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
11	陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト（ここからクラス全体で授業に戻る）	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト（教員採用試験の過去問から）
13	体育理論①	体育理論の概要や意義、授業方法について
14	体育理論②	体育理論の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13～14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	52006				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導 I B (施設)				担当者名	松本 好生／檜寄 日佳／酒井 健太郎／大久保 諒			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせて進める。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に手引きをよく読んでおくこと(1時間以上)。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること(1時間以上)。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2021) 「保育実習の手引き」 保育士養成協議会
厚生労働省 保育所保育指針（平成29年告示） フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領 フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の実際	保育実習 I B既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について
14	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
15	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

下肢はヒトとしての特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、骨盤、大腿部、膝部、下腿部、足部の下肢における骨折の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、骨折の発生機序、症状を説明できる。2. 骨折の状態から治療指針について判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，学習意欲10%

<教科書>

柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂

<参考書>

小林直行 監修 柔道整復師国家試験重要問題 柔道整復学下肢・総論 医歯薬出版株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	骨盤骨単独骨折（1）	腸骨翼単独骨折、恥骨単独骨折、坐骨単独骨折、仙骨単独骨折、尾骨単独骨折における概要、発生機序、症状、治療法について
2	骨盤骨単独骨折（2）	腸骨稜裂離骨折、上前腸骨棘裂離骨折、下前腸骨棘裂離骨折における概要、発生機序、症状、治療法について
3	骨盤骨輪骨折	骨盤骨輪骨折における概要、発生機序、症状、治療法について
4	大腿骨近位端骨折（1）	大腿骨骨頭骨折、大腿骨頸部骨折における概要、発生機序、症状、治療法について
5	大腿骨近位端骨折（2）	大腿骨転子部骨折、大腿骨大転子単独骨折、大腿骨小転子単独骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
6	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折（上1/3、中1/3、下1/3）における特徴、発生機序、症状、治療法について
7	大腿骨遠位端部骨折（1）	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離解における概要、発生機序、症状、治療法について
8	大腿骨遠位端部骨折（2）	大腿骨顆部骨折、内側側副靭帯附着部剥離骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
9	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折、分裂膝蓋骨における特徴、発生機序、症状、治療法について
10	下腿骨近位端骨折（1）	脛骨顆部骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
11	下腿骨近位端骨折（2）	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
12	下腿骨幹部骨折	脛骨単独骨折、脛腓両骨骨折、腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿疲労骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
13	下腿骨遠位端骨折	下腿骨果部骨折、足関節脱臼骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
14	足根骨骨折	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
15	足趾骨骨折	中足骨骨折、他の足趾骨骨折における特徴、発生機序、症状、治療法について
16		

科目コード	37510			区分	コア科目				
授業科目名	スポーツ施設論			担当者名	平岡 師玄哉				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

フィットネス業界は、2019年（平成31年）には、売上高4,939億円（前年比3.2%増）、施設数6,188軒（前年比6.38%増）と総合型クラブが業界を牽引してきました。しかし、この10年の間に、24時間営業ジムやサーキットジム、ホットヨガスタジオなどの小規模業態が登場し、他業種からの参入も活性化しています。また、2020年年始からのコロナ禍により、ホームフィットネスや健康関連アプリサービスも台頭してきました。この授業では「民間スポーツ施設」にフォーカスをあて、社会環境、業界動向、事業構造等の事例を通じて

<授業の到達目標>

1. 体系的にフィットネスクラブマネジメントに関わる知識・技術を身につけている 2. スポーツに関わる仕事の選択肢を増やすことができる 3. 国家資格である「フィットネスクラブマネジメント《ベーシック》」を取得するために必要な知識・技能を習得している

<授業の方法>

本授業は、事前課題をもとに講義を中心に進めます。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書活用し、事前課題を行い、授業内容に触れておく（30分）復習：学習内容の復習を行う（30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 40%、 授業内での課題 30%、 レポートの課題 30%

<教科書>

一般社団法人日本フィットネス産業協会（2022年2月1日） フィットネスクラブマネジメント公式テキストVol. 3初級《ベーシック》

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方フィットネス産業の概要
2	フィットネス産業	フィットネス産業の現状、歴史、特徴健康施策の概要と動向
3	健康づくり	生活習慣病とその予防栄養・運動・休養高齢者の健康づくり
4	運動・トレーニングの基礎	運動生理学、トレーニングの基礎
5	店舗運営①	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
6	店舗運営②	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
7	店舗運営③	イベントの企画・運営付帯事業クラブ内での緊急対応
8	トレンド	業界のプレイヤー、最新サービスの今
9	顧客マネジメント①	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
10	顧客マネジメント②	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
11	チームワークとコミュニケーション	組織と業務分担の考え方仕事の進め方コミュニケーションの重要性リーダーの役割とフォロワーの役割
12	施設・設備管理の意義と重要性	総合クラブの施設内容管理の概念と基本
13	労働・安全衛生	労働者の保護職場の安全衛生の基本感染症対策
14	データからみるフィットネスクラブ	フィットネスクラブを取り巻く状況を数値から捉える
15	授業まとめ	スポーツ施設経営を学ぶ重要性
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	原価計算				担当者名	大池 淳一			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。問題演習を通じて原価計算の計算構造や基礎となる理論について学ぶ。具体的には、原価とは何か、原価はどのように計算するのか、原価計算の方法にはどのようなものがあるか、また、計算して得られた原価情報をどのように利用するのかといった課題について理解を深める。

<授業の到達目標>

① 日商簿記検定2級を受講者全員受験し合格する。② 原価計算の専門用語、計算技術を習得する。③ 原価計算によって得られた情報を、どのように経営の改善に結びつけるか理解できること。

<授業の方法>

① 日商簿記検定2級を受講者全員受験し合格することを目指すため、3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。② 「簿記入門」「簿記演習」を履修し、「財務会計」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」及び「管理会計」を併せて履修すること。③ 授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。④ 電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。⑤ 第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合に

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）3時間、復習（問題演習）3時間を費やす必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/2/25) 2024年度版 スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、原価計算とは
2	総合原価計算	月末仕掛品の計算（先入先出法、平均法）
3	工程別総合原価計算	工程とは、工程別原価計算表の作成
4	組別総合原価計算①	組とは、組直接費、組間接費
5	組別総合原価計算②	練習問題
6	等級別総合原価計算①	等級製品、等価係数、積数
7	等級別総合原価計算②	練習問題
8	仕損と減損	加工進捗度による処理の違い
9	材料の追加投入	加工進捗度による処理の違い
10	工業簿記における財務諸表	製造原価報告書、損益計算書、貸借対照表
11	本社工場会計	本社での処理、工場での処理
12	標準原価計算①	直接材料費差異、直接労務費差異
13	標準原価計算②	製造間接費差異
14	直接原価計算①	全部原価計算との比較、固定費調整
15	直接原価計算②	損益分岐点分析
16		

科目コード	39210				区分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語 I (基礎) [BC留学生用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、専門科目を学ぶための日本語能力をより確実に、正確なものとする。文章構築能力育成のための学習活動をするとともに、本科目では、特に、プレゼンテーション能力の育成を目標に授業を進める。そのために、学習者にはいくつかの課題を与え、実際にプレゼンテーションをしてもらい、それをもとに意見交換、議論を行う。プレゼンテーションでは、相手を意識した分かりやすい発表がポイントとなる。練習を繰り返し、また他の学習者のプレゼンテーションを見ることによって能力を伸ばす。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は、調査発表のための日本語運用力を養うことである。具体的には (1) 指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、(2) テーマ決定から調査、発表、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、(3) 相手を意識した分かりやすい発表が日本語でできるようになること、の3点である。

<授業の方法>

15回の授業を通じて3つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表を行う。グラフの読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて講義形式で進め、調査発表の準備はグループ毎の活動とする。各テーマの途中で、グループ内で3～5分程度のミニ・プレゼンテーションと学生間でフィードバックを行い、各テーマの最終プレゼンテーションに備える。各テーマの最終プレゼンテーションでも学生間で相互評価を行う。アイス・ブレイキングや読解の理解促進、及び調査発表のために2～4名のグループを作

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習(表現の意味理解)と復習(記憶)が各30分～1時間程度必要である。また、調査や発表準備は、授業内でも時間をとるが、基本的には授業外で行う。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者(授業担当教員を含む)による日本語チェックを行うことを必須とする。また、レポート作成は2回行うが、いずれも授業時間外での活動である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要説明、調査準備	授業概要と評価方法に関する説明、グループでの調査準備
2	食文化 (1) 導入とグラフの読み取り	グループディスカッションによるアイスブレイキング、語彙や表現の導入
3	食文化 (2) 読解1	ピア・リーディングによる大意取り
4	食文化 (3) 読解2、発表準備	精読、グループ内でのミニ・プレゼンテーション
5	食文化 (4) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション
6	食文化 (5) フィードバック仕事 (1) 導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
7	仕事 (2) 読解1	ピア・リーディングによる大意取り
8	仕事 (3) 読解2、インタビュー調査の方法	精読、インタビュー調査で用いる表現の確認、発表時のまとめ方
9	仕事 (4) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション
10	仕事 (5) フィードバック生活習慣と宗教 (1) 導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
11	生活習慣と宗教 (2) 読解1	ピア・リーディングによる大意取り
12	生活習慣と宗教 (3) 読解2、調査準備	精読、グループでの調査準備
13	生活習慣と宗教 (4) 発表準備	グループ内でのミニ・プレゼンテーション
14	生活習慣と宗教 (5) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション
15	まとめ	前回のフィードバック、各テーマの内容の復習、レポートの説明
16		

科目コード	22104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2331組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で使用できる能力を身につける。

<授業の到達目標>

1. 音符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

<授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）*受講には五線紙ノートが必要。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

<教科書>

小谷野謙一(2014年2月10日) よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解について
2	音の長さ	音符、休符
3	音の高さ	五線、加線、音部記号、譜表
4	拍子、連符	いろいろな拍子、いろいろな連符
5	音名	音名、変化記号
6	楽譜の書き方	記譜法について
7	記号	強弱記号、速度記号、奏法に関する用語と記号
8	音程①	2、3、6、7度の音程
9	音程②	1、4、5、8度の音程
10	音階	長音階と短音階
11	和音	和音の種類、三和音、七の和音
12	コードネーム	コードネームについて理解する
13	コードネーム演習①	コードネームを使用した伴奏法
14	コードネーム演習②	コードネームを使用した伴奏法の応用
15	まとめ	復習と総括
16		

科目コード	38201				区分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP教員希望者用]				担当者名	柴山 慧/清田 美紀			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%， レポート 20%， 指導案20%， 模擬授業20%， 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房
 大修館書店（令和4年） 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅰのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法、体育授業の学習指導
4	体育授業の学習指導、器械運動・体づくり運動①（ここからクラス全体を半分に分けて、器械運動と体づくり運動、陸上競技と武道をそれぞれ実施）	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）、器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
5	教材研究、器械運動・体づくり運動②	教材の選定と作成、器械運動・体づくり運動の模擬授業
6	授業づくり、陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
7	授業実践、陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
8	教材研究、器械運動・体づくり運動①（半分に分けたグループを交代）	器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
9	器械運動・体づくり運動②	器械運動・体づくり運動の模擬授業
10	陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
11	陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト（ここからクラス全体で授業に戻る）	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト（教員採用試験の過去問から）
13	体育理論①	体育理論の概要や意義、授業方法について
14	体育理論②	体育理論の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト
16		

科目コード	40108				区分	体育実技			
授業科目名	剣道 I (基礎) [2年生以上男子用]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	教職選択必修

<授業の概要>

日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育教員になれば、武道専門家でなくても武道の授業を担当しなければならないこととなった。従って、この授業では、剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）ようにする事を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領等、剣道に関する書籍を1時間程度読んでおく事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・出席50%、剣道実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日） 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本授業の内容説明と剣道着袴採寸	本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。
2	剣道着・袴の着用方法と剣道理念について	剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習
3	剣道防具と竹刀について	前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて
4	剣道の礼法について	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。
5	基本動作について（素振り）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。
6	基本動作について（足さばき）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	剣道防具の着用	防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。
9	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法）	基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。
11	基本稽古（応じ技・引き技）	相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと確認実技試験	これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。
13	互角稽古	これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	試合（団体戦における戦い方の学習）	5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。
16		

科目コード	33402				区分	コア科目			
授業科目名	子ども家庭支援の心理学				担当者名	松本 好生			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

家庭は子どもの発達を支える環境としては一番重要なものであるが、現代はその機能が弱まり、支援を必要とする家庭が増えている。この授業では、前半は子どもの発達を概説したうえで、家族や家庭の機能、親子関係を発達的な観点から理解する。さらに、子育ての課題や子どもの精神保健についてもアプローチする。

<授業の到達目標>

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期学習の重要性、発達課題について理解する。2. 家族・家庭の意義や機能を理解したうえで、親子関係や家族関係を等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う。1. 講義 2. グループワーク、ディスカッション 3. 質疑応答

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：授業部分の教科書を読んで理解しておくこと。復習（60分）：授業で教わったことを振り返り、課された小課題に取り組むこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度や受講意欲（10%） レポート（10%） 試験（80%）

<教科書>

公益社団法人児童育成協会監修・白川佳子他編（2019） 新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学 中央法規

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の受け方、評価方法などについて説明
2	乳幼児期の発達	認知・言語・社会性・自我の発達、初期経験の重要性、保育場面における遊びの発達についての研究、発達心理学と発達精神病理学、発達の道すじにおける連続性と非連続性
3	幼児期の発達	認知の発達、言語の発達
4	学童期の発達	学童期の特徴、学童期の仲間関係
5	青年期の発達	身体の変化、対人関係の変化、心の変化
6	成人期・中年期の発達	成人期、中年期
7	高齢期の発達	高齢者に関する日本の現状、高齢期の特徴、認知症
8	家族・家庭の意義と機能	家族・家庭とは、結婚、家族・家庭に関する変化
9	家族関係・親子関係の理解	家族のライフサイクル、家族システム論、円環的因果律
10	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化をめぐる状況、出産・子育てをめぐる社会的状況、子育てを支える、要保護児童と家庭への支援、高度生殖医療と喪失
11	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースとは、女性・男性のライフコースの歴史的变化と特徴、ライフコースの選択とモデル、性役割分業とライフコース
12	子どもの貧困	子どもの貧困とは、子どもの貧困の現状、子どもの貧困による影響、子どもの貧困に対して保育士にできること
13	特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルス、子どもや家庭の障害、不適切な養育と家族の機能不全、逆境的小児期体験（ACEs）の影響、保育現場におけるトラウマインフォームド・ケア、トラウマが保育者に与える影響、保育者のセルフケア
14	子どものこころの健康にかかわる問題	子どもの心身の健康、国際比較
15	保育者に関する現状と課題	高校生、保育学生、保育士
16		

科目コード	22104				区分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2332組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で使用できる能力を身につける。

<授業の到達目標>

1. 音符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

<授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）*受講には五線紙ノートが必要。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

<教科書>

小谷野謙一(2014年2月10日) よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解について
2	音の長さ	音符、休符
3	音の高さ	五線、加線、音部記号、譜表
4	拍子、連符	いろいろな拍子、いろいろな連符
5	音名	音名、変化記号
6	楽譜の書き方	記譜法について
7	記号	強弱記号、速度記号、奏法に関する用語と記号
8	音程①	2、3、6、7度の音程
9	音程②	1、4、5、8度の音程
10	音階	長音階と短音階
11	和音	和音の種類、三和音、七の和音
12	コードネーム	コードネームについて理解する
13	コードネーム演習①	コードネームを使用した伴奏法
14	コードネーム演習②	コードネームを使用した伴奏法の応用
15	まとめ	復習と総括
16		

科目コード	40402				区分	コア科目			
授業科目名	スタジオエクササイズ				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

コロナ禍において、運動様式はさらに多様化し、フィットネスプログラムの多くもオンラインやアプリを活用したものが登場しました。ステイホームが習慣となってしまった高齢者においては、身体活動の減少から、機能低下や生活習慣病など不安視されるようになってきました。これらを背景にフィットネス活動の重要性が再認識され、特性や効果、安全性を踏まえて運動が提供できることが必要になってきています。本授業では、フィットネスプログラムを理解するとともに、運動の提供者、評価者の両者の視点から運動処方方を学びます。

<授業の到達目標>

1. フィットネスクラブのプログラムの種類・特徴を理解している 2. トレーニングの原理・原則に沿って、安全かつ効果的なプログラムを提供することができる 3. プログラムの評価の観点を理解し、評価をもとにフィードバックすることができる最終ゴールとして、簡単なストレッチや体操を用いたレッスンができることを目指します。

<授業の方法>

座学を交ぜながら運動処方方の基礎を学び、実技の中心に行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：解剖学や生理学、トレーニングの基礎理論をもとに課題準備。（30分）復習：授業でもらったフィードバックをもとに、運動処方方について練習を行う（30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度 30%、レポート 30%、実技試験 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義概要、授業の進め方、プログラムの体験
2	運動処方方の実際①	プログラム体験
3	運動処方方の実際②	プログラム体験
4	運動処方方の実際（まとめ）	プログラムの体験と処方の実践
5	運動プログラムの作成と処方①	プログラムの実践
6	運動プログラムの作成と処方②	プログラムの実践
7	運動プログラムの作成と処方③	プログラムの実践
8	運動プログラムの作成と処方（まとめ）	プログラムの実践
9	運動プログラムの作成と処方と評価①	プログラム作成方法の理解と実践
10	運動プログラムの作成と処方と評価②	プログラム作成方法の理解と実践
11	運動プログラムの作成と処方と評価③	運動処方方の評価方法の理解と実践
12	運動プログラムの作成と処方と評価④	運動処方方の評価方法の理解と実践
13	実技テスト①	集団指導の実践
14	実技テスト②	集団指導の実践
15	実技テスト③ まとめ	集団指導の実践
16		

科目コード	61005			区 分	コア科目				
授業科目名	運動障害と予防および救急処置 [PP4年次、PH2年次]			担当者名	河合 洋二郎				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

<授業の到達目標>

本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に随時通知する予定。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験100%

<教科書>

「健康運動指導士養成講習会テキスト」 財団法人健康・体力づくり財団

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）	実習：救急蘇生法、AED、CRP
15	特殊環境下における運動障害と予防	高山病、潜水病、寒冷地での低体温について
16		

科目コード	40108				区分	体育実技			
授業科目名	剣道 I (基礎) [2年生以上男子用]				担当者名	中島 治彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	教職必修

<授業の概要>

日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育教員になれば、武道専門家でなくても武道の授業を担当しなければならないこととなった。従って、この授業では、剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）ようにする事を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領等、剣道に関する書籍を1時間程度読んでおく事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、剣道実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日） 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本授業の内容説明と剣道着袴採寸	本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。
2	剣道着・袴の着用方法と剣道理念について	剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習
3	剣道防具と竹刀について	前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて
4	剣道の礼法について	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。
5	基本動作について（素振り）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。
6	基本動作について（足さばき）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	剣道防具の着用	防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。
9	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法）	基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。
11	基本稽古（応じ技・引き技）	相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと確認実技試験	これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。
13	互角稽古	これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	試合（団体戦における戦い方の学習）	5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	外科学 I				担当者名	合地 史明			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、外科学総論にあたる部分である。外科学の概念、損傷、炎症、感染症、腫瘍、ショック、輸血、輸液、消毒と滅菌、手術、麻酔、移植と免疫、出血と止血と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身に付ける。医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話が出来ることを目標とする。

<授業の方法>

教科書にそって授業を進めて行く。視聴覚資料等を用いて適宜補完していく。毎回の講義後に講義の理解度をクラスルーム課題などを用いて確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を読んでおく事（1時間）、また、授業の後は講義でとったノートを参照しながら再度教科書を読んで復習する（1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験期間中に筆記試験（80点満点）を行う。さらに授業時のレポートと出欠状況を総合して平常点（20点満点）を算出。これらの合計点（100点満点）で評価を行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「外科学概論」 南江堂

<参考書>

北島政樹 監修 「標準外科学」 医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	外科学とは	外科学の歴史 外科医の立場 現在の外科医療
2	損傷（1）	損傷の分類 診断 治療 交通外傷 ドライバー外傷
3	損傷（2）	特殊な損傷 凍傷 びらんと潰瘍 瘻孔 裂傷 壊死・壊疽
4	損傷（3）	創と傷 熱傷 電撃傷 低温熱傷 化学熱傷
5	炎症と外科感染症	炎症（定義 分類 病態）外科感染症
6	腫瘍	腫瘍の概念 組織 成因 分類 診断 治療
7	ショック	ショックの病態と分類 緊急処置
8	輸血 輸液	輸血 一般輸液 高カロリー輸液
9	消毒と滅菌	消毒薬の特徴 皮膚の消毒機器・器材・環境の消毒 滅菌
10	手術	手術の分類 各種手術法 止血術 結紮・縫合術 穿刺術
11	麻酔	麻酔の概要 麻酔の歴史 麻酔の種類 全身麻酔法 局所麻酔法 緩和ケアとがん性疼痛治療法
12	移植と免疫	移植の用語 移植の現状 各種臓器移植
13	出血と止血	出血とは 出血の種類 止血の仕組み 外出血 内出血 止血法
14	心肺蘇生法	倒れた人の評価法 心肺蘇生法の実際 人工呼吸法 AED
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	25200			区 分	専門基礎				
授業科目名	体育行政学			担当者名	権藤 弘之				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代日本における体育・スポーツに関する行政及びその政策について、体系的に理解し、他者に説明できることを目的としている。そのため、体育・スポーツに関する行政及びその政策について、基本的な事項を解説するとともに近年の体育・スポーツ政策の動向を解説する。また、それらの知識に基づいて、多様な立場・価値観を理解し、尊重しながら、グループワークに取り組み、授業の理解度及びグループワークへの貢献度をレポート・グループワーク課題に基づいて評価する。

<授業の到達目標>

① 現代社会における体育・スポーツに関する行政及びその政策について、体系的に理解し、他者にも説明できるようになる。② グループワークに主体的に参加し、多様な立場及び価値観を理解し、尊重し、グループワークに貢献できるようになる。

<授業の方法>

参考資料やプレゼンテーションを使用する一斉授業及びグループワークにおいて展開する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習：毎時間課される次週課題について(5分程度)② 復習：毎時間課される授業課題について(5分程度)③ 数回にわたり授業テーマに関連するレポート課題を指示する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

① 授業態度(授業意欲)30%② グループワーク10%③ 小テスト30%④ 課題レポート30%

<教科書>

<参考書>

菊 幸一、齋藤 健司、真山 達志、横山 勝彦ら(発行2011.11.20) スポーツ政策論 成文堂
 浦川 太郎、大橋 宅生、白井 久明、菅原 哲朗ら(発行2011.12.20) スポーツ基本法 成文堂
 阿部 篤志、久保田 潤、中村 宏美、本間 恵子(発行2020.3) スポーツ担当者になったら読む本 独立行政法人 日本スポーツ振興センター

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、我が国のスポーツ推進策の変遷について	オリエンテーションとして授業内容、成績評価等の説明等を行い、最初として戦後から現在までの体育・スポーツ推進策の変遷について学ぶ。
2	体育・スポーツの定義・概念と歴史について	スポーツの意味と語源、その歴史について理解し、変化する現代スポーツのとらえ方、考え方についても学ぶ。
3	体育・スポーツ行政の背景・根拠となる法令等について	我が国のスポーツ推進の基本方策を定める「旧法：スポーツ振興法」「現行法：スポーツ基本法」を学ぶ。またその他のスポーツ関連法令も関連して学ぶ。
4	体育・スポーツ行政のしくみと役割・責務について	体育・スポーツ行政の主な所管は、文部科学省の外局であるスポーツ庁となったが、その経緯について学ぶ。また関係省庁、関連スポーツ組織及び自治体組織についても学ぶ。
5	スポーツ基本法と「スポーツ基本計画」について	最近策定された「第3期スポーツ基本計画」を中心に学ぶ。
6	スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」について	最近策定された地方スポーツ推進計画(何例かの都道府県や市区町村計画)について学ぶ。
7	公共スポーツ施設の管理運営(指定管理者制度を含む)とその変遷について後半：グループワークづくり	○前半は施設の管理運営に係る指定管理者制度について(講義)○後半：グループワーク(7, 8人のグループをつくる)テーマとして、望ましい公共スポーツ施設もしくは地域スポーツ推進策について、各々皆さんがアイデアを考え、授業の最後にグループ内で発表し合う。最後はグループ内で代表発表者を決める。
8	グループ代表者による発表会	発表テーマは、望ましい公共スポーツ施設もしくは地域スポーツ推進策について、前回授業時に決めたグループ内代表者の発表をする。
9	前半ふり返りテスト	前半第1回～第8回授業内容で学んだ「前半ふり返りテスト(授業時配布資料持ち込み可)」を実施する。
10	学校体育行政と運動部活動改革(地域移行)について	特に「運動部活動」については、学校や教師だけでは解決することができない課題(教員の負担増と少子化で維持困難)が増えており、従前と同様の運営体制ではその維持が難しくなっている。スポーツ庁では昨年4月から中学校部活の休日を地域移行をすすめているが、各自治体でも取り組み始めたが、将来的には部活動の存続の危機となることからこの現状をしっかりと学んでおく必要がある。
11	オリパラ大会と競技力向上施策について	東京オリパラ大会の総括、国や都道府県レベルで取り組む「中長期の強化戦略に基づく競技力向上を支援するシステムづくり」「アスリートが競技開始(地域と一体となる)からトップレベルに至るまでの道筋」などについて学ぶ。

12	体育・スポーツ指導者の養成について	スポーツに関わる指導者養成機関は、次のような団体、機関があり、各認定資格を紹介する。※但し、医療系スポーツ団体は挙げていない。(公財)日本スポーツ協会、(公財)健康・体力づくり事業財団、(公財)日本レクリエーション協会、(公財)日本スポーツクラブ協会、(公財)日本スポーツ施設協会、(公財)笹川スポーツ財団などがある。
13	地域スポーツ組織とそのマネジメントについて	地域で活動する「スポーツ少年団」や「総合型地域スポーツクラブ」の育成、非常勤公務員であるスポーツ推進委員、スポーツマネジメントなどについても学ぶ。
14	その他重要なスポーツ推進施策(高齢者、女性、障がい者)について	国民のスポーツ定期的実施率を向上させ、日々の生活の中で一人一人がスポーツの価値を享受できる社会を構築するため、各種のスポーツ施策(sport in life、運動スポーツ習慣化促進事業など国民スポーツ全般、女性スポーツ参加など)について学ぶ。
15	総括とまとめテスト	本授業の総括を行い、最後に「後半ふり返りテスト(授業時配布資料持ち込み可)」を実施する。
16		

科目コード	40108				区分	体育実技			
授業科目名	剣道 I (基礎) [2年生以上男子用]				担当者名	中島 治彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	教職選択必修

<授業の概要>

日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育教員になれば、武道専門家でなくても武道の授業を担当しなければならないこととなった。従って、この授業では、剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）ようにする事を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領等、剣道に関する書籍を1時間程度読んでおく事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・出席50%、剣道実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日） 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本授業の内容説明と剣道着袴採寸	本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。
2	剣道着・袴の着用方法と剣道理念について	剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習
3	剣道防具と竹刀について	前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて
4	剣道の礼法について	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。
5	基本動作について（素振り）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。
6	基本動作について（足さばき）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	剣道防具の着用	防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。
9	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法）	基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。
11	基本稽古（応じ技・引き技）	相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと確認実技試験	これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。
13	互角稽古	これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	試合（団体戦における戦い方の学習）	5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。
16		

科目コード	38201			区分	コア科目				
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)[再履修者用+他学科]			担当者名	清田 美紀/中島 治彦				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必要な情報を集める。（1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

知識的領域 40%，態度的領域 30%，技能的領域 30%で総合的に評価する。知識的・技能的・態度的領域は、レポートや指導案、テストによる。態度的領域は、日頃の協働的活動における積極的な学習参加を重視する。技能的態度は、主に模擬授業における学習して身に付けてきた知識を用いて状況に対応していくスキルを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 東山書房
 衛藤 隆，友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店
 杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②保健体育科指導法Ⅰの振り返り
2	よい体育授業とは何か	よい体育授業の条件について分析する
3	教材・教具の作成について	①保健体育の授業で育成を目指す資質・能力とは②教材と教具の違いは？③何をどのように教材・教具を作成していくとよいのか？
4	保健体育授業の楽しさとは？	①各種目の特性とは何か、生徒にとってどんな楽しさがあるのか②既習事項を参考に、1つの授業を組み立てる（グループワーク）
5	授業構想をどう行っていくとよいのか	単元計画の作成や指導と評価の一体化について解説する
6	指導案を作成しよう	指導案を作成するためのポイントを解説し、指導案を作成する
7	模擬授業にチャレンジ①	マイクロティーチング（体育分野・体育）
8	模擬授業にチャレンジ②	マイクロティーチング（体育分野・体育）
9	模擬授業にチャレンジ③	マイクロティーチング（体育分野・体育）
10	ここまで行ってきた模擬授業を振り返ろう	よい授業に向けて授業の計画・過程・成果を見直す
11	模擬授業にチャレンジ④	マイクロティーチング（保健・体育理論）
12	模擬授業にチャレンジ⑤	マイクロティーチング（保健・体育理論）
13	模擬授業にチャレンジ⑥	マイクロティーチング（保健・体育理論）
14	保健体育の学びを深めよう	保健体育授業の在り方について考えを深める
15	まとめ・振り返り	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの
16		

科目コード	39211			区分	専門基礎科目				
授業科目名	総合日本語Ⅱ(応用) [BC秋入学生用]			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、専門科目を学んでいく上で必要となるであろう、ディスカッション能力とプレゼンテーション能力の養成を行う。プレゼンテーションについては総合日本語Ⅲでも学ぶが、本科目ではそれをもとに、より分かりやすく魅力的なプレゼンテーションができるように学び、また練習を行う。ディスカッションについても、日本語におけるディスカッションの流れを学び、より円滑に効果的に日本語で議論を行う方法を学び、また実践を行うことによってその能力を身につける。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は、協働の中でアカデミックジャパニーズスキルを養うことである。具体的には(1) 指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、(2) テーマ決定から調査発表、ディスカッション、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、(3) 日本語での効果的な議論ができるようになること、の3点である。

<授業の方法>

15回の授業を通じて3つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表、ディスカッションを行う。グラフの読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて、ディスカッションをしながら理解を深める。調査と発表の準備はグループ毎の活動であり、授業中に進捗状況の報告を行う。アイス・ブレイキングや読解の理解促進、及び調査発表のために2～3名のグループを作り、毎時間、グループディスカッションの時間を設ける。また、授業時間外でグループで計画的に調査と発表準備を行うことが求められる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習(表現の意味理解)と復習(記憶)が各30分～1時間程度必要である。また、調査や発表準備は、授業内でも時間をとるが、基本的には授業外で行う。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者(授業担当教員を含む)による日本語チェックを行うことを必須とする。また、計3回のレポート作成はいずれも授業時間外での活動である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30% プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・坂本まり子・田口典子 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 改訂版 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要説明、食文化(1) : 導入	授業概要と評価方法に関する説明、語彙と表現の導入、グラフ読み取り
2	食文化(2) : 読解1、調査準備	大意とり、グループでの調査準備
3	食文化(3) : 読解2、調査準備	精読、発表に関する説明
4	食文化(4) : ディスカッションに関する注意、発表の準備	グループでの発表準備、ディスカッションで用いる表現
5	食文化(5) : 調査発表	発表とディスカッション
6	食文化(6) : フィードバック、レポート作成準備	前回のフィードバック、レポートの説明
7	仕事(1) : 導入、調査準備	語彙と表現の導入、グラフの読み取り、調査準備
8	仕事(2) : 読解1	ピア・リーディングによる大意とり
9	仕事(3) : 読解2、発表準備	精読、発表準備
10	仕事(4) : 調査発表	発表とディスカッション
11	仕事(5) : フィードバック。生活習慣と宗教(1) : 導入、調査準備	前回のフィードバック、レポートの説明、語彙と表現の導入、調査準備
12	生活習慣と宗教(2) : 読解1	グラフの読み取り、ピア・リーディングによる大意とり
13	生活習慣と宗教(3) : 読解2、発表準備	精読、発表準備
14	生活習慣と宗教(4) : 調査発表	発表とディスカッション
15	生活習慣と宗教(5) : フィードバック、レポート作成準備	前回のフィードバック、レポートの説明、総復習
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	財務会計				担当者名	大池 淳一			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では財務会計を学び、日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。また「原価計算」「管理会計」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」を同時に履修している必要がある。財務諸表の作成ルールを理解するとともに、どのような情報を提供しているのかを適切に理解しておくことで、様々なビジネスシーンにおいて活用することができる。その財務諸表を作成するために必要な基礎的な知識・技術を習得す

<授業の到達目標>

① 日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。② 財務諸表の作成ルールを理解する。③財務諸表の作成方法を理解する。④財務諸表により得られた情報を、どのように活用するか理解できること。

<授業の方法>

①日商簿記2級を受講者全員が受験し合格すること目標とするため、履修する条件として3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。また「簿記入門」「簿記演習」を履修しており、「原価計算」「管理会計」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」を併せて履修すること。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）3時間、復習（問題演習）3時間を費やす必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/2/23) 2024年度版 スッキリわかるシリーズ スッキリわかる 日商簿記2級 商業簿記 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、財務会計とは
2	仕訳①	株式の発行、剰余金の配当と処分合併と無形固定資産法人税等と消費税商品売買等
3	仕訳②	手形と電子記録債権（債務）、その他の債権譲渡銀行勘定調整表固定資産
4	仕訳③	リース取引研究開発費とソフトウェア有価証券引当金
5	仕訳④	外貨換算会計税効果会計収益認識の基準
6	決算、本支店会計①	精算表と財務諸表帳簿の締め切り
7	決算、本支店会計②	本支店会計
8	連結会計①	連結財務諸表とは支配獲得日の連結支配獲得日後の連結
9	連結会計②	内部取引の処理未実現利益の消去
10	連結会計③	総合問題
11	製造業会計	製造業会計の基本
12	総合演習①	第1問対策
13	総合演習②	第1問対策
14	総合演習③	第2問、第3問対策
15	総合演習④	第2問、第3問対策
16		

科目コード	32301				区分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2331組用]				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

小学校社会科の実践編として、主に高学年における社会科のICTを活用した授業設計によって、社会科授業構成能力と授業実践力の向上を図る。特に、教科書と学習指導要領解説を参考に授業を設計して、学習指導案を作成するとともに、授業実践の方法や留意点を習得することを目指す。「社会の理解」の学習成果を生かした内容となっているので、まず「社会の理解」の受講を優先させること。

<授業の到達目標>

社会科教育法においては、「社会の理解」の学習成果を生かし、小学校社会科における目標や内容、授業実践について考察するとともに、小学校社会科の授業設計と授業分析の実践的能力を身に付けることを目標とする。

<授業の方法>

小学校社会科の実践編として、授業設計（教材研究および学習指導案の作成）と模擬授業に重点をおいた内容である。社会科授業構成能力や授業実践力とともに、ICT活用指導力の向上を図ることのできる講義とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校高学年の学習指導案を作成する。（約1時間半）そのために、社会科教科書と学習指導要領解説を熟読し、教材研究を行う。（約1時間半）教科書だけではなく、地図帳や資料集なども活用した授業設計を行うようにする。大体3名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、模擬授業のリハーサルに全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できるよう自主練習を重ねる。（週2時間程度×3週）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業関連40%、定期試験50%、主体的に学習に取り組む態度10% で評価する。

<教科書>

大石 学 小学社会3年～6年 教育出版
文部科学省 小学校社会学習指導要領解説社会 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要 本授業を貫く追究テーマの設定
2	社会科の授業設計理論（1）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
3	社会科の授業設計理論（2）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
4	社会科の授業設計理論（3）	教材研究と模擬授業計画
5	模擬授業（第1グループ）	学生の模擬授業
6	模擬授業（第2グループ）	学生の模擬授業
7	模擬授業（第3グループ）	学生の模擬授業
8	模擬授業（第4グループ）	学生の模擬授業
9	模擬授業（第5グループ）	学生の模擬授業
10	模擬授業（第6グループ）	学生の模擬授業
11	模擬授業（第7グループ）	学生の模擬授業
12	模擬授業（第8グループ）	学生の模擬授業
13	模擬授業（第9グループ）	学生の模擬授業
14	社会科における学習評価	評価の見とりについて-モデレーションの実施-
15	社会科教育の総括	社会科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
16		

科目コード	32304				区分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [他学科A]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

<授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

<授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
16		

科目コード	32300				区分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2332組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	22103				区分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解 [FE2333組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的な知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物(資料、材料、用具等)の用意を行う。(1時間程度) 2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術、絵画の役割
3	美術とは何か③	美術について考える
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解(色彩、構成美の要素)
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い(絵の具の水加減、色相環の作成)
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現(作品の制作)
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解(1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解(グループワーク)
12	美術の幅広い理解(2)	日本の美術の理解(屏風絵、浮世絵)(グループワーク)
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PH男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	34101				区分	コア科目			
授業科目名	保育内容総論				担当者名	檜 日佳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容を相互的、総合的に理解し、保育の全体構想の中でとらえる。保育の目標、子どもの発達、「遊び」や「生活」、「環境」などから捉える保育内容、歴史の変遷、今日的課題などを学び、幼稚園・保育所・認定こども園において展開される保育や教育への実践力を高めていく手立てを考察する。また、実際の指導に当たって指導案の作成についても学ぶ機会とする。

<授業の到達目標>

1. 保育内容各論の内容について子どもの遊びや生活の中で総合的にとらえる視点を持つことができるようになる。2. 保育者の役割と援助等保育者の専門性を理解する。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する資料関連や課題を読み、授業の準備をする。（30分程度）・復習：各界の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。（60分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、試験30%

<教科書>

<参考書>

文部科学省（2018） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
 厚生労働省（2018） 保育所保育指針解説 フレーベル館
 神田伸生・高橋貴志編著（2019） 演習保育内容総論 萌文書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	「保育内容総論」とは	授業の目的・意義・概要
2	保育の全体構造	総論であることの意味、保育が目指すこと
3	保育内容の歴史の変遷と社会的背景	保育内容の変遷幼稚園・保育所・認定こども園の教育及び保育
4	子どもの発達や生活に即した保育内容	子どもの発達に即した保育とは乳幼児期の発達と保育
5	養護と保育の一体性	保育所における養護と教育の一体性就学前保育施設における養護と保育の一体性
6	子どもの生活と保育内容	現代の子どもの生活と保育内容保育の場における生活と家庭の生活との連続性と総合性
7	子どもの遊びと保育内容	遊びのとらえ方と遊びを通した保育実践遊びの中でも保育者の役割
8	環境を通して行う保育内容	乳幼児保育の基本環境を通して行う保育、環境を通して行う保育の具体的な展開
9	保育における「領域」（1）	領域と保育内容保育の総合性
10	保育における「領域」（2）	領域の考え方と指導計画保育における評価と計画・評価の基となる記録
11	多様な保育の場における保育内容（1）	子どもの子育て支援制度や様々な保育の場地域型保育事業等の保育内容
12	多様な保育の場における保育内容（2）	延長保育・預かり保育、多様な保育を進めるために
13	様々な配慮を要する子どもの保育	障がいのある子どもの保育と多文化共生の保育他機関との連携
14	小学校教育との接続	小学校教育との連続性とアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム学力の3要素と保幼小の接続
15	現代社会の特質と保育内容総まとめ	現代社会での保育内容と未来への展望学びの振り返り
16		

科目コード	54008				区 分	コア科目			
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅲ				担当者名	横内 浩平			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員を目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。この授業は1年次の配当科目である現代経営実践演習基礎ⅠとⅡを履修していることを前提として授業を行う。

<授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。1. 問題演習（配布プリントを使用し問題演習を進める）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

得になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	経済(1)	財政政策(1)
3	経済(2)	財政政策(2)
4	経済(3)	国民所得と経済成長
5	経済(4)	戦後日本の経済史(1)
6	経済(5)	戦後日本の経済史(2)
7	経済(6)	為替レートと貿易摩擦(1)
8	経済(7)	為替レートと貿易摩擦(2)
9	経済(8)	戦後の国際通貨と貿易体制(1)
10	経済(9)	戦後の国際通貨と貿易体制(2)
11	経済(10)	経済分野まとめ
12	問題演習(1)	経済分野問題演習(1)
13	問題演習(2)	経済分野問題演習(2)
14	問題演習(3)	政治分野問題演習(1)
15	問題演習(4)	政治分野問題演習(2)
16		

科目コード	35219				区 分	コア			
授業科目名	スポーツ産業論				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、スポーツ産業の成り立ちから現状について、その特性や概略をスポーツ産業全体から学ぶ。また、実際にスポーツビジネスの現場で課題となっている事柄についてグループワークなどを通じて自ら考えることでスポーツビジネスに対する理解をより深める。

<授業の到達目標>

1) スポーツ産業の特性を知る。2) スポーツ産業の成り立ちを知る。3) スポーツ産業の現場で課題となっている事柄について、自分なりの意見を持つことができる。

<授業の方法>

教科書を基本とした一斉授業と少人数のグループワークを中心に展開していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回の授業テーマについて資料やインターネット、新聞記事等で事前学習を行うこと。毎週最低でも準備に1時間の予習時間、講義内容のまとめ・理解、課題の提出に1時間の復習時間が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、 授業課題 30%、 レポートの課題 40%

<教科書>

原田宗彦(2021) スポーツ産業論第7版 杏林書院

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・進化するスポーツ	授業の説明、スポーツ産業の萌芽と発展、複合領域の発展
2	スポーツ施設産業	スポーツ施設産業概観、スタジアム・アリーナ改革
3	スポーツメディア産業	スポーツメディア産業の系譜と新たなメディア
4	スポーツ用品産業	わが国のスポーツ用品産業の歩み、市場規模と推移
5	スポーツ参加者を知る：するスポーツ	スポーツ政策とスポーツ参加人口の拡大、するスポーツの現状と実態
6	スポーツファンを知る：見るスポーツ	「見るスポーツ」のビジネス規模
7	スポーツサービスと消費行動	サービス業としてのスポーツサービス
8	フィットネスクラブのマネジメント	フィットネス市場の概況
9	スポーツイベントの社会・経済的インパクト	スポーツイベントに期待される効果
10	スポーツイベントとスポンサーシップ	スポンサーシップの発展と現状、特徴とその効果
11	地域スポーツマネジメント	地域スポーツとスポーツ政策
12	スポーツツーリズムの発展	スポーツツーリズムの現状、定義と特徴
13	地域スポーツコミッションの役割	スポーツを活用した地域活性化
14	海外のプロスポーツ	北米のプロスポーツ、ヨーロッパのプロスポーツ
15	プロスポーツと権利ビジネス	プロスポーツにおける権利ビジネス
16		

科目コード	32301				区分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2333組用]				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

小学校社会科の実践編として、主に高学年における社会科のICTを活用した授業設計によって、社会科授業構成能力と授業実践力の向上を図る。特に、教科書と学習指導要領解説を参考に授業を設計して、学習指導案を作成するとともに、授業実践の方法や留意点を習得することを目指す。「社会の理解」の学習成果を生かした内容となっているので、まず「社会の理解」の受講を優先させること。

<授業の到達目標>

社会科教育法においては、「社会の理解」の学習成果を生かし、小学校社会科における目標や内容、授業実践について考察するとともに、小学校社会科の授業設計と授業分析の実践的能力を身に付けることを目標とする。

<授業の方法>

小学校社会科の実践編として、授業設計（教材研究および学習指導案の作成）と模擬授業に重点をおいた内容である。社会科授業構成能力や授業実践力とともに、ICT活用指導力の向上を図ることのできる講義とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校高学年の学習指導案を作成する。（約1時間半）そのために、社会科教科書と学習指導要領解説を熟読し、教材研究を行う。（約1時間半）教科書だけではなく、地図帳や資料集なども活用した授業設計を行うようにする。大体3名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、模擬授業のリハーサルに全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できるよう自主練習を重ねる。（週2時間程度×3週）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業関連40%、定期試験50%、主体的に学習に取り組む態度10% で評価する。

<教科書>

大石 学 小学社会3年～6年 教育出版
 文部科学省 小学校社会学習指導要領解説社会 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要 本授業を貫く追究テーマの設定
2	社会科の授業設計理論（1）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
3	社会科の授業設計理論（2）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
4	社会科の授業設計理論（3）	教材研究と模擬授業計画
5	模擬授業（第1グループ）	学生の模擬授業
6	模擬授業（第2グループ）	学生の模擬授業
7	模擬授業（第3グループ）	学生の模擬授業
8	模擬授業（第4グループ）	学生の模擬授業
9	模擬授業（第5グループ）	学生の模擬授業
10	模擬授業（第6グループ）	学生の模擬授業
11	模擬授業（第7グループ）	学生の模擬授業
12	模擬授業（第8グループ）	学生の模擬授業
13	模擬授業（第9グループ）	学生の模擬授業
14	社会科における学習評価	評価の見とりについて-モデレーションの実施-
15	社会科教育の総括	社会科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
16		

科目コード	32304				区分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [他学科B]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

<授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

<授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
16		

科目コード	32300				区分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2331組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	22103				区分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解 [FE2332組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的な知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物(資料、材料、用具等)の用意を行う。(1時間程度) 2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術、絵画の役割
3	美術とは何か③	美術について考える
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解(色彩、構成美の要素)
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い(絵の具の水加減、色相環の作成)
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現(作品の制作)
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解(1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解(グループワーク)
12	美術の幅広い理解(2)	日本の美術の理解(屏風絵、浮世絵)(グループワーク)
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解
16		

科目コード	40108				区分	体育実技			
授業科目名	剣道 I (基礎) [2年生以上女子用]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	教職選択必修

<授業の概要>

日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育教員になれば、武道専門家でなくても武道の授業を担当しなければならないこととなった。従って、この授業では、剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）ようにする事を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領等、剣道に関する書籍を1時間程度読んでおく事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・出席50%、剣道実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日） 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本授業の内容説明と剣道着袴採寸	本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。
2	剣道着・袴の着用方法と剣道理念について	剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習
3	剣道防具と竹刀について	前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて
4	剣道の礼法について	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。
5	基本動作について（素振り）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。
6	基本動作について（足さばき）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	剣道防具の着用	防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。
9	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法）	基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。
11	基本稽古（応じ技・引き技）	相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと確認実技試験	これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。
13	互角稽古	これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	試合（団体戦における戦い方の学習）	5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。
16		

科目コード	40101				区分	コア科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PH女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	36503			区分	コア科目				
授業科目名	スポーツ外傷・障害の基礎知識 I			担当者名	濱浪 一則				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主となるスポーツ外傷の病態、評価方法および重篤な外傷・年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴の習得することをねらいとする。

<授業の到達目標>

日本体育協会アスレティックトレーナー試験に合格できるよう知識を修得すること。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書、配布資料などを用いて予習し、事前課題を提出し、授業中に行う小テストに備える。授業で学んだ内容を復習し、期末テストに備える。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題15%、定期試験 85% 事前課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには、減点します。欠席課題は、欠席授業回の事前課題と授業配布資料の空欄をうめて提出すること。提出のない場合は欠席扱いとする。

<教科書>

日本体育協会 スポーツ外傷・障害の基礎知識

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	下肢のスポーツ外傷・障害 (1)	膝内側側副靭帯損傷 等
2	下肢のスポーツ外傷・障害 (2)	膝軟骨損傷 等
3	下肢のスポーツ外傷・障害 (3)	下腿部 等
4	下肢のスポーツ外傷・障害 (4)	足関節 等
5	下肢のスポーツ外傷・障害 (5)	衝突性外骨腫 等
6	下肢のスポーツ外傷・障害 (6)	足 疲労骨折 等
7	重篤な外傷 (1)	頭蓋骨骨折 等
8	重篤な外傷 (2)	脳震盪 脊髄損傷 等
9	重篤な外傷 (3)	胸腹部損傷 等
10	重篤な外傷 (4)	大出血 等
11	その他の外傷 (1)	骨盤股関節の外傷 等
12	その他の外傷 (2)	耳 歯 等
13	年齢・性別によるスポーツ外傷・傷害の特徴	大腿打撲 等
14	年齢・性別によるスポーツ外傷・傷害の特徴	成長期のスポーツ外傷・障害の特徴 等
15	成長期に特徴的なスポーツ障害、スポーツメディカルチェック	高齢者のスポーツ外傷・障害の特徴、メディカルチェック 等
16		

科目コード	27200				区分	専門基礎			
授業科目名	病理学 I				担当者名	高島 清文			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

1 病理学の役目を理解する。1 臓器・組織・細胞の退行性・進行性病変を習得する。1 充血、うっ血、梗塞などの循環障害が理解できる。1 炎症・免疫の本態と疾患が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修・関根一郎 著 「病理学概論 改訂第3版」 医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	病理学とは	病理学とは何か、病理学における観察方法
2	疾病の一般	疾病・症候の意義と分類、疾病の経過
3	細胞障害（退行性病変）Ⅰ	萎縮と変性
4	細胞障害（退行性病変）Ⅱ	代謝障害と疾病
5	細胞障害（退行性病変）Ⅲ	壊死、死
6	循環障害Ⅰ	血液の循環障害
7	循環障害Ⅱ	血栓症・塞栓症
8	循環障害Ⅲ	リンパ液の循環障害、高血圧症
9	進行性病変Ⅰ	肥大、過形成、化生
10	進行性病変Ⅱ	創傷治癒、移植
11	炎症Ⅰ	炎症の一般
12	炎症Ⅱ	炎症の分類
13	免疫、アレルギーⅠ	免疫の仕組み
14	免疫、アレルギーⅡ	免疫不全・自己免疫疾患
15	免疫、アレルギーⅢ	アレルギーの分類
16		

科目コード	28123				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	データサイエンス入門				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

急速に進展しているデジタル社会ではデータサイエンスの能力がビジネスにおいても必須となってきた。データサイエンスの能力とは、データを分析し、その結果を読み取る能力である。そのような必須の能力を身につけるための基礎的なスキルを身につけることが本講義の目的である。

<授業の到達目標>

情報の基本的な取り扱い方についての知識を修得し、そのデータを扱うための基本的なスキルを養う。基本的なプログラミングを修得する。

<授業の方法>

はじめに情報の取り扱い方を講義形式で解説する。その後、演習形式でPythonのプログラミングの方法を学ぶ。特別なソフトウェアは必要としないが、毎回サーバーにアクセスして演習を行うため、PCは必須である。アカウントの都合上50人の履修制限を行います。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：演習を行い内容を理解する(1時間程度) 事後学習：応用問題に取り組み理解を深める(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、演習の取り組み70%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	パソコンの操作方法と学習方法について解説し、今後の授業についての説明をするので是非出席されたい。
2	情報倫理(1) 情報とは	情報通信社会における情報の取り扱いの重要性について。
3	情報倫理(2) 個人・企業と情報	情報セキュリティ、個人情報、企業の責任、情報モラルについて。
4	プログラミングをはじめる	Pythonのプログラミングに触れ実行してみる。
5	基本的なデータ型と変数	主なデータ型、変数の仕組みについて学ぶ。
6	組み込み関数	関数とはプログラムを小さな部品としてまとめたものであり、Pythonに最初から組み込まれている関数を組み込み関数という。
7	メソッド	メソッドとはデータ型に紐づけられた特別な関数であり、オブジェクトとして実現されていて、それによって便利にプログラミングを行える基盤となる。
8	比較演算とブール演算	制御フローの条件式を作るための基礎として、ブール型、比較演算とブール演算を学ぶ。
9	条件分岐	制御フローのひとつ、条件分岐について学ぶ。if文で条件分岐のあるプログラムを書く方法。
10	リスト	リストの作り方、要素にアクセス・操作する方法、範囲型の値の作り方について学習する。
11	繰り返し(その1)	for文を使って作業を繰り返す方法を学ぶ。
12	繰り返し(その2)	while文の基本的な形、無限ループについて。
13	モジュールと標準ライブラリ	モジュールと標準ライブラリを理解する。
14	辞書	辞書とはキーと値のペアでデータを格納しておくデータ構造であり、Pythonでは辞書はdict型の値として表現することを学ぶ。
15	関数	関数の定義・呼び出し、引数を持つ関数について。
16		

科目コード	32301				区分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2332組用]				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

小学校社会科の実践編として、主に高学年における社会科のICTを活用した授業設計によって、社会科授業構成能力と授業実践力の向上を図る。特に、教科書と学習指導要領解説を参考に授業を設計して、学習指導案を作成するとともに、授業実践の方法や留意点を習得することを目指す。「社会の理解」の学習成果を生かした内容となっているので、まず「社会の理解」の受講を優先させること。

<授業の到達目標>

社会科教育法においては、「社会の理解」の学習成果を生かし、小学校社会科における目標や内容、授業実践について考察するとともに、小学校社会科の授業設計と授業分析の実践的能力を身に付けることを目標とする。

<授業の方法>

小学校社会科の実践編として、授業設計（教材研究および学習指導案の作成）と模擬授業に重点をおいた内容である。社会科授業構成能力や授業実践力とともに、ICT活用指導力の向上を図ることのできる講義とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校高学年の学習指導案を作成する。（約1時間半）そのために、社会科教科書と学習指導要領解説を熟読し、教材研究を行う。（約1時間半）教科書だけではなく、地図帳や資料集なども活用した授業設計を行うようにする。大体3名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、模擬授業のリハーサルに全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できるよう自主練習を重ねる。（週2時間程度×3週）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業関連40%、定期試験50%、主体的に学習に取り組む態度10% で評価する。

<教科書>

大石 学 小学社会3年～6年 教育出版
文部科学省 小学校社会学習指導要領解説社会 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要 本授業を貫く追究テーマの設定
2	社会科の授業設計理論（1）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
3	社会科の授業設計理論（2）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
4	社会科の授業設計理論（3）	教材研究と模擬授業計画
5	模擬授業（第1グループ）	学生の模擬授業
6	模擬授業（第2グループ）	学生の模擬授業
7	模擬授業（第3グループ）	学生の模擬授業
8	模擬授業（第4グループ）	学生の模擬授業
9	模擬授業（第5グループ）	学生の模擬授業
10	模擬授業（第6グループ）	学生の模擬授業
11	模擬授業（第7グループ）	学生の模擬授業
12	模擬授業（第8グループ）	学生の模擬授業
13	模擬授業（第9グループ）	学生の模擬授業
14	社会科における学習評価	評価の見とりについて-モデレーションの実施-
15	社会科教育の総括	社会科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
16		

科目コード	32300				区分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2333組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター，授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜，演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析，指導案作成，模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標，領域・内容構成，教材探索とその分析，発表準備復習：小テスト，まとめのノート，振り返りレポート

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法，概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した，プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角，図形の軽量（面積，体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等，量の大きさの比較，量の単位，量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ，割合，比，比例，反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ，測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	63004				区分	専門基礎			
授業科目名	レクリエーション実習				担当者名	高見 博子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代は大人も子どももスポーツに対して両極化が観られる。すなわち、スポーツを競技的に捉えているグループと全く無関心で身体活動も非常に少ないグループに分かれている。そこで体育を「みんなのスポーツ」と捉えて「心を元気にするレクリエーションスポーツ」の体験学習を行う。

<授業の到達目標>

生涯を通じて人々がスポーツに親しみ、自分の身体は自分で管理・維持・向上させるよう、楽しく指導ができる指導者の資質を身につける。その中で、(公財)日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格取得を目的とする。

<授業の方法>

(公財)日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターを取得できるよう理論の裏付けをしながら実技の授業を進めていく。また、指導法をお互いに研究しながら、より良いプログラミングができるよう、グループの学習方法も取り入れていく。資格取得には現場実習が必須であり、資格認定上の必修科目はキャンプ実習である。そのほか、事業参加としては「課程認定校交流会(11~12月)」や「岡山スポーツフェスティバル(3月)」がある。授業内で地域に関わる活動への案内が適宜あり、参加によって現場実習と認められる場合がある。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間に配布された資料を読んでくる。授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習評価40%, レポート評価30%, 授業態度30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

(財)日本レクリエーション協会 レジャー・カウンセリング 大修館書店

(財)日本レクリエーション協会 レクリエーション・マネジメント 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	レクリエーションスポーツの主旨	レクリエーションスポーツが今、何故に必要とされているか
2	レクリエーションスポーツの主旨	人々の心と身体を元気にするために指導者が心得ておくことは何か
3	レクリエーション支援とは	レクリエーションスポーツで活動の楽しさを伝える方法を学ぶ
4	レクリエーション支援とは	コミュニケーション能力を高める支援方法を学ぶ
5	レクリエーション支援とは	レクリエーションスポーツを工夫して展開する力を高める方法を学ぶ
6	心と身体の元気づくりを理解する	活動そのものの楽しさを感じる心の仕組みを理解する
7	心と身体の元気づくりを理解する	集団活動の楽しさを感じる心の仕組みを理解する
8	ホスピタリティーとアイスブレイキング	ホスピタリティーをゲームに通じて体験する
9	ホスピタリティーとアイスブレイキング	アイスブレイキングをゲームに通じて体験する
10	ハードル設定とCSSプロセス	活動を通して成功体験を繰り返し重ねていく具体的な手法をボール運動で学ぶ
11	ハードル設定とCSSプロセス	CSSプロセスで見本・目標を伝え、よりやる気を引き出す方法をダンスで学ぶ
12	子どもを対象とした支援方法	子どもの運動能力を高める方法をグループで相談して発表する
13	高齢者を対象とした支援方法	高齢者の健康寿命を延伸するための体力アップの方法をグループで相談して発表する
14	元気アップ・プログラム	プログラム演習
15	元気アップ・プログラム	プログラム演習
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	消費者行動論				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を修得する。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察する。「消費」という行為がどのようなメカニズムで生じているのかについて、自分の行動も含めてこれら概念や理論を具体的な消費現象に当てはめてみて分析できることをねらいとする。

<授業の到達目標>

① 消費者行動論における基本的な概念を理解する。② 基礎な概念を用いて、自分や他者の消費者行動を分析し、説明することができる。③ 消費者行動論の概念を用いて、マーケティング戦略を考えることができる。

<授業の方法>

授業はPowerpointを使用した講義形式で行い、適宜テーマに沿った具体的事例を用いて履修者と議論しながら講義を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：参考書等を利用して授業テーマについて調べる（1時間程度）。事後学習：授業内容を復習し理解を深める（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲30%、課題提出20%、最終課題50 %で評価する。

<教科書>

<参考書>

松井剛、西川英彦 1からの消費者行動 第2版 碩学舎
田中洋 消費者行動論 中央経済社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	はじめに：消費者行動について	消費者行動論の全体像について解説する。
2	消費とは	消費とはどのような行為を指すのか、消費をするとき何を考えているのか。
3	知覚	消費者の知覚を理解し、普段の生活における消費者行動を分析する。
4	学習	なぜ人間は自ら行動を変化させるのかを「学習」という点から見る。
5	記憶	記憶が生じるメカニズムについて考える。
6	態度	消費者はどのように態度を形成し変化させているのか。
7	意思決定	意思決定プロセスについて解説する。
8	セグメンテーション	消費者の違い、ターゲット層の特定について考える。
9	コミュニケーション	どのように消費者を説得させることができるのか。
10	店頭マーケティング	人々の買い物行動の状況に合わせたマーケティング手法を見つける。
11	アイデンティティ	アイデンティティと消費の関係を理解する。
12	家族	家族の購買意思決定の在り方、家族のライフサイクル、消費者としての子どもの社会化を考える。
13	集団、ステイタス	他者と消費行動の関係、ステイタス・シンボルについて考える。
14	サブカルチャー、文化	サブカルチャーが消費者行動に与える影響、消費の文化的側面について考える。
15	総括	講義内容をまとめ、基本的考え方を復習する。
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	53071				区分	コア科目			
授業科目名	保育マネジメント演習Ⅰ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育現場がどのように運営されているかを、観察および振り返りを中心として学び、実践力と運営力の基礎を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。

<授業の到達目標>

目標①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては、観察の態度、視点、考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育参加をしない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができているか、考察は飛躍せず内容が十分なもの

<授業の方法>

東岡山IPUこども園連携科目、グループ演習、保育観察、フィードバック

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

準備学習観察のポイントに関する事前学習を行うこと。(事前学習課題あり)また観察後は事後学習として振り返りを実施する。(事後課題あり)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成績・評価に関する項目事前学習課題(2点×10回)・観察課題(1点×10回)、振り返り課題(5点×10回)、学びの共有レポート課題(5点×4回)

<教科書>

<参考書>

柴山真琴 子どもエスノグラフィー入門～技法の基礎から活用まで子どもにかかわる実践に携わるすべての人に 新曜社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	保育観察手法について	保育の観察における心構え、態度、視点、手法に関する講義を実施する。
3	東岡山IPUこども園全体の観察	施設設備、子どもの様子、保育者の様子など全体的な観察を行う。
4	子どもの遊びの観察	子どもの遊びに着目し、時間、内容、会話、保育者との関わりを観察を行う。
5	施設備品の観察	保育環境を含めた、備品・消耗品
6	観察手法に関する振り返り第7回から第13回までの観察テーマの検討	観察手法に関して振り返りを行い、課題、現状の把握を行う。特によく観察できている例を紹介し、観察に関する知識・スキルの向上を図る。第7回から第13回は年齢ごとに観察を行うため、一貫した観察を行うためのテーマ設定をする。
7	0歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、0歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
8	1歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、1歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
9	2歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、2歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
10	3歳未満の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	保育理念に基づいた保育について、3歳未満の観察をもとに観察場面をもとに考察を行う。
11	3歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、3歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
12	4歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、4歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
13	5歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、5歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
14	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有
15	保育理念に基づいた保育について、3歳以上の観察をもとに観察場面をもとに考察を行う。	全体を通して観察に必要なスキル、知識のまとめ
16		

科目コード	26202			区分	専門基礎科目				
授業科目名	英語学概論			担当者名	伊藤 仁美				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

魅力的な英語授業を展開するには、英語力・教授力のほかに、英語とはどのような言語なのかを深く多面的に知っておく必要がある。本授業では、英語のしくみ・特徴について、日本語と比較しながら、考察し理解を深めていく。

<授業の到達目標>

英語教師に必要な言語学・英語学に関する基礎的な知識・技能を身につける。また、中学校・高等学校の英語授業において、生徒の英語学習動機・エンゲージメントを高めるために、教師としてどのようなアプローチが可能かを、言語学的視点から探索する。

<授業の方法>

授業のはじめ40分で課題の確認を行う（グループワーク）。次に、本時の内容について20分の講義を聞く（要点整理）。その後、理解度の確認・補充学習として、20分の演習を行う。演習の内容は、「学習内容を整理し、自分の言葉でわかりやすく他者に説明する」、「用例を探す」、「例文を考える」等である。授業の終末には、授業目標をどの程度達成できたかを振り返り、次回授業への見通しをもつ。なお、本授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の終末に、事前課題を提示する。必要に応じてインターネットや教科書以外の書籍を参照にする必要もあり、この作業には、1時間程度を要する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・グループへの貢献度 30%、リフレクション（理解度確認を含む） 30%、期末試験 40%

<教科書>

三原健一・高見健一 日英対照英語学の基礎（2013年11月11日） くろしお出版

<参考書>

中島平三（2011年8月19日） ファンダメンタル英語学 [改訂版] ひつじ書房

中島平三（2011年2月22日） ファンダメンタル英語学演習 ひつじ書房

安藤貞雄・澤田治美（2001年11月10日） 英語学入門 開拓社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	初回ガイダンス、言語学とは	成績、評価、授業運営などの説明、言語学という学問
2	音韻論①	母音と母音体系、子音と子音体系、形態音素交換
3	音韻論②	アクセント、文アクセントとイントネーション、リズム
4	音韻論③	まとめ
5	形態論①	派生形態論の仕組み（派生・複合・品詞転換・語形短縮・混成・頭文字語・逆形成）
6	形態論②	派生と複合に課される一般的な条件、複合名詞の意味について
7	形態論③	まとめ
8	統語論、生成文法①	句構造
9	統語論、生成文法②	名詞句・移動
10	統語論・機能的構文論①	文の情報構造（新情報・旧情報）
11	統語論・機能的構文論②	視点
12	語用論①	語の項、意味関係、多義、名詞の意味、動詞の意味
13	語用論②	概念的情報を持つ表現、手続き的情報を持つ表現、記述的使用と帰属的使用
14	診断テスト	受講者各自が、何を理解していて、何を理解できていないかを認識し、必要に応じて補充学習を行う（※診断テストの結果は、成績評価に反映しないが、事前に勉強して臨まなければ、診断テストの意味をなさない）
15	期末試験	期末試験の実施・解答解説
16		

科目コード	36505				区分	コア科目			
授業科目名	検査・測定と評価Ⅰ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業中に配布された資料、また参考書を通じて予習すること（1時間程度）。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題・発表（最終課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」（公財）日本スポーツ協会

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）健康運動指導士養成講習会テキスト<下>（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	検査・測定の手法（11）	一般的な体力測定（高齢者、幼児期）の検査項目とその目的と概要
15	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	21401				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [FC2321]				担当者名	宮原 舞			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

器楽演習Ⅰで修得したテクニックをベースに、保育・教育実習において必要とされるピアノ弾き歌いのための基礎技術と表現力の習得を目指す。読譜指導（音楽用語、正確なリズム唱とリズム打ち、ソルフェージュ、和音記号、歌詞の理解）や演奏指導（正しい指使い、コード伴奏、発声、歌唱表現）を取り入れたグループレッスンを行う。15回授業終了後に演奏発表会を実施し、発表会参加をもって単位認定とする。※保育士資格、幼稚園教諭資格取得希望者は必ず履修すること。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、器楽演

<授業の到達目標>

①音楽の基礎的知識を理解し、ト音記号・ヘ音記号の読譜ができるようになる。②弾き歌いに必要な基本的発声法、表現力を身につける。③和音（コード）の知識を学習し、簡易的な伴奏づけができるようになる。④人前での弾き歌い演奏に慣れる。

<授業の方法>

音楽の基礎知識と演奏技術習得のため、講義と演習を織り交ぜながら進める。グループレッスンを基本とし、課題は各自の進度に合わせて相談する。定期的にクラス内で演奏発表の場を設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノの技術習得には、毎日の積み重ねが重要です。授業の参加にあたっては、毎週予習・復習時間（45分）を確保すること。※自宅にピアノがない場合は、芸術センター・ピアノ独習室または貸出用キーボードを利用できますので、活用してください。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 20%、小テスト30%、実技テスト30%、提出物20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学
坪野春枝 著（発行2021年3月15日） 最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】*応用問題*解答付 有限会社ケイ・エム・ピー kmp

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションピアノ・歌唱技術の習得①	授業内容・課題の進め方・評価方法について生活の歌：「さよならのうた」「おかたづけ」など
2	弾き歌い演習①	生活の歌：「さよならのうた」「おかたづけ」など
3	ピアノ・歌唱技術の習得②	生活の歌：「すうじのうた」「おかえりのうた」など
4	弾き歌い演習②	生活の歌：「すうじのうた」「おかえりのうた」など
5	成果発表①	演奏発表、既習曲の振り返り
6	ピアノ・歌唱技術の習得③	生活の歌：「ごんべさんのあかちゃん」「てをたたきましょう」など
7	弾き歌い演習③	生活の歌：「ごんべさんのあかちゃん」「てをたたきましょう」など
8	ピアノ・歌唱技術の習得④	生活の歌：「むすんでひらいて」「やまのおんがくか」など
9	弾き歌い演習④	生活の歌：「むすんでひらいて」「やまのおんがくか」など
10	成果発表②	演奏発表、既習曲の振り返り
11	ピアノ・歌唱技術の習得⑤	生活の歌：「思い出のアルバム」など
12	弾き歌い演習⑤	生活の歌：「思い出のアルバム」など
13	ピアノ技術の習得（教員採用試験に向けて）①	標準バイエルピアノ教則本より
14	ピアノ技術の習得（教員採用試験に向けて）②	標準バイエルピアノ教則本より
15	成果発表③	演奏発表、既習曲の振り返りレパトリーのチェック
16	定期試験	

科目コード	54003				区分	コア			
授業科目名	資格検定対策Ⅳ(ビジネス系)				担当者名	小川 正人			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

2024年度の資格検定対策Ⅳ(ビジネス系)は韓国に焦点を当てる。韓国のソウルにある光云大学(こううん大学 / クァンウン大学) / KwangWoon Universityでの現地文化研修を通して広く韓国の文化を体験し韓国社会を理解する。韓国語の学習も取り入れる予定である。韓国研修に参加できない場合は別の課題を用意する。詳細については授業において説明する。

<授業の到達目標>

韓国語を学び韓国文化を体験し、韓国人学生と交流することで日韓相互の国際理解を促進し、生活・文化の向上に寄与することを目的とする

<授業の方法>

現地研修の前後に事前学習、事後学習を組み入れる。応募条件は下記の通りである。・現代経営学科 2年生以上の者・学科で参加を認められた者・心身ともに健康である者(通院している学生は相談してください)・事前研修(および事後研修に必ず参加できる者・積極的に団体行動の輪に入り、ルールを守り、目的意識を持って研修に参加できる者

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 出発前のオリエンテーション及び事前授業 (3.5時間程度) 事後学習： レポート作成・発表 (3.5時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前学習20%、現地研修60%、研修報告20% 現地研修に参加しない学生は別の課題で対応する

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	プログラムの概説及び海外渡航時の準備や注意事項など
2	事前韓国文化研修(1)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
3	事前韓国文化研修(2)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
4	事前韓国文化研修(3)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
5	事前韓国文化研修(4)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
6	事前韓国文化研修(5)	韓国の文化・歴史・言語を学ぶ
7	韓国文化研修(1)	韓国語研修・国際交流・ソウル探訪
8	韓国文化研修(1)	韓国語研修・国際交流・ソウル探訪
9	研修報告(1)	研修参加者による報告
10	研修報告(2)	研修参加者による報告
11	韓国の歴史	韓国の歴史について学び考える
12	韓国の文化	韓国の文化について学び考える
13	韓国の政治・経済	韓国の政治・経済について学び考える
14	韓国の若者文化	韓国の若者文化について学び考える
15	日韓関係	過去の日韓関係について学び、将来の日韓関係について考える
16		

科目コード	28104				区分	専門基礎			
授業科目名	マーケティング総論				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

マーケティングは軍事用語が由来であるため、陸軍（実店舗）・海軍（デジタル）・空軍（広報）を実装し、空から効果的に攻めていくのがセオリーである。空軍的な役割である広報を機能させるためには、いかに時代の風をキャッチし、消費者が求めている商品・サービスをタイムリーに配信する力が求められる。本科目では、様々な事例を紹介しながら、実際の商品・サービスを用い、SDGs（持続可能な開発目標）やババース（存在価値）を意識しながら実践的にマーケティングを理解することを狙いとする。

<授業の到達目標>

目的：マーケティングの基本を習得し、売れ続ける仕組みを構築できる人材を養成する。目標：マーケティング担当者として、商品・サービスの発信力を養成し、メディア掲載を目指す。

<授業の方法>

①授業は講義形式で行なうが、受講生同士でのグループワークも実施する。②興味のある商品・サービスを分析し、売れる仕組みを考察する。③グループワークの成果をプレゼンテーションを発表し、互いにフィードバックを行いながら学びを深める。④受講生の数やグループワークの進捗によってスケジュールが変更になる場合がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に教科書を読み、理解できない内容をメモをとる。週最低1時間の予習が必要となる。授業を受けても解消できないならば、授業後に必ず教員に質問する。復習：授業後、講義用資料や教科書を参考にして、授業で学んだ内容をまとめ、ブランドに関する理解を深める。週最低1時間の復習時間が必要となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期テストは無し。授業後のレポート（800文字程度／不定期）。授業への参加・受講態度・学習意欲・他者貢献（授業中の質疑応答・グループディスカッションへの参加度・他グループへの貢献） 50%、最終プレゼンテーションの成果 50%により、総合的に評価する。

<教科書>

徐 誠敏 編・田中 洋・長崎 秀俊・八幡 清信・扇野 睦巳ほか（2024年4月1日発行）※4月中旬に刷り上がります 第一線で活躍する研究者×実践者×コンサルタントが教える超実践的マーケティング・ブランディングの教科書 ビジネス実用社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション（対面授業なし）	クラスルーム（dtz3zip）に登録し、レポート提出
2	マーケティングの基礎知識（1）	事例紹介
3	マーケティングの基礎知識（2）	環境分析とSDGs
4	STPマーケティング（1）	解決すべき社会課題を導きます。
5	STPマーケティング（2）	ターゲットを一人に絞り、購買動機を分析します。
6	STPマーケティング（3）	ターゲットの心の中のポジションを定め、独自性を可視化します。
7	中間発表（1）	グループワークで考察した内容を発表します。
8	中間発表（2）	グループワークで考察した内容を発表します。
9	IPUのマーケティング（1）	高校生から選ばれる大学になるにはどのようにすればよいか考察します。
10	IPUのマーケティング（2）	高校生から選ばれる大学になるにはどのようにすればよいか考察します。
11	コミュニケーション戦略（1）	キャンペーン、イベントの企画立案
12	コミュニケーション戦略（2）	ブランド体験シナリオ
13	テストマーケティング	想定するターゲットのニーズに合ってるかどうかを検証します。
14	プレゼンテーション	最終発表とフィードバック
15	プレゼンテーション	最終発表とフィードバック
16		

科目コード	21204				区分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法 I (基礎)				担当者名	井上 聡			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド

<授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

<授業の方法>

グループ討論 (30分) 解説 (30分) プレゼンテーション (30分) ※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：問いに対する回答(ノートのスクリーンショットを提出) (90分程度) 復習：理解度確認テスト(30分程度) + 意見交換(10分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

<教科書>

JACET教育問題研究会(2017年11月30日) 行動志向の英語科教育の基礎と実践-教師は成長する- 三修社

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション(事前課題、グループワーク)
2	外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	英語教育課程	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	まとめ	復習テスト
8	リスニングリーディング	基本概念とリスニング指導基本概念とリーディング指導
9	スピーキングライティング	基本概念とスピーキング指導基本概念とライティング指導
10	技能統合型の指導: インタラクション	基本概念、協同学習
11	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
12	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
13	PPPF演習(1)	指導案の作成(概案)
14	PPPF演習(2)	指導案の作成(概案)
15	プレゼンテーション	私が目指す英語教師像
16		

科目コード	22103				区分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解 [FE2331組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的な知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物(資料、材料、用具等)の用意を行う。(1時間程度) 2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術、絵画の役割
3	美術とは何か③	美術について考える
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解(色彩、構成美の要素)
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い(絵の具の水加減、色相環の作成)
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現(作品の制作)
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解(1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解(グループワーク)
12	美術の幅広い理解(2)	日本の美術の理解(屏風絵、浮世絵)(グループワーク)
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [次世代女子・PP女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	21401				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [FC2322]				担当者名	宮原 舞			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

器楽演習Ⅰで修得したテクニックをベースに、保育・教育実習において必要とされるピアノ弾き歌いのための基礎技術と表現力の習得を目指す。読譜指導（音楽用語、正確なリズム唱とリズム打ち、ソルフェージュ、和音記号、歌詞の理解）や演奏指導（正しい指使い、コード伴奏、発声、歌唱表現）を取り入れたグルーブレッスンを行う。15回授業終了後に演奏発表会を実施し、発表会参加をもって単位認定とする。※保育士資格、幼稚園教諭資格取得希望者は必ず履修すること。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、器楽演

<授業の到達目標>

①音楽の基礎的知識を理解し、ト音記号・ヘ音記号の読譜ができるようになる。②弾き歌いに必要な基本的発声法、表現力を身につける。③和音（コード）の知識を学習し、簡易的な伴奏づけができるようになる。④人前での弾き歌い演奏に慣れる。

<授業の方法>

音楽の基礎知識と演奏技術習得のため、講義と演習を織り交ぜながら進める。グルーブレッスンを基本とし、課題は各自の進度に合わせて相談する。定期的にクラス内で演奏発表の場を設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノの技術習得には、毎日の積み重ねが重要です。授業の参加にあたっては、毎週予習・復習時間（45分）を確保すること。※自宅にピアノがない場合は、芸術センター・ピアノ独習室または貸出用キーボードを利用できますので、活用してください。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 20%、小テスト30%、実技テスト30%、提出物20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学
坪野春枝 著（発行2021年3月15日） 最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】*応用問題*解答付 有限会社ケイ・エム・ピー kmp

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションピアノ・歌唱技術の習得①	授業内容・課題の進め方・評価方法について生活の歌：「さよならのうた」「おかたづけ」など
2	弾き歌い演習①	生活の歌：「さよならのうた」「おかたづけ」など
3	ピアノ・歌唱技術の習得②	生活の歌：「すうじのうた」「おかえりのうた」など
4	弾き歌い演習②	生活の歌：「すうじのうた」「おかえりのうた」など
5	成果発表①	演奏発表、既習曲の振り返り
6	ピアノ・歌唱技術の習得③	生活の歌：「ごんべさんのあかちゃん」「てをたたきましょう」など
7	弾き歌い演習③	生活の歌：「ごんべさんのあかちゃん」「てをたたきましょう」など
8	ピアノ・歌唱技術の習得④	生活の歌：「むすんでひらいて」「やまのおんがくか」など
9	弾き歌い演習④	生活の歌：「むすんでひらいて」「やまのおんがくか」など
10	成果発表②	演奏発表、既習曲の振り返り
11	ピアノ・歌唱技術の習得⑤	生活の歌：「思い出のアルバム」など
12	弾き歌い演習⑤	生活の歌：「思い出のアルバム」など
13	ピアノ技術の習得（教員採用試験に向けて）①	標準バイエルピアノ教則本より
14	ピアノ技術の習得（教員採用試験に向けて）②	標準バイエルピアノ教則本より
15	成果発表③	演奏発表、既習曲の振り返りレパトリーのチェック
16	定期試験	

科目コード	27302				区分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習 I				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である上肢・体幹の骨格系、筋系、神経系、脈管系、免疫系、呼吸器系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習 I では、筋骨格系、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器を中心に、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるようになるために、解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について学習する。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用いた討論形式、演習問題で進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 50%、小テスト 50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	症例1	上肢帯損傷①
2	症例2	上肢帯損傷②
3	症例3	上肢損傷①
4	症例4	上肢損傷②
5	症例5	上肢損傷③
6	症例6	頸部損傷
7	振り返り 1	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ①
8	振り返り 2	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ②
9	症例7	体幹損傷①
10	症例8	体幹損傷②
11	症例9	神経損傷
12	症例10	内臓損傷①
13	症例11	内臓損傷②
14	振り返り 3	解剖生理学のまとめ①
15	振り返り 4	解剖生理学のまとめ②
16		

科目コード	24202				区分	コア			
授業科目名	国際関係論				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	集中	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、現在、世界・日本と外国の関係がどのように成り立っているか、社会に出る前に知っておきたい国際関係論の基礎を学ぶ。国際関係が実際にどう発展してきたのかを知るため、まず、国際関係の歴史を概観する。代表的な国際関係理論を学び、現代の国際関係の基本的な知識を習得する。

<授業の到達目標>

○日本が直面している課題、世界情勢を知り、その上で国際関係（外交）の重要性を認識する。○国と国との関係が良好である・ない背景にはどのような要因があるかを知る。○国と国とはどのように結びついているのか歴史・政治・経済の面から分析する力を身につける。○私たちが世界と密接に結びつき合っているということを知ることにより、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行う意識を身に付ける。

<授業の方法>

新型コロナウイルス感染症の状況によって授業実施方法が異なります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講前の準備は、①大学入学以前に学習した「世界史」と「日本史」における近現代史の流れ、及び「政治・経済」（または「現代社会」）の国際社会に関する事項を確認すること、②新聞、テレビ、ネットなどで国際関連のニュースをフォローすること。①②各30分で計1時間の作業を約2週間続けて行うことが望ましい。受講後は、各回の内容を1回30分程度で復習し、レポートを作成すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（50%）＋レポート（50%）

<教科書>

指定教科書；なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	国際関係論	ガイダンス
2	国際関係論の基礎	グローバル化する世界
3	国際関係論の基礎	国家
4	国際関係論の基礎	戦争
5	国際関係論の基礎	内戦
6	国際関係論の基礎	平和
7	国際関係論の基礎	国際連合
8	国際関係論の基礎	地域連合（EU）
9	国際関係論の基礎	地域連合（アジア太平洋）
10	国際関係論の基礎	国際テロリズム
11	国際関係論の基礎	日本の外交
12	国際関係論の基礎	国際関係における文化
13	国際関係論の基礎	国際移民
14	国際関係論の基礎	私たちと国際関係論
15	国際関係論の基礎	レビュー
16		

科目コード	38201				区分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP免許取得者]				担当者名	坂本 康輔/片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必要な情報を集める。（1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%, 受講態度10%, レポート（含指導案） 40%, 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房
 衛藤 隆, 友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店
 杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②保健体育科の授業の在り方について考え、分析する。
2	よい体育授業とは何か	よい体育授業の条件について分析する
3	学習指導案の意義と構成について	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案を作成する	指導案について解説する
5	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
6	模擬授業を実践する	マイクロティーチング
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	模擬授業を実践する	マイクロティーチング
9	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	模擬授業を実践する	マイクロティーチング
11	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業を実践する	マイクロティーチング
13	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
14	模擬授業を実践する	マイクロティーチング
15	まとめ・振り返り	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの
16		

科目コード	40107				区分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [次世代男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2~3. 基本動作	礼法(立礼・座礼)、柔道の姿勢(自然体・自護体)、組み方崩し(八方崩し)、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰(横移動)、払い腰	体さばきの一人練習、大腰(横移動)の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8~9. 固め技(攻撃の仕方)	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り(自由練習)
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13~14. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り(自由練習)
12	15. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40121				区分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP女子+他学科女子用]				担当者名	山本 清人/原田 悠平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト
16		

科目コード	35201				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツメンタルトレーニング論				担当者名	浦 佑大			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、競技力向上及び実力発揮を目的としたメンタルトレーニングの技法を紹介し、トレーニングプログラム作成における基本事項について解説する。さらに、リラクゼーションやイメージトレーニング、試合前の心理的準備といったメンタルトレーニングにおける主な技法の実習を行うことで体験的な理解を図っていく。本授業を通して、受講生は 実践に即した理論と知識を幅広く身につけるとともに、スポーツメンタルトレーニングを競技場面でどのように実践的に取り入れていくかについて理解を深め、独自のトレーニングプログラムを創出する力を

<授業の到達目標>

スポーツメンタルトレーニングの基本知識や技法を習得できる。また、実践に即した技法を幅広く身につけて、部活動や教育活動の中で独自のトレーニングプログラムを創出できる。

<授業の方法>

講義と実習、ディスカッションを組み合わせる。授業の最後にまとめの小テストまたはレポートを課す。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間に配布した資料を読んで1時間の予習をしてくること。講義で紹介した技法を自宅で練習し、ワークシートへの記入する復習を1時間行うこと。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎時の課題提出30%、小テスト30%、最終レポート40%

<教科書>

特になし

<参考書>

中込四郎 「メンタルトレーニングワークブック」 道和書院

日本スポーツ心理学会編 「スポーツメンタルトレーニング教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	メンタルトレーニングとは	心理技法、構成要素、理論的背景
2	トレーニングプログラムの概観	心理適性、トレーニングプログラム
3	アセスメントの方法	心理テスト、面接
4	リラクゼーション技法	呼吸法、筋弛緩法、自律訓練法
5	ピークパフォーマンス分析	ピークパフォーマンス、クラスタリング
6	目標設定	目標設定の原則、長期・短期目標
7	イメージ技法(1)	イメージトレーニングの応用、イメージの深まり
8	イメージ技法(2)	イメージトレーニングの応用、イメージの深まり
9	認知情動の再構成法	積極的思考、セルフコントロール
10	バイオフィードバック法	心拍数、自律神経、脳波
11	注意集中技法	注意のスタイル、内的・外的注意
12	メンタル・コンディショニング	自己モニタリングとセルフコントロール
13	チームワーク	チームビルディング、リーダーシップ
14	メンタルトレーニングの実践例	アスリートの心理サポート、SMT指導士
15	まとめ	授業の振り返り
16		

科目コード	40121				区分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP女子+他学科女子用]				担当者名	山本 清人/原田 悠平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト
16		

科目コード	34301			区分	障害児保育				
授業科目名	障害児保育			担当者名	松本 好生				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	あり

<授業の概要>

障害児保育の理念と専門的知識を習得するため、主に下記の点について学習する。○障害児保育の対象と特徴 ○障害種別の障害特性の理解の理解(実践事例を通して)○発達障害の障害特性と保育のしかたの違い(「構造化」された環境での実践事例を通して)○子ども理解の基づく計画の作成と記録・評価(保育士の求められる記録法としての「接面パラダイム」)

<授業の到達目標>

○子どもの定型発達を確認したうえで、障害種別の定義と障害特性を理解する。○障害児保育・統合保育・インクルーシブ教育・保育の実際などについて知識を習得する。○障害の理解と発達支援、支援方法、構造化された環境のあり方の重要性、保育計画・記録法などを学ぶ。○障害種別の障害特性について理解を深める。○保護者支援、幼児期を含めたライフステージごとの専門機関との連携について知識を深める。

<授業の方法>

○実践事例を交えながら障害児保育の理解を深める(主にパワーポイントを使用)。○障害特性を説明するうえで数量化された図表などを必要に応じてプリントにて配布する。○障害の理解を深めることを目的に、パワポによる写真やDVD等の視覚化した教材を取り入れる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に関連する教科書の章や提示された参考書に目を通しておくこと。配布した資料などはファイルし、いつでも参照できるようにしておくこと。専門用語も多いので、必ず復習を重ね、用語を正確に理解しておくこと。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 10%、演習レポート 10%、定期試験 80%

<教科書>

渡部信一・北郷一夫・無藤隆(編著)：障害児保育【新版】、北大路書房、2014年3月20日発行

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	障害児保育とは	保育場面で、障害がある子どもが、もしも困難さや生きにくさがあるとすれば、それをカバーすることが障害児保育のもつ大きな役割であることの理解
2	障害児保育の歴史と理念	統合保育からインクルーシブ教育・保育への理解
3	障害児保育の対象とその特徴	福祉型児童発達支援センターと医療型児童発達支援センターの違いの理解
4	障害児の生活に関する保育方法	障害がある子どもが日常生活を送るなかでの障害児保育の現状と課題
5	知的障害がある子どもの保育	知的障害の理解と保育
6	言葉の遅れがある子どもの保育	吃音も含めた言葉の発達と言語障害の理解と保育
7	障害の理解と保育(1)(実践事例)	肢体不自由・視覚障害・聴覚障害の理解と保育
8	障害の理解と保育(2)(実践事例)	重症心身障害の理解と保育
9	発達障害児と保育(1)	発達障害の診断の変遷(PDDからASDへ)と障害特性の理解と保育
10	発達障害児と保育(2)(実践事例)	自閉スペクトラム障害 ASD の理解と保育(「構造化」手法も含めて)
11	発達障害児と保育(3)(実践事例)	注意欠如多動症 ADHDの理解と保育
12	発達障害児と保育(4)(実践事例)	注意欠如多動症 ADHD と限局性学習症 LD の関係性の理解と保育
13	子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価	保育計画と接面パラダイムを踏まえた記録方法
14	障害児保育に関する関連機関との連携・協働	医療・保健の現状と課題、専門機関との連携による福祉・教育支援
15	障害がある子どもの保護者支援	ペアレント・トレーニングとライフステージごとの関係機関への相談の仕方
16		

科目コード	21212				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会的養護 I				担当者名	小倉 毅			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。本講義では、社会的養護の基本原則を習得することを目的としている。社会的養護の歴史の変遷をふまえながら、制度体系、児童福祉施設の役割、機能、現状といった基礎学習を通して、その意義を明らかにする。また、今日の児童を取りまく社会の変動や家族機能の変化を把握し、養護問題の現状や背景について理解を深める。さらに、施設養護の実際と今後の課題について検討し、児童福祉援助者としての保育者の役割や援助のあり方を考える。この講義は保育実習 I B(施設)に向けての知識を学ぶ重

<授業の到達目標>

現代社会における社会的養護の意義と歴史変遷を踏まえた上で、社会的養護の制度や実施体系について理解する。また、社会的養護における児童の権利について「学び、権利擁護や自立支援の在り方について理解することを目標とする。

<授業の方法>

レジメを中心に講義を行います。適宜講義課題について小レポート作成及び小テストを行います。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講前には予習として必ず指定テキストを熟読(45分以上)、受講後は指定テキストとレジメをつかって、講義内容を整理すること(45分以上)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

評価は、定期試験60%、レポート20%、授業態度 20%で行う。

<教科書>

松中 典子 潮谷 光人 今井 慶宗編著 社会的養護 I・II 改訂版 翔雲社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護とは何かを基本的理念、原理、基盤づくりについて
2	社会的養護の歴史の変遷	現在の社会的養護の理解を深めるために、社会がどのような児童を養護してきたのかを理解する。
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権を社会権、生存権を柱とした受動的権利の保障と、自由権を中心とした能動的権利の保障について理解する
4	社会的養護の基本原則	家庭養育優先原則の根拠となる法律や条約等の理解と、アイデンティティ形成の観点から養育環境を理解する
5	社会的養護における保育士等の理論と責務	社会的養護にかかわる専門職の倫理と責務について理解する
6	社会的養護の制度と法体系	措置制度とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規について学び、日本の社会的養護の制度と法体系について理解する
7	社会的養護のしくみと実施体系	児童相談所から社会的養護の各施設や里親家庭に至るソーシャルワーク過程、各施設の目的と概要と課題について理解する
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ファミリーソーシャルワークについての基本的な視点を理解し、社会的養護におけるソーシャルワークの展開方法を理解する
9	社会的養護の対象と支援のあり方	社会的養護の対象となる子どもや家庭について理解を深めるとともに、予防的支援、在宅措置、代替養育を必要とする子どもたちや家族がどのようなニーズを抱えているかを理解する
10	家庭養護と施設養護	社会的養護の動向や里親、ファミリーホームといった家庭養護と施設養護の現状と課題、共通点と相違点を理解する
11	社会的養護にかかわる専門職	現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性について理解する
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護で暮らす子どもたちの背景・社会的養護の位置づけを学び、養子縁組を含む社会的養護のあり方、存在意義について理解する。
13	施設等の運営管理の現状と課題	子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育むという基本的理念に基づき、社会的養護施設等がどのように運営されていくのかを理解する
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	被措置児童等の虐待とは何かを理解した後、被措置児童等の虐待防止の経緯を概観し発生要因と課題について理解する。
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題	地域福祉とは何かを理解するとともに、児童福祉施設の機能としての地域支援、地域貢献のあり方を理解する。
16		

科目コード	31302			区分	コア科目					
授業科目名	教育評価				担当者名	鉦 悠介				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択	

<授業の概要>

この授業は、教育評価の役割や考え方を理解し、教育評価を適切に実践していくために必要な実践力を養うことを目指して行う。具体的には、次の3つの点に留意して授業を行う。(1) 教育評価に関する基礎的な用語や考え方を、歴史的な背景も含めて具体的に講義をする。(2) 新しい評価の考え方をまとめて解説すると共に、それに基づく評価の方法を丁寧に紹介する。(3) 国語科、算数科、道徳科の評価について、事例を交えながら具体的な教育評価の実践について考えを深める。

<授業の到達目標>

教師をめざそうとする学生や教育に興味・関心を持つ学生が、新しい評価について、その歴史的な背景も含めて、理解できるようになる。

<授業の方法>

指定教科書を用いた講義と、課題を併用するスタイルで授業は展開される。また、アクティブ・ラーニングの要素(グループワーク、ディスカッション等)を取り入れ、Google Classroom等のデジタル技術も活用する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：指定教科書の授業内容を通読し、特に理解が難しいところを予習する。(1時間) ・事後：授業で理解したことを自分なりに整理したり、興味・関心をもったことについてさらに学びを深めたりする。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題 40%、授業に取り組む姿勢 20%、学期末課題 40%の結果に基づいて評価する。

<教科書>

田中耕治(編)(2010) よくわかる教育評価 [第2版] ミネルヴァ書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育評価の基本概念	教育評価とは
2	教育評価の立場の変遷	教育評価の機能(診断的評価・形成的評価・総括的評価など)
3	教育評価の位相と展開	到達度評価評価規準と評価規準
4	教育目標と教育評価の関係	ルーブリックなど
5	指導に生かす評価のあり方	指導と評価の一体化カルテと座席表子どもの自己評価
6	教育評価の進め方①	国語、算数、社会、理科における評価
7	教育評価の進め方②	生活科、外国語、音楽、における評価
8	教育評価の進め方③	図画工作・美術、技術・家庭、体育、総合的な学習の時間の評価
9	教育評価の進め方④	道徳、特別活動、障害児教育の評価
10	指導要録・通知表	指導要録観点別評価通知表
11	教育評価の経営(学力調査)	PISA調査全国学力学習状況調査校内研修
12	教育評価の経営(学校評価)	学校評価学校評議員制コミュニティスクール
13	入試制度	大学入試偏差値内申書
14	教育評価の歴史・諸外国の評価	日本における教育評価の歴史諸外国の教育評価制度
15	まとめ	これまでの学びの振り返りと深化・発展
16		

科目コード	53025				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅰ				担当者名	河野 儀久／簀戸 崇史			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要とされる役割についての意義と考え方を学び、具体的な評価から問題点抽出、予防・リハビリテーション介入までのプロセスを理解し、アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

<授業の到達目標>

検査・測定と評価についての方法であるHOPSやアスレティックリハビリテーション、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場で行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価、予防とコンディショニング、アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験50%、定期試験50%で評価する。

<教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会（2019年3月） 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	問診の方法を見学して理解する。
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	視診の方法を見学して理解する。
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	触診の方法を見学して理解する。
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	関節可動域方法を見学して理解する。
5	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑤	徒手筋力検査方法を見学して理解する。
6	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑥	アライメント検査方法を見学して理解する。
7	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑦	スペシャルテストを見学して理解する。
8	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑧	関節弛緩性検査を見学して理解する。
9	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑨	上肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
10	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑩	下肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
11	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑪	体幹のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
12	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑫	応急処置方法を見学して理解する。
13	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑬	テーピング法を見学して理解する。
14	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑭	ストレッチングを見学して理解する。
15	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑮	総合見学実習
16		

科目コード	65047				区分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメント I [公務員]				担当者名	横内 浩平			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。2. 3年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための数学的基礎力を身に付けている。3. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）2. グループワーク（授業中に出される複数の解き方がある問題に関する教え合い）3. 授業で解く問題が得意な学生に対して、難易度の高い問題を準備しclassroomなどを活用して解説する。※一部の問題についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する公式等の下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業中に解き方を示した問題を解けるようにしておく（90分以上）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

資格試験研究会（2024年2月15日発行） 2025年度版 高卒程度公務員 知能分野問題集 実務教育出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル） 職種研究 その他の職種
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など
16		

科目コード	65047				区分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメント I				担当者名	竹本 豊			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、公務員志望の学生だけでなく公務員に関心がある学生まで、幅広く想定している。公務員は、実際にはどのような仕事をしているのか、どのような心構えや使命感を持って取り組んでいるのか、などといったことを、行政・教育・公安（消防）分野での実体験を踏まえ、民間企業（会社員）と比較しながら解説する。学生ひとり一人が、公務員という仕事を身近に感じ、具体的にイメージできるようになることで、進路としての公務員への関心を高め、意欲的・主体的に公務員試験に臨めるようにする。

<授業の到達目標>

1. 地方公共団体のしくみ、特に民間企業との違いを理解する。2. 様々な職種の公務員がどのような仕事をしているかを大まかに把握する。3. 公務の基礎的な論点について、自分なりの考えを養い、他者と意見交換できるようになる。

<授業の方法>

1. 教科書を題材とする。ポイントとなる部分については、配布資料を利用するほか、適宜、公務の実態を伝えることで理解を深める。（質疑あり）2. 提示した論点（テーマ）について、グループディスカッションにより相互理解を深める。3. グループディスカッションの結果発表と意見交換。4. 質問等について、次回の授業冒頭で解説することもある。※配布資料のダウンロードや質問について、classroomなどICTを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当部分に目を通しておく（約1時間）。復習：授業で解説されたポイントについて、配付資料などを基に復習する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 授業態度（25%）：ディスカッションや質疑での積極性、他の学生の理解促進への貢献を評価。2. 確認テスト（25%）：適宜、授業中に実施する確認テストにおいて、理解度を評価。3. 期末レポート（50%）：自主的な学習の達成度を評価。

<教科書>

自治研修研究会編（2023） 地方公務員フレッシュャーズブック（第6次改訂版） ぎょうせい

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業全体の説明
2	地方公務員の心構え	基本的な心構え、職場等での執務の心構え、職場の人間関係についての心構え、私生活上の心構え（民間企業との違い）
3	職場と仕事	地方公共団体の仕事を運営する仕組み、効率的・効果的な仕事の進め方（民間企業との違い）
4	待遇	待遇の基本、対応の仕方
5	文書事務	地方公共団体の文書、文書事務の処理手順、公用文の作成、広報
6	地方自治制度①	地方自治の位置付け、地方公共団体の種類と事務、地方公共団体の区域と住民
7	地方自治制度②	地方公共団体の機関、国と地方公共団体との関係・地方公共団体相互間の関係等、地方分権は実践の時代へ
8	地方公務員制度①	基本理念、職員の範囲と種類、人事機関、任用（民間企業との違い）
9	地方公務員制度②	職員の義務・責任、職員の権利、職員の勤務条件、給与、人材育成と人事管理、福利厚生（民間企業との違い）
10	地方公共団体の税財政と財務①	地方税財政
11	地方公共団体の税財政と財務	地方財務
12	地方公共団体の主な施策①	健康の確保と福祉の充実、環境の保全、産業の振興
13	地方公共団体の主な施策②	地域発展の基盤整備、教育文化の振興、安全な生活の確保
14	地方分権の時代と地方公共団体の課題	地方分権、地方創生、地方公共団体と職員に求められるもの
15	まとめ	授業全体のまとめ
16		

科目コード	65047				区分	キャリアマネジメントⅠ コア科目(教職希望)			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ [中高保健教員]				担当者名	延原 まどか/中島 治彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体育学科で教員コースを希望する学生が対象。体育学科選択している以上、小学校希望も、中高保健体育希望者も様々なスポーツのルール等の知識をつけることが必要と考えている。グループワーク等で自分が今まで体験してきた種目以外も、調べ学習等を通して理解していく。

<授業の到達目標>

- ・教員の適性を確認し、他者と協働しながら学ぶ態度を身に付ける。
- ・様々なスポーツ種目の特性やルール等を理解する。

<授業の方法>

- ・各スポーツ種目をグループごとに調べ、発表する。
- ・確認テストやミニテストを行い理解を深める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：グループごとに出された課題に取り組む。復習：授業を振り返り、学んだ内容をまとめる。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・グループ活動(資料作成、ミニテスト作成、プレゼンテーション討) 20%・学習意欲・態度(ミニテスト、出席を含む) 40%・確認テスト 40%

<教科書>

時事通信出版局(2023年9月1日) 25中高保健体育の完全攻略 時事通信社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・実力テスト	・授業内容を理解する・グループを確認する・実力テストで、現時点の理解度を把握する
2	体づくり運動	体づくり運動について理解する。
3	器械運動	・器械運動について理解する・前時の体づくり運動のミニテスト実施
4	陸上競技1	・陸上競技について理解する・前時の器械運動のミニテスト実施
5	陸上競技2	・陸上競技について理解する・前時の陸上競技のミニテスト実施
6	水泳	・水泳について理解する・前時の陸上競技のミニテスト実施
7	球技1(ゴール型)	・球技について理解する・前時の水泳のミニテスト実施
8	球技2(ゴール型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
9	球技3(ネット型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
10	球技4(ネット型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
11	・球技5(ベース型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
12	武道1	・武道について理解する・前時の球技のミニテストを行う
13	武道2	・武道について理解する・前時の武道のミニテストを行う
14	ダンス・オリンピック	ダンスについて理解するオリンピックの概要を理解する前時の武道のミニテストを実施する
15	まとめと確認テスト	これまでの授業をまとめ、確認テストを実施し、理解の到達度を把握する
16		

科目コード	34115				区 分	コア			
授業科目名	保育内容「人間関係」指導法				担当者名	大久保 諒			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、まず、厚生労働省により保育所保育指針へ示された領域「人間関係」が育成をめざす資質・能力を詳細に紐解き、それらが発達する仕組みを専門的に学習する。その上で、こうした一連の資質・能力を促す保育者の働きかけとして、有効な指導法の在り方を演習形式で探求していく。

<授業の到達目標>

① 保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい、内容、意義を理解する。② 保育所保育指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における領域「人間関係」の位置づけを社会感情的コンピテンスの育成の観点から理解する。③ 社会感情的コンピテンスの諸側面について、それらが発達する仕組みを理解する。④ ケース・スタディなどの演習を通して、領域「人間関係」の具体的な指導場面を想定し、指導案を練る基礎力を培う。

<授業の方法>

各回の授業は、概ね次の要領で進む。まず、その回の学習内容について、ポイントを提示する。つづいて、その回の学習内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。そして、その回の講義内容について、ケース・スタディなど、体験的に学習を深めるための演習課題への取り組みを求める。演習課題の成果については、適宜、グループや全体の場で発表し合い、議論を行うことで学習を深める。また、学習内容について、事前学習を促す小課題や、事後的に理解度を確認する小課題への回答を定期的な求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり、小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：25%、小課題の成績：25%、学期末レポートの成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

無藤隆・古賀松香（著、編）（2016/5） 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは 北大路書房

厚生労働省（2018/2） 保育所保育指針解説 フレーベル館

文部科学省（2018/2） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の説明、保育内容「5領域」
2	領域「人間関係」の考え方	保育所保育指針における領域「人間関係」の詳説、社会感情コンピテンス
3	発達と人間関係の相互依存性	二者の関係、集団内の関係、集団間の関係
4	人間関係を支える心の発達①	乳幼児期における社会的な知覚・認知の萌芽と発達
5	人間関係を支える心の発達②	乳幼児期における社会的な感情・動機づけの萌芽と発達
6	人間関係に支えられた心の発達①	アタッチメント、実行機能、共感性など
7	人間関係に支えられた心の発達②	自律性、協調性、道徳性、好奇心など
8	人間関係を豊かにする指導法のヒント①	ルール、分かち合い、安心と心強さなど
9	人間関係を豊かにする指導法のヒント②	遊び、表現活動、習い事など
10	人間関係を豊かにする指導法のヒント③	活動・行事の設計、地域とのつながり、様々な施設・機関の役割、様々なデバイスの役割
11	人間関係のトラブルに活かす指導法のヒント①	葛藤・緊張、仲たがい・仲間外れ・仲直り、叱る・慰める・励ます
12	人間関係のトラブルに活かす指導法のヒント②	乱暴、引っ込み思案、個人差、インクルージョン
13	様々な人間関係の理解と支援①	子どもと子ども、子どもと保護者、子どもと保育士、保護者と保育士、保護者と保護者
14	様々な人間関係の理解と支援②	特別な配慮、合理的な配慮
15	まとめ	授業全体の内容の振り返り
16		

科目コード	28114				区分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスマナー				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ビジネス・シーンに必要な基本的マナーの学習を通してコミュニケーション力の向上を図るとともに、実社会で即戦力となりうる人材の育成を目指す。社会人に求められる常識、言葉遣いと話し方、立ち居振る舞い、接客対応を習得する。

<授業の到達目標>

・社会人に求められる実践的なマナーが身につく。・社会で求められる人物像を理解することで、自分の強み・弱みを発見できる。・マナーを身につけることで、自信を持って発言・行動できるようになる。

<授業の方法>

講義だけでなく、個人・グループワークを取り混ぜて対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外ではアルバイトなどの体験を通して、社会で通用するビジネスマナーを可能な限り学んでほしい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度40%、クラス課題60%

<教科書>

<参考書>

公益財団法人実務技能検定協会（2020年3月9日） ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級<増補版> 早稲田教育出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価法、ビジネスマナーとは何か
2	必要とされる資質（1）	ビジネスマンとしての資質とは何か
3	必要とされる資質（2）	仕事をしていく上で必要な資質を考える
4	企業実務	組織の機能を理解する
5	対人関係	人間関係への対処について
6	マナー	ビジネスの場でのマナーとは
7	話し方	目的に応じた話し方とは
8	交際	慶事、弔事に関する作法と服装について
9	電話実務（1）	会話力
10	電話実務（2）	対応力
11	情報	情報の整理、伝達について
12	文書	文書の作成、取り扱いについて
13	会議	会議についての基本的な知識を得る
14	事務機器・事務用品	事務機器の基本機能や事務用品の種類と機能について
15	まとめ	
16		

科目コード	21214				区分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法 [FE用][A]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育課程の一つとして、小学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

<授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるといふ実践力の育成も目指す。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、授業のリフレクション30%、レポート（学習指導案等）40%

<教科書>

文部科学省（平成30年2月28日） 小学校学習指導要領解説 特別活動編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（1）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（2）	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成（1）	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成（2）	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	23408			区分	コア科目				
授業科目名	知的障害児教育Ⅱ			担当者名	林 栄昭／大野呂 浩志				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

【履修上の注意】※ この科目は「特別支援教育」または「特別支援教育総論」のいずれかの単位を習得済みであることを履修条件とする。【授業の概要】 この授業は、「知的障害児教育における指導法」をテーマに、知的障害の認知特性を授業に関連する様々な要素との関連で理解し、認知特性に沿った授業づくりについて学ぶ。特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。

<授業の到達目標>

知的障害のある児童生徒の認知特性に応じた分かりやすく身につけやすい指導について理解し、実態に応じた指導を想起するとともに、特別支援学校(知的障害)における授業づくりの視点や方法を身に付ける。

<授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため、1~1.5時間程度の予復習をすることが望ましい。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度20%、模擬授業50%、レポート課題30%。

<教科書>

適宜資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	知的障害の認知特性(実行機能とワーキングメモリ)	認知そのものの理解を前提とした知的障害児の認知特性について、高次脳機能の観点から理解を深める。
2	知的障害の認知特性と指導I(注意の持続)	知的障害の認知特性である注意持続の困難を取り上げ、注意持続の困難に対する具体的な対応について学ぶ。
3	知的障害の認知特性と指導II(記憶の保持)	知的障害の認知特性である記憶保持の困難を取り上げ、記憶保持の困難に対する具体的な対応について学ぶ。
4	知的障害の認知特性と指導III(実行機能への配慮)	知的障害の認知特性を代表する実行機能不全を取り上げ、実行機能不全に対する具体的な対応について学ぶ。
5	知的障害の認知と各教科等の指導	知的障害の認知的特性を踏まえ、各教科等の指導における題材設定、活動設定等について具体的事例をもとに理解する。
6	知的障害の認知と教材・教具	知的障害の認知的特性の理解をもとに、個々の特性を踏まえた教材のあり方や教材提示の仕方について理解する。
7	知的障害の認知と教科等合わせた指導	知的障害の認知的特性の理解をもとに、合わせた指導の効果的な設計の仕方について理解する。
8	知的障害特別支援学校における授業の実践I(各教科)	知的障害特別支援学校における各教科別の授業について、その題材設定、目標設定、活動設定について、具体的事例を通じて理解する。
9	特別支援学校(知的障害)における授業の実践II(生活単元学習)	知的障害特別支援学校における生活単元学習の授業について、その題材設定、目標設定、活動設定について、具体的事例を通じて理解する。
10	特別支援学校(知的障害)における授業の実践III(作業学習)	知的障害特別支援学校における作業学習の授業について、その題材設定、目標設定、活動設定について、具体的事例を通じて理解する。
11	知的障害の認知と自立活動の指導	知的障害の認知特性の理解をもとに、指導・支援の全てに関わる自立活動の指導が各教科等の指導において、いかに展開されるかについて理解する。
12	知的障害特別支援学校における授業づくりの基礎(学習指導案の作成)	通常教育における学習指導案との比較について、その共通点と相違点を意識しながら、特別支援学校特有の学習指導案の意義と作成の仕方を理解する。
13	模擬授業(各教科)	各教科別の学習指導案を作成し、模擬授業を行うとともに、授業後に行う批評会で、事後の指導指針や改善点を話し合い、学修内容の統合、具現化の能力を養う。
14	模擬授業(生活単元学習)	生活単元学習の学習指導案を作成し、模擬授業を行うとともに、授業後に行う批評会で、事後の指導指針や改善点を話し合い、学修内容の統合、具現化の能力を養う。
15	模擬授業(作業学習)	作業学習の学習指導案を作成し、模擬授業を行うとともに、授業後に行う批評会で、事後の指導指針や改善点を話し合い、学修内容の統合、具現化の能力を養う。
16		

科目コード	25203			区分	専門基礎科目				
授業科目名	スポーツ栄養学			担当者名	保科 圭汰				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

<授業の到達目標>

本講義では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習として授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べること。（2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲・課題 30%、定期試験 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

清野隼・虎石真弥・山口太一（2022） ケースで学ぶスポーツ栄養学 株式会社みらい
 高田和子・海老久美子・木村典代（2020） エssenシャルスポーツ栄養学 市村出版
 鈴木志保子（2018） 理論と実践 スポーツ栄養学 日本文芸社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
4	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
5	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
6	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
7	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方
8	女性アスリートと食事	女性アスリートの三主徴と食事管理
9	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
10	鉄摂取	貧血予防と食事管理
11	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
12	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
13	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
14	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
15	サプリメント	正しいサプリメントの使用法およびドーピング
16		

科目コード	25203			区分	専門基礎科目				
授業科目名	スポーツ栄養学			担当者名	眞鍋 芳江				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

<授業の到達目標>

本講義では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習として授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べること。（2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲・課題 30%、定期試験 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

清野隼・虎石真弥・山口太一（2022） ケースで学ぶスポーツ栄養学 株式会社みらい
 高田和子・海老久美子・木村典代（2020） エssenシャルスポーツ栄養学 市村出版
 鈴木志保子（2018） 理論と実践 スポーツ栄養学 日本文芸社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
4	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
5	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
6	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
7	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方
8	女性アスリートと食事	女性アスリートの三主徴と食事管理
9	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
10	鉄摂取	貧血予防と食事管理
11	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
12	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
13	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
14	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
15	サプリメント	正しいサプリメントの使用法およびドーピング
16		

科目コード	40207				区 分	コア			
授業科目名	剣道Ⅱ(応用)				担当者名	大井 理緒			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

剣道Ⅱ(応用)では、「剣道Ⅰ(基礎)」で学習した基礎・基本動作を習熟させ、互格稽古や試合などを通して応用技術を学習する。また、技術の向上だけでなく、剣道指導上の留意点及び試合規則や審判法を学習し、教育現場で指導できるように、専門的な知識と実践力を身につけることを目的とする。また、剣道の段位を取得していない学生(剣道初心者等)は1級及び初段審査に合格を目標として行う。※履修条件...剣道Ⅰ(基礎)の単位修得済みの学生に限る。

<授業の到達目標>

中学校・高等学校等の教育現場での剣道授業、課外活動指導は当然のことながら、社会体育の中でも剣道を志す方々を指導できるような剣道専門指導者としての知識、技量、人間性を身につけることを目標とする。また、剣道の段位を取得していない者は、初段の取得を目標とする。

<授業の方法>

剣道実技や日本剣道形・審判法・剣道理論学習を中心に実施する。上限20人。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」「剣道試合・審判細則」を1時間程度読み、剣道試合の審判運営要領、審判規則を理解する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・出席50%、実技試験50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則/同細則 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	剣道Ⅰの復習(剣道の心構えについて)	剣道の在り方・剣道指導の在り方
2	剣道Ⅰの復習(剣道具や作法について)	剣道着・袴と剣道防具の知識を深め、正しく美しく着用する方法の学習
3	剣道Ⅰの復習(仕掛け技基本動作の確認)	仕掛け技(面打ち・胴打ち・小手打ち)及び切り返しの確認
4	木刀による剣道基本技稽古法	木刀による剣道基本技稽古法の実践。
5	応用動作(仕掛け技について)	仕掛け技(二段技・強い攻めを意識した仕掛け技)の実践
6	応用動作(応じ技について)	面や小手に対しての応じ技実践と試合における戦法について
7	応用動作(実践稽古・試合)	互角稽古と試合を行い、実戦に役立つ戦法を考察しディスカッションを行う。
8	審判法(審判規則について)	全日本剣道連盟試合審判規則の学習
9	審判法(審判員の動きについて)	審判員における試合時の立ち回り方法(旗の表示方法や試合に合わせた動き方、所作など)
10	審判法(試合運営方法)	審判員の立ち回り方法の復習と試合を運営するにあたっての規則の学習
11	審判法(まとめと試合運営一連の確認テスト)	実際に試合を行い、審判員の一連の動作を行う。所作に関してや判定などにも実技試験を行う。
12	日本剣道形(1~3本目)	日本剣道形の1から3本目を実践し、細かな動きを学習する。
13	日本剣道形(4~7本目)	日本剣道形の4から7本目を実践し、細かな動きを学習する。
14	日本剣道形(小太刀1~3本目)	日本剣道形の小太刀を用いる1から3本目を実践し、細かな動きを学習する。
15	日本剣道形(まとめと確認実技テスト)	日本剣道形まとめと実際の段審査で行われる審査形式において確認テストを行う。
16		

科目コード	40206				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 両手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10~12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13~14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	21214				区分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法 [FE用][B]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育課程の一つとして、小学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

<授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるといふ実践力の育成も目指す。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、授業のリフレクション30%、レポート（学習指導案等）40%

<教科書>

文部科学省（平成30年2月28日） 小学校学習指導要領解説 特別活動編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（1）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（2）	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成（1）	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成（2）	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	21400				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [A]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

<授業の到達目標>

1. バイエル46番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グルーブレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル3～7番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル10～15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル21番、弾き歌い、日のまる	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル21番、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル31番、弾き歌い、海	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル31番、弾き歌い、海(2)	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル37番、弾き歌い、春が来た	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル37番、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ(2)	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21401			区分	専門基礎科目				
授業科目名	器楽演習Ⅱ [A]			担当者名	中家 淳悟／三好 啓子				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	40120				区分	コア科目			
授業科目名	サッカー [PP男子用]				担当者名	降屋 丞			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。(2時間)
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	40121				区 分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP男子用]				担当者名	山本 清人／原田 悠平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト
16		

科目コード	40104				区 分	コア科目			
授業科目名	ハンドボール I (基礎)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

<参考書>

笹倉清則(2003) 「Tactics of Handball in The World」 財団法人日本ハンドボール協会
 酒巻清治(2012) 「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」 池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得(2)	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術(1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム(1)
6	対人的技術・戦術(2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム(2)
7	グループ戦術(1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム(1)
8	グループ戦術(2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム(2)
9	ゲーム(1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム(2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(1)
11	ゲーム(3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(2)
12	ゲーム(4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(3)
13	ゲーム(5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(4)
14	ゲーム(6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(5)
15	ゲーム(7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(6)
16		

科目コード	61002				区 分	専門科目			
授業科目名	トレーニング演習 [PH用]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。

<授業の到達目標>

正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。各種トレーニングの目的を理解し、正しい指導方法を学習する。

<授業の方法>

実技ならびに指導実践を中心に実施する。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論をインターネットや文献で調べてくる。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のトレーニングフォームについて課題などを整理する。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、レポート課題）50%、試験（小テスト、実技）50%

<教科書>

IPU環太平洋大学 トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部、肩のエクササイズ
3	上半身のエクササイズ②	背部のエクササイズ
4	上半身のエクササイズ③	ダンベルを用いたエクササイズ
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフト動作
6	下半身のエクササイズ②	スクワット動作
7	下半身のエクササイズ③	片脚エクササイズ
8	トレーニング動作のチェック	ビックスリーの動作テスト
9	オリंपピックリフティング	ハングスナッチの段階的な習得方法
10	コアエクササイズ	腹部のエクササイズ
11	トレーニングの方法①	安全な筋力測定の方法
12	トレーニングの方法②	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法③	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15	まとめ	実技テスト・授業の総復習
16		

科目コード	32304				区分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [FE2333組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

<授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

<授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
16		

科目コード	21400				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [B]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

<授業の到達目標>

1. バイエル46番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル3～7番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル10～15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル21番、弾き歌い、日のまる	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル21番、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル31番、弾き歌い、海	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル31番、弾き歌い、海(2)	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル37番、弾き歌い、春が来た	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル37番、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ(2)	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21401			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	器楽演習Ⅱ [B]			担当者名	中家 淳悟／三好 啓子				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	40120				区分	コア科目			
授業科目名	サッカー [PP男子用]				担当者名	降屋 丞			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。(2時間)
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	40121			区 分	体育実技				
授業 科目名	ソフトボール [PP男子用]			担当者名	山本 清人／原田 悠平				
配当年次	カリキュラ ムにより異 なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1)予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間)(2)復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト
16		

科目コード	40104				区 分	コア科目			
授業科目名	ハンドボール I (基礎)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

<参考書>

笹倉清則 (2003) 「Tactics of Handball in The World」 財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治 (2012) 「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」 池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得 (2)	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術 (1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム (1)
6	対人的技術・戦術 (2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム (2)
7	グループ戦術 (1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム (1)
8	グループ戦術 (2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム (2)
9	ゲーム (1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム (2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (1)
11	ゲーム (3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (2)
12	ゲーム (4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (3)
13	ゲーム (5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (4)
14	ゲーム (6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (5)
15	ゲーム (7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (6)
16		

科目コード	40206				区分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われた。「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、相手と攻防を展開する簡易な試合形式の実践練習等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。2) 簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。3) 簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 両手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10~12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13~14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40205				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅱ(応用)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

陸上競技は、どのスポーツ種目においても基本となる走・跳・投・歩の運動から構成される。内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでおり、競技や練習を行う上で多面性を要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、陸上Ⅰで行った内容を指導実践するものとし、陸上競技の指導者養成することを目的とした授業を展開する。

<授業の到達目標>

本授業では、「陸上競技Ⅰ(基礎)」で学習した内容の指導実践を行ない、各種目に応じたウォーミングアップの立案と実践、各種目の技術的指導ができるようになることを目標としている。陸上競技のコーチングにとって必要な高度な専門知識を身につけた上で、トレーニング方法やトレーニングプログラムデザインを提案できる。

<授業の方法>

対面授業による実技(陸上競技場・スポーツ科学センター)のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド型授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題を行う。履修上限人数は40人とする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書(陸上競技入門, レベルアップの陸上競技)およびルールブックを熟読の上、授業に参加すること。(所要時間:1~2時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

指導実践・受講態度 50%、レポート課題50%

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
 日本陸上競技連盟 陸上競技のルールブック ベースボールマガジン社
 日本陸上競技連盟 レベルアップの陸上競技 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、陸上競技のウォーミングアップ、ウォーキング&ジョギング、心拍数を利用したウォーミングアップ、トレーニングの考え方	授業の概要と心拍数を利用したウォーミングアップ、トレーニングの考え方について理解する
2	短距離走の指導実践①	短距離走のウォーミングアップ方法の理解、クラウンチングスタートの指導方法の理解
3	走高跳の指導実践①	走高跳のウォーミングアップ方法および曲線助走の指導方法の理解
4	走高跳の指導実践②	曲線助走~踏切局面の指導方法の理解、背面跳の空中動作の指導方法の理解
5	ハードル走の指導実践①	ハードル走のウォーミングアップ方法の理解、アプローチ局面の指導方法の理解
6	ハードル走の指導実践②	ハードル走のウォーミングアップの実践、クリアランス動作・インターバル間の走り方の指導方法の理解
7	走幅跳の指導実践①	走幅跳のウォーミングアップ方法の理解、助走の構成と助走の組み立て方の指導方法の理解
8	走幅跳の指導実践②	走幅跳のウォーミングアップの実践、踏切準備局面および踏切~着地局面の指導方法の理解
9	砲丸投の指導実践①	砲丸投のウォーミングアップ方法の理解、立ち投げ、グライド投法の指導方法の理解
10	砲丸投の指導実践②	砲丸投のウォーミングアップの実践、グライド投法の指導実践
11	跳躍種目におけるパフォーマンス構造の理解	跳躍種目のパフォーマンスに影響を与える体力要素およびそれらを高める体力トレーニングについて、オンデマンド教材を用いて理解を深める
12	三段跳のパフォーマンス構造の理解	跳躍種目における三段跳について、オンデマンド教材を用いて理解を深める
13	陸上競技における性差の理解	性差を考慮したコーチング方法について、オンデマンド教材を用いて理解を深める
14	ジュニア期に求められるトレーニングの理解	ジュニア期に必要なトレーニング・コーチング方法について、オンデマンド教材を用いて理解を深める
15	まとめ	授業の振り返りレポートの作成、トレーニングプログラムのデザイン
16		

科目コード	21400				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [C]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。

<授業の到達目標>

1. バイエル46番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1，2年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グルーブレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル3～7番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル10～15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
6	バイエル16番、弾き歌い、カタツムリ(2)	左右の手の動きが違う曲のレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（両手）
7	バイエル21番、弾き歌い、日のまる	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル21番、弾き歌い、日のまる(2)	バイエル21番を使ったレッスン、日のまるを使った弾き歌いの練習（両手）
9	バイエル31番、弾き歌い、海	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル31番、弾き歌い、海(2)	バイエル31番を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（両手）
11	バイエル37番、弾き歌い、春が来た	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル37番、弾き歌い、春が来た(2)	バイエル37番を使ったレッスン、春が来たを使った弾き歌いの練習（両手）
13	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（左手）
14	バイエル46番、弾き歌い、夕やけこやけ(2)	バイエル46番を使ったレッスン、夕やけこやけを使った弾き歌いの練習（両手）
15	総括	これまでのレッスンの内容を総括する
16		

科目コード	21401				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [C]				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン
16		

科目コード	62013				区分	コア			
授業科目名	アスレティックリハビリテーション基礎				担当者名	河野 儀久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

リハビリテーション（以下、リハビリ）は‘全人間的復権’と理解され、失った機能を回復・代償させることで人間の「人間らしくいききてゆく能力の回復」を目的とする。‘スポーツ傷害’に対するリハビリは「スポーツ活動への復帰」を目的とするためにアスレティック・リハビリテーションと呼ばれ、実際のスポーツ現場へ直接つなげる重要な役割を持つ。

<授業の到達目標>

本講義では、アスレティック・リハビリテーションの概念と定義、そして実践にあたって必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する毎回予習（30分程度）。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強を兼ねた復習である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト10%、課題プロジェクト20%、定期試験70を総合的に判断する。

<教科書>

日本スポーツ協会（2007.9.10） 「アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティック・リハビリテーション」 日本スポーツ協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	メディカルおよびアスレティック・リハビリテーションの概念と定義の理解
2	アスレティックリハビリテーション概論-目標-	アスレティック・リハビリテーションの概要、目標、過程と流れに関する理解
3	アスレティックリハビリテーション概論-関係職種-	アスレティックトレーナーの関係職種（医療行為従事者）とその役割の理解、スポーツ復帰に際して考慮すべき事項について
4	現場におけるATの実例	アスレティック・リハビリテーションの現場におけるアスレティックトレーナーの活動内容について
5	機能評価-目的・意義-	アスレティックトレーナーによる評価の目的、意義、役割および機能評価のプロセスなどの理解
6	機能評価-アライメント-	姿勢・身体アライメント、関節弛緩性、関節可動域に関する測定・評価方法
7	機能評価-筋肉-	筋萎縮、筋肥大、筋持久力などに関する測定・評価方法
8	機能評価-持久力-	全身持久力、身体組成の測定・評価方法
9	運動療法-目的・意義-	運動療法の目的と禁忌、筋力回復と筋力増強のための基礎知識
10	運動療法-ROM-	関節可動域回復と神経筋協調性回復のための基礎知識
11	運動療法-身体組成-	全身持久力、身体組織の管理、再発予防のための基礎知識
12	物理療法	温熱療法、寒冷療法、各種電気療法、超音波療法、水療法の理解
13	補助具	補助具使用の適応と禁忌、装具の種類と使用目的、テーピング、松葉杖、足底挿板などの理解
14	危機管理	突発的な事故とその予防策、ATの配慮不足による事故とその予防策、患部の禁忌、スポーツ復帰後の再発予防策の理解
15	まとめ	突発的な事故とその予防策、ATの配慮不足による事故とその予防策、患部の禁忌、スポーツ復帰後の再発予防策の理解
16		

科目コード	65023			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	リーディング・スキル（応用） [英語教員希望者限定]			担当者名	井上 聡				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準1級レベルの英文の速読・精読力に加え、同レベルの語彙・構文解析力を強化します。事前課題（読解・語彙・文法のノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

<授業の到達目標>

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。 ※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの受験（30分程度）＋意見交換

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	"Drink Responsibly" Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Volunteering	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03
16		

科目コード	22203				区分	専門基礎科目			
授業科目名	生活の理解				担当者名	三堀 仁			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す」教科である。ここでは生活科誕生の経緯を押さえつつ、生活科の教科特性を理解するとともに、学習指導要領に示されている内容（1）から内容（9）について、実際使われている教科書を参考にしながら各内容を正しく理解し、授業で扱うポイントをつかむことを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 生活科の教科特性を理解し、説明できる。2. 生活科の9つの内容を理解し、説明できる。3. 生活科の内容を踏まえた授業場面での指導すべき内容を理解し、説明できる。

<授業の方法>

実践事例の事例紹介や体験的な活動、意見交換を基本として進める。受講者が自らが実感をもって気づき、理解するようにする。また、児童が実際に使用している教科書のページを見ながら、具体的なさし絵や言葉などから、授業のねらいや展開について、解説したり意見交換したりして思考を深める。その際、教科書のデジタルコンテンツを実際に体験し、ICTの活用方法についても考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（1時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度（出席状況・課題提出）40%、学習状況（課題・意見の内容）30%、レポート30%

<教科書>

田村学ほか 2024年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

田村学ほか 2024年 新しい生活下 東京書籍

文部科学省 平成30年2月28日 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	生活科とは	生活科の教科特性を理解する。
2	生活科の目標・内容	生活科の目標と内容について理解する。
3	生活科とスタートカリキュラム	幼児教育との接続、スタートカリキュラムについて理解する。
4	生活科の内容1・2・3について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容1・2・3を理解する。
5	生活科の内容1・2・3について（教科書より）	生活科の内容1・2・3について教科書を参考に理解を深める。
6	生活科の内容4・5について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容4・5を理解する。
7	生活科の内容4・5（教科書より）	生活科の内容4・5について教科書を参考に理解を深める。
8	生活科の内容6について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容6を理解する。
9	生活科の内容6（教科書より）	生活科の内容6について教科書を参考に理解を深める。
10	生活科の内容7について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容7を理解する。
11	生活科の内容7（教科書より）	生活科の内容7について教科書を参考に理解を深める。
12	生活科の内容8・9について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容8・9を理解する。
13	生活科の内容8・9（教科書より）	生活科の内容8・9について教科書を参考に理解を深める。
14	指導計画の作成と内容の取扱い	学習指導要領解説をもとに指導計画の作成と内容の取り扱いについて理解する。
15	授業のまとめ	これからの学校教育における生活科の役割等について理解する。授業のまとめをする。
16		

科目コード	23304				区分	コア科目（教員養成）			
授業科目名	教育相談(中等)				担当者名	石山 貴章			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教員に必要とされている「児童生徒理解」「アセスメント」「相談援助技術」「カウンセリングマインド」「キャリア支援」などの理論に依拠しながら、相談ケースを想定しつつ、どのようなアプローチが有効的・効果的なのかを検討しながら、教育相談を実践的に学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

① 学校教育現場で必要とされている教育相談の基本的理解を深める。② 教育相談に関する基本的理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解していく。③ 教育相談に関心をもち、教育活動に活かしていく姿勢を身につける。

<授業の方法>

講義

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義で提示される講義資料は、各自、必ずファイリングして復習をしておくこと。第1回～第15回までの講義テーマについての予習を、参考図書等を基にして実施しておくこと。必要に応じて、参考書等で確認を行い、配布資料に転記、またはノートに記録をしておくこと。最終的に、配布資料がテキスト化されるように各自でデータを蓄積しておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小レポート30%、最終レポート70%

<教科書>

特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない
 特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない
 特に指定はしない 特に指定はしない 特に指定はしない

<参考書>

春日井敏之・伊藤美奈子（2012年10月30日） 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション～カウンセリングマインド～	1. 自己開示 2. カウンセリング・マインド 3. ラポール 4. 守秘義務 5. カタルシス
2	教育相談の基本的理解～カウンセリングの基本～	1. 聴く力と伝える力 2. スクールカウンセラー (SC) 3. スクールソーシャルワーカー (SSW) 4. コンサルテーション 5. カウンセリングアプローチ
3	構成的グループエンカウンター (Structured Group Encounter : SGE)	1. 勇気づけ (アドラー) 2. ロジャーズ (非指示的カウンセリング) 3. 無条件の肯定的受容 4. グループエンカウンター 5. アウェアネス 6. エクササイズ 7. ダイバーシティ 8. シェアリング
4	問題行動に対する相談支援	①「自己指導能力」②「反社会的行動」と「非社会的行動」③「暴力行為」④「青少年補導」⑤「少年非行」「改正少年法」⑥「万引き」「金銭問題」⑦「断る勇気」
5	いじめに関する相談支援①	1. 相談と対応 2. 同調圧力 3. 発達障害 4. 第三者委員会 5. 重大事態 6. ネットいじめ
6	いじめに関する相談支援②	1. 「いじめ」の構造 2. 「いじめ」の態様 3. 「いじめ」の定義 4. 「いじめ防止対策推進法」 5. 「いじめ予防プログラム」
7	不登校に関する相談支援	1. 不登校の現状 2. 適応障害 3. 隠れ不登校 4. 不登校へのアプローチ 5. 不登校特例校 6. 教育機会確保法 7. フリースクール 8. 適応指導教室 9. 夜間中学校
8	児童虐待に関する相談支援①	1. 被虐待児症候群 2. 児童虐待の現状 3. 早期発見・初期対応 4. SNS/DV 5. 相談対応 6. 児童虐待防 7. 虐待対応の手引き
9	児童虐待に関する相談支援②	1. しつけ (懲戒権) 2. 児童相談所 3. 教職員の心構え 4. 子ども・子育て応援プラン 5. 貧困対策 6. 子どもの最善の利益
10	教育相談の進め方～保護者対応と支援～	1. モンスターペアレント 2. 初期対応 3. 向き合うべき課題 4. 保護者対応力 5. ロールプレイ 6. モンスター・ティーチャー
11	LGBTQ+に関する相談支援	1. LGBTQ+ 2. 「性自認」「性的指向」「性表現」 3. トランスジェンダー 4. アンコンシャスバイアス 5. 学校における相談支援体制 6. ジェンダーレス 7. アウトティング
12	飲酒・喫煙・行動嗜癖に対する相談支援	①「喫煙」②「飲酒」③「薬物」④「行動嗜癖」⑤「予防教育」
13	部活動に関する相談支援	①生徒にとっての部活動問題②教師にとっての部活動問題③運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン④文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン⑤部活動指導員⑥部活動地域移行⑦部活動と体罰
14	様々な相談支援アプローチ	1. 芸術療法 2. 遊戯療法 3. フォーカシング 4. 内観療法 5. 森田療法 6. 対人

15 16	キャリア教育に関する相談支援 レポート試験	関係療法 7. 家族療法 8. ナラティブ・セラピー 9. 系統的脱感作法 10. 暴露療法 (エクスポージャー) 11. SUBI心の健康自己評価質問紙法 1. キャリア教育 2. 職業教育 3. 基礎的・汎用的能力 4. キャリア・パスポート
----------	--------------------------	--

科目コード	21330			区分	専門基礎科目				
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 [他学科][再履修]			担当者名	藤井 健太郎				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

<授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、授業のリフレクション30%、レポート(学習指導案等)40%

<教科書>

文部科学省(平成30年2月28日) 小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	21214				区分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法 [他学科][再履修]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

<授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるとい実践力の育成も目指す。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、授業のリフレクション30%、レポート（学習指導案等）40%

<教科書>

文部科学省（平成30年2月28日） 小学校学習指導要領解説 特別活動編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（1）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（2）	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成（1）	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成（2）	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	25202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス [PP]				担当者名	明石 啓太			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動が起こるには、力が作用する必要がある。運動の背景を理解することで、なぜそのような動作になるのか、どのように改善したらよいか理解することが可能となる。本授業では、スポーツバイオメカニクスの基礎を理解し、身体運動の背景を力学的に捉えることができるようにする。必要に応じて各競技の専門家との対談を行い、スポーツ現場でのバイオメカニクスの応用について学ぶ。また、健康運動指導士・健康運動実践指導者・CSCSなどを取得するためには必修となる科目である。

<授業の到達目標>

本授業の到達目標は、次の通りである。①運動の記述（どのような動きであるか説明できる）と、運動の原因の説明（なぜそのような動きになるか、どんな力が働いているか説明できる）ができる。②スポーツバイオメカニクスの視点で、スポーツや運動の観察・指導または改善方法を考案できる。

<授業の方法>

毎授業、動画視聴し、確認テストを行う（オンデマンド形式）。classroomに補足資料などを掲載する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のキーワードを提示するので、各自でWeb、図書などを活用し予習してくること（1～2時間）。関連科目（運動学、生理学、解剖学、数学など）の復習を必要に応じて行うこと（1～2時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題60%、期末課題40%

<教科書>

なし

<参考書>

深代千之ほか編著 スポーツバイオメカニクス 朝倉書店

深代千之ほか スポーツ動作の科学-バイオメカニクスで読み解く- 東京大学出版会

金子公有 スポーツ・バイオメカニクス入門-絵で見る講義ノート- 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツバイオメカニクスとは	スポーツバイオメカニクスの定義、スポーツバイオメカニクスと関連分野および応用
2	速度とスピード	スピード曲線、スピードの構成要素、スピードと速度の違い（ベクトル）について学ぶ。
3	力と運動	力の性質、ニュートンの運動の法則について学ぶ。
4	並進運動の力学	主に並進運動における、運動量・運動量変化量と力積・仕事・力学的パワーについて学ぶ。
5	回転運動の力学	並進運動との対比、力のモーメント（トルク）および角運動量・角運動量保存の法則・角力積について学ぶ。
6	スポーツにおけるエネルギー	力学的エネルギー、エネルギー供給機構、運動におけるエネルギーフローについて学ぶ。
7	関節とテコ	関節の構造、種類、関節と筋におけるこの原理について学ぶ。
8	歩・走運動①	歩・走運動の専門家との対談からスポーツ現場でのバイオメカニクスについて学ぶ。
9	歩・走運動②	歩行・走運動に関するバイオメカニクスの研究から、効率の良い歩行、速く走れる選手のバイオメカニクスの特徴について学ぶ。
10	跳運動①	歩・走運動の専門家との対談からスポーツ現場でのバイオメカニクスについて学ぶ。
11	跳運動②	跳運動に関するバイオメカニクスの研究から、遠く（高く）跳べる選手のバイオメカニクスの特徴について学ぶ。
12	投運動①	投運動の専門家との対談からスポーツ現場でのバイオメカニクスについて学ぶ。
13	投運動②	投運動に関するバイオメカニクスの研究から、遠く（速く）投げられる選手のバイオメカニクスの特徴について学ぶ。
14	スポーツ用具のバイオメカニクス	スポーツ用具の役割と変遷についてバイオメカニクスの視点から学ぶ。
15	まとめ	これまでのまとめと、振り返りを行う。
16		

科目コード	35204				区 分	コア			
授業科目名	トレーニング論 I (基礎)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

<授業の到達目標>

各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価する能力を養うことを目標とする。

<授業の方法>

パワーポイントを用いたオンデマンド講義を視聴した上で、確認テストとレポートに取り組む。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：書き込み式教材の必要箇所を埋めた上で、参考資料を熟読すること。復習：授業に対するコメントを翌日の17時までに回答した上で、次の授業で行う確認テストの準備を行うこと。（所要時間：2時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 毎回の評価：5点×15回（確認テスト・意見交換+レポート提出）2) 期末レポート評価：25点期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

<教科書>

<参考書>

宮下充正 トレーニングの科学的基礎 ブックハウスHD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	力強さを高めるためのトレーニング	最大筋力、筋肥大、レジスタンストレーニング
5	力強さを持続するためのトレーニング	筋持久力、サーキット・トレーニング
6	ねばり強さを高めるためのトレーニング	最大酸素摂取量、LT、インターバル・トレーニング
7	トレーニングの順序・組み合わせ	コンカレント・トレーニング、クロス・トレーニング
8	トレーニングと環境	寒冷、暑熱、高地
9	トレーニングと栄養補給	スポーツライフマネジメント、三大栄養素
10	コンディショニングの理論と方法	疲労と体力の関係性、オーバートレーニング症候群
11	トレーニング効果の評価方法 (1) ラボテスト	最大酸素摂取量、最大筋力、各種跳躍能力の測定と評価
12	トレーニング効果の評価方法 (2) フィールドテスト	筋力、パワーおよび跳躍能力の測定と評価
13	トレーニング計画の作成 (1) 陸上競技	課題設定と達成のための計画づくり
14	トレーニング計画の作成 (2) 球技	課題設定と達成のための計画づくり
15	トレーニング計画の作成 (3) 武道	課題設定と達成のための計画づくり
16		

科目コード	37503				区分	コア			
授業科目名	スポーツメディア論 [BC用]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツメディアは、スポーツに多様な(ときに過剰な)意味を付与します。そしてまた私たちは、その意味を解釈し他者と語り合うことで再生産していきます。今日のスポーツ振興施策やビジネスにおけるスポーツメディアの重要性は増すばかりです。この講義では、実際にメディアスポーツ(スポーツの映像や記事)を生産したり解読したりすることで、スポーツメディアの特性を理解し、スポーツにおけるメディアの役割を実践を交えて学んでいきます。

<授業の到達目標>

①スポーツメディア論の主要概念を理解できるようになる。②身の回りのスポーツ情報をメディアスポーツとして発信できるようになる③取材をできるようになる④スポーツメディアに相応しい文章表現を身につける

<授業の方法>

講義毎に資料を配布し、担当教員がパワーポイントで解説を加えながら講義を実施します。適宜、小テストや提出物の提出に関わる学習課題に取り組んでもらいます。なお、学習課題は、Google Classroomを利用して管理(課題の提示、提出受付、評価など)します。また、この講義では、身近な人への取材活動(簡単なフィールドワーク)、あるいは他の受講者の課題を評価・ディスカッションするといった学習課題に取り組めます。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この講義では準備学習として、講義毎の小テストに向けた復習、あるいは、レポート作成のためのフィールドワークやデータ収集・整理といった学習課題に取り組んでもらいます

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業レポートⅠ(授業の振り返り) 40%、レポートⅡ(取材データをもとにスポーツ記事を作成する) 30%、レポートⅢ(取材データから動画を作成する) 30%

<教科書>

教科書は使用しません。講義毎に担当教員が資料を配布し学習を進めていきます。

<参考書>

黒田 勇(2012年10月20日) 「メディアスポーツへの招待」 株式会社ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス詳細版を配布し、この講義の計画(スケジュール)、到達目標、評価方法、授業方法・ルール、予習・復習課題、準備物等について説明をおこないます。必ず出席してください。
2	スポーツとメディア	メディアとスポーツおよびスポーツメディアの概念を説明し、それらの特性を概説します。また、良質なスポーツ記事の要件について議論します。
3	文章表現技法	主述のねじれ等、スポーツ記事を生産する上で留意すべき文章表現技法を概説します。そして、文章の添削・推敲の作業に取り組んでもらいます。
4	物語	物語[narrative]概念を説明し、物語化の技法を紹介します。
5	スポーツと物語	スポーツメディアにみられる物語化の実態について説明を行い、当該技法について理解を深めます。
6	取材の技法	レポートの説明を行い、取材の流れやルール等を説明します。
7	取材の計画	インタビュー調査の方法を説明し、レポートのための取材活動を企画・計画してもらいます。
8	取材の実施	取材(インタビュー調査)を実施します。
9	記事の作成	取材で得たデータよりスポーツ記事の原稿を作成してもらいます。
10	動画の作成(1)	動画作成の基本(プロの視点)
11	動画の作成(2)	動画作成の応用(プロの視点)
12	動画の作成(3)	動画の撮影(被写体を決めて自分で撮影する)
13	動画の編集(1)	動画の編集の基本
14	動画の編集(2)	自分で撮影した動画を編集する
15	動画の上映	各自作成した動画を上映する
16		

科目コード	31209				区分	コア科目			
授業科目名	英語のリズムとイントネーション				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

文法にルールがあるように発音にもルールがある。英語母語話者であれば無意識に身につけられるような発音のルールやプロソディ（アクセント・リズム・イントネーション）を、本授業では意識的・体系的に学ぶ。より英語らしい発音を身につけたいと願う学生向けの授業である。

<授業の到達目標>

ただ漫然と聞いているだけでは身につかない英語発音のルールについて正しく理解することで、聞き手にとって明瞭で理解しやすい英語の発音を身につける。

<授業の方法>

予習を前提とした授業である。英語の発音やプロソディに関する知識を実際に活用できるレベルにするため、個別練習とペア活動（相互フィードバック）を組み合わせながら、授業を進めていく。終末には、自身の学びを省察し、Classroom上でリフレクションを提出する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に指定された教科書のページを読み、授業に臨むこと。復習として、授業内容に基づく英文を音読し録音したものをClassroomに提出すること。音読課題には、個別にフィードバックを行う。課題は30分～1時間程度を要する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内課題（リフレクションを含む）30%、毎時の課題（音声ファイルの作成 / 問いに対するミニレポート）30%、最終パフォーマンス課題（レシテーション）40%

<教科書>

静哲人（2019年1月19日） 日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる発音の教科書 テイエス企画

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	初回ガイダンス・音読練習	成績、評価、授業運営などの説明・自分が音読した録音を聞くことで、苦手とする発音等を自覚し、する
2	発音について知っておきたい基礎基本①	正しい発音の習得がなぜ、どのように重要なのかを知る
3	発音について知っておきたい基礎基本②	アブクド読み、母音と子音の切り離し、子音連鎖、リンキング
4	英語の文でメリハリをつけるコツ	アクセントとリズム、あいまい母音シュワ
5	日本人が苦手な音①	r, l など
6	日本人が苦手な音②	th, f, v など
7	発音の細部①	弱形（じゃけい）
8	発音の細部②	とても似ていて異なる音の区別
9	発音の細部③	シュワの脱落、融合同化、飲み込まれる音、帯気音、たたき音、品詞によってアクセントの位置が変わってくるもの
10	リズムとイントネーション①	ビート、フォーカス語
11	リズムとイントネーション②	複合語のアクセント、フォーカスを変えると意味ニュアンスが変わってくるもの、リズム（等間隔）、旧情報・新情報、ダウングレード現象
12	発音・プロソディに関する分析	すべての英語音素を含む歌のディクテーション、映画のナレーションを使った発音練習
13	レシテーションコンテストに向けた準備	有名なスピーチの練習
14	ジグソー・リスニング	聞き手に配慮して話す練習（キーワードやフォーカス語を強調して発音する）
15	レシテーションコンテスト	これまでに身につけた発音・プロソディに関する知識・技能を活用するパフォーマンス課題
16		

科目コード	22204				区 分	専門基礎			
授業科目名	運動・健康の理解 [FE2331組用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の概要は、近代化に伴い社会環境や人々の生活様式は大きく変化、価値観も多様化、このような中で近年、子どもの体力は長期的に低下傾向にある。その解消において生涯にわたって心身ともに健康的に生きていくための基礎的なからだづくりを小学校学習指導要領に基づいて各領域やその特性や楽しむ方法について学んでいく。

<授業の到達目標>

本授業の目標は、健康に対する基礎知識と運動（身体活動）に対する基礎知識を合わせて小学校学習指導要領に基づいて学び、小学校体育科の目標、内容、各運動領域について指導法や考え方など発達段階に応じた、体育の授業を構成していく為の知識や技術を修得することを目的としている。

<授業の方法>

授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行い、レポートにまとめていく。※レポートはWordで作成し所定のDropboxに投函に投函すること。また実技に関しては、必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。安全面からアクセサリなどの装着は厳禁とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。（毎回、1時間程度）復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにてまとめ、次週に提出する。（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢 20%、課題レポート 30%、実技試験 50%の到達度評価とする。

<教科書>

文部科学省 2014.6 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社

高橋建夫 2010.10 新版 体育科教育学入門 大修館書店

江口泰正 中田由夫2018.2 産業保健スタッフ必携 職場における身体活動・運動指導の進め方 大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	第1回は本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育科の目標と内容について	小学校学習指導要領 小学校体育科の目標と内容について現代社会の成り立ちから起こる運動不足とその効果について学ぶ。
3	体づくり運動	体ほぐしの運動のように楽しさと心地よさを求める運動と体力を高める為の運動との狙いの違いを実技を通して考えてみる。
4	ボール運動①-1（ゴール型）	ボールゲームからの導入。ミニサッカー、サッカー
5	ボール運動①-2（ゴール型）	ボートボールからの導入。バスケットボール
6	ボール運動②（ベースボール型）	フットベースボールからの導入。ソフトボール
7	ボール運動③-1（ネット型）	ソフトバレーボールから導入。バレーボール
8	ボール運動③-2（ネット型）	卓球・バトミントン
9	陸上運動①（トラック）	リレー・ハードル
10	陸上運動②（フィールド）	三段跳び・五段跳び・走り幅跳び
11	器械運動①-1（マット運動）	器械運動①-1（マット運動）
12	器械運動①-2（マット運動）	技の組み合わせ、連続技の実践
13	器械運動②（跳び箱）	基本技の修得
14	器械運動③（鉄棒）	基本技の修得
15	総括	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と原理の両面から各種目から見た運動と健康について各自が得た「学び」を確認、その学びを言語化。その為「将来小学校教師として教えたい運動と健康」と言う論題で小論文を作成。将来的な展望を实践に結び付ける。
16		

科目コード	21328				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論 [C]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では教員（幼・小・中・高）に必要な教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。そのために「教育課程の意義」「教育課程の編成方法」「カリキュラム・マネジメント」の3つの視点から授業を展開する。

<授業の到達目標>

本講義の終了時に学生は、以下の3点を自分の言葉で説明できる。①教育課程の歴史と意義。②カリキュラムに関する基礎理論を活用した教育課程編成の実際と方法。③カリキュラム・マネジメントの意義。

<授業の方法>

講義では、ワークシート、資料、パワーポイントを使用する。学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。なお受講にあたってはパソコン必携とする。課題の管理、資料、ワークシート等の配布 Google Classroom上の質問・フォーム等を使用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、予習（60分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習（60分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課するため、合計30時間の予習・復習が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で作成する個人課題・グループワーク課題・教育課程モデル作成（60%）、学期末試験（40%）。教育課程表は、A理論（教育課程編成の基礎理論・概念の使用状況）、B実践（実際に実践可能な計画か）、Cオリジナリティー（自分自身の理想の教育が表現されているか）の3つの観点から採点する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』 建帛社
2024年4月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	教育課程の変遷	戦前の教育課程（江戸末期から太平洋戦争終戦まで）
3	学習指導要領の変遷①	戦中から戦後の教育改革（軍事主義から民主主義へ）
4	学習指導要領の変遷②	経験主義の教育課程
5	学習指導要領の変遷③	高度経済成長と系統主義の教育課程
6	学習指導要領の変遷④	新しい学力観と生きる力の教育課程
7	新しい教科をつくろう①	教科の成立要件と新しい教科の可能性
8	新しい教科をつくろう②	教育課程編成の基本原則（経験カリキュラムと教科カリキュラム）
9	新しい教科をつくろう③	グループ対抗新しい教科コンテスト
10	就学前教育の目標・内容・方法	幼稚園教育の実際（ビデオ分析）
11	遊びによる学びの実際	幼児教育カリキュラムの分析
12	カリキュラム・マネジメント①新しい学校の教育課程構造図をつくろう	教育課程の実際（全体計画・学年・学期）
13	カリキュラム・マネジメント②新しい学校の教育課程構造図をつくろう	単元指導計画・本時指導案
14	カリキュラム・マネジメント③新しい学校の教育課程構造図をつくろう	カリキュラム編成の要素、潜在的カリキュラムへの配慮、新しい学校の教育課程構造図の作成
15	教育課程の課題と評価	対象理解・目標・内容・評価の実際
16		

科目コード	13106				区分	専門基礎			
授業科目名	現代企業論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	履修必修

<授業の概要>

オムニバス形式で、『日本経済新聞』の読み方を、外部講師が解説。2年生が対象。

<授業の到達目標>

『日本経済新聞』が理解できる基礎力がつき、現代社会で起こっている社会・経済問題のポイントが理解できるようになる。

<授業の方法>

オムニバス形式の講義

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

最初の講義で指示する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最初の講義で指示する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	40201				区 分	コア			
授業科目名	バスケットボールⅡ(応用)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールⅠの基本的な競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけた上で、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を応用し、身につけた力でゲームを実践的に楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙い

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。2 バスケットボールにおける発展的な競技特性や競技ルールを十分に理解することができる。3 個人技術や集団戦術の応用に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールⅠでの技能・ルール・用具に関して把握しておくこと。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%（個人＋集団）、実技40%（平常スキル＋スキルテスト）、知識レポート10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	バスケットボールの成立、基本技術の確認と発展技術の習得（1）	バスケットボールⅠより発展的な競技特性について解説、ボールハンドリング技術、ドリブル技術の練習
3	発展的なルール名称・発展技術の習得（2）	バスケットボール競技の発展的なルールの内容と名称を知る。応用的なパス技術の練習
4	発展技術の習得（3）	シュート技術の練習①
5	発展技術の習得（4）	シュート技術の練習②
6	発展技術の習得（5）	シュート技術の練習③
7	発展技術の習得（6）	ディフェンス技術の練習（発展）
8	発展集団技術の習得（1）	2対1等の攻防（ハーフコート・オールコート）
9	発展集団技術の習得（2）	3対2等の攻防（ハーフコート・オールコート）
10	発展集団戦術の習得（3）	実践的な条件設定での2対2、3対3の練習①（ハーフコート・オール）
11	発展集団戦術の習得（3）	実践的な条件設定での2対2、3対3の練習②（ハーフコート・オール）
12	リーグ戦（1）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
13	リーグ戦（2）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
14	リーグ戦（3）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
15	まとめ	スキルテスト
16		

科目コード	27203				区分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

<授業の概要>

捻挫における発生机序、症状、治癒形態といった概要について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学習する。各論においては顎関節、頸部（胸部も含む）、腰部で生じる捻挫について学習する。

<授業の到達目標>

捻挫は臨床現場で関わることが多い運動器疾患の一つである。捻挫を生じる組織の種類、症状、治癒機序等について機能解剖学、生理学、運動学的視点より理解し、論理的思考を習熟させることを目標とする。また、競技者の外傷予防の概論について理解し、アスレティックトレーナー実習等における理論的背景について理解することを目標とする。

<授業の方法>

冒頭に前回の授業範囲から小テストを実施する。動画や資料については必要に応じてGoogle classroomなどで配信する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義受講前には必ず解剖学、生理学（骨、筋肉、神経）に関する予習を実施すること。前回の授業範囲から確認テストを実施するので、復習しておく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30% 小テスト20% 評価試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2022） 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2016） 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2020） 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

<参考書>

全国柔道整復学校協会（2020） 整形外科学 改訂第4版 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	運動生理学の概要（1）	運動が生体に与える影響運動とエネルギー代謝
2	運動生理学の概要（2）	運動と骨・筋肉運動と呼吸・循環
3	運動生理学の概要（3）	運動とホルモン競技者の運動生理学的特徴
4	競技者の外傷予防（概論）（1）	競技者の外傷予防の概要外傷の発生要因
5	競技者の外傷予防（概論）（2）	外傷の予防対策
6	頸部捻挫（1）	頸部周囲組織（神経）の確認
7	頸部捻挫（2）	寝違え、むちうち損傷
8	頸椎部の神経損傷（1）	外傷性腕神経叢麻痺、副神経麻痺
9	頸椎部の神経損傷（2）	長胸神経、分娩麻痺、頸髄損傷（総論）
10	頸部の疾患（1）	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア
11	頸部の疾患（2）	胸郭出口症候群
12	腰部捻挫（1）	腰部周囲組織の確認、腰痛症
13	腰部捻挫（2）	腰椎椎間板ヘルニア、脊椎分離すべり症
14	腰部捻挫（3）	変形性脊椎症（腰部脊柱管狭窄症）、梨状筋症候群
15	まとめ	総合評価
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	管理会計				担当者名	大池 淳一			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。そのため「簿記入門」「簿記演習」「財務会計」「原価計算」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」を履修済みである必要がある。管理会計は利益の獲得を目指して企業活動を合理的に展開するために必要な会計情報を経営者に提供することを目的としている。本科目では、特に標準原価計算による原価管理、直接原価計算による利益計画を理解し、日商簿記検定2級の問題を活用し実践力を養う。

<授業の到達目標>

① 管理会計の基本的な概念や理論の習得すること。② 管理会計における諸技法の基本的な計算の仕組みを理解すること。③ 管理会計によって得られた情報を、どのようにして経営の改善に結びつけるか理解すること。④ 日商簿記検定2級を履修者全員が受験し合格すること。

<授業の方法>

① 授業の方法は、テキストに従い主に講義形式（問題演習の性質も有する）で行う。② 理解を促進させるために必要な問題演習に取り組む。③ 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 本科目に関して、週に予習（テキストを読み、要点整理・ノート作成を行う。計算問題があれば行う。）3時間、復習（要点再整理）1時間を費やす必要がある。レポート作成がある場合は別に時間を必要とする。③ 「簿記入門」「簿記演習」「財務会計」「原価計算」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」を履修しておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/3/13) 2024年度版スッキリわかる日商簿記2級工業簿記 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、管理会計とは
2	管理会計の意義	財務会計と管理会計、管理会計の体系、業績評価会計、意思決定会計
3	現代における原価計算と管理会計	原価計算、管理会計、財務会計
4	原価の概念と分類	原価の一般概念、諸概念
5	標準原価計算①	原価管理の意義、標準原価計算の意義・目的
6	標準原価計算②	標準原価差異分析
7	損益分岐点分析①	原価の固定分解、損益分岐点の意義
8	損益分岐点分析②	損益分岐点図表、シミュレーション
9	直接原価計算①	直接原価計算の意義、計算構造、利用目的
10	直接原価計算②	直接原価計算と外部報告、経営管理
11	問題演習①	第4問・第5問対策
12	問題演習②	第4問・第5問対策
13	問題演習③	第4問・第5問対策
14	総合演習①	日商簿記検定2級総合問題
15	総合演習②	日商簿記検定2級総合問題
16		

科目コード	32304				区分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [FE2332組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

<授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

<授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
16		

科目コード	28113				区 分	専門基礎			
授業科目名	プロジェクト研究				担当者名	小堀 浩志／大池 淳一			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、「社会調査」や「マーケティング」に関するプロジェクトテーマに沿った研究活動について、教員による指導を行う。学生は、ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・プロジェクト等の体験的学習を通じて、現代社会における問題の発見やその解決策を探るための基礎力を養い、教員からのフィードバックを最終結果に反映させながら、問題設定の考え方、問題の解決策、結果発表等のスキルを身につける。

<授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（F科目）である。手法や技術の学習と実習により「社会調査」や「マーケティング」に関するプロジェクトを行うための基本的な知識と実践方法を習得する。受講生が持つ対象フィールドへの問題意識に対して、調査計画を立て、調査を行い、結果をまとめ、発表ができるような力をつけることが目標である。

<授業の方法>

実践的なプロジェクト研究活動方法を身につけるために、まず身近なフィールドの観察と記録、クラスメートインタビューを行いフィールドワークを体験する。その体験をいかし、問題意識を持った現地調査の計画を立て、実施し、調査報告を行う。チームで活動する。企業や店舗の実課題に対して、企業やフィールドへ出かけていき、ヒアリング、質的・量的調査・分析を行いながら、課題解決の提案、実際の解決活動を行う。キックオフミーティング、中間、最終のプレゼンテーションを実施していく。クラスルームを活用しながらチーム内における収集データ、

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループでの調査実施を行うため、調査準備や、調査後のデータ集計や調査報告作成については、授業時間外での活動が必要になる場合が想定される。グループ活動への積極的な関与を求める。演習毎に授業時間外のレポート作成が必要となる（毎週最低でも準備に1時間の予習時間、調査のまとめに1時間の復習時間が必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み：30%、調査報告：20%、レポート：20%、プレゼン30% 6回以上の欠席は評価対象外とする。提出課題は、クラスルームに提出が必要。これは、演習内容の理解と進捗を確認するものである。理解ミスや不足点を各自にクラスルーム上でコメントを返す。また、次週の演習冒頭で宿題・進捗に対するコメントをフィードバックし、理解度と調査内容の完成度を高めていく。

<教科書>

<参考書>

佐藤郁哉（2006） 「フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる」 新曜社
 大谷信介他（2013） 「新・社会調査へのアプローチ—論理と方法」 ミネルヴァ書房
 日経ビジネス編集部 日経ビジネス 日経BP社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業計画、フィールドワークの概要
2	フィールドワークとは何か	社会調査の種類、フィールドワークの位置づけ
3	フィールドワーク事例紹介	実際のフィールドワーク事例を元に、どのような調査手法や技術を用いているかを考える
4	フィールドワークの技術	観察とフィールドノート
5	フィールドの観察と記録	学内または学外を観察し記録する実習を行う
6	フィールドの観察と記録の報告	実習の報告を行う
7	クラスメートインタビュー演習1	面接調査と記録に関する実習
8	クラスメートインタビュー演習2	インタビュー結果を文字化しまとめる
9	問題意識と調査の企画	現地調査を行うための問題意識と仮説設定をグループワークで行う
10	調査票の作成	現地調査のための調査票を作成する
11	調査地での調査1	グループでインタビュー、フィールドノートの作成を行う
12	調査地での調査2	グループでインタビュー、フィールドノートの作成を行う
13	データ分析、調査報告作成1	調査結果分析する
14	データ分析、調査報告作成2	調査結果をまとめる
15	調査報告発表	各グループの調査報告をプレゼンテーション形式で行う
16		

科目コード	39211				区分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅱ(応用) [BC留学生用]				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、専門科目を学んでいく上で必要となるであろう、ディスカッション能力とプレゼンテーション能力の養成を行う。プレゼンテーションについては総合日本語Ⅲでも学ぶが、本科目ではそれをもとに、より分かりやすく魅力的なプレゼンテーションができるように学び、また練習を行う。ディスカッションについても、日本語におけるディスカッションの流れを学び、より円滑に効果的に日本語で議論を行う方法を学び、また実践を行うことによってその能力を身につける。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は、協働の中でアカデミックジャパニーズスキルを養うことである。具体的には(1)指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、(2)テーマ決定から調査発表、ディスカッション、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、(3)日本語での効果的な議論ができるようになること、の3点である。

<授業の方法>

15回の授業を通じて3つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表、ディスカッションを行う。グラフの読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて、ディスカッションをしながら理解を深める。調査と発表の準備はグループ毎の活動であり、授業中に進捗状況の報告を行う。アイス・ブレイキングや読解の理解促進、及び調査発表のために2～3名のグループを作り、毎時間、グループディスカッションの時間を設ける。また、授業時間外でグループで計画的に調査と発表準備を行うことが求められる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習(表現の意味理解)と復習(記憶)が各30分～1時間程度必要である。また、調査や発表準備は、授業内でも時間をとるが、基本的には授業外で行う。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者(授業担当教員を含む)による日本語チェックを行うことを必須とする。また、計3回のレポート作成はいずれも授業時間外での活動である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題完成40%、プレゼンテーション 30%、期末課題(プレゼンテーション、15回目授業内) 30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・坂本まり子・田口典子 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 改訂版 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要説明、食文化(1):導入	授業概要と評価方法に関する説明、語彙と表現の導入、グラフ読み取り
2	食文化(2):読解1、調査準備	大意とり、グループでの調査準備
3	食文化(3):読解2、調査準備	精読、発表に関する説明
4	食文化(4):ディスカッションに関する注意、発表の準備	グループでの発表準備、ディスカッションで用いる表現
5	食文化(5):調査発表	発表とディスカッション
6	食文化(6):フィードバック、レポート作成準備	前回のフィードバック、レポートの説明
7	仕事(1):導入、調査準備	語彙と表現の導入、グラフの読み取り、調査準備
8	仕事(2):読解1	ピア・リーディングによる大意とり
9	仕事(3):読解2、発表準備	精読、発表準備
10	仕事(4):調査発表	発表とディスカッション
11	仕事(5):フィードバック。生活習慣と宗教(1):導入、調査準備	前回のフィードバック、レポートの説明、語彙と表現の導入、調査準備
12	生活習慣と宗教(2):読解1	グラフの読み取り、ピア・リーディングによる大意とり
13	生活習慣と宗教(3):読解2、発表準備	精読、発表準備
14	生活習慣と宗教(4):調査発表	発表とディスカッション
15	生活習慣と宗教(5):フィードバック、レポート作成準備	前回のフィードバック、レポートの説明、総復習
16		

科目コード	21328				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論 [A]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では教員（幼・小・中・高）に必要な教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。そのために「教育課程の意義」「教育課程の編成方法」「カリキュラム・マネジメント」の3つの視点から授業を展開する。

<授業の到達目標>

本講義の終了時に学生は、以下の3点を自分の言葉で説明できる。①教育課程の歴史と意義。②カリキュラムに関する基礎理論を活用した教育課程編成の実際と方法。③カリキュラム・マネジメントの意義。

<授業の方法>

講義では、ワークシート、資料、パワーポイントを使用する。学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。なお受講にあたってはパソコン必携とする。課題の管理、資料、ワークシート等の配布 Google Classroom上の質問・フォーム等を使用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、予習（60分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習（60分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課するため、合計30時間の予習・復習が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で作成する個人課題・グループワーク課題・教育課程モデル作成（60%）、学期末試験（40%）。教育課程表は、A理論（教育課程編成の基礎理論・概念の使用状況）、B実践（実際に実践可能な計画か）、Cオリジナリティー（自分自身の理想の教育が表現されているか）の3つの観点から採点する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』 建帛社
2024年4月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	教育課程の変遷	戦前の教育課程（江戸末期から太平洋戦争終戦まで）
3	学習指導要領の変遷①	戦中から戦後の教育改革（軍事主義から民主主義へ）
4	学習指導要領の変遷②	経験主義の教育課程
5	学習指導要領の変遷③	高度経済成長と系統主義の教育課程
6	学習指導要領の変遷④	新しい学力観と生きる力の教育課程
7	新しい教科をつくろう①	教科の成立要件と新しい教科の可能性
8	新しい教科をつくろう②	教育課程編成の基本原則（経験カリキュラムと教科カリキュラム）
9	新しい教科をつくろう③	グループ対抗新しい教科コンテスト
10	就学前教育の目標・内容・方法	幼稚園教育の実際（ビデオ分析）
11	遊びによる学びの実際	幼児教育カリキュラムの分析
12	カリキュラム・マネジメント①新しい学校の教育課程構造図をつくろう	教育課程の実際（全体計画・学年・学期）
13	カリキュラム・マネジメント②新しい学校の教育課程構造図をつくろう	単元指導計画・本時指導案
14	カリキュラム・マネジメント③新しい学校の教育課程構造図をつくろう	カリキュラム編成の要素、潜在的カリキュラムへの配慮、新しい学校の教育課程構造図の作成
15	教育課程の課題と評価	対象理解・目標・内容・評価の実際
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	経営管理論				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

「経営管理論」は、経営学の中心的な一領域として発展した学問であり、企業の適切な運営を管理するという側面から分析し、考察を行う学問領域である。現代において組織活動に関わらずに生きていくことは不可能であり、組織の活動は私たちの生活に大きな影響を与えている。そのため現代社会を生き抜く私たちは、組織を管理運営するための正しい知識や方法を身につける必要がある。本講義では、経営管理論の基本的な考え方について学び、管理についての実践的な思考を習得することを目指している。また事例として検討しやすい国内外の映画を紹介し、組

<授業の到達目標>

・経営管理論の基本的な考え方を正しく理解することができる。・経営管理についての実践的な思考により、現実の管理における問題・課題に応用することができる。

<授業の方法>

・講義（対面）および演習（グループディスカッション等）によるアクティブラーニングを実施する。・GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有などICTの活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）・グループディスカッション等により理解を深めるが、各学生個人が考え・意見を持ち発表することを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：講義の終わりに課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理及び講義内で紹介した国内外の映画鑑賞（1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・受講態度 30%、リフレクション（振り返り）レポート 30%、最終テスト 40%（配布レジュメ等持ち込み可）講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<参考書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション：経営管理論の全体像(1)	講義の概要（経営管理論とは）、進め方、成績評価について、映画紹介
2	経営管理論の全体像(2)	企業という存在：企業と会社、株式会社の特徴・マネジメント、映画紹介
3	経営管理論の全体像(3)	マネジメントの誕生、科学的管理法、人間関係論、映画紹介
4	経営管理論の全体像(4)	組織マネジメントの展開・価値：個人と組織、存続（誘因と貢献のバランス）、映画紹介
5	内部組織のマネジメント(1)	モチベーション論：実体理論、プロセス理論、映画紹介
6	内部組織のマネジメント(2)	リーダーシップ論：リーダーシップの基礎・研究、コンティンジェンシー理論、映画紹介
7	内部組織のマネジメント(3)	組織構造のマネジメント：組織構造とは、官僚制組織、組織構造の発展、映画紹介
8	内部組織のマネジメント(4)	組織文化のマネジメント：組織文化とは、組織文化の機能と逆機能、映画紹介
9	外部環境のマネジメント(1)	経営組織の環境適応：コンティンジェンシー理論の誕生と発展、映画紹介
10	外部環境のマネジメント(2)	企業戦略のマネジメント：経営戦略とは、ドメインの設定、多角化、映画紹介
11	外部環境のマネジメント(3)	競争戦略のマネジメント：競争優位とは、ポジショニングアプローチ・経営資源アプローチ、映画紹介
12	外部環境のマネジメント(4)	イノベーションのマネジメント：イノベーションとは、人のマネジメントの発生・全体像、映画紹介
13	日本企業のマネジメント(1)	日本企業における人のマネジメント：日本的経営と人のマネジメント、映画紹介
14	日本企業のマネジメント(2)	生産管理とその日本の特徴：2つの大量生産物語、生産管理と経営、映画紹介
15	日本企業のマネジメント(3)	日本企業の財務管理とコーポレート・ガバナンス：日本企業の資本調達、議論、映画紹介全体の振り返り、受講の自己評価
16		

科目コード	28111				区分	専門基礎科目			
授業科目名	世界経済論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界経済の発展、現在の世界経済秩序、各地域の経済問題の基礎を学ぶ。具体的には、世界経済の発展の道筋、現在の世界経済の仕組み、世界のメガ地域の特徴と諸問題を学び、世界で起こっている経済的な動きや問題点が把握できるようにする。

<授業の到達目標>

現代世界経済をとらえる視座を身につけ、世界各地の政治・経済事情への理解を深める。

<授業の方法>

テキスト『世界経済図説（第四版）』を手がかりに、世界経済の全体像、主要な特徴を学ぶ。このテキストでは、世界経済全体の輪郭を学んだ後、国際貿易、国際金融、地域統合、経済制度、デジタル経済、人口、食糧、エネルギー・資源、地球環境、経済危機、世界経済の構造変化を学んでいくが、国際貿易、国際金融などは国際経済学の講義と重複するので、この講義では主に世界のメガ地域の特徴と諸問題に焦点を当てて講義を進める。同時に、『日本経済新聞』を素材に、世界経済のタイムリーなトピックの解説を行い、理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、必ずテキストの該当箇所を事前に予習することを必要とする。予習にはおよそ30分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、30分程度の時間を割くような学習姿勢が求められる。その他、日経ビジネスをはじめ新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくよう心掛けると良い。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート50%、小テスト50%で評価する。授業に関する質問は授業の前後及び教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

宮崎勇・田谷禎三（2020） 世界経済図説 岩波書店(岩波新書)

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	長期的視点で見た世界経済発展の諸段階	世界経済はどのように発展してきたかをデータを元にマクロの視点で捉える。
2	産業革命とボックス・ブリタニカ	資本主義が生まれた産業革命を振り返り、その中でどのようにしてイギリスが台頭してきたかをグローバルな視点から捉える。
3	20世紀初頭における世界経済の再編	20世紀に入り、世界経済はどのように変化したかを解説する。
4	第二次世界大戦後の世界経済の枠組み	二つの大戦を経て、世界経済はどのような世界システムで秩序を維持しようとしたかを振り返る。
5	ボックス・アメリカーナ	第2次世界大戦後、どのようにして米国が台頭したのかを探る。
6	アメリカ経済の衰退	世界に君臨した米国がどのような理由で衰退し始めたのかを解説する。
7	ヨーロッパ経済の発展	ヨーロッパがどのようにして成長し、どのように経済統合を果たしたのかを概説する。
8	20世紀社会主義経済の実験と崩壊	社会主義とはどのような体制だったのか、そしてなぜ崩壊したのかを解説する。
9	中華人民共和国の成立と発展	中華人民共和国の成立過程、台湾問題、体制内改革の現状などを考える。
10	韓国経済の発展	第2次世界大戦後、韓国がどのように発展してきたかを振り返り、韓国経済の構造的問題を考える。
11	世界経済の変貌	米国、中国、欧州、日本の外交戦略、対外経済戦略とグローバルサウスの台頭、ロシアのウクライナ侵攻の世界経済への影響などを考える。
12	世界経済の成長	ローマクラブ報告書「成長の限界」から、最新の分析までを含め、世界経済の成長を全般的に捉え直す。
13	グローバルリゼーション再考	グローバルリゼーションを経済学の視点から再検討する。
14	まとめ	講義を振り返り、要点を再度まとめる。
15	小テスト	小テスト
16		

科目コード	21328				区分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論 [B]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では教員（幼・小・中・高）に必要な教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。そのために「教育課程の意義」「教育課程の編成方法」「カリキュラム・マネジメント」の3つの視点から授業を展開する。

<授業の到達目標>

本講義の終了時に学生は、以下の3点を自分の言葉で説明できる。①教育課程の歴史と意義。②カリキュラムに関する基礎理論を活用した教育課程編成の実際と方法。③カリキュラム・マネジメントの意義。

<授業の方法>

講義では、ワークシート、資料、パワーポイントを使用する。学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。なお受講にあたってはパソコン必携とする。課題の管理、資料、ワークシート等の配布 Google Classroom上の質問・フォーム等を使用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、予習（60分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習（60分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課するため、合計30時間の予習・復習が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で作成する個人課題・グループワーク課題・教育課程モデル作成（60%）、学期末試験（40%）。教育課程表は、A理論（教育課程編成の基礎理論・概念の使用状況）、B実践（実際に実践可能な計画か）、Cオリジナリティー（自分自身の理想の教育が表現されているか）の3つの観点から採点する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』 建帛社
2024年

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	教育課程の変遷	戦前の教育課程（江戸末期から太平洋戦争終戦まで）
3	学習指導要領の変遷①	戦中から戦後の教育改革（軍事主義から民主主義へ）
4	学習指導要領の変遷②	経験主義の教育課程
5	学習指導要領の変遷③	高度経済成長と系統主義の教育課程
6	学習指導要領の変遷④	新しい学力観と生きる力の教育課程
7	新しい教科をつくろう①	教科の成立要件と新しい教科の可能性
8	新しい教科をつくろう②	教育課程編成の基本原則（経験カリキュラムと教科カリキュラム）
9	新しい教科をつくろう③	グループ対抗新しい教科コンテスト
10	就学前教育の目標・内容・方法	幼稚園教育の実際（ビデオ分析）
11	遊びによる学びの実際	幼児教育カリキュラムの分析
12	カリキュラム・マネジメント①新しい学校の教育課程構造図をつくろう	教育課程の実際（全体計画・学年・学期）
13	カリキュラム・マネジメント②新しい学校の教育課程構造図をつくろう	単元指導計画・本時指導案
14	カリキュラム・マネジメント③新しい学校の教育課程構造図をつくろう	カリキュラム編成の要素、潜在的カリキュラムへの配慮、新しい学校の教育課程構造図の作成
15	教育課程の課題と評価	対象理解・目標・内容・評価の実際
16		

科目コード	40102				区分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [他学科 + PP3年生以上]				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的な技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的な技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的な技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート
16		

科目コード	40206				区分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PH男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 両手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10~12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13~14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	34118				区分	コア科目			
授業科目名	保育内容「造形表現」指導法 [FC2321組用]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

保育内容「造形表現」指導法は、こども発達学科の卒業必修科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する専門知識と技術を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する専門知識と技術を身につけようとしている。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備しておくこと。また授業内に作品が完成しない場合は、次回の授業までに作品や課題の折紙ポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験(レポート) 20%、授業課題や折紙ポートフォリオ等、作品の未完成は認めません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させましょう。

<教科書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

<参考書>

村田夕紀 まずは絵あそびから始めよう! 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに
村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	デカルコマニー(合わせ絵)
3	造形表現の教材研究(2)	スタンプ(型押し)
4	造形表現の教材研究(3)	染め紙
5	造形表現の教材研究(4)	絵の具のにじみ絵
6	造形表現の教材研究(5)	ビー玉ころがし
7	造形表現の教材研究(6)	パチック(はじき絵)
8	造形表現の教材研究(7)	パスの混色・重ね描き
9	造形表現の教材研究(8)	パスのステンシル・指ぼかし
10	造形表現の教材研究(9)	フロッタージュ(こすり出し)
11	造形表現の教材研究(10)	糸引き絵
12	造形表現の教材研究(11)	ドリッピング
13	造形表現の教材研究(12)	紙コップ工作
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り
15	全体総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
16		

科目コード	34119				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「音楽表現」指導法 [FC2322組用]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

<授業の到達目標>

幼稚園教育要領、保育所保育指針より領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児教育において音楽表現の果たす役割、効果について学修を深める。保育者として子どもたちに表現することの楽しさを伝えるためには、自身が楽しむことが重要です。楽しく音楽表現を行うため、歌唱を通して、正しい知識と技能を修得し、実践を通じた豊富な経験を身に付けることを目標としたい。

<授業の方法>

講義と演習を繰り返しながら、保育教育に必要な様々な音楽表現の習得を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義では楽譜などを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的に確認テストを行う。次週課題（事前予告）の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 30%、講義内での課題、レポート提出 20%、実技発表（模擬保育形式） 20%、実技テスト 30%

<教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著（発行2015年8月10日 初版第1刷） 一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現 萌文書林

細田淳子（発行2019年1月10日） 手あそび・体あそび・わらべうたがいっぱいあそびうた大全集200 永岡書店

<参考書>

発行2017年6月1日 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 チャイルド本社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ
2	基礎的な音楽表現①	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現①
3	基礎的な音楽表現②	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現②
4	基礎的な音楽表現③	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現③
5	子どもの発達と音楽表現①	幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現
6	子どもの発達と音楽表現②	「表現」とは
7	子どもの発達と音楽表現③	音楽の力
8	子どもの発達と音楽表現④	ユニバーサルデザインの音楽表現
9	子どもの発達と音楽表現⑤	音楽表現とコミュニケーション
10	子どもの発達と音楽表現⑥	リズムの力手話を活用した音楽表現①
11	子どもの発達と音楽表現⑦	豊かな心の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現②
12	子どもの発達と音楽表現⑧	ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現③
13	子どもの発達と音楽表現⑨	認知や社会性の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現④
14	保育実践演習	保育における音楽表現の実践演習
15	保育実践演習と総括	保育教育実習で活用できる音楽表現（手遊び歌）による実技試験と本講義のまとめ
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	マーケティングリサーチ				担当者名	大池 淳一			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

市場のニーズに適合する新商品を開発したり、発売された商品が顧客満足を提供しているかを調べる際、市場調査が行われる。市場調査には大きく2つの方法(定量調査と質的調査)がある。これら2つの方法をバランスよく組み合わせることで、現実を反映した調査が可能になる。アンケートおよびインタビュー調査の手法を理解することを実践的に学習する。

<授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目(B科目)である。経験と勘だけでは正確な判断、正しい決断が難しくなってきた。現在のマーケティングは、データ解析の時代に入っている。本講義では、特に市場調査法の習得に力点を置いて、調査企画・設計に関する演習(実習)を行う。到達目標は、必要な調査を企画・設計、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力習得である。

<授業の方法>

自分のノートPCを授業【PC演習時】に持ってこられること、MS-Excelを使用して適宜実習を行う。使用するファイルはクラスルームで配信するので事前にダウンロードして持ってくる。質的調査と量的調査の概念を含めて目的、歴史、事例の整理と理論の紹介する座学、理論仮説の構築、作業仮説の構築、問題を図式化、先行研究を調査、調査票の設計、調査の注意点。グループでブレインストーミングも含めた演習、作成した質問紙を用いた調査、エディティング、転記作業、コーディング、データ入力、クリーニング、ロジカルチェック、PCを

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回、次週の学習範囲を明示する。授業で積極的に発言できるように次週のテーマに関わる情報収集の準備をすること(毎週最低でも1時間の予習が必要)。また、講義の重要ポイントに関わる宿題を出す。次週の講義までに提出することが必要である(毎週最低でも1時間の復習時間が必要)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト:60%、授業貢献度・意欲 40%(質問紙作成、毎週の宿題・課題提出を含む)。6回以上の欠席は評価対象外とする。提出課題は、クラスルームの「授業」で出される。これは、毎週の授業内容の理解を確認するものである。理解ミスや不足点などについてのコメントが授業およびクラスルームでされる。また、次週の講義冒頭で課題に対する解説を行い理解を促進させる。

<教科書>

蛭川速/吉原慶(2020/5/16) 基本がわかる実践できる マーケティングリサーチの手順と使い方[定量調査編] 日本能率協会マネジメントセンター

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス(社会調査の歴史・目的・倫理等の説明を含む)	マーケティングリサーチ, 授業の進め方, 成績基準, 諸注意についての説明をする
2	調査テーマの決定	調査テーマ・仮説構成について(ブレインストーミング, 特性要因図, KJ法など)
3	調査対象とサンプリング	サンプリングの種類とその方法, さらにはサンプリングに対応した標本誤差等について解説する。
4	調査の方法	調査の企画と様々な調査法について
5	調査票の作成1	調査票作成(ワーディング, 選択肢, 調査票の項目と構成)についての説明
6	調査票の作成2	具体的なテーマについて調査票作成を行う。実際に表紙(依頼文)、フェイスシート、質問項目などを作成する練習を行う。
7	調査の実施とデータ回収後のエディティング, コーディング, データクリーニング	実際の調査(学生の生活実態調査など)に関してアンケート調査を行い、データを回収後、エディティング, コーディング, データクリーニングを行い、その仕方・注意する事項を理解する。
8	調査データの加工・分析	集計したデータについて単純集計、クロス集計を行う。基本統計量、属性連関係数の導出、グラフ化も行い、予備解析を行う実習をする。
9	[PC演習] 解析手法の適用1	判別分析・数量化2類・決定木分析・コンジョイント分析・ニューラルネットワーク分析からいくつかを選択して実習・解析を解説を行う。
10	[PC演習] 解析手法の適用2	エディティング, コーディング, データクリーニングによるデータ入力・チェックをしながら、回帰分析・数量化I類・ロジスティック回帰・多項ロジット回帰を行う。以下解析手法の適用と解釈の前にエディティング等のチェックを行う。
11	[PC演習] 解析手法の適用3	主成分分析・因子分析・クラスター分析
12	[PC演習] 解析手法の適用4	対応分析・数量化3類・多次元尺度法・数量化4類
13	[PC演習] 解析手法の適用5	バスケット分析・分散分析
14	[PC演習] 解析手法の適用6	共分散構造分析(時間に余裕があれば正準相関分析・階層化意思決定分析を説明)

15	調査報告書のまとめ方	調査の結果について，報告書を作成し，全体のまとめを行う。具体的に学生実態調査，製品購入顧客満足度調査などを例示しながらの説明を行う。
16		

科目コード	32304				区分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [FE2331組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③テキスト2冊④A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

<授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解する。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解する。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現する。

<授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 事前課題への取り組み（1時間）2 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

長谷川祥子編著 はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 明治図書
江守賢治 正しくきれいな字を書くための 漢字筆順ハンドブック【第4版】 三省堂

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	授業記録の取り方	授業記録の取り方等を知り、今後の授業実践に向けて自分の考えをもつ。
12	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
13	模擬授業・授業記録1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	模擬授業・授業記録2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
15	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP用]				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について(1)	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について(2)	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的な技能の複合練習(1)	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習(2)	三段攻撃
8	基本的な技能のまとめ(1)	複合練習と実技テスト
9	基本的な技能のまとめ(2)	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式(1)	リーグ戦
12	試合形式(2)	リーグ戦
13	試合形式(3)	リーグ戦
14	試合形式(4)	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート
16		

科目コード	40206				区分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PH女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われた。「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、相手と攻防を展開する簡易な試合形式の実践練習等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。2) 簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。3) 簡易な試合でのルールや審判法を理解し、昇段を目指している。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 両手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10~12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13~14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	34118				区分	コア科目			
授業科目名	保育内容「造形表現」指導法 [FC2322組用]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

保育内容「造形表現」指導法は、こども発達学科の卒業必修科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する専門知識と技術を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する専門知識と技術を身につけようとしている。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備しておくこと。また授業内に作品が完成しない場合は、次回の授業までに作品や課題の折紙ポートフォリオの製作に取り組む等、準備学習(45分程度)を求めます。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験(レポート) 20%、授業課題や折紙ポートフォリオ等、作品の未完成は認めません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させましょう。

<教科書>

村田夕紀 楽しい”造形”がいっぱい 2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ ひかりのくに
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

<参考書>

村田夕紀 まずは絵あそびから始めよう! 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ ひかりのくに
村田夕紀 低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい! 0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ ひかりのくに

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	デカルコマニー(合わせ絵)
3	造形表現の教材研究(2)	スタンプ(型押し)
4	造形表現の教材研究(3)	染め紙
5	造形表現の教材研究(4)	絵の具のにじみ絵
6	造形表現の教材研究(5)	ビー玉ころがし
7	造形表現の教材研究(6)	パチック(はじき絵)
8	造形表現の教材研究(7)	パスの混色・重ね描き
9	造形表現の教材研究(8)	パスのステンシル・指ぼかし
10	造形表現の教材研究(9)	フロッタージュ(こすり出し)
11	造形表現の教材研究(10)	糸引き絵
12	造形表現の教材研究(11)	ドリッピング
13	造形表現の教材研究(12)	紙コップ工作
14	まとめと作品鑑賞	演習の振り返り
15	全体総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
16		

科目コード	34119				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「音楽表現」指導法 [FC2321組用]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

<授業の到達目標>

幼稚園教育要領、保育所保育指針より領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児教育において音楽表現の果たす役割、効果について学修を深める。保育者として子どもたちに表現することの楽しさを伝えるためには、自身が楽しむことが重要です。楽しく音楽表現を行うため、歌唱を通して、正しい知識と技能を修得し、実践を通じた豊富な経験を身に付けることを目標としたい。

<授業の方法>

講義と演習を繰り返しながら、保育教育に必要な様々な音楽表現の習得を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義では楽譜などを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的に確認テストを行う。次週課題（事前予告）の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 30%、講義内での課題、レポート提出 20%、実技発表（模擬保育形式） 20%、実技テスト 30%

<教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著（発行2015年8月10日 初版第1刷） 一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現 萌文書林

細田淳子（発行2019年1月10日） 手あそび・体あそび・わらべうたがいっぱいあそびうた大全集200 永岡書店

<参考書>

発行2017年6月1日 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 チャイルド本社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ
2	基礎的な音楽表現①	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現①
3	基礎的な音楽表現②	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現②
4	基礎的な音楽表現③	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現③
5	子どもの発達と音楽表現①	幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現
6	子どもの発達と音楽表現②	「表現」とは
7	子どもの発達と音楽表現③	音楽の力
8	子どもの発達と音楽表現④	ユニバーサルデザインの音楽表現
9	子どもの発達と音楽表現⑤	音楽表現とコミュニケーション
10	子どもの発達と音楽表現⑥	リズムの力手話を活用した音楽表現①
11	子どもの発達と音楽表現⑦	豊かな心の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現②
12	子どもの発達と音楽表現⑧	ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現③
13	子どもの発達と音楽表現⑨	認知や社会性の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現④
14	保育実践演習	保育における音楽表現の実践演習
15	保育実践演習と総括	保育教育実習で活用できる音楽表現（手遊び歌）による実技試験と本講義のまとめ
16		

科目コード	36504				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主となるスポーツ外傷の病態、評価方法及び重篤な外傷・年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴の習得することをねらいとする。

<授業の到達目標>

日本体育協会アスレティックトレーナー試験に合格できるよう知識を習得すること。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書、配布資料等を用いて予習し、事前課題を提出し、授業中に行う小テストに備える。授業で学んだ内容を復習し、期末テストに備える。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題15%、定式試験85%事前課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには、減点します。欠席課題は、欠席授業回の事前課題と授業配布資料の空欄をうめて提出すること。提出のない場合は欠席扱いとする。

<教科書>

日本体育協会 スポーツ外傷・障害の基礎知識

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ外傷・障害総論 (1)	スポーツ外傷・障害の基礎知識 等
2	上肢のスポーツ外傷・障害 (2)	肩関節脱臼 等
3	上肢のスポーツ外傷・障害 (3)	下腿の外傷 等
4	上肢のスポーツ外傷・障害 (4)	投球障害肩 等
5	上肢のスポーツ外傷・障害 (5)	足部の疲労骨折 等
6	上肢のスポーツ外傷・障害 (6)	手指 等
7	上肢のスポーツ外傷・障害 (7)	手指骨折 等
8	体幹のスポーツ外傷・障害 (1)	頸椎捻挫 等
9	体幹のスポーツ外傷・障害 (2)	腰椎椎間板ヘルニア 等
10	体幹のスポーツ外傷・障害 (3)	腰椎分離症 等
11	体幹のスポーツ外傷・障害 (4)	鼠径部通症候群 等
12	下肢のスポーツ外傷・障害 (1)	大腿四頭筋肉離れ 等
13	下肢のスポーツ外傷・障害 (2)	大腿部その他の外傷 等
14	下肢のスポーツ外傷・障害 (3)	膝前十字靭帯断裂 等
15	下肢のスポーツ外傷・障害 (4)	膝後十字靭帯断裂 等
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	行政法 I				担当者名	山本 満理子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

行政法には、憲法典・民法典・刑法典といった一般的な法典が存在していません。したがって、行政法を理解するためにはさまざまな個別法に共通する基本事項・基本原理をまず把握することが求められます。そこで、当該科目においては、行政法の基礎として、行政と法とのかかわりや行政活動の担い手などについて学んでいきます。なお、本講義は、行政法の初学者にとってもわかりやすいよう、基礎的事項について平易な解説を行います。将来公務員試験を希望する学生が基本的知識を習得できることも目指します。

<授業の到達目標>

行政法の基礎をふまえたうえで、現代行政の実態に即した法理論のあり方を理解する。

<授業の方法>

授業は、原則として講義形式で行います。講義内容は、行政法に関する基礎知識の整理、行政法の基礎理論および行政制度など社会人として備えておくべき知識について学習していきます。また、授業内で講義内容に関するクイズを出し、クラスルームを通じて回答を求めることもあります。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読しておく（60分）復習：教科書の該当箇所を熟読する（60分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

<教科書>

野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎（2023年3月）『有斐閣ストウディア 行政法 [第3版]』 有斐閣

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進行方法および行政法の学習方法および評価方法について解説します。
2	行政と法	行政と法の関係について学ぶ
3	行政法の法源	行政法の根拠はどこにあるのか検討します。
4	行政活動の担い手	行政活動の担い手である法人を行政主体（行政体）について学びます。
5	行政過程と法①	行政組織目標を社会的現実に変換させる過程および法律による行政の原理について学びます。
6	行政過程と法②	行政手続の意義および機能について学びます。
7	行政過程と法③	情報公開とはなにか、個人情報とはどのように保護されるのかなど行政情報管理について学びます。
8	行政過程と法④	行政調査の法的統制や違法調査の法効果など行政調査について学びます。
9	行政行為①	行政行為の意義や性質、種類、その効力について学びます。
10	行政行為②	行政裁量および行政行為の瑕疵について学びます。
11	行政行為③	行政行為の職権取消および撤回について学びます。
12	行政立法	行政立法（行政基準）の意義および法規命令と行政規則の異同について学びます。
13	行政計画	行政計画の意義・機能、種類、その法律上の根拠および行政計画に対する手続的統制・司法的統制について学びます。
14	講義内容のまとめ	これまでの講義内容をまとめ、授業内試験についての諸注意をアナウンスします。
15	授業内試験	授業内試験および総括
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	国際経済学				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

国際経済はめまぐるしく変化している。その変化に対して諸国の関係の在り方や問題の対処が問われている。そうした状況下で、国家間の経済関係がどのようにあるのかを知ることはきわめて重要である。国際経済学では、複数の国が存在するとき、貿易、為替レート、所得がどのように決まるのか、経済政策はどのような効果があるのかということを考える分野である。

<授業の到達目標>

本講義では、理論と現実の経済の動きからさまざまな国際的な経済関係を理解し意見を述べるができることを目的とする。

<授業の方法>

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行う。適宜、質疑を交えて履修者の意見を求め、その内容を授業に取り入れながら進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：授業のテーマの内容を調べる（30分程度）事後学習：授業の内容を確認しその理解を深める（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲40%、課題提出20%、最終課題40%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	国際経済学とは	国際経済学で学ぶことを解説する。
2	経済学の基本的な考え方と国際取引	国際取引の分類、統計から見る国際取引
3	貿易の利益とは	貿易を行う必要はあるのかを考える
4	貿易の在り方	比較優位の考え方を解説する
5	国際貿易体制の変化	これまでの国際貿易の変遷を解説する
6	外国為替市場、為替レートとは	為替レートは何か、その制度について解説する
7	為替レートと貿易の関係	為替レートの変化によって貿易がどのような影響を受けるのかを考える
8	為替レートの基本 (1)	購買力平価について解説する
9	為替レートの基本 (2)	金利平価について解説する
10	為替レートの決定要因	為替レートはどのように決まるのか、為替介入の効果はあるのかについて考える
11	マクロ経済政策	国際マクロ経済政策の影響について解説する
12	為替相場制度の在り方	国際金融のトリレンマを踏まえ為替相場制度について考える
13	累積債務問題	各国の累積債務問題とその対応について考える
14	現実の国際経済の論点	現実の国際経済問題を取り上げて議論する
15	総括	これまでの講義を踏まえて総括する
16		

科目コード	32301				区分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [他学科A]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の実践編として、主に高学年における社会科のICTを活用した授業設計によって、社会科授業構成能力と授業実践力の向上を図る。特に、教科書と学習指導要領解説を参考に授業を設計して、学習指導案を作成するとともに、授業実践の方法や留意点を習得することを目指す。「社会の理解」の学習成果を生かした内容となっているので、まず「社会の理解」の受講を優先させること。

<授業の到達目標>

社会科教育法においては、「社会の理解」の学習成果を生かし、小学校社会科における目標や内容、授業実践について考察するとともに、小学校社会科の授業設計と授業分析の実践的能力を身に付けることを目標とする。

<授業の方法>

小学校社会科の実践編として、授業設計（教材研究および学習指導案の作成）と模擬授業に重点をおいた内容である。社会科授業構成能力や授業実践力とともに、ICT活用指導力の向上を図ることのできる講義とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校高学年の学習指導案を作成する。（約1時間半）そのために、社会科教科書と学習指導要領解説を熟読し、教材研究を行う。（約1時間半）教科書だけではなく、地図帳や資料集なども活用した授業設計を行うようにする。大体3名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、模擬授業のリハーサルに全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できるよう自主練習を重ねる。（週2時間程度×3週）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業関連40%、定期試験50%、主体的に学習に取り組む態度10% で評価する。

<教科書>

大石 学 小学社会3年～6年 教育出版
 文部科学省 小学校社会学習指導要領解説社会 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要 本授業を貫く追究テーマの設定
2	社会科の授業設計理論（1）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
3	社会科の授業設計理論（2）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
4	社会科の授業設計理論（3）	教材研究と模擬授業計画
5	模擬授業（第1グループ）	学生の模擬授業
6	模擬授業（第2グループ）	学生の模擬授業
7	模擬授業（第3グループ）	学生の模擬授業
8	模擬授業（第4グループ）	学生の模擬授業
9	模擬授業（第5グループ）	学生の模擬授業
10	模擬授業（第6グループ）	学生の模擬授業
11	模擬授業（第7グループ）	学生の模擬授業
12	模擬授業（第8グループ）	学生の模擬授業
13	模擬授業（第9グループ）	学生の模擬授業
14	社会科における学習評価	評価の見とりについて-モデレーションの実施-
15	社会科教育の総括	社会科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
16		

科目コード	32300				区分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [他学科B]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	21328				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論 [D]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では教員（幼・小・中・高）に必要な教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。そのために「教育課程の意義」「教育課程の編成方法」「カリキュラム・マネジメント」の3つの視点から授業を展開する。

<授業の到達目標>

本講義の終了時に学生は、以下の3点を自分の言葉で説明できる。①教育課程の歴史と意義。②カリキュラムに関する基礎理論を活用した教育課程編成の実際と方法。③カリキュラム・マネジメントの意義。

<授業の方法>

講義では、ワークシート、資料、パワーポイントを使用する。学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。なお受講にあたってはパソコン必携とする。課題の管理、資料、ワークシート等の配布 Google Classroom上の質問・フォーム等を使用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、予習（60分程度必要）すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習（60分程度）が必要な箇所を指示する。これを15コマ課するため、合計30時間の予習・復習が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で作成する個人課題・グループワーク課題・教育課程モデル作成（60%）、学期末試験（40%）。教育課程表は、A理論（教育課程編成の基礎理論・概念の使用状況）、B実践（実際に実践可能な計画か）、Cオリジナリティー（自分自身の理想の教育が表現されているか）の3つの観点から採点する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』 建帛社
2024年4月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	教育課程の変遷	戦前の教育課程（江戸末期から太平洋戦争終戦まで）
3	学習指導要領の変遷①	戦中から戦後の教育改革（軍事主義から民主主義へ）
4	学習指導要領の変遷②	経験主義の教育課程
5	学習指導要領の変遷③	高度経済成長と系統主義の教育課程
6	学習指導要領の変遷④	新しい学力観と生きる力の教育課程
7	新しい教科をつくろう①	教科の成立要件と新しい教科の可能性
8	新しい教科をつくろう②	教育課程編成の基本原則（経験カリキュラムと教科カリキュラム）
9	新しい教科をつくろう③	グループ対抗新しい教科コンテスト
10	就学前教育の目標・内容・方法	幼稚園教育の実際（ビデオ分析）
11	遊びによる学びの実際	幼児教育カリキュラムの分析
12	カリキュラム・マネジメント①新しい学校の教育課程構造図をつくろう	教育課程の実際（全体計画・学年・学期）
13	カリキュラム・マネジメント②新しい学校の教育課程構造図をつくろう	単元指導計画・本時指導案
14	カリキュラム・マネジメント③新しい学校の教育課程構造図をつくろう	カリキュラム編成の要素、潜在的カリキュラムへの配慮、新しい学校の教育課程構造図の作成
15	教育課程の課題と評価	対象理解・目標・内容・評価の実際
16		

科目コード	23409				区分	発達障害児教育総論			
授業科目名	発達障害児教育総論 [FE用]				担当者名	松本 好生			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

<授業の概要>

現在は、発達障害を知らずして、特別支援教育はあり得ないとまで言われる時代に突入している。そうしたなかで、特別な支援を必要とする児童・生徒がもつ感覚器官の特殊性などに起因する障害特性を理解することまでが教育現場で求められている。障害がある児童・生徒が、学習活動に参加していることへの実感や到達課題への達成感が的確に獲得できるように、幼児期、学童期、思春期、青年期のライフステージごとの発達課題を踏まえて、我々の文化のなかでの生きにくさを軽減するための工夫や特別支援教育に必要な基礎知識、および教育現場での具体的

<授業の到達目標>

1. 特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の概念の歴史を理解する。2. 特別な支援を必要とする児童・生徒の障害特性を理解する。3. 特別な支援を必要とする児童・生徒への具体的な支援技法を理解する。4. 知的な遅れはないが、特別な教育的ニーズのある児童・生徒への合理的配慮など、その対応法について理解する。

<授業の方法>

・パワポによる視覚化を活かして講義する。・必要に応じて、その都度、資料を配布することもある。・適宜小テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・授業で出てくる専門用語を理解しておくこと。・授業後は、配信された資料と授業の内容を理解しておくこと。・適宜小テストを実施するので、知識を確実なものにしておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席状況 10%、定期試験 90%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	・オリエンテーション・特別支援教育とは	授業の進め方についてのガイダンス
2	共生社会とインクルージョン	・共に生きる社会とインクルージョンは異なることの理解・「インクルージョン」「インクルーシブ教育」とは
3	障害がある子どもの教育とその歴史	特殊教育から特別支援教育への変遷を理解する。
4	肢体不自由者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
5	病弱者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
6	重度重複障害者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
7	知的障害者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
8	発達障害の歴史と概念の変遷	・「発達障害」という概念の混乱（欧米の障害体系とわが国の違い）・カナー、Lから、ラター、Mの発達障害は「脳の機能障害説」へ
9	発達障害はPDDからASDの時代へ	カテゴリー的アプローチからディメンジョン的アプローチへ
10	発達障害の障害特性（ASD）	「心の理論障害」を踏まえたASDの障害特性を理解する。
11	発達障害の障害特性（ADHD）	ADHD（注意欠如多動症）の障害特性を理解する。
12	発達障害の障害特性（ADHD）	ADHD（注意欠如多動症）の支援技法を理解する。
13	発達障害の障害特性（LD）	LD（限局性学習症）の障害特性と支援技法を理解する。
14	不適応を示す行動の分析法	応用行動分析とTEACCHプログラムから対応法を理解する。
15	個別教育支援計画と指導計画と学級経営の手法	個別教育支援計画と個別指導計画の理解と、それを策定するに当たっての手順と配慮事項に基づく学級づくりについて理解する。
16		

科目コード	23409				区 分	コア科目			
授業科目名	発達障害児教育総論 [他学科]				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、言語障害、情緒障害の要因となる脳機能及びそれらに起因する行動の特性を把握することの意義と方略を理解するとともに、障害に伴う行動上の問題に対する指導・支援方法の基礎を学ぶ。

<授業の到達目標>

この授業は、教育場面や実生活で出会う発達障害を理解し、必要な指導・支援ができることを目指して幅広く知識を獲得する。発達障害の要因となる脳機能及びそれらに起因する行動上の問題に対する指導・支援方法の基礎を学ぶ。特別な指導や支援の経験のある教員が実践的指導を行う。

<授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため、1～1.5時間程度の予復習をすることが望ましい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験50%、小レポート・小テスト40%、授業態度10%で評価する。

<教科書>

適宜資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	発達障害と社会	発達障害にみられる症状の連続性とそれらの社会的認識について理解する。
2	学習障害(LD)の理解と指導・支援	学習障害の定義やその症状の理解をするとともに、具体的な指導・支援について理解する。
3	注意欠如・多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援	ADHDの定義やその症状の理解をするとともに、具体的な指導・支援について理解する。
4	自閉症スペクトラム障害の理解	自閉症スペクトラム障害の定義やその症状、それらの症状に関連する脳基盤について理解する。
5	自閉症スペクトラム障害の指導・支援	自閉症スペクトラム障害の神経心理学的理解をもとに、その障害特性に応じた指導・支援について理解する。
6	発達性協調運動障害の理解と指導・支援	発達性協調運動障害に関する神経心理学的理解をもとに、具体的な支援について理解する。
7	言語障害・情緒障害の理解と指導・支援	言語障害・情緒障害の具体的事例を通じて、その概要の理解と支援について理解する。
8	トゥレット障害、強迫性障害の理解と指導・支援	トゥレット障害、強迫性障害の具体的症例を取り上げ、それらの障害特性と適切な支援について理解する。
9	二次障害の理解と指導・支援	環境要因による二次的な困難発生の機序と適切な指導・支援のあり方について理解する。
10	観察や諸検査にみる発達障害の特性と指導・支援	自閉スペクトラム症やLD、ADHDにみられる諸検査成績の特徴と成績に応じた支援の考案の方法について理解する。
11	通級による指導や特別支援学級における自立活動の指導	発達障害に対する自立活動の指導を中心とした通級指導教室や特別支援学級における指導について理解する。
12	通常学級における発達障害のある子どもの指導と支援	インクルーシブな教育環境における発達障害への対応について、具体的な活動設定や教材使用のあり方を理解する。
13	通常学級の指導における自立活動の指導	通常学級における実現可能な自立活動の指導のあり方について理解する。
14	発達障害のある子どもの自立活動の指導における個別の指導計画	自立活動の指導の基本的な考え方を念頭にしつつ、通常教育における発達障害のある児童の重点課題の設定の仕方について理解する。
15	特別支援教育のセンター的機能と諸機関との連携	特別支援学校や医療・福祉期間等と通常教育場面の連携の意義と効果について理解する。
16		

科目コード	25201				区分	専門基礎科目			
授業科目名	体育社会学				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代において、スポーツは私たちの生活に深く根ざしている。日常生活の至る所でスポーツに関連する情報に触れることができる一方で、スポーツの大衆化と機能の拡大は多様な社会問題を引き起こしている。近年の例を挙げれば、暴力に関する問題や、オリンピックと政治の問題、運動部活動の運営問題など、スポーツの抱える問題も膨大となっている。スポーツに関わる中では、そうした社会事象とも無関係であることはできず、無視することもできない。スポーツを考える際の基礎的な知識を身に付け、考察する方法を学ぶ必要がある。本授業では、スポーツ社

<授業の到達目標>

スポーツへの関わり方は十人十色であり、一つの事象に対する見解や意見も多種多様である。そうした状況の中で互いに理解を深めるには、自らの意見や感覚を論理的に説明し、他者との意見交流によって相対化することで認識を深める過程が重要である。加えて、特定の社会集団で共通してみられる傾向や偏りを見抜き、因果を理解することも重要である。本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる事象を社会学の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ社会学の視点を理解した上で、論理的かつ建設的に他者と意見の交

<授業の方法>

本授業は、主に参考資料やパワーポイントを用いた講義形式で進めるが、授業内容を深化させるため、ディベートやグループワークを適宜取り入れる。各授業回の終わりには、その日の学びを確認するための簡易テストや、テーマに基づいた意見を述べるオンラインテストを実施する。なお、一部は次回の授業において受講者全体に紹介しつつフィードバックコメント（基本的にGoogle Formを活用）を行う。課題の作成や資料、授業内容の共有については、主にGoogleクラスルームを通じて行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>スポーツや社会問題を扱った新聞等に注意を払い興味があれば詳細を調べておくこと。（1時間）事前課題が課される回は授業前に提出すること。<事後学習>授業で学んだ観点から新聞等を再度見てみる。授業後に調べたことなどがあれば積極的にコメントシートに記述すること。コメントの内容はスプレッドシートで全体に公開するため、他の受講者のコメントを読み、適宜再コメントを行うこと。授業で得た知見を積極的に日常での実践に活用すること。（1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、【各回での確認シートおよび授業態度 50%、試験（論述レポート型） 50%】の配分で評価する。授業内での発言やコメントシートでの意見、考察が論理的であるかを重視する。試験では、知識量よりも論理的思考能力や、自分なりの（個別具体的な）考察が行えているかを重視する。

<教科書>

特になし（参考書を参照のこと）

<参考書>

多木浩二(1995) スポーツを考える—身体・資本・ナショナリズム 筑摩書房
山田明編 (2020) 未来を拓くスポーツ社会学 みらい

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体育・スポーツ社会学とは	社会学の対象としての体育およびスポーツ「体育・スポーツの社会学」における視角
2	体育・スポーツの世界の生きづらさ	学校体育、運動部活動、運動会の現代的課題体育・スポーツの社会システム
3	メディアとスポーツ	物語（言説）の生産と消費情報社会化するスポーツ
4	ジェンダー・人種・身体とスポーツ	社会的マイノリティの葛藤とスポーツ実践スポーツのカテゴライズ機能、言説の生産と消費
5	逸脱行為（ドーピング）とスポーツ	競技生活者の葛藤とスポーツ実践スポーツにおける不正行為と正当性、妥当性
6	相互行為としてのスポーツ	トップ指導者の葛藤と実践柔道指導者の事例からみる感情労働と社会的行為
7	スポーツの表象と「まなざし」	スポーツ界からの発信と社会通念の介入社会から「監視」されるスポーツ
8	身体感覚と身体知・身体技法	技の習得とその視点東洋的身体技法、ボディワークの社会実践柔術から柔道、そしてJUDOへ
9	障がい者とスポーツ・パラリンピック	社会モデルと医学モデルマイノリティのスポーツから見えるスポーツの性質、排除と包摂
10	政治とスポーツ（ナショナリズム）	スポーツの政治利用スポーツと平和・戦争
11	商業主義とスポーツ	資本主義とスポーツの関係金儲けの対象としてのスポーツ
12	開発主義とスポーツ	スポーツを通じた開発、スポーツによる開発メガスポーツイベントと社会的なインパクト
13	環境問題とスポーツ	スポーツによる環境問題・環境問題によるスポーツへの影響自然環境とスポーツ
14	社会階級とスポーツ	社会階級（階層）文化とスポーツの性向（好み）身体と習慣、文化資本
15	授業のまとめと振り返り・到達度確認テ	授業のまとめ、ふりかえり、到達度の測定

科目コード	40102			区 分	コア科目				
授業科目名	バレーボール I (基礎) [他学科+PP3年以上用]			担当者名	清田 美紀				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多様なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。そこで本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味わえるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

映像や資料を用いて、バレーボールについての理解を深める。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域 10%、態度的領域 60%、技能的領域 30%とする。知識的領域では、基本的なルールの理解や授業で触れた内容理解の状況の評価する。レポートやフォームへの記入内容による。態度的領域では、授業での主体的な取り組みや出席状況の評価する。技能的領域は、実技テストによる。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	ウォーミングアップの具体的な方法の理解と実践
4	基本的な技能について①	レシーブ、トス
5	基本的な技能について②	サーブ、スパイク
6	基本的な技能の複合練習①	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習②	相手コートへの攻撃
8	基本的な技能のまとめ	複合練習と実技テスト(1回目)
9	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
10	試合形式①	リーグ戦
11	試合形式②	リーグ戦
12	試合形式③	リーグ戦
13	大会運営の方法と計画立案及び実技テスト	大会を運営する、「支える」方法について知り、グループごとに運営計画を立案する実技テスト(パス、スパイク等の基本的な技能)
14	担当グループによる大会運営	バレーボール大会の自主的な運営
15	まとめ	授業の総括・まとめ
16		

科目コード	40119				区 分	コア			
授業 科目名	ラグビー [男子用]				担当者名	小村 淳			
配当年次	カリキュラ ムにより異 なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ルールやラグビーの原理原則を資料とし、配付し事前学習を行う。実技などを撮影し映像でのレビューを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦
16		

科目コード	53026				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅱ				担当者名	河野 儀久／簗戸 崇史			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定について、その目的と意義を理解して具体的に実践できるまでの能力を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

関節可動域測定法、徒手筋力検査法、スポーツ動作分析など各種検査測定手法ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

コンディショニングルーム、実技実習室内で講義・実習を進めていく。適宜レポート提出、復習テストなどを?う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にテキストを読み、機能解剖学の復習を60分以上行い授業を受講すること。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員の取得すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、レポート）、検査測定実技達成度 70%で評価する。

<教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ATに必要な評価	ATによる評価の目的、意義および役割
2	ATに必要な検査・測定の手法①	姿勢・アライメントの観察、計測方法
3	ATに必要な検査・測定の手法②	関節弛緩性に関する検査方法
4	ATに必要な検査・測定の手法③	関節可動域の検査方法
5	ATに必要な検査・測定の手法④	筋タイトネスの検査方法
6	ATに必要な検査・測定の手法⑤	筋委縮や筋肥大の測定方法
7	ATに必要な検査・測定の手法⑥	徒手筋力検査の測定方法
8	ATに必要な検査・測定の手法⑦	機器を用いた筋力および筋持久力の測定方法
9	ATに必要な検査・測定の手法⑧	全身持久力の測定方法
10	ATに必要な検査・測定の手法⑨	身体組成の測定方法
11	ATに必要な検査・測定の手法⑩	各測定方法のまとめ
12	スポーツ動作の観察・分析①	歩行動作、走動作の分析方法
13	スポーツ動作の観察・分析②	投動作の分析方法
14	スポーツ動作の観察・分析③	ストップ、方向転換動作の分析方法
15	まとめ	検査・測定と評価における総合実習
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	応用マクロ経済学				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

企業をとりまく経営環境は、日々、変化している。社会人として、社会、経済の動向を的確に把握するためのメディアリテラシーは、必須のスキルである。本講義では、日経新聞電子版を活用しつつ、実際の新聞記事を読みながら日本経済の動向、企業の経営環境、各種の諸問題について考察していく。本講義の授業内容は、【現代企業論】の講義との連携を前提とした内容となっている。そのため、【応用マクロ経済学】を受講する学生は、【現代企業論】を同時に履修すること。また、本講義では日経新聞電子版が利用できることを前提としているため、受講

<授業の到達目標>

・調査対象、問題・課題等に対して、情報を調べて取捨選択し、分析評価して活用することができる。・PC、タブレット、スマートフォンを用いて日経新聞電子版を使用することができる。・習熟度試験にて、大学生としてふさわしい水準に到達する。

<授業の方法>

・毎回の講義では、【現代企業論】の講義内容に併せて、その内容の解説、事例等の検討を行う。・日経新聞電子版を使用し、個々の受講生が情報を検索しつつ、授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：講義時に指示したテキストの該当部分を読んでおくこと(毎回30分)②復習：配布プリントの重点箇所を中心として、理解を深めておくこと(毎回30分)③課題：参考書または講義時に指定した図書・文献等をもとにまとめること(毎回30分)④その他：日常的に世界経済の動向に関する報道をチェック、ノートの整理(毎回30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト30%、各授業における課題の提出・内容30%、授業への参加姿勢40%。なお、レポート等についてはその都度模範解答を提示・説明する。

<教科書>

初回の講義で指示する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、学修環境の確認
2	メディアリテラシー1	情報検索、収集方法
3	メディアリテラシー2	情報の整理、分析
4	メディアリテラシー3	分析方法の紹介、活用
5	マクロ経済データ1	マクロ経済指標
6	マクロ経済データ2	マクロ経済指標とその情報検索
7	マクロ経済データ3	マクロ経済指標の情報分析
8	マクロ経済データ4	各国のマクロ経済指標の情報検索と分析
9	中間試験	
10	企業・業界の情報分析1	業種・業界ごとの情報収集と整理
11	企業・業界の情報分析2	業種・業界ごとの情報分析
12	企業・業界の情報分析3	企業情報の収集と整理
13	企業・業界の情報分析4	企業情報の分析
14	総括	
15	習熟度試験	
16		

科目コード	32301				区分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [他学科B]				担当者名	鉦 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の実践編として、主に高学年における社会科のICTを活用した授業設計によって、社会科授業構成能力と授業実践力の向上を図る。特に、教科書と学習指導要領解説を参考に授業を設計して、学習指導案を作成するとともに、授業実践の方法や留意点を習得することを目指す。「社会の理解」の学習成果を生かした内容となっているので、まず「社会の理解」の受講を優先させること。

<授業の到達目標>

社会科教育法においては、「社会の理解」の学習成果を生かし、小学校社会科における目標や内容、授業実践について考察するとともに、小学校社会科の授業設計と授業分析の実践的能力を身に付けることを目標とする。

<授業の方法>

小学校社会科の実践編として、授業設計（教材研究および学習指導案の作成）と模擬授業に重点をおいた内容である。社会科授業構成能力や授業実践力とともに、ICT活用指導力の向上を図ることのできる講義とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校高学年の学習指導案を作成する。（約1時間半）そのために、社会科教科書と学習指導要領解説を熟読し、教材研究を行う。（約1時間半）教科書だけではなく、地図帳や資料集なども活用した授業設計を行うようにする。大体3名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、模擬授業のリハーサルに全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できるよう自主練習を重ねる。（週2時間程度×3週）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業関連40%、定期試験50%、主体的に学習に取り組む態度10% で評価する。

<教科書>

大石 学 小学社会3年～6年 教育出版
 文部科学省 小学校社会学習指導要領解説社会 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要 本授業を貫く追究テーマの設定
2	社会科の授業設計理論（1）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
3	社会科の授業設計理論（2）	学習指導案の作成方法と模擬授業計画
4	社会科の授業設計理論（3）	教材研究と模擬授業計画
5	模擬授業（第1グループ）	学生の模擬授業
6	模擬授業（第2グループ）	学生の模擬授業
7	模擬授業（第3グループ）	学生の模擬授業
8	模擬授業（第4グループ）	学生の模擬授業
9	模擬授業（第5グループ）	学生の模擬授業
10	模擬授業（第6グループ）	学生の模擬授業
11	模擬授業（第7グループ）	学生の模擬授業
12	模擬授業（第8グループ）	学生の模擬授業
13	模擬授業（第9グループ）	学生の模擬授業
14	社会科における学習評価	評価の見とりについて-モデレーションの実施-
15	社会科教育の総括	社会科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
16		

科目コード	32300				区分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [他学科A]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等
16		

科目コード	21330				区分	専門基礎科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 [FE用][A]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

<授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、授業のリフレクション30%、レポート(学習指導案等)40%

<教科書>

文部科学省(平成30年2月28日) 小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	32402			区分	コア科目				
授業科目名	体育実技の指導法			担当者名	柴山 慧				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校における体育の授業において、必要となってくる考え方や指導法について、実技を中心に体験し、適切な体育指導の方法について学習する。

<授業の到達目標>

指導計画に基づいて各テーマ毎、具体的に学習、即現場で対応出来るよう、まずは教師として手本を見せる技術を習得したうえで、出来るところから指導出来る技術を身に付ける。具体的には以下の4点を到達目標とする。・マット運動の指導に必要な技能と指導方法を身に付けることができる。・陸上運動の指導に必要な技能と指導方法を身に付けることができる。・ダンスの指導に必要な技能と指導方法を身に付けることができる。・障がい者スポーツの指導に必要な技能と指導方法を身に付けることができる。

<授業の方法>

文部科学省の「学習指導要領」に基づいた教科内容について講義をし、指導内容、教材、教育方法、授業づくりなどについての理解、理論に基づいた実践を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の進行に伴い、教科書、参考書を熟読、各領域の学習指導内容に対する理解も一緒に行えるようにすること。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

体育教師として授業に臨む姿勢30%、毎時の実技評価50%、課題レポート 20%にて総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省(2018年2月28日) 小学校学習指導要領解説 体育編 東洋館出版社

<参考書>

白旗和也(2012年4月2日) これだけは知っておきたい「体育」の基本 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、目標、計画、内容、指導方法、評価方法、小学校教員として必要な体育教師の資質・能力について
2	体育科の目標と内容	学習指導要領に基づき小学校体育科の目標と内容について学習し、体育の授業を通して、① 「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)、② 「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)、③ 「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)、④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」(子供の発達を踏まえた指導)、⑤ 「何が身に付いたか」(学習評価の充実)、⑥ 「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために
3	マット運動についての授業方法と実践①	マット運動についての一般的な授業方法や指導方法について学習する。
4	マット運動についての授業方法と実践②	マット運動の授業の新しい学習方法について学習する。例：シンクロマット、ジグソー法、ICT機器の活用など
5	マット運動についての授業方法と実践③	マット運動の授業について、履修者が考えた授業方法を実践する。
6	陸上運動についての授業方法と実践①	陸上運動の一般的な授業方法について理解する。
7	陸上運動についての授業方法と実践②	陸上運動の授業の新しい方法について学習する。例：リズムに着目したハードルの指導方法、共走をテーマにした持久走など
8	陸上運動の授業方法と実践③	陸上運動について、履修者が考えた授業方法を践する。
9	ゲームの授業方法と実践①	ゲームの一般的な授業方法について学習する。
10	ゲームの授業方法と実践②	ゲームの授業の新しい方法について学習する。例：タグラグビー、テニピンなど
11	ゲームの授業方法と実践③	ゲーム運動について、履修者が考えた新しい授業方法を実践する。
12	障がい者スポーツの授業方法と実践①	障がい者スポーツの一般的な授業方法について学習する。例：ボッチャ
13	障がい者スポーツの授業方法と実践②	障がいの程度に応じた授業の方法について考察する。例：ゴールボール
14	障がい者スポーツの授業方法と実践③	障がい者スポーツについて、履修者が考えた授業方法を実践する。
15	総括	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と原理の両面から体育実技の指導法について各自が得た「学び」を確認、その学びを言語化する。
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP用]				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について(1)	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について(2)	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的な技能の複合練習(1)	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習(2)	三段攻撃
8	基本的な技能のまとめ(1)	複合練習と実技テスト
9	基本的な技能のまとめ(2)	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式(1)	リーグ戦
12	試合形式(2)	リーグ戦
13	試合形式(3)	リーグ戦
14	試合形式(4)	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート
16		

科目コード	40119				区 分	コア			
授業 科目名	ラグビー [女子用]				担当者名	小村 淳			
配当年次	カリキュラ ムにより異 なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ルールやラグビーの原理原則を資料とし、配付し事前学習を行う。実技などを撮影し映像でのレビューを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦
16		

科目コード	53072				区分	コア			
授業科目名	保育マネジメント演習Ⅱ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育マネジメント1に続き、保育現場がどのように運営されているかを、観察および振り返りを中心として学び、実践力と運営力を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。特に保育マネジメントⅡでは、保育内容・保育の質に焦点を当てて、観察を行う。

<授業の到達目標>

①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては、観察の態度、視点、考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育の参加しない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができているか、また考察は飛躍せず内容が十分なもの

<授業の方法>

保育観察を基本とする。場合によっては、現場保育者へのヒアリング、研修会への参加を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

観察のポイントに関する事前学習を行うこと。また観察後は事後学習として振り返りを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

○事前学習課題（2点×10回）、△観察課題（2点×5回）、

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

下肢はヒトとしての特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、股関節、膝関節（膝蓋骨含む）、足関節、足部（足趾を含む）における脱臼の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、脱臼の発生機序、症状を説明できる。2. 脱臼の状態から治療指針について判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義に対する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、1時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90%，学習意欲10%で評価する。

<教科書>

柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	脱臼（1）	脱臼の定義、分類、症状、整復障害因子について
2	股関節脱臼（1）	股関節の機能解剖、股関節脱臼の概説
3	股関節脱臼（2）	股関節脱臼の種類、症状、応急手当について
4	股関節脱臼（3）	股関節後方脱臼の概要と症状、整復について
5	股関節脱臼（4）	股関節前方脱臼の概要と症状、整復について
6	股関節脱臼（5）	中心性脱臼の概要と症状、治療指針について
7	膝関節脱臼（1）	膝関節の機能解剖、膝関節脱臼の概説
8	膝関節脱臼（2）	膝関節前方脱臼の概説および症状、整復について
9	膝関節脱臼（3）	膝関節後方脱臼の概説および症状、整復について
10	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼の概要と症状、整復について
11	足関節脱臼（1）	足関節脱臼および脱臼骨折の概要、症状、整復法、治療指針について
12	足関節脱臼（2）	足根骨脱臼（ショパール関節、リスフラン関節脱臼含む）の概要、症状、治療指針について
13	足関節脱臼（3）	足趾脱臼の概要、症状、整復法および固定法について
14	まとめ（1）	股関節～膝関節（膝蓋骨脱臼含む）についての復習
15	まとめ（2）	足関節～足趾脱臼についての復習
16		

科目コード	28100				区分	専門基礎			
授業科目名	現代ビジネス概論				担当者名	小川 正人			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ビジネスで重要なことは「お金を稼ぐ」ということである。資本・人材・資源という資源を使ってどのようにお金を稼ぐかということを探り、資本主義社会では「競争」がある。時代のニーズを捉え、ターゲットを特定し、価格や販売戦略を確定し、広告や宣伝によって消費者に認知させ、販売チャネルを構築し、商品やサービスを提供する。ICTの進歩やコロナによる社会変動などにより、ビジネスも変化をしている。これからの時代を意識した「ものの見方」を本講義を通じて培ってもらいたい。また理解度を高めるために小テストを行う予定。

<授業の到達目標>

普段の生活でさまざまなビジネスを意識できるようになること。自分の人生や進路に関してしっかりと考えられる土台を創ること。

<授業の方法>

知識を一方向的に伝授するのではなく、学生参加型の講義を目指す。講義中に色々なビジネスの実例に関して考えてもらう。また小テストを行うので毎回の授業の復習をきちんと行うこと。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の復習が大切。また、授業中に紹介した本などをどんどん読んでいくとよい。小テストを目標にするとよい。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加・貢献度40%、授業課題60%

<教科書>

<参考書>

池田芳彦(2020年3月12日) 現代ビジネス用語事典 日本文芸社

成美堂出版編集部(2022年4月30日) いまさら聞けない ビジネス用語BOOK 成美堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	・ビジネスとは何か・学習の方法
2	ビジネスとは何か	・ビジネスとお金・ビジネスとボランティア・資源
3	ひとりビジネス	・アフィリエイト・インフルエンサー・ネットビジネス
4	組織とビジネス	・組織の種類・企業とビジネス・NPO
5	商品開発	・ニーズとシーズ・模倣・イノベーション・マーケットリサーチ
6	マーケティング	・価格戦略・販売戦略・広告戦略
7	流通(ロジスティックス)	・販売チャネル・ファブレス・卸売と小売
8	ビジネスを取り巻く外部環境(1)	・景気・為替・事件
9	・ビジネスを取り巻く外部環境(2)	・模倣・競争(企業内・企業間・国際間・AI VS ヒト)・競争戦略
10	組織と人材	・HRM・賃金・給料・採用戦略・リストラ・失業
11	これからのビジネス	・外部環境の変化・ライフスタイルの変化・ビック・データとAI・副業
12	ファイナンス	資金の調達の方法に関して
13	企業倫理	不祥事、隠蔽などの問題はなぜ起こるか。ケーススタディ。
14	現代企業の問題	時事的な問題をケースとして用いて、企業と社会の問題を考える
15	まとめ	授業の振り返り
16		

科目コード	28122				区 分	コア科目			
授業科目名	ビジネス心理学				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

「ビジネス心理学」は、産業活動に従事（労働）する人や組織に関する心理学の分野であり、多様な研究領域によって構成されている。主に「組織に所属する人々の行動の特性や心理を研究する“組織行動”」「組織経営の礎となる人事評価や処遇、人材育成について研究する“人的資源管理”」「働く人々の安全と心身両面の健康保持・促進の方策について研究する“安全衛生”」「成果の高いマーケティング戦略に生かすための消費者心理や宣伝・広告の効果を研究する“消費者行動”」の4つの領域である。学生のほとんどは、卒業後に就職し、組織（企業・団

<授業の到達目標>

「ビジネス心理学」における代表的な4つの研究領域について、基本的な理論や概念を理解し、自身の言葉で説明できるようになること、及び将来の働き方や労働環境を考え、「経営とワークライフ」についての知識を深めることを目標とする。

<授業の方法>

講義は対面授業およびグループディスカッション等によるクティブラーニングを実施する。GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有などICT活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）グループディスカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち、発表することを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自身の将来の働き方や労働環境をイメージし、それらに関する興味・関心のある業界、職業、企業、組織等について、日頃から積極的にメディアなどで情報を収集しておくこと（1時間程度必要）。復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎授業時の「リフレクション（振り返り）シート」60%※提出をもって出席とする授業への取り組み状況20%期末試験（配布レジュメ・プリント持ち込み）20%

<教科書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<参考書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：講義の内容、成績評価の基準	イントロダクション 「ビジネス心理学」の4つの領域とは 「組織行動」「人的資源管理」「安全衛生」「消費者行動」
2	経営とワークライフ「HRM：人的資源管理」①	採用と面接～就職活動では何を問われているのか
3	「OB：組織行動」①	ワーク・モチベーション～やる気いっばいで働くには
4	「OB：組織行動」②	組織の情報処理とコミュニケーション～正確な情報共有と組織の的確な判断のために
5	「SH：安全衛生」①	仕事の能率と安全～生産性と安全性は両立するのか
6	「SH：安全衛生」②	職場の快適性・疲労・ストレス～毎日健康に働くために
7	「HRM：人的資源管理」②	キャリアの展開と生涯発達～人生をどう歩むか
8	「OB：組織行動」③	組織の変革と管理者のリーダーシップ～組織やチームを健全な成長へと導くには
9	HRM：人的資源管理③	人事評価～公平な評価のために考えるべきこと
10	「CB：消費者行動」①	消費者行動～消費者心理がわかったら何の役に立つのか
11	「CB：消費者行動」②	消費者の価格判断と心的会計～「安い」「高い」とどうして思うのか
12	「CB：消費者行動」③	消費者の意思決定過程～消費者はどのような決め方をしているのか
13	「SH：安全衛生」③	人間工学～ヒトの特性とモノのデザイン
14	日本企業の様々な変化	ビジネス心理学の理解と活用
15	総括（まとめ）	全体の振り返り、受講自己評価
16		

科目コード	37200				区分	コア科目			
授業科目名	スポーツイベント論 [eスポーツ]				担当者名	平岡 師玄哉/小堀 浩志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、世界各国で話題になっている「eスポーツ」(electronic sports)は、国内においても注目されており、日本のコンテンツ市場においても今後の成長分野として期待されている。eスポーツ(esports)とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称である。我が国におけるeスポーツの歴史と今後の展望、またeスポーツそのものを理解し、実際にイベントの企

<授業の到達目標>

- ① eスポーツや取り巻く環境について理解する。
- ②実際にeスポーツイベントを企画し運営する。
- ③イベントを通して、マネタイズや課題解決について実践的に学び、理解する。

<授業の方法>

この科目では、12月～1月にかけて、岡山県eスポーツ連合と岡山市ふれあい公社の協力のもと、一般の65歳以上の方を対象に、実際にイベントを実施する。については、この科目の履修条件として、イベントの企画案を作成して、提出することを条件とする。企画書はA4用紙1枚程度にまとめる、企画を考えるにあたって、あなた自身が企画するとして、イベントの目的、規模、イベントの内容、どこで、どのような競技を実施するか、その他等々を具体的に記載して提出すること。提出先は、クラスルームに登録をして(クラスコード【k5zbyq6】)、

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の事前調査及び事後調査を行うため、調査準備や、調査後のデータ集計や調査報告作成については、授業時間外での活動が必要になる場合が想定される。グループ活動への積極的な関与を求める。演習毎に授業時間外のレポート作成が必要となる(毎週最低でも準備に1時間の予習時間、調査のまとめに1時間の復習時間が必要)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み:30%、レポート:30%、イベントの運営40%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・講師紹介	eスポーツの定義・授業の説明・イベントの開催、運営について
2	eスポーツを取り巻く環境について	市場規模、eスポーツ連合、法律について
3	スポーツとeスポーツの比較	フィジカルスポーツ運営について
4	eスポーツの現状	プロからみる日本のeスポーツについて
5	eスポーツイベント企画	企画書作成、許諾申請、運営マニュアルについて
6	企画検討会に向けてグループワーク	1～4回までの講義を踏まえてイベント関連のビジネスを考える
7	企画検討会に向けてグループワーク	プレゼン準備
8	プレゼン発表(企画検討会)	全体で企画の検討を行う
9	イベント準備	イベント実施に向けて役割分担、許諾申請、プレスリリースについて
10	イベント準備	各役割準備、デモ
11	イベント実施	イベントの運営
12	イベント実施	イベントの運営
13	イベント実施	イベントの運営
14	イベントの振り返り	発表に向けての準備
15	成果発表	講評
16		

科目コード	21330				区分	専門基礎科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 [FE用][B]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

<授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、授業のリフレクション30%、レポート（学習指導案等）40%

<教科書>

文部科学省（平成30年2月28日） 小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	36506				区分	コア科目			
授業科目名	検査・測定と評価Ⅱ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義、6つのスポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的および体力的要因を説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ動作の観察と分析(1)	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	スポーツ動作の観察と分析(2)	歩行動作のバイオメカニクス
3	スポーツ動作の観察と分析(3)	歩行動作に影響する要因
4	スポーツ動作の観察と分析(4)	走動作のバイオメカニクス
5	スポーツ動作の観察と分析(5)	走動作に影響を与える機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
6	スポーツ動作の観察と分析(6)	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス
7	スポーツ動作の観察と分析(7)	ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム
8	スポーツ動作の観察と分析(8)	跳動作のバイオメカニクス
9	スポーツ動作の観察と分析(9)	跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
10	スポーツ動作の観察と分析(10)	投動作のバイオメカニクス
11	スポーツ動作の観察と分析(11)	投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム
12	スポーツ動作の観察と分析(12)	あたり動作のバイオメカニクス
13	スポーツ動作の観察と分析(13)	あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなあたり動作の特徴とメカニズム
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	スポーツ動作の観察・分析に関する総合討議
16		

科目コード	40102				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP用]				担当者名	清田 美紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域10%は、基本的なルールの理解や授業で触れた内容に関するレポート作成の状況について、態度的領域60%は、授業での主体的な取り組みの態度や出席状況について、技能的領域30%は実技テストにより評価する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容についての説明と導入バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	ウォーミングアップの具体的な方法の理解と実践
4	基本的な技能について①	レシーブ、トス
5	基本的な技能について②	サーブ、スパイク
6	基本的な技能の複合練習①	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習②	相手コートへの攻撃
8	基本的な技能のまとめ①	複合練習と実技テスト(1回目)
9	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
10	試合形式①	リーグ戦
11	試合形式②	リーグ戦
12	試合形式③	リーグ戦
13	大会運営の方法と計画立案及び実技テスト	・大会を運営する、「支える」方法について知り、グループごとに運営計画を立案する。 ・実技テスト(パス、スパイク等の基本的な技能)
14	担当グループによる大会運営①	バレーボール大会の自主的な運営
15	まとめ	授業の総括・まとめ
16		

科目コード	40120				区 分	コア科目			
授業 科目名	サッカー [PP女子用]				担当者名	降屋 丞			
配当年次	カリキュ ムにより異 なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。(2時間)
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	34114				区分	コア			
授業科目名	保育内容「言葉」指導法				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

乳幼児に言葉を「指導」とはいかなることか。ここで想定されているのは、就学後の指導とは異なる事態であろう。しかしいずれの場合であっても、そもそも保育者の側が指導すべき内容である言葉を適切に用いることができなければならないと考えられる。そこで本授業は、乳幼児が言葉に触れる媒体の1つである「物語」に着目し、それを通じて指導内容としての言葉を理解していく。

<授業の到達目標>

①様々な児童文化財の相違点を理解し、それぞれを適切に使いこなすことができる。②オリジナルな物語を作成できる。⑤②で作成した物語の「おはなし（素話）」を行うことができる。

<授業の方法>

アクティブラーニングの手法を用いる。課題管理はGoogle Classroomを使用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定された事柄について調べ自分なりの考えを持っておく。（1時間）復習：各回で学んだり行った事柄について復習する。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価70%、期末試験30%

<教科書>

<参考書>

馬見塚昭久、小倉直子 編著（2022年1月） 保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	5領域の1つとしての「言葉」について理解する
2	絵本（1）	児童文化財としての絵本について学ぶ
3	絵本（2）	図書館で絵本を探す
4	絵本（3）	グループごとに絵本の読み聞かせを行う
5	紙芝居（1）	児童文化財としての紙芝居について学ぶ
6	紙芝居（2）	図書館で紙芝居を探す
7	紙芝居（3）	グループごとに紙芝居の上演を行う
8	言葉遊び（1）	児童文化財としての言葉遊びについて学ぶ
9	言葉遊び（2）	図書館やインターネットで言葉遊びを探す
10	言葉遊び（3）	グループごとに言葉遊びを行う
11	おはなし（1）	児童文化財としてのおはなしについて学ぶ
12	おはなし（2）	グループごとに既存の物語のおはなしを行う
13	おはなし（3）	グループごとにオリジナルな物語を作成する
14	おはなし（4）	グループごとにオリジナルな物語のおはなしを行う
15	総括	授業全体を振り返る
16		

科目コード	38401			区分	コア科目				
授業科目名	武道指導論〔剣道〕			担当者名	平田 佳弘				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、それぞれ柔術・剣術から生まれ、戦う方法であった柔術・剣術を、嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求

<授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

<授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を教時間実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に、本時の内容に関する全日本柔道連盟、全日本剣道連盟のHP、また、柔道及び剣道に関する書籍を読んでおくこと。（1時間程度）復習：事後課題の完成、グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982 五輪書 徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。
16		

科目コード	38401				区分	コア科目			
授業科目名	武道指導論 [柔道]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、それぞれ柔術・剣術から生まれ、戦う方法であった柔術・剣術を、嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求

<授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

<授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を教時間実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に、本時の内容に関する全日本柔道連盟、全日本剣道連盟のHP、また、柔道及び剣道に関する書籍を読んでおくこと。（1時間程度）復習：事後課題の完成、グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982 五輪書 徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。
16		

科目コード	40120				区 分	コア科目			
授業 科目名	サッカー [PP女子用]				担当者名	降屋 丞			
配当年次	カリキュ ムにより異 なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。(2時間)
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方
16		

科目コード	52005				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導 I A (保育所)				担当者名	檜 日佳 / 小崎 遼介 / 宮原 舞 / 塚本 千晴 / 服部 由美子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習 I Aの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと(60分) 復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、整理し、課題をすること(60分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、チーム貢献度10%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育実習委員会(2023) 保育実習の手引き

<参考書>

厚生労働省(2018) 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府(2018) 認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標実習園希望調査
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の理解と保育の目標子どもとの関わり方、保育士等の社会的責任
5	指導案の作成(1)	子どもの姿とねらい、環境構成、活動の流れ
6	指導案の作成(2)	保育士の援助・配慮、作成上の留意事項
7	保育教材の作成(1)	シルエットクイズの作成と発表
8	保育教材の作成(2)	ペーパーサートの作成と発表
9	模擬保育(1)	模擬保育と振り返り(1)
10	模擬保育(2)	模擬保育と振り返り(2)
11	模擬保育(3)	模擬保育と振り返り(3)
12	実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習日誌の書き方	実習中のメモの取り方と日誌の書き方エピソード記録と考察の書き方の演習
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成
16		

科目コード	39106				区分	専門基礎			
授業科目名	日本語教育概論 I				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

近年、日本語教育の現場と日本語学習者の多様化は著しく進んでおり、日本語教師には幅広い知識と、その知識をもとにそれぞれの現場に柔軟に対応する力が求められる。授業では、日本語教師の資質、国内と海外の日本語教育の現状、世界と日本の社会や文化など、日本語教育を取り巻く様々な情報を資料やデータに基づいて概説する。また、講義内容をもとに各自が調べ、発表することにより、理解を深める。

<授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 日本語教育を取り巻く様々な情報を整理し、全体像を把握する。2. 日本語教師に求められる資質について考え、日本語教師になる心構えを作る。3. 日本語教師になるために大学生活をどう過ごし、いつ何をすべきかについて考える。

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲40%，プレゼンテーション30%，期末課題30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。期末課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション日本語教育の概況	授業の概要と評価方法
2	日本国内の日本語教育事情（1）	日本の留学生施策
3	日本国内の日本語教育事情（2）	多様化する日本語学習者
4	日本国内の日本語教育事情（3）	学生による調査発表：日本語教師とは（1）
5	日本国内の日本語教育事情（4）	学生による調査発表：日本語教師とは（2）
6	海外の日本語教育事情（1）	アジアの日本語教育事情
7	海外の日本語教育事情（2）	ヨーロッパ，南北アメリカ，その他の地域の日本語教育事情
8	海外の日本語教育事情（3）	学生による調査発表：海外の日本語教育調査（1）
9	海外の日本語教育事情（4）	学生による調査発表：海外の日本語教育調査（2）
10	世界事情（1）	世界の社会と文化（1）
11	世界事情（2）	世界の社会と文化（2）
12	日本事情（1）	日本の社会と文化（1）
13	日本事情（2）	日本の社会と文化（2）
14	日本語試験のいろいろ（1）	日本語能力試験，BJT日本語ビジネステスト，J. TEST
15	日本語試験のいろいろ（2）	日本留学試験，OPI
16		

科目コード	27303				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅱ				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である下肢の骨格系、筋系、神経系、脈管系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅱでは下肢の骨格系、筋、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器について、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるように、特に運動器の構造と機能について説明ができるようになる。また、臨床現場で遭遇する症例について、解剖学・生理学分野から説明ができるようになる。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用い討論形式を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どのような内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 50%、小テスト 50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	症例1	下肢帯損傷①
2	症例2	下肢帯損傷②
3	症例3	股関節損傷①
4	症例4	股関節損傷②
5	症例5	大腿部損傷
6	症例6	膝関節損傷
7	振り返り1	下肢帯・股関節・大腿部・膝関節のまとめ①
8	振り返り2	下肢帯・股関節・大腿部・膝関節のまとめ②
9	症例7	下腿部損傷①
10	症例8	下腿部損傷②
11	症例9	足関節損傷
12	症例10	足部損傷①
13	症例11	足部損傷②
14	振り返り3	まとめ①
15	振り返り4	まとめ②
16		

科目コード	21205				区 分	専門基礎			
授業科目名	英語科教育法Ⅱ(応用)				担当者名	井上 聡			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	免許必修

<授業の概要>

この授業の目的は、「英語で英語を教えるスキル」や「英語コミュニケーション能力」の高い英語教師を養成することです。そのために、まず、中学校の教科書を使用して、3年間のアクティビティを体験します。次に、Google アプリを使用したコミュニケーション活動を行い、GIGAスクール構想への対応力を磨きます。最後に、英語で英語を導入するスキルを高めるため、英語で英語を導入する指導案に基づいて、模擬授業の練習を複数回行います。この授業を通して、自身の英語教師としての見通しを立ててください。

<授業の到達目標>

1 英語を使ったアクティビティに積極的に参加できる。 2 ICTを使ったコミュニケーション活動に積極的に参加できる。 3 英語で英語を導入する授業に習熟する。

<授業の方法>

ペワークとグループワークのみ

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書内容のタイピング(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

タイピング課題 20%, グループ活動への貢献度 30%, 模擬授業 30%, 意見交換 20%

<教科書>

笠島準一他 NEW HORIZON English Course1 東京書籍
 笠島準一他 NEW HORIZON English Course2 東京書籍
 笠島準一他 NEW HORIZON English Course 3 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	技能統合型活動(1)	NEW HORIZON English Course 1, ICT演習
2	技能統合型活動(2)	NEW HORIZON English Course 1, ICT演習
3	技能統合型活動(3)	NEW HORIZON English Course 1, ICT演習
4	技能統合型活動(4)	NEW HORIZON English Course 2, ICT演習
5	技能統合型活動(5)	NEW HORIZON English Course 2, ICT演習
6	技能統合型活動(6)	NEW HORIZON English Course 2, ICT演習
7	技能統合型活動(7)	NEW HORIZON English Course 3, ICT演習
8	技能統合型活動(8)	NEW HORIZON English Course 3, ICT演習
9	技能統合型活動(9)	NEW HORIZON English Course 3, ICT演習
10	英語で英語を導入する授業(1)	中学1年生の内容
11	英語で英語を導入する授業(2)	中学1年生の内容
12	英語で英語を導入する授業(3)	中学2年生の内容
13	英語を導入する授業(4)	中学2年生の内容
14	英語で英語を導入する授業(5)	中学3年生の内容
15	英語で英語を導入する授業(6)	中学3年生の内容
16		

科目コード	63001				区分	コア科目			
授業科目名	フィットネスプログラム論				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

トレーニング指導者の役割を理解し、対象者が運動を通じて健康状態を維持、有意義な生活を送ることができるように「手助け」を行う方法を学ぶ。小学生から高齢者まで幅広い年齢層で必要となるトレーニング知識を学び、トレーニングプログラムが立案できるようにする。

<授業の到達目標>

トレーニング指導者の役割を理解する。各体力要素と様々な年代の身体の特徴を理解し、適切なトレーニングプログラムを立案できるようにする。また各種疾患を理解し、その疾患にあわせたトレーニングプログラムを立案できるようにする。

<授業の方法>

パワーポイント・スライドでの説明を中心にを行い、必要に応じて資料を配布する。授業内容によってはグループワーク（ディスカッション）を実施する。グループワークにて小テスト、省察レポートを提出する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のキーワードを予習（1時間程度）復習：授業初めの小テストに向けて振り返り学習を行う（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業の取り組み・グループへの貢献度）50%、課題（最終レポート・小テスト含む）50%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本体育施設協会 公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
 日本トレーニング指導者協会 2014年3月30日 トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版 大修館書店
 NSCA JAPAN 2018年12月19日 NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識第2版 NSCAジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス 運動と健康	授業の概要 運動と健康総論
2	スポーツ指導者・プログラマーの役割	健康・体力における運動の重要性、トレーニング指導者の役割
3	運動処方(プログラムデザイン)と健康管理	運動処方(プログラムデザイン)の方法と注意点
4	フィットネスエクササイズ理論①	柔軟性・可動域向上トレーニング
5	フィットネスエクササイズ理論②	調整力(敏捷性、平衡性、巧緻性)向上トレーニング
6	フィットネスエクササイズ理論③	筋力・パワー向上トレーニング
7	フィットネスエクササイズ理論④	持久力向上トレーニング
8	フィットネスエクササイズ理論⑤	体調管理とウォーミングアップとダウン
9	フィットネスエクササイズ実際	マシーントレーニングやヘルスエクササイズ
10	フィットネスプログラムの理論と実際①	中高年・高齢者のトレーニング
11	フィットネスプログラムの理論と実際②	発育発達期のトレーニング
12	フィットネスプログラムの理論と実際③	女性と特殊なクライアントに対するトレーニング
13	面談とスクリーニング	初回面談とスクリーニング
14	体力評価の選択と管理	特別な対象者(メタボ等)のためのトレーニング各体力の測定方法
15	まとめ	総復習
16		

科目コード	40121				区分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP男子+他学科男子]				担当者名	山本 清人／原田 悠平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト
16		

科目コード	34210				区分	コア			
授業科目名	子どもの理解と援助				担当者名	大久保 諒			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、子どもの発達に関する様々な知見を踏まえ、それに基づいた子どもや保護者の理解と援助の在り方を演習形式で学ぶ。第1回に授業の目的や性質を学ぶ。第2回から第5回までは「子どもの実態に応じた発達や学びの把握」について学ぶ。第6回から第10回までは「子どもを理解する視点」について学ぶ。第11回から第12回までは「子どもを理解する方法」について学ぶ。第13回から第15回までは「子どもを理解に基づく発達援助」について学ぶ。

<授業の到達目標>

- ① 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することに意義について理解する。
- ② 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
- ③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
- ④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<授業の方法>

各回の授業は、概ね次の要領で進む。まず、その回の学習内容について、ポイントを提示する。つづいて、その回の学習内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。そして、その回の講義内容について、体験的に学習を深めるための演習課題への取り組みを求める。また、学習内容について、事前学習を促す小課題や、事後的に理解度を確認する小課題への回答を定期的な求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと「できる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり、小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：25%、小課題の成績：25%、学期末レポートの成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

高嶋景子・砂上史子(編著) (2019/4) 子どもの理解と援助 ミネルヴァ書房

遠藤利彦(編著) (2021/6) 情動発達の理論と支援 金子書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、子どもの理解と支援に必要な観点
2	子どもの実態の理解①	広範な個人差
3	子どもの実態の理解②	生物学的背景に基づく個人差
4	子どもの実態の理解③	社会・文化的背景に基づく個人差
5	子どもの実態の理解④	個人差に配慮した共感や、保育・養護・教育
6	子どもの保護者の理解と支援①	保護者と子どもの相互規定関係、保護者の持つ背景
7	子どもの保護者の理解と支援②	子どもの特徴から保護者が被る影響
8	子どもの集団生活の理解と支援①	子どもの安全の確保、子どもの生活習慣の確立、子どもが身に着けるルール
9	子どもの集団生活の理解と支援②	子どもの遊びや仲間関係を通じた経験
10	環境の変化	家庭生活と園生活の関係
11	子どもを理解する方法①	子どもの観察に関する方法と記録の取り方、評価と省察
12	子どもを理解する方法②	子どもの情報の収集と共有の方法(職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション)
13	子どもの理解に基づく発達援助①	発達の段階や個人差に応じた課題に対する援助
14	子どもの理解に基づく発達援助②	特別な配慮を要する子どもや、その保護者の理解と援助
15	子どもの理解に基づく発達援助③、まとめ	発達の連続性と就学への支援、授業全体の振り返り
16		

科目コード	0				区分	専門基礎			
授業科目名	日本語学 I				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

この授業では日本語の音声、語彙体系、文字表記の基礎知識を学ぶ。日本語の特徴を理解することによって客観的に日本語を理解し、日本語学習者を指導するための視点を養う。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は以下の3点である。①日本語の音声・音韻体系を理解すること②日本語の形態・語彙体系、文字表記の知識を身につけること③上記の知識を使って、日本語を分析できること

<授業の方法>

基本的に講義形式で行うが、グループワークも取り入れる。課題はGoogle Classroomを用いて提出する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当ページを読む（30分程度）復習：用語を復習し、定着を図る（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度20%，小テスト20%，課題提出40%，試験20%発表やプレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明、音の作られ方
2	日本語の音韻・音声体系 (1)	母音と子音、有声音と無声音
3	日本語の音韻・音声体系 (2)	調音点、調音法
4	日本語の音韻・音声体系 (3)	音声と音韻
5	日本語の音韻・音声体系 (4)	五十音の発音
6	日本語の音韻・音声体系 (5)	アクセント、イントネーション、プロミネンス
7	日本語の音韻・音声体系 (6)	日本語学習者の誤用・発音上の問題点
8	まとめ	日本語の音韻・音声体系のまとめ
9	課末試験	日本語の音韻・音声体系
10	言語の構造 (1)	日本語の形態
11	言語の構造 (2)	日本語の語彙体系
12	日本語の分析 (1)	日本語学習者の音声分析
13	日本語の分析 (2)	日本語の語彙分析
14	文字と表記	日本語の文字と表記
15	課末試験	日本語の形態・語彙体系・文字と表記
16		

科目コード	23405				区 分	肢体不自由児の心理・生理・病理			
授業科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理				担当者名	松本 好生			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

<授業の概要>

この授業は、肢体不自由の「生理・心理・病理」に関する内容について、身体障害がある人について、特別に配慮しなければならない支援のありかた、および我が国の身体障害がある人への現状の取り組みについて理解を深めることにある。特に、この授業では、特別支援教育や民間支援機関で特別な配慮を必要とする人の支援を経験した教員が担当することに意味がある。教科書やテキストにはない30数年の臨床現場での実践を踏まえた授業を行うので、障害のもつ意味など、幅広く、知的障害や発達障害なども含めて、身体障害の中の脳性マヒなどの肢体不自由

<授業の到達目標>

特別支援教育領域の教員として必要な肢体不自由に関する基礎知識を習得し、発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎を学ぶ。

<授業の方法>

パワポを中心に視覚的に概説していく。また資料の配布やテキストは、授業への理解度を鑑み、適宜紹介する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

提示された参考書に目を通しておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートと小テスト90%、授業態度10%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	肢体不自由の心理・生理・病理と肢体不自由児教育	【第13回】 心理・生理・病理の特徴から垣間見ることができる肢体不自由児への医療的ケアの課題
2	肢体不自由児の障害特性	
3	肢体不自由と学習の困難	
4	肢体不自由と障害受容	
5	学齢期における中途障害と心理	
6	肢体不自由とは（障害の特性と、知的障害・その他身体障害との合併）	
7	肢体不自由者の生理反応の特性①（呼吸・循環機能）	
8	肢体不自由者の生理反応の特性②（脳・神経機能）	
9	肢体不自由者の生理反応の特性③（筋機能）	
10	肢体不自由に伴う二次障害について	
11	肢体不自由と整形疾患	
12	肢体不自由と神経筋疾患	
13	肢体不自由と脳性麻痺①（全般）	
14	肢体不自由と脳性麻痺②（リハビリテーション）	
15	肢体不自由の心理・生理・病理に関する今後の課題と展望	
16		

科目コード	61008				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅱ(応用)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには、高めた筋力をパワーやスピードに転換していく事が求められ、レジスタンストレーニング以外の様々なトレーニングを実践する事で総合的に体力要素の向上をさせていく必要がある。また、筋パワーを高める事は、機能的能力を改善し高齢者の転倒予防など生活の質を向上させる事にも寄与する。そこで、本授業では、体力諸要素である可動域、バランス、筋力、パワー、スピード・アジリティ、持久力等の各種トレーニングの立案・指導するために必要な知識と技能を習得することを目的とする。この科目は実技を伴う演習のため履修上限を

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、適切なフォームや設定でトレーニングを実施でき、正しい指導方法を習得する。

<授業の方法>

パワーポイントや動画での説明と実技を中心に実施する。また、指導実践の際はグループワーク・ディスカッションを行う。グループワークにて省察レポートを提出させる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論を確認しておく。(毎回、1時間程度) 復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。(毎回、1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(指導実践・振り返りレポート含む)50%、受講態度(授業の取り組み・グループへの貢献)50%

<教科書>

<参考書>

NSCA ジャンパン 2018年1月30日 NSCA決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 ブックハウスHD
 日本トレーニング指導者協会 2014年3月5日 トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版 大修館書店
 日本体育協会 公認アスレティックトレーナー専門科目⑥ 予防とコンディショニング 2007年9月30日 文光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業のねらい トレーニングの総論	授業のねらいと進め方 体力、トレーニングとは トレーニングの原理・原則
2	可動域・柔軟性トレーニング	抑制・伸長テクニック 器具によるリリース 各ストレッチ等
3	コア・バランストレーニング	腹圧・IAPの獲得・向上 スタビリティトレーニング 神経筋・固有受容器トレーニング
4	筋力・パワートレーニング① 基本動作	基本動作獲得 スクワットジャンプ メディシンボール投げ等
5	筋力・パワートレーニング②とコーディネーション	プライオメトリクス コーディネーショントレーニング
6	スプリントスピードトレーニング	トリプルエクステンションの獲得 ウォールドリル ハードドリル等
7	アジリティトレーニング① (加速動作)	サイドステップ・クロスオーバー動作・加速動作の獲得 Tドリル等
8	アジリティトレーニング② (減速・停止動作)	パワーポジション・ステップ・減速・停止動作の獲得 アプローチから減速等 90度、180度切り返し等
9	代謝系・持久力トレーニング①	マルチステージテスト
10	代謝系・持久力トレーニング②	持久力トレーニング(LT OBLA V02max強度) サーキットトレーニング
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際
12	グループワーク 立案	グループに分かれて トレーニングを立案する
13	グループワーク 指導実践①	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践
14	グループワーク 指導実践②	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践
15	グループワーク 指導実践③ まとめ	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践 まとめ
16		

科目コード	40121				区分	体育実技			
授業科目名	ソフトボール [PP男子+他学科男子]				担当者名	山本 清人/原田 悠平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする。

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会 「ソフトボール指導者教本」 日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト
16		

科目コード	40206				区分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ(応用)」においては、「柔道Ⅰ(基礎)」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

<授業の到達目標>

礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。(1時間程度) 復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。(30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(学習意欲含む) 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
2	2. 両手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
4	4. 体落とし	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り(自由練習)
10	10~12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13~14. 試合	技の攻防
12	15. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	21213				区分	専門基礎科目			
授業科目名	社会的養護Ⅱ				担当者名	小倉 毅			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

2016年に児童福祉法の理念が改正され、子どもは「児童の権利に関する条約」の精神にもとづく権利を有すると明記された。これにより、子どもは、今まで以上に安定した環境で養育を受けること、健全な成長と発達のために自立に向けての支援を受けることが明確になった。そこで本科目は、保育士等の倫理・責務の基本理念を理解するとともに、親がいても養育に欠ける児童、あるいは知的障害、重複障害、情緒障害、非行などのために親や家庭では養育でいない子どもの援助・支援を行うために必要な専門的知識・技術を理解し、家庭機能の代替としての役

<授業の到達目標>

児童とその権利擁護を支援するために、援助者としての倫理とその基本的理念を理解する。また、それにふさわしい専門知識と技術を身に付ける。

<授業の方法>

教科書に基づいて、社会的養護内容に関する専門知識を理解し、その内容について事例研究、グループ討議、ロールプレイ、ディベートを使って体得することを目的としている。またそれぞれのレポートを作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：次回のテーマに関する記事を検索、子どもが生活する施設概要を理解しておく。（90分）②復習：グループで討議した事例を俯瞰的視点で捉えることができるよう整理し理解する。（90分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 60%、レポート20%、講義受講態度等 20%

<教科書>

小宅理沙 監修中 典子 潮谷光人 今井慶宗 編著 社会的養護Ⅰ・Ⅱ 翔雲社（2020年度改訂版）

<参考書>

2014.4 「施設実習の手引き」 岡山県保育士養成協議会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	児童福祉施設の援助者	援助者の種類と役割、援助者に求められる基本
2	児童養護の体系と児童福祉施設の概要	児童福祉施設入所の意義、児童福祉施設における社会的養護
3	家庭養護の実際①	里親による養育について
4	家庭養護の実際②	ファミリーホームによる養育について
5	施設養護の実際①	乳児院での乳児の支援について
6	児童養護施設の暮らし①	児童養護施設での子どもの支援について
7	児童養護施設の暮らし②	児童心理治療施設の子どもの支援について
8	児童養護施設の暮らし③	児童自立支援施設の子どもの支援について
9	児童養護施設の暮らし④	母子生活支援施設の子どもの支援について
10	障害のある子どもの養育方法①	肢体不自由のある子どもの療育と支援について
11	障害のある子どもの養育方法②	障害児通所支援事業所での療育と支援について
12	障害者への支援方法について①	障害者支援での利用者支援について
13	障害者への支援方法について②	障害福祉サービス事業所での支援について
14	児童福祉施設における社会的養護の課題	虐待を受けた子どもへの援助
15	子どもの「生きる力」とは	援助者の倫理と責務・専門性の考察
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	内科学 I				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療従事者（柔道整復師）として、基礎的な医療知識を教科書を中心に取り組む。

<授業の到達目標>

医療従事者として、総合的な医療知識を身につける。基本的な医療用語を確実に理解する。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて講義する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容については、授業時に随時通知する予定。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「一般臨床医学」 医歯薬出版株式会社

<参考書>

河合作成プリント

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	診察の意義	問診（主訴、現病歴、既往歴）
2	視診（1）	不随意運動
3	視診（2）	歩行障害
4	視診（3）	胸郭、腹部、四肢
5	聴診	異常呼吸音
6	触診（1）	筋トーン
7	触診（2）・小テスト	筋委縮・小テスト
8	打診	鼓音
9	総論（1）	バイタルサイン
10	総論（2）	検査
11	総論（3）	主症状
12	総論（4）	主症状
13	各論 呼吸器	慢性閉塞性肺疾患など
14	各論 呼吸器	運動誘発性喘息など
15	まとめ	
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	企業経営実践論 I				担当者名	上野 宏一郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、本学が重視する非認知能力と経営におけるベースとなる健全な考え方や価値観の育成を行う。IPUが掲げる五訓なども織り交ぜながら、各授業ごとにテーマを決めて、企業経営の実践について考え深掘していく。学生の多様性を重視しつつ、ディスカッションを交えながら実社会へ出て働くための考え方や心構えを学ぶことで、今後の学生の進路探索への意欲向上にもつなげていく。

<授業の到達目標>

①日頃使っている言葉の意味を深く理解することで企業経営としての社会的知識を身につけることができる②本学が目指す非認知能力の理解を深め、心の鍛錬の礎にすることができる 折れない、やめない人材育成 目標を達成する力 他者と協働する力 情動を制御する力

<授業の方法>

①授業ごとにテーマを決めてそのテーマについて事前に考えてきてもらう。それをグループディスカッション&発表する②テーマについての講義③授業で学んだこととこれから実生活で実践することをレポートで提出してもらう④クラスルームの活用

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：各授業ごとのテーマについて考えて自分なりの意見を持ってきてもらう。その意見をグループディスカッションで発表してもらうための準備をしてもらう必要がある(1時間程度) ※テーマはシラバスの内容と変わる可能性あり(その際には事前連絡します) ②復習：授業で学んだことや実践してみようと思うことを毎回レポート提出を課すので、ディスカッションで学んだことや講義内容に関するノート作成が必要である(1~2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業出席率および参加態度 50% ②各授業後の提出レポート 50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンスやルール及び履修上の注意説明
2	何のために働くのか	働くことの意義目的を理解することで企業経営実践の心構えを学ぶ
3	挨拶の重要性	IPUの掲げる五訓のひとつ「礼節」にもある挨拶がなぜ企業経営で重要なのかを学ぶ
4	人の話を聴くときに重要なこと	傾聴能力が企業経営にとっていかに大切かを学ぶ
5	「目的」と「目標」のちがひ	仕事における目標と目的の違いを明確し、企業経営の中での仕事の進め方を学ぶ
6	「楽しむ」と「楽をする」のちがひ	IPUの掲げる五訓のひとつ「克己」にもある己に打ち勝つことはどういうことかを学ぶ
7	5Sの効果について	企業経営における基礎である5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)がもたらす効果について学ぶ
8	「ルール」と「マナー」のちがひ	企業経営及び実社会において存在するルールとマナーについて考える
9	「問題対処」と「問題解決」のちがひ	目の前に起きた問題に対する取り組み方を学ぶ
10	信頼できる人とは	IPUの掲げる五訓のひとつ「信頼」信頼できる人とはどういう人かを考えることで企業経営での信頼関係の大切さを学ぶ
11	「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」のちがひ	リーダーとフォロワーの役割を理解して企業組織内における自分の役割を考える力を学ぶ
12	「後悔」と「反省」のちがひ	後悔と反省の違いを理解して企業経営におけるPDCAサイクルを健全に回せる考え方を学ぶ
13	ありがとうの効果	IPUの掲げる五訓のひとつ「感謝」にもある感謝の心がいかに企業経営にとって大切かを学ぶ
14	「真剣」と「深刻」のちがひ	IPUの掲げる五訓の一つ「前進」にもある困難や失敗を乗り越えるための考え方を学ぶ
15	プロフェッショナルとは	プロフェッショナルという言葉の意味を理解し、真のプロフェッショナルになってもらう意識を学ぶ
16		

科目コード	23503				区分	専門基礎			
授業科目名	社会学概論				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース必修）

<授業の概要>

社会学概論では、社会学の基礎的な考え方、理論、用語を学ぶ。社会学という学問に触れるのではなく、現代社会をフィールドにして、人々の生活（ライフ）と人生（キャリア）の送り方を社会学の視点を使って読みといていく。社会学には独特の思考、手法があり、当たり前前の日常に対して距離を取ることで、これまでの見え方とは異なる（複眼的、鳥瞰的）姿を確認することができる。履修者とは社会学の面白さと人生の多様さ、多彩さ、自ら築き上げることのできる楽しさを共有する。講義形式を想定しているが、履修者同士による発言・対話をおこない、最終

<授業の到達目標>

①社会学の基礎的な考え方、用語を理解できる。②現代日本社会の多様なライフコースとキャリア形成を理解する。③自分の人生を切り開くために有効となる社会学の視点がどのようなものなのか説明することができる。

<授業の方法>

前半に基礎的な社会学用語を説明する。中盤で具体的事例を交えた説明をする。後半は小課題もしくはリアクションペーパーを完成させて、履修者間で成果を共有する。なお履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。クラスルームを活用し、事情によってはオンデマンド講義もありうる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回終了後には内容を再確認しておくこと。また、次回に備えて関連資料に目を通すなど予習をしておくこと。単位習得に必要な学習時間を費やすこと（予習90分・復習90分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回で実施する小課題・リアクション（40%）。中間テスト（30%）。最終レポート（30%）。

<教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

<参考書>

西村純子・池田心豪（2023）『社会学で考えるライフ&キャリア』 中央経済社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション：今という時代をどう生きるか？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	現代社会での人生①：働く	日本の資本主義社会で働くということ、雇用慣行、雇用システム
3	現代社会での人生①：福祉社会で生きる	誰と助け合うか、日本の社会保障・社会福祉の形成
4	現代社会での人生①：階層社会	格差社会とライフコース、社会階層論の基本的な考え方
5	就職して「社会人」になる②：就活	新卒一括定期採用、日本型雇用システムと大衆教育社会
6	就職して「社会人」になる②：異動と昇進	昇進・異動をめぐる企業と人、長期雇用、キャリア選択
7	就職して「社会人」になる②：パート・アルバイト	雇用形態、正規雇用、非正規雇用、キャリアの違い
8	中間テスト	第1回～第7回までの復習→テスト実施
9	就職して「社会人」になる②：貧困	日本の貧困、戦後→バブル→失われた30年、立ち向かい方
10	就職して「社会人」になる②：地域密着	地方移住、コミュニティ、都市化、郊外化、過疎化、限界集落
11	「普通の人生」はあるのか③：未婚・結婚	親子のライフコース、近代家族と婚姻制度、これからの結婚
12	「普通の人生」はあるのか③：親になる	「母親らしさ」「父親らしさ」、出産育児、ジェンダー、多様性
13	「普通の人生」はあるのか③：ひとり親として日本社会をどう生きるか	ひとり親家庭、経験、離婚を「不幸」につなげない
14	「普通の人生」はあるのか③：介護	親の介護は誰が担う、多様化する介護問題、仕事との両立
15	展望：人生100年時代をどう生きるか	少子高齢社会のライフ&キャリア、年齢にとられないライフ&キャリア、社会を生き抜く技法
16		

科目コード	61008				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅱ(応用)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには、高めた筋力をパワーやスピードに転換していく事が求められ、レジスタンストレーニング以外の様々なトレーニングを実践する事で総合的に体力要素の向上をさせていく必要がある。また、筋パワーを高める事は、機能的能力を改善し高齢者の転倒予防など生活の質を向上させる事にも寄与する。そこで、本授業では、体力諸要素である可動域、バランス、筋力、パワー、スピード・アジリティ、持久力等の各種トレーニングの立案・指導するために必要な知識と技能を習得することを目的とする。この科目は実技を伴う演習のため履修上限を

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、適切なフォームや設定でトレーニングを実施でき、正しい指導方法を習得する。

<授業の方法>

パワーポイントや動画での説明と実技を中心に実施する。また、指導実践の際はグループワーク・ディスカッションを行う。グループワークにて省察レポートを提出させる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論を確認しておく。(毎回、1時間程度) 復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。(毎回、1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(指導実践・振り返りレポート含む)50%、受講態度(授業の取り組み・グループへの貢献)50%

<教科書>

<参考書>

NSCA ジャンパン 2018年1月30日 NSCA決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 ブックハウスHD
 日本トレーニング指導者協会 2014年3月5日 トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版 大修館書店
 日本体育協会 公認アスレティックトレーナー専門科目⑥ 予防とコンディショニング 2007年9月30日 文光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業のねらい トレーニングの総論	授業のねらいと進め方 体力、トレーニングとは トレーニングの原理・原則
2	可動域・柔軟性トレーニング	抑制・伸長テクニック 器具によるリリース 各ストレッチ等
3	コア・バランストレーニング	腹圧・IAPの獲得・向上 スタビリティトレーニング 神経筋・固有受容器トレーニング
4	筋力・パワートレーニング① 基本動作	基本動作獲得 スクワットジャンプ メディシンボール投げ等
5	筋力・パワートレーニング②とコーディネーション	プライオメトリクス コーディネーショントレーニング
6	スプリントスピードトレーニング	トリプルエクステンションの獲得 ウォールドリル ハードドリル等
7	アジリティトレーニング① (加速動作)	サイドステップ・クロスオーバー動作・加速動作の獲得 Tドリル等
8	アジリティトレーニング② (減速・停止動作)	パワーポジション・ステップ・減速・停止動作の獲得 アプローチから減速等 90度、180度切り返し等
9	代謝系・持久力トレーニング①	マルチステージテスト
10	代謝系・持久力トレーニング②	持久力トレーニング(LT OBLA V02max強度) サーキットトレーニング
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際
12	グループワーク 立案	グループに分かれて トレーニングを立案する
13	グループワーク 指導実践①	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践
14	グループワーク 指導実践②	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践
15	グループワーク 指導実践③ まとめ	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践 まとめ
16		

科目コード	38300			区分	コア科目				
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP教員希望者用]			担当者名	清田 美紀/柴山 慧				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）・保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」「単元計画」「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うという自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%， レポート 20%， 指導案20%， 模擬授業20%， 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編 東山書房
 大修館書店 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅱのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	保健体育授業の目標をどのように描くのか	①中学校、高等学校保健体育が目指す中心的テーマは何か②体育の学習目標の構造
3	保健体育の授業づくりの過程を考える	①保健体育の年間計画について②単元構想と教材づくり③単元展開の具体化
4	体育授業の学習指導、球技（ベースボール型、ネット型）①（ここからクラス全体を半分に分けて、球技：ベースボール型と球技ネット型をそれぞれ実施）	教師の4大行動、球技（ベースボール型）、球技（ネット型）構造的特性や授業方法の具体、模擬授業①
5	教材研究、球技（ベースボール型、ネット型）②	教材の選定と作成、球技（ベースボール型、ネット型）の模擬授業②
6	授業づくり、球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
7	授業実践、球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
8	教材研究、球技（ベースボール型、ネット型）①（半分に分けたグループを交代）	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の構造的特性や授業方法
9	球技（ベースボール型）・球技（ネット）②	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の模擬授業
10	球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
11	球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト（ここからクラス全体で授業に戻る）	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト（教員採用試験の過去問から）
13	保健①	保健の概要や意義、授業方法について

14	保健②	保健の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト
16		

科目コード	35400				区 分	専門基礎			
授業科目名	コーチング論				担当者名	仙波 慎平／梶谷 亮輔／嘉戸 洋			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、指導哲学、指導目的などの「スポーツ・コーチングの原則」や、選手とのコミュニケーション、選手のモチベーションの向上といった「行動の原則」、そしてより専門的で実践的である生理学的知見を含んだ「フィジカルトレーニングの原則」に至るまで、スポーツ・コーチングにおける基本理念を幅広く捉え、それらを正しく理解する。また、ビジネスコーチングや学校教育で使用するコーチングの手法等も勉強する。

<授業の到達目標>

スポーツ・コーチング基本理念を幅広く捉え、それらを正しく理解することを目的とする。また、指導理念と実際の指導現場における相違点等を学生自らが出し合い、それを基に討議し、改善策等を探求することによって、体育教員・スポーツ指導者としての力量を高める。

<授業の方法>

講義を中心に進めるが、実際の指導現場の映像等を用いるなど、より実践的なものとする。また、必要に応じてグループワークやプレゼンテーションも取り入れる。また、情報や仲間の意見や考え方をDropbox及びClassroomの活用方法を含め、課題管理や授業内容におけるICT活用を利用し、コーチングに関する知識を理解し、コーチとしての資質を身につける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回の授業テーマについて、参考書および各種資料等を用い、自身の体験等も踏まえて事前学習を1時間行う。また、実際に自身が選手として、または指導者として参加しているスポーツ現場において、本授業で学んだことを振り返り、思考を巡らす（復習を1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験 40%、レポート・小テスト 40%、受講態度・学習意欲 20%

<教科書>

<参考書>

レイナー・マートン（2013） スポーツ・コーチング学 西村書店
田尻 賢誉 智弁和歌山・高嶋仁のセオリー ベースボール・マガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業概要、授業の進め方、受講上の諸注意
2	スポーツ・コーチングの原則（1）	選手とのコミュニケーション
3	スポーツ・コーチングの原則（2）	選手のモチベーションの向上
4	コーチングとティーチング（1）	コーチングとティーチングについて
5	新しい時代にふさわしいコーチング	コーチングの現状と課題
6	コーチングの行動指針	指導行動と育成行動
7	コーチング事例	セルフコーチング、コーチング活動
8	コーチングとティーチング（2）	コーチングとティーチングについて
9	コーチングスタイル	コーチングのスタイル
10	コーチのあり方（1）	コーチとは
11	戦術とは？	戦術力の捉え方
12	戦術力の個体発生	戦術の個体発生とその傾向
13	戦術力のトレーニング	戦術トレーニングの方法
14	コーチのあり方（2）	コーチとは
15	ゲームパフォーマンスの評価	ゲームパフォーマンスの評価とその方法
16		

科目コード	38300			区分	コア科目				
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP教員希望者用]			担当者名	清田 美紀/柴山 慧				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）・保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」「単元計画」「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うという自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%， レポート 20%， 指導案20%， 模擬授業20%， 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編 東山書房
 大修館書店 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅱのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	保健体育授業の目標をどのように描くのか	①中学校、高等学校保健体育が目指す中心的テーマは何か②体育の学習目標の構造
3	保健体育の授業づくりの過程を考える	①保健体育の年間計画について②単元構想と教材づくり③単元展開の具体化
4	体育授業の学習指導、球技（ベースボール型、ネット型）①（ここからクラス全体を半分に分けて、球技：ベースボール型と球技ネット型をそれぞれ実施）	教師の4大行動、球技（ベースボール型）、球技（ネット型）構造的特性や授業方法の具体、模擬授業①
5	教材研究、球技（ベースボール型、ネット型）②	教材の選定と作成、球技（ベースボール型、ネット型）の模擬授業②
6	授業づくり、球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
7	授業実践、球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
8	教材研究、球技（ベースボール型、ネット型）①（半分に分けたグループを交代）	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の構造的特性や授業方法
9	球技（ベースボール型）・球技（ネット）②	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の模擬授業
10	球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
11	球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト（ここからクラス全体で授業に戻る）	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト（教員採用試験の過去問から）
13	保健①	保健の概要や意義、授業方法について

14	保健②	保健の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト
16		

科目コード	38300			区分	コア科目				
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP免許取得者]				担当者名	坂本 康輔／中島 治彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの基本的かつ実践的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」且つ「保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うという自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必要な情報を集める。（1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%，受講態度10%，レポート（含指導案）40%，模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを中心に言い、学習理解度を図る。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房
 衛藤 隆，友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店
 杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②保健体育科の授業の在り方について考え、分析する。
2	体育授業におけるマネジメント	授業における場面指導について
3	単元計画の意義と構成について	単元計画の内容を調査し、意義を見つける
4	単元計画を作成する	単元計画について解説する
5	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
6	模擬授業実践	球技に関する模擬授業を実践する
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	模擬授業実践	球技及びダンスの模擬授業を実践する
9	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	模擬授業実践	球技に関する模擬授業を実践する
11	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業実践	球技及びダンスに関する模擬授業を実践する
13	保健の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
14	模擬授業を実践する	保健の模擬授業を実践する
15	まとめ・振り返り	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの
16		

科目コード	53013				区分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア [FE/PP]				担当者名	奥山 優			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学び、教員としての仕事の一端について知る。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、2年～4年が受講可能で前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をレポートにまとめて第15回にて発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート20%、取り組みの発表内容20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
3	学校支援ボランティアの申込	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことについて話し合い、各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。
16		

科目コード	53013				区分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア [FE/PP]				担当者名	奥山 優			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学び、教員としての仕事の一端について知る。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、2年～3年が受講可能で前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をレポートにまとめて第15回にて発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート20%、取り組みや学んだことの発表内容 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [英語免許、保体免許用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・グループディスカッション	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師の仕事の中核をなすものは授業です。その授業を充実させるために、これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な項目について取り上げます。それらの「技術」「情報」「教育の方法」「情報機器」の扱い方や指導の仕方、現状を学習することにより授業の実践力を高めるようにします。あわせて授業を教師の立場(教える立場)からとらえ、教師としての見方、考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培います。

<授業の到達目標>

以下の3点を到達目標として設定します。(1)教育現場における教育方法・技術、ICT活用の意義・背景・理論について理解できる。(2)社会の中で求められる資質・能力(情報活用能力を含む)の育成と教育方法・技術、ICTの活用とのつながりについて説明することができる。(3)各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる。

<授業の方法>

最初に講義により概略を説明し、内容を理解してから自分の考えをまとめるようにします。また、アクティブ・ラーニングやICT活用を交えた授業を展開して他の意見と自分の意見を比較する時間を取ります。そして授業のまとめとして確認問題を解くようにします。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えおくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前に読んでおくととても勉強になります。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート30%、授業に対する態度20%、最終レポート50% ※ミニレポートの内容について、疑問点やさらに深い議論につながると思われる記述があれば、次回授業で取り上げることがあります。

<教科書>

<参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社
 吉永幸司(編) 京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術(教育技術mook) 小学館
 吉永幸司(編) 考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年(教育技術MOOK) 小学館
 4・5・6年 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、教育の方法・技術に関わる諸概念	最初の授業として次の3点を説明します。・本授業の進め方の確認 ・本授業で扱う教育方法 ・技術の定義・なぜ教育方法・技術について学ぶのかグループワークに登録するのでパソコンを持参してください。
2	教育方法の歴史	教育方法の歴史の変遷を学びます。それに併せ学習指導要領の変遷について学びます。
3	現代の教育方法について	アクティブ・ラーニング等の現代の教育方法を紹介し、その意義となぜそのような方法が求められるのか検証します。
4	授業における教師の役割と指導技術	教師の役割の変化、授業の意味の変化、これに伴う指導技術の変化について検証します。
5	教育における評価	教育における評価の意味と方法の例を紹介し、その意義を検証します。評価については事前・事中・事後評価があることを理解し、それぞれの役割について学びます。
6	教育の技術の具体例①	話法(発問や指示等)や板書の意味・役割について具体例を挙げ学習します。
7	教育の技術の具体例②	ノート指導について具体例を挙げて説明します。
8	教育の技術の具体例③	学習形態の変化について学びます。講義形式、話し合い(話し合いではない)など現代

9	インクルーシブ教育について	の学校現場での学習形態について具体例を挙げながら学習します。特に「学びあい」にも時間を割きます。
10	学校現場におけるICTの実際	学校現場で求められているインクルーシブ教育について学びます。理論とともに言葉の定義を具体例を挙げながら紹介し、理解するようにします。
11	情報モラルについて	学校現場においてICT化の流れを歴史的要請を踏まえながら検証していきます。
12	紙ベースとペーパーレス、そのメリットとデメリット	ICTを活用するにあたり教員一人一人が身に着けるべき情報モラルについて学習します。
13	児童・生徒の情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法	現代の学校現場での情報の扱い方について学びます。そして紙ベースとペーパーレスを対比させ、そのメリットとデメリットを検証します。
14	校務の情報化とデータ活用	情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法、授業方法の事例を考えます。Google Classroomを使って模擬授業をします。
15	本授業のまとめ 学校とテクノロジーのこれから	校務の情報化とは何か、校務の情報化に向けたデータ活用の事例を学習します。
16		本授業のまとめ、社会の変化から見る今後の教育方法・技術、ICT活用の仕方考えます。

科目コード	32419			区分	コア科目				
授業科目名	理科実験の指導法Ⅱ（理科教師塾）			担当者名	平松 茂				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校第3, 4学年の教材から物理, 化学, 生物, 地学の分野を取り上げ, 観察・実験を行う。小学校学習指導要領理科編には, 比較(3年), 関係付け(4年)という問題解決の方法が発達段階に合わせて示されており, 児童の興味・関心を引き出しながら安全に観察・実験を行うための知識や技能をグループワークにより体験的に習得する。I P U理科マイスターを目指す学生は履修が望ましい。理科実験の指導法Ⅰの受講をしていなくても履修可能である。

<授業の到達目標>

1. 実験器具や薬品等を準備して, 小学校理科の観察・実験が実施できる知識や技能を身に付ける。2. 安全な観察・実験を進めるための知識や, 薬品, 実験器具の取り扱い方を身に付ける。3. 学習指導要領解説理科編や教科書の記述に基づいて, 観察・実験を伴う授業設計ができる。4. I C T機器, デジタル教科書, プログラミング用ツールの活用法を身に付ける。

<授業の方法>

1. 取り扱う教材に従って観察・実験の準備をする。2. 観察・実験を実施し, 実験結果を記録, 考察する。3. 観察・実験の留意点, 実験手順を振り返り, 安全に実験するための配慮事項を整理する。4. 観察・実験のねらいや指導のポイントなどをまとめる

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前には, シラバスを参考にして教科書の該当箇所を読み, 本時の実験を把握しておく(30分)授業後は, 返却された前時のレポートを見直す(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加意欲 40%、観察・実験の知識・技能 30%、レポート 30% 等で評価する。

<教科書>

文部科学省(2018. 2. 10) 小学校学習指導要領(H29) 解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

毛利 衛・黒田玲子 他(2020) 「新しい理科3」 東京書籍

毛利 衛・黒田玲子 他(2020) 「新しい理科4」 東京書籍

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	サクラの花の観察と調査	数える, 計る, まとめる, グラフ化, 考察
2	花のつくりとスケッチの意味	キク科: タンポポ, アブラナ科: カラシナ
3	春の自然にとびだそう	植物の観察法・指導法
4	磁石につくもの	磁石を知る, 種類と性質 授業を組み立てる
5	植物のからだのつくり1	インゲンマメの発芽, ホウセンカの茎の断面
6	太陽のかげの動き 太陽の光	観察装置の作成 遮光プレート 光と熱
7	植物のからだのつくり2	ムラサキツユクサの原形質流動
8	夏の星座を見つけよう	こと座, わし座, 白鳥座, 夏の大三角
9	水のすがたと温度	水の三態変化, 温度, 冷却, 寒剤
10	冬の星座を見つけよう	オリオン座, おおいぬ座, こいぬ座, 冬の大三角
11	湯気の正体	湯気をとらえる 湯気を集める
12	電気の指導(3年, 4年, 5年, 6年)	学年別内容と関連 ペルチェ素子
13	動物のからだのつくりと運動	腕の曲げ伸ばし「手羽先ほねほね」
14	昆虫のからだを調べよう	内骨格と外骨格 液体標本の扱い
15	風やゴムの力のはたらき	具体的な指導法 実験器具の工夫
16		

科目コード	25303				区分	コア科目			
授業科目名	スポーツ文化論				担当者名	柴山 慧			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、スポーツ文化を対象に様々な主題を取り扱う。スポーツ文化の概念は大変幅広く膨大であり、「する・見る・支える」という形での関わり方はもちろんのこと、オリンピックや地域の運動会、乳幼児から高齢者まで至る健康運動教室、学校体育や公園での草野球まで、ありとあらゆるスポーツ活動に伴う社会的営為の総体とも言える。そのため、本授業では特定のテーマに絞って事例的に提示、解説しつつ、スポーツ文化の多面的な理解を目指していく。また、日によっては実技を交えてスポーツ文化について考察する時間も設定する。

<授業の到達目標>

身近にあふれる「文化」事象を系統的に学ぶ意味は、当該文化を相対化し、比較や変遷を検証できるようになることにある。スポーツという文化装置を事例に、同化や差異化がどのように展開したのか理解することは、これからのスポーツの行方を展望する上でも非常に重要である。本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる文化事象をスポーツ文化論の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ界における慣習の文化的な背景を理解した上で、論理的かつ建設的に他者と意見交流ができる。

<授業の方法>

配布資料やパワーポイントを用いた講義形式、ディベートやグループワークも実施する。各回の授業の最後には、リフレクションシート（課題）を配布・回収する。授業中のデータ共有はGoogle Classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>スポーツ文化を対象にしたニュースやコラム等に目を通し、取り上げられた背景や経過を調べておくこと（1時間）。上記について簡単に発表できるようにしておくこと（1時間）。<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、振り返り課題に取り組むこと（1時間）。自らのスポーツ生活の中における文化事象を何点か取り上げ、考察すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、各回でのリフレクションシート（課題）30%、授業の参加度20%、個人発表内容20%、最終課題30%の配分で評価する。

<教科書>

<参考書>

井上俊・菊幸一編 よくわかるスポーツ文化論 [改訂版] ミネルヴァ書房
井上俊・亀山佳明編（1999） スポーツ文化を学ぶ人のために 世界思想社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションスポーツ文化論とは、個人発表スケジュールの決定	授業概要、運営、成績のつけ方等の説明、個人発表日の設定スポーツ文化論を学ぶ意義と意味
2	ニューススポーツ体験①インディアカ	ニューススポーツとして普及しつつあるインディアカについて、考案された歴史やルールについて学習した後、実技によって体験し、スポーツ文化という観点から考察する。
3	学校体育	受講者が経験してきた学校体育におけるスポーツ文化を振り返り、文化的な視点から考察する。
4	地域スポーツ	日本や海外の地域におけるスポーツ文化について考察する。
5	日本の伝統的なスポーツ	日本の伝統的なスポーツについて文化的に考察する。
6	ニューススポーツ体験②フライングディスク	ニューススポーツとして普及しつつあるフライングディスクについて、考案された歴史やルールについて学習した後、実技によって体験し、スポーツ文化という観点から考察する。
7	陸上競技	陸上競技というスポーツについて文化的に考察する。
8	eスポーツ	eスポーツについて文化的に考察する。
9	障がい者スポーツ体験①ボッチャ	パラリンピック種目でもあるボッチャについて、考案された歴史やルールについて学習した後、実技によって体験し、スポーツ文化という観点から考察する。
10	応援団	スポーツを応援する団体である応援団について文化的に考察する。
11	スポーツ施設	スポーツに関連する施設について文化的に考察する。
12	クリエイティブスポーツ実践	自分たちで授業の参加者が楽しめるスポーツを考案し、実践する。
13	オリンピック、パラリンピック	オリンピック、パラリンピックについて文化的に考察する。
14	ドーピング	ドーピングについて文化的に考察する。
15	授業のまとめと振り返り	授業のまとめ、ふりかえりをするとともに、到達度を測る。
16		

科目コード	34112			区分	子ども子育て教育相談				
授業科目名	子ども子育て教育相談			担当者名	松本 好生				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	あり

<授業の概要>

本授業は教職課程コアカリキュラムである「幼児理解の理論及び方法」と「教育相談（カウンセリングを含む）」に基づいて行われる。幼児理解についての知識や考え方，基礎知識，実践方法，学校における教育相談の意義と理論，方法，展開などを学ぶ。

<授業の到達目標>

①幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。②幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う。1. 講義 2. グループワーク、ディスカッション 3. 質疑応答

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：教科書を読んで理解しておくこと。復習（60分）：授業で教わったことを振り返ること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 10%、定期試験 90%

<教科書>

鳥海順・義永睦子（編著）子ども理解と教育相談、東洋館出版社、2019。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ライフステージごとの子どもの問題をどうとらえるのか
2	学校における教育相談	教師に教育相談が求められる理由とは何か
3	アセスメントに関する基礎的理解	アセスメントとは何か
4	保幼小連携の接続期支援	保幼小の連携とは何か
5	小・中・高の接続期支援	小学校入学期における子どもの状態の把握の仕方
6	カウンセリングの基礎理論①	カウンセリングとは何か
7	カウンセリングの基礎理論②	カウンセリングの進め方
8	カウンセリングの実際	カウンセリングの種類別の概説
9	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法①	コンサルテーションやコーディネーションの基本
10	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法②	「猿山」の話
11	相談のプロセス	相談を支えるものとは何か
12	保育の場で行う教育相談	保育の場で行う教育相談の進め方
13	学校で行う教育相談と校内体制	学校で行う教育相談を取り巻く環境と教育相談の進め方
14	多様なニーズのある子どもの教育相談	学校教育における多様なニーズのある子どもとは何か、特別支援教育とは何か
15	家庭支援と地域における連携	多職種連携の仕方や制度の活用法
16		

科目コード	27306				区分	コア科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅴ(保存療法)				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

軟部組織損傷は、柔道整復の臨床においてもっとも多い損傷といえる。近年、画像診断機器の発達により、軟部組織の病的状態を可視化することが可能になってきている。解像度や分解能が高まったことから、これまで触診・視診に頼っていたが、客観的定量的に示せるようになってきている。このような医療の現状に追従した軟部組織治療学を組織学的視点から学ぶ。

<授業の到達目標>

柔道整復学の軟部組織損傷に関する基礎の理解および運動時における損傷の発生機序を理解し、超音波画像の特性、取り扱い方を学び、描写される画像を説明できるようになることを目標とする。物理療法に関する基礎の理解と損傷部の治癒機序に対する原理・原則を理解し、説明できる様になることを目標とする。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、グループワーク、ディスカッション形態で実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この科目は健康科学科のディプロマポリシー5(科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。)と関連付けられています。柔道整復師として必要な知識を身に付け、最新医療の状況を把握し広い視野で物事を考えられる知識の習得を目指す。特に予習が重要である。超音波画像実習で観察する身体の部位別に長軸像、短軸像でみられる画像を3次元に置き換えて理解できるように、事前に学習項目の身体部位の形態について予習が必要である。(1時間程度) また、実習後には、プリントに記された実習内容に関する

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

定期試験40%、事前学習30%、学習意欲30%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「柔道整復学・理論編」 南江堂
 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

<参考書>

臨床スポーツ医学編集委員会 予防としてのスポーツ医学 文光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、成績評価の説明
2	超音波画像の理解①	エコーの仕組みとアーチファクトを理解できる。
3	超音波画像の理解②	ランドマークと画像の調整法を理解できる。
4	超音波画像の理解③	手部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
5	超音波画像の理解④	肘部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
6	超音波画像の理解⑤	肩部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
7	超音波画像の理解⑥	足部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
8	超音波画像の理解⑦	膝部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
9	超音波画像の理解⑧	大腿部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
10	確認テスト	エコー画像の座学による確認テスト
11	物理療法の理解①	電気療法について理解できる。
12	物理療法の理解②	温熱療法①に対して理解できる。
13	物理療法の理解③	温熱療法②について理解できる。
14	物理療法の実際④	寒冷療法について理解できる。
15	物理療法の実際⑤	最新の物療機器の考え方
16		

科目コード	0			区分	コア科目				
授業科目名	ビジネス特別講義 I			担当者名	白木 渉/齊藤 直人				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

◆2024年度前期テーマ：【DISCOVERY】～自分・社会・企業・未来を発見する（知る、理解する、探究する、描く、計画する）～自分の将来は、どうなるのか？本当は何がしたいのか？どんな会社に入りたいのか？悩みは尽きないのに、誰も正解を与えてくれない、パンデミック後の時代を私たちは生きています。でも大丈夫です。これをチャンスと捉え、自らの答えを見つける「探究心」を躍動させることで、挑戦と創造が可能な時代だからです。本科目群（2024年度ビジネス特別講義 I と II）では、企業訪問をし、大学生が主体的に高校生とのり

<授業の到達目標>

本科目は、企業訪問と高校生との連携、リサーチ成果をコンテストなどでプレゼンする点が特徴です。これらの取り組みを通して、社会から求められる「人財」になるために必要な力の理解と、その基礎的な力の習得を目標としています。以下に、本科目9つの力を示します。1. 企画力 2. コミュニケーション能力(傾聴・質問・要約) 3. マネジメント能力 4. リサーチ力(調査・研究) 5. ディスカッション力 6. 交渉力 7. プレゼンテーション能力 8. 課題発見能力 9. 課題解決能力

<授業の方法>

本科目群は、3段階（前期・夏期・後期）の構成になっています。ビジネス特別講義 I は、前期と夏期に実施する予定です。授業は、座学に加えて、探究学習と反転授業を行う授業となるため、特に成長意欲の高い人、学生時代に成果を出して卒業後の進路を、自信を持って進めていきたい人に履修を勧めます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本科目群は、毎週の定例的な準備学習や、定期試験に向けた学習は、ありません。また、①「学外の方（企業、高校）との連携」、②「チームでのレポート編集」、③「最終的な成果を授業内コンテストと企業別プレゼンで審査」があります。企業の方に信頼していただけるように、高校生の将来のキャリアを導けるように、授業内コンテストと企業別の発表で自信を持てるように、各自が必要だと思う学習をしてください。※以下は目安です。事前学習（予習）：毎回の課題に向けた取り組み、チーム編成後の共同作業等、週最低1時間程度事後学習（復習）：週最

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題（毎回）30%、企業リサーチレポート課題30%、授業態度40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス解説、教員紹介、DISCOVERYとREALIZATION、エントリーシート解説
2	ジブンDISCOVERYへ①	ビジネスの見分け方、自己分析、課題プレゼンテーション、相互フィードバック、クイックレビューとは、企業リサーチに必要な質問項目と+α、探究のコツ
3	ジブンDISCOVERYへ②	ビジネスの見分け方、自己分析、課題プレゼンテーション、相互フィードバック、クイックレビューとは、企業リサーチに必要な質問項目と+α、探究のコツ
4	企業リサーチ①	クイックレビューの共有、ディスカッション、グループワーク、ビジネスで成果を出す思考法とその具体的方法など
5	企業リサーチ②	クイックレビューの共有、ディスカッション、グループワーク、ビジネスで成果を出す思考法とその具体的方法など
6	信頼される大学生になる①	高校生向けの準備と撮影、企業訪問のためのマナーと制作物、クイックレビューの改善など
7	信頼される大学生になる②	高校生向けの準備と撮影、企業訪問のためのマナーと制作物、クイックレビューの改善など
8	企業訪問(大学生だけによる事前の企業訪問)	担当者の方とご挨拶・名刺交換、主旨説明、質問内容の事前告知、大学生からの正式依頼など
9	夏の3日間に向けて	企業訪問の学び共有、高校生受け入れ準備など
10	夏期【1日目】事前学習①	高校生への自己紹介、チームビルディング、大学生による授業
11	夏期【1日目】事前学習②	訪問先企業についての学習、質問を考える
12	夏期【2日目】企業訪問①	会社説明、現場見学、質疑
13	夏期【2日目】企業訪問②	訪問先にて高校生と大学生で振り返り、学びをレポートにまとめる
14	夏期【3日目】リサーチ発表①	大学生と高校生による発表準備
15	夏期【3日目】リサーチ発表②	発表本番、講評、表彰
16		

科目コード	51011			区分	コア科目				
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)			担当者名	柴山 慧/延原 まどか/伊藤 三千雄/梶谷 亮輔/清田 美紀/仙波 慎平/早田 剛/品田 直宏/片桐 夏海/十河 直太/坂本 康輔/大井 理緒/久田 孝/浦 佑大				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。毎時間、各グループごとに学生が模擬授業を実施し、学習指導案、授業方法、内容等について、学生同士の相互評価や担当者からの助言をもらう。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として不足している力を自覚し、大学授業で補うようにし、教職を目指す者として、資質の向上を図る。

<授業の到達目標>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、保健体育科の教員としてよりよい実技授業、保健授業が出来るようにすることを目標にするとともに、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として資質の向上を図ることを到達目標とする。

<授業の方法>

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ(実習校地域別)に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業(実技・保健)を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。したがって、模擬授業時の映像資料提示等のICT利活用も積極的に取り

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に自分の行く教育実習校でどの教科書が使用されているか、実技ではどの種目を、保健ではどの単元を担当するかを実習校に聞いて調べておき、それに沿った学習指導案を作成し、模擬授業の練習を重ねておく。模擬授業後、何が出来て何が出来なかったかをしっかり振り返り、次の模擬授業に活かしていく。特に保健授業では、専門知識が必要になるため実習で自分の担当する単元については事前にしっかり勉強しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度、模擬授業評価、教育実習事後指導での教育実習報告書の作成評価、出席状況等を総合的に評価するが、教育実習校評価も重視する。

<教科書>

<参考書>

吉田武男監修(2023年4月24日) 教育実習(MINERVAはじめて学ぶ教職) ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習の意義と心構え	教育実習の意義
2	教育実習の意義と心構え(2)	教育実習を成功させる準備と心得、模擬授業
3	教育実習の意義と心構え(3)	道徳・特別活動・総合学習時間の指導、模擬授業
4	教育実習の方法と技術(1)	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割、模擬授業
5	教育実習の方法と技術(2)	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導、模擬授業
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案、模擬授業
7	研究授業(模擬授業)の方法(1)	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う
8	研究授業(模擬授業)の方法(2)	学習指導案のねらい・内容と書き方、模擬授業
9	研究授業(模擬授業)の方法(3)	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫、模擬授業
10	研究授業(模擬授業)の方法(4)	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導、模擬授業
11	研究授業(模擬授業)の方法(5)	個別学習・グループ学習の進め方、模擬授業
12	研究授業(模擬授業)の方法(6)	学習評価とその活用法、模擬授業
13	研究授業(模擬授業)の方法(7)	研究授業の実際～過去の実習生の事例～、模擬授業
14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会
15	教育実習報告書作成	教育実習記録をもとに作成
16		

科目コード	33403			区分	コア				
授業科目名	幼児心理学 I			担当者名	内田 伸子				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ことばは考える手段であり、人との絆を切り結ぶ手段である。ことばは人との社会的やり取りを通して獲得される。①ことばの獲得に臨界期はあるか？②第二言語の習得は早いほど有利か？③親に虐待されて言語遅滞や知能遅滞を引き起こした子どもの補償教育④リテラシー（読み書き能力）の習得に社会文化経済的要因はどのように影響しているか？⑤書くことと考えることはどのように関連するか？以上のテーマをめぐって授業者が行った研究成果と内外の知見を踏まえて講義する。

<授業の到達目標>

1. ことばの獲得による認識過程の変化を理解する。2. リテラシーの獲得と教育や発達支援のあり方について理解する。3. 養育放棄児の言語遅滞からの回復事例から補償教育や発達支援について理解する。4. 子どもの論理的思考を育む授業デザインを構想し、メタ認知を活用する方法について理解する。5. ことばと認識の諸問題をめぐる観察や実験、調査などの研究方法論を理解する。

<授業の方法>

1. 対話型授業；授業中の質疑応答しながら授業を進める。対話型授業をめざす。2. DVDの映写；授業内容の理解のために、話題に関連したビデオ（DVD）を流し、討論する。3. 授業省察「小テスト」；授業終了後、小テストに回答してもらい、次の授業の冒頭で講評する。オンライン授業（双方向の授業を進めるために、①常にカメラオン（受講意欲の評価をします）、マイクミュートで授業に参加すること。②指名されたらマイクオンにして回答すること。③受講中疑問点があればチャットに質問やコメントを書き入れるか、マイクオンして挙手マーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：事前学習】教科書；内田伸子（2017年初版2019年改訂）『発達の心理～ことばの獲得と学び～』（サイエンス社）を読み、授業についての「マインドセット（受講の構え）」をつくっておく。【予習時間】受講者は2021年1月中に、教科書を読み、疑問点をノートに記す。授業中に質問して予習時に抱いた疑問を解決する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 授業最後の3分間のコメント作文⇒授業の冒頭で講評する。3. 授業への主体的能動的な参加度；質問や討論に参加する。2. テストレポート課題のレポート提出；レポートの評価。以上の1, 2, 3を合わせて評価する。

<教科書>

内田伸子（2017年2月）『発達の心理～ことばの獲得と学び』サイエンス社

<参考書>

内田伸子（2023年1月）『想像力～人間力の源をさぐる』春秋社

大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈（2021年9月）『NZ乳幼児教育カリキュラム テ・ファーリキ』（完全翻訳・解説）建帛社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	「ことば」の不思議の探究の旅への誘い	教科書第1章「言語の発生」の起源を探る進化心理学の立場に立って言語の発生源について考える
2	発達観の変遷：遺伝か環境か	教科書第2章前半「遺伝か環境かをめぐる心理学論争」「母子コミュニケーション発生の基盤—生物学的基盤と社会的基盤」について考える 【DVD】
3	第一次認知革命：イメージの誕生	教科書第3章「第1次認知革命—図鑑型・物語型；個性の芽生え」気質（図鑑型・物語型）性差の発生機序 【DVD】視覚的断崖実験から乳児の実験方法を理解する
4	母子相互交渉の日米比較	教科書第2章後半の「母子相互交渉の文化比較」母子のコミュニケーションの特徴について日米文化比較研究から考察する。
5	象徴機能の発生	教科書第4章の2「ことばの意味」の獲得ことばの意味の広がりについて考察する。「般用」⇄類推の働きについて理解
6	助数詞の獲得過程	教科書第4章の3「助数詞の獲得過程」助数詞の獲得過程をめぐって言語と認識の関連について考える。バベットパラダイム・教授実験法を理解する。
7	会話行動の文化差；対話か討論（ディベート）か？	教科書 第2章の3「会話は発話権の具現装置か？」会話行動の性差や文化差、談話構造の特徴から生ずる会話行動の違いについて考察する。
8	母語の獲得過程	教科書 第4章 「第二言語の学習」母語の獲得と方言の獲得の違いから、ことばを獲得することの意味と意義を考える。【DVD】
9	外国語の学習と敏感期	教科書 第5章 「外国語の学習—ことばの獲得と『敏感期』」①早期からの英語教育の意味と意義 ②二言語相互依存説 ③母語の土台＝読解力（CARP）が第二言語習得の土台であることを理解する。
10	「青年期は第二の誕生期」	教科書 第6章「児童虐待からの再生—人間発達の可塑性」コロナ禍で子どもの虐待が急増している。虐待やDVの発生要因の一つに社会経済的背景があることを理解する。

11	「想像力の発達—子どものウソ・大人の嘘」	教科書 第7章「想像力の発達」子どものウソは悪意の「嘘」か？子どもの語り・想起・会話の発達から探る。
12	「学力格差・非認知能力の格差」	教科書 第8章「学力格差は幼児期から始まるのか—学力格差と経済格差」学力格差は経済格差を反映しているか？文化比較追跡研究に基づき考察し、格差を克服する子育て・保育・教育について提案する。
13	「子ども中心の保育～NZの保育と日本の保育；自発的な遊びを通して非認知能力が育まれる」	教科書 第8章；NZの保育と日本の保育を比較対照。自発的な遊びを大事にする「子ども中心の保育」の真髄を理解する。保育の仕事の魅力を考える。
14	「保育の見える化」の意味と意義を考える」	教科書第10章「書くこと」は考えることである。保育者と子どもの相互作用を観察し保育記録（ラーニング・ストーリーorドキュメンテーション）として可視化する。書くことにより保育を省察し、課題を発見し保育・教育のPDCAサイクルの好循環を構築することについて事例を通して考える。
15	書くこと・考えること・生きること	教科書 第10章「書くことによる認識の発達」書くことによる認識の変化を作文の推敲実験から明らかにすることにより。書くことは考えることであり自己認識にいたる道筋を明らかにする。
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は高くなっており、業務において重要な位置付けとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

<授業の到達目標>

1. 上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。2. 他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））

復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2022年3月15日) 「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」 南江堂

全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月20日) 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）」 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 肩部及び上腕部の軟部組織損傷(1)	授業ガイダンス、腱板断裂
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SLAP損傷、インピンジメント症候群
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、loose shoulder
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
6	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靭帯損傷、野球肘、テニス肘
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
10	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、手根管症候群
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	ギヨン管症候群、キーンバック病
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	マーデルング変形、腱交叉症候群、ド・ケルバン病
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	側腹靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(5)	デュプイトラン拘縮、ヘパーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15	まとめ	総合復習、総合討議
16		

科目コード	36514				区分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康実習				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある“ハイリスク者”への個別指導・健康支援」に関

<授業の到達目標>

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成し、運動指導の実践を行なえるようになることを目標としている。

<授業の方法>

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し、実際に運動プログラムを作成する(約1時間)。運動プログラムについては、パワーポイントの資料を作成し、プレゼンテーションを練習することにより、実践に活かす。その後、授業内で実践し、指導する側、指導される側になり、レポートを提出することにより授業の理解を深める(約1時間)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

<教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下) 株式会社 南江堂

<参考書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト 株式会社 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法の実際
2	身体組成の測定法	身体組成の測定
3	運動負荷試験実習(1)	正常心電図
4	運動負荷試験実習(2)	負荷心電図
5	運動負荷試験実習(3)	呼気ガス分析、乳酸値
6	運動負荷試験実習(4)	最大酸素摂取量の測定
7	高齢者の体力測定法(1)	高齢者の体力測定法の実習(全身持久力)
8	高齢者の体力測定法(2)	高齢者の体力測定法の実習(筋力等)
9	運動行動変容の実際	行動変容プログラムの実習
10	運動療法(1)	生活習慣病に対する包括的な運動療法
11	運動療法(2)	過体重・肥満症に対する運動療法
12	運動療法(3)	高血糖・糖尿病に対する運動療法
13	運動療法(4)	高血圧に対する運動療法
14	運動療法(5)	脂質異常症に対する運動療法
15	運動療法(6)	ロコモティブシンドロームに対する運動療法
16		

科目コード	36514			区分	コア科目				
授業科目名	スポーツ健康実習 [PH/PP4年生用]			担当者名	伊藤 三千雄				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある“ハイリスク者”への個別指導・健康支援」に関

<授業の到達目標>

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成し、運動指導の実践を行なえるようになることを目標としている。

<授業の方法>

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し、実際に運動プログラムを作成する(約1時間)。運動プログラムについては、パワーポイントの資料を作成し、プレゼンテーションを練習することにより、実践に活かす。その後、授業内で実践し、指導する側、指導される側になり、レポートを提出することにより授業の理解を深める(約1時間)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

<教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下) 株式会社 南江堂

<参考書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト 株式会社 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法の実際
2	身体組成の測定法	身体組成の測定
3	運動負荷試験実習(1)	正常心電図
4	運動負荷試験実習(2)	負荷心電図
5	運動負荷試験実習(3)	呼気ガス分析、乳酸値
6	運動負荷試験実習(4)	最大酸素摂取量の測定
7	高齢者の体力測定法(1)	高齢者の体力測定法の実習(全身持久力)
8	高齢者の体力測定法(2)	高齢者の体力測定法の実習(筋力等)
9	運動行動変容の実際	行動変容プログラムの実習
10	運動療法(1)	生活習慣病に対する包括的な運動療法
11	運動療法(2)	過体重・肥満症に対する運動療法
12	運動療法(3)	高血糖・糖尿病に対する運動療法
13	運動療法(4)	高血圧に対する運動療法
14	運動療法(5)	脂質異常症に対する運動療法
15	運動療法(6)	ロコモティブシンドロームに対する運動療法
16		

科目コード	55007			区分	キャリア形成科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	鈴木 真理子				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。3年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	情報分析論				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

情報分析とは、社会の様々なデータから帰納的に現象を明らかにしようとするものである。そのためには仮説をたて、それを検証するというステップが重要となる。本科目では、統計的手法を用いながら、仮説検証の学習に取り組む。その過程で、平均、分散、相関、回帰分析といった考え方を理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

①プロセスから統計を理解し、表現手法としての情報分析を見につける。②活用事例に沿ったシチュエーションなど基礎知識を体系的に理解する。③統計を扱う上でのルールなど、基礎知識を体系的に理解する。④活用事例や演習課題を通じて、統計の使い方、必要性を体系的に理解する。⑤統計の考え方、プロセスを学び、専門分野を学ぶための土台を培う。

<授業の方法>

毎回PCを用いた演習を行う。シンクタンク、調査会社において調査データの分析、また、法人、団体において商品開発、品質管理、実験データ、顧客ニーズのデータの分析など、データの解析を主な業務とする業種・職種への進路を想定し、PC (Excel) を用いたデータ分析方法の講義を行う。毎週、各自でPCを用いて情報分析をおこなって行く。宿題でさらに分析を深めていき、翌週の講義で自身が行った分析内容を確認していく。実際に使っていくことができるPC (Excel) 分析能力を身に付けていく。必ず個人のPCを持ち込むこと。マナー

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回、次週の学習範囲を明示する。授業で積極的に発言できるように次週のテーマに関わる情報収集の準備をすること。(毎週最低でも1時間の予習が必要)。また、講義の重要ポイントに関わる宿題を出す。次週の講義までに提出することが必要である(毎週最低でも1時間の復習時間が必要)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

最終課題50%、授業態度・意欲 30%、課題提出20 %で評価する。

<教科書>

<参考書>

篠原清夫・榎本環・大矢根淳(2010) 『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』 弘文堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション&アイスブレイク(情報分析とは)	授業の進め方、成績基準、諸注意、統計と創造する力、物語を作る流れを体験する。
2	データ解析のためのコンピュータ利用	基本操作入門(ソフトの起動と終了、データの型、データ入力、様々な関数を利用した計算、データの保存)
3	統計学の基礎1(統計量)	データのまとめ方(数値による要約:基本統計量の説明)分布の中心的傾向を表す平均・中央値・モードなどの説明と具体的な数値について計算実習および解釈を行う。
4	統計学の基礎2(統計量)	分布のばらつきを表す分散・四分位範囲・変動係数などの説明と具体的な数値についての計算実習および解釈を行う。
5	統計学の基礎3(グラフ)	データのまとめ方(視覚的なまとめ方)として代表的な棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ・レーダーチャート・ヒストグラムなどについて解説後、実際のデータについて上記のグラフを作成し、その見方も考察をする。散布図の見方と実際のデータについて作成を行なう。同時に相関係数も導き、その解釈も解説する。
6	確率と確率分布1	①事象と確率 ②確率変数と確率分布および期待値 ③主要な確率分布(正規分布):グラフ作成と確率計算
7	確率と確率分布2	主要な確率分布(二項分布、ポアソン分布)グラフ作成と確率計算の実習
8	検定と推定の考え方	①検定における仮説と有意水準 ②実際のデータについて計算練習 ③推定(点推定と区間推定)とシミュレーションによる実習
9	1標本における検定と推定1	①正規分布における平均・分散に関する検定と推定
10	1標本における検定と推定2	①二項分布における母比率に関する検定と推定 ②ポアソン分布における母欠点に関する検定と推定
11	関連分析(質的変数間)	質的変数間の関連をみる方法である、クロス集計(2元分割表)での属性相関係数から検討する仕方、独立性の検定を行う仕方、さらには対応分析を行い解釈する方法について説明する。
12	相関分析と回帰分析(量的変数間)	量的変数同士の関連(相関)をみる場合、①相関分析:散布図からの検討と実際のデータについての解析と解釈を行なう。②単回帰分析。目的変数と説明変数による回帰モデル(因果関係の1つのモデル)の実際のデータへの適用と解釈を説明する。ノ

13	質的データ（観察）の分析	ンパラメトリックなスピアマン、ケンドールの統計量についても説明する。
14	質的データ（インタビュー）の分析	観察により得られたデータについての解析・解釈についての説明
15	質的データ（ドキュメント）の分析	インタビュー調査により得られたデータに関する解析・解釈についての説明
16		ドキュメントから得られるデータについての解析・解釈についての説明

科目コード	65040				区分	専門基礎			
授業科目名	スピーキング・スキル				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

The goal of this class is to improve speaking ability by developing basic speaking and listening skills to build comfort using English both academically and casually. Students will learn elements of delivering accurate information, interview skills, giving

<授業の到達目標>

The students will improve their speaking abilities such as retelling, impromptu speech, interview and presentation skills.

<授業の方法>

Google Classroom will be the primary use for distribution and submission of lesson materials. The lesson procedure is as followed: (1) Warm-up: Giving a one-minute impromptu speech (2) Sharing learning objectives (3) Engagement -- Study -- Activation (4) Refle

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students are expected to gather materials of student interest and complete around 1 hour of work outside of class time per week.

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Attitude (toward speaking English in class) 10%, Classwork & Assignment 10%, Retelling 25%, Interview 25%, Presentation 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Guidance	Class Overview, Evaluation, Practice making eye contact with the audience
2	Watching news, Partial recitation, Retelling (1)	Personal topics
3	Watching news, Partial recitation, Retelling (2)	Social topics
4	Jigsaw retelling (1): 中間テスト1	Social issues
5	Jigsaw retelling (2): 中間テスト1	Social issues
6	Narrative, Q&A	Biography, Interview preparation & practice
7	Interview (1): 中間テスト2	なりきり interview 1
8	Interview (2): 中間テスト2	なりきり interview 2
9	Presentation (1)	Introduction
10	Presentation (2)	Body
11	Presentation (3)	Conclusion
12	STEP sample questions (1)	Giving opinions
13	STEP sample questions (2)	Giving ideas
14	Presentation (1): 期末テスト1	Research project
15	Presentation (2): 期末テスト2	Research project
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE2222組用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・グループディスカッション	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師の仕事の中核をなすものは授業です。その授業を充実させるために、これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な項目について取り上げます。それらの「技術」「情報」「教育の方法」「情報機器」の扱い方や指導の仕方、現状を学習することにより授業の実践力を高めるようにします。あわせて授業を教師の立場（教える立場）からとらえ、教師としての見方、考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培います。

<授業の到達目標>

以下の3点を到達目標として設定します。（1）教育現場における教育方法・技術、ICT活用の意義・背景・理論について理解できる。（2）社会の中で求められる資質・能力（情報活用能力を含む）の育成と教育方法・技術、ICTの活用とのつながりについて説明することができる。（3）各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる。

<授業の方法>

最初に講義により概略を説明し、内容を理解してから自分の考えをまとめるようにします。また、アクティブ・ラーニングやICT活用を交えた授業を展開して他の意見と自分の意見を比較する時間を取ります。そして授業のまとめとして確認問題を解くようにします。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えておくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前に読んでおくととても勉強になります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート30%、授業に対する態度20%、最終レポート50% ※ミニレポートの内容について、疑問点やさらに深い議論につながると思われる記述があれば、次回授業で取り上げることがあります。

<教科書>

<参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社
 吉永幸司（編）京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook）小学館
 吉永幸司（編）考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK）小学館
 4・5・6年 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、教育の方法・技術に関わる諸概念	最初の授業として次の3点を説明します。・本授業の進め方の確認 ・本授業で扱う教育方法 ・技術の定義・なぜ教育方法・技術について学ぶのかグループワークに登録するのでパソコンを持参してください。
2	教育方法の歴史	教育方法の歴史の変遷を学びます。それに併せ学習指導要領の変遷について学びます。
3	現代の教育方法について	アクティブ・ラーニング等の現代の教育方法を紹介し、その意義となぜそのような方法が求められるのか検証します。
4	授業における教師の役割と指導技術	教師の役割の変化、授業の意味の変化、これに伴う指導技術の変化について検証します。
5	教育における評価	教育における評価の意味と方法の例を紹介し、その意義を検証します。評価については事前・事中・事後評価があることを理解し、それぞれの役割について学びます。
6	教育の技術の具体例①	話法（発問や指示等）や板書の意味・役割について具体例を挙げ学習します。
7	教育の技術の具体例②	ノート指導について具体例を挙げて説明します。
8	教育の技術の具体例③	学習形態の変化について学びます。講義形式、話し合い（話し合いではない）など現代

9	インクルーシブ教育について	の学校現場での学習形態について具体例を挙げながら学習します。特に「学びあい」にも時間を割きます。
10	学校現場におけるICTの実際	学校現場で求められているインクルーシブ教育について学びます。理論とともに言葉の定義を具体例を挙げながら紹介し、理解するようにします。
11	情報モラルについて	学校現場においてICT化の流れを歴史的要請を踏まえながら検証していきます。
12	紙ベースとペーパーレス、そのメリットとデメリット	ICTを活用するにあたり教員一人一人が身に着けるべき情報モラルについて学習します。
13	児童・生徒の情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法	現代の学校現場での情報の扱い方について学びます。そして紙ベースとペーパーレスを対比させ、そのメリットとデメリットを検証します。
14	校務の情報化とデータ活用	情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法、授業方法の事例を考えます。Google Classroomを使って模擬授業をします。
15	本授業のまとめ 学校とテクノロジーのこれから	校務の情報化とは何か、校務の情報化に向けたデータ活用の事例を学習します。
16		本授業のまとめ、社会の変化から見る今後の教育方法・技術、ICT活用の仕方を考えます。

科目コード	55009				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表 (1)	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表 (2)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表 (3)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス (2)	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する (1)	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する (2)	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する (3)	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55009				区 分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、学習意欲10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表 (1)	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表 (2)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表 (3)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス (2)	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する (1)	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する (2)	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する (3)	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55009				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表 (1)	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表 (2)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表 (3)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス (2)	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する (1)	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する (2)	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する (3)	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55009				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》				担当者名	簀戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表 (1)	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表 (2)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表 (3)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス (2)	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する (1)	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する (2)	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する (3)	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	24303			区分	専門基礎科目				
授業科目名	上級英語文法 [英語教員希望者限定]			担当者名	井上 聡				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。

<授業の到達目標>

1. 事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。2. 理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。3. 意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

<授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）2. 採点・返却3. 理解度家訓テスト（30分程度）4. 意見交換（5分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材を活用した事前課題（8ページ）の提出（3時間程度）復習：理解度確認テストの受験＋意見交換（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月） 上級英語文法：攻略ポイント210※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。 一粒書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方）
2	動詞の語法①動詞の語法②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
3	動詞の時制法助動詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
4	態の変換不定詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
5	不定詞②分詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
6	動名詞関係詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
7	関係詞②仮定法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
8	比較表現①比較表現②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
9	名詞の語法代名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
10	形容詞の語法副詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
11	接続詞①接続詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
12	前置詞①前置詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
13	疑問・否定・倒置・強調・一致まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
14	総復習	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
15	期末試験	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学IV(捻挫)				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復の伝統的理解である亜急性捻挫は中年期以降に多く発生する。よって、この授業では主に中年期以降の老化にともなう中年及び高齢者の身体的特徴や日常生活、ならびに、中高齢者を取り巻く社会情勢の特徴と問題点を学ぶことにより、亜急性捻挫の発生機序や特徴の理解および治療法の修得に役立てる。また、高齢者に接する際の心構えや医療従事者としての倫理観について学び高い人格形成に努める。

<授業の到達目標>

1. 高齢社会の現況とその対策が説明できる2. 老化による生体の構造や機能の変化が説明できる3. 中高年の代表的運動器疾患と特徴、予防法が説明できる4. 高齢者を取り巻く社会情勢や環境について説明ができる

<授業の方法>

配布資料による講義、ならびにグループ学習形式で進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

将来臨床現場では多くの中年及び高齢者に接することになる。よって、中高齢者の身体的特徴や高齢者を取り巻く環境を理解することは重要である。これらについて事前・事後に予習復習しておくことが必要である。（予習、復習共に1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復師と機能訓練指導 南江堂
 全国柔道整復学校協会 監修 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業進行上の注意事項説明
2	中年及び高齢者を取り巻く現状を知る	中高年の社会の人口学的概況と保健・医療・福祉制度の現状と課題を理解する
3	認知症の理解	高齢者に発生する認知症の病態、症状、治療法を理解する
4	柔道整復師と介護保険発達と老化の理解	介護保険と柔道整復師の関わり方の理解、老化の理解
5	介護保険制度	介護保険制度の理解
6	高齢者介護(1)	介護過程、介護予防等の理解
7	高齢者介護(2)	介護予防・機能訓練で提供する運動と要点等の理解
8	我が国の社会保障	社会保障制度について理解する
9	柔道整復師業務における療養費(1)	療養費の精度の概要
10	柔道整復師業務における療養費(2)	療養費算定の実際
11	職業倫理(1)	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応
12	職業倫理(2)	グループディスカッション事例
13	関係法規(1)	柔道整復師法、医療法等の関係法規を理解する
14	関係法規(2)	柔道整復師法、医療法等の関係法規を理解する
15	総合討議	これまでの授業を復習し再度確実な知識として修得する
16		

科目コード	21329				区分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2231組用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（実践力）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく（1時間程度）。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく（1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり）。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する（1～2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%，指導案・模擬授業等 30%，試験 30%（※評価の観点：高（優レベル）…資料や情報が盛りだくさんで、その根拠（エビデンス）に基づき自分の意見も十分に主張できている場合／中（良レベル）…資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合／要努力（可レベル）…資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合／補講（不可予備軍レベル）…提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合）

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日） 新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日） 道徳の時代をつくる！一 道徳教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会（2021年6月30日） [初頭向け] 幼稚園、小学校における新しい道徳教育 [中等向け] 中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省（2018年3月30日） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省（2018年3月1日） 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（平成29年7月） 教育出版株式会社
 田沼茂紀（2022年4月10日） 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。（重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論）
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。（重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観）
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。（重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面）
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。（重要事項：道徳的価値の内容項目（低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。（重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科）

6	道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－	発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケム)
7	道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－	社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)
8	道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－	SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)
9	道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)	自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))
10	家族生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－	家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)
11	道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)	提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。
12	授業案の作成	提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。
13	授業案の作成、相互評価軸の策定	提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。
14	模擬授業と相互評価Ⅰ	設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。
15	模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」	設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。
16		

科目コード	32308			区分	コア科目					
授業科目名	体育科教育法 [FE2231組用]				担当者名	白石 翔				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択	

<授業の概要>

社会・スポーツ・遊び・子ども（人間）との関係を紐解きながら、小学校の体育授業についてディスカッションを通して創造していく。これまで培ってきた自らの経験を相対化しつつ、これから求められる小学校体育について考えを深めることとする。このことに迫るために、実際に体育館で体を動かしながら考えたり、教室でディスカッションを通して考えたり、書籍を読んで深く思考したりしながら学ぶ。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を学ぶことができる。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。3. これからの小学校体育を考え続けようとする態度を身につける。

<授業の方法>

体育館での実践や教室でのディスカッションを通して学びを深める。また、オンライン上での学習の深まりや情報交換等も行う。※新型コロナウイルス等の感染状況によって適宜変更することがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（毎回1時間程度）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。小学校学習指導要領に書かれた内容に関する小テストを行う。復習：（毎回1時間程度）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 30% レポート・指導案等 40% 小テスト 30%

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編 東洋館出版社
松田恵示・鈴木聡・眞砂野裕編著（2019） 子どもが喜ぶ！体育授業レシピー運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくりー教育出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションと自らが受けてきた小学校体育	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	やってみよう！小学校体育	実際に動きながら小学校体育について考えてみる
3	運動が苦手な児童と小学校体育	運動が苦手な児童が見えている世界はどんな世界？
4	小学校体育って何を学ぶ教科？	具体的な単元から、小学校体育と何を学ぶ教科なのかについて考える。学習指導要領の変遷をおさえる。
5	小学校の体育授業をデザインするためには？	体育授業をデザインするために必要な内容とは？学習指導要領から紐解く
6	小学校体育で扱う運動・スポーツとは？	どのような条件を整えば、子どもたちの豊かな学びを保障できるのかについて検討する。プレイ論からの解説を含む
7	小学校体育授業をデザインしてみよう	ワクワク・ドキドキする授業はいかにしてデザイン可能か？授業をどのようにチェックするのかといった評価論も含む
8	小学校体育授業のデザインを他者と共有するためには？	より良い実践に向けた単元計画のあり方と内容
9	実践を通して見えてくる教師に必要なこととは？	授業を実施する上で、教師に必要なこととは何か？模擬授業を通して考えてみる
10	集団スポーツの授業デザインとは？	集団スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
11	個人スポーツの授業デザインとは？	個人スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
12	授業をより良くするためのサイクルとは？	授業をより良くするための方法と考え方
13	改めて小学校体育に重要なこととは何か？	これからの社会と子ども・スポーツの関係を編み直す
14	未来の小学校体育をデザインする	10年後の体育授業をデザインするために必要な能力とは何か？教師の価値判断と子どもの学び
15	まとめ	この授業を振り返って、自らの、チームの、クラスの学びを言語化する。生き方の哲学について

科目コード	61010				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ・レクリエーション演習				担当者名	宮本 彩			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

<授業の到達目標>

レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

<授業の方法>

スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

(公財)日本レクリエーション協会 スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」 2019年

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは、スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色、高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一步
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスタビリティ、良好な集団作りの方法・アイスブレイキング、スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導、対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術、継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その1
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その2
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その3
15	まとめ	講義内容全般における振り返り
16		

科目コード	38302				区分	コア科目			
授業科目名	体育測定・評価				担当者名	田中 耕作			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「体育測定・評価」では、体育・スポーツ領域における目標（様々な体力要素）に対していかなる教育内容をどのような計画で実践し、いかに達成されたかを評価する。様々な目標を達成するために必要な測定を正しく実施し、適切に分析、評価することが求められる。そこで本講義ではまず一般に広く実施されている「新体力テスト」の内容と評価の理解を深め、そこから各体力項目における科学的測定とその活用方法について取り扱う。

<授業の到達目標>

各種体力測定の目的や方法を理解し、測定計画から運営が適切に行われ、そこで得られるデータを分析・評価することによって実際の体育・スポーツ現場へ応用できる力を身につける。また、（公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー資格取得に繋がるよう、知識を習得する。

<授業の方法>

パワーポイント等を用いて講義を行い、必要に応じて資料を配布する。受講生は講義ノートを作成すること。また、トップガンやスポーツ科学センターにて、体力測定の実践を行う。体力測定の結果から、課題を見つけたり、その課題に対して対処法を考察する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業中に記録したノートや配布された資料、また参考書を通じて復習すること（2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（実践的態度、課題提出状況、および小テスト）60%、最終課題 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

（公財）日本体育施設協会（2012） 公認スポーツプログラマー専門科目テキスト （公財）日本体育施設協会
（財）健康・体力づくり事業財団（2008） 健康運動指導士養成講習会テキスト<下> （財）健康・体力づくり事業財団
日本発育発達学会（2014） 幼児期体力指針実践ガイド 榊杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明
2	幼児期運動指針とは（1）	幼児期運動指針のねらいと特徴
3	幼児期運動指針とは（2）	幼児期運動指針構成と評価
4	高齢者の体力テストの内容と評価	高齢者の体力テストのねらいと特徴、構成と評価
5	新体力テストの内容と評価（1）	新体力テストの実実施計画と運営
6	新体力テストの内容と評価（2）	新体力テストの評価システム
7	新体力テストの内容と評価（3）	統計処理と結果の活用
8	新体力テストの結果とその活用	新体力テストの結果と考察
9	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論	スポーツ現場またはトレーナーによる評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
10	検査測定と評価の手法	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
11	検査測定と評価の手法	関節可動域測定の目的と意義および測定方法筋タイトネスの検査測定方法
12	検査測定と評価の手法	徒手的筋力検査の目的と意義およびその検査方法
13	これまでのまとめと最終課題の説明・作成	全体のまとめ最終課題の説明・作成
14	総合学習	総合学習
15	最終課題の発表会	最終課題の発表会
16		

科目コード	53065			区分	コア科目				
授業科目名	幼児英語指導法 I			担当者名	Jason Witthaus/塚本 千晴				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得に着目し、理論的側面と実践的側面を融合させて学んでいきます。幼い子どもにとって、母国語の発達途上の段階で、もう1つの言語を習得させていくことは簡単ではありません。しかし、「臨界期仮説」（ある一定の時期を過ぎるとネイティブのような言語能力を身につけるのは困難になるという仮説）があるように、幼い時に新しい言語に触れることは、その後の言語習得に大きく作用します。では、どのように指導していくかが問題です。乳幼児の発達過程に応じた教材、教授法について、実践を重ねなが

<授業の到達目標>

検定用テキストを活用しながら、幼保英検4級あるいは3級の合格を目指します。また、グループで協働学習を行い、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得について理解し、適切な教材と言語活動が幼児に提供できるようにします。

<授業の方法>

グループごとに、乳幼児に楽しく英語を学ばせるアクティビティやスキットを実演する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、幼稚園、保育園での実習に向けて活用していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

指定の幼保英検テキストを購入し、指定した範囲のダイアログや単語を覚えたりする課題がある

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

7月に実施される幼保英検を必ず受検すること（合否によって単位取得が決められるものではない） 学習態度30% グループへの貢献度30% 課題提出20% 幼保英検受検20%

<教科書>

一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会（2019） 幼保英語検定3、2、準1級テキストいずれか ブックフォレ

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Guidance; EIKEN placement test (Grade 3)	Complete a EIKEN Placement Test; Class Overview, Grade Evaluation, etc
2	Children's Songs in English (1)	How to use music and motion to teach English; Prepare a music lesson in groups
3	Children's Songs in English (2)	Prepare/Demonstrate a music lesson in groups
4	English Picture Books (1)	How to use English picture books in class; Prepare an English picture book lesson in groups
5	English Picture Books (2)	Prepare/Demonstrate an English picture book lesson
6	Preparation for EIKEN Test (1)	Practice for EIKEN Test
7	Arts and Crafts in English (1)	How to use Arts and Crafts to teach English; Prepare an Arts and Crafts in English lesson in groups
8	Arts and Crafts in English (2)	Prepare/Demonstrate an Arts and Crafts in English lesson in groups
9	Preparation for Mock Teaching (1)	Prepare a student-choice English lesson for mock teaching
10	Preparation for EIKEN Test (2)	Continued practice for EIKEN Test
11	Preparation for Mock Teaching (2)	Complete preparation of a student-choice English lesson for mock teaching
12	Preparation for EIKEN Test (3)	Continued practice for EIKEN Test
13	EIKEN TEST DAY	Take a 幼保英検 during class time
14	Mock Teaching Presentation Day	Final presentation of an English mock teaching lesson
15	Semester Reflection	Reflect on overall class learning
16		

科目コード	53068			区分	専門基礎科目				
授業科目名	幼児体育指導法 I			担当者名	小崎 遼介				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「幼児期運動指針」を理解し、幼児期に獲得させるべき基本的な動作、発達させるべき運動機能を学び、幼児期に必要とされる身体活動を量と質の両面から考慮された指導ができる知識を身に付ける。特に、幼児期における運動遊びの重要性と指導力を身につけることを目指す。特に、文献や先行研究調査し発表を持って、学習する機会を設ける。また、幼児の運動指導の必要性やその意義について、先進的な取り組みをもとに検討を行う。

<授業の到達目標>

①本授業を通して幼児が楽しむことのできる運動遊びを考えることができる。②子どもの運動発達の特徴及び『幼児期運動指針』の内容について理解し、他者に説明できる。③幼児期の身体活動の重要性を理解することができる。

<授業の方法>

講義及び演習並びに実技により授業を展開する。事前学習・授業内学習での文献の調査・発表を行う。またその発表をもとにディスカッション、グループワークを実施する。パソコン・タブレットを用いて文献の発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、幼児期の運動発達・スキルの獲得に関する基本的理解を深め（30分程度）、毎時提示される課題に対し、レポート作成に取り組む（90分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における授業内課題（60%）。事前学習課題（40%）。

<教科書>

文部科学省 幼児期運動指針 文部科学省

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業概要・幼児・体育・指導	授業概要の解説と幼児体育指導についての解説
2	幼児体育に関する理論1	幼児期の発達の特徴に応じた運動指導の在り方について
3	幼児体育に関する理論2	幼児の体力・運動能力、運動能力の発達段階について
4	運動能力の測定①	運動能力測定の手法について（走・跳・投）
5	運動能力の測定②	運動能力測定の手法について（柔軟性・巧緻性など）
6	運動能力の評価	運動能力測定結果の評価と活用
7	幼児体育に関する理論3	幼児の運動に関する現状と課題、遊びとしての運動の重要性
8	幼児体育の意義1	幼児体育のあり方についての調査
9	幼児体育の意義2	幼児体育のあり方についてのディベート1
10	幼児体育の意義3	幼児体育のあり方についてのディベート2
11	幼児教育現場での体育・運動・スポーツ	身体活動量を意識した運動遊び
12	東岡山IPUこども園での運動遊び	用具を用いない多様な運動遊び
13	ニュージーランド保育と運動	用具を用いた運動遊び
14	幼児体育指導と安全	子どもの怪我やリスクマネジメントについて学習する
15	まとめおよび全体の振り返り	授業内容全体の振り返りと幼児体育2への接続
16		

科目コード	0				区分	専門基礎			
授業科目名	言語学				担当者名	難波 えみ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この科目ではまず、語形変化、語順、文構造などの観点から、複数の言語を比較することによって、日本語の特徴を理解していく。また、人間の言語理解・習得のメカニズムとプロセス、学習者の言語習得に影響する要因について学び、日本語学習者と接するための視点を養う。

<授業の到達目標>

①言語を形態的・統語的に捉えることができること②言語理解・習得のプロセスを理解できること③上記の知識を使って、学習者の言語使用からその背景と理由を分析できること

<授業の方法>

基本的に講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業資料、ノートを見返す（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度（出席）30%、課題40%、定期試験30%

<教科書>

<参考書>

佐々木泰子（2007）『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房

石川圭一（2005）『ことばと心理』 くろしお出版

ヒューマンアカデミー（2021）『日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第5版』 株式会社翔泳社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	シラバス確認、これからの授業に関するクイズ	
2	一般言語学・対照言語学①	言語の多様性
3	一般言語学・対照言語学②	言語研究の諸分野
4	一般言語学・対照言語学③	言語の比較
5	言語理解の過程①	言語処理の種類
6	言語理解の過程①	記憶
7	言語理解の過程③	言語理解の過程を説明する枠組み
8	前半のまとめテスト	
9	言語習得・発達①	第一言語習得
10	言語習得・発達②	第二言語習得研究の歴史と重要な発見
11	言語習得・発達③	第二言語習得研究における主要な理論
12	言語習得・発達④	第二言語習得における個人差
13	言語習得・発達⑤	認知スタイルと学習ストラテジー
14	言語習得・発達⑥	バイリンガリズム
15	後半のまとめテスト	
16		

科目コード	27304				区分	基礎専門科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅲ				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である体幹の骨格系、筋系、神経系、脈管系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅲでは体幹の骨格系、筋、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器について、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるように、特に運動器の構造と機能について説明ができるようになる。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用い討論形式で進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に復習が重要である。講義で書き留めたノートを帰宅後まとめる作業が重要である。プリントに記された実習内容に関する項目について、解剖学や生理学及び運動学で習った事を復習する。授業内容（小テスト・講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】①定期試験50%（定期試験で60%以上の評価者）②レポート50%（事前課題等含む）

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体幹を構成する骨格	体幹を構成する骨格の構造と形態
2	脊柱1	頸椎の特徴および代表的な作り
3	脊柱2	胸椎の特徴および代表的な作り
4	脊柱3	腰椎の特徴および代表的な作り
5	体幹腹側の筋1	腹横筋・内腹斜筋・外腹斜筋・腹直筋1
6	体幹腹側の筋2	腹横筋・内腹斜筋・外腹斜筋・腹直筋2
7	体幹背側の筋1	浅背筋
8	体幹背側の筋2	深背筋
9	心血管系1	心臓の構造と役割
10	心血管系2	大動脈、大動脈弓から出る血管
11	心血管系3	胸動脈から出る血管（臓側枝・壁側枝）
12	心血管系4	腹大動脈から出る血管（臓側枝・壁側枝）
13	体幹を走行する神経系1	胸神経の走行
14	体幹を走行する神経系2	腰神経の走行
15	まとめ	総括
16		

科目コード	32306				区分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [他学科A]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

<授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

<授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

<教科書>

文部科学省（2018年） 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社
 鳴海多恵子他（2020年） 「わたしたちの家庭科」 開隆堂

<参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年） 「新編 新しい技術・家庭」家庭分野」 東京書籍
 文部科学省（2017年） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談
5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すぐらく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。

12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・グループディスカッション	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師の仕事の中核をなすものは授業です。その授業を充実させるために、これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な項目について取り上げます。それらの「技術」「情報」「教育の方法」「情報機器」の扱い方や指導の仕方、現状を学習することにより授業の実践力を高めるようにします。あわせて授業を教師の立場（教える立場）からとらえ、教師としての見方、考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培います。

<授業の到達目標>

以下の3点を到達目標として設定します。（1）教育現場における教育方法・技術、ICT活用の意義・背景・理論について理解できる。（2）社会の中で求められる資質・能力（情報活用能力を含む）の育成と教育方法・技術、ICTの活用とのつながりについて説明することができる。（3）各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる。

<授業の方法>

最初に講義により概略を説明し、内容を理解してから自分の考えをまとめるようにします。また、アクティブ・ラーニングやICT活用を交えた授業を展開して他の意見と自分の意見を比較する時間を取ります。そして授業のまとめとして確認問題を解くようにします。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えておくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前に読んでおくととても勉強になります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート30%、授業に対する態度20%、最終レポート50% ※ミニレポートの内容について、疑問点やさらに深い議論につながると思われる記述があれば、次回授業で取り上げることがあります。

<教科書>

<参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社

吉永幸司（編）京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook）小学館

吉永幸司（編）考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK）

4・5・6年 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、教育の方法・技術に関わる諸概念	最初の授業として次の3点を説明します。・本授業の進め方の確認 ・本授業で扱う教育方法 ・技術の定義・なぜ教育方法・技術について学ぶのかグループワークに登録するのでパソコンを持参してください。
2	教育方法の歴史	教育方法の歴史の変遷を学びます。それに併せ学習指導要領の変遷について学びます。
3	現代の教育方法について	アクティブ・ラーニング等の現代の教育方法を紹介し、その意義となぜそのような方法が求められるのか検証します。
4	授業における教師の役割と指導技術	教師の役割の変化、授業の意味の変化、これに伴う指導技術の変化について検証します。
5	教育における評価	教育における評価の意味と方法の例を紹介し、その意義を検証します。評価については事前・事中・事後評価があることを理解し、それぞれの役割について学びます。
6	教育の技術の具体例①	話法（発問や指示等）や板書の意味・役割について具体例を挙げ学習します。
7	教育の技術の具体例②	ノート指導について具体例を挙げて説明します。
8	教育の技術の具体例③	学習形態の変化について学びます。講義形式、話し合い（話し合いではない）など現代

9	インクルーシブ教育について	の学校現場での学習形態について具体例を挙げながら学習します。特に「学びあい」にも時間を割きます。
10	学校現場におけるICTの実際	学校現場で求められているインクルーシブ教育について学びます。理論とともに言葉の定義を具体例を挙げながら紹介し、理解するようにします。
11	情報モラルについて	学校現場においてICT化の流れを歴史的要請を踏まえながら検証していきます。
12	紙ベースとペーパーレス、そのメリットとデメリット	ICTを活用するにあたり教員一人一人が身に着けるべき情報モラルについて学習します。
13	児童・生徒の情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法	現代の学校現場での情報の扱い方について学びます。そして紙ベースとペーパーレスを対比させ、そのメリットとデメリットを検証します。
14	校務の情報化とデータ活用	情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法、授業方法の事例を考えます。Google Classroomを使って模擬授業をします。
15	本授業のまとめ 学校とテクノロジーのこれから	校務の情報化とは何か、校務の情報化に向けたデータ活用の事例を学習します。
16		本授業のまとめ、社会の変化から見る今後の教育方法・技術、ICT活用の仕方考えます。

科目コード	39107				区分	専門基礎			
授業科目名	日本語教育概論Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

近年、日本語教育の現場と日本語学習者の多様化は著しく進んでおり、日本語教師には幅広い知識と、その知識をもとにそれぞれの現場に柔軟に対応する力が求められる。授業では、国内と海外の日本語教育の現状、世界と日本の社会や文化など、日本語教育を取り巻く様々な情報を資料やデータに基づいて概説する。また、講義内容をもとに各自が調べ、発表することにより、理解を深める。

<授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 日本語教育を取り巻く様々な情報を整理し、全体像を把握する。2. 日本語教師に求められる資質について考え、日本語教師になる心構えを作る。3. 日本語教師になるために大学生活をどう過ごし、いつ何をすべきかについて考える。

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度40%，課題提出30%，中間・期末課題または発表30%フィードバックは授業内で行う。期末課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション日本語教育の概況	授業の概要と評価方法 授業の概要と評価方法 日本語学習者とは？日本語教師とは？ 国語教育や英語教育との違い
2	日本語教師の資質	日本語教育施策にみられる「日本語教師の資質」とは
3	日本語教師として働くには（1）	学生による調査発表：日本語教師の仕事とは
4	日本語教師として働くには（2）	学生による調査発表：日本語教師の募集状況
5	日本語教育能力検定試験	日本語教育能力検定試験の概要と内容の変遷
6	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（1）	年少者に対する日本語教育の方法や問題点
7	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（2）	バイリンガリズム
8	日本語教師の役割	学習者支援学習者オートノミーの育成
9	多文化共生社会（1）	地域社会と共生
10	多文化共生社会（2）	やさしい日本語
11	日本語教育史（1）	戦前・戦中の日本語教育史（台湾、朝鮮半島、中国を中心に）
12	日本語教育史（2）	戦後の日本語教育の変遷
13	世界事情	世界の社会と文化
14	日本事情	日本の社会と文化
15	日本語教育関連事業日本語教師海外派遣プログラム	日本語教育関連機関青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア、日本語パートナーズなどの各種プログラムの紹介、体験談
16		

科目コード	32306				区分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [他学科B]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

<授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

<授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

<教科書>

文部科学省（2018年） 「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社
 鳴海多恵子他（2020年） 「わたしたちの家庭科」 開隆堂

<参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年） 「新編 新しい技術・家庭」家庭分野」 東京書籍
 文部科学省（2017年） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談
5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すぐらく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。

12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	

科目コード	25102				区分	専門基礎科目			
授業科目名	体育心理学 [PP/PH3年生～]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

<授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

<授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組んでもらい、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する(1時間程度)・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

<教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

<参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理 (1)	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理 (2)	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング (1)	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング (2)	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング (3)	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング (4)	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	65048				区分	キャリアマネジメントⅡ コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ [中高保健教員]				担当者名	浦 佑大/白石 翔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体育学科のなかで、教員コースを希望する学生が対象。小学校と中高保健体育の各専門教養の知識を身に付けるために行われる。教員としての資質・能力の育成を図るなかで、グループワークにより学生自身が主体的に知識を深められるように授業展開していく。

<授業の到達目標>

・小学校全科、中学校高等学校保健体育の専門教養を身に付ける。・教員の適性を確認し、他社と協働しながら学ぶ態度を身に付ける。

<授業の方法>

・小学校希望者と中高保健体育希望者とわかれて、それぞれ編成された異学年チームで実施する。・上学年を中心に解説や問題の解答の説明等、学生同士で学習することで分かりやすい教え方を学ばせる。・最初と最後に確認テストを実施し、到達度を把握する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：チーム毎に出された課題に取り組む(30分)。復習：毎時、授業を振り返り学んだ内容をまとめる(30分)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

確認テスト85%学習意欲・態度15%

<教科書>

時事通信出版局(2022年9月1日) 中高保健体育の完全攻略法 時事通信社
東京アカデミー 教員採用試験対策セサミノート 専門教科小学校全科 東京アカデミー七賢出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・実力テスト	授業内容を理解し、実力テストで現時点の理解度を把握する。
2	学習指導要領	専門教養の領域である学習指導要領について理解し、小テストを実施し理解の到達度を図る。
3	体づくり運動/国語	中高：体づくり運動について理解する。小：国語における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
4	器械運動/社会1	中高：器械運動について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：社会における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
5	陸上競技/社会2	中高：陸上競技について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：社会における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
6	水泳/算数	中高：水泳について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：算数における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
7	球技1(ゴール型)/理科	中高：ゴール型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：理科における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
8	球技2(ゴール型)/確認テスト	中高：ゴール型種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：今まで行った内容のテストを実施し到達度を把握する。
9	球技3(ネット型)/生活	中高：ネット型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：生活における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
10	球技4(ネット型)/音楽	中高：ネット型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：音楽における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
11	球技5(ベース型)/図画工作	中高：ベース型の種目について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：図画工作における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
12	武道/家庭	中高：武道について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：家庭における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。

13	ダンス/体育	中高：ダンスについて理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：体育における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
14	体育理論/外国語	中高：体育理論について理解する。前時のミニテストを実施し、理解の到達度を把握する。小：外国語における傾向と対策について理解する。小テストを実施し到達度を把握する。
15	まとめと内容確認テスト	これまでの授業をまとめ、確認テストを実施し、理解の到達度を把握する。
16		

科目コード	65048				区分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。(1時間程度) 復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

<教科書>

<参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 日本史・世界史・地理・思想 七賢出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をプレ講義
2	思想(1)	西洋思想Ⅰ(1) (自然哲学から古代ギリシャ哲学)
3	思想(2)	西洋思想Ⅰ(2) (キリスト教思想と中世哲学)
4	思想(3)	西洋哲学Ⅱ(1) (経験論思想と合理論思想の比較)
5	思想(4)	西洋思想Ⅲ(1) (経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム)
6	思想(5)	西洋思想Ⅲ(2) (合理論思想の流れ～社会主義と実存主義)
7	思想(6)	西洋思想Ⅲ(2) (ドイツ観念論と構造主義)
8	思想(7)	東洋思想Ⅰ(1) (バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり)
9	思想(8)	東洋思想Ⅰ(2) (聖徳太子から平安時代までの仏教について)
10	思想(9)	東洋思想Ⅱ(1) (古代中国の諸子百家について)
11	思想(10)	東洋思想Ⅱ(2) (中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について)
12	思想(11)	東洋思想Ⅱ(3) (明治以降の日本の哲学について)
13	社会(1)	社会学の基礎(1) (現代社会の特質について)
14	社会(2)	社会学の基礎(2) (社会集団の種類について)
15	社会(3)	社会学の基礎(3) (家族について)
16		

科目コード	65048				区分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。(1時間程度) 復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

<教科書>

<参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 日本史・世界史・地理・思想 七賢出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をプレ講義
2	思想(1)	西洋思想Ⅰ(1)(自然哲学から古代ギリシャ哲学)
3	思想(2)	西洋思想Ⅰ(2)(キリスト教思想と中世哲学)
4	思想(3)	西洋哲学Ⅱ(1)(経験論思想と合理論思想の比較)
5	思想(4)	西洋思想Ⅲ(1)(経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム)
6	思想(5)	西洋思想Ⅲ(2)(合理論思想の流れ～社会主義と実存主義)
7	思想(6)	西洋思想Ⅲ(2)(ドイツ観念論と構造主義)
8	思想(7)	東洋思想Ⅰ(1)(バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり)
9	思想(8)	東洋思想Ⅰ(2)(聖徳太子から平安時代までの仏教について)
10	思想(9)	東洋思想Ⅱ(1)(古代中国の諸子百家について)
11	思想(10)	東洋思想Ⅱ(2)(中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について)
12	思想(11)	東洋思想Ⅱ(3)(明治以降の日本の哲学について)
13	社会(1)	社会学の基礎(1)(現代社会の特質について)
14	社会(2)	社会学の基礎(2)(社会集団の種類について)
15	社会(3)	社会学の基礎(3)(家族について)
16		

科目コード	0				区分	専門基礎			
授業科目名	日本語学Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

この授業では日本語の文法、意味体系、語用論的規範の知識を学ぶ。日本語の特徴を理解することによって、客観的に日本語を理解し、日本語学習者を指導するための視点を養う。日本語学Ⅰを習得した上で履修すること。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は以下の3点である。①日本語の文法体系を理解すること②日本語の意味体系を理解し、分析できること③日本語の語用論的規範を理解し、分析できること

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当ページを読む（30分程度）復習：用語を復習し、定着を図る（30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度20%，課題提出40%，発表・プレゼンテーション30%，試験または最終課題10%発表やプレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法体系 (1)	品詞
3	文法体系 (2)	文型、助詞
4	文法体系 (3)	自動詞と他動詞、ヴォイス
5	文法体系 (4)	テンス、アスペクト
6	文法体系 (5)	モダリティー、待遇表現
7	文法体系 (6)	複文の構造
8	まとめと小テスト (1)	日本語の文法体系まとめ (1)
9	まとめと小テスト (2)	日本語の文法体系まとめ (2)
10	意味体系 (1)	一般意味論
11	意味体系 (2)	認知意味論
12	語用論的規範 (1)	意味論と語用論、発話行為と間接発話行為
13	語用論的規範 (2)	協調の原理と会話の公理、ポライトネス理論
14	語用論的規範 (3)	会話分析・談話分析、結束性・照応・推論
15	まとめと小テスト (3)	意味体系・語用論的規範のまとめ
16		

科目コード	36302			区分	基礎専門科目				
授業科目名	解剖・生理学実習 I			担当者名	坂本 賢広				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学および生理学の特に柔道整復師業務に関連する分野を中心として構成し授業展開する。将来、医療の一端を担う柔道整復師は人体の正常な構造、位置、形を理解する事は重要である。また、健康なヒトのからだのしくみとはたらきを理解するため、安静時と運動時の生理学的評価を行い、教科書の平面的な記載と実際とをよく見比べ、解剖・生理学実習を行う。解剖・生理学実習を行うことにより、医療関係者としての心得を把握し、将来の生命倫理の基礎をつくる。

<授業の到達目標>

人体の正常な構造、位置、形を三次元的に把握し、実習を通して解剖学、生理学、運動学の講義で習った身体構造と機能を理解し、表現できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

各授業で、テーマに沿って実習やグループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：授業内容の確認・復習の実施（毎回、1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 70% 学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

監訳 坂井 建雄／松村 譲児 発行 2013年03月 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第2版 医学書院
 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修岸 清・石塚 寛 編 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社
 Scott K. Powers Edward T. Howley 著日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人体の構造の理解1	人体の構造と機能について
2	人体の構造の理解2	人体の構造と機能を解剖学の視点から復習する
3	人体の構造の理解3	人体の構造と機能を生理学の視点から復習する
4	各部位の把握（上肢）	上肢の骨・筋・神経の位置および機能について
5	各部位の把握（下肢）	下肢の骨・筋・神経の位置および機能について
6	各部位の把握（体幹）	体幹の骨・筋・神経の位置および機能について
7	各部位の把握（頭頸部）	頭頸部の骨・筋・神経の位置および機能について
8	心臓の構造と機能1	刺激伝導系の復習と安静時心拍数の測定について
9	心臓の構造と機能2	刺激伝導系の復習と運動時心拍数の測定について
10	エネルギー供給系について1	安静時の乳酸測定について
11	エネルギー供給系について2	運動時の乳酸測定について
12	酸素摂取量について1	酸素摂取量の測定方法について
13	酸素摂取量について2	呼気ガス分析機器について
14	酸素摂取量について3	運動負荷試験について
15	総復習	まとめ
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	経済政策論				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

経済の成長と安定を図り、資源の効率的利用を実現し、社会的厚生を最大化するために、どのような経済・政治・行政手法を使ってそれを達成するかを考える。経済システムの理解から始まり、経済成長のメカニズムを再確認し、金融政策、財政政策、エネルギー・食糧政策、雇用政策、福祉政策、環境政策などを具体的に学ぶ。

<授業の到達目標>

本講義では、経済政策の基本の理解からはじめ、経済制度、経済メカニズムの基礎を確認した上で経済政策の概要を理解することを目指す。そしてそれらを今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当てることで、経済政策の目的と有効性、問題点を理解することを目標とする。

<授業の方法>

指定のテキストを中心に経済政策の基本を学習するとともに、独自の資料をもとに経済政策を理解する上で必要な知識を追加的に提供する。同時に、『日本経済新聞』を素材に、経済政策のタイムリーなトピックの解説を行い、理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、必ずテキストの該当箇所を事前に予習することを必要とする。予習にはおよそ30分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、30分程度の時間を割くような学習姿勢が求められる。その他、日経ビジネスをはじめ新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくことが望ましい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 20%、レポート 40%、テスト 40%で評価する。授業に関する質問は授業の前後及び教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

<参考書>

瀧澤弘和 他5名（2016/1/30） 経済政策論 慶応義塾大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	経済政策とは何か	経済政策の概念、役割、手法などについて概論的に説明し、講義全体のイメージを作ってもらおう。
2	経済システム	経済政策を学ぶ前提として、経済システムの諸類型、国家と市場の機能メカニズムを学ぶ。
3	成長戦略	経済成長の要因、成長のパターン、成長戦略・政策の成功例、失敗例などを分析する。
4	財政政策	国の財政政策、税制、国債の問題などを具体的に学ぶ。
5	金融政策	金融政策と日本銀行の役割を学ぶ。
6	対外経済政策	貿易、対外直接投資、経済協力、経済支援などの問題を学ぶ。
7	農業政策、エネルギー政策	国家の根幹に関わるエネルギー、食糧政策を具体的に学ぶ。
8	労働市場政策、社会保障政策	労働市場の仕組み、社会保障の諸問題を学ぶ。
9	ライフデザイン政策	ゲスト講師を迎え、ライフデザインについて考える。
10	産業教育政策	経営環境の変化に伴い日本企業に求められる社会課題解決型経営とイノベーションのためのコミュニケーションについて学ぶ。
11	日本経済政策の諸問題 1	第2次世界大戦後の日本の経済政策を学ぶ。
12	日本経済政策の諸問題 2	バブル経済とバブル崩壊について学ぶ。
13	日本経済政策の諸問題 3	現代日本の経済が直面する諸問題について考える。
14	まとめ	講義全体を振り返り、ポイントを再度解説する。
15	まとめテスト	まとめテストを行う。
16		

科目コード	53016				区分	コア科目			
授業科目名	健康運動実習 [健康科学科用]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては、学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について

<授業の到達目標>

健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また、参加者（対象者）に対する運動指導を通じて、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。

<授業の方法>

健康運動教室の企画、運動プログラムの考案、指導を実践を通じて学ぶ。公共施設や高齢者施設などでの現場実践を通して、様々な年代や体力レベルの対象者との関わり方や指導方法を理解する。グループ（1グループ8名程度）活動のなかで、仲間と協力して取り組むことを学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

円滑なグループ活動が実施できるよう、グループ内で事前の下調べ（予習）や話し合いの結果のまとめ（復習）を行い、課せられる課題の遂行にあたる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、運動指導の実践 40%、最終レポート 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	実習の進め方、グループ分け、スケジュールを説明する。
2	健康運動の趣旨・目的	年齢に伴う体力変化を学び、健康運動の目的について考える。
3	健康評価	運動参加に関する医学的状況の把握や運動参加の禁忌、条件付参加について考える。
4	安全管理	救急法の資格の必要性、救急時対応、安全確保の手順について考える。
5	健康運動教室のテーマ選定	グループごとに実施する健康運動教室のテーマを科学的エビデンスを基に選定する。
6	教室の概要作成	教室のテーマを基にどのような目的で運動を実施するのかについて考える。
7	教室のチラシ作成	教室のテーマや概要に則したチラシを作成する。
8	運動プログラムの作成（1）	教室のテーマに合わせた運動プログラムを考える。
9	運動プログラムの作成（2）	基本の運動プログラムに加えて、体力レベルの差に対応方法を考える。
10	教室のタイムスケジュール作成	考案した運動プログラムを組み合わせ90分間の健康運動教室のタイムスケジュールを考える。
11	指導シナリオの作成	運動プログラムの進め方や運動の仕方などの説明に向けたシナリオを作成する。
12	予行演習	科目指導教員ならびに受講学生を対象に、健康運動教室の予行演習を行う。
13	予行演習を踏まえた修正・最終案の作成	予行演習での指摘を踏まえて運動プログラムやシナリオ、教室のタイムスケジュールを修正し、最終案を作成する。
14	運動プログラムの実践	運動指導の実践（現場実習）
15	振り返り（レポート作成）	本授業を通して学んだことについてレポートを作成する。
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	行政法Ⅱ				担当者名	山本 満理子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

私たちの権利が違法か適法かを問わず、行政によって侵害された場合にどうやってその権利を救済するのか。具体的な事例についての検討と通じて行政救済法のシステムを学ぶことを目指します。

<授業の到達目標>

行政救済法のシステムを理解し、具体的な事例の解決ができるようになる。

<授業の方法>

行政救済システムについて講義をした上で、様々なジャンルの事例について判例をもとに検討する。※教科書を指定するが、他の基本書を持っている学生は相談すること。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当部分を通読、事前に課題を出した場合には検討してくる（60分）復習：授業の内容について判例・配布資料などをもとに理解を深める（60分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

<教科書>

野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎（2023年3月）『有斐閣ストゥディア 行政法 [第3版]』 有斐閣

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進行方法および学習方法等について解説します。
2	行政不服審査法（1）	行政不服審査法はどのような法律か／審査請求の要件・手続
3	行政不服審査制度（2）	多様な行政不服審査／行政相談・行政ADR・行政審判／地方の行政不服審査
4	行政訴訟（1）	行政訴訟の概要／行政問題の状況／行政不服審査と行政訴訟の関係
5	行政訴訟（2）	取消訴訟／その他の抗告訴訟／当事者訴訟・争点訴訟
6	国家補償（1）	国家賠償と損失補償／国家賠償法1条
7	国家賠償法2条／損失補償	7回
8	事例研究（1）	福祉行政について事例研究
9	事例研究（2）	社会保障行政、公衆衛生行政について事例研究
10	事例研究（3）	都市行政、廃棄物処理行政について事例研究
11	事例研究（4）	租税行政、市民生活行政について事例研究
12	事例研究（5）	公による賠償、土地利用行政について事例研究
13	事例研究（6）	産業行政、環境保全・資源管理等について事例研究
14	事例研究（7）	動物行政、情報行政について事例研究
15	事例研究（8）	警察・消防行政、原子力発電および放射能汚染等に係る行政、表現の自由について事例研究
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE2221組用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・グループディスカッション	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師の仕事の中核をなすものは授業です。その授業を充実させるために、これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な項目について取り上げます。それらの「技術」「情報」「教育の方法」「情報機器」の扱い方や指導の仕方、現状を学習することにより授業の実践力を高めるようにします。あわせて授業を教師の立場（教える立場）からとらえ、教師としての見方、考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培います。

<授業の到達目標>

以下の3点を到達目標として設定します。（1）教育現場における教育方法・技術、ICT活用の意義・背景・理論について理解できる。（2）社会の中で求められる資質・能力（情報活用能力を含む）の育成と教育方法・技術、ICTの活用とのつながりについて説明することができる。（3）各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる。

<授業の方法>

最初に講義により概略を説明し、内容を理解してから自分の考えをまとめるようにします。また、アクティブ・ラーニングやICT活用を交えた授業を展開して他の意見と自分の意見を比較する時間を取ります。そして授業のまとめとして確認問題を解くようにします。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えおくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前に読んでおくととても勉強になります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート30%、授業に対する態度20%、最終レポート50% ※ミニレポートの内容について、疑問点やさらに深い議論につながると思われる記述があれば、次回授業で取り上げることがあります。

<教科書>

<参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社
 吉永幸司（編）京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook）小学館
 吉永幸司（編）考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK）小学館
 4・5・6年 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、教育の方法・技術に関わる諸概念	最初の授業として次の3点を説明します。・本授業の進め方の確認 ・本授業で扱う教育方法 ・技術の定義・なぜ教育方法・技術について学ぶのかグループワークに登録するのでパソコンを持参してください。
2	教育方法の歴史	教育方法の歴史の変遷を学びます。それに併せ学習指導要領の変遷について学びます。
3	現代の教育方法について	アクティブ・ラーニング等の現代の教育方法を紹介し、その意義となぜそのような方法が求められるのか検証します。
4	授業における教師の役割と指導技術	教師の役割の変化、授業の意味の変化、これに伴う指導技術の変化について検証します。
5	教育における評価	教育における評価の意味と方法の例を紹介し、その意義を検証します。評価については事前・事中・事後評価があることを理解し、それぞれの役割について学びます。
6	教育の技術の具体例①	話法（発問や指示等）や板書の意味・役割について具体例を挙げ学習します。
7	教育の技術の具体例②	ノート指導について具体例を挙げて説明します。
8	教育の技術の具体例③	学習形態の変化について学びます。講義形式、話し合い（話し合いではない）など現代

9	インクルーシブ教育について	の学校現場での学習形態について具体例を挙げながら学習します。特に「学びあい」にも時間を割きます。
10	学校現場におけるICTの実際	学校現場で求められているインクルーシブ教育について学びます。理論とともに言葉の定義を具体例を挙げながら紹介し、理解するようにします。
11	情報モラルについて	学校現場においてICT化の流れを歴史的要請を踏まえながら検証していきます。ICTを活用するにあたり教員一人一人が身に着けるべき情報モラルについて学習します。
12	紙ベースとペーパーレス、そのメリットとデメリット	現代の学校現場での情報の扱い方について学びます。そして紙ベースとペーパーレスを対比させ、そのメリットとデメリットを検証します。
13	児童・生徒の情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法	情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法、授業方法の事例を考えます。Google Classroomを使って模擬授業をします。
14	校務の情報化とデータ活用	校務の情報化とは何か、校務の情報化に向けたデータ活用の事例を学習します。
15	本授業のまとめ 学校とテクノロジーのこれから	本授業のまとめ、社会の変化から見る今後の教育方法・技術、ICT活用の仕方を考えます。
16		

科目コード	32305				区分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [他学科3年A]				担当者名	平松 茂			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。児童のやる気を引き出す指導技術の一つとしてKR (knowledge of result=お返し情報) も取り上げる。4～5人の小グループで模擬授業を担当し、教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用法も習得する。

<授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

<授業の方法>

第1～5回：講義の中で観察・実験を行い、授業の組み立て方や展開方法を習得する。また、模擬授業に向けて、グループを構成し、実践するテーマを決定する。第6～14回：グループごとに予備実験、指導案作成、観察・実験の準備を行い、模擬授業を公開（各回2グループ）する。実践したグループ以外は、児童役として模擬授業を受け、模擬授業の評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

第1～5回：小学校学習指導要領理科解説編、教科書を参照しながら、講義を振り返る。（30分）第6～14回：模擬授業を実施する学生（教師役）は、予備実験、指導案作成を行い、模擬授業のための観察・実験の準備をする。実施後は、後片付けを行う。模擬授業を受ける学生（児童役）は、配布された模擬授業実施一覧を確認し、小学校学習指導要領理科解説編、教科書を参照して学習内容を把握しておく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 10%、 実験・観察の技能 20%、 模擬授業 20%、 学習指導案 10%、 期末試験40% 等で評価する。

<教科書>

毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科5」 東京書籍
 毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科6」 東京書籍
 文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 物の溶け方	小学校理科の概要と授業 観察
2	理科の授業と坂元理論	授業の構造、実験と安全、机間指導とKR
3	理科の授業と評価の方法 ループリック	授業の評価観点、ループリックの作成と活用
4	学習指導案の構造と作成法	教材研究、板書計画、授業細案
5	小学校の授業展開 物の重さくらべ	授業展開をたどる、予備実験とワークシートの関係
6	模擬授業1（1グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・生命領域」
7	模擬授業2（1グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・生命領域」
8	模擬授業3（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・地球領域」
9	模擬授業4（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・地球領域」
10	模擬授業5（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・粒子領域」
11	模擬授業6（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・粒子領域」
12	模擬授業7（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・エネルギー領域」
13	模擬授業8（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
14	模擬授業9（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科3年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
15	まとめ	理科教育の今後の展開と課題
16		

科目コード	40204				区分	コア科目			
授業科目名	ハンドボールⅡ(応用)				担当者名	前田 誠一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・小・中・高等学校運動部活等でコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供できる指導者を養成する講座である。受講対象者：ハンドボールⅠ及び、チームスポーツ指導理論Ⅰを取得、もしくは、履修者。

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、指導者として、チーム運営に必要な基礎知識を身につける。また、ハンドボールの成り立ちに着目した上で、基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

(1)実践指導(2)ディスカッション、ディベート(3)グループワーク(4)プレゼンテーション(5)実習

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導法に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、技術・戦術遂行能力・指導学習能力 20%、レポート 20% 定期試験 30%

<教科書>

<参考書>

酒巻清治(2012/9/3) 基本が身につく ハンドボール 練習メニュー 池田書店
日本ハンドボール協会(2019/7/7) 2019 NTS センタートレーニング テキスト 株式会社 ブライト

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容説明・スポーツインテグリティについて
2	競技の概要と戦術の展開	ハンドボールの特性に応じたコーチングの基礎理論を考える
3	チームの構造と必要となる競技力	競技力向上に応じたコーチングの基礎理論を考える
4	コーチの役割とコーチング能力の発達	基礎指導理論の考察(フィロソフィー)
5	発育発達を踏まえた一貫指導	ヨーロッパと日本の一貫指導について
6	フィジカルアビリティとコンディショニング	グループディスカッション、ディベート
7	ゲームの分析方法	グループワーク、プレゼンテーション
8	競技規則の理解と試合における判定	種目の特性に応じたコーチングの基礎理論
9	ゲーム能力を高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅠ
10	個人のスキルを高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅡ
11	ゴールキーパートレーニング	キーパートレーニング基礎指導法について
12	フィジカルトレーニング	コーチング演習(課題抽出とその修正)
13	目標設定とトレーニング計画の作成	コーチング実習(ピリオダイゼーションの作成)
14	コーチングの実践	コーチング実習(課題抽出とその修正)
15	コーチングの実践の振り返りとその評価	コーチング実習(課題抽出とその修正)
16		

科目コード	40202			区 分	コア科目				
授業科目名	バレーボールⅡ(応用) [バレーボールコーチI資格用]			担当者名	坂本 博秋				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体カトレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけでなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会（2017年2月10日版） コーチングバレーボール（基礎編） 大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（1）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（2）	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（1）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（2）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）（1）	導入方法の理解と指導実習
13	初心者導入法（2/4/6/9）（2）	練習方法と指導実習
14	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
15	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート
16		

科目コード	0				区分	専門基礎			
授業科目名	社会言語学				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

社会言語学とは、「社会」とのかかわりの中で「言語」現象をとらえようとする言語学の分野である。この科目では、実際に使われている日本語には社会がどのようにに現れているのか、日本語を使ってインターアクションするためにはどんな知識が必要かを考えながら日本語を観察する目を養う。さらに各国の言語政策を概観し、広い視野で言語教育及び言語使用と社会との関係を考える。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は下記の2点である。①無意識に使用していた日本語とその使用場面を社会言語学的な視点から振り返ることができること。②各国の言語政策を概観し、社会と言語の関係について考えることができること。

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度30%，課題提出40%，発表20%，試験または最終課題10%フィードバックは授業内で行う。試験や課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションと社会言語学とは	授業の概要と評価方法
2	言語変種（1）	ジェンダー，若者ことば，幼児語，役割語
3	言語変種（2）	地域方言，新方言
4	言語接触	ビジンとクレオール，ダイグロシア
5	言語の多様性（1）	共通言語，コードスイッチング
6	言語の多様性（2）	待遇表現
7	やさしい日本語（1）	やさしい日本語とは
8	やさしい日本語（2）	グループ発表
9	言語/非言語コミュニケーション（1）	コミュニケーションの方法，コミュニケーション・ストラテジー
10	言語/非言語コミュニケーション（2）	非言語コミュニケーション，近接空間学，パラ言語
11	多文化・多言語主義（1）	CEFR，各国の言語政策
12	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（1）
13	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（2）
14	多文化・多言語主義（3）	各国の言語政策グループ発表
15	まとめ	「言語と社会」のまとめ
16		

科目コード	0			区分	コア科目				
授業科目名	リハビリテーション医学 I			担当者名	片岡 昌樹／小玉 京士朗				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、リハビリテーション医学分野で頻りに遭遇する疾患に対するリハビリテーションについて、病態・評価・リハビリテーションなどを学習する。加えて、関連職種およびその役割、連携についてリハビリテーション医学に関係した社会福祉について学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割についても概説する。

<授業の到達目標>

リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に1) リハビリテーションの理念や概念、2) リハビリテーションで用いられる評価や診断、3) リハビリテーションに関わる障害と治療、4) リハビリテーション医学をとりまく関連職種、などについて理解できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

視聴覚教材、配布資料等を適宜使い、教科書に沿って授業を進行する。課題の提示、提出等はGoogle Classroom等で行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（監修），栢森良二（編）（2019年4月10日） リハビリテーション医学 改定第4版 南江堂

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	リハビリテーションの理念（教科書第1章）	ア. 語源 イ. 成立過程（小玉京士朗）
2	リハビリテーション障害学（1）（教科書第5章）	ア. 障害の評価 イ. 関節拘縮 ウ. 関節の変形 エ. 筋萎縮（片岡昌樹）
3	リハビリテーションの対象と障害者の実態（教科書第2章）	ア. 医学的リハビリテーションの対象 イ. リハビリテーション医学の対象 ウ. 障害児（者）の実態 エ. 身体障害児（者）の内訳（小玉京士朗）
4	障害者の階層とアプローチ（1）（教科書第3章）	ア. ICDとICIDH イ. ICIDHとICF ウ. ICFの構成要素の定義 エ. WHODAS2.0（小玉京士朗）
5	リハビリテーション障害学（2）（教科書第5章）	オ. 神経麻痺 カ. 痙縮 ①失語症の定義 ②失認症の定義 ③失行症の定義 ④脳外傷による高次機能障害（片岡昌樹）
6	障害者の階層とアプローチ（2）（教科書第3章）	オ. 障害へのアプローチ カ. 病気と障害の相違（小玉京士朗）
7	リハビリテーション医学の関連職種（教科書第6章）	A) 医師 B) 理学療法士 C) 作業療法士 D) 看護師 E) 言語聴覚士 F) 臨床心理士 G) 医療ソーシャルワーカー（小玉京士朗）
8	リハビリテーション医学の評価と診断（1）（教科書第4章）	D) ADLの評価 E) 心理的評価 F) 認知症の評価（小玉京士朗）
9	リハビリテーション医学の評価と診断（2）（教科書第4章）	G) 電気生理学的検査 H) 画像診断 I) 運動失調（小玉京士朗）
10	リハビリテーション治療学（1）（教科書第5章）	ア. 障害の受容 イ. 廃用症候群 ウ. 関節拘縮 エ. リンパ浮腫 オ. 筋力強化 カ. 中枢性麻痺と痙縮（片岡昌樹）
11	リハビリテーション治療技術（理学療法）（教科書第7章）	ア. 対象 イ. 理学療法の進め方 ウ. 理学療法の実際（小玉京士朗）
12	リハビリテーション治療技術（作業療法）（教科書第7章）	ア. 対象 イ. 作業療法の進め方 ウ. 作業療法の実際（小玉京士朗）
13	リハビリテーション治療技術（補装具）（教科書第7章）	ア. 装具 イ. 義肢 ウ. 歩行補助具 エ. 車イス オ. 自助具（小玉京士朗）
14	リハビリテーション治療学（2）（教科書第5章）	キ. 慢性疼痛 ク. バイオフィードバック ケ. 歩行練習 コ. 全身運動 サ. レクリエーション治療（片岡昌樹）

科目コード	37506				区分	コア科目			
授業科目名	スポーツマーケティング論				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、消費者に求められているスポーツの本質的価値はどのようなことなのか、マーケティングとはどのようなことなのかを考え、その上でスポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例、今後のスポーツマーケットの成長課題を考察する。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、少人数でのグループワークを展開していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

インターネット等でスポーツマーケティング関連の情報を確認する。授業資料を中心とした一斉授業と少人数のグループワークを中心に展開していく。毎週最低でも準備に1時間の予習時間、講義内容のまとめ・理解に1時間の復習時間が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題(毎回の小テスト) 30% レポート課題 40%

<教科書>

<参考書>

原田宗彦 藤本淳也 松岡宏高 編著者(2020年9月1日) スポーツマーケティング改訂版 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か?	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランド戦略、ブランドエクイティとは何か、ライセンスング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	事例紹介②国内スポーツ	プロチームマーケティング事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	経済情報処理				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

経済社会の実態把握のためには統計の利用が必要不可欠である。公的統計の利用を通して、基本的な統計データの見方や実践的な分析方法を理解し、現実の経済社会を把握する方法を身につけて、社会を見る目を養う。

<授業の到達目標>

公的統計の利用方法を知る、情報処理の方法を理解することを目標とする。

<授業の方法>

Excelを利用してデータ処理を行う。基本的なExcelの操作スキルを前提に授業を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：指定された公的統計のデータをダウンロードしてみる（30分程度）事後学習：授業の中で扱った分析方法を別のデータで実践する（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲30%、課題提出20%、最終課題50%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	経済統計について	統計の取り扱い方、統計データの入手方法について解説する。
2	データの加工と整理	入手したデータを分析するために加工・整理する。
3	クロス集計	個票データの分析を行う。
4	GDP統計の利用	グラフを作成する。
5	地域分析	特化係数などの分析方法を解説する。
6	金融統計に関する分析	物価、資金循環統計などについて解説する。
7	景気に関する分析	景気動向指数、景気ウォッチャー調査、日銀短観などを解説する。
8	貿易統計に関する分析	貿易統計、国際収支などの統計について解説する。
9	計量経済分析	計量経済学について解説する。
10	将来人口推計	将来人口推計の方法を解説する。
11	産業連関表分析	産業連関表について解説する。
12	経済波及効果	経済波及効果の推計方法を解説する。
13	国際機関の統計利用	OECD、IMF、WTO、世界銀行など国際機関の統計利用について解説する。
14	GIS	jSTAT MAPを利用して統計地図の作成を行う。
15	総括	公的統計の在り方について考える。
16		

科目コード	32305				区分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [他学科3年B]				担当者名	平松 茂			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。児童のやる気を引き出す指導技術の一つとしてKR (knowledge of result=お返し情報) も取り上げる。4～5人の小グループで模擬授業を担当し、教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用法も習得する。

<授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

<授業の方法>

第1～5回：講義の中で観察・実験を行い、授業の組み立て方や展開方法を習得する。また、模擬授業に向けて、グループを構成し、実践するテーマを決定する。第6～14回：グループごとに予備実験、指導案作成、観察・実験の準備を行い、模擬授業を公開（各回2グループ）する。実践したグループ以外は、児童役として模擬授業を受け、模擬授業の評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

第1～5回：小学校学習指導要領理科解説編、教科書を参照しながら、講義を振り返る。（30分）第6～14回：模擬授業を実施する学生（教師役）は、予備実験、指導案作成を行い、模擬授業のための観察・実験の準備をする。実施後は、後片付けを行う。模擬授業を受ける学生（児童役）は、配布された模擬授業実施一覧を確認し、小学校学習指導要領理科解説編、教科書を参照して学習内容を把握しておく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 10%、 実験・観察の技能 20%、 模擬授業 20%、 学習指導案 10%、 期末試験40% 等で評価する。

<教科書>

毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科5」 東京書籍
 毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科6」 東京書籍
 文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 物の溶け方	小学校理科の概要と授業 観察
2	理科の授業と坂元理論	授業の構造、実験と安全、机間指導とKR
3	理科の授業と評価の方法 ループリック	授業の評価観点、ループリックの作成と活用
4	学習指導案の構造と作成法	教材研究、板書計画、授業細案
5	小学校の授業展開 物の重さくらべ	授業展開をたどる、予備実験とワークシートの関係
6	模擬授業1（1グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・生命領域」
7	模擬授業2（1グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・生命領域」
8	模擬授業3（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・地球領域」
9	模擬授業4（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・地球領域」
10	模擬授業5（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・粒子領域」
11	模擬授業6（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・粒子領域」
12	模擬授業7（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科5年・エネルギー領域」
13	模擬授業8（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科6年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
14	模擬授業9（2グループ）	学生の模擬授業「小学校理科3年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
15	まとめ	理科教育の今後の展開と課題
16		

科目コード	55007				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方ははじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

<授業の到達目標>

ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

<授業の方法>

3年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。3年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとられない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも1時間程度必要）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<参考書>

各所属ゼミのシラバスに従う。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	21329			区分	専門基礎科目				
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2232組用]			担当者名	木野 正一郎				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（実践力）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく（1時間程度）。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく（1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり）。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する（1～2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%，指導案・模擬授業等 30%，試験 30%（※評価の観点：高（優レベル）…資料や情報が盛りだくさんで、その根拠（エビデンス）に基づき自分の意見も十分に主張できている場合／中（良レベル）…資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合／要努力（可レベル）…資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合／補講（不可予備軍レベル）…提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合）

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日） 新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日） 道徳の時代をつくる！一 道徳教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会（2021年6月30日） [初頭向け] 幼稚園、小学校における新しい道徳教育 [中等向け] 中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省（2018年3月30日） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省（2018年3月1日） 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（平成29年7月） 教育出版株式会社
 田沼茂紀（2022年4月10日） 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。（重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論）
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。（重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観）
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。（重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面）
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。（重要事項：道徳的価値の内容項目（低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。（重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科）

6	<p>道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－</p>	<p>発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケム)</p>
7	<p>道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－</p>	<p>社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)</p>
8	<p>道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－</p>	<p>SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)</p>
9	<p>道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)</p>	<p>自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))</p>
10	<p>家庭生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－</p>	<p>家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)</p>
11	<p>道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
12	<p>授業案の作成</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。</p>
13	<p>授業案の作成、相互評価軸の策定</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
14	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
15	<p>模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
16		

科目コード	25102				区分	専門基礎科目			
授業科目名	体育心理学 [PP/PH3年生～]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

<授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

<授業の方法>

本授業は、テキストを用い、テキストから出される事前課題に取り組んでもらい、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する(1時間程度)・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%

<教科書>

楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

<参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理 (1)	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理 (2)	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング (1)	メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
11	メンタルトレーニング (2)	呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法
12	メンタルトレーニング (3)	心理的技法の実践、暗示、イメージ
13	メンタルトレーニング (4)	自己分析に用いる心理検査
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	21402			区分	専門基礎科目				
授業科目名	器楽演習Ⅲ [FC]			担当者名	高崎 展好／宮原 舞				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

器楽演習Ⅰ・Ⅱで習得した音楽基礎知識、ピアノ基礎技術と弾き歌いの内容を発展・強化することを目的とする。保育教育者に必要とされるピアノ演奏技術（弾き歌いを含む）と表現力を養うため、発声指導、ソルフェージュ、合唱を取り入れたレッスンをおこなう。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の採用試験に向け、必要なピアノ基礎技術と演奏表現力を身につけることを目指す。子どもたちや、人前で演奏することに慣れるため授業終了後に発表会を実施する。※保育実習、幼稚園教育実習履修者は、履修していることが望ましい。

<授業の到達目標>

ピアノ奏法、ピアノ弾き歌いに関する知識と技術の習得。採用試験対策として、演奏レパートリーを増やすことを目指す。また、人前で演奏することに慣れることを目的に授業終了後に公開試験（発表会）を実施する。

<授業の方法>

グループレッスンと個人レッスンの併用で行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。次週課題（事前予告）の予習 90分以上、これまでに学習した課題の復習 90分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノがない場合は、貸出用キーボードもあるので活用してください。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の意欲・態度 20%、ピアノ弾き歌い課題（10曲）20%、バイエル教則本課題（5曲）10%、実技試験 50%（中間20%、期末30%）※15回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

<教科書>

坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美編著（2021年5月10日 改定第9版 第17刷発行） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社

高崎展好編著（2018年3月発行） わかりやすい！学びやすい！コードでかたん！保育のうた 環太平洋大学次世代教育学部こども発達学科

<参考書>

ブルグミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションレッスン1	授業概要と課題の説明発声指導、歌唱指導ピアノ弾き歌い課題曲「やまのおんがくか」 「※おはよう」ピアノ課題曲「バイエルNo.44（連弾）」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかたん！こどものうたマイ・レパートリー」
2	レッスン2	発声指導、歌唱指導前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「思い出のアルバム」 「※おべんとう」ピアノ課題曲「バイエルNo.52」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかたん！こどものうたマイ・レパートリー」
3	レッスン3	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「※はをみがきましょう」「※せんせいとおともだち」ピアノ課題曲「バイエルNo.55」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかたん！こどものうたマイ・レパートリー」
4	レッスン4	発声指導、歌唱指導、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「あわてんぼうのサンタクロース」「※おかたづけ」ピアノ課題曲「バイエルNo.59」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかたん！こどものうたマイ・レパートリー」
5	レッスン5	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「※うれしいひなまつり」ピアノ課題曲「バイエルNo.78（前半）」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかたん！こどものうたマイ・レパートリー」
6	レッスン6	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」ピアノ課題曲「バイエルNo.78（後半）」
7	レッスン7確認（中間）テスト	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
8	レッスン8	発声指導、歌唱指導、読譜法ピアノ弾き歌い課題曲「やまのおんがくか」ピアノ課題曲「バイエルNo.86（連弾）」

9	レッスン9	発声指導、歌唱指導※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ふしぎなポケット」ピアノ課題曲「バイエルNo. 86（連弾）テンポアップ」
10	レッスン10	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ミッキーマウス・マーチ」ピアノ課題曲「バイエルNo. 88」
11	レッスン11	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「さんぼ」ピアノ課題曲「バイエルNo. 90」
12	レッスン12	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「※ともだちになるために」※「教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー」
13	レッスン13	発表会、試験に向けた個人指導①
14	レッスン14	発表会、試験に向けた個人指導②
15	レッスン15 確認（期末）テスト	レッスン8～11までのピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
16	発表会への参加※実施日程については別途連絡	

科目コード	35210				区分	コア			
授業科目名	スポーツ装具論 [不開講]				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

装具とは、四肢体幹の機能障害の軽減を目的として使用する補助器具のことである。その装具療法は、古くから保存療法の有効な手段として用いられている。柔道整復師においても、現場で多くの種類の装具を用いており、患者に対して正しく指導をしていく必要がある。そのことを踏まえて、必要な医学の基礎知識を確認しながら、概念・適応・構成要素・製作について、総合的に学習する。また、スポーツに用いることができる装具には制限があるため、その点も考慮しながら学習していく。

<授業の到達目標>

装具だけでなく、スポーツにおける装具の構造や機能についての知識を習得し、治療現場やスポーツ現場において、的確な装具を選択できる能力を得ることを目標としている。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布し、講義を進めていく。また、時に課題や発表を用いながら理解を深めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回テーマについて参考図書・参考資料を参照し、事前学習を行う（約1時間）。授業では、実際に装具に触れながら、テーマの理解を深め、レポートにまとめる（約1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト等 30%、定期試験 40%

<教科書>

<参考書>

日本義肢装具学会（監修）、飛松 好子（編集）、高嶋 孝倫（編集） 装具学 第4版 医歯薬出版株式会社；第4版（2013/3/1）

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ装具の目標と内容	スポーツ装具学の趣旨と目標・内容について
2	総論	スポーツ装具・装具療法と基本構造
3	靴型装具	靴型装具の構造と機能
4	足底装具	足底装具の構造と機能
5	下肢装具（総論）	下肢の構造に対する分類と構成要素
6	短・長下肢装具	短・長下肢装具の構造と機能
7	膝装具	膝装具の構造と機能
8	股装具	股装具の構造と機能
9	体幹装具（総論）	体幹装具の構造と機能
10	頸椎装具	頸椎装具の構造と機能
11	胸腰仙椎装具	胸腰仙椎装具の構造と機能
12	上肢装具（総論）	上肢の構造に対する分類と構成要素
13	手関節装具	手関節装具の構造と機能
14	肘関節装具	肘関節装具の構造と機能
15	まとめ	スポーツ装具のまとめと今後の展望
16		

科目コード	0			区分	コア科目				
授業科目名	ビジネス英書講読			担当者名	小川 正人				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、ビジネス分野における英語の文献を読み、ビジネス分野の英文の把握力向上を目指します。グローバル化が進む現在、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は格段に広がります。初めは、易しい文献を取り上げ、徐々に難しい文献に挑戦していきます。先端的な英語の文献に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

<授業の到達目標>

英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

<授業の方法>

本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加30% 授業内課題50% 最終課題20%

<教科書>

Harper

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	本科目の内容、評価方法の説明
2	経済記事(1)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
3	経済記事(2)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
4	経済記事(3)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
5	経済記事(4)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
6	経済記事(5)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
7	経済記事(6)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
8	経済記事(7)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
9	経済記事(8)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
10	経済記事(9)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
11	経済記事(10)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
12	経済記事(11)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
13	経済記事(12)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
14	経済記事(13)	経済記事を読み、内容についての説明、ディスカッション
15	振り返り	今までの授業のレビュー
16		

科目コード	21329			区分	専門基礎科目				
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2233組用]			担当者名	木野 正一郎				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（実践力）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく（1時間程度）。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく（1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり）。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する（1～2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%，指導案・模擬授業等 30%，試験 30%（※評価の観点：高（優レベル）…資料や情報が盛りだくさんで、その根拠（エビデンス）に基づき自分の意見も十分に主張できている場合／中（良レベル）…資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合／要努力（可レベル）…資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合／補講（不可予備軍レベル）…提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合）

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日） 新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日） 道徳の時代をつくる！一道德教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会（2021年6月30日） [初頭向け] 幼稚園、小学校における新しい道徳教育 [中等向け] 中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省（2018年3月30日） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省（2018年3月1日） 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（平成29年7月） 教育出版株式会社
 田沼茂紀（2022年4月10日） 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。（重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論）
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。（重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観）
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。（重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面）
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。（重要事項：道徳的価値の内容項目（低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。（重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科）

6	<p>道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－</p>	<p>発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケム)</p>
7	<p>道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－</p>	<p>社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)</p>
8	<p>道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－</p>	<p>SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)</p>
9	<p>道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)</p>	<p>自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))</p>
10	<p>家族生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－</p>	<p>家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)</p>
11	<p>道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
12	<p>授業案の作成</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。</p>
13	<p>授業案の作成、相互評価軸の策定</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
14	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
15	<p>模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
16		

科目コード	24407			区分	専門基礎				
授業科目名	上級オーラルコミュニケーション			担当者名	竹下 厚志				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

地球市民として、世界の人たちと様々な分野で交流を持つための基本的な英語コミュニケーション能力を育成することを目的とします。主なテーマをSDGsとして、私たちが直面しているグローバルイシューの解決について一緒に考えていながら、同時に英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことを目指します。

<授業の到達目標>

・SDGsについて基本的な知識を身に付けている。・英語コミュニケーション能力の5技能がバランスよく習得されている。・グローバルイシューについて論理的、批判的、多面的に思考しながら理解している。・SDGsの解決に向けた自分なりの解決策を提案することができる。

<授業の方法>

主に2つのパートから授業は構成されます。一つは英語コミュニケーションの技能習得を目的としたトレーニングです。5技能統合型の手法でCEFR B2レベル以上を目指します。もう一つはSDGsを中心としたグローバルイシューを通して思考力の向上を目指します。単に英文を理解するという表面的な学習ではなく、皆さんがその世界課題に対してどのように考え、解決のための行動を起こせるかについて一緒に考え、行動計画を立てたいと思います。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

扱っているテーマについて日ごろから社会情勢(世界情勢)に敏感になるための情報収集をしてください(毎日30分以上)。また、発表に向けて準備は万全にしてください(2時間以上)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加度40%、提出物提出20%、発表40%

<教科書>

<参考書>

竹下 厚志(2021年2月25日) SDGs 英語長文 Core 三省堂

竹下 厚志(2019年4月12日) SDGs 英語長文 三省堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	今後の学習の方向性の相談
2	テーマ学習①	身近なテーマについて意見交換
3	テーマ学習②	身近なテーマについて意見交換
4	テーマ学習③	身近なテーマについて意見交換
5	テーマ学習発表①	身近なテーマに関する意見発表
6	テーマ学習④	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
7	テーマ学習⑤	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
8	テーマ学習⑥	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
9	テーマ学習発表②	グローバルイシューに関する意見発表
10	テーマ学習⑦	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
11	テーマ学習⑧	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
12	テーマ学習⑨	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
13	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表①
14	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表②
15	SDGsに関する理解の確認と自分の学習軌跡の振り返り	SDGsに関するQAと振り返りレポート
16		

科目コード	21403				区分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅳ [FC]				担当者名	高崎 展好/宮原 舞			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

器楽演習Ⅲで修得したピアノ基礎技術と弾き歌いの集大成となるよう演奏表現における応用能力の強化を図ることを目的とする。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要とされる即応性のある演奏能力と、音楽指導に必要な表現能力を身につけるために、個人レッスンを中心とした授業を実施する。これまで習得した器楽演習Ⅰ・Ⅱ弾き歌い復習課題の確認も行う。※保育士資格、幼稚園教諭免許取得希望者、保育・教育実習参加希望者は、履修していることが望ましい。

<授業の到達目標>

ピアノ奏法、弾き歌いに関する知識と技術の修得、及び豊かな感性や創造性を伸ばし表現することの楽しさを味わい自己表現力を高める。採用試験対策として演奏レパートリーを増やし、指導者の観点から音楽指導ができるようになることを目指す。また子どもたちや、人前で演奏することに慣れることを目的に授業終了後に公開試験（発表会）を実施する。

<授業の方法>

グループレッスンと個人レッスンを併用する。※個人レッスンについては、個人の実技レベルに合わせ、ブルグミュラー25の練習曲または、ソナチネアルバム（1）より任意の課題に取り組む。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。次週課題（事前予告）の予習 90分、これまで学習した全課題曲の復習 90分

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の意欲・態度 20%、弾き歌い課題曲（10曲）20%、弾き歌い復習課題（10曲）10%、実技試験25%（中間10%、期末15%）発表会用作品25%※15回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

<教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著（発行2015年8月10日 初版第1刷） 一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現付録「親子あそびや音楽ワークショップで使える！子どものうた100」「表現B」授業使用テキスト チャイルド本社
坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美編著（発行2008年9月20日 初版） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア
ブルグミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社

<参考書>

ソナチネ アルバム（1）〔標準版〕 全音楽譜出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションレッスン1	授業概要と課題の説明ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ドレミのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
2	レッスン2	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「おにのバンツ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
3	レッスン3	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「もりのくまさん」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
4	レッスン4	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「アイスクリームのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
5	レッスン5	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「おばけなんてないさ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
6	レッスン6	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「あめふりくまのこ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
7	レッスン7、確認（中間）テスト	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
8	レッスン8	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「犬のおまわりさん」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
9	レッスン9	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ドロップスのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
10	レッスン10	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ぼくのミックスジュース」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導

11	レッスン 1 1	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「にじ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
12	レッスン 1 2	ピアノ弾き歌い復習課題課題：挨拶・行事・季節の歌
13	レッスン 1 3	発表会、試験に向けた個人指導①
14	レッスン 1 4	発表会、試験に向けた個人指導②
15	レッスン 1 5、確認（期末）テスト	レッスン8～11までのピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
16	発表会※実施日程については別途連絡	

科目コード	32308			区分	コア科目				
授業科目名	体育科教育法 [FE2232組用]			担当者名	白石 翔				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

社会・スポーツ・遊び・子ども（人間）との関係を紐解きながら、小学校の体育授業についてディスカッションを通して創造していく。これまで培ってきた自らの経験を相対化しつつ、これから求められる小学校体育について考えを深めることとする。このことに迫るために、実際に体育館で体を動かしながら考えたり、教室でディスカッションを通して考えたり、書籍を読んで深く思考したりしながら学ぶ。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を学ぶことができる。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。3. これからの小学校体育を考え続けようとする態度を身につける。

<授業の方法>

体育館での実践や教室でのディスカッションを通して学びを深める。また、オンライン上での学習の深まりや情報交換等も行う。※新型コロナウイルス等の感染状況によって適宜変更することがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（毎回1時間程度）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。小学校学習指導要領に書かれた内容に関する小テストを行う。復習：（毎回1時間程度）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 30% レポート・指導案等 40% 小テスト 30%

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編 東洋館出版社
松田恵示・鈴木聡・眞砂野裕編著（2019） 子どもが喜ぶ！体育授業レシピー運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくりー教育出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションと自らが受けてきた小学校体育	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	やってみよう！小学校体育	実際に動きながら小学校体育について考えてみる
3	運動が苦手な児童と小学校体育	運動が苦手な児童が見えている世界はどんな世界？
4	小学校体育って何を学ぶ教科？	具体的な単元から、小学校体育と何を学ぶ教科なのかについて考える。学習指導要領の変遷をおさえる。
5	小学校の体育授業をデザインするためには？	体育授業をデザインするために必要な内容とは？学習指導要領から紐解く
6	小学校体育で扱う運動・スポーツとは？	どのような条件を整えば、子どもたちの豊かな学びを保障できるのかについて検討する。プレイ論からの解説を含む
7	小学校体育授業をデザインしてみよう	ワクワク・ドキドキする授業はいかにしてデザイン可能か？授業をどのようにチェックするのかといった評価論も含む
8	小学校体育授業のデザインを他者と共有するためには？	より良い実践に向けた単元計画のあり方と内容
9	実践を通して見えてくる教師に必要なこととは？	授業を実施する上で、教師に必要なこととは何か？模擬授業を通して考えてみる
10	集団スポーツの授業デザインとは？	集団スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
11	個人スポーツの授業デザインとは？	個人スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
12	授業をより良くするためのサイクルとは？	授業をより良くするための方法と考え方
13	改めて小学校体育に重要なこととは何か？	これからの社会と子ども・スポーツの関係を編み直す
14	未来の小学校体育をデザインする	10年後の体育授業をデザインするために必要な能力とは何か？教師の価値判断と子どもの学び
15	まとめ	この授業を振り返って、自らの、チームの、クラスの学びを言語化する。生き方の哲学について

科目コード	0			区分	コア科目				
授業科目名	整形外科科学 I			担当者名	石原 和泰				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科科学総論にあたる部分である。すなわち、整形外科の意義と歴史、運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科の治療法、骨・関節損傷総論、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野(特に整形外科的分野)についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

(評価方法) 定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。(出欠確認) 出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。(欠席届の取り扱いについて) 当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。(それ以降は受理しない) レポートの提出により出席点を与える。(公欠の取り扱いについて) 学則に則る。(その他) 講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「整形外科科学」 南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修 「標準整形外科科学」 第13版 医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	骨系統疾患、神経筋疾患 (1)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (1)
2	骨系統疾患、神経筋疾患 (2)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (2)
3	運動器に発生する感染症 (1)	骨・関節・軟部組織感染症 (1)
4	運動器に発生する感染症 (2)	骨・関節・軟部組織感染症 (2)
5	整形外科疾患 (1)	上肢の整形外科疾患 (1)
6	整形外科疾患 (2)	上肢の整形外科疾患 (2)
7	整形外科疾患 (3)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (1)
8	整形外科疾患 (4)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (2)
9	整形外科疾患 (5)	小児の整形外科的外傷 (1)
10	整形外科疾患 (6)	小児の整形外科的外傷 (2)
11	整形外科疾患 (7)	小児の整形外科的外傷 (3)
12	整形外科疾患 (8)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (1)
13	整形外科疾患 (9)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (2)
14	整形外科疾患 (10)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (3)
15	まとめ	総括
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	労働経済学				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

「労働経済学」は、労働市場で生じる様々な現象について、そのメカニズムを経済学的に明らかにしようとするものである。経済学的にというとなかなか難しい数学の知識が必要と思うかもしれないが、本講義では、図解を多用し、直感理解重視とし、目標や結果を先に伝えておいて、解説の流れとともに基本的・標準的な関数等の理解を促すので、数学が苦手な学生であっても問題ない。また労働供給や労働需要がどのように決まるのか、労働者個人の賃金水準はどのように決まるのかといったミクロ的側面から、失業が発生する要因は何であるのかといったマクロ的側面まで

<授業の到達目標>

・そもそも経済学がどのような視点や思考で物事を分析しているか、理解する。・現実の労働市場は、大勢の人々や組織によって構成され複雑に動いているが、疑問に思ったり、不明な事柄も単純化することにより問題・課題解決ができることを分析データを通じて理解できるようになる。

<授業の方法>

・講義（対面）および演習（グループディスカッション等）によるアクティブラーニングを実施する。・GoogleClassroomを活用してレジュメや課題の配布、資料の共有などICTの活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること）・グループディスカッション等により理解を深めるが、各学生個人が考え・意見を持ち発表することを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：講義の終わりに課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメの整理、事後課題など（1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・受講態度 30%、リフレクション（振り返り）レポート 30%、最終テスト 40%（配布レジュメ等持ち込み可）講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<参考書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション：労働経済学とは	講義の概要：労働市場とは、進め方、成績評価について、どうして大学へ行くのか：大学進学を理由を経済学的な視点で捉える
2	労働供給(1)	働くか、働かないか：労働供給行動、労働力の変化、ライフサイクルと留保賃金率
3	職探し理論	仕事探しは大変：求人情報は重要、職探しの理論①非逐次型モデル ②逐次型モデル
4	労働供給(2)	どれくらい働くか：労働時間の選択、効用の最大化問題、所得の変化と労働時間、労働供給曲線
5	労働需要(1)（短期）	何人雇えばよいか：新たな雇用、短期の企業経営、独占企業の労働需要
6	労働需要(2)（長期）	機械か人か：長期の企業経営、労働需要の賃金弾力性、雇用調整
7	労働市場のメカニズム	労働者と企業との出会い：労働市場の供給と需要、労働市場の効率性、買い手独占
8	補償賃金仮説	なぜ賃金が違うか①：賃金格差の実態、仕事の内容や性質と補償賃金、仕事に対する需要と供給
9	差別の経済学	なぜ賃金が違うか②：男女間賃金格差の実態、合理的差別、日本における女性活用
10	賃金プロフィール（カーブ）	賃金はどうか支払われるのか：年齢や勤続年数、賃金プロフィールと生産性プロフィール
11	人材（財）開発	いかにスキルを身につけるか：賃金プロフィールと教育訓練、正規・非正規労働者の境界
12	失業	失業はなぜ起こるか：失業率の定義とその推移、性別・年齢と失業率、均衡自然失業率
13	労使関係と労働組合	団結して交渉を：労働者と使用者の関係、労働組合の役割・目的
14	労働市場と働き方の未来(1)	これからどうなる労働市場①：労働供給の変化、労働市場の変化(日本の最新ニュースから分析・考察)
15	労働市場と働き方の未来(2)、総括（まとめ）	これからどうなる労働市場②：労働需要の変化、労働市場の変化(日本の最新ニュースから分析・考察) 全体の振り返り、受講の自己評価
16		

科目コード	62008			区分	コア科目				
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [PP/PH用]			担当者名	河合 洋二郎				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容は授業時に随時通知する予定。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」 日本体育協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など)呼吸器系疾患(慢性肺疾患、運動誘発性喘息など)
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患(運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など)血液疾患(貧血など)皮膚疾患(胼胝腫、摩擦水疱、白癬など)
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患(運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など)代謝性疾患(糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など)
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など)血液感染症(A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど)
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症(細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など)ウイルス性結膜炎(咽頭結膜炎など)
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症(SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など)各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など(2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴(1)	(生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など)時差(時差に対する反応と順応、時差に対する対策)
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴(2)	海外遠征時の諸問題(健康管理、環境管理、その他)
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴(3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック(1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック(2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。

科目コード	38402			区分	コア				
授業科目名	武道指導演習Ⅰ(基礎)			担当者名	平田 佳弘				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年の公務員試験(警察等)や教員採用試験では、地方自治体によっては、剣道や柔道の段位を有することが試験で加点される場合がある。「剣道Ⅰ(基礎)」、「剣道Ⅱ(応用)」では、特に学校現場での「剣道授業」が円滑に実施できるようになることが授業目標であったが、武道指導演習Ⅰ(基礎)では、それらの授業で学習した基本動作・応用動作を定着させ、木刀による基本技稽古法や日本剣道形を学習し、実際に、剣道の級位取得、剣道の段位取得を目指すことを目標としている。

<授業の到達目標>

・剣道の段級位審査合格に必要な礼法、着付け、実技(切り返し、基本動作、互角稽古)、木刀による基本技稽古法(1本目～9本目)、日本剣道形(1本目～3本目)を修得する。・剣道の級位審査の1級合格、または段位審査初段合格(1級を所持している者)を目指す。

<授業の方法>

・一斉指導で、級位段級位審査に必要な剣道理論と剣道実技、剣道形を平行して実施していく。・技練習や形練習においては、有段者をリーダーとして、グループ別学習も取り入れる。剣道形(木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形)の示範動画を見ながら、各自の問題点や課題点を話し合い、修正していくアクティブラーニングを取り入れる。・動画を視聴する事前学習にはClassRoomを活用する。また、基本打ち、互角稽古の様子を撮影し、自分の稽古風景を振り返り、自己評価、教員による評価を実施する。・選択人数上限20人

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・剣道Ⅰ(基礎)及び、剣道Ⅱ(応用)の復習・全日本剣道連盟HP「剣道を知る」の熟読・木刀による剣道基本技稽古法(ネット動画)の視聴・日本剣道形(ネット動画)の視聴

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%(出欠含む)、授業内期末試験(剣道理論テスト20%、実技試験20%)、剣道段級位審査結果10%(赤磐市剣道連盟主催)

<教科書>

<参考書>

平成24年(2012)4月全日本剣道連盟 剣道・居合道・杖道称号・段級位審査規則称号・段級位審査細則 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション本授業の目的、授業概要	本授業の目的、授業概要、進め方、準備物(剣道着・袴)の説明をする。
2	剣道Ⅰ・Ⅱの復習①	礼法(正座、座礼、立礼)、竹刀の名称と構造、姿勢、構えと目付、構え方、納め方、素振り
3	剣道Ⅰ・Ⅱの復習②	礼法(正座、座礼、立礼)、素振り、足さばき(送り足、踏み込み足)
4	剣道Ⅰ・Ⅱの復習③	剣道具の装着(胴・垂れ・面・小手)、剣道具の外し方、剣道具の収納の仕方
5	剣道の基本動作	正面打ち・左右面打ち・切り返しの練習正面・左右面の打たせ方、受け方
6	剣道の基本動作	面打ち・小手打ち・胴打ちの練習面打ち・小手打ち・胴打ちの打たせ方・受け方
7	しかけ技の練習互角稽古	二段の技(小手一面、面一胴、面一面)払い技(払い面、払い小手)二段の技、払い技の打たせ方、受け方
8	しかけ技の練習互角稽古	引き技(引き面、引き胴、引き小手)出ばな技(出ばな面、出ばな小手)引き技、出ばな技の打たせ方、受け方
9	応じ技の練習互角稽古	抜き技(面抜き胴、小手抜き面)すり上げ技(小手すり上げ面、面すり上げ面)抜き技、すり上げ技の打たせ方、受け方
10	応じ技の練習互角稽古	返し技(面返し胴)打ち落とし技(胴打ち落とし面)返し技、打ち落とし技の打たせ方、受け方
11	木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形	級受験者:木刀による剣道基本技稽古法(1本目～3本目) 段受験者:日本剣道形(1本目～3本目)
12	木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形	級受験者:木刀による剣道基本技稽古法(4本目～6本目) 段受験者:日本剣道形(1本目～3本目)
13	木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形	級受験者:木刀による剣道基本技稽古法(7本目～9本目) 段受験者:日本剣道形(1本目～3本目)
14	段級位審査に向けての総合練習	切り返し、互角稽古木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形、学科試験内容について
15	段級位審査に向けての総合練習授業内の剣道実技試験、剣道学科試験	切り返し、互角稽古木刀による剣道基本技稽古法日本剣道形、学科試験内容について
16		

科目コード	53073				区分	コア			
授業科目名	保育マネジメント演習Ⅲ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育現場がどのように運営されているかを、子どもとの関わり、保育者からのフィードバック、遊び日の企画・運営を通して身につけることを目的とする。東岡山IPUこども園でのワクワクタイムを活用し、遊びの企画・運営スキルを身につける。ワクワクタイムでは5歳児クラス約70名が、活動を行うため、そこでのコーナー保育の担当や、遊びの見守り、子どもとの関わりや、保育者の保育補助、園庭の環境整備、保育者研修の補助を実施する。

<授業の到達目標>

①遊びの企画力を身につける。②遊びの運営力を身につける①に関しては、PCを用いて指導案や、企画書、場合によっては使用教材やその金額・購入の管理を行う。②に関しては、ワクワクタイムの5歳児約70名を対象にした、コーナー保育、遊びの見守り、子どもとの関わり、保育者の保育補助を通して身につけることを目的とする。

<授業の方法>

ワクワクタイムの運営

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ワクワクタイムでの遊び企画・準備・振り返り。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

遊びの企画力(遊びの考案・指導案作成30%、グループでの協力20%) 遊びの運営力(保育準備30%、子どもとの関わり20%)

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	ワクワクタイムで子どもと関わろう	子どもの興味・関心を観察・見守りをする。
3	領域健康に関する遊びの運営	領域健康に関する保育コーナーの企画・運営
4	領域人間関係に関する遊びの運営	領域人間関係に関する保育コーナーの企画・運営
5	領域環境に関する遊びの運営	領域環境に関する保育コーナーの企画・運営
6	領域言葉に関する遊びの運営	領域言葉に関する保育コーナーの企画・運営
7	領域表現に関する遊びの運営	領域表現に関する保育コーナーの企画・運営
8	5つの領域でのコーナー遊びの振り返り	コーナー保育の魅力、異議、必要性、課題について検討する
9	学生によるコーナー遊びの運営園庭での活動	園庭を活用したコーナー保育をグループ全体で考える。
10	学生によるコーナー遊びの運営保育室での活動	保育室を活用したコーナー保育をグループ全体で考える。
11	学生によるコーナー遊びの運営ホールでの活動	ホールを活用したコーナー保育をグループ全体で考える。
12	園庭での複数のコーナー遊びの運営	園庭を活用したコーナー保育を複数のグループに分かれ考える。
13	保育室での複数のコーナー遊びの運営	保育室を活用したコーナー保育を複数のグループに分かれ考える。
14	ホールでの複数のコーナー遊びの運営	ホールを活用したコーナー保育を複数のグループに分かれ考える。
15	コーナー遊びの全体の振り返り	授業全体を通して、コーナー保育の魅力、異議、必要性、課題について検討する
16		

科目コード	32308			区分	コア科目				
授業科目名	体育科教育法 [FE2233組用]			担当者名	白石 翔				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

社会・スポーツ・遊び・子ども（人間）との関係を紐解きながら、小学校の体育授業についてディスカッションを通して創造していく。これまで培ってきた自らの経験を相対化しつつ、これから求められる小学校体育について考えを深めることとする。このことに迫るために、実際に体育館で体を動かしながら考えたり、教室でディスカッションを通して考えたり、書籍を読んで深く思考したりしながら学ぶ。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を学ぶことができる。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。3. これからの小学校体育を考え続けようとする態度を身につける。

<授業の方法>

体育館での実践や教室でのディスカッションを通して学びを深める。また、オンライン上での学習の深まりや情報交換等も行う。※新型コロナウイルス等の感染状況によって適宜変更することがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（毎回1時間程度）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。小学校学習指導要領に書かれた内容に関する小テストを行う。復習：（毎回1時間程度）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 30% レポート・指導案等 40% 小テスト 30%

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編 東洋館出版社
松田恵示・鈴木聡・眞砂野裕編著（2019） 子どもが喜ぶ！体育授業レシピー運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくりー教育出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションと自らが受けてきた小学校体育	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	やってみよう！小学校体育	実際に動きながら小学校体育について考えてみる
3	運動が苦手な児童と小学校体育	運動が苦手な児童が見えている世界はどんな世界？
4	小学校体育って何を学ぶ教科？	具体的な単元から、小学校体育と何を学ぶ教科なのかについて考える。学習指導要領の変遷をおさえる。
5	小学校の体育授業をデザインするためには？	体育授業をデザインするために必要な内容とは？学習指導要領から紐解く
6	小学校体育で扱う運動・スポーツとは？	どのような条件を整えば、子どもたちの豊かな学びを保障できるのかについて検討する。プレイ論からの解説を含む
7	小学校体育授業をデザインしてみよう	ワクワク・ドキドキする授業はいかにしてデザイン可能か？授業をどのようにチェックするのかといった評価論も含む
8	小学校体育授業のデザインを他者と共有するためには？	より良い実践に向けた単元計画のあり方と内容
9	実践を通して見えてくる教師に必要なこととは？	授業を実施する上で、教師に必要なこととは何か？模擬授業を通して考えてみる
10	集団スポーツの授業デザインとは？	集団スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
11	個人スポーツの授業デザインとは？	個人スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
12	授業をより良くするためのサイクルとは？	授業をより良くするための方法と考え方
13	改めて小学校体育に重要なこととは何か？	これからの社会と子ども・スポーツの関係を編み直す
14	未来の小学校体育をデザインする	10年後の体育授業をデザインするために必要な能力とは何か？教師の価値判断と子どもの学び
15	まとめ	この授業を振り返って、自らの、チームの、クラスの学びを言語化する。生き方の哲学について

科目コード	27102				区分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学 I				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公衆衛生とは「地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進 するための科学である」と定義される。健康に関わるいろいろな現象を疫学的に把握し、人間を取り巻く環境、社会的 要因（制度、組織など）などと人の健康増進、疾患予防などとの関係を理解し、医療にどの様に関連するのか考えられる力を習得する。

<授業の到達目標>

衛生学・公衆衛生学を学ぶ意義について理解する。健康の概念とその管理について理解する。自然および生活環境の中で感染症と健康の関連を習得する。母子関係とその支援機構を理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「衛生学・公衆衛生学」 南光堂
医療情報科学研究所：編集 公衆衛生がみえる 株式会社 メディックメディア

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	衛生学・公衆衛生学について	公衆衛生学の意義と目的、歴史
2	健康の概念	健康の定義、健康阻害因子、健康指標
3	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防、生活習慣等
4	感染症の予防1	感染症とは、ウイルス性・細菌性感染症
5	感染症の予防2	感染症の動向、感染症対策
6	消毒1	消毒の概念と消毒方法
7	消毒2	消毒法の応用、院内感染対策と消毒
8	環境衛生（環境保健）1	環境とは、非生物学的環境と生物学的環境
9	環境衛生（環境保健）2	環境問題、物理的環境要因
10	環境衛生（環境保健）3	化学的環境要因、生物学的環境要因
11	環境衛生（環境保健）4	公害、空気の衛生と大気汚染
12	生活環境・食品衛生活動1	水の衛生、衣服・住居と健康
13	生活環境・食品衛生活動2	食品と健康、廃棄物の処理
14	母子保健	ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	32306				区分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [FE2233組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

<授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

<授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

<教科書>

文部科学省（2018年）「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社
 鳴海多恵子他（2020年）「わたしたちの家庭科」 開隆堂

<参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年）「新編 新しい技術・家庭」家庭分野 東京書籍
 文部科学省（2017年）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談
5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すぐろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。

12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	

科目コード	32307			区 分	コア科目				
授業科目名	生活科教育法 [FE2231組用]			担当者名	三堀 仁				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。2. ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。3. 模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

<授業の方法>

教材研究の段階(①～⑨)では、教員による内容1～9の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階(⑩～⑮)では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習:課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく(1時間程度)。復習:本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか 2020年 あたらしいせいこつ 上 東京書籍
文部科学省 平成30年2月28日 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場면을視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場면을視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究 (ICTを含む)	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32313			区分	コア科目					
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2232組用]				担当者名	竹下 厚志				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択	

<授業の概要>

本科目では、小学校外国語科の指導に関わる基礎的知識・技能を身につけ、模擬授業の計画・実施・観察・振り返りを通して、実践的指導力・英語運用能力・日々の授業改善や教師成長に必須の自己内省力の養成を主なねらいとします。ペアやグループでの話し合い活動では、積極的に自らの考えや経験を発信し、互いに学び合う姿勢が強く求められます。

<授業の到達目標>

小学校教員に期待される知識・技術：英語運用力、コミュニケーション力、教材研究・開発力、授業運営、中学校への連携などを理論的背景に基づいて理解できる。 ②小学校教育現場で実践できる教授力を身につけている。

<授業の方法>

(0) 英語コミュニケーショントレーニング (1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) ペア・グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) 模擬授業および質疑 (4) まとめと発表

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習(1時間程度)、模擬授業の準備(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業への参加度 30%②課題(レポート) 20%③指導案および模擬授業 50%

<教科書>

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 5 東京書籍

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 6 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	小学校英語教育に必要な知識・技能および授業運用力
2	小学校英語教育で学習指導要領が求めるもの	学習指導要領、教師の英語力
3	英語クイズ	3ヒントクイズ作成
4	TPR	TPRを使った活動
5	自己紹介	イラストを使った自己紹介
6	他者紹介	イラストを使った他者紹介
7	教科書を使った導入1	言語材料の導入1
8	教科書を使った導入2	言語材料の導入2
9	授業の流れ	授業構成
10	指導案作成①	ねらいとタスクの順序①
11	指導案作成②	ねらいとタスクの順序②
12	模擬授業①	ねらいと指導内容①
13	模擬授業②	ねらいと指導内容②
14	模擬授業③	ねらいと指導内容③
15	リフレクション	振り返りとレポート
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	内科学Ⅱ				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療従事者（柔道整復師）として、基礎的な医療知識を教科書を中心に取り組む。

<授業の到達目標>

医療従事者として、総合的な医療知識を身に受ける。基本的な医療用語を確実に理解する。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて講義する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容については授業時に随時通知する予定。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

医歯薬出版株式会社 「一般臨床医学」

<参考書>

河合作成プリント

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各論 生活習慣病	肥満・肥満症
2	各論 生活習慣病	高血圧
3	各論 生活習慣病	脂質異常症
4	各論 代謝疾患	耐糖能異常
5	各論 内分泌疾患	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進
6	各論 循環器	先天性心疾患
7	各論 循環器	虚血性心疾患など
8	各論 血液疾患	白血病など
9	各論 血液疾患	貧血など
10	各論 膠原病	リウマチ
11	各論 腎・尿路疾患	ネフローゼ症候群、腎不全
12	各論 腎・尿路疾患	膀胱炎など
13	各論 神経疾患	パーキンソン病など
14	各論 神経疾患	アルツハイマー病、認知症
15	まとめ	
16		

科目コード	0				区分	コア			
授業科目名	金融論				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、金融を初歩的な概念から学び、知識を積重ねていくことによって経済社会における金融の役割についての理解を深めることを目的とする。貨幣の役割・機能や企業金融、消費者金融、金融機関、金融制度、決済システム等金融に関連する一連の知識を得た上で、金融市場や中央銀行の機能、さらには金融政策について学び、現代社会における金融のあるべき姿を学生自身が思考できることを目指す。

<授業の到達目標>

金融論とは、お金の流れに関わる経済現象を学ぶ学問である。金融と何か、貨幣とは何か、金融機関の機能は何か、金融市場はどのように動いているのか、中央銀行の金融政策などについて金融全体のシステムを理解し身につけることを目標とする。

<授業の方法>

指定した教科書に基づき、授業はパワーポイントと板書を使用した講義形式で行う。一方的な授業とならないように、適宜、質疑を交えながら受講者からの発言を求めていく。事例研究等については、グループディスカッションを行い発表の機会をもつ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨む前に、必ずテキストの該当箇所を事前に予習しておく。授業中に質疑の時間を設けるので、予習時に不明な箇所は授業時に質問をすること。講義終了後に内容確認の復讐を必ず行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講姿勢（講義ノートの提出）25%、学習意欲（課題・レポート等の提出物）25%、毎週の課題・小レポート等の提出物25%、期末レポート（別途指示する）25%

<教科書>

家森 信善 金融論(第2版)（【ベーシックプラス】） 中央経済社 ISBN-13：978-4502290510

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	金融論の全体像金融論で何を学ぶのか(身近な問題として)	資金の流れから見た日本の金融システムの変化と株価に映し出された日本経済の変動
2	貨幣の役割貨幣と物価の関係について	貨幣の定義と実際に使われている貨幣の種類
3	貨幣の役割2	貨幣の流通要因、MMTについて
4	金利とは何か金利の重要な概念	利率の決定要因と金利の期間構造、利率と債券価格の関係
5	金融政策金融政策のためのマクロ経済学	金融政策を理解するための基本と金融政策の枠組み
6	日本銀行(中央銀行)の役割金融政策の実施主体	金融政策の課題と日本銀行の現在の金融政策
7	金融政策の手段マクロ金融政策の政策手段	ゼロ金利政策、量的緩和政策、買入債権の多様化、量的・質的緩和政策
8	金融システム金融仲介機関の役割	金融の中核を占める銀行と日本の銀行の課題
9	銀行以外の金融機関銀行と類似した金融機関	信用金庫やJA、保険会社、ノンバンク金融機関、公的金融機関と財政投融资
10	間接金融型の金融商品	家計の金融商品選択の現状(銀行預金、郵便局の貯金商品、生命保険、損害保険他)
11	直接金融型の金融商品	公社債、株式、投資信託、金融派生商品、商品先物取引
12	金融市場に関する規制金融市場の規制の必要性	自由化、国際化、技術発展と金融市場
13	金融リテラシーと金融教育1	投資と貯蓄、資産形成をする意味
14	金融リテラシーと金融教育2	パーソナルファイナンスと金融サービス
15	ファイナンスの基礎コーポレートファイナンスの理論	資産価格の決定理論、コーポレートガバナンスと企業買収、社会的な課題を解決する金融
16		

科目コード	32306				区分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [FE2231組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

<授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

<授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

<教科書>

文部科学省（2018年）「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社
 鳴海多恵子他（2020年）「わたしたちの家庭科」 開隆堂

<参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年）「新編 新しい技術・家庭」家庭分野 東京書籍
 文部科学省（2017年）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談
5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すぐろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。

12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	

科目コード	32307			区分	コア科目				
授業科目名	生活科教育法 [FE2232組用]			担当者名	三堀 仁				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。2. ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。3. 模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

<授業の方法>

教材研究の段階(①～⑨)では、教員による内容1～9の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階(⑩～⑮)では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習: 課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく(1時間程度)。復習: 本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか 2020年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

文部科学省 平成30年2月28日 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場면을視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場면을視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究 (ICTを含む)	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32313				区分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2233組用]				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、小学校外国語科の指導に関わる基礎的知識・技能を身につけ、模擬授業の計画・実施・観察・振り返りを通して、実践的指導力・英語運用能力・日々の授業改善や教師成長に必須の自己内省力の養成を主なねらいとします。ペアやグループでの話し合い活動では、積極的に自らの考えや経験を発信し、互いに学び合う姿勢が強く求められます。

<授業の到達目標>

小学校教員に期待される知識・技術：英語運用力、コミュニケーション力、教材研究・開発力、授業運営、中学校への連携などを理論的背景に基づいて理解できる。 ②小学校教育現場で実践できる教授力を身につけている。

<授業の方法>

(0) 英語コミュニケーショントレーニング (1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) ペア・グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) 模擬授業および質疑 (4) まとめと発表

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習(1時間程度)、模擬授業の準備(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業への参加度 30%②課題(レポート) 20%③指導案および模擬授業 50%

<教科書>

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 5 東京書籍

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 6 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	小学校英語教育に必要な知識・技能および授業運用力
2	小学校英語教育で学習指導要領が求めるもの	学習指導要領、教師の英語力
3	英語クイズ	3ヒントクイズの作成
4	TPR	TPRを使った活動
5	自己紹介	イラストを使った自己紹介
6	他者紹介	イラストを使った他者紹介
7	教科書を使った導入1	言語材料の導入1
8	教科書を使った導入2	言語材料の導入2
9	授業の流れ	授業構成
10	指導案作成①	ねらいとタスクの順序①
11	指導案作成②	ねらいとタスクの順序②
12	模擬授業①	ねらいと指導内容①
13	模擬授業②	ねらいと指導内容②
14	模擬授業③	ねらいと指導内容③
15	リフレクション	振り返りとレポート
16		

科目コード	37100			区 分	コア				
授業科目名	障害者スポーツ論			担当者名	小玉 京士朗／三浦 孝仁				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

障がい者スポーツは、障害という「ハンディ」を施設や用具・ルール工夫、人の援助等で補うことにより、一見不可能に思えるスポーツが可能となり実践されている。本科目では障害者の親しんでいるスポーツ・レクリエーションの現状を理解し、身近な障害者へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 障がい者、障がい者スポーツについて理解できる 2. 障害者のスポーツ活動等を通して、各種障がいに対し考え行動に移すことができる

<授業の方法>

1. 講義（日本障害者スポーツ協会の公認障害者スポーツ指導員（初級・中級）カリキュラム内容） 2. グループワーク（各種障がいへの対応手法） 3. 課外活動（障がい者スポーツ大会ボランティア、障がい者スポーツ体験）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週のテーマ内容に準じた教科書の読み、課題に対する下調べ（毎回、1時間程度） 復習：講義前に実施する振り返りシート（毎回、15分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲10%、定期試験90%※初級障害者スポーツ指導員を申請する者は、①本科目の全出席、②学校側が指定する（岡山県障害者スポーツ大会、吉備高原車いすふれあいロードレース大会）ボランティアに一回以上参加すること（事前ガイダンス受講及び事後レポート提出）が条件となる。

<教科書>

（財）日本パラスポーツ協会 改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級） ぎょうせい

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	障害者スポーツの意義と理念（1）	障がい者スポーツの理念とヒトや社会に与える影響
2	障害者スポーツの意義と理念（2）	障がい者スポーツ指導員制度とスポーツインテグリティ
3	障がい者の生活と福祉施策（1）	障害者福祉施策・今後の動向と障害者スポーツの関連性
4	障がい者の生活と福祉施策（2）	障がい者を取り巻く環境
5	障害の理解とスポーツ（1）	身体の構造と機能, トレーニング概論
6	障害の理解とスポーツ（2）	障がいの分類と概要（身体障がい）
7	障害の理解とスポーツ（3）	障がいの分類と概要（知的障がい, 精神障がい）
8	障害の理解とスポーツ（4）	身体障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
9	障害の理解とスポーツ（5）	知的・精神障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
10	安全管理	リスクマネジメントと応急手当
11	ボランティア論	ボランティア精神とは
12	全国障がい者スポーツ大会（1）	全国障害者スポーツ大会の概要、障がい区分
13	全国障がい者スポーツ大会（2）	全国障がい者スポーツ大会競技種目と指導法、ボランティアの役割
14	障害に応じたスポーツの工夫・実施（1）	障害に応じたスポーツ実践（個人競技）
15	障害に応じたスポーツの工夫・実施（2）	障害に応じたスポーツ実践（団体競技）
16		

科目コード	13206			区分	コア科目				
授業科目名	労働法規			担当者名	栗坂 節子				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

職業生活において生じる労働法規に関する問題を、就職から退職までの時間の流れに沿って紹介することにより、労働法規を概観するとともに、労働災害の補償および労働災害防止に関する法規についても解説する。

<授業の到達目標>

労働者と使用者による対等の立場で労働条件の形成、および最低労働基準法定の意義について理解するとともに、事業所において労働者または使用者として職業生活を送っていくうえで必要となる労働法規の知識を修得する。あわせて、第1種衛生管理者の資格取得のために必要な知識を修得する。

<授業の方法>

本授業では、労基法の意義と内容、労災保険法や労働安全衛生法の概要と諸手続などについて解説する。あわせて、第1種衛生管理者の資格取得に対応することも講義の主たる目標としている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

労働法規に関する情報を新聞やインターネットなどで予習・復習すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、定期試験 70%

<教科書>

労働調査会出版局 改訂11版 チャート労働基準法 労働調査会
中央労働災害防止協会 衛生管理（下）《第一種用》 中央労働災害防止協会

<参考書>

加藤雅章 いちばんやさしい労働安全衛生法 中央労働災害防止協会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	労働基準法・労働安全衛生法・労災保険法概説	
2	労働契約・就業規則・労働協約	
3	労働条件の規整1	労働時間
4	労働条件の規整2	休憩・休日・年次有給休暇
5	労働条件の規整3	賃金
6	労働条件の規整4	年少者・女性労働
7	労働条件の規整5	労働条件の変更
8	労働関係紛争処理手続	行政組織の組織と役割
9	労働行政の機能	
10	労働災害の補償・労災保険制度	
11	安全配慮義務・労災保険給付と損害賠償の調整	
12	労働災害の認定1	
13	労働災害の認定2	
14	事業者等の責務・安全衛生の基準・規制	
15	労働安全衛生管理体制・履行の確保等	
16		

科目コード	32306				区分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [FE2232組用]				担当者名	岡 礼子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

<授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

<授業の方法>

今までは、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について説明した後、模擬授業を実施していたが、今年度は、新しい試みとして、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。但し、家庭科学習指導案の書き方だけは分かりにくいので、ICTを使って説明をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループで仮想の学校及び子供の実態を想定して題材を決め、家庭科学習指導案を考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

<教科書>

文部科学省（2018年）「小学校学習指導要領解説 家庭編」 東洋館出版社
 鳴海多恵子他（2020年）「わたしたちの家庭科」 開隆堂

<参考書>

佐藤文子・金子佳代子他（2021年）「新編 新しい技術・家庭」家庭分野 東京書籍
 文部科学省（2017年）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと	I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想 1 題材の配列を工夫する 2 学習過程を工夫する 3 見方・考え方を働かせられるようにする II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと 1 記録の工夫 2 板書の活用
2	新学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領の変遷・家庭科の新学習指導要領への流れ
3	家庭科の学習指導案の書き方と評価について知る。	・家庭科学習指導案の書き方・「指導と評価の一体化」のための学習評価
4	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びについて学ぶ。	「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びとは・授業するとき大切な事・教師としてのマナー ※ 模擬授業のグループ分けと相談
5	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・生活時間の記入・仕事の分担
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・五大栄養素から6つの基礎食品まで・生活を豊かにするための布を用いた製作・快適な住まい方
7	「C 消費生活・環境」領域の内容理解（ICT活用 5・6年生）	・新しい取扱い表示について・洗濯表示すぐろく
8	模擬授業について話し合い	グループに分かれて模擬授業について話し合いをする。
9	模擬授業と評価(1)(2)	「A 家族・家庭生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
10	模擬授業と評価(3)(4)	「B 衣食住の生活」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。
11	模擬授業と評価(5)(6)	「C 消費生活・環境」（5年生）2つのグループが模擬授業を実施する。

12	模擬授業と評価(7)(8)	「A 家族・家庭生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
13	模擬授業と評価(9)(10)	「B 衣食住の生活」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
14	模擬授業と評価(11)(12)	「C 消費生活・環境」(6年生) 2つのグループが模擬授業を実施する。
15	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定	模擬授業全体についての振り返りと授業改善 コロナが収束し、大学の許可が下りたら、ご飯とみそ汁の調理実習の予定
16	期末試験	

科目コード	32307			区分	コア科目				
授業科目名	生活科教育法 [FE2233組用]			担当者名	三堀 仁				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。2. ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。3. 模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

<授業の方法>

教材研究の段階(①～⑨)では、教員による内容1～9の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階(⑩～⑮)では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習: 課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく(1時間程度)。復習: 本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか 2020年 あたらしいせいこつ 上 東京書籍

文部科学省 平成30年2月28日 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場면을視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場면을視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究 (ICTを含む)	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	32313			区 分	コア科目					
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2231組用]				担当者名	竹下 厚志				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択	

<授業の概要>

本科目では、小学校外国語科の指導に関わる基礎的知識・技能を身につけ、模擬授業の計画・実施・観察・振り返りを通して、実践的指導力・英語運用能力・日々の授業改善や教師成長に必須の自己内省力の養成を主なねらいとします。ペアやグループでの話し合い活動では、積極的に自らの考えや経験を発信し、互いに学び合う姿勢が強く求められます。

<授業の到達目標>

小学校教員に期待される知識・技術：英語運用力、コミュニケーション力、教材研究・開発力、授業運営、中学校への連携などを理論的背景に基づいて理解できる。 ②小学校教育現場で実践できる教授力を身につけている。

<授業の方法>

(0) 英語コミュニケーショントレーニング (1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) ペア・グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) 模擬授業および質疑 (4) まとめと発表

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習(1時間程度)、模擬授業の準備(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業への参加度 30%②課題(レポート) 20%③指導案および模擬授業 50%

<教科書>

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 5 東京書籍

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 6 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	小学校英語教育に必要な知識・技能および授業運用力
2	小学校英語教育で学習指導要領が求めるもの	学習指導要領、教師の英語力
3	英語クイズ	3ヒントクイズの作成
4	TPR	TPRを使った活動
5	自己紹介	イラストを使った自己紹介
6	他者紹介	イラストを使った他者紹介
7	CLIL②	教科書を使った導入1
8	教科書を使った導入2	言語材料の導入2
9	授業の流れ	授業構成
10	指導案作成①	ねらいとタスクの順序①
11	指導案作成②	ねらいとタスクの順序②
12	模擬授業①	ねらいと指導内容①
13	模擬授業②	ねらいと指導内容②
14	模擬授業③	ねらいと指導内容③
15	リフレクション	振り返りとレポート
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	ビジネス特別講義Ⅱ				担当者名	白木 渉/齊藤 直人			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

◆2024年度後期テーマ：【REALIZATION】～理想の認識、計画の実行、成長の達成（描き・計画したものを実践し、実現する）～自分の将来は、どうなるのか？本当は何がしたいのか？どんな会社に入りたいのか？悩みは尽きないのに、誰も正解を与えてくれない、パンデミック後の時代を私たちは生きています。でも大丈夫です。これをチャンスと捉え、自らの答えを見つける「探究心」を躍動させることで、挑戦と創造が可能な時代だからです。本科目群（2024年度ビジネス特別講義ⅠとⅡ）では、企業訪問をし、大学生が主体的に高校生との

<授業の到達目標>

本科目は、企業訪問と高校生との連携、リサーチ成果をコンテストなどでプレゼンする点が特徴です。これらの取り組みを通して、社会から求められる「人財」になるために必要な力の理解と、その基礎的な力の習得を目標としています。以下に、本科目9つの力を示します。1. 企画力 2. コミュニケーション能力(傾聴・質問・要約) 3. マネジメント能力 4. リサーチ力(調査・研究) 5. ディスカッション力 6. 交渉力 7. プレゼンテーション能力 8. 課題発見能力 9. 課題解決能力

<授業の方法>

本科目群は、3段階（前期・夏期・後期）の構成になっています。※ビジネス特別講義Ⅱは後期に実施しますが、ビジネス特別講義Ⅰの内容を踏まえて発展しますので、事前にビジネス特別講義Ⅰを履修した人のみ選択可能です。授業は、座学に加えて、探究学習と反転授業を行う授業となるため、特に成長意欲の高い人、学生時代に成果を出して卒業後の進路を、自信を持って進めていきたい人に履修を勧めます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本科目群は、毎週の定例的な準備学習や、定期試験に向けた学習は、ありません。また、①「学外の方（企業、高校）との連携」、②「チームでのレポート編集」、③「最終的な成果を授業内コンテストと企業別プレゼンで審査」があります。企業の方に信頼していただけるように、高校生の将来のキャリアを導けるように、授業内コンテストと企業別の発表で自信を持てるように、各自が必要だと思う学習をしてください。※以下は目安です。事前学習（予習）：毎回の課題に向けた取り組み、チーム編成後の共同作業等、週最低1時間程度事後学習（復習）：週最

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題（毎回）30%、企業リサーチレポート課題30%、コンテスト等審査結果20%、授業態度20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	DISCOVERYからREALIZATIONへ	夏期課題の発表、企業リサーチの内容を深掘りした結果わかったことは？、プレゼン制作スキルの基礎習得など
2	REALIZATIONへ向けて	自己分析の次のステップ、「知る」レベルを上げる、「描く」方法など
3	企業別プレゼンとは①	9月課題の発表①、コンセプトチェック
4	企業別プレゼンとは②	9月課題の発表②、コンセプトチェック
5	企画を深める①	企画内容のブラッシュアップ①
6	企画を深める②	企画内容のブラッシュアップ②、企業へのアプローチの仕方（アポイントの取り方）
7	プレゼン力を高める①	プレゼンスキルのブラッシュアップ①
8	プレゼン力を高める②	プレゼンスキルのブラッシュアップ②、プレゼンマインドを身に付ける
9	CM制作のポイント①	プレゼン制作スキルのブラッシュアップ①
10	CM制作のポイント②	プレゼン制作スキルのブラッシュアップ②、企業への効果的アプローチ法（経営者、管理者、担当者のねらいを知る）
11	授業内コンテスト①	企業別プレゼンに向けた改善のためのコンテスト（前編）、フィードバック
12	授業内コンテスト②	企業別プレゼンに向けた改善のためのコンテスト（後編）、フィードバック
13	相互支援会	企業別プレゼンに向けた相互支援会
14	企業別プレゼン	チーム別に企業に訪問し、企画提案プレゼン・課題提出
15	まとめ講義	企業別プレゼンの成果発表、1年間のまとめ
16		

科目コード	40305				区分	コア			
授業科目名	剣道Ⅲ(発展)				担当者名	中島 治彦			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

「剣道Ⅲ(発展)」では、剣道Ⅰ(基礎)、剣道Ⅱ(応用)で学習した基本動作、応用動作を反復練習することによって、技のスピードや手の内の効用を向上させ、互格稽古や試合などで、打突の好機を捉えその技を発揮できるようにする。その技術・技能を用いて、学校現場で、剣道専門家としてまた剣道有段者として、専門家でない教員より専門性が高い剣道授業が展開できるようになることが本授業の目的である。また、技術・技能の向上だけではなく、剣道指導上の留意点及び試合規則や審判法を学習し、教育現場で指導できるように、高い専門的な知識と実

<授業の到達目標>

中学校・高等学校等の教育現場で、剣道専門性の高い剣道授業、課外活動指導が実践できる知識、技術、技能を養い、授業実践できるようになることが目標である。さらに社会体育の中でも剣道を志す老若男女の方々を指導できる剣道専門指導者としての知識、技量、人間性を身に付けることを目標とする。また、剣道の段位を取得していない者は、段位取得を目標とする。

<授業の方法>

・剣道実技や日本剣道形・審判法・剣道理論学習を中心に実施する。・日本剣道形や剣道理論の学習には、アクティブラーニングの要素を取り入れ、示範動画を視聴したり、各自の練習風景を撮影したりして、各自の問題点や課題点を発見し、他者に伝えたり、お互いに評価し合うことで改善点を修正していく。・日本剣道形の示範動画は、事前にClassRoomに投稿されるので、事前課題として視聴し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。また、剣道理論についてもClassRoomを活用していく。※ 履修上限20人程度

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

剣道Ⅰ(基礎)、剣道Ⅱ(応用)の復習剣道授業案の作成全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」「剣道試合・審判細則」(各時間範囲指定)の理解全日本剣道連盟「剣道試合・審判・運営要領の手引き」(各時間範囲指定)の理解 ※約1時間程度

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度40%、実技試験40%、剣道理論試験20%(授業内)

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟平成25年(2013) 剣道授業の展開 全日本剣道連盟
全日本剣道連盟2020(初版8刷) 剣道指導要領 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	剣道を学ぶの心構えについて	剣道の在り方・剣道指導の在り方
2	剣道の礼法、着装、防具の知識	剣道の礼法、伝統的な考え方を知る。剣道着・袴、防具の知識を深め、正しく美しく着装する方法の学習
3	基本動作の確認基本動作の指導の仕方	仕掛け技(面打ち・胴打ち・小手打ち)及び切り返し等の指導法
4	木刀による剣道基本技稽古法	木刀による剣道基本技稽古法(1本目～9本目)の実践と指導の仕方
5	応用動作(仕掛け技について)	仕掛け技(二段の技・払い技・引き技・出ばな技)の実践と指導の仕方「攻め」を意識して、打突の好機を捉えて打つ実践と指導の仕方
6	応用動作(応じ技について)	応じ技(抜き技・擦り上げ技、返し技、打ち落とし技)の実践と指導の仕方先、後の先、先々の先の理解
7	剣道授業実践(学校現場想定)①	剣道の学習指導案を作成し、学校現場での剣道授業を実践する。
8	剣道授業実践(学校現場想定)②	剣道の学習指導案を作成し、学校現場での剣道授業を実践する。
9	剣道授業実践(学校現場想定)③	剣道の学習指導案を作成し、学校現場での剣道授業を実践する。
10	剣道指導実践(社会体育施設想定)①	小学校体育館や町道場での剣道指導を想定し、初心者(小学生～大人)に剣道指導を実践する。
11	剣道指導実践(社会体育施設想定)②	小学校体育館や町道場での剣道指導を想定し、初心者(小学生～大人)に剣道指導を実践する。
12	日本剣道形(1～3本目)	日本剣道形の1本目から3本目を理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認し、指導の仕方を学ぶ。
13	日本剣道形(4～7本目)	日本剣道形の4本目から7本目を理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認し、指導の仕方を学ぶ。
14	日本剣道形(小太刀1～3本目)	日本剣道形の小太刀、1本目から3本目を理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認し、指導の仕方を学ぶ。
15	日本剣道形のまとめと実技試験、剣道理論試験	日本剣道形のまとめと、実際の段位審査で行われる審査形式による実技テスト、剣道学科確認テストを行う。
16		

科目コード	38403				区分	コア			
授業科目名	武道指導演習Ⅱ(応用)				担当者名	平田 佳弘			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年の公務員試験（警察等）や教員採用試験では、地方自治体によっては、剣道や柔道の段位を有することが試験で加点される場合がある。剣道Ⅰ（基礎）Ⅱ（応用）では、特に学校現場での「剣道授業」が円滑に実施できるようになることが授業目標であったが、武道指導演習Ⅱ（応用）では、武道指導演習Ⅰで学習した基本技・応用技を身に付け、剣道審判法や日本剣道形も学習し、実際に剣道の段位取得（初段～三段）を目指すことを目標としている。

<授業の到達目標>

・剣道の段位審査合格に必要な礼法、着付け、実技（切り返し、基本動作、応用動作、五角稽古）、日本剣道形（1本目～9本目）、剣道理論（昇段審査学科問題）を学習し、修得する。・剣道の段位審査、初段～三段のいずれかの段位合格を目指す。

<授業の方法>

・一斉指導で、段位審査に必要な剣道理論と剣道実技、日本剣道形の学習を平行して実施していく。・基本、応用技練習や日本剣道形の練習は、有段者をリーダーとして、グループ別学習も取り入れる。日本剣道形の示範動画を見ながら、各自の問題点や課題点を話し合い、修正していくアクティブラーニングを取り入れる。・動画を視聴する事前学習にはClassRoomを活用する。また、基本打ち、切り返し、五角稽古の様子を撮影し、自分の稽古風景を振り返り、自己評価、教員による評価を実施する。・選択人数上限20人

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・剣道Ⅰ（基礎）及び、剣道Ⅱ（応用）、武道指導演習Ⅰの復習・全日本剣道連盟HP「剣道を知る」の熟読・日本剣道形（ネット動画）の視聴

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%（出欠含む）、剣道理論テスト20%、実技試験20%、剣道段位審査会の結果10%

<教科書>

<参考書>

平成24年（2012）4月全日本剣道連盟 剣道・居合道・杖道称号・段級位審査規則称号・段級位審査細則 全日本剣道連盟
昭和56年（1981）全日本剣道連盟 日本剣道形解説書 全日本剣道連盟
平成17年8月全日本剣道連盟 剣道学科審査の問題例と解答例（初段～五段） 全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション本授業の目的、授業概要	本授業の目的、授業概要、進め方、準備物（剣道着・袴）の説明をする。
2	武道指導演習Ⅰの復習①	礼法（正座、座礼、立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、構えと目付、構え方、納め方、素振り
3	武道指導演習Ⅰの復習②	礼法（正座、座礼、立礼）、素振り、足さばき（送り足、踏み込み足）
4	武道指導演習Ⅰの復習③	剣道具の装着（胴・垂れ・面・小手）、剣道具の外し方、剣道具の収納の仕方
5	剣道の基本動作	正面打ち・左右面打ち・切り返しの練習正面・左右面の打たせ方、受け方
6	剣道の基本動作	面打ち・小手打ち・胴打ちの練習面打ち・小手打ち・胴打ちの打たせ方・受け方
7	しかけ技の練習五角稽古	二段の技（小手一面、面一面）払い技（払い面、払い小手）二段の技、払い技の打たせ方、受け方
8	しかけ技の練習五角稽古	引き技（引き面、引き胴、引き小手）出ばな技（出ばな面、出ばな小手）引き技、出ばな技の打たせ方、受け方
9	応じ技の練習五角稽古	抜き技（面抜き胴、小手抜き面）すり上げ技（小手すり上げ面、面すり上げ面）抜き技、すり上げ技の打たせ方、受け方
10	応じ技の練習五角稽古	返し技（面返し胴）打ち落とし技（胴打ち落とし面）返し技、打ち落とし技の打たせ方、受け方
11	日本剣道形（1本目～3本目）	日本剣道形（1本目～3本目）打太刀、仕太刀両方1本目～3本目までの理合の理解
12	日本剣道形（4本目～5本目）	日本剣道形（4本目～5本目）打太刀、仕太刀両方4本目～5本目の理合の理解
13	日本剣道形（6本目～7本目）	日本剣道形（6本目～7本目）打太刀、仕太刀両方6本目～7本目の理合の理解
14	昇段審査に向けての総合練習	基本技練習、五角稽古日本剣道形、学科試験対策について
15	昇段審査に向けての総合練習授業内実技試験、剣道学科試験	基本技練習、五角稽古日本剣道形、学科試験対策について
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅶ(臨床応用)				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

近年、超高齢化社会に伴い臨床現場で多くの高齢者を対象とすることがある。高齢者の多くは様々な基礎疾患を持っている事が多いため、骨折や脱臼、軟部組織損傷などの骨筋系のみならず内科系疾患について理解する事は必須である。本科目では、診療現場における病態の把握、治療指針に対する知識の習熟が学習の中心となる。

<授業の到達目標>

1. 医療機関の診療方法を理解し、他の医療従事者との情報共有をはかることができる。2. 骨筋系疾患のみならず内科系疾患の疑いをかけ、病態を判断することができる。3. 症状に適した対応手法を判断する事ができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による病態把握手法、疾患概要について）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義に対する事前課題（臨床系科目（検査方法、疾患概要）の下調べ（毎回、1時間程度））、復習：実施内容に関する確認試験（毎回、15分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験70%，学習意欲30%（事前課題の提出物含む）

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂
 全国柔道整復学校協会 一般臨床医学 南江堂
 全国柔道整復学校協会 整形外科学 南江堂

<参考書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	病態観察（1）	問診、視診について
2	病態観察（2）	姿勢、異常運動、歩行について
3	病態観察（3）	打診、聴診の定義、実施方法について
4	病態観察（4）	打診、聴診の実施
5	病態観察（5）	触診、身体測定について
6	病態観察（6）	身体のランドマークの触診、身体計測の実施
7	病態観察（7）	感覚検査、反射検査の定義、症状、疾患について
8	病態観察（8）	感覚検査、反射検査の実施
9	生命徴候（1）	生命徴候（バイタルサイン）について
10	生命徴候（2）	生命徴候（バイタルサイン）の測定実施
11	臨床症状と代表的疾患（1）	発熱、出血傾向を伴う疾患について
12	臨床症状と代表的疾患（2）	意識障害、チアノーゼを伴う疾患について
13	臨床症状と代表的疾患（3）	浮腫、肥満、やせを伴う疾患について
14	臨床症状と代表的疾患（4）	関節症状を伴う疾患について
15	総復習	病態観察、生命徴候、臨床症状と代表的疾患について
16		

科目コード	0				区分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学Ⅱ				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公衆衛生とは「地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進 するための科学である」と定義される。健康に関わるいろいろな現象を疫学的に把握し、人間を取り巻く環境、社会的 要因（制度、組織など）などと人の健康増進、疾患予防などとの関係を理解し、医療にどの様に関連するのか考えられる力を習得する。

<授業の到達目標>

衛生学・公衆衛生学を学ぶ意義について理解する。健康の概念とその管理について理解する。自然および生活環境の中で感染症と健康の関連を習得する。母子関係とその支援機構を理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「衛生学・公衆衛生学」 南光堂
医療情報科学研究所：編集 公衆衛生がみえる 株式会社 メディックメディア

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	衛生学・公衆衛生学について	公衆衛生学の意義と目的、歴史
2	健康の概念	健康の定義、健康阻害因子、健康指標
3	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防、生活習慣等
4	感染症の予防1	感染症とは、ウイルス性・細菌性感染症
5	感染症の予防2	感染症の動向、感染症対策
6	消毒1	消毒の概念と消毒方法
7	消毒2	消毒法の応用、院内感染対策と消毒
8	環境衛生（環境保健）1	環境とは、非生物学的環境と生物学的環境
9	環境衛生（環境保健）2	環境問題、物理的環境要因
10	環境衛生（環境保健）3	化学的環境要因、生物学的環境要因
11	環境衛生（環境保健）4	公害、空気の衛生と大気汚染
12	生活環境・食品衛生活動1	水の衛生、衣服・住居と健康
13	生活環境・食品衛生活動2	食品と健康、廃棄物の処理
14	母子保健	ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標
15	まとめ	まとめ
16		

科目コード	28110				区分	専門基礎			
授業科目名	ビジネスプレゼンテーション				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

様々なビジネスシーンに合わせ、ソフトの操作技術のみならず、プレゼンテーションを実施する上で役立つ知識と実践的スキルを習得する。自己または回りの身近な題材で「伝わるスピーチ・プレゼンテーション」を実践するアクティブ・ラーニングを展開する。

<授業の到達目標>

多くのプレゼンテーションで使用されるパワーポイントでの企画から設計、作成スキルを身につけ、効果的プレゼンテーションにより、自分の持つ考えや情報を他者に伝え、よりよく理解してもらえるように、「決められた時間内で」「最適な手法と技能を用いて」発表・表現できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

1. 教科書に沿って、授業は対面を基本とし、教員、受講生のディスカッションおよびプレゼンテーションで構成する。2. 演習課題の授業内確認をし、仕上げの最終プレゼンテーションは提出を求める。3. 必要に応じてGoogleClassroom にレジュメや資料等をアップするので、印刷またはダウンロードすること。4. Microsoft Powerpoint/Google Slideがインストールされたラップトップコンピュータを持参することが必須。5. 提出物・グループワーク・プレゼンテーションはICT環境を

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業の課題提示に対して、個人・ペア・グループでの情報収集・資料作成・発表を実施する（1時間）。（TEDなどを視聴し、「人を魅了する」プレゼンテーションに触れる）復習：講義内容をよく理解しているかどうかの確認のため、教科書の復習をする（1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度30%、演習課題30%、最終プレゼンテーション40%課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点・成績の対象とはならないので注意してほしい。課題提出をもって出席とし、課題未提出や期限後の提出は欠席となるので十分に気をつけて欲しい。

<教科書>

富士通ラーニングメディア 「よくわかるマスターMOS PowerPoint365対策テキスト&問題集」 FOM出版

<参考書>

指定しない。必要に応じて配布または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の概要・進め方・成績評価について
2	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの効果・有効性について
3	プレゼンテーション技法①	PowerPointソフトの基本・表示・オプションの変更*演習課題
4	プレゼンテーション技法②	スライド・配布資料・ノートのマスター変更PREP法（結論・理由・具体例・結論）のメリット・デメリット*演習課題
5	プレゼンテーション技法③	スライドの管理*演習課題
6	プレゼンテーション技法④	テキスト、図形の挿入と書式設定*演習課題
7	プレゼンテーション技法⑤	グラフィック要素の挿入と書式設定*演習課題
8	プレゼンテーション技法⑥	表やグラフの作成と挿入、著作権表示*演習課題
9	プレゼンテーション作成①	基本的プレゼンテーション技法の振り返り・課題の作成
10	プレゼンテーション作成②	基本的プレゼンテーション技法の振り返り・課題の作成
11	プレゼンテーション技法⑦	SmartArtなどの挿入と書式設定*演習課題
12	プレゼンテーション技法⑧	画像の切り替えやアニメーションの適用*演習課題
13	プレゼンテーションの実施① 自分または回りの身近な題材でプレゼンテーション *評価と意見・感想	自分または回りの身近な題材でプレゼンテーション*評価と意見・感想
14	プレゼンテーションの実施② 自分または回りの身近な題材でプレゼンテーション *評価と意見・感想	自分または回りの身近な題材でプレゼンテーション*評価と意見・感想
15	プレゼンテーションの実施③ 自分または回りの身近な題材でプレゼンテーション *評価と意見・感想 ※受講自己評価	自分または回りの身近な題材でプレゼンテーション*評価と意見・感想 ※受講自己評価
16		

科目コード	0			区分	コア科目				
授業科目名	企業経営実践論Ⅱ			担当者名	齊藤 直人				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、県内の企業経営者(ゲスト経営者)から直接学ぶことで、今までの大学での学びと、実際の企業経営に必要な知識をつなげ、将来、社会人、企業人として、必要な知識を習得することです。昨今、外部環境の変化が厳しい中、企業は実際、どのような経営を行っているのか?経営者はどのように考え、経営を行っているか。将来、新商品開発や企画や戦略など、経営に近い仕事で活躍するには、どのようなスキルが求められるのか、など、自分が社会に出た後に必要な力がどのようなものかイメージしやすくなるよう、現在、経営者である担当教員が、

<授業の到達目標>

様々な業界から招聘するゲスト経営者から、受講生が直に学ぶことで、以下の3つを目標とする。1)「企業」とは何か、を理解し、説明できる2)ゲスト経営者の業界における現状(業界、業種、課題、将来性)を理解し、説明できる3)将来、社会人として企業に関わる人材となる意志を語り、論述できる

<授業の方法>

企業・組織の経営者を迎え、毎回テーマに応じた講義とディスカッション、グループワーク、課題発表等を実施します。卒業後の進路に役立つよう、受講生の声を拾い上げ、双方向のやり取りができる授業内容です。ゲスト経営者との自由な討議・質疑応答にも重点的に取り組むことで、受講生自身の実践体験が得られます。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習:質疑応答に向けた準備(30分程度) ※質問したいことを準備する。復習:レポート課題と、ゲスト経営者からの学びを元に取り組む実践課題(30~1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実践レポート課題 30%、貢献度 15%、期末レポート 25%※定期試験なし※基本的には、すべての授業に出席し、レポート提出、授業主旨に合った取り組みをしていること。※「実践」の名が付く講座である特性上、受講生が自分自身で気づき、行動することが実践につながると考えています。そのため、成績評価全体の考え方は、講義で学んだ内容を、いかに自分自身と照らし合わせて、レポートを書くか、プレゼンテーションをするか、学びを行動にどうつなげていくかに焦点を当てて評価を行います。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	企業経営実践論Ⅱの考え方、授業の進め方、登壇予定のゲスト経営者紹介 など
2	企業経営実践論Ⅱ 序論	企業とは?経営とは?実践とは?など
3	プレゼンテーション	プレゼンテーション=発表?、経営とプレゼンテーションの関係、実習 など ※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
4	ゲスト経営者による講義①とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
5	ゲスト経営者による講義②とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
6	ゲスト経営者による講義③とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
7	ゲスト経営者による講義④とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
8	ゲスト経営者による講義⑤とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
9	ゲスト経営者による講義⑥とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
10	ゲスト経営者による講義⑦とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
11	ゲスト経営者による講義⑧とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。

12	ゲスト経営者による講義⑨とまとめ講義	の展開を予定。 ※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
13	ゲスト経営者による講義⑩とまとめ講義	の展開を予定。 ※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
14	企業経営実践論Ⅱ エッセンス	ゲスト経営者から学んだ内容を基にした実習（グループワーク、プレゼンテーション） など
15	全体まとめ	実習、全体討議、より良い進路を選択するために学びを生かす など
16		

科目コード	21307			区分	専門基礎科目				
授業科目名	英語科教育法Ⅳ(実践)			担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、英語科教育知識への理解を深めること、学習者の言語技能を向上させるために授業力を高めること、および教材開発能力を高めることに取り組みます。実際の模擬授業や指導案の作成を通して、1授業・1単元を構成する力を養成します。PCを持参のうえ臨んでください。

<授業の到達目標>

(1) 英語科教育知識を深めることができる。(2) 英語授業の導入・展開・まとめに応じた活動を実践することができる。(3) 授業の全体像を把握できる指導案を作成できる。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習(1時間程度)、模擬授業の準備(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業での取り組み・意欲 30%、模擬授業 40%、指導案作成 30%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要および進め方
2	英語教授法の活用	英語教授法の効果的な使用について
3	教材研究	ICTを活用した教材内容・指導内容・教科書の使い方
4	授業の構成	PPP, PCPP, TBLTなどに基づいた授業構成
5	教科書を用いた指導(1)	語彙・文法指導
6	教科書を用いた指導(2)	言語活動および指導
7	授業の指導目標	学習指導要領における外国語科の目標
8	授業の設計①	指導案の作成(単元の学習指導)
9	授業の設計②	指導案の作成(本時の学習指導)
10	授業の設計③	指導案の作成(評価の観点、目標と評価の一体化)
11	授業における評価	評価とテスト
12	模擬授業①	学んだことを生かした模擬授業
13	模擬授業②	学んだことを生かした模擬授業
14	模擬授業③	学んだことを生かした模擬授業
15	まとめ	授業全体の振り返り
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	ベンチャー企業論				担当者名	齊藤 直人			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、将来、ベンチャー企業への就職や、企業内での新規事業やプロジェクト担当、または実際にベンチャー企業を起業する際に活かせる知識を学びます。Ⅰベンチャー企業に必要な基本スキルと考え方 Ⅱベンチャー企業に必要な経営計画書の作成方法 Ⅲ周囲をインクルージョンするプレゼンテーション技法を学びます。起業か就職か、就職する前に少しでも経営の実態や経営者としての自身の適性を知りたいという場合でも、この講義から学びを得られるでしょう。学生時代に起業し、20年以上経営者である担当教員が、多くの学生起業家を指導

<授業の到達目標>

経営計画の作成を通じて、以下の3つを目標とします。1)ベンチャー企業に必要な基本知識が説明できる2)「経営計画」の作成方法を体験的に理解している3)将来のビジネスマンとして、起業家としてのプレゼンテーションの基本が身に付いている

<授業の方法>

毎回、経営計画の作成に必要な知識を、毎講のテーマに分けて学びます。講義とディスカッション、グループワーク、課題発表を実施します。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：経営計画の発表に向けた準備(30分程度) 復習：講義を元に、経営計画書・プレゼンテーションの作り込む実践課題(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲とレポート課題45%、経営計画書・プレゼンテーション55%※定期試験なし、期末レポートなし

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と単位について ベンチャー企業に必要な要素とは?
2	I ベンチャー企業の基本①	創造的活動 アイディアや夢、やりたいことを事業化してみる
3	I ベンチャー企業の基本②	なぜ、ベンチャー企業なのか?ストーリーと自分の適性を考える
4	I ベンチャー企業の基本③	経営資源を集める方法 支援者を集める2つのツールのポイントを知る
5	I ベンチャー企業の基本④	何のための経営か?理念体系(ビジョン・ミッション・バリュー・パーパス)を考える
6	II 経営計画書の作成①	ビジネスモデルと戦略を考える
7	II 経営計画書の作成②	理想のポジショニングを考える
8	II 経営計画書の作成③	経営計画の具体性・目標設定を考える
9	II 経営計画書の作成④	収支計画と資金調達方法を考える
10	III プレゼンテーション技法①	ヒト、モノ、カネ...経営資源が集まる、聴衆を魅了するプレゼンテーションとは
11	III プレゼンテーション技法②	伝えたい価値の明確化と、価値を伝えるシナリオ
12	III プレゼンテーション技法③	プレゼンテーションを自己検証する
13	III プレゼンテーション技法④	プレゼンテーション資料の作り込みよりも大切なポイント
14	経営計画書とプレゼンテーションの発表①	制作物を共有し、仲間から学ぶ
15	経営計画書とプレゼンテーションの発表②	ベンチャー企業論を通じて学んだことの発表など
16		

科目コード	65041			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	リーディング・スキル(実践) [英語教員希望者 限定]			担当者名	井上 聡				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検1級レベルの英文の速読・精読力と語彙・構文解析力を強化します。事前課題（長文読解に関するノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質、学びの整理の3点に基づいて成績評価を行います。

<授業の到達目標>

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（英検1級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。 ※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの準備（30分程度）＋意見交換（10分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	"Drink Responsibly" Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Voluntourism	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03
16		

科目コード	22200				区分	専門基礎			
授業科目名	言葉の理解 [FC再履修用]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、保育5領域のうちの「言葉」を対象とする。言葉はさしあたり人間に特有なものと考えられており、思考の基盤となる重要なものである。乳幼児期の言葉の発達についての基礎知識を獲得し、そこで重要なツールとなる絵本の選択と紹介およびその読み聞かせを実際に行うことで、理論と実践両面から言葉を理解する。

<授業の到達目標>

①乳幼児期の言葉の発達についての基礎知識を獲得する。②対象となる幼児に適切な絵本を選択できるようになる。③当該絵本の伝えたいことを自身の言葉で説明できるようになる。④目的に応じた絵本の読み聞かせができるようになる。

<授業の方法>

アクティブラーニングを組み込んだ講義形式。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：当該回のテーマについて、各回1時間程度の予習を行うのが望ましい。復習：当該回に理論ないし実践を通じて学習したことについて、各回1時間程度の復習を行うことが望ましい。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内評価50% (事後課題20%、授業内発表30%)、テスト50%

<教科書>

<参考書>

馬見塚昭久・小倉直子編著(2018年3月) 保育内容「言葉」指導演法 ミネルヴァ書房

大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈監訳・編著、神代典子訳(2021年9月) ニュージージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファーリキ(完全翻訳・解説) —子どもが輝く保育・教育のひみつを探る 建帛社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	5領域の1つとしての「言葉」について理解する
2	絵本の選択(1)	自身が紹介したい絵本を選択する
3	絵本の紹介(1)	選択した絵本を紹介する
4	子どもの発達と言葉	乳幼児期の言葉の発達と、言葉の獲得法・役割について理解する
5	前言語期のコミュニケーションと保育	前言語期のコミュニケーションと、その育成法について理解する
6	絵本の選択(2)	第4回と第5回の授業内容に基づいて、自身が紹介したい絵本を選択する
7	絵本の紹介(2)	第4回と第5回の授業内容に基づいて、選択した絵本を紹介する
8	話し言葉と発達	「話す」ということの内実を把握し、園生活におけるその育成法について理解する
9	書き言葉と発達	文字の読み書きと保育の関係について把握し、その育成を支援する方法について理解する
10	絵本の選択と読み聞かせの練習(1)	第8回と第9回の授業内容に基づいて、読み聞かせるための絵本を選択し、読み聞かせの練習を行う
11	絵本の読み聞かせ(1)	第8回と第9回の授業内容に基づいて、実際に絵本の読み聞かせを行う
12	児童文化財と発達	「児童文化財」について学習し、それと言葉の発達の関係について理解する
13	言葉の支援と発達	言葉に関する課題を持つ子どもたちの存在を把握し、母語が日本語でない子どもに対する支援法についても理解する
14	絵本の選択と読み聞かせの練習(2)	第12回と第13回の授業内容に基づいて、読み聞かせるための絵本を選択し、読み聞かせの練習を行う
15	絵本の読み聞かせ(2)	第12回と第13回の授業内容に基づいて、実際に絵本の読み聞かせを行う
16		

科目コード	23202				区分	コア			
授業科目名	教育社会学				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では教育社会学の立場から「教育に対する社会的事項」「教育に関する制度的事項」「教育に関する経営的事項」「学校と地域との連携」「学校安全への対応」を含み、教育の諸現象を社会的に考察し、その問題解決の方策を探る。また、教師が主体的に関与する方策も考える。教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会的視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を

<授業の到達目標>

①教育に関する社会的事項(社会や子どもの変化)の学校教育への影響、それに対する教育改革、教育政策、現場の対応を理解する。学校をめぐる社会的事項を理解する。子どもの生活の変化と実態や指導上の課題を理解する。近年の教育政策、教育改革を理解する。諸外国の教育事情・教育改革の動向を理解し、日本へ改革への示唆を得る。②現代の公教育制度の意義・原理・法的・制度的仕組みや課題に関して理解する。教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解する。教育制度の諸課題の例示ができる。③学校経営の観点からの学校や教育行政機関の目的と

<授業の方法>

オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回終了後には内容を再確認しておくこと。また、次回に備えて関連資料に目を通すなど予習をしておくこと。単位習得に必要な学習時間を費やすこと(予習90分・復習90分)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各講義で実施する課題は指示を出し(40%)、提出が早いアクションにはコメントを入れる。最終レポート(60%)の評価基準は事前に提示する。

<教科書>

特に指定しない(参考書を参照しながら講師が独自に説明する)

<参考書>

岩永雅也(2019年)『教育社会学概論』放送大学出版社

中村高康・松岡亮二(2021年)『現場で使える教育社会学:教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房

高野良子・武内清編著(2024)『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』[第3版]学文社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス:教育社会学とは?	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	教育社会学とは?①教育社会学の目的・対象・手法	教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。
3	教育社会学とは?②教育社会学の歴史と現在	教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。
4	ライフコースと教育社会学①家族と子ども	身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。
5	ライフコースと教育社会学②小学生・中学生	義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。
6	ライフコースと教育社会学③高校生	高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。
7	ライフコースと教育社会学④大学生	大学生文化とは何か?大学文化とは?高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現象を説明する。
8	ライフコースと教育社会学⑤職業(初期キャリア)	学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明する。
9	ライフコースと教育社会学⑥職業(中期～キャリア)	キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離転職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。
10	ライフコースと教育社会学⑦居住・成熟・老い	一見、学校、教育と関係のないように思われるが、人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。成人になってからも学習することは多く、

11	教育社会学の観点①グローバリズムとナショナリズム	キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。 これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
12	教育社会学の観点②教育格差とは何か	経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
13	教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う	社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象などとも大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレーム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
14	教育社会学の観点④教師への期待と役割	教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
15	展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか	14回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどのような学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。
16		

科目コード	65039				区分	専門基礎科目			
授業科目名	ライティング・スキル [英語教員希望者限定]				担当者名	井上 聡			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業（オンデマンド型授業）では、英検2級、および、準1級レベルの英語ライティング能力の習得を目的として、論理構成力と英語表現力を同時に磨きます。授業第5週目までは主として、英文に変換しやすいような日本語の論理思考力の強化に励みます。続いて6週目からはeラーニング教材を使用して、毎週1本ずつ課題作文の提出・添削を繰り返します。自律的にこなすことが難しい領域だからこそ、単位化されたこの授業でスキルを身に付けてほしいと願っています。ただし、ライティング課題を作成する際、自動翻訳への依存や他者の作品の引用が発覚

<授業の到達目標>

1. 毎回期限までに課題を提出できる。 2. ライティングの精度（構成、文法、内容等）を高めることができる。 3. 「意見交換」の場で自身の学び言語化できる。 ※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<授業の方法>

1. 事前課題（第6週からeラーニング教材を使用）※授業前日まで 2. 添削・返却 ※授業日 3. 修正・振り返り ※授業日

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：意見交換での発信（10分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 40%，理解度確認テスト 40%，意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	よく出る英語構文（1）	事前課題，採点・返却，理解度確認テスト，意見交換
3	よく出る英語構文（2）	事前課題，採点・返却，理解度確認テスト，意見交換
4	よく出る英語構文（3）	事前課題，採点・返却，理解度確認テスト，意見交換
5	よく出る英語構文（4）	事前課題，採点・返却，理解度確認テスト，意見交換
6	よく出る英語構文（5）	事前課題，採点・返却，理解度確認テスト，意見交換
7	論理構成の立て方（1）	事前課題，採点・返却，理解度確認テスト，意見交換
8	論理構成の立て方（2）	事前課題，採点・返却，意見交換
9	英検2級の論理構成	事前課題，採点・返却，意見交換
10	英検準1級の論理構成（1）	事前課題，採点・返却，意見交換
11	英検準1級の論理構成（2）	事前課題，採点・返却，意見交換
12	英検2級演習（1）	事前課題，採点・返却，意見交換
13	英検2級演習（2）	事前課題，採点・返却，意見交換
14	英検準1級演習（1）	事前課題，採点・返却，意見交換
15	英検準1級演習（2）	事前課題，採点・返却，意見交換
16		

科目コード	32313				区分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [他学科B]				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、小学校外国語科の指導に関わる基礎的知識・技能を身につけ、模擬授業の計画・実施・観察・振り返りを通して、実践的指導力・英語運用能力・日々の授業改善や教師成長に必須の自己内省力の養成を主なねらいとします。ペアやグループでの話し合い活動では、積極的に自らの考えや経験を発信し、互いに学び合う姿勢が強く求められます。

<授業の到達目標>

小学校教員に期待される知識・技術：英語運用力、コミュニケーション力、教材研究・開発力、授業運営、中学校への連携などを理論的背景に基づいて理解できる。 ②小学校教育現場で実践できる教授力を身につけている。

<授業の方法>

(0) 英語コミュニケーショントレーニング (1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) ペア・グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) 模擬授業および質疑 (4) まとめと発表

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業への参加度 30%②課題（レポート）20%③指導案および模擬授業 50%

<教科書>

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 5 東京書籍

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 6 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	小学校英語教育に必要な知識・技能および授業運用力
2	小学校英語教育で学習指導要領が求めるもの	学習指導要領、教師の英語力
3	英語クイズ	3ヒントクイズの作成
4	TPR	TPRを使った活動
5	自己紹介	イラストを使った自己紹介
6	他者紹介	イラストを使った他者紹介
7	教科書を使った導入1	言語材料の導入1
8	教科書を使った導入2	言語材料の導入2
9	授業の流れ	授業構成
10	指導案作成①	ねらいとタスクの順序①
11	指導案作成②	ねらいとタスクの順序②
12	模擬授業①	ねらいと指導内容①
13	模擬授業②	ねらいと指導内容②
14	模擬授業③	ねらいと指導内容③
15	リフレクション	振り返りとレポート
16		

科目コード	32308			区分	コア科目				
授業科目名	体育科教育法 [他学科]			担当者名	白石 翔				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

社会・スポーツ・遊び・子ども（人間）との関係を紐解きながら、小学校の体育授業についてディスカッションを通して創造していく。これまで培ってきた自らの経験を相対化しつつ、これから求められる小学校体育について考えを深めることとする。このことに迫るために、実際に体育館で体を動かしながら考えたり、教室でディスカッションを通して考えたり、書籍を読んで深く思考したりしながら学ぶ。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識や考え方を学ぶことができる。2. これからの小学校体育についてデザインし、授業実践力を身につける。3. これからの小学校体育を考え続けようとする態度を身につける。

<授業の方法>

体育館での実践や教室でのディスカッションを通して学びを深める。また、オンライン上での学習の深まりや情報交換等も行う。※新型コロナウイルス等の感染状況によって適宜変更することがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（毎回1時間程度）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。小学校学習指導要領に書かれた内容に関する小テストを行う。復習：（毎回1時間程度）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 30% レポート・指導案等 40% 小テスト 30%

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編 東洋館出版社
松田恵示・鈴木聡・眞砂野裕編著（2019） 子どもが喜ぶ！体育授業レシピー運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくりー教育出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションと自らが受けてきた小学校体育	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	やってみよう！小学校体育	実際に動きながら小学校体育について考えてみる
3	運動が苦手な児童と小学校体育	運動が苦手な児童が見えている世界はどんな世界？
4	小学校体育って何を学ぶ教科？	具体的な単元から、小学校体育と何を学ぶ教科なのかについて考える。学習指導要領の変遷をおさえる。
5	小学校の体育授業をデザインするためには？	体育授業をデザインするために必要な内容とは？学習指導要領から紐解く
6	小学校体育で扱う運動・スポーツとは？	どのような条件を整えば、子どもたちの豊かな学びを保障できるのかについて検討する。プレイ論からの解説を含む
7	小学校体育授業をデザインしてみよう	ワクワク・ドキドキする授業はいかにしてデザイン可能か？授業をどのようにチェックするのかといった評価論も含む
8	小学校体育授業のデザインを他者と共有するためには？	より良い実践に向けた単元計画のあり方と内容
9	実践を通して見えてくる教師に必要なこととは？	授業を実施する上で、教師に必要なこととは何か？模擬授業を通して考えてみる
10	集団スポーツの授業デザインとは？	集団スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
11	個人スポーツの授業デザインとは？	個人スポーツの授業をデザインする際に必要な目標・内容・方法・評価の関係について検討する
12	授業をより良くするためのサイクルとは？	授業をより良くするための方法と考え方
13	改めて小学校体育に重要なこととは何か？	これからの社会と子ども・スポーツの関係を編み直す
14	未来の小学校体育をデザインする	10年後の体育授業をデザインするために必要な能力とは何か？教師の価値判断と子どもの学び
15	まとめ	この授業を振り返って、自らの、チームの、クラスの学びを言語化する。生き方の哲学について

科目コード	38400				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツのリスクマネジメント				担当者名	品田 直宏／佐々木 史之／三浦 孝仁／大井理緒／仙波 慎平／片桐 夏海／田中 耕作／國友 亮佑／柴山 慧／坂本 康輔／保科 圭汰／浦 佑大／十河 直太／明石 啓太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツの大衆化と高度化の進展に伴い、スポーツ活動が活発となり隆盛をみるにつれ、いわゆるスポーツ事故もまた増加傾向を示し、さらに近年の国民の権利意識の高まりと共に事故責任の追及も厳しくなっている。本講義においてスポーツ活動のいわば副産物たるスポーツ事故の近年の傾向を把握し、事故の原因や事故対策について考察し、有効な事故防止策について理解する。また各競技種目の事故例をあげ、詳しく講述する。

<授業の到達目標>

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではそれに加え各競技や現場で起こる事例について扱うため、それぞれの分野での理解を求める。

<授業の方法>

授業は教科書を利用した対面の講義形式で実施し、課題はGoogle Classroomを用いて管理をする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習 教科書を参考の上、毎時間課される授業課題について1時間程度実施することが望ましい。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業毎の小テスト・レポート40%、期末試験60%

<教科書>

環太平洋大学体育学部 編 (2023/2/14) 体育授業のリスクマネジメント実践ハンドブック 大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	リスクマネジメントの概要	体育授業におけるリスクマネジメントとはどのようなものか、概要について学ぶ
2	体づくり運動におけるリスクマネジメント	体づくり運動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
3	器械運動におけるリスクマネジメント	器械運動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
4	陸上競技におけるリスクマネジメント	陸上競技におけるリスクマネジメントについて理解を深める
5	水泳競技におけるリスクマネジメント	水泳競技におけるリスクマネジメントについて理解を深める
6	球技スポーツ「ゴール型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ゴール型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
7	球技スポーツ「ネット型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ネット型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
8	球技スポーツ「ベースボール型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ベースボール型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
9	柔道におけるリスクマネジメント	柔道におけるリスクマネジメントについて理解を深める
10	剣道におけるリスクマネジメント	剣道におけるリスクマネジメントについて理解を深める
11	ダンスにおけるリスクマネジメント	ダンスにおけるリスクマネジメントについて理解を深める
12	野外活動におけるリスクマネジメント	野外活動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
13	スノースポーツにおけるリスクマネジメント	スノースポーツにおけるリスクマネジメントについて理解を深める
14	マリンスポーツにおけるリスクマネジメント	マリンスポーツにおけるリスクマネジメントについて理解を深める
15	体育行事におけるリスクマネジメント	体育行事におけるリスクマネジメントについて理解を深める
16		

科目コード	61003				区分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康論				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成方法、運動行動変容の理論と実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成できるようになること、そして成果をもたらすためには行動の継続が重要であることを理解し、行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得することを目標としている。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布し、授業を行う。授業動画の視聴、確認テストおよびフィードバックにより理解を深めることとする。資料の配布や授業動画の配信、確認テストの配信や管理などは、クラスルームを介して連絡を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し(約1時間)、課題に対しては、参考図書・参考資料を参照しながら、授業の理解を深める。また、確認テストの結果内容について、振り返りを行う(約30分)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、小テスト等 40%、期末試験(場合によってはレポート) 30%

<教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団(2020年) 健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下) 健康・体力づくり事業財団

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	序論	スポーツと健康の関係についての概略
2	検診結果について(1)	検診結果の読み方
3	検診結果について(2)	検診結果による効果測定
4	運動のためのメディカルチェック	運動のための内科メディカルチェックについて
5	安静時心電図	安静時心電図の基本の理解
6	負荷心電図	運動負荷中における心電図の実際
7	運動負荷試験	運動負荷試験の実際
8	内科疾患のリハビリテーションと運動療法	呼吸器疾患、循環器疾患に対する運動プログラム
9	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法と評価方法
10	運動処方(1)	生活習慣病に対する運動療法プログラム(包括的プログラム)
11	運動処方(2)	生活習慣病に対する運動療法プログラム(過体重・肥満症と高血糖・糖尿病)
12	運動処方(3)	服薬者に対する運動療法プログラム
13	運動行動変容の理論と実際(1)	行動変容の理論
14	運動行動変容と理論と実際(2)	行動変容理論の実践的適用
15	まとめ	まとめと今後の展望
16		

科目コード	33404			区分	幼児心理学Ⅱ				
授業科目名	幼児心理学Ⅱ			担当者名	松本 好生				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	あり

<授業の概要>

本授業は、未就学児の心理特性等をアセスメントする心理検査への理解を深めることを目的としている。心理検査一般への理解を深めるため、一部は講義形式の授業で行う。一方、残りの回は、心理検査の検査・被検査・解釈を体験してもらう実習形式の授業となる。

<授業の到達目標>

①本授業で取り扱った心理検査が測定する構成概念を理解し、説明することが可能②心理検査の倫理と限界について理解し、説明することが可能

<授業の方法>

①必要に応じて、配布資料・プレゼンテーション・心理検査を用いての授業形態。②心理検査に関する理論を講義形式で学ぶ活動（45分程度）、グループ討議（30分程度）を組み合わせた授業で展開。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に関連する教科書の章や提示された参考書に目を通しておくこと。配布した資料などはファイルし、いつでも参照できるようにしておくこと。専門用語も多いので、必ず復習を重ね、用語を正確に理解しておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 10%、演習レポート 90%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	幼児心理コースの目標と子どものアセスメントとは（概説）
2	心理検査とは①	フォーマルな評価とインフォーマルな評価
3	心理検査とは②	心理検査の種類と適用①
4	心理検査とは③	心理検査の種類と適用②
5	子どもの心理特性と評価①	知能検査
6	子どもの心理特性と評価②	発達検査
7	発達障害のアセスメント①	日本版 PEP-3 自閉症・発達障害児 教育診断検査 [三訂版]Psychoeducational Profile-3rd editionの概説
8	発達障害のアセスメント②	WISC-V 知能検査の概説
9	発達障害のアセスメント③	発達障害（ADHD）の障害特性とアセスメントの特徴
10	重症心身障害のアセスメント	遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査の解説
11	課題分析①	課題分析の概説
12	課題分析②	課題分析の演習
13	子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価	事例のアセスメントをもとにした支援計画づくり（演習）
14	専門機関との連携	医療・保健の現状と課題、専門機関との連携による福祉・教育支援
15	まとめとふりかえり	心理アセスメントの限界と課題
16		

科目コード	53066			区 分	コア科目				
授業科目名	幼児英語指導法Ⅱ			担当者名	三垣 雅美／塚本 千晴				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得に着目し、理論的側面と実践的側面を融合させて学んでいきます。幼い子どもにとって、母国語の発達途上の段階で、もう1つの言語を習得することは容易ではありません。しかし、「臨界期仮説」（ある一定の時期を過ぎるとネイティブのような言語能力を身につけるのは困難になるという仮説）があるように、幼い時に新しい言語に触れることは、その後の言語習得に大きく作用します。では、どのように指導していくかが問題です。乳幼児の発達過程に応じた教材、教授法について、実践を重ねながら議論

<授業の到達目標>

検定用テキストを活用しながら、幼保英検3級以上の合格を目指します。また、グループで協働学習を行い、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得について理解し、適切な教材と言語活動が乳幼児に提供できるようにします。

<授業の方法>

グループごとに、乳幼児に楽しく英語を学ばせるアクティビティやスキットを実演する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、幼稚園、保育園での実習に向けて活用していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

指定の幼保英検テキストを購入し、指定した範囲のダイアログや単語を覚えたりする課題がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

11月に実施される幼保英検を必ず受検すること（合否によって単位取得が決められるものではない）学習態度30% グループへの貢献度30% 課題提出20% 幼保英検受検20%

<教科書>

一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会（2019） 幼保英語検定3、2、準1級テキストいずれか ブックフォレ

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	幼保英検準備（1）	問題演習や対策
3	幼保英検準備（2）	問題演習や対策
4	年齢に応じた外国語活動とは（1）	年齢に応じた語学習得について、注意すべき点を議論する。語学習得における臨界期仮説について学び、幼児期に外国語に触れる長短を理解する。
5	年齢に応じた外国語活動とは（2）	グループで準備をする
6	年齢に応じた外国語活動とは（3）	グループで実演発表をする
7	聴覚（音）を刺激する英語活動とは（1）	リスニングスキルを伸ばすための活動について、注意すべき点を議論する
8	聴覚（音）を刺激する英語活動とは（2）	グループで準備する
9	聴覚（音）を刺激する英語活動とは（3）	グループで実演発表をする
10	視覚（絵）を刺激する英語活動とは（1）	文字認識を促す活動について、注意すべき点を議論する
11	視覚（絵）を刺激する英語活動とは（2）	グループで準備する
12	視覚（絵）を刺激する英語活動とは（3）	グループで実演発表をする
13	保育園（あるいは幼稚園）見学	教育現場での実践を見学し、幼児英語指導法Ⅲへつなげていく
14	振り返り	自分たちの取り組みと実際の教育現場の実践を比較し、改善すべきところはどこか考える
15	幼児英語と児童英語について	小学校外国語活動への接続について学ぶ
16		

科目コード	35205				区 分	コア			
授業 科目名	トレーニング論Ⅱ(応用)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

<授業の到達目標>

各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価することができる。

<授業の方法>

講義と受講者による発表・討論を行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書（トレーニングの科学的基礎）を熟読の上、授業に参加すること。（所要時間：2時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（提出物を含む）60%、発表40%

<教科書>

<参考書>

宮下充正 トレーニングの科学的基礎 ブックハウスHD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	トレーニングに関する最近の研究①	日本語論文の探し方と読み方
5	トレーニングに関する最近の研究②	英語論文の探し方と読み方
6	トレーニングに関する発表および討論①	発表、質疑応答、レポート作成
7	トレーニングに関する発表および討論②	発表、質疑応答、レポート作成
8	トレーニングに関する発表および討論③	発表、質疑応答、レポート作成
9	トレーニングに関する発表および討論④	発表、質疑応答、レポート作成
10	トレーニングに関する発表および討論⑤	発表、質疑応答、レポート作成
11	トレーニングに関する発表および討論⑥	発表、質疑応答、レポート作成
12	トレーニングに関する発表および討論⑦	発表、質疑応答、レポート作成
13	トレーニングに関する発表および討論⑧	発表、質疑応答、レポート作成
14	トレーニングに関する発表および討論⑨	発表、質疑応答、レポート作成
15	トレーニングに関する発表および討論⑩	発表、質疑応答、レポート作成
16		

科目コード	63003				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ相談の実際				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、スポーツ心理相談に関する基礎的な理論を概観し、スポーツ競技者の心理的な課題に触れ、内容を学んでいく。また、ロールプレイを通して、傾聴・共感といった基本姿勢の体験を図り、スポーツ心理相談の理論と技法の基礎を身につけていく。

<授業の到達目標>

- ①スポーツ心理相談に関する基礎的知識を理解できる。②スポーツ競技者の心理的課題や相談事例の内容を理解することができる。③心理相談の体験を図り、スポーツ心理相談の理論と技法の基礎を身につけることができる。

<授業の方法>

講義と心理相談実践を組み合わせる。カウンセリングに関する基礎的な技法やストレスマネジメントの重要性を理解し、「相談の実際」では、スポーツ選手への心理相談をロールプレイで行っていく。授業の終わりに振り返り課題に取り組んでもらう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

スポーツ相談に対し、強い関心と積極的に取り組めるレディネスを持って受講することが望ましい。参考書やインターネット検索等を用いて、授業で課される次週の課題について1時間の予習をしていくこと。また、授業で学んだことについて1時間の復習を行うこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、授業課題 40%、最終レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

河合隼雄 「カウンセリングの実際問題」 誠心書房
 中込四郎 「アスリートの心理臨床-スポーツカウンセラー-」 道和書院
 内田直 「スポーツカウンセリング入門」 講談社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、スポーツ相談例
2	カウンセリングについて	カウンセリングの基本
3	ストレスについて	ストレスの考え方と評価法
4	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントとカウンセリング
5	自己分析を用いた心理相談 (1)	性格傾向を把握して
6	自己分析を用いた心理相談 (2)	パフォーマンス分析を用いて
7	自己分析を用いた心理相談 (3)	心理的スキル分析を用いて
8	スポーツ相談の実際 (1)	目標設定技法を用いての心理相談
9	スポーツ相談の実際 (2)	行動変容技法を用いての心理相談
10	スポーツ相談の実際 (3)	リラクゼーション技法を用いての心理相談
11	スポーツ相談の実際 (4)	イメージ技法を用いての心理相談
12	スポーツ相談の実際 (5)	情動のコントロール技法を用いての心理相談
13	スポーツ相談の実際 (6)	暗示技法を用いての心理相談
14	スポーツ相談の実際 (7)	ポジティブシンキングを用いての心理相談
15	まとめ	授業の振り返り
16		

科目コード	65049				区分	コア			
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ [中高保健教員]				担当者名	延原 まどか/坂本 康輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

キャリアマネジメントⅢは、教職に就くために必要な知識・技能を獲得するため、座学のみならず公立学校等でのフィールドワークを実施する。同時に、教職の適性を自ら確認し、今後の「教師像」を描くことができるようにする。

<授業の到達目標>

キャリアマネジメントⅢは、教職に就くため、下記の目的と、その目的を達成するため3つの目標を設定する。【目的】「教員に必要な知識、技能、能力、態度を育成する」【目標】① 教職の適性を確認し、他者と協働しながら、教職生活を通じて学び続ける態度を身に付ける。② 教員として、授業を実施するために最低限必要な教科専門の知識と技能、そして教員の日常の職務を遂行できる最低限の知識と教養を獲得する。③ 自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探究できるようになる。具体的にこの「キャリアマネジメントⅢ」

<授業の方法>

本授業は、講義・演習形式を組み合わせで行う。演習では学習指導要領に記載される領域を実際に教えるための「コツ」を受講生自ら発見できるようにする。講義形式では教員に必要な知識を獲得し、それを教職に就いた際に役に立つかといった点を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業のまとめとしてリフレクション（省察）の時間を必ず設ける。リフレクションは各週担当教員を変え実施し、全教員が受講学生の現状を把握できるようにする。リフレクションはポートフォリオに記録をし、班担当教員がコメントを記入し毎回返却する。初回授業でオリエンテーションを実施し、授業計画の詳細を説明する。その際、具体的な予習の内容を指示するので、事前1時間程度の事前準備を行うこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業ポートフォリオ50%、期末レポート50%で評価する。ポートフォリオに担当教員が輪番でコメントを記入し、相互のやり取りの中で疑問、悩み等に応えることができるようにする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の流れや方法、到達目標を明示するためオリエンテーションを実施する。また、各自治体の実施する実技試験の内容を解説し、教員としてどの程度の実践的指導力が要請されているのか理解できるようにする。
2	教員採用試験「実技試験」の傾向と対策	小、中高保健体育それぞれの実技試験の傾向について理解し、具体的にどのような出題の仕方がされ、その問題を通して教員のどのような専門性を計ろうとしているのか理解できるようにする。
3	専門教養の領域別の傾向と対策①	専門教養の領域について小（国語）、中高（学習指導要領）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。
4	専門教養の領域別の傾向と対策②	専門教養の領域について小（社会）、中高（体づくり運動）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。
5	専門教養の領域別の傾向と対策③	専門教養の領域について小（算数）、中高（器械運動）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。
6	専門教養の領域別の傾向と対策④	専門教養の領域について小（理科）、中高（陸上）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。
7	専門教養の領域別の傾向と対策⑤	専門教養の領域について小（音楽）、中高（水泳）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。
8	専門教養の領域別の傾向と対策⑥	専門教養の領域について小（図画工作）、中高（球技）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとして

9	専門教養の領域別の傾向と対策⑦	<p>いるのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。</p> <p>専門教養の領域について小（家庭）、中高（武道）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。</p>
10	専門教養の領域別の傾向と対策⑧	<p>専門教養の領域について小（体育）、中高（ダンス）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。</p>
11	専門教養の領域別の傾向と対策⑨	<p>専門教養の領域について小（外国語・外国語活動）、中高（体育理論）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。</p>
12	専門教養の領域別の傾向と対策⑩	<p>専門教養の領域について小（生活）、中高（保健領域）の傾向と対策について理解するため、各自治体が出題する過去問等を分析し、どのような専門性を計ろうとしているのか整理する。具体的な作業として受講学生は上記領域の予想問題を作成し、また解答・解説を自ら作成する。</p>
13	各自治体の専門教養予想問題の作成①	<p>自分の受験する自治体の専門教養の過去問から出題傾向を分析し、どのような領域から出題されているのか理解する。</p>
14	各自治体の専門教養予想問題の作成②	<p>前回の傾向分析を踏まえ、専門教養の予想問題を作成する。</p>
15	キャリアマネジメントⅢの総括	<p>キャリアマネジメントⅢを振り返り、何を獲得できたか、何が足りないか等の自己評価を行う。</p>
16		

科目コード	65049				区分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる歴史的出来事の秘話などを交えながら就職してから周りとのコミュニケーションを取る中で必要な教養知識を身につけることを目的に開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストを実施し、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる（1時間程度）。復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別15%、授業に取り組む姿勢・提出物15%

<教科書>

<参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・倫理 七賢出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明とプレ講義
2	日本史（1）	古代史（1）（大和政権から律令時代）
3	日本史（2）	古代史（2）（律令制度崩壊から再建にかけての変遷）
4	日本史（3）	中世史（1）（摂関政治から院政・平氏政権への移行）
5	日本史（4）	中世史（2）（平氏滅亡から執権政治）
6	日本史（5）	中世史（3）（元の襲来から南北朝時代）
7	日本史（6）	中世史（4）（南北朝合一から戦国時代）
8	日本史（7）	近世史（1）（織豊政権から江戸幕府の基礎確立）
9	日本史（8）	近世史（2）（元禄時代から新井白石の政治と文化史）
10	日本史（9）	近世史（3）（三大改革から家斉の大御所政治と化政文化）
11	日本史（10）	近代史（1）（開国から明治新政府による近代国家建設）
12	日本史（11）	近代史（2）（明治時代中期から条約改正交渉と産業革命）
13	日本史（12）	近代史（3）（大正デモクラシーから金融恐慌）
14	日本史（13）	近代史（4）（世界恐慌から軍部の台頭）
15	日本史（14）	近代史（5）（日中戦争からポツダム宣言受諾まで）
16		

科目コード	36203			区分	カリキュラムにより異なります				
授業科目名	労働衛生学			担当者名	喜多村 真治				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

労働衛生学は働いている人々を対象に健康を保持・増進する学問です。我々の生活は労働によって支えられており、人生の大部分は労働に従事する期間でもあります。一方、この労働によって、多くの職業性疾病や健康に対する悪影響が発生しており、本講義では、労働者の健康に関わる因子とその予防対策について講義・考察します。

<授業の到達目標>

第一種衛生管理者に必要な「労働衛生」の知識を習得すること。具体的には、①労働衛生の三管理・五管理が説明できること。②有害物質の体内侵入経路を説明できること、③代表的な職業病を説明できること、④衛生管理者の労働安全衛生法上の位置づけ・役割が説明できること、⑤産業保健に関わる法令・制度を説明できること。

<授業の方法>

本授業では、働く人々を取り巻く環境諸要因とその健康影響、有害影響の理解と予防対策の基本的な考え方について学びます。労働衛生学の歴史と今後の展開、職業病、作業関連疾病、作業環境評価、健康影響評価の手法や、快適職場の形成を研究し、医学的観点から広い視野から労働衛生について考えます。講義をスマホなどICT機器を使用してSLIDOを使用し匿名で双方向性参加形式で行います。ディスカッション、ディベート、挙手、クリッカーを行います。適宜小テストを入れます。スマホなどネット接続できる機器をご用意ください。準備できない場

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

労働安全衛生に関する情報を教科書、新聞やインターネットなどで予習・復習すること（1時間30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期小テスト10%、定期テスト90%

<教科書>

中央労働災害防止協会 労働衛生のしおり

<参考書>

医療情報科学研究所編 「職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営 第1版」 メディックメディア

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	労働衛生総論	労働衛生の現状などを踏まえ労働衛生の目標を学ぶ
2	産業保健に関わる法令・制度	産業保健に関わる法令・制度を学ぶ
3	健康経営	健康経営について学ぶ
4	安全衛生管理体制	安全衛生管理体制について学ぶ
5	職業性疾病	職業性疾病について学ぶ
6	作業環境管理	作業環境管理について学ぶ
7	作業環境管理に基づく就業上の措置	作業環境管理に基づく就業上の措置についてディスカッションを行う
8	小括・定期小テスト	1～7の講義内容の確認・テストを行う
9	作業管理	作業管理について学ぶ
10	作業管理に基づく就業上の措置	作業管理に基づく就業上の措置についてディスカッションを行う
11	健康管理	健康管理について学ぶ
12	健康管理に基づく就業上の措置	健康管理に基づく就業上の措置についてディスカッションを行う
13	過重労働・労働災害	過重労働・労働災害について学ぶ
14	メンタルヘルスケア	メンタルヘルスケアについて学ぶ
15	配慮が必要な労働者に対する職場支援	配慮が必要な労働者に対する職場支援について学ぶ
16	定期テスト	

科目コード	65049				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる歴史的出来事の秘話などを交えながら就職してから周りとのコミュニケーションを取る中で必要な教養知識を身につけることを目的に開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストを実施し、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる（1時間程度）。復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別15%、授業に取り組む姿勢・提出物15%

<教科書>

<参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・倫理 七賢出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明とプレ講義
2	日本史(1)	古代史(1) (大和政権から律令時代)
3	日本史(2)	古代史(2) (律令制度崩壊から再建にかけての変遷)
4	日本史(3)	中世史(1) (摂関政治から院政・平氏政権への移行)
5	日本史(4)	中世史(2) (平氏滅亡から執権政治)
6	日本史(5)	中世史(3) (元の襲来から南北朝時代)
7	日本史(6)	中世史(4) (南北朝合一から戦国時代)
8	日本史(7)	近世史(1) (織豊政権から江戸幕府の基礎確立)
9	日本史(8)	近世史(2) (元禄時代から新井白石の政治と文化史)
10	日本史(9)	近世史(3) (三大改革から家斉の大御所政治と化政文化)
11	日本史(10)	近代史(1) (開国から明治新政府による近代国家建設)
12	日本史(11)	近代史(2) (明治時代中期から条約改正交渉と産業革命)
13	日本史(12)	近代史(3) (大正デモクラシーから金融恐慌)
14	日本史(13)	近代史(4) (世界恐慌から軍部の台頭)
15	日本史(14)	近代史(5) (日中戦争からポツダム宣言受諾まで)
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	日本語教授法 I				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

本授業では日本語を教える上で必要な基礎知識（主に外国語教授法の歴史、コースデザイン、教材分析、授業の流れ）について学び、学習者に合ったコースデザインや教材とは何かを考える。

<授業の到達目標>

到達目標は以下の4点である。1. 様々な外国語教授法とその背後の言語学習観に触れ、その長短を知ること 2. 学習者に合ったコースデザインが考えられるようになること 3. 教材分析の視点を身につけ、教材分析ができるようになること 4. 日本語の授業の流れについて知ること

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜個人作業やグループ討議、学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度30%、中間試験30%、課題40%

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・日本語教員の役割	授業の概要と評価方法。日本語教師の資質と能力を知る。
2	学習観の変遷と学習理論・言語観	行動主義、認知主義、社会的構成主義の学習観と学習理論を学ぶ。
3	外国語教授法 (1)	文法訳読法／ナチュラルメソッド／直接法
4	外国語教授法 (2)	ヒューマニスティックな教授法
5	外国語教授法 (3)	コミュニケーションにつながる教授法
6	外国語教授法 (4)	外国語教授法とその理論的背景のまとめ
7	中間試験	学習観、外国語教授法と理論的背景
8	コースデザイン (1)	ニーズ分析とレディネス調査
9	コースデザイン (2)	シラバスデザインとカリキュラムデザイン
10	教材分析 (1)	教材・教具、教材分析の観点
11	教材分析 (2)	教材分析の実践
12	教材分析 (3)	教材分析の発表と意見交換
13	授業実施のサイクル (1)	授業の計画、教案モデルと組み立て
14	授業実施のサイクル (2)	教案の導入部分作成の実践
15	授業実施のサイクル (3)	実践及び振り返り、教師の成長とまとめ
16		

科目コード	38300			区分	コア				
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展) [他学科]			担当者名	柴山 慧/片桐 夏海				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

保健体育科指導法Ⅲでは、3年次4年次で行われる教育現場での教育実習に対する具体的準備を行っていく。学習指導要領に記載されている各領域の学習内容について確認するとともに、具体的な授業イメージをつかむために授業VTRを視聴する。また後半では、体育授業の構造および授業つくりの方法を理解し、模擬授業の立案・実施・反省の活動を行う。また、受講にあたっては保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが前提条件である。

<授業の到達目標>

(1) 教師として高い使命を持って授業に取り組む姿勢を理解する。(2) 各領域における授業づくり・教材づくりの基本的な考え方を理解する。(3) 教師のよりよい指導法や子どもとの関わり方について理解する。(4) 授業評価の基本的な理解にたつて、教師としての力量形成のあり方について理解を深める。

<授業の方法>

教科書を基にしたパワーポイント資料に沿って講義するが、必要に応じてDVD等の授業映像を活用し、それに基づいて解説する。また、授業の後半では、グループワークによる模擬授業の立案・実施・反省の活動を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業時間前までに、教科書の担当箇所を読み疑問点などをノートにまとめる(1時間程度)。復習：授業後、授業時間に配布された資料およびノートに目を通して授業の理解を深める(1時間程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート 20%, 指導案20%, 模擬授業30%, 教師として授業に臨む態度30%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省(平成29年7月) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房

文部科学省(平成30年7月) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

<参考書>

岡出美則他(2021) 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明・導入	保健体育科指導法を学ぶ意義、体育科の目標構造
2	よい体育授業とは	よい体育授業の構造と教材つくりの考え方、体育の授業づくりの構造、指導計画の作成と手順、
3	球技(ゴール型)・球技(ネット型)① ※ここからクラス全体を2グループに分けて、球技(ゴール型)・球技(ネット型)と球技(ベースボール型)・ダンス①をそれぞれのグループで展開	体育授業のつくり方と指導計画の立て方、球技(ゴール型)・球技(ネット型)の構造的特性と授業方法
4	球技(ゴール型)・球技(ネット型)②	球技(ゴール型)・球技(ネット型)の模擬授業
5	球技(ベースボール型)・ダンス①	球技(ベースボール型)・ダンスの構造的特性と授業方法
6	球技(ベースボール型)・ダンス②	球技(ベースボール型)・ダンスの模擬授業
7	球技(ゴール型)・球技(ネット型)① 2つに分けたグループを交代して、球技(ゴール型)・球技(ネット型)と球技(ベースボール型)・ダンスをそれぞれのグループで展開	球技(ゴール型)・球技(ネット型)の構造的特性と授業方法
8	球技(ゴール型)・球技(ネット型)②	球技(ゴール型)・球技(ネット型)の模擬授業
9	球技(ベースボール型)・ダンス①	球技(ベースボール型)・ダンスの構造的特性と授業方法
10	球技(ベースボール型)・ダンス②	球技(ベースボール型)・ダンスの模擬授業
11	保健①	保健の概要や意義、その授業方法について
12	保健②	保健の模擬授業
13	保健③	保健の模擬授業
14	保健④	保健の模擬授業

15	授業全体のふりかえり	リフレクションの理解、授業全体のリフレクション
16		

科目コード	34105				区分	コア科目			
授業科目名	子どもとマルチメディア [A]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

情報通信。情報機器を利活用して、子どもの発育、教育教材を制作する。乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの発達の観点、教育的観点等を多面的に理解した上で、情報リテラシー・情報機器操作スキルを利活用した、子どもの教育を工夫する。ICT環境の変化、法令等を学ぶ。

<授業の到達目標>

実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、課題の創作活動を通して、情報機器を活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。時代の変化を体感しそれに対応できるICTの利活用能力を身につけることを目指す。

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた演習形式で行うため、PCは必携である。教育現場で即戦力となるコンテンツ、文書や資料の作成、発表を授業内課題とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。与えられた課題に対する評価はもとより自他の作品について考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で必要となるコンピューターとソフトウェアの操作を予習しておくことは必須である。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分から120分程度必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ベクター画像練習	ポスター制作を通してコンピュータグラフィックの優位性、特色を考える。
2	ベクター画像・ビデオ制作（喜怒哀楽）	ベクター画像の可能性、画像での表現を考える。
3	動くガジェット制作（いないいないばあ）	子ども動きの楽しさの伝え方を考える。
4	動く絵本作成	パワーポイントでの動画作成の基本操作を学びアニメーション作成する。
5	読み聞かせツール制作	既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。
6	制作発表	発表、演じることを考える。電子絵本を読み聞かせして試作することで、可能性と課題を探る。
7	子どもとプログラミング教育	プログラミング言語Scratchを学ぶことで、子どもへのプログラミング学習の必要性、効果を考える。
8	Scratchでのお話作成（RPG）	ロールプレイングを考え、プログラミング的思考を学び、子どもへの教育への応用を考える。
9	ゲーム制作	ゲームの面白さ、楽しさは何かを考える。
10	電子人形劇制作（キャラクター準備）	作品を造るのに必要な構成を企画する。
11	電子人形劇制作（場面・音楽）	ビデオ作成まで作品を仕上げる。
12	ドキュメンテーション・記録	様々のコンピュータスキルを駆使し、記録できることを考える。
13	Google Site	情報発信を考える。
14	Webサイト	HTML、CSSを用いた、制作技術を学ぶ。
15	Webサイト作成	園、学校等のWebサイトの現状について考える。
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学VI(軟部組織II)				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年益々高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本講義では下肢の軟部組織損傷を大きく股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足関節部、足部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学習する。

<授業の到達目標>

各損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について説明ができる。

<授業の方法>

1. 教科書を中心とした講義

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：受講する講義に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、1時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90%，学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	股関節の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
2	股関節の軟部組織損傷	成長期の障害及び加齢による障害
3	股関節の軟部組織損傷	その他の障害
4	大腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
5	膝関節部の軟部組織障害	発育期の障害
6	膝関節部の軟部組織障害	靭帯損傷
7	膝関節部の軟部組織障害	半月板損傷
8	膝関節部の軟部組織障害	関節周囲の損傷
9	膝関節部の軟部組織障害	変形性膝関節症
10	膝関節部の軟部組織障害	その他の膝の損傷及び障害
11	下腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及び障害
12	足部の軟部組織損傷	靭帯損傷
13	足部の軟部組織損傷	足部の有痛性疾患
14	足部の軟部組織損傷	変形及び末梢神経障害
15	まとめ	総復習
16		

科目コード	0			区分	コア科目				
授業科目名	地方自治論			担当者名	山本 満理子				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、地方自治や地方行政に関心のある学生を想定し、地方自治の基本的な論点を理解できるようになるとともに、それらについて他者と意見交換できるようになることを目的とする。情報をインプットした後、授業終盤ではワークショップを行い、ある自治体（都道府県・市区町村）が他の自治体と比較してどのような特徴を持っているのかをグループでプレゼンテーションできるようになることを目指す。

<授業の到達目標>

1. 地方自治論の基礎的な論点を理解する 2. 地方自治論の基礎知識を記憶に定着させる 3. 地方自治論の基礎的な論点について他者と意見交換ができる

<授業の方法>

教科書を題材として、記述してあることの背景やつながりを補完しながら説明する。教科書の内容のうち、基礎的な部分を覚えられているかどうかを確認する。学生は、関連するインターネット上の情報をクラスに共有する課題などを通じて、主体的に学ぶ。基礎的な論点などについて、ペアワークやグループワークで理解を深める。予習や授業で学んだことを学生同士のワークを通じて理解を深める。具体的には、Think-Pair-Share（ペアワーク）やグループディスカッションの手法で地方自治に関する論点を議論する。配付資料のダウンロード、

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当部分に目を通しておく（約1時間）復習：授業で解説されたポイントについて復習する（約1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

<教科書>

北村亘、青木栄一、平野淳一（2017.12.20） 地方自治論—2つの自立性のはざままで 有斐閣

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、首長	授業全体の説明、首長とは
2	議会	議会、二元代表制
3	地方公務員	多様な地方公務員、採用と昇進
4	住民による統制	首長選挙、地方議会選挙、直接請求と住民投票
5	条例制定	条例とは、条例制定
6	地方自治体の組織編制	組織編制の原理、新たな地方自治体組織
7	地方自治体の権能と大都市制度	地方自治体の種類・権能、大都市制度
8	地方税財政と予算	国際比較、歳出・歳入
9	中央政府と地方政府	国際比較、中央地方関係
10	学校教育	学校教育の担い手、学校教育を取り巻く環境
11	子育て行政	子育て行政、待機児童問題、少子化
12	高齢者福祉	高齢化、介護サービス
13	ワークショップ①	プレゼンテーションの準備、グループワーク
14	ワークショップ②	プレゼンテーションの準備、グループワーク
15	ワークショップ③、まとめ	プレゼンテーション、授業全体のまとめ
16		

科目コード	21329			区分	専門基礎科目				
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [FE2231組用]			担当者名	木野 正一郎				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（実践力）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく（1時間程度）。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく（1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり）。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する（1～2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%，指導案・模擬授業等 30%，試験 30%（※評価の観点：高（優レベル）…資料や情報が盛りだくさんで、その根拠（エビデンス）に基づき自分の意見も十分に主張できている場合／中（良レベル）…資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合／要努力（可レベル）…資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合／補講（不可予備軍レベル）…提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合）

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日） 新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日） 道徳の時代をつくる！一 道徳教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会（2021年6月30日） [初頭向け] 幼稚園、小学校における新しい道徳教育 [中等向け] 中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省（2018年3月30日） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省（2018年3月1日） 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（平成29年7月） 教育出版株式会社
 田沼茂紀（2022年4月10日） 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。（重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論）
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。（重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観）
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。（重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面）
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。（重要事項：道徳的価値の内容項目（低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。（重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科）

6	<p>道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－</p>	<p>発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケム)</p>
7	<p>道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－</p>	<p>社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)</p>
8	<p>道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－</p>	<p>SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)</p>
9	<p>道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)</p>	<p>自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))</p>
10	<p>家族生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－</p>	<p>家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)</p>
11	<p>道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
12	<p>授業案の作成</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。</p>
13	<p>授業案の作成、相互評価軸の策定</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
14	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
15	<p>模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
16		

科目コード	34310				区分	コア科目			
授業科目名	子どもの食と栄養 [FC2221組用]				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／保育士国家資格取得のための必修

<授業の概要>

幼少期からの食生活習慣の形成は、その後続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、食は心身の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。幼児教育施設での食は、保育士だけで行わず、専門職と連携した関わりが重要である。本授業では、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、望ましい食生活、食の支援のあり方や食育の重要性を考え、子どもの成長段階に対応した食生活の支援について学ぶ。

<授業の到達目標>

保育士にとって子どもの健康の保持・増進は重要な栄養に関する基礎知識を学ぶとともに、幼児期の発達段階を理解し、各段階における栄養・食生活の役割を保育の立場からの関わり合い方を身に付ける。また、生活習慣病や食物アレルギーなど食に関する問題への対応を習得し、個々の発達段階にあった食品の選択や調理法、食事の与え方など判断できる能力を養う。

<授業の方法>

パワーポイントを使用した講義形式とし、口頭で詳細を説明する。授業内容に関するテーマでグループワークを行い自身の考えを深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書は必ず目を通し、理解を深めるようにする。不明な点については、参考書やインターネットを利用して調べるようにする。授業時間外での質問を受け付ける。（2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価（課題・小テスト）60%、最終レポート40%

<教科書>

児玉浩子（編著）太田百合子・風見公子・小林陽子・藤澤由美子（執筆）（2022）子どもの食と栄養 改訂第3版 中山書店

<参考書>

水野清子・南里清一郎・長谷川智子・當仲香・藤澤良知・上石晶子（編者）（2021）子どもの食と栄養健康なからだところを育む小児栄養学 診断と治療社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	子どもの健康と食生活①	子どもの心身の健康と食生活
2	子どもの健康と食生活②	子どもの食生活の現状と課題
3	栄養に関する基本的知識①	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4	栄養に関する基本的知識②	食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5	乳児期の食生活	乳児期の栄養・食生活の特徴離乳食の進め方
6	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の食の問題と気になる食行動
7	学童期以降の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活	学校給食の特徴と食を選択する力
8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方	子どもの食生活と問題点、食育基本法
9	保育環境と食事	保育施設ごとの食事の提供や形態
10	家庭・地域・福祉施設における食育①	家庭・地域・福祉施設における食育
11	家庭・地域・福祉施設における食育②	食事マナー
12	食の安全	食中毒の予防策
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	食物アレルギー・障がいのある子どもへの対応
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	疾病・体調不良の対応
15	食文化	世界や日本、地域の食事、全般の振り返り
16		

科目コード	34105				区 分	コア科目			
授業科目名	子どもとマルチメディア [B]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

情報通信。情報機器を利活用して、子どもの発育、教育教材を制作する。乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの発達の観点、教育的観点等を多面的に理解した上で、情報リテラシー・情報機器操作スキルを利活用した、子どもの教育を工夫する。ICT環境の変化、法令等を学ぶ。

<授業の到達目標>

実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、課題の創作活動を通して、情報機器を活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。時代の変化を体感しそれに対応できるICTの利活用能力を身につけることを目指す。

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた演習形式で行うため、PCは必携である。教育現場で即戦力となるコンテンツ、文書や資料の作成、発表を授業内課題とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。与えられた課題に対する評価はもとより自他の作品について考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で必要となるコンピューターとソフトウェアの操作を予習しておくことは必須である。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分から120分程度必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ベクター画像練習	ポスター制作を通してコンピュータグラフィックの優位性、特色を考える。
2	ベクター画像・ビデオ制作（喜怒哀楽）	ベクター画像の可能性、画像での表現を考える。
3	動くガジェット制作（いないいないばあ）	子ども動きの楽しさの伝え方を考える。
4	動く絵本作成	パワーポイントでの動画作成の基本操作を学びアニメーション作成する。
5	読み聞かせツール制作	既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。
6	制作発表	発表、演じることを考える。電子絵本を読み聞かせして試作することで、可能性と課題を探る。
7	子どもとプログラミング教育	プログラミング言語Scratchを学ぶことで、子どもへのプログラミング学習の必要性、効果を考える。
8	Scratchでのお話作成（RPG）	ロールプレイングを考え、プログラミング的思考を学び、子どもへの教育への応用を考える。
9	ゲーム制作	ゲームの面白さ、楽しさは何かを考える。
10	電子人形劇制作（キャラクター準備）	作品を造るのに必要な構成を企画する。
11	電子人形劇制作（場面・音楽）	ビデオ作成まで作品を仕上げる。
12	ドキュメンテーション・記録	様々のコンピュータスキルを駆使し、記録できることを考える。
13	Google Site	情報発信を考える。
14	Webサイト	HTML、CSSを用いた、制作技術を学ぶ。
15	Webサイト作成	園、学校等のWebサイトの現状について考える。
16		

科目コード	13207				区 分	コア科目			
授業科目名	労働安全衛生法				担当者名	栗坂 節子			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

労働衛生関係の中心法令である安衛法では、労働災害防止計画の策定、労働衛生管理を組織的に行う安全衛生管理体制のマンパワー（衛生管理者や産業医等）の選任、衛生委員会の設置を定めている。労働者の危険又は健康障害を防止するための措置や、機械及び有害物に関する規制もある。健康の保持増進関係では作業環境測定の実施、作業管理、健康診断、健康の保持増進指針の公表、快適な職場環境の形成の措置がある。また労働災害の防止や安全活動、実際の労働衛生管理については企業等の事例から学ぶ。

<授業の到達目標>

労働安全衛生法（安衛法）は労働基準法と相まって、働く人々の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的としている。

<授業の方法>

本授業では、労働災害の防止基準の確立、責任体制の明確化及び自主的活動の促進等の総合的計画的な対策を推進するための方策について安衛法を中心に、具体的内容を定めている施行令、規則、省令さらに密接な関係がある作業環境測定法、じん肺法などについて学ぶ。また実際の労働現場での労働衛生管理体制、作業環境管理、作業管理、健康管理、健康保持増進活動について認識を深める。更に安全衛生に関する世界各国の動きにも眼を向け広い視野を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

労働法規に関する情報を新聞やインターネットなどで予習・復習すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、定期試験 70%

<教科書>

小島彰（監修） 「改訂新版 労働安全衛生法のしくみ」（図解で早わかり） 三修社
中央労働災害防止協会 衛生管理（下）《第一種用》 中央労働災害防止協会

<参考書>

加藤雅章 いちばんやさしい労働安全衛生法 中央労働災害防止協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	労働安全衛生法制定の背景および意義	労働災害の定義および最近の動向、労働災害防止計画の策定 総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者、産業医、安全衛生委員会 機械・有害物に関する規制、製造等の禁止・許可、表示等 安全衛生教育、就業制限 作業環境測定、結果の評価、健康診断、健康の保持増進のための指針の公表 総則、作業環境測定士、作業環境測定機関等 労働災害防止活動、および健康増進活動等の実際
2	労働基準法との関係、適用、法的性質等	
3	総則：目的、定義、事業者等の責務等	
4	労働災害防止計画：	
5	安全衛生管理体制： 労働者の危険または健康障害を防止するための措置：事業者・特定元方事業者の講ずべき措置	
6	機械・有害物に関する規則：	
7	労働者の就業にあたっての措置：	
8	健康の保持増進：	
9	快適な職場環境の形成のための措置	
10	じん肺法：健康管理、政府の援助等	
11	作業環境測定法：	
12	労働安全衛生関連法令1	
13	労働安全衛生関連法令2	
14	企業における労働安全衛生管理	
15		
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	交通経済論				担当者名	阿部 宏史			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

我が国の都市や地域では、人口の少子化・高齢化、経済社会機能の東京一極集中、地域間格差拡大、グローバル化進展などの様々な政策課題が発生している。最近では、これらに加えて能登半島地震、新型コロナウイルス感染症、ロシア・ウクライナ情勢の緊迫化などの様々な問題が顕在化し、政策対応を一層困難にしている。このような情勢の下で、国や自治体による公共経営では、地域の持続可能な発展を維持していくために戦略的・計画的な対応が重要となっている。本講義では、都市や地域における消費・生産活動において、衣食住に並ぶ重要な役割を担う交

<授業の到達目標>

以下の内容について対応できることを目標とする。1. わが国の交通サービスを取り巻く社会・経済の動向について概要を述べる。2. 交通サービスの経済特性をふまえた政策的対応について意見を述べる。3. 都市や地域を対象として、最近の交通政策について概要と具体事例を述べる。

<授業の方法>

第1～7回の授業では、交通サービスを取り巻く最近の社会・経済動向と政策課題の概要について、講義や演習による理解を深める。第8回の授業では、交通政策に関する理解と考察に基づいて、グループ単位での意見交換を行う。第9～13回の授業では、最近の交通政策について概要と事例を解説する。第14～15回の授業では、今後の交通政策に関する各自の提言を取りまとめ、グループ単位での意見交換会を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

2013年度に交通政策基本法が公布・施行され、その後は毎年の交通サービスの状況と講じられた施策の内容が「交通政策白書」として国会報告されている。白書のデータは国土交通省のウェブサイトで公開されており、本講義でも基本的なテキストとして使用する。また、授業テーマに沿って、国や自治体のウェブサイトに発表されている政策や計画などを参考資料として紹介する。講義を通じて各自で調査・報告書作成などを行うが、予習・復習を合わせて週4時間程度を予定している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加態度50%、授業成果レポート30%、最終プレゼンテーション評価20%とする。授業参加態度は、毎回の授業で課する報告書で評価する予定である。レポート課題は、Classroomで通知する。

<教科書>

国土交通省(毎年度国会に提出) 国土交通白書(毎年度発行) 国土交通省ウェブサイトにて公表されている。

<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>

国や自治体による交通政策や計画のウェブサイトをClassroomで紹介する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを解説する。
2	我が国における交通の動向：①経済社会の動向と交通サービス	我が国の経済社会の動向と交通サービスの状況について概要を述べる。
3	我が国における交通の動向：②手段別の動向	我が国の交通サービスの状況について、鉄道、道路などの手段別に概要を述べる。
4	交通サービスの評価方法：①経済学的アプローチ	交通サービスの評価について、経済学的アプローチを解説する。
5	交通サービスの評価方法：②都市工学的アプローチ	交通サービスの評価について、都市工学的アプローチを解説する。
6	交通サービスの評価方法：③具体的事例	交通サービスの評価について、具体的事例を紹介する。
7	授業成果の中間報告①	これまでの授業内容について、各自で成果報告の取りまとめと報告を行う。
8	授業成果の中間報告②	成果報告の取りまとめに基づいて、グループ単位で意見交換会を行う。
9	交通政策白書に見る政策課題と対応状況①	交通政策白書のテーマ章に基づいて、我が国の交通サービスにおける主要課題と政策を紹介する。各回のテーマはClassroomで通知する。
10	交通政策白書に見る政策課題と対応状況②	交通政策白書のテーマ章に基づいて、我が国の交通サービスにおける主要課題と政策を紹介する。各回のテーマはClassroomで通知する。
11	交通政策白書に見る政策課題と対応状況③	交通政策白書のテーマ章に基づいて、我が国の交通サービスにおける主要課題と政策を紹介する。各回のテーマはClassroomで通知する。
12	交通政策白書に見る政策課題と対応状況④	交通政策白書のテーマ章に基づいて、我が国の交通サービスにおける主要課題と政策を紹介する。各回のテーマはClassroomで通知する。
13	交通政策白書に見る政策課題と対応状況⑤	交通政策白書のテーマ章に基づいて、我が国の交通サービスにおける主要課題と政策を紹介する。各回のテーマはClassroomで通知する。

14	交通政策に関するグループワーク	今後の交通政策について、グループ単位でテーマを決めた意見交換会を行う。 講義を通じて得られた成果に基づいて、各自の最終レポート作成を行う。
15	最終成果の取りまとめ	
16		

科目コード	21329				区分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [FE2232組用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（実践力）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく（1時間程度）。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく（1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり）。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する（1～2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%，指導案・模擬授業等 30%，試験 30%（※評価の観点：高（優レベル）…資料や情報が盛りだくさんで、その根拠（エビデンス）に基づき自分の意見も十分に主張できている場合／中（良レベル）…資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合／要努力（可レベル）…資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合／補講（不可予備軍レベル）…提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合）

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日） 新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日） 道徳の時代をつくる！一 道徳教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会（2021年6月30日） [初頭向け] 幼稚園、小学校における新しい道徳教育 [中等向け] 中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省（2018年3月30日） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省（2018年3月1日） 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（平成29年7月） 教育出版株式会社
 田沼茂紀（2022年4月10日） 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。（重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論）
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。（重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観）
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。（重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面）
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。（重要事項：道徳的価値の内容項目（低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。（重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科）

6	<p>道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－</p>	<p>発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケム)</p>
7	<p>道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－</p>	<p>社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)</p>
8	<p>道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－</p>	<p>SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)</p>
9	<p>道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)</p>	<p>自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))</p>
10	<p>家族生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－</p>	<p>家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)</p>
11	<p>道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
12	<p>授業案の作成</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。</p>
13	<p>授業案の作成、相互評価軸の策定</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
14	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
15	<p>模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
16		

科目コード	37402				区 分	コア科目			
授業科目名	生涯体育教育総論				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

平成23年に公布された「スポーツ基本法」では、「生涯体育」（生涯スポーツ）が重要な施策の一つとなっている。本授業は、ジュニア期（5～8歳）や高齢期の体育を念頭におきながら、生涯体育の在り方に関する理論と実践に関する知識と技能を修得する。

<授業の到達目標>

1. ジュニア期（5～8歳）や高齢期の運動プログラムを立案するとともに、それを実践・指導することができる。2. 共同学習に主体的に参加し、グループの効果を最大化できるよう貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義（発育発達、老化、4つの基本運動系についてのパワーポイントや動画を用いた講義）2. 実習（4つの運動系の運動スキルを修得する実習）3. グループワーク（実習に基づく運動プログラムの立案）4. 討議（立案した運動プログラムの実践に基づく討議）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の運動プログラムの下調べ（プリント）（1時間程度）。復習：討議した内容をレポートとしてまとめる（2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、グループワーク 30%、レポート 40%

<教科書>

<参考書>

黒川隆志、山崎昌廣他(2000) 「健康スポーツ科学」 技報堂出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業内容に関する講義
2	児童前期：i移動系の運動スキル (1)	移動系の運動の講義と実習、及びそのスキルを獲得する運動プログラムの立案
3	児童前期：移動系の運動スキル (2)	移動系の運動スキルを獲得する運動プログラムの実践・討議
4	児童前期：平衡系の運動スキル (1)	平衡系の運動の講義と実習、及びそのスキルを獲得する運動プログラムの立案
5	児童前期：平衡系の運動スキル (2)	平衡系の運動スキルを獲得する運動プログラムの実践・討議
6	児童前期：操作系の運動スキル (1)	操作系の運動の講義と実習、及びそのスキルを獲得する運動プログラムの立案
7	児童前期：操作系の運動スキル (2)	操作系の運動スキルを獲得する運動プログラムの実践・討議
8	児童前期：力試し系の運動スキル (1)	力試し系の運動の講義と実習、及びそのスキルを獲得する運動プログラムの立案
9	児童前期：力試し系の運動スキル (2)	力試し系の運動スキルを獲得する運動プログラムの実践・討議
10	新聞紙を用いた運動用具の制作	コロナの時代に対応するために、室内での運動遊び用の①ボール大小2個、②棒1本、③輪1個を新聞紙で作る。
11	新聞紙で作った運動用具を使う一人遊び、二人遊び、複数人遊び	上記の用具を使う一人遊び、二人遊び、複数人遊びを考案し、それらの遊びを実践する。
12	高齢者の運動処方 (1)	持久性運動を対象とした運動プログラムの立案
13	高齢者の運動処方 (2)	インターバル運動を対象とした運動プログラムの立案
14	高齢者の運動処方 (3)	上記2つの運動中の心拍数に基づくレポート
15	アメリカにおける高齢者の運動処方	アメリカにおける高齢者の運動処方
16		

科目コード	34310				区分	コア科目			
授業科目名	子どもの食と栄養 [FC2222組用]				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／保育士国家資格取得のための必修

<授業の概要>

幼少期からの食生活習慣の形成は、その後に続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、食は心身の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。幼児教育施設での食は、保育士だけで行わず、専門職と連携した関わりが重要である。本授業では、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、望ましい食生活、食の支援のあり方や食育の重要性を考え、子どもの成長段階に対応した食生活の支援について学ぶ。

<授業の到達目標>

保育士にとって子どもの健康の保持・増進は重要な栄養に関する基礎知識を学ぶとともに、幼児期の発達段階を理解し、各段階における栄養・食生活の役割を保育の立場からの関わり合い方を身に付ける。また、生活習慣病や食物アレルギーなど食に関する問題への対応を習得し、個々の発達段階にあった食品の選択や調理法、食事の与え方など判断できる能力を養う。

<授業の方法>

パワーポイントを使用した講義形式とし、口頭で詳細を説明する。授業内容に関するテーマでグループワークを行い自身の考えを深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書は必ず目を通し、理解を深めるようにする。不明な点については、参考書やインターネットを利用して調べるようにする。授業時間外での質問を受け付ける。（2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価（課題・小テスト）60%、最終レポート40%

<教科書>

児玉浩子（編著）太田百合子・風見公子・小林陽子・藤澤由美子（執筆）（2022）子どもの食と栄養 改訂第3版 中山書店

<参考書>

水野清子・南里清一郎・長谷川智子・當仲香・藤澤良知・上石晶子（編者）（2021）子どもの食と栄養健康なからだところを育む小児栄養学 診断と治療社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	子どもの健康と食生活①	子どもの心身の健康と食生活
2	子どもの健康と食生活②	子どもの食生活の現状と課題
3	栄養に関する基本的知識①	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4	栄養に関する基本的知識②	食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5	乳児期の食生活	乳児期の栄養・食生活の特徴離乳食の進め方
6	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の食の問題と気になる食行動
7	学童期以降の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活	学校給食の特徴と食を選択する力
8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方	子どもの食生活と問題点、食育基本法
9	保育環境と食事	保育施設ごとの食事の提供や形態
10	家庭・地域・福祉施設における食育①	家庭・地域・福祉施設における食育
11	家庭・地域・福祉施設における食育②	食事マナー
12	食の安全	食中毒の予防策
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	食物アレルギー・障がいのある子どもへの対応
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	疾病・体調不良の対応
15	食文化	世界や日本、地域の食事、全般の振り返り
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅱ				担当者名	片岡 昌樹／大塚 愛二／小玉 京士朗			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、リハビリテーション医学分野で頻りに遭遇する疾患に対する運動器および高齢化のリハビリテーションについて、病態・評価・リハビリテーションなどを学習する。加えて、リハビリテーションの治療技術やリハビリテーション医学に関係した社会福祉、障害者スポーツについて学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割について概説する。

<授業の到達目標>

リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に、1) 高齢者や運動器を中心とした疾患別リハビリテーションの流れの概説、2) リハビリテーション医学に関連した社会福祉、障害者スポーツについての理解ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

視聴覚教材、配布資料等を適宜用い、教科書に沿って授業を進行する。課題の提示、提出等はGoogle Classroom等で行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（監修），栢森良二（編）（2019年4月10日） リハビリテーション医学 改定第4版 南江堂

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	高齢者のリハビリテーション (1) (教科書第8章)	ガイダンス、A)平均寿命と健康寿命 B)フレイル C)要介護状態の予防 (小玉京士朗)
2	高齢者のリハビリテーション (2) (教科書第8章)	D)地域リハビリテーション E)高齢者の自立支援 F)機能訓練指導員 G)機能訓練指導員の知識 (小玉京士朗)
3	脳疾患のリハビリテーション (1) (教科書第8章)	脳の構造・機能とその障害 (大塚愛二)
4	運動器のリハビリテーション (1) (教科書第9章)	頸腕腕症候群の成り立ち (1) 腕神経叢の構造 (片岡昌樹)
5	脳疾患のリハビリテーション (2) (教科書第8章)	脳の構造・機能とその障害 (大塚愛二)
6	脳疾患のリハビリテーション (3) (教科書第8章)	脳卒中急性期のリハビリテーション、摂食と栄養の管理 (大塚愛二)
7	脳疾患のリハビリテーション (4) (教科書第8章)	脳卒中回復期のリハビリテーション、パーキンソン病のリハビリテーション (大塚愛二)
8	運動器のリハビリテーション (2) (教科書第9章)	頸腕腕症候群の成り立ち (2) a. 胸郭出口症候群 b. Barre-Lieou症候群 C. 慢性疼痛 D. 痛みの評価診断 E. 治療アプローチ (片岡昌樹)
9	脳疾患のリハビリテーション (5) (教科書第8章)	循環器疾患と脳卒中 (大塚愛二)
10	脳疾患のリハビリテーション (6) (教科書第8章)	脳卒中の合併症予防と再発防止 (大塚愛二)
11	リハビリテーションと福祉 (教科書第10章)	A. 社会福祉 B. 介護保険 (小玉京士朗)
12	運動器のリハビリテーション (3) (教科書第9章)	A 骨折の治療と後療法 B 骨粗鬆症 C 捻挫へのアプローチ D 上肢損傷症候群 E 下肢損傷症候群 (片岡昌樹)
13	運動器のリハビリテーション (4) (教科書第9章)	D 上肢損傷症候群 E 下肢損傷症候群 (小玉京士朗)
14	障害者スポーツ (教科書第11章)	A. 障害者スポーツの概要 B. 障害者スポーツの歴史 C. 障害者スポーツの分類 D. 障害者スポーツの種目 E. 障害者スポーツにおける評価と効果 (小玉京士朗)
15	まとめ	総復習 (小玉京士朗)

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	アジア経済論				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本経済は高コスト化と人口減少(市場縮小)という2つの構造的な問題に直面している。こうした変化に対応すべく、生産拠点・販売拠点としてのアジアにビジネス上の活路を見出そうとする日本企業は後を絶たない。本科目では、いま最もダイナミックに変化を遂げているアジアという地域に焦点を当て、同地域と日本企業との間の経済的な関係性の現状を整理した上で、アジア主要各国の経済発展の経緯や特性について理解を深める。

<授業の到達目標>

本講義の到達目標は主として以下の2点である。①雁行形態型の発展パターンによる産業伝播がアジアの経済発展を刺激しつつも、産業構造はフルセット型からモジュラー型に移行していることを理解する。②アジア諸国の発展過程と相互補完的關係を理解し、日本企業が海外進出する際に生じる諸問題・ビジネス機会について説明することができる。

<授業の方法>

①配布資料・パワーポイントを用いた授業形式で講義を行うが、グループディスカッションを取り入れたい。日本とアジアの国際貿易・日本企業のアジア進出に関連する時事トピック等のテーマについて、教員を含め受講生相互のディスカッションにより理解を深める。②各回の授業は、教科書または配布プリントをもとに進める。※配布資料・参考文献等は、Google Classroomに掲載する予定。③日本とアジアの国際貿易・日本企業のアジア進出に関連する時事トピック等を題材として行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：講義時に指示したテキストの該当部分を読んでおくこと(毎回30分)②復習：配布プリントの重点箇所を中心として、理解を深めておくこと(毎回30分)③課題：参考書または講義時に指定した図書・文献等をもとにまとめること(毎回30分)④その他：日常的に世界経済の動向に関する報道をチェック、期末試験向けのノートの整理(毎回30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

定期試験50%、受講態度(講義ノートの提出)20%、学習意欲(課題・レポート等の提出物)30%

<教科書>

後藤健太(2019/12/25) アジア経済とは何か(中公新書2571) 中央公論社 ISBN: 978-4-12-102571-5

<参考書>

馬場敏幸(編)(2013/4/10) アジアの経済発展と産業技術—キャッチアップからイノベーションへ ナカニシヤ出版 ISBN: 978-4779507496

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 本科目の内容と評価方法	アジア経済を学ぶ意義
2	日本とアジアの国際的位置づけ ① 20世紀のアジア経済	アジア経済発展の背景と外部条件
3	日本とアジアの国際的位置づけ ② 輸出志向の経済発展モデル	アジア経済発展の内部条件と要因
4	経済発展の特徴 ① 雁行形態型発展モデル	日本の海外進出と、受け入れ国への影響
5	経済発展の特徴 ② なぜアジアは経済発展の軌道に乗ったか	政府主導型の発展モデル
6	経済発展の特徴 ③ 持続的な経済成長が可能な要因	経済発展の担い手
7	域内連関 アジア諸国間の経済的な結びつき	国際分業、アジア諸国間における協業・競合
8	変化した経済モデル① アジアの発展は何をもたらしたか	日本の停滞と、アジア諸国の躍進
9	変化した経済モデル② 産業構造の変化と発展	フルセット型とモジュラー型の違い
10	中国経済① 社会主義市場経済とはなにか	中国の経済発展の背景と経緯
11	中国経済② 巨大な人口・産業・市場にどう向き合うか	中国経済・企業のアジア進出とアジア諸国の対応と、その影響
12	多様性 社会・文化の相違による影響	異なる価値感、異なる文化
13	経済格差 格差問題と経済成長	国家間の格差と地域内格差、経済成長モデルとの関係
14	アジア市場に対する日本企業の戦略	地域内協業・分業のなかでの日本企業の立ち位置

15	日本企業の競争優位性 本科目のまとめ	経済発展モデル、協業と競争、多様性、諸問題、アジアのなかの日本
16	学習内容の復習	

科目コード	0				区 分	コア			
授業 科目名	ブランド戦略論				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ブランド戦略は今日のマーケティングにおける重要な研究分野として認知されるようになり、実務の上でもさらにその重要性は増大している。また、時代から選ばれるブランドになるために、SDGs（持続可能な開発目標）を取り入れたブランディングが求められている。この講義では、サステナビリティ時代にアップデートしたブランド戦略の基本を学ぶと同時に、ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れたアクティブ・ラーニングにより、実際に新規ブランドを立ち上げる実践的な学びを目指す。

<授業の到達目標>

目的：ブランド戦略の基本を習得し、ブランドをマネジメントできる人材を養成する。目標：ブランド担当者として、ブランドを管理できるための基礎力を養成する。

<授業の方法>

①授業は講義形式で行なうが、受講生同士でのグループワークも実施し、実際に企業に出向き、フィールドワークも実施する。②岡山・四国の企業経営者をゲストスピーカーとして招き、進行中のブランド戦略も学ぶ。③グループワークの成果をプレゼンテーションを発表し、互いにフィードバックを行いながら学びを深める。④受講生の数によってスケジュールが変更になる場合がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に教科書を読み、理解できない内容をメモをとる。週最低1時間の予習が必要となる。授業を受けても解消できないならば、授業後に必ず教員に質問する。復習：授業後、講義用資料や教科書を参考にして、授業で学んだ内容をまとめ、ブランドに関する理解を深める。週最低1時間の復習時間が必要となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期テストは無し。授業後のレポート（400文字程度／不定期）。授業への参加・受講態度・学習意欲・他者貢献（授業中の質疑応答・グループディスカッションへの参加度・他グループへの貢献） 50%、最終プレゼンテーションの成果 50%により、総合的に評価する

<教科書>

一般財団法人ブランド・マネージャー認定協会（2019年9月10日） ブランド・マネージャー資格試験公式テキスト 中央経済社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	本科目の目標・方法・評価と受講上の注意並びに、ブランドとは何かについて
2	ブランドの基礎知識	ブランドの種類やブランドの想起について
3	ブランドの重要性とSDGs	消費者・顧客・企業・社会からみたブランドの重要性について
4	ブランディングの基礎知識	インターナルブランディングと刺激の設計について
5	ブランド要素とブランド体験	世界観づくりについて
6	マーケティングの基礎知識	プロダクトアウト、マーケットイン、アウトサイドインについて
7	ブランディングの手法1	環境分析、STP、ペルソナについて
8	ブランディングの手法2	ブランド・アイデンティティ、具体化、ブランド体験シナリオについて
9	ブランディングの手法2	ブランド・アイデンティティ、具体化、ブランド体験シナリオについて
10	ケーススタディ・グループワーク	優良企業のブランディング事例を紹介
11	ケーススタディ・グループワーク	優良企業のブランディング事例を紹介
12	ケーススタディ・グループワーク	優良企業のブランディング事例を紹介
13	プレゼンテーション	成果発表とフィードバック
14	プレゼンテーション	成果発表とフィードバック
15	プレゼンテーション	成果発表とフィードバック、まとめ
16		

科目コード	21329			区分	専門基礎科目				
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [FE2233組用]			担当者名	木野 正一郎				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（実践力）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく（1時間程度）。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく（1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり）。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する（1～2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%，指導案・模擬授業等 30%，試験 30%（※評価の観点：高（優レベル）…資料や情報が盛りだくさんで、その根拠（エビデンス）に基づき自分の意見も十分に主張できている場合／中（良レベル）…資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合／要努力（可レベル）…資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合／補講（不可予備軍レベル）…提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合）

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日） 新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日） 道徳の時代をつくる！一 道徳教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会（2021年6月30日） [初頭向け] 幼稚園、小学校における新しい道徳教育 [中等向け] 中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省（2018年3月30日） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省（2018年3月1日） 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（平成29年7月） 教育出版株式会社
 田沼茂紀（2022年4月10日） 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。（重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論）
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。（重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観）
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。（重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面）
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。（重要事項：道徳的価値の内容項目（低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。（重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科）

6	<p>道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－</p>	<p>発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケム)</p>
7	<p>道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－</p>	<p>社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)</p>
8	<p>道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－</p>	<p>SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)</p>
9	<p>道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)</p>	<p>自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))</p>
10	<p>家族生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－</p>	<p>家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)</p>
11	<p>道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
12	<p>授業案の作成</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。</p>
13	<p>授業案の作成、相互評価軸の策定</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
14	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
15	<p>模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
16		

科目コード	52009			区 分	コア科目				
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)			担当者名	檜 日佳/小崎 遼介/宮原 舞/塚本 千晴				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習Ⅱの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、実習の総まとめをする。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと(60分) 復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、整理し、課題をすること(60分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、チーム貢献度10%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育実習委員会(2023) 保育実習の手引き

<参考書>

厚生労働省(2018) 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府(2018) 認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の基本と保育の目標保育所保育指針の確認
5	指導案の作成(1)	子どもの発達段階や興味関心を考慮したねらいと活動
6	指導案の作成(2)	ねらいを達成するための保育士の援助と配慮
7	保育教材の作成(1)	パネルシアターの作成と発表
8	保育教材の作成(2)	スカッチブックシアターの作成と発表
9	模擬保育(1)	模擬保育と振り返り(1)
10	模擬保育(2)	模擬保育と振り返り(2)
11	模擬保育(3)	模擬保育と振り返り(3)
12	実習書類の作成実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と依頼、訪問のマナー
13	実習記録の書き方	わかりやすいエピソード記録と考察の書き方
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成
16		

科目コード	32313				区分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [他学科A]				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、小学校外国語科の指導に関わる基礎的知識・技能を身につけ、模擬授業の計画・実施・観察・振り返りを通して、実践的指導力・英語運用能力・日々の授業改善や教師成長に必須の自己内省力の養成を主なねらいとします。ペアやグループでの話し合い活動では、積極的に自らの考えや経験を発信し、互いに学び合う姿勢が強く求められます。

<授業の到達目標>

①小学校教員に期待される知識・技術：英語運用力、コミュニケーション力、教材研究・開発力、授業運営、中学校への連携などを理論的背景に基づいて理解できる。 ②小学校教育現場で実践できる教授力を身につけている。

<授業の方法>

(0) 英語コミュニケーショントレーニング (1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) ペア・グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) 模擬授業および質疑 (4) まとめと発表

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習(1時間程度)、模擬授業の準備(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業への参加度 30%②課題(レポート) 20%③指導案および模擬授業 50%

<教科書>

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 5 東京書籍

アレン玉井光江 NEW HORIZON Elementary 6 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	小学校英語教育に必要な知識・技能および授業運用力
2	小学校英語教育で学習指導要領が求めるもの	学習指導要領解説、教師の英語力
3	英語クイズ	3ヒントクイズの作成
4	TPR	TPRを使った活動
5	自己紹介	イラストを使った自己紹介
6	他者紹介	イラストを使った他者紹介
7	教科書を使った導入1	言語材料の導入1
8	教科書を使った導入2	言語材料の導入2
9	授業の流れ	授業構成
10	指導案作成①	ねらいとタスクの順序①
11	指導案作成②	ねらいとタスクの順序②
12	模擬授業①	ねらいと指導内容①
13	模擬授業②	ねらいと指導内容②
14	模擬授業③	ねらいと指導内容③
15	リフレクション	振り返りとレポート
16		

科目コード	40202				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボールⅡ(応用) [教職用]				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とする。さらにバレーボールのルールや審判法、コートの設定における知識と技術についても身につけることを目標とする。

<授業の方法>

体育館で実技方式で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内容説明と導入	本授業の内容と目的、到達目標についての説明
2	バレーボールの基礎技術①	オーパハンドパス、アンダーハンドパス
3	バレーボールの基礎技術②	対人レシーブ、サーブ
4	バレーボールの基礎技術③	スパイク、ブロック
5	バレーボールの審判法	審判法の理解と実践
6	バレーボールの指導法①	パスの指導法
7	バレーボールの指導法②	スパイク、サーブの指導法
8	バレーボールの指導法③	3段攻撃の指導法（パス、アタック、ブロック）と救急法
9	バレーボールの指導法④	ゲームの指導法
10	指導実践①	パスの指導実践
11	指導実践②	スパイクの指導実践
12	指導実践③	スパイクの指導実践
13	指導実践④	総合練習の指導実践
14	指導実践⑤	6人制ゲームの指導実践
15	振り返りと、レポート	まとめ及びレポート
16		

科目コード	35215				区 分	専門基礎			
授業科目名	スポーツマネジメント実践論				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

フィットネス業界は、2019年（平成31年）には、売上高4,939億円（前年比3.2%増）、施設数6,188軒（前年比6.38%増）と総合型クラブが業界を牽引してきました。ところが2020年年始からのコロナ禍、それに伴う風評被害により、大きなダメージを被りました。そのような中、近年24時間営業ジムやコンビニフィットネスの出店の加速、オンラインサービスの普及に伴い、業界内の競争も激化しています。営業管理、人的管理の手法を学び組織やチームでマネジメントの観点からリーダーシップが発揮できる人材の育成を目指します

<授業の到達目標>

1. 具体的なフィットネスクラブマネジメント手法に関する知識・技術を身につけている 2. スポーツに関わる仕事の選択肢を増やすことができている 3. 国家資格「フィットネスクラブ・マネジメント技能士2級」を取得するために必要な知識・技能を習得している

<授業の方法>

本授業は、講義を中心に、小テストを織り交ぜながら進めます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書活用し、事前課題を行い、授業内容に触れておく（30分）復習：学習内容の復習を行う（30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 40%、 授業内での課題 30%、 レポートの課題 30%

<教科書>

一般社団法人日本フィットネス産業協会（2022年2月1日） フィットネスクラブマネジメント公式テキストVol.3インターメディアイト中級 一般社団法人日本フィットネス産業協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方フィットネス産業の概要
2	フィットネス産業概論	フィットネス産業スポーツ産業とのかかわり健康施策の概要と動向
3	店舗運営①	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
4	店舗運営②	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
5	マーケティング①	ビジネスにおけるマーケティングの概念（広義のマーケティング）
6	マーケティング②	フィットネスクラブにおけるプロモーション（狭義のマーケティング）
7	営業管理①	販売管理、商品・サービス管理収支管理
8	営業管理②	販売管理、商品・サービス管理収支管理
9	人的マネジメント①	ヒューマンリソースマネジメント（HRM）人材育成のための手法ティーチングスキル・コーチングスキル
10	人的マネジメント②	コミュニケーションスキル要因管理労働法規の一般知識
11	顧客マネジメント①	顧客管理会員継続、会員コミュニティ
12	顧客マネジメント②	顧客管理会員継続、会員コミュニティ
13	施設・安全管理	施設・設備管理の意義と重要性事故・トラブル防止
14	関連法規	北フィットネスクラブ運営に関わる主な法律リスク管理
15	まとめ	スポーツ施設経営を学ぶ重要性
16		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [他学科A]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。2. ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。3. 模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

<授業の方法>

教材研究の段階(①～⑨)では、教員による内容1～9の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階(⑩～⑮)では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習: 課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく(1時間程度)。復習: 本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか 2020年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

文部科学省 平成30年2月28日 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場면을視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場면을視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究 (ICTを含む)	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	27305				区分	基礎専門科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅳ				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である全身の骨格系、筋系、神経系、脈管系について修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅳでは柔道整復解剖生理演習Ⅰ～Ⅲの内容を総合的に構築する内容となっており全身の骨格系、筋、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器について、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができ、特に運動器の構造と機能について運動連鎖を中心に説明ができるようになる。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用い討論形式で進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に復習が重要である。講義で書き留めたノートを帰宅後まとめる作業が重要である。プリントに記された実習内容に関する項目について、解剖学や生理学及び運動学で習った事を復習する。授業内容（小テスト・講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】レポート（50%）、学習意欲（30%）、定期試験（20%）で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	上肢1	胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節の構造
2	上肢2	肘関節、手関節、手部の構造
3	上肢3	上肢を走行する神経
4	上肢4	上肢を走行する筋、血管
5	上肢5	上肢のまとめ
6	下肢1	下肢帯、股関節の構造
7	下肢2	膝関節、足関節、足部の構造
8	下肢3	下肢を走行する筋、神経
9	下肢4	下肢を走行する血管
10	下肢5	下肢のまとめ
11	体幹1	胸郭、脊柱の構造
12	体幹2	体幹を走行する筋、神経、血管
13	体幹3	体幹のまとめ
14	総合1	全身の骨格、筋、神経、血管1
15	総合2	全身の骨格、筋、神経、血管2
16		

科目コード	62008			区分	コア科目				
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [BC用]			担当者名	河合 洋二郎				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習の具体的な内容は授業時に随時通知する予定。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

入江由香子・中村栄太郎 編集（2006.7） 「健康運動指導のための健康管理概論」 杏林書院

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など)呼吸器系疾患(慢性肺疾患、運動誘発性喘息など)
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患(運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など)血液疾患(貧血など)皮膚疾患(胼胝腫、摩擦水疱、白癬など)
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患(運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など)代謝性疾患(糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など)
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など)血液感染症(A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど)
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症(細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など)ウイルス性結膜炎(咽頭結膜炎など)
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症(SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など)各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など(2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴(1)	(生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など)時差(時差に対する反応と順応、時差に対する対策)
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴(2)	海外遠征時の諸問題(健康管理、環境管理、その他)
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴(3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック(1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック(2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。

科目コード	32307			区分	コア科目				
授業科目名	生活科教育法 [他学科B]			担当者名	三堀 仁				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解する。2. ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付ける。3. 模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付ける。

<授業の方法>

教材研究の段階(①～⑨)では、教員による内容1～9の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階(⑩～⑮)では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習:課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく(1時間程度)。復習:本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか 2020年 あたらしいせいこつ 上 東京書籍

文部科学省 平成30年2月28日 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	生活科の目標・内容	学習指導要領解説をもとに、生活科の目標・内容等を理解する。
2	生活科の方法・評価	生活科の学習方法と評価について理解する。
3	生活科の教科特性	児童の発達段階を踏まえた生活科の教科特性を理解する。
4	生活科の授業の実際①	生活科の授業場면을視聴して児童の学びの様子を把握する。
5	生活科の授業の実際②	生活科の授業場면을視聴して教師の指導の様子を把握する。
6	生活科の授業展開の工夫	生活科の授業展開の方法について実践事例を通して理解する。
7	生活科の教材研究 (ICTを含む)	デジタル生活科マップを取り上げ、その作成方法を理解する。
8	生活科の指導案	生活科の指導案の作成方法を理解する。
9	生活科の指導案の作成と模擬授業の準備	グループで指導案を作成し、模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
15	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
16		

科目コード	31217				区分	コア科目			
授業科目名	英語教授法特論				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

第二言語習得研究 (SLA) のメカニズムと諸理論についての理解をもとに、実際の学校現場 (小学校、中学校、高等学校) において、どのように英語指導を行えば、児童・生徒の英語コミュニケーション能力の向上につながるかについて一緒に考えていきます。将来、学校現場に立つことを念頭に理論と実践の一体化を目指した講義と演習を実施します。

<授業の到達目標>

- ・グローバルシチズンシップの観点から英語教育をとらえ、児童生徒を地球市民の一員として育成できる見方・考え方を身につけている。
- ・自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるメタ認知力を身につけている。
- ・英語教師として、授業を円滑に運営でき、英語学習者 (L2 Learner) のモデルとなる英語力を身につけている。
- ・SLAの理論の基本的な知識および英語指導に必要な技能を身につけている。

<授業の方法>

①講義およびペア・グループワーク②指導案作成および模擬授業③まとめレポート

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学んだことの復習および課題に対する取組 (毎回 2 時間程度)、模擬授業の準備 (2 時間程度)

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

積極的な授業参加度30%、課題への取組30%、模擬授業および指導案作成40%

<教科書>

<参考書>

鈴木 渉 (2020年9月1日) 実践例に学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導 大修館書店
 白井 恭弘 (2012年9月1日) 英語教師のための第二言語習得論入門 大修館書店
 村野井 仁 (2007年4月10日) 第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	自分が目指す英語教育について考える。
2	SLA研究変遷の概観	今まで受けてきた英語授業の背景にある考え方の考察
3	Input/Output/Interaction Hypothesis	SLAモデルをもとにした指導事例の分析
4	動機づけ	言語レベル、学習者レベル、学習環境レベルから先行研究概観
5	SLA関連の重要項目概観	自動化、ワーキングメモリ、スキーマを考慮した実際の授業と関連付けたタスクの設定
6	Focus on Form	文法指導の在り方について考える。
7	CLIL (TBLT)	CLIL (TBLT)をもとにした英語授業におけるタスクの設定
8	実践演習①	具体的な指導技術について考察
9	実践演習②	具体的な指導技術について考察
10	映像・教科書分析① (小学校)	実践映像および教科書記載のタスクをSLAの観点から分析
11	映像・教科書分析② (中学校・高等学校)	実践映像および教科書記載のタスクをSLAの観点から分析
12	模擬授業①	指導案の作成および実演
13	模擬授業②	指導案の作成および実演
14	模擬授業③	指導案の作成および実演
15	振り返り	目指す英語教師像について考察
16		

科目コード	36300				区分	専門基礎科目			
授業科目名	病理学				担当者名	石原 和泰			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学、生理学で学んだ正常人体の構造、機能の理解のうえに病的状態における形態変化及び病態生理を講義する。講義前半は疾病により出現する種々の病理現象を総論として解説、後半は各臓器ごとに代表的な疾患を取り上げ、その形態変化、病態生理を解説する。

<授業の到達目標>

将来、人の健康保持、増進に関与していく可能性のある学生に対して、炎症、アレルギーなどの基本的な病理現象のメカニズムについて理解ができるとともに、各臓器の代表的な疾患に対するより専門的な病理学的変化について説明ができることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義する。スライドのレジュメは各回授業の最初に配布する。※参考書は全員購入すること。授業理解度の確認として適宜小テストを行い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に授業テーマに該当する部分を参考書を読んで予習しておくこと。配布されたレジュメを基にまとめノートを作製すること（復習1時間）。試験には自作のノートの持ち込みを可とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

桜井 修 監修 「新病理学（Qシリーズ）」 日本医事新報社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	序論	病理学とは
2	病理学総論 (1)	細胞・組織とその障害
3	病理学総論 (2)	再生と修復、退行性病変
4	病理学総論 (3)	循環障害
5	病理学総論 (4)	炎症
6	病理学総論 (5)	免疫とアレルギー
7	病理学総論 (6)	代謝異常
8	病理学総論 (7)	腫瘍
9	病理学各論 (1)	循環器系の病理
10	病理学各論 (2)	呼吸器系の病理
11	病理学各論 (3)	内分泌系・造血器系の病理
12	病理学各論 (4)	腎・尿路系の病理
13	病理学各論 (5)	生殖器系の病理
14	病理学各論 (6)	運動器系および脳・神経系の病理
15	まとめ	
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	整形外科学Ⅱ				担当者名	石原 和泰			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科学各論にあたる部分である。すなわち、整形外科身体部位別各論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「整形外科学」 南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修 「標準整形外科学」第13版 医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	身体部位別各論 (1)	頸部 (1)
2	身体部位別各論 (2)	頸部 (2)
3	身体部位別各論 (3)	胸部
4	身体部位別各論 (4)	腰部 (1)
5	身体部位別各論 (5)	腰部 (2)
6	身体部位別各論 (6)	肩・肩甲帯
7	身体部位別各論 (7)	上腕・肘関節
8	身体部位別各論 (8)	前腕
9	身体部位別各論 (9)	手関節
10	身体部位別各論 (10)	手・手指
11	身体部位別各論 (11)	骨盤・股関節
12	身体部位別各論 (12)	大腿・膝関節
13	身体部位別各論 (13)	下腿・足関節
14	身体部位別各論 (14)	足・足趾
15	まとめ	総括
16		

科目コード	35214				区分	コア科目			
授業科目名	スポーツマネジメント演習				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業科目では、「スポーツビジネス」の現場から、現役でスポーツビジネスの経営を「実践」している経営者をゲストとしてお招きし講義をしたり、スポーツビジネスの企業、組織、実践の現場に向いて、体験していきます。

<授業の到達目標>

スポーツ関連組織、企業から招聘するゲスト経営者から、受講生が直に学ぶこと、また、実際に現場で体験することで以下の3つを目標とする。1)「アントレプレナー」「アントレプレナーシップ」とは何かを理解し、説明できる2)ゲストスピーカーの現状を理解し、スポーツマネジメントの本質を理解し説明できる3)世の為・人の為・自分の為に①起業、もしくは②経営者、幹部として、または③社会人として、企業の経営を実践する、関わる人材となる熱意・決意・意志を抱き、語り、論述できる。

<授業の方法>

基本的な知識を事前に講義で理解し、ゲストスピーカーを迎え、テーマに応じた講義とグループワーク、課題発表等を実施します。また、スポーツビジネスの企業、組織、実践の現場に向いて、体験したことの発表を行います。ゲストスピーカーと受講生との自由な討議・質疑応答にも重点的に取り組むことで、受講生自身の「実践」体験を得られるよう授業を展開していきます。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各ゲストスピーカー講義の前週に、次回のゲスト講師の紹介があります。(予習)各回のゲストスピーカーと企業、業界などについて調べておきましょう。 ※(復習)各回の講義の内容について、学んだ事項を整理しておきましょう。 ※ ※他の受講生と重複しないような質問・感想ができる程度が目安。30～60分程度

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業出席回数(15回)30%②各回受講態度(15回)(各回レポート、プレゼンテーション、質疑応答、発表)45%③期末レポート(1回)25%④定期試験なし※基本的には、すべての授業に出席し、レポート提出、授業主旨に合った取り組みをしている。※「実践」の名が付く講座である特性上、単なる知識の暗記ではなく、受講生が自分自身で気づき、行動することが実践につながると思っています。そのため、成績評価全体の考え方は、講義で学んだ内容を踏まえつつも、いかに自分自身と照らし合わせて、レポートを書くか、プレゼンテーション

<教科書>

※教科書は特になし。資料が必要な場合は、授業時に配布します。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	スポーツマネジメントの考え方、授業の進め方、登壇予定のゲスト経営者紹介 など
2	スポーツマネジメント 序論	スポーツマネジメントとは?スポーツの可能性?組織・企業のマネジメントとは?、
3	スポーツマネジメント演習(事例紹介)	スポーツ企業、スポーツイベント、スポーツの大会、スポーツツーリズム、スポーツビジネスの展示会、などの紹介
4	ゲストスピーカーによる講義①とまとめ講義	※ゲストスピーカーは、スポーツ関連企業・組織から全5名を選定・招聘予定。※ゲストスピーカーを中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
5	ゲストスピーカーによる講義②とまとめ講義	
6	ゲストスピーカーによる講義③とまとめ講義	
7	ゲストスピーカーによる講義④とまとめ講義	
8	ゲストスピーカーによる講義⑤とまとめ講義	
9	スポーツ関連フィールドワーク①	スポーツ企業、スポーツイベント、スポーツの大会、スポーツツーリズム、スポーツビジネスの展示会でのフィールドワーク
10	スポーツ関連フィールドワーク②	
11	スポーツ関連フィールドワーク③	
12	スポーツ関連フィールドワーク④	
13	スポーツ関連フィールドワーク⑤	
14	スポーツマネジメントについての発表	ゲストスピーカーやフィールドワークから学んだ内容を基にした実習(グループワーク、プレゼンテーション) など

15
16

全体まとめ

実習、全体討議、スポーツマネジメントの可能性について

科目コード	32312				区分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法 [FE2233組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32303				区分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法 [FE2231組用]				担当者名	安久津 太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

<授業の到達目標>

・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

<授業の方法>

本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・第2回、第3回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第4回～7回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容及び指導方法を理解する。・第8回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第9回、10回、12～14回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題（40%）（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題（20%）（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題（20%）（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション（20%）（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

<教科書>

初等科音楽教育研究会編（2019年） 小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法 音楽之友社
文部科学省 小学校学習指導要領解説音楽編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容及び指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容及び指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容及び指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
7	器楽の学習内容及び指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との関連について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	音楽科の国際的動向及び研究と実践の連	音楽教育関連の最新の研究動向を知り、授業設計の向上に取り組む。

	関	
12	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
15	まとめ	講義全体のまとめと全体の振り返りを行う。
16		

科目コード	32312				区分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法 [FE2232組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32303				区分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法 [FE2232組用]				担当者名	安久津 太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

<授業の到達目標>

・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

<授業の方法>

本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・第2回、第3回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第4回～7回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容及び指導方法を理解する。・第8回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第9回、10回、12～14回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

<教科書>

初等科音楽教育研究会編（2019年） 小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法 音楽之友社
文部科学省 小学校学習指導要領解説音楽編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容及び指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容及び指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容及び指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
7	器楽の学習内容及び指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との関連について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	音楽科の国際的動向及び研究と実践の連	音楽教育関連の最新の研究動向を知り、授業設計の向上に取り組む。

	関	
12	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
15	まとめ	講義全体のまとめと全体の振り返りを行う。
16		

科目コード	32312				区分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法 [FE2231組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32303				区分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法 [FE2233組用]				担当者名	安久津 太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

<授業の到達目標>

・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができる。

<授業の方法>

本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・第2回、第3回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第4回～7回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容及び指導方法を理解する。・第8回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第9回、10回、12～14回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

<教科書>

初等科音楽教育研究会編（2019年） 小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法 音楽之友社
文部科学省 小学校学習指導要領解説音楽編 東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容及び指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容及び指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容及び指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
7	器楽の学習内容及び指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容及び指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との関連について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	音楽科の国際的動向及び研究と実践の連	音楽教育関連の最新の研究動向を知り、授業設計の向上に取り組む。

	関	
12	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
15	まとめ	講義全体のまとめと全体の振り返りを行う。
16		

科目コード	32312				区分	コア科目			
授業科目名	図画工作科教育法 [他学科A]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	32312			区分	コア科目				
授業科目名	図画工作科教育法 [他学科B]			担当者名	村上 尚徳				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018） 「小学校学習指導要領解説図画工作編」 日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ
16		

科目コード	23104				区分	コア			
授業科目名	発達心理学A [FC再履修]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目のキー・ワードは、「生涯発達」である。人は、誕生する前から生を終える直前まで、発達（変化）し続ける可能性にひらかれている。このことについて、様々な側面から多角的に学習を深めていく。

<授業の到達目標>

教育は、発達に支えられてこそ成り立ち、さらなる発達を促すように展開されることが望ましい。本科目の履修を通して、発達に関する多様な基礎的知見に触れ、これらのことが腑に落ちて理解できるだけの教養や専門性を獲得することが期待される。

<授業の方法>

毎回、講義内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。講義内容について、適宜、グループで見解を議論し合って発表する機会を設け、理解を広げていく。講義内容について、理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の講義内容は関連しており、次回の講義内容を理解するためには、前回の講義内容を理解しておくことが必要となる。講義内容は多岐にまたがるため、その広さに圧倒されることなく理解を定着させながら、講義全体を完走するには毎回の復習が特に重要となる。毎週、次回の講義時まで、配布資料や提示された関連文献の精読、講義内で求められた小課題への回答など、計2時間程度の準備学習が必要となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度：20%、複数回の小課題：30%、学期末試験：50%の結果を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

開地一夫・齋藤慈子（編）（2018/1） ベーシック発達心理学 東京大学出版会
 無藤隆・岡本祐子大坪治彦（編）（2009/1） よくわかる発達心理学[第2版] ミネルヴァ書房
 森口佑介（著）（2014/3） おさなごころを科学する：進化する乳児観 新潮社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の説明、発達と保育・教育の関係、子どもと大人のちがひ
2	心と発達のモデル①	認知、感情、動機づけ、それらの相互作用と発達
3	心と発達のモデル②	社会性、それに基づく様々なコミュニケーションと発達
4	心と発達のモデル③	遺伝と環境、環境への適応、発達と進化や学習の関係
5	胎生期・周産期の発達	発生過程（形態形成）、誕生前の経験の影響、胎生期・周産期の知覚・運動発達
6	乳幼児期の発達①	乳幼児期の運動・知覚・認知の発達
7	乳幼児期の発達②	乳幼児期の感情・動機づけの発達
8	乳幼児期の発達③	乳幼児期の社会性の発達
9	就学後子ども期の発達①	教科学習や学校生活を支える認知発達
10	就学後子ども期の発達②	教科学習や学校生活を支える感情・動機づけの発達
11	青年期の発達①	脳の発達、仲間関係と発達
12	青年期の発達②	反抗期、アイデンティティの発達
13	成人期・中年期の発達	結婚・子育てと発達、仕事と発達
14	高齢期の発達	アンチ・エイジング、サクセスフル・エイジング
15	まとめ	授業全体の内容の振り返り
16		

科目コード	23105				区分	コア			
授業科目名	発達心理学B [FE再履修]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目のキー・ワードは、「生涯発達」である。人は、誕生する前から生を終える直前まで、発達（変化）し続ける可能性にひらかれている。このことについて、様々な側面から多角的に学習を深めていく。

<授業の到達目標>

教育は、発達に支えられてこそ成り立ち、さらなる発達を促すように展開されることが望ましい。本科目の履修を通して、発達に関する多様な基礎的知見に触れ、これらのことが腑に落ちて理解できるだけの教養や専門性を獲得することが期待される。

<授業の方法>

毎回、講義内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。講義内容について、適宜、グループで見解を議論し合って発表する機会を設け、理解を広げていく。講義内容について、理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の講義内容は関連しており、次回の講義内容を理解するためには、前回の講義内容を理解しておくことが必要となる。講義内容は多岐にまたがるため、その広さに圧倒されることなく理解を定着させながら、講義全体を完走するには毎回の復習が特に重要となる。毎週、次回の講義時までに、配布資料や提示された関連文献の精読、講義内で求められた小課題への回答など、計2時間程度の準備学習が必要となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度：20%、複数回の小課題：30%、学期末試験：50%の結果を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

開地一夫・齋藤慈子（編）（2018/1）ベーシック発達心理学 東京大学出版会
 無藤隆・岡本祐子大坪治彦（編）（2009/1）よくわかる発達心理学[第2版] ミネルヴァ書房
 森口佑介（著）（2014/3）おさなごころを科学する：進化する乳児観 新潮社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の説明、発達と保育・教育の関係、子どもと大人のちがひ
2	心と発達のモデル①	認知、感情、動機づけ、それらの相互作用と発達
3	心と発達のモデル②	社会性、それに基づく様々なコミュニケーションと発達
4	心と発達のモデル③	遺伝と環境、環境への適応、発達と進化や学習の関係
5	胎生期・周産期の発達	発生過程（形態形成）、誕生前の経験の影響、胎生期・周産期の知覚・運動発達
6	乳幼児期の発達①	乳幼児期の運動・知覚・認知の発達
7	乳幼児期の発達②	乳幼児期の感情・動機づけの発達
8	乳幼児期の発達③	乳幼児期の社会性の発達
9	就学後子ども期の発達①	教科学習や学校生活を支える認知発達
10	就学後子ども期の発達②	教科学習や学校生活を支える感情・動機づけの発達
11	青年期の発達①	脳の発達、仲間関係と発達
12	青年期の発達②	反抗期、アイデンティティの発達
13	成人期・中年期の発達	結婚・子育てと発達、仕事と発達
14	高齢期の発達	アンチ・エイジング、サクセスフル・エイジング
15	まとめ	授業全体の内容の振り返り
16		

科目コード	23106				区分	コア			
授業科目名	発達心理学C [FE/PP再履修]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目のキー・ワードは、「生涯発達」である。人は、誕生する前から生を終える直前まで、発達（変化）し続ける可能性にひらかれている。このことについて、様々な側面から多角的に学習を深めていく。

<授業の到達目標>

教育は、発達に支えられてこそ成り立ち、さらなる発達を促すように展開されることが望ましい。本科目の履修を通して、発達に関する多様な基礎的知見に触れ、これらのことが腑に落ちて理解できるだけの教養や専門性を獲得することが期待される。

<授業の方法>

毎回、講義内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。講義内容について、適宜、グループで見解を議論し合って発表する機会を設け、理解を広げていく。講義内容について、理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の講義内容は関連しており、次回の講義内容を理解するためには、前回の講義内容を理解しておくことが必要となる。講義内容は多岐にまたがるため、その広さに圧倒されることなく理解を定着させながら、講義全体を完走するには毎回の復習が特に重要となる。毎週、次回の講義時まで、配布資料や提示された関連文献の精読、講義内で求められた小課題への回答など、計2時間程度の準備学習が必要となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度：20%、複数回の小課題：30%、学期末試験：50%の結果を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

開地一夫・齋藤慈子（編）（2018/1） ベーシック発達心理学 東京大学出版会
 無藤隆・岡本祐子大坪治彦（編）（2009/1） よくわかる発達心理学[第2版] ミネルヴァ書房
 森口佑介（著）（2014/3） おさなごころを科学する：進化する乳児観 新潮社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の説明、発達と保育・教育の関係、子どもと大人のちがいを
2	心と発達のモデル①	認知、感情、動機づけ、それらの相互作用と発達
3	心と発達のモデル②	社会性、それに基づく様々なコミュニケーションと発達
4	心と発達のモデル③	遺伝と環境、環境への適応、発達と進化や学習の関係
5	胎生期・周産期の発達	発生過程（形態形成）、誕生前の経験の影響、胎生期・周産期の知覚・運動発達
6	乳幼児期の発達①	乳幼児期の運動・知覚・認知の発達
7	乳幼児期の発達②	乳幼児期の感情・動機づけの発達
8	乳幼児期の発達③	乳幼児期の社会性の発達
9	就学後子ども期の発達①	教科学習や学校生活を支える認知発達
10	就学後子ども期の発達②	教科学習や学校生活を支える感情・動機づけの発達
11	青年期の発達①	脳の発達、仲間関係と発達
12	青年期の発達②	反抗期、アイデンティティの発達
13	成人期・中年期の発達	結婚・子育てと発達、仕事と発達
14	高齢期の発達	アンチ・エイジング、サクセスフル・エイジング
15	まとめ	授業全体の内容の振り返り
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	日本語教授法Ⅱ				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教員養成資格必修）

<授業の概要>

2024年末の時点で日本語教員養成資格科目を全てとり終える学生（日本語教員資格を得る人）のみを対象としています。目的別・対象別の指導法について、实例を通して理解を深める。また、学習者がアウトプットする語用を分析し、フィードバックするスキルを身に付けることにより、実践力を養います。

<授業の到達目標>

授業の到達目標は以下の3点である。1. 目的別・対象別の指導方法を知る 2. 指導法など、実際の現場で活用できる知識を身に付ける 3. 学習者がなぜ間違ったか分析し、良いフィードバック法を身に付ける。

<授業の方法>

本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜個人作業やグループワークを取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、事前に用語を調べて来ること（30分）。授業外に授業の準備・練習を行う必要がある（1-2時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度（小テストの結果を含む） 40%，中間課題 30%，期末課題 30%

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第5版 株式会社翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法の教え方	文法の授業の組み立て方について学ぶ
3	音声の教え方	音声の授業の組み立て方について学ぶ
4	文字・語彙の授業	日本語の文字・語彙の授業の組み立て方について学ぶ
5	聴解指導	聴解指導の方法について学ぶ
6	会話指導	会話の授業の組み立て方について学ぶ
7	読解指導	読解指導の方法について学ぶ
8	作文指導	作文授業の組み立て方について学ぶ
9	初級の教え方	初級クラスの学習目標・初級授業の教え方について学ぶ
10	中上級の教え方	中級・上級日本語学習者の学習目標、中上級の授業の教え方について学ぶ
11	日本文化・日本事情の教え方	日本語教育現場において、日本事情・日本文化をどのように教えたらいいか学ぶ
12	対象別の指導法	日本語教育の対象としてどんな学習者がいるか。留学生への指導法・外国人児童への指導法・生活者への指導法
13	中間言語分析（1）	中間言語とは？中間言語分析の方法について学ぶ
14	中間言語分析（2）	中間言語分析の実践
15	中間言語分析（3）	学習者への誤用の訂正方法、フィードバック方法について学ぶ
16		

科目コード	55010				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表 (1)	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表 (2)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表 (3)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス (2)	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する (1)	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する (2)	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する (3)	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55010				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価90%、学習意欲10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表 (1)	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表 (2)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表 (3)	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス (2)	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する (1)	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する (2)	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する (3)	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		

科目コード	55010				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測） 2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(レポート、事前課題等) 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス, グループ決め, テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
4	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
5	実験検証 (1)	実験を行なう(被験者になる)
6	実験検証 (2)	実験を行なう(検者になる)
7	結果のまとめ方	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
8	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
9	ガイダンス (2)	ガイダンス, 新グループ決め, 新テーマの設定
10	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
11	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
12	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
13	実験検証	実験を行なう
14	結果まとめ	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
15	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
16		

科目コード	55010			区分	キャリア形成科目				
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》			担当者名	宮本 彩				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測） 2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(レポート、事前課題等) 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス, グループ決め, テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
4	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
5	実験検証 (1)	実験を行なう(被験者になる)
6	実験検証 (2)	実験を行なう(検者になる)
7	結果のまとめ方	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
8	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
9	ガイダンス (2)	ガイダンス, 新グループ決め, 新テーマの設定
10	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
11	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
12	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
13	実験検証	実験を行なう
14	結果まとめ	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
15	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
16		

科目コード	55010				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》				担当者名	簗戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測） 2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(レポート、事前課題等) 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス (1)	ガイダンス, グループ決め, テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
4	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
5	実験検証 (1)	実験を行なう(被験者になる)
6	実験検証 (2)	実験を行なう(検者になる)
7	結果のまとめ方	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
8	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
9	ガイダンス (2)	ガイダンス, 新グループ決め, 新テーマの設定
10	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
11	検証方法の検討 (1)	検証方法を検討する
12	検証方法の検討 (2)	検討した検証方法を発表、評価
13	実験検証	実験を行なう
14	結果まとめ	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
15	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
16		

科目コード	23208				区分	コア科目			
授業科目名	教育心理学 A [FC幼稚園再履修]				担当者名	安永 和央			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講義では、乳幼児期から成人期までの身体的・認知的発達について学び、これらの特徴を踏まえて、動機づけや学習指導、教育評価、学級集団等に関する理解を深める。

<授業の到達目標>

授業概要で述べる内容に関する理論的な知識や実践的な知識を獲得し、これらの知識を実際の保育・学校教育場面で活かすことができる力を身につける。

<授業の方法>

本科目はオンデマンド授業です。まず講義の動画を視聴し、その後教科書の指定されたページを各自で読んでもらいます。最後に、授業に関して理解できているかを確認するためのテストに解答してもらいます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の復習が必要である（学習時間：1時間～1時間30分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への出席、毎回の授業の最後に実施する確認テスト及び定期試験により総合的に評価する。

<教科書>

櫻井茂男 監修・黒田祐二 編著（2021年4月15日） 実践につながる教育心理学 [改訂版] 北樹出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、心理学における研究法の種類
2	心と身体の発達①	発達の特徴、臨界期、発達曲線、胎生期（胎児期）、乳児期、幼児期
3	心と身体の発達②	児童期、青年期、成人期、輻輳説、相互作用説、発達の最近接領域
4	認知と思考の発達	認知発達理論の背景、ピアジェの認知発達理論
5	記憶のメカニズム①	感覚記憶、短期記憶、長期記憶
6	記憶のメカニズム②	系列位置効果、意味記憶の深い理解、忘却
7	錯視の世界	知覚、盲点、融像、錯視、選択的注意
8	学習の理論	古典的條件づけ、道具的條件づけ
9	動機づけ①	欲求、外発的動機づけ、内発的動機づけ、統制的動機づけ、自律的動機づけ
10	動機づけ②	学習に対する価値づけ・期待、原因帰属、学習性無力感
11	学習指導	有意味受容学習、発見学習、協同学習、プログラム学習、適性処遇交互作用
12	教育評価	教育評価の時期・基準・主体、パフォーマンス評価、ルーブリック評価
13	学級集団	学級集団の種類・発達過程・機能、教師のリーダーシップ
14	パーソナリティ	類型論と特性論、行動観察法、面接法、心理検査法
15	定期試験	
16		

科目コード	23209				区分	コア科目			
授業科目名	教育心理学 B [FE初等再履修]				担当者名	安永 和央			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講義では、乳幼児期から成人期までの身体的・認知的発達について学び、これらの特徴を踏まえて、動機づけや学習指導、教育評価、学級集団等に関する理解を深める。

<授業の到達目標>

授業概要で述べる内容に関する理論的な知識や実践的な知識を獲得し、これらの知識を実際の学校教育場で活かすことができる力を身につける。

<授業の方法>

本科目はオンデマンド授業です。まず講義の動画を視聴し、その後教科書の指定されたページを各自で読んでもらいます。最後に、授業に関して理解できているかを確認するためのテストに解答してもらいます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の復習が必要である（学習時間：1時間～1時間30分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への出席、毎回の授業の最後に実施する確認テスト及び定期試験により総合的に評価する。

<教科書>

櫻井茂男 監修・黒田祐二 編著（2021年4月15日） 実践につながる教育心理学 [改訂版] 北樹出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、心理学における研究法の種類
2	心と身体の発達①	発達の特徴、臨界期、発達曲線、胎生期（胎児期）、乳児期、幼児期
3	心と身体の発達②	児童期、青年期、成人期、輻輳説、相互作用説、発達の最近接領域
4	認知と思考の発達	認知発達理論の背景、ピアジェの認知発達理論
5	記憶のメカニズム①	感覚記憶、短期記憶、長期記憶
6	記憶のメカニズム②	系列位置効果、意味記憶の深い理解、忘却
7	錯視の世界	知覚、盲点、融像、錯視、選択的注意
8	学習の理論	古典的條件づけ、道具的條件づけ
9	動機づけ①	欲求、外発的動機づけ、内発的動機づけ、統制的動機づけ、自律的動機づけ
10	動機づけ②	学習に対する価値づけ・期待、原因帰属、学習性無力感
11	学習指導	有意味受容学習、発見学習、協同学習、プログラム学習、適性処遇交互作用
12	教育評価	教育評価の時期・基準・主体、パフォーマンス評価、ルーブリック評価
13	学級集団	学級集団の種類・発達過程・機能、教師のリーダーシップ
14	パーソナリティ	類型論と特性論、行動観察法、面接法、心理検査法
15	定期試験	
16		

科目コード	23210				区 分	コア科目			
授業科目名	教育心理学C [PP/FE中等再履修]				担当者名	安永 和央			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講義では、乳幼児期から成人期までの身体的・認知的発達について学び、これらの特徴を踏まえて、動機づけや学習指導、教育評価、学級集団等に関する理解を深める。

<授業の到達目標>

授業概要で述べる内容に関する理論的な知識や実践的な知識を獲得し、これらの知識を実際の学校教育場面で活かすことができる力を身につける。

<授業の方法>

本科目はオンデマンド授業です。まず講義の動画を視聴し、その後教科書の指定されたページを各自で読んでもらいます。最後に、授業に関して理解できているかを確認するためのテストに解答してもらいます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の復習が必要である（学習時間：1時間～1時間30分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への出席、毎回の授業の最後に実施する確認テスト及び定期試験により総合的に評価する。

<教科書>

櫻井茂男 監修・黒田祐二 編著（2021年4月15日） 実践につながる教育心理学 [改訂版] 北樹出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、心理学における研究法の種類
2	心と身体の発達①	発達の特徴、臨界期、発達曲線、胎生期（胎児期）、乳児期、幼児期
3	心と身体の発達②	児童期、青年期、成人期、輻輳説、相互作用説、発達の最近接領域
4	認知と思考の発達	認知発達理論の背景、ピアジェの認知発達理論
5	記憶のメカニズム①	感覚記憶、短期記憶、長期記憶
6	記憶のメカニズム②	系列位置効果、意味記憶の深い理解、忘却
7	錯視の世界	知覚、盲点、融像、錯視、選択的注意
8	学習の理論	古典的条件づけ、道具的条件づけ
9	動機づけ①	欲求、外発的動機づけ、内発的動機づけ、統制的動機づけ、自律的動機づけ
10	動機づけ②	学習に対する価値づけ・期待、原因帰属、学習性無力感
11	学習指導	有意味受容学習、発見学習、協同学習、プログラム学習、適性処遇交互作用
12	教育評価	教育評価の時期・基準・主体、パフォーマンス評価、ルーブリック評価
13	学級集団	学級集団の種類・発達過程・機能、教師のリーダーシップ
14	パーソナリティ	類型論と特性論、行動観察法、面接法、心理検査法
15	定期試験	
16		

科目コード	21113				区分	専門基礎			
授業科目名	教育の思想と原理A [FC再履修]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問いではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要と

<授業の到達目標>

①教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。②「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。③「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。

<授業の方法>

オンデマンド授業。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の指定された箇所を熟読する（1時間）復習：教科書の指定された箇所に関連する文献を参照する（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（50%）、事後課題（50%）

<教科書>

酒井健太郎（2024年4月20日）※この発売日より早い段階で購入可能 教育の思想と原理—古典といっしょに現代の問題を考える 晃洋書房

<参考書>

勝野正章、庄井良信（2022年12月20日） 問いからはじめる教育学 改訂版 有斐閣

岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大（2020年10月20日） 問いからはじめる教育史 有斐閣

汐見稔幸、伊東毅、高田文子、東宏行、増田修治（2011年4月30日） よくわかる教育原理 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	「教育とは何か」（教科書序章）
2	子ども（1）	子どもと家族（ルソー、ケイ、アリエス）（教科書第1章）
3	子ども（2）	遊び（ロック、ホイジンガ、カイヨワ）（教科書第2章）
4	子ども（3）	保育（フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ）（教科書第3章）
5	教員（1）	教育の方法（ペスタロッチ、ヘルバルト、ヴィゴツキー）（教科書第4章）
6	教員（2）	教養（イソクラテス、サン・ヴィクトルのフーゴー、ニーチェ）（教科書第5章）
7	教員（3）	教えないことによる教育と学習（ソクラテス、ルソー、デューイ）（教科書第6章）
8	幕間	教育思想と教育原理の連続性
9	学校（1）	教育カリキュラム（プラトン、コメニウス、フンボルト）（教科書第7章）
10	学校（2）	道徳的発達（アリストテレス、貝原益軒、ギリガン）（教科書第8章）
11	学校（3）	場としての学校（アリストテレス、デューイ、イリイチ）（教科書第9章）
12	社会（1）	国と教育（プラトン、福沢諭吉、デュルケーム）（教科書第10章）
13	社会（2）	宗教と教育（アウグスティヌス、トマス、ルター）（教科書第11章）
14	社会（3）	メリトクラシー（プラトン、イソクラテス、アリストテレス、ヤング、サンデル）（教科書第12章）
15	総括	「教育とは何か」再考（教科書終章）
16		

科目コード	21114				区分	専門基礎			
授業科目名	教育の思想と原理B [FE初等再履修]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問いではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要と

<授業の到達目標>

①教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。②「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。③「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。

<授業の方法>

オンデマンド授業。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の指定された箇所を熟読する（1時間）復習：教科書の指定された箇所に関連する文献を参照する（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（50%）、事後課題（50%）

<教科書>

酒井健太郎（2024年4月20日）※この発売日より早い段階で購入可能 教育の思想と原理—古典といっしょに現代の問題を考える 晃洋書房

<参考書>

勝野正章、庄井良信（2022年12月20日） 問いからはじめる教育学 改訂版 有斐閣

岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大（2020年10月20日） 問いからはじめる教育史 有斐閣

汐見稔幸、伊東毅、高田文子、東宏行、増田修治（2011年4月30日） よくわかる教育原理 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	「教育とは何か」（教科書序章）
2	子ども（1）	子どもと家族（ルソー、ケイ、アリエス）（教科書第1章）
3	子ども（2）	遊び（ロック、ホイジンガ、カイヨワ）（教科書第2章）
4	子ども（3）	保育（フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ）（教科書第3章）
5	教員（1）	教育の方法（ペスタロッチ、ヘルバルト、ヴィゴツキー）（教科書第4章）
6	教員（2）	教養（イソクラテス、サン・ヴィクトルのフーゴー、ニーチェ）（教科書第5章）
7	教員（3）	教えないことによる教育と学習（ソクラテス、ルソー、デューイ）（教科書第6章）
8	幕間	教育思想と教育原理の連続性
9	学校（1）	教育カリキュラム（プラトン、コメニウス、フンボルト）（教科書第7章）
10	学校（2）	道徳的発達（アリストテレス、貝原益軒、ギリガン）（教科書第8章）
11	学校（3）	場としての学校（アリストテレス、デューイ、イリイチ）（教科書第9章）
12	社会（1）	国と教育（プラトン、福沢諭吉、デュルケーム）（教科書第10章）
13	社会（2）	宗教と教育（アウグスティヌス、トマス、ルター）（教科書第11章）
14	社会（3）	メリトクラシー（プラトン、イソクラテス、アリストテレス、ヤング、サンデル）（教科書第12章）
15	総括	「教育とは何か」再考（教科書終章）
16		

科目コード	21115				区分	専門基礎			
授業科目名	教育の思想と原理 C [FE中等再履修]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問いではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要と

<授業の到達目標>

①教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。②「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。③「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。

<授業の方法>

オンデマンド授業。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の指定された箇所を熟読する（1時間）復習：教科書の指定された箇所に関連する文献を参照する（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験（50%）、事後課題（50%）

<教科書>

酒井健太郎（2024年4月20日）※この発売日より早い段階で購入可能 教育の思想と原理—古典といっしょに現代の問題を考える 晃洋書房

<参考書>

勝野正章、庄井良信（2022年12月20日） 問いからはじめる教育学 改訂版 有斐閣

岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大（2020年10月20日） 問いからはじめる教育史 有斐閣

汐見稔幸、伊東毅、高田文子、東宏行、増田修治（2011年4月30日） よくわかる教育原理 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	導入	「教育とは何か」（教科書序章）
2	子ども（1）	子どもと家族（ルソー、ケイ、アリエス）（教科書第1章）
3	子ども（2）	遊び（ロック、ホイジンガ、カイヨワ）（教科書第2章）
4	子ども（3）	保育（フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ）（教科書第3章）
5	教員（1）	教育の方法（ペスタロッチ、ヘルバルト、ヴィゴツキー）（教科書第4章）
6	教員（2）	教養（イソクラテス、サン・ヴィクトルのフーゴー、ニーチェ）（教科書第5章）
7	教員（3）	教えないことによる教育と学習（ソクラテス、ルソー、デューイ）（教科書第6章）
8	幕間	教育思想と教育原理の連続性
9	学校（1）	教育カリキュラム（プラトン、コメニウス、フンボルト）（教科書第7章）
10	学校（2）	道徳的発達（アリストテレス、貝原益軒、ギリガン）（教科書第8章）
11	学校（3）	場としての学校（アリストテレス、デューイ、イリイチ）（教科書第9章）
12	社会（1）	国と教育（プラトン、福沢諭吉、デュルケーム）（教科書第10章）
13	社会（2）	宗教と教育（アウグスティヌス、トマス、ルター）（教科書第11章）
14	社会（3）	メリトクラシー（プラトン、イソクラテス、アリストテレス、ヤング、サンデル）（教科書第12章）
15	総括	「教育とは何か」再考（教科書終章）
16		

科目コード	21317				区分	専門基礎科目			
授業科目名	教育方法・技術論(初等) [再履修]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師の仕事の中核をなすものは授業です。その授業を充実させるために、これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な項目について取り上げます。それらの「技術」「情報」「教育の方法」「情報機器」の扱い方や指導の仕方、現状を学習することにより授業の実践力を高めるようにします。あわせて授業を教師の立場（教える立場）からとらえ、教師としての見方、考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培います。

<授業の到達目標>

以下の3点を到達目標として設定します。（1）教育現場における教育方法・技術、ICT活用の意義・背景・理論について理解できる。（2）社会の中で求められる資質・能力（情報活用能力を含む）の育成と教育方法・技術、ICTの活用とのつながりについて説明することができる。（3）各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる。

<授業の方法>

パワーポイントによる説明。その都度、ワークシートに内容をまとめるようにします。そして1題を出します。題を出します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えおくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前、教員になる前に読んでおくととても勉強になります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート50%、最終レポート 50%

<教科書>

<参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社

吉永幸司（編）京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook） 小学館

吉永幸司（編）考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK）

4・5・6年 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、教育の方法・技術に関わる諸概念	最初の授業として次の3点を説明します。・本授業の進め方の確認 ・本授業で扱う教育方法 ・技術の定義・なぜ教育方法・技術について学ぶのかグループワークに登録するのでパソコンを持参してください。
2	教育方法の歴史	教育方法の歴史の変遷を学びます。それに併せ学習指導要領の変遷について学びます。
3	現代の教育方法について	アクティブ・ラーニング等の現代の教育方法を紹介し、その意義となぜそのような方法が求められるのか検証します。
4	授業における教師の役割と指導技術	教師の役割の変化、授業の意味の変化、これに伴う指導技術の変化について検証します。
5	教育における評価	教育における評価の意味と方法の例を紹介し、その意義を検証します。評価については事前・事中・事後評価があることを理解し、それぞれの役割について学びます。
6	教育の技術の具体例①	話法（発問や指示等）や板書の意味・役割について具体例を挙げ学習します。
7	教育の技術の具体例②	ノート指導について具体例を挙げて説明します。
8	教育の技術の具体例③	学習形態の変化について学びます。講義形式、話し合い（話し合いではない）など現代の学校現場での学習形態について具体例を挙げながら学習します。特に「学びあい」にも時間を割きます。
9	インクルーシブ教育について	学校現場で求められているインクルーシブ教育について学びます。理論とともに言葉の定義を具体例を挙げながら紹介し、理解するようにします。
10	学校現場におけるICTの実践	学校現場においてICT化の流れを歴史的要請を踏まえながら検証していきます。
11	情報モラルについて	ICTを活用するにあたり教員一人一人が身に着けるべき情報モラルについて学習します。

12	紙ベースとペーパーレス、そのメリットとデメリット	現代の学校現場での情報の扱い方について学びます。そして紙ベースとペーパーレスを対比させ、そのメリットとデメリットを検証します。
13	児童・生徒の情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法	情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法、授業方法の事例を考えます。Google Classroomを使って模擬授業をします。
14	校務の情報化とデータ活用	校務の情報化とは何か、校務の情報化に向けたデータ活用の事例を学習します。
15	本授業のまとめ 学校とテクノロジーのこれから	本授業のまとめ、社会の変化から見る今後の教育方法・技術、ICT活用の仕方を考えます。
16		

科目コード	21318				区分	専門基礎科目			
授業科目名	教育方法・技術論(中等) [再履修]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師の仕事の中核をなすものは授業です。その授業を充実させるために、これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な項目について取り上げます。それらの「技術」「情報」「教育の方法」「情報機器」の扱い方や指導の仕方、現状を学習することにより授業の実践力を高めるようにします。あわせて授業を教師の立場（教える立場）からとらえ、教師としての見方、考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培います。

<授業の到達目標>

以下の3点を到達目標として設定します。（1）教育現場における教育方法・技術、ICT活用の意義・背景・理論について理解できる。（2）社会の中で求められる資質・能力（情報活用能力を含む）の育成と教育方法・技術、ICTの活用とのつながりについて説明することができる。（3）各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる。

<授業の方法>

パワーポイントによる説明。その都度、ワークシートに内容をまとめるようにします。そして1題を出します。題を出します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のテーマに関して予習する時間を取りましょう。予習としてはテーマで扱う教育方法など自分の体験したことを想起し、効果を考えておくと授業にスムーズに入れます。また、毎回の授業後に、ミニレポートを提出する時間を取ります。そのレポートを見直す時間を取りましょう。さらに参考図書を示します。これらは教員になったら毎日の授業で役立つ情報満載なので実際に教員になったときに手元に持っておくとよいでしょう。また教育実習に行く前、教員になる前に読んでおくとも勉強になります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回実施するミニレポート50%、最終レポート 50%

<教科書>

<参考書>

平沢 茂 三訂版 教育の方法と技術 図書文化社
 吉永幸司（編）京女式ノート指導術 小学校国語 教育の方法と技術（教育技術mook） 小学館
 吉永幸司（編）考える子どもを育てる京女式板書・発問術 小学校国語 1・2・3年（教育技術MOOK）
 4・5・6年 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、教育の方法・技術に関わる諸概念	最初の授業として次の3点を説明します。・本授業の進め方の確認 ・本授業で扱う教育方法 ・技術の定義・なぜ教育方法・技術について学ぶのかグループワークに登録するのでパソコンを持参してください。
2	教育方法の歴史	教育方法の歴史の変遷を学びます。それに併せ学習指導要領の変遷について学びます。
3	現代の教育方法について	アクティブ・ラーニング等の現代の教育方法を紹介し、その意義となぜそのような方法が求められるのか検証します。
4	授業における教師の役割と指導技術	教師の役割の変化、授業の意味の変化、これに伴う指導技術の変化について検証します。
5	教育における評価	教育における評価の意味と方法の例を紹介し、その意義を検証します。評価については事前・事中・事後評価があることを理解し、それぞれの役割について学びます。
6	教育の技術の具体例①	話法（発問や指示等）や板書の意味・役割について具体例を挙げ学習します。
7	教育の技術の具体例②	ノート指導について具体例を挙げて説明します。
8	教育の技術の具体例③	学習形態の変化について学びます。講義形式、話し合い（話し合いではない）など現代の学校現場での学習形態について具体例を挙げながら学習します。特に「学びあい」にも時間を割きます。
9	インクルーシブ教育について	学校現場で求められているインクルーシブ教育について学びます。理論とともに言葉の定義を具体例を挙げながら紹介し、理解するようにします。
10	学校現場におけるICTの実際	学校現場においてICT化の流れを歴史的要請を踏まえながら検証していきます。
11	情報モラルについて	ICTを活用するにあたり教員一人一人が身に着けるべき情報モラルについて学習しま

12	紙ベースとペーパーレス、そのメリットとデメリット	す。 現代の学校現場での情報の扱い方について学びます。そして紙ベースとペーパーレスを対比させ、そのメリットとデメリットを検証します。
13	児童・生徒の情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法	情報活用能力(情報モラルを含む) 育成のための指導法、授業方法の事例を考えます。Google Classroomを使って模擬授業をします。
14	校務の情報化とデータ活用	校務の情報化とは何か、校務の情報化に向けたデータ活用の事例を学習します。
15	本授業のまとめ 学校とテクノロジーのこれから	本授業のまとめ、社会の変化から見る今後の教育方法・技術、ICT活用の仕方を考えます。
16		

科目コード	31401				区分	コア科目			
授業科目名	学校図書館メディアの構成				担当者名	木戸 和彦/浅田 栄里子			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資

<授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと(予習30分程度)。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次回の講義までに自力で解答しておくこと(復習60分程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

<教科書>

<参考書>

全国学校図書館協議会監修(2017.9.1) 学校図書館必携 悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源(資料の選択、資料収集の方針)
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源(収集のための情報源)
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望
16		

科目コード	31404				区分	コア科目			
授業科目名	情報メディアの活用				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現在の学校教育は、旧来の受動的な学習から、教科を超えた「総合的学習」や児童・生徒自身が情報資料やコンピュータを用いて、あるテーマについて調べて発表する「調べ学習」などの能動的な学習へと移行してきている。そのような現場において、学校図書館は、図書や逐次刊行物を収集、整理し、提供するという従来の機能だけではなく、CDやDVDなどの視聴覚メディア、インターネットやコンピュータなどの情報機器を利用した授業・自習を進めるための総合的なメディアセンターとしての機能も果たすこととなる。それに伴い司書教諭自身も、単なる読

<授業の到達目標>

本講義では、情報メディアを用いた学校教育支援のために、情報機器や情報メディアについての基礎的な知識と技能を身につけることを目的とし、インターネット等の利用を通して情報メディアとは何かを考えていく。また、学校における情報メディアセンターとしての図書館の機能及び司書教諭に求められる能力・役割について理解することを目標とする。

<授業の方法>

印刷教材等で単に知識を得るだけではなく、PCを利用して基礎知識を確認しながら進める。また、講義時に、課題の作成を求めらるので、限られた時間内に課題を作成する技術も身に付ける。更に、PCの周辺装置、情報機器、携帯・スマートフォンとの連携等の関連知識とその具体的方法についても合わせて学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト用プリントを講義前までに熟読すること（60分程度）。また、毎回の講義時に、演習問題を出題するので、次回講義開始時までに自力で解答できるようにしておくこと（60分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 30%、中間試験 30%、期末レポート試験 40%

<教科書>

<参考書>

「シリーズ学校図書館学」編集委員会（2010） シリーズ学校図書館学 第5巻 情報メディアの活用 全国学校図書館協議会

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	情報メディアとは何か	PC動作確認, PC環境設定, USBメモリー確認
2	情報メディアの教育的利用Ⅰ	PCの内部構造
3	情報メディアの教育的利用Ⅱ	ハードウェア
4	情報メディアの教育的利用Ⅲ	ソフトウェア
5	情報メディアの教育的利用Ⅳ	図書館での周辺装置
6	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅰ	個人情報保護法, 知的財産権, 著作権法, マナー（ネチケット）, 情報モラル
7	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅱ	学校図書館における法律（学校図書館法第2条）, 学校における例外規定, 具体的な事例
8	前半のまとめ（PCに関する事項）	コンピュータ概要について
9	WEBページ作成の準備Ⅰ	情報検索, 学校図書館のHP閲覧, 全国学校図書館協議会HP評価規準, イメージ作成
10	WEBページ作成の準備Ⅱ	HP作成手順説明
11	WEBページ作成の準備Ⅲ	HP作成準備
12	WEBページ作成Ⅰ	オリジナル学校図書館HPの資料収集
13	WEBページ作成Ⅱ	オリジナル学校図書館HPの構成
14	WEBページ作成Ⅲ	学校図書館HPの作成
15	まとめ（講義全体に関する事項）	学校図書館HP作品の仕上げと提出
16		

科目コード	21326			区分	専門基礎科目				
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法(中等) [再履修]			担当者名	木野 正一郎				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力(実践力)を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく(1時間程度)。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく(1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり)。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する(1～2時間程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%、指導案・模擬授業等 30%、試験 30% (※評価の観点：高(優レベル) ...資料や情報が盛りだくさんで、その根拠(エビデンス)に基づき自分の意見も十分に主張できている場合/中(良レベル) ...資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合/要努力(可レベル) ...資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合/補講(不可予備軍レベル) ...提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合)

<教科書>

木野正一郎(2016年4月15日) 新発想!道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編(2014年7月7日) 道徳の時代をつくる!一道德教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会(2021年6月30日) [初頭向け]幼稚園、小学校における新しい道徳教育[中等向け]中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省(2018年3月30日) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省(2018年3月1日) 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編(平成29年7月) 教育出版株式会社
 田沼茂紀(2022年4月10日) 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。(重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論)
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。(重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観)
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。(重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面)
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。(重要事項：道徳的価値の内容項目(低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目)、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方)
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。(重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科)

6	道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－	発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケム)
7	道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－	社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)
8	道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－	SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)
9	道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)	自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))
10	家族生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－	家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)
11	道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)	提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。
12	授業案の作成	提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。
13	授業案の作成、相互評価軸の策定	提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。
14	模擬授業と相互評価Ⅰ	設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。
15	模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」	設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。
16		

科目コード	0				区分	専門基礎科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅱ				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	カリキュラムにより異なります

<授業の概要>

柔道整復師の治療法が基礎医学を根拠とした臨床医学であることを理解する為に日常診療の中で多く遭遇する疾患に焦点を当て、繰り返し確認することで、学習の定着を図る。本科目では内科学、外科学、整形外科といった臨床医学を起点に疾患の病態が解剖学、生理学で学んだ人体の構造と役割や病理学で修得した分子生物学的アプローチのどの部分に基礎がなされているのかに遡り学習する。また、公衆衛生学などの繋がりについても学習し、基礎医学と臨床医学の繋がりを確実に理解する。

<授業の到達目標>

基礎専門科目の解剖学、生理学、病理学、運動学、公衆衛生学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。

<授業の方法>

基礎専門科目およびコア科目で学習した内容を総合的にまとめた配布資料および問題の実施、実施後におけるグループ学習で進める。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

総合的学習(学習した内容)のつながりをもとに、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し(3時間程度)、講義で実施した問題に対する復習する作業が重要である(3時間程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

評価試験(90%)、学習意欲(10%)で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	基礎専門分野(解剖学)より各種疾患を考察する	末梢神経・神経叢と疾患の関連性について学習する
2	基礎専門分野(解剖学)より各種疾患を考察する	骨格筋全般と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野(解剖学)より各種疾患を考察する	血管系と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野(解剖学)より各種疾患を考察する	骨と疾患の関連性について学習する
5	総合考察1	解剖学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
6	基礎専門分野(生理学)より各種疾患を考察する	内分泌と疾患の関連性について学習する
7	基礎専門分野(生理学)より各種疾患を考察する	呼吸器と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野(生理学)より各種疾患を考察する	自律神経と疾患の関連性について学習する
9	基礎専門分野(生理学)より各種疾患を考察する	免疫システムと疾患の関連性について学習する
10	総合考察2	生理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
11	基礎専門分野(運動学)より各種疾患を考察する	運動の発生のメカニズムと疾患の関連性について学習する
12	基礎専門分野(運動学)より各種疾患を考察する	運動学習と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野(病理学)より各種疾患を考察する	細胞の分子生物学的変化と疾患の関連性について学習する
14	基礎専門分野(病理学)より各種疾患を考察する	細胞のマクロ的形態変化と疾患の関連性について学習する

科目コード	21210				区分	専門基礎			
授業科目名	生徒指導・進路指導論(初等) [再履修]				担当者名	久田 孝			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生徒指導・進路指導は、児童生徒の人格の形成や発達、将来の具体的な生活や生き方にかかわる重要な指導である。これは教科指導と並んで、すべての児童生徒に必要な指導であり、教員一人ひとりが指導に当たらなければならない。本授業は、この生徒指導・進路指導を行うに当たって、必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 生徒指導の意義や内容を理解することができる。2. 個別の問題を抱える児童に対する理解と支援の基礎を身に付けることができる。3. 進路指導(キャリア教育)についての基礎的、基本的な事項を理解することができる。

<授業の方法>

Google Classroomから出される事前課題に取り組み、授業に参加してもらう。授業は、対面とオンラインを組み合わせるハイブリッドブレンド型で展開していく予定である。対面授業では講義とグループワークを取り入れ、成果発表を行い、全体で共有していく。オンラインでは課題成果に対する意見交換を取り入れ、学生相互のコミュニケーションがとれるようにしていく。授業の形態は事前に連絡をして進めていく。授業の中では小テストを実施して、最後にレポート課題に取り組んでもらう。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する(1時間程度)。・復習として、授業内容を振り返り、整理して小テストに備える(1時間程度)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度30%、事前課題30%、課題レポート30%、小テスト10%

<教科書>

藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子・市川優一郎編著(2018年4月25日発行) 生きる力を育む生徒指導 福村出版

<参考書>

文部科学省 生徒指導提要 教育図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・生徒指導とは	授業の進め方と、生徒指導についての概要を把握する。
2	生徒指導の意義と課題	生徒指導の意義や歴史的変遷、課題について理解する。
3	教育課程と生徒指導	教育課程に果たす生徒指導の役割について理解する。
4	児童生徒理解	児童生徒の発達段階における心理的特徴を把握するとともに、資料収集方法について学ぶ。
5	生徒指導体制	学校における生徒指導の体制や評価について理解する。
6	生徒指導の進め方	生徒指導の組織的対応、集団指導・個別指導の方法や教職員の役割について理解する。
7	問題行動	問題行動の実態を把握し、規範意識を醸造し、基礎的な生活習慣を確立させる効果的な指導方法について考える。
8	いじめ・体罰	いじめや体罰について理解を深め、予防、対応策を考える。
9	不登校	不登校の背景や実態を把握し、対応と支援について考える。
10	発達障害と特別支援教育	特別支援教育や発達障害の内容を理解し、発達の特性に合わせた支援を考える。
11	キャリア教育と進路指導	キャリア教育と進路指導の意義や原理を理解する。
12	ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育	進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。
13	教育相談	生徒指導と教育相談の関係を理解し、教育相談の進め方について学ぶ。
14	生徒指導における連携と学校安全の推進	学校と家庭、地域の連携・協働のあり方や安全教育について学ぶ。
15	生徒指導に関する法制度・まとめ	生徒指導に関する法制度を理解し、全体のまとめをする。
16		

科目コード	38301			区分	コア				
授業科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP教員希望者+他 学科]			担当者名	清田 美紀/柴山 慧/平田 佳弘				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探求していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

<授業の到達目標>

(1) 体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。(2) 保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。(3) 保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。(4) 協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見を持ち、主体的に活動に参加することができる。

<授業の方法>

模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域：30% 授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：30% 積極的な学習参加(出席状況)や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40% 学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

<教科書>

文部科学省(平成29年7月) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省(平成30年7月) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育 体育編 東山書房
 大修館書店(令和4年) 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 体育科教育学入門[三訂版] 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	保健体育授業が目指すものは何か	①体育の考え方はどう変わってきたか②保健体育授業の目標をどのように描くのか
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体的検討
5	グループワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション(全体)	グループごとに発表を行う
7	模擬授業①	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する模擬授業の実施、評価、分析
8	模擬授業②	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する模擬授業の実施、評価、分析
9	これからの保健体育の在り方について考える	保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方について考える
10	テーマ別グループ活動①	①保健体育授業を取り巻く教育課題からテーマを設定し、その課題解決に向けた方法について話し合う ②課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する②立案した計画に基づき、実践(模擬授業等)する

12	テーマ別グループ活動③	①立案した計画に基づき、実践（模擬授業等）する②実践した内容の分析、まとめ 発表資料の作成 グループごとに作成した資料にもとづき、発表する ①グループごとに作成した資料にもとづき、発表する②授業のまとめ
13	テーマ別グループ活動④	
14	内容報告会①	
15	内容報告会②と授業のまとめ	
16		

科目コード	40303				区分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅶ(総合)				担当者名	古山 喜一／畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、整復学実技Ⅰ～Ⅵで学習した整復法及び固定法を中心に、整復前の検査から整復、固定までの実際の臨床現場を想定した実技能力の習得を目標とする。骨折及び脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスクマネジメントの方法から整復法、固定法への臨床現場における一連の流れについて、実技実習を中心に行い、臨床現場における骨折及び脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスク管理とその後の処置について学習する。

<授業の到達目標>

臨床現場で多く関わることがある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念の理解および把握、治療形態（整復、固定、運動療法）に対する実施動作ができることを目標とする。

<授業の方法>

グループに分かれて実習形態で学習する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法）については予め復習し（2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】①定期試験100%（口頭試問試験50%、実技試験 50%）

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂
 全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	鎖骨骨折	鎖骨骨折の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法までの実技について
2	上腕骨骨折	上腕骨骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
3	コーレス骨折・第5中手骨頸部骨折	コーレス骨折・第5中手骨頸部骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
4	肩関節脱臼	肩関節脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
5	肘関節脱臼	肘関節脱臼における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
6	肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
7	肋骨骨折・肘内障	肋骨骨折・肘内障の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
8	示指PIP関節背側脱臼	示指PIP関節背側脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法、整復法から固定法の実技について
9	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法、固定法について
10	大腿部周囲軟部組織損傷	大腿部周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
11	膝関節靭帯損傷	膝関節周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
12	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
13	下腿部骨幹部骨折・下腿部の軟部組織損傷	下腿部の骨幹部骨折・軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法、固定法について
14	足部周囲の軟部組織損傷	足関節周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
15	まとめ	総合評価
16		

科目コード	38301			区 分	コア				
授業科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP教員希望者+他 学科]			担当者名	清田 美紀/柴山 慧/平田 佳弘				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探求していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

<授業の到達目標>

(1) 体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。(2) 保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。(3) 保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。(4) 協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見を持ち、主体的に活動に参加することができる。

<授業の方法>

模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域：30% 授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：30% 積極的な学習参加(出席状況)や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40% 学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

<教科書>

文部科学省(平成29年7月) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省(平成30年7月) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育 体育編 東山書房
 大修館書店(令和4年) 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 体育科教育学入門[三訂版] 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	保健体育授業が目指すものは何か	①体育の考え方はどう変わってきたか②保健体育授業の目標をどのように描くのか
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体的検討
5	グループワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション(全体)	グループごとに発表を行う
7	模擬授業①	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する模擬授業の実施、評価、分析
8	模擬授業②	体育と保健を関連させた授業について立案した内容に関する模擬授業の実施、評価、分析
9	これからの保健体育の在り方について考える	保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方について考える
10	テーマ別グループ活動①	①保健体育授業を取り巻く教育課題からテーマを設定し、その課題解決に向けた方法について話し合う ②課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに、授業を設計する②立案した計画に基づき、実践(模擬授業等)する

12	テーマ別グループ活動③	①立案した計画に基づき、実践（模擬授業等）する②実践した内容の分析、まとめ
13	テーマ別グループ活動④	発表資料の作成
14	内容報告会①	グループごとに作成した資料にもとづき、発表する
15	内容報告会②と授業のまとめ	①グループごとに作成した資料にもとづき、発表する②授業のまとめ
16		

科目コード	53070				区分	コア			
授業科目名	幼児体育指導法Ⅲ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

東岡山IPUこども園でのワクワクタイム13:00~15:00を活用して、5歳児約70名を対象に運動遊びの実践を行う。幼児体育の中でも、子供との関わりを通して学ぶ科目である。その中で、子供の発達にあった遊びの提供、関わり方、教材の提供について学ぶ。

<授業の到達目標>

①年長児および年中児に適した体力向上につながる運動遊びのルールづくりや安全に配慮した指導計画が立案できる。②子どもが理解できる運動とその指導法を選択し、対象に合わせて内容を工夫して運動指導ができる。③心身の発育発達について十分に理解し、子どもとスポーツ実践に関して指導者としてふさわしい倫理観を獲得する。

<授業の方法>

講義と座学の演習方式で進める。受講者はGoogleクラスルームに参加し、そこから課題や連絡を受取る。毎時のレポートはGoogleフォームから投稿する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

遊びの考案・準備が必要(90分)以上。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前学習・事前準備60%、演習・子どもとの関わり40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容と評価方法の説明。子どもと健康に関する学習状況の振り返り。
2	東岡山IPUこども園での遊び	東岡山IPUこども園での運動遊びの実際を観察・参加する。
3	東岡山IPUこども園でのワクワクタイム	東岡山IPUこども園での運動遊びの実際を参加する。
4	幼児期運動指針と東岡山IPUこども園での運動	幼児期運動指針から、移動する動きに着目し、運動遊びの提供を行う。
5	保育者と子どもとの関わり	東岡山IPUこども園の保育者が子どもとどのように関わっているかを観察する。
6	基礎的な動き(走る動作)	幼児期運動指針に基づき、走る動作に関する遊びの提供を行う。
7	基礎的な動き(投げる動作)	幼児期運動指針に基づき、投げるに関する遊びの提供を行う。
8	基本的な動き(跳ぶ動作)	幼児期運動指針に基づき、跳ぶ動作に関する遊びの提供を行う。
9	幼児期運動指針と園庭での多様な動き	園庭での幼児期運動指針での、多様な動きを取り入れた遊びの考案・提供
10	幼児期運動指針と室内での多様な動き	ホールでの幼児期運動指針での、多様な動きを取り入れた遊びの考案・提供
11	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(1)	幼児期運動指針での、動きの連続性を高める教材・教具を作成する。
12	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(2)	作成した、動きの連続性を高める教材・教具を用いて子どもと遊びを展開する。
13	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(3)	作成した、動きの連続性を高める教材・教具を用いて子どもと遊びをも踏まえて、さらに遊びを発展させる。
14	水遊び	水遊びの様子の観察、遊びの発展、機材について学ぶ
15	まとめ	指導計画に対して教材・教具や指導方法が適切だったかを振り返り、今後の展望についても考え、レポートにまとめる。
16		

科目コード	37400				区分	コア科目			
授業科目名	コミュニティスポーツ論				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツは、自ら「する」スポーツだけでなく、「みる」スポーツに、それらを「支える」スポーツといった様々なかかわり方が生じている。現代において、そのスポーツの意義や目的は多様化しており、「スポーツを核とした地域活性化」や「スポーツによるまちづくり」といったスポーツがもたらす価値について問われている。本講義では、スポーツ経営学や体育社会学、スポーツイベント論、総合型地域SC運営論等において学修した内容をまとめ、スポーツがもつ価値について再考し、地域スポーツを取り巻く課題・問題について調査し、課題解決策を検討す

<授業の到達目標>

健康や運動に対する関心の高まり、それに伴うスポーツ振興など、スポーツは人々の暮らしと密接な繋がりを持っている。本講義では地域で展開されるスポーツ活動の課題・問題を発見し、その解決策を検討することのできる能力を身につけることを目標とする。

<授業の方法>

本講義は、課題解決学習である。毎時、課題の進捗状況を報告し、改善点を修正やさらに調査する流れで展開する。最終的に調査をした結果をまとめたものを発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎時、課題を発表し、その改善・修正点を課題として取り組むこと（2時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題40%、グループワーク40%、課題20%

<教科書>

松橋・高岡 スポーツまちづくりの教科書 青弓社

<参考書>

松橋・高岡 スポーツまちづくりの教科書 青弓社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツによる社会的効果とは	スポーツの価値と可能性について
2	スポーツを活用した地域課題の解決	スポーツによって解決される地域課題の事例調査
3	スポーツコミッションの可能性	スポーツコミッションに関する事例調査
4	スポーツコミッションによるまちづくり	スポーツコミッションの形成によるまちづくりの事例調査
5	スポーツイベントによるまちづくり①	スポーツイベントによるまちづくりの事例調査
6	スポーツイベントによるまちづくり②	調査内容の発表と討議
7	プロクラブによるまちづくり①	プロクラブの取り組みに関する調査
8	プロクラブによるまちづくり②	プロクラブがもたらす地域活性化についての討議
9	プロクラブによるまちづくり③	調査内容の発表と討議
10	地域スポーツクラブによるまちづくり①	地域スポーツクラブがもたらす社会関係資本についての調査
11	地域スポーツクラブによるまちづくり②	調査内容の討議
12	地域スポーツクラブによるまちづくり③	調査内容の発表と討議
13	調査研究結果のまとめ①	調査研究結果をまとめる①
14	調査研究結果のまとめ②	調査研究結果をまとめる②
15	最終課題	課題発表
16		

科目コード	51017				区分	コア			
授業科目名	日本語教育演習 I				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

本授業では、日本語教育実習に必要な事前・事後指導を行う。事前指導では、教材研究、教案の作成、授業見学、模擬授業などを通して実習の準備を行う。事後指導では、実習の報告、振り返りを通して課題の発見や解決方法を探る。日本語教育演習 I と日本語教育演習 II は連続して履修すること。

<授業の到達目標>

本科目の目的は以下のとおりである。1. 日本語教員の業務に対する理解を深める。2. 教材研究や授業見学を通じて実習の準備を行う。3. 実習の報告と振り返りを通して課題を発見し、解決方法を探る。

<授業の方法>

講義及び教育実習のための演習を行う。授業見学は、学内の日本語教員の担当授業での見学を行う。個人やグループで教案作成、模擬授業の準備・実施を行う中で、受講者同士で議論しあいながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。課題や資料配布はGoogleClassroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前の活動として、模擬授業を行う項目に関して、文法的知識、練習方法、教材などを作成し、教案を作っておく。リハーサルを行い、スムーズに模擬授業できるよう準備しておく。2～3時間。事後に振り返りを行う。30分程度。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 10%, 提出物 30%, 模擬授業の評価 40%, 報告書 20%提出物は模擬授業の際にフィードバックを行う。報告書はGoogleClassroomで添削・返却する。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的
2	教案作成 (1)	教案の作成方法
3	教案作成 (2)	教案の作成 (1)
4	教案作成 (3)	相互評価
5	教案作成 (4)	教案の作成 (2)
6	授業見学 (1)	初級前半クラス (1)
7	授業見学 (2)	初級前半クラス (2)
8	授業見学 (3)	初級後半クラス (1)
9	授業見学 (4)	初級後半クラス (2)
10	日本語の授業の方法	授業の進め方
11	模擬授業 (1)	初級前半クラス (1)
12	模擬授業 (2)	初級前半クラス (2)
13	模擬授業 (3)	初級後半クラス (1)
14	模擬授業 (4)	初級後半クラス (2)
15	まとめ	フィードバックとまとめ
16		

科目コード	51015				区分	コア			
授業科目名	日本語教育実習 I				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

教壇実習を実施しながら、日本語教師に必要な資質・能力を高める。外国人相手に授業をすることによって、日本語教育や学生への理解を深めるとともに、日本語教師の職務について実践的に学ぶ。日本語教育実習 I と日本語教育実習 II は連続して履修すること。

<授業の到達目標>

教材研究や指導計画の作成、授業時の指導技術や態度、授業後の振り返り等の一連の授業づくりに熱意と創意工夫を持って取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

実際に日本語を学んでいる外国人に対して教壇実習を行う。授業計画や教案、教材の準備はもちろん、実際の授業の中での学生対応についても学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前準備（2～3時間）：教材研究や教案づくりなど教壇実習の準備。事後（30分程度）：教壇実習の振り返り。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習の評価 80%，実習記録 20%実習記録は実習終了後に確認してGoogle Classroomを通じて返却する。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習（1）	実習と振り返り（1）
2	教育実習（2）	実習と振り返り（2）
3	教育実習（3）	実習と振り返り（3）
4	教育実習（4）	実習と振り返り（4）
5	教育実習（5）	実習と振り返り（5）
6	教育実習（6）	実習と振り返り（6）
7	教育実習（7）	実習と振り返り（7）
8	教育実習（8）	実習と振り返り（8）
9	教育実習（9）	実習と振り返り（9）
10	教育実習（10）	実習と振り返り（10）
11	教育実習（11）	実習と振り返り（11）
12	教育実習（12）	実習と振り返り（12）
13	教育実習（13）	実習と振り返り（13）
14	教育実習（14）	実習と振り返り（14）
15	教育実習（15）	実習と振り返り（15）
16		

科目コード	0			区分	コア科目				
授業科目名	柔道整復治療学			担当者名	石原 和泰				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

整形外科医による医療安全に関する講義を中心に医療画像の見方などについても修得する。柔道整復師が扱う疾患は骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷であり、急性あるいは亜急性外傷に限られている。柔道整復師が業務を行うにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲内にあるかどうかを適切に判断し、必要であれば医療機関との連携を図りながら柔道整復術を適切に実施できる能力の修得を目的とする。近年、画像診断機器の発達により、骨はもとより軟部組織の病的状態を可視化することが可能になってきている。解像度や分

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医学的な分野（特に整形外科学的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語を持って話が出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中は確実な定着に繋げる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	骨腫瘍	骨腫瘍の診断と病態
2	脊椎の外傷と脊髄損傷 (1)	脊椎の外傷と脊髄損傷 (骨粗鬆症を含む) (1)
3	脊椎の外傷と脊髄損傷 (2)	脊椎の外傷と脊髄損傷 (骨粗鬆症を含む) (2)
4	足関節の外傷	Laugehansen分類について
5	症例検討による演習 (1)	症例検討による演習 (1)
6	症例検討による演習 (2)	症例検討による演習 (2)
7	症例検討による演習 (3)	症例検討による演習 (3)
8	症例検討による演習 (4)	症例検討による演習 (4)
9	症例検討による演習 (5)	症例検討による演習 (5)
10	症例検討による演習 (6)	症例検討による演習 (6)
11	症例検討による演習 (7)	症例検討による演習 (7)
12	症例検討による演習 (8)	症例検討による演習 (8)
13	症例検討による演習 (9)	症例検討による演習 (9)
14	症例検討による演習 (10)	症例検討による演習 (10)
15	総合・まとめ	総合・まとめ
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習 I				担当者名	小玉 京士朗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師が遭遇する可能性のある全ての疾患に対して、業務範囲であるか否かの判断を演習形式で繰り返し確認することで、鑑別診断能力の定着を図る。

<授業の到達目標>

柔道整復師が行う業務範囲であるか否かが判断でき、業務範囲内と判断できた場合においては、外傷に対する処置に関して一連の対応を行うことができることを目標とする。

<授業の方法>

シミュレーションで少人数制のグループワーク形式を用い、骨折、脱臼、捻挫、軟部組織損傷に対する病態把握から整復固定能力の修得を確認する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

特に予習が重要である。示された症例について、どの様な視点をもって処置に至るまでの流れを持つのかを事前にシミュレーションし、自分の考えを持って演習に臨むことが重要である。そのため、臨床医学を中心に解剖学や生理学及び運動学といった基礎医学にまで遡って復習する。（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90% 学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 医療の中の柔道整復 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	頸・肩・上肢の痛み1	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 1
2	頸・肩・上肢の痛み2	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 2
3	頸・肩・上肢の痛み3	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 3
4	頸・肩・上肢の痛み4	頸・肩・上肢の外傷・障害 症例検討 4
5	頭部・体幹・下肢の痛み1	頭部・体幹・下肢の外傷・障害 症例検討 1
6	頭部・体幹・下肢の痛み2	頭部・体幹・下肢の外傷・障害 症例検討 2
7	頭部・体幹・下肢の痛み3	頭部・体幹・下肢の外傷・障害 症例検討 3
8	まとめ	頭部・体幹・下肢の外傷・障害 症例検討 総合評価
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	33405			区分	コア				
授業科目名	幼児心理学Ⅲ			担当者名	大久保 諒				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、発達に関する様々な専門的知見を踏まえ、それに基づいて子どもを観察し、子どもと関わる経験を体系的に積むことにより、子どもに対する専門的な見つけ方や接し方の実践的な習得を目指す。

<授業の到達目標>

① 発達に関する専門的知見を踏まえて、子どもを観察したり、子どもと関わったりする意義や方法を理解する。② 子どもを観察したり、子どもと関わる上での様々な留意点を理解する。③ 子どもを観察する方法上のコツや難点を体験的に理解し、その上で実際に子どもを観察する力を高める。④ 子どもと関わる方法上のコツや難点を体験的に理解し、その上で実際に子どもとの関わる力を高める。

<授業の方法>

発達に関する専門的知見を身に着けた上で、保育の実践の場へ赴き、子どもを観察したり、子どもと関わったりする経験を積む。各回、事前に課題が提示され、そのポイントを意識した観察や関わりを試みることが求められる。最終的に、授業全体の経験をレポートにまとめることも求められる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回、保育の実践の場へ赴く前に、予め課題を確認し、観察・関わりを行う上でのポイントをきちんと把握しておく必要がある。毎週、この学習に60分程度の時間を要する。また、各回、子どもを観察したり、子どもと関わったりしながら課題に取り組んだ結果を事後的に記録を残し、次回に向けた反省点などを検討する必要がある。この学習に60分程度の時間を要する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への参加姿勢(積極性・勤勉性)：30%、各回の課題の成績：40%、学期末レポートの成績：30%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

遠藤利彦(編著)(2021/6) 情動発達の理論と支援 金子書房
 高山静子(著)(2021/3) 改訂 保育者の関わり方の理論と実践:保育の専門性に基づいて 郁洋舎
 高山静子(著)(2021/3) 改訂 環境構成の理論と実践:保育の専門性に基づいて 郁洋舎

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、注意事項の確認、各回の課題の確認
2	発達に関する専門的知見の整理	子どもの観察で必要になる視点、子どもとの関わりで必要になる視点
3	園の環境の理解①	園の物理的設計、園のルール、園のタイム・スケジュール
4	園の環境の理解②	子どもの構成、スタッフの構成
5	観察・関わり方の難しさの理解①	「わからない」経験の整理
6	観察・関わり方の難しさの理解②	有効な観察・関わり方の方法の探索
7	前半のまとめ	後半の課題に向けた反省・工夫の整理
8	子どもの感情を追う①	1人の子どもに注目した課題
9	子どもの感情を追う②	2人以上の子どもを比較する課題
10	子どもの感情を追う③	集団に注目した課題
11	子どもの個人差の理解①	「好み」の遊びや他の活動の個人差に注目した課題
12	子どもの個人差の理解②	「苦手」な遊びや他の活動の個人差に注目した課題
13	子どもの個人差の理解③	「好み」の遊びや他の活動を「ひかえる」ことに注目した課題
14	子どもの個人差を理解する④	「苦手」な遊びや他の活動を「こらえる」ことに注目した課題
15	後半のまとめ	成果と反省点の整理
16		

科目コード	31219				区分	専門科目			
授業科目名	特別支援教育論B [再履修]				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

通常学級でのインクルーシブ教育システムの構築を推進する上で、発達障害に起因する特別な教育的ニーズへの対応が強く求められている。この授業では、主として発達障害に位置づけられる自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の3つの障害に着目し、それぞれの障害特性の背景にある神経心理学的特徴および認知的特徴について理解する。さらに、これらの脳機能不全が引き起こす教育場面での具体的な行動特徴を取り上げ、脳機能不全の様子に沿った行動理解の方法と具体的な支援策について学び、特別支援教育の基礎的な知識・技能を獲得する

<授業の到達目標>

1. 発達障害の概念を理解する。2. 自閉スペクトラム症の脳機能不全と行動特徴、具体的な支援について理解する。3. 注意欠如多動症の脳機能不全と行動特徴、具体的な支援について理解する。4. 限局性学習症の脳機能不全と行動特徴、具体的な支援について理解する。

<授業の方法>

・学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・授業前にあらかじめ予告された課題内容を理解し、自分なりの見解を授業での演習で発表できるよう整理しておく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・事前準備及びプレゼンテーション内容 20%、レポート課題 40%、定期試験 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	発達障害とは	発達障害の概要や定義、指導・支援の現状や課題について学ぶ。
2	自閉スペクトラム症（ASD）の理解（1）	自閉スペクトラム症の定義と神経心理学的特徴について学ぶ。
3	自閉スペクトラム症（ASD）の理解（2）	自閉スペクトラム症の認知行動的特徴について学ぶ。
4	自閉スペクトラム症（ASD）への指導・支援	自閉スペクトラム症の認知行動的特徴に基づく具体的な指導・支援について学ぶ。
5	注意欠如多動症（ADHD）の理解（1）	注意欠如多動症の定義と神経心理学的特徴について学ぶ
6	注意欠如多動症（ADHD）の理解（2）	注意欠如多動症の行動特徴について学ぶ。
7	注意欠如多動症（ADHD）の指導・支援	注意欠如多動症の認知行動的特徴に基づく具体的な指導・支援について学ぶ。
8	限局性学習症（SLD）の理解（1）	限局性学習症の定義と神経心理学的特徴について学ぶ。
9	限局性学習症（SLD）の理解（2）	限局性学習症の認知行動的特徴について学ぶ。
10	限局性学習症（SLD）への指導・支援	限局性学習症の認知行動的特徴に基づく具体的な指導・支援について学ぶ。
11	特別支援教育と自立活動	特別支援教育において重要な機能を果たす自立活動について応用行動分析学の内容を交えて学ぶ。
12	発達障害への支援演習（1）	自閉スペクトラム症と注意欠如多動症の具体的事例を取り上げ、指導・支援の方法を検討する。
13	発達障害への支援演習（2）	限局性学習症の具体的事例を取り上げ、指導・支援の方法を検討する。
14	インクルーシブ教育の理解（1）	インクルーシブ教育の定義や歴史を知り、具体的事例を通じて理解を深める。
15	インクルーシブ教育の理解（2）	具体的事例を取り上げ、本人・保護者・教師・周囲の友人等の様々な視点からインクルーシブ教育について討議する。
16		

科目コード	31220				区 分	コア			
授業科目名	特別支援教育論C [再履修]				担当者名	高橋 章二			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

<授業の到達目標>

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

<授業の方法>

授業は、powerpoint資料を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に授業テーマに関連する内容をホームページ等で事前に調べ用語等についての理解をしておく。（予習1時間）講義後には、PowerPoint資料を再度見直して講義内容の定着を図る。（復習1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、授業レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 特別支援教育とは何か	特別支援教育の理解
2	特別支援教育の歴史と制度	特別支援教育の歴史の変遷
3	インクルーシブ教育システムの構築	インクルーシブ教育の現状と学校における合理的な配慮
4	障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅰ（視覚障害）	視覚障害の特性の理解と、指導・支援について
5	障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅱ（聴覚障害）	聴覚障害の特性の理解と、指導・支援について
6	障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅲ（肢体不自由）	肢体不自由の特性の理解と、指導・支援について
7	障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅳ（知的障害）	知的障害の特性の理解と、指導・支援について
8	障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅴ（病弱・虚弱、その他多様な特別な教育的ニーズのある幼児）	弱・虚弱及び障害はないが多様な特別な教育的ニーズが必要な生徒の特性の理解と、指導・支援について
9	障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅵ（自閉症スペクトラム障害）	自閉症スペクトラム障害の特性の理解と、指導・支援について
10	障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅶ（ADHD、LD）	ADHD、LDの特性の理解と、指導・支援について
11	小・中・高等学校における特別支援教育の現状と課題	小・中・高等学校における特別支援教育の現状と課題
12	高等学校における通級指導教室	高等学校における通級指導教室での指導・支援の実際
13	個別の教育支援計画と個別の指導計画	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成方法
14	校内支援体制と保護者との連携	校内委員会及び特別支援教育コーディネーターの役割と保護者との連携の必要性和在り方
15	専門機関や地域との連携	医療機関、福祉機関など地域との連携の必要性和在り方
16		

科目コード	21324			区 分	専門基礎科目				
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法（中等）〔再履修〕			担当者名	藤井 健太郎				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

<授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、授業のリフレクション30%、レポート（学習指導案等）40%

<教科書>

文部科学省（平成30年2月28日） 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 東山書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	21323				区分	専門基礎科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法(初等) [再履修]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

<授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。最後に、本時の授業の内容を振り返る。また、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への参加度30%、授業のリフレクション30%、レポート(学習指導案等)40%

<教科書>

文部科学省(平成30年2月28日) 小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15	総合的な学習のカリキュラム改善	PDCAを意識したカリキュラム改善について理解する。
16		

科目コード	21208				区分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法(初等) [再履修]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

<授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるといふ実践力の育成も目指す。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、授業のリフレクション30%、レポート(学習指導案等) 40%

<教科書>

文部科学省(平成30年2月28日) 小学校学習指導要領解説 特別活動編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	特別活動とは(オリエンテーション)	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討(1)	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討(2)	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成(1)	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成(2)	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	21209				区分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法(中等) [再履修]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

<授業の到達目標>

教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるといふ実践力の育成も目指す。

<授業の方法>

「学習指導要領解説 特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。また、デジタルツールを活用するとともに、児童生徒がICT機器を使うことができるよう指導方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説 特別活動編」のページに目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度30%、授業のリフレクション30%、レポート（学習指導案）等40%

<教科書>

文部科学省（平成30年2月28日） 中学校学習指導要領解説 特別活動編 東山書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史の変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史の変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（1）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（2）	具体的な実践事例をもとに、学級における話し合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成（1）	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15	学級活動の学習指導案作成（2）	各自が作成した学級活動の学習指導案を練り上げ、より良いものに仕上げる。
16		

科目コード	31402				区分	コア科目			
授業科目名	学習指導と学校図書館				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進める。毎回課題を提示する。主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

資料等を用いる授業の前には、あらかじめ資料に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25） 探求 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館 全国学校図書館協議会

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 総則編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習の時間と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性と学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	司書教諭が担う役割	学習指導と学校図書館における司書教諭が担う役割について理解する。
16		

科目コード	37503				区分	コア			
授業科目名	スポーツメディア論 [PP用]				担当者名	宇野 博武			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

たとえば考えてみましょう。なぜスポーツチームは合宿を行うのでしょうか。「合宿をすれば強くなれる」と、少なくとも私は、これまでそう信じていました。何がしかの根拠があることを知っているわけではないにもかかわらず、です。まるで、スポーツマンガの主人公が合宿で必殺技を身につけライバルに圧勝してしまうかのように。さて、スポーツメディアは、スポーツに多様な意味を付与します。それは時にときに過剰な意味付与となっています。そして、私たちがまた、スポーツメディアの語るスポーツを解釈し、他者と語り合うことで、スポーツの意味を

<授業の到達目標>

①スポーツメディア論の主要概念を理解できるようになる。②身の回りのスポーツ情報をメディアスポーツとして発信できるようになる③メディアスポーツに相応しい文章表現を身につける④メディアスポーツを批判的に読めるようになる

<授業の方法>

Classroomを利用したオンデマンド型授業。講義毎に映像資料と講義資料を配信します。各回のテーマに沿った学習課題を指示しますので、その課題に取り組みながらオンデマンド形式で学習を進めてください。また、この講義では、家族などの身近な人への取材活動、スポーツ記事の執筆、スポーツ漫画の批評といった学習課題に取り組みますので、あらかじめ了解してください。なお、本講義では、定期試験は実施しません。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この講義では準備学習として、講義毎の小テストに向けた復習、あるいは、レポート作成のためのフィールドワークやデータ収集・整理といった学習課題に取り組んでもらいます（1時間程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・レポートⅠ（自身のスポーツ経験をスポーツ記事化する）50%・レポートⅡ（スポーツ漫画からステレオタイプを読み解く）50%※期末試験はありません※余裕のある授業スケジュールを計画していますので、提出期限内にレポートを提出できなかったものへの代替措置もありません（提出期限も幅があるため、特定の予定によって提出ができない可能性は皆無に等しい）。

<教科書>

教科書は使用しません。講義毎に担当教員が資料を配布し学習を進めていきます。

<参考書>

橋本純一（2002） 現代メディアスポーツ論 世界思想社
 森田浩之（2009） メディアスポーツ解体：〈見えない権力〉をあぶり出す NHK出版
 橋本純一（2010） スポーツ観戦学：熱狂のステージの構造と意味 世界思想社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の目的、方法、評価などについて説明を行う。
2	スポーツとメディア	メディアスポーツおよびスポーツメディアの概念を説明し、それらの諸特性を概説する。
3	文章表現技法	主述のねじれ等、スポーツ記事を生産する上で留意すべき文章表現技法を説明する。文章表現上の留意点に注意して、自身のスポーツ経験を記述する。
4	物語・物語化	レポートⅠ（スポーツ記事の執筆の内容を説明する。その後、レポートⅠを作成する上で視界が必須となる、物語[narrative]概念を説明し、物語化の技法を紹介する。
5	スポーツと物語	スポーツメディアにみられる物語化の実態を説明する。その上で、レポートⅠの内容を計画してもらう。
6	評価項目の確認	レポートⅠの評価方法を確認し、評価の目揃えを実施する。
7	レポートⅠ作成・提出	レポートⅠを作成し、提出する。
8	レポートⅠの評価	レポートⅠの評価ならびにこれまでの学習内容を総括する
9	批判的読み	レポートⅡ（スポーツマンガの批評）の説明を行い、「メッセージ性」と「ステレオタイプ」の概念を概説し、スポーツにおけるステレオタイプを読み解く方法を説明する。
10	スポーツマンガ	スポーツマンガの特性やスポーツマンガにおける神話・ステレオタイプについて概説する。
11	批判的読みの計画	スポーツマンガを読み、レポートⅡの執筆内容を計画してもらう。
12	批判的読みの実践	スポーツマンガを批判的に読む。具体的には物語を読み込み、物語に前提とされている事項を確認する。

13	評価項目の確認	レポートⅡの評価方法を確認し、評価の目揃えを実施する。
14	レポートⅡ作成・提出	レポートⅡを作成し、提出する。
15	レポートⅡの評価	レポートⅡの評価ならびにこれまでの学習内容を総括する。
16		

科目コード	51018				区分	コア			
授業科目名	日本語教育演習Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

本授業では、日本語教育実習に必要な事前・事後指導を行う。事前指導では、教材研究、教案の作成、授業見学、模擬授業などを通して実習の準備を行う。事後指導では、実習の報告、振り返りを通して課題の発見や解決方法を探る。日本語教育演習Ⅰと日本語教育演習Ⅱは連続して履修すること。

<授業の到達目標>

本科目の目的は以下のとおりである。1. 日本語教員の業務に対する理解を深める。2. 教材研究や授業見学を通じて実習の準備を行う。3. 実習の報告と振り返りを通して課題を発見し、解決方法を探る。

<授業の方法>

講義及び教育実習のための演習を行う。授業見学は、学内の日本語教員の担当授業での見学を行う。個人やグループで教案作成、模擬授業の準備・実施を行う中で、受講者同士で議論しあいながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。課題や資料配布はGoogleClassroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前の活動として、模擬授業を行う項目に関して、文法的知識、練習方法、教材などを作成し、教案を作っておく。リハーサルを行い、スムーズに模擬授業できるよう準備しておく。2～3時間。事後に振り返りを行う。30分程度。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 10%, 提出物 30%, 模擬授業の評価 40%, 報告書 20%提出物は模擬授業の際にフィードバックを行う。報告書はGoogleClassroomで添削・返却する。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的
2	教案作成（1）	教案の作成方法
3	教案作成（2）	教案の作成（1）
4	教案作成（3）	相互評価
5	教案作成（4）	教案の作成（2）
6	授業見学（1）	初級前半クラス（1）
7	授業見学（2）	初級前半クラス（2）
8	授業見学（3）	初級後半クラス（1）
9	授業見学（4）	初級後半クラス（2）
10	日本語の授業の方法	授業の進め方
11	模擬授業（1）	初級前半クラス（1）
12	模擬授業（2）	初級前半クラス（2）
13	模擬授業（3）	初級後半クラス（1）
14	模擬授業（4）	初級後半クラス（2）
15	まとめ	フィードバックとまとめ
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅲ				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復術は、評価、整復、固定、後療法に分けられ、さらに後療法は手技療法、運動療法、物理療法から構成されており、整復、固定、後療法が三位一体となり、その相乗効果が期待できる治療手技として、患者の指導管理を行いながら早期に社会復帰させることを目的に行われていることを理解する。また、柔道整復術は幅広い専門基礎分野に支えられていることより、患者の人権や柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保、社会と医療、人体の概要および生命徴候、診察法、検査法、各種の疾患、リハビリテーション等の専門基礎分野全般について、総合的

<授業の到達目標>

基礎専門科目（解剖学、生理学、病理学、公衆衛生学、関係法規）を踏まえた上で、臨床科目の内科学、外科学、整形外科学、リハビリテーション医学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。また、関連する法規についても修得する。

<授業の方法>

配布した問題や資料を基に学習を進め個人及びグループ形式で学習を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に提示された疾患について、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し授業に臨むことが重要である（3時間程度）。授業後は講義内容をふりかえり、「学び直した学習内容」についてのまとめを期日までに紙媒体あるいはデータの場合はDropboxを用い担当教員に提出する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【Web授業】①課題内容90% ②意見交換10%【対面授業】定期（評価）試験（80%）、受講態度・学習意欲（20%）で評価する。尚、シラバスで明示してある総合考察1又は2が終了した時点で、臨床柔道整復学演習Ⅲ試験①～③を実施し、その3回の試験において2回以上国家試験合格基準を上回ることで、国家試験の受験に際して必要な「卒業見込み証明書」を発行する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会監修 整形外科学 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 外科学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	基礎専門分野（解剖学・生理学）より人体構造と役割を理解する。	運動器と器官系の構造と役割について理解を進める。
2	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	腫瘍・炎症・感染と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨・関節と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	医学的評価と疾患の関連性について学習する
5	総合考察1	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
6	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	腹横筋・内腹斜筋・外腹斜筋・腹直筋2
7	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	ショック・輸血、輸液と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨腫瘍と症状の関連性について学習する
9	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	脳卒中、脊髄損傷と症状の関連性について学習する
10	総合考察2	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
11	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、代表的な臨床症状等について理解を深める。
12	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種	移植・出血と疾患の関連性について学習する

13	疾患を考察する 基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学） より各種疾患を考察する	スポーツと疾患の関連性について学習する
14	基礎専門分野（リハビリテーション医学・ 運動学）より各種疾患を考察する	リハビリテーションと福祉の関連性について学習する
15	総合考察 3	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
16		

科目コード	51016				区分	コア			
授業科目名	日本語教育実習Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

教壇実習を実施しながら、日本語教師に必要な資質・能力を高める。外国人相手に授業をすることによって、日本語教育や学生への理解を深めるとともに、日本語教師の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

教材研究や指導計画の作成、授業時の指導技術や態度、授業後の振り返り等の一連の授業づくりに熱意と創意工夫を持って取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

実際に日本語を学んでいる外国人に対して教壇実習を行う。授業計画や教案、教材の準備はもちろん、実際の授業の中での学生対応についても学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前準備（2～3時間）：教材研究や教案づくりなど教壇実習の準備。事後（30分程度）：教壇実習の振り返り。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習の評価 80%，実習記録 20%実習記録は実習終了後に確認してGoogle Classroomを通じて返却する。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習（1）	実習と振り返り（1）
2	教育実習（2）	実習と振り返り（2）
3	教育実習（3）	実習と振り返り（3）
4	教育実習（4）	実習と振り返り（4）
5	教育実習（5）	実習と振り返り（5）
6	教育実習（6）	実習と振り返り（6）
7	教育実習（7）	実習と振り返り（7）
8	教育実習（8）	実習と振り返り（8）
9	教育実習（9）	実習と振り返り（9）
10	教育実習（10）	実習と振り返り（10）
11	教育実習（11）	実習と振り返り（11）
12	教育実習（12）	実習と振り返り（12）
13	教育実習（13）	実習と振り返り（13）
14	教育実習（14）	実習と振り返り（14）
15	教育実習（15）	実習と振り返り（15）
16		

科目コード	37508				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ施設経営論 [PP4年生用]				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

フィットネス業界は、2019年（平成31年）には、売上高4,939億円（前年比3.2%増）、施設数6,188軒（前年比6.38%増）と総合型クラブが業界を牽引してきました。しかし、この10年の間に、24時間営業ジムやサーキットジム、ホットヨガスタジオなどの小規模業態が登場し、他業種からの参入も活性化しています。また、2020年年始からのコロナ禍により、ホームフィットネスや健康関連アプリサービスも台頭してきました。この授業では「民間スポーツ施設」にフォーカスをあて、社会環境、業界動向、事業構造等の事例を通じて

<授業の到達目標>

1. 体系的にフィットネスクラブマネジメントに関わる知識・技術を身につけている 2. スポーツに関わる仕事の選択肢を増やすことができる 3. 国家資格である「フィットネスクラブマネジメント《ベーシック》」を取得するために必要な知識・技能を習得している

<授業の方法>

本授業は、事前課題をもとに講義を中心に進めます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書活用し、事前課題を行い、授業内容に触れておく（30分）復習：学習内容の復習を行う（30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 40%、 授業内での課題 30%、 レポートの課題 30%

<教科書>

一般社団法人日本フィットネス産業協会（2022年2月1日） フィットネスクラブマネジメント公式テキストVol.1 初級《ベーシック》

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方フィットネス産業の概要
2	フィットネス産業	フィットネス産業の現状、歴史、特徴健康施策の概要と動向
3	健康づくり	生活習慣病とその予防栄養・運動・休養高齢者の健康づくり
4	運動・トレーニングの基礎	運動生理学、トレーニングの基礎
5	店舗運営①	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
6	店舗運営②	フロント業務、ジム運営業務スタジオ運営業務、プール運営業務
7	店舗運営③	イベントの企画・運営付帯事業クラブ内での緊急対応
8	トレンド	業界のプレイヤー、最新サービスの今
9	顧客マネジメント①	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
10	顧客マネジメント②	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
11	チームワークとコミュニケーション	組織と業務分担の考え方仕事の進め方コミュニケーションの重要性リーダーの役割とフォロワーの役割
12	施設・設備管理の意義と重要性	総合クラブの施設内容管理の概念と基本
13	労働・安全衛生	労働者の保護職場の安全衛生の基本感染症対策
14	データからみるフィットネスクラブ	フィットネスクラブを取り巻く状況を数値から捉える
15	授業まとめ	スポーツ施設経営を学ぶ重要性
16		

科目コード	21325			区分	専門基礎科目				
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法(初等) [再履修]			担当者名	木野 正一郎				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力(実践力)を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、こども自らが主体的に仲間とともに「考え、議論する道徳科」の探究な学習を授業に設計し、その評価を効果測定によって分析できるようになることである。

<授業の方法>

課題や資料配付はGoogleクラスルーム等で行うか授業時に直接配付する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて仲間とともに相互評価を行いながら、授業の設計力・分析力を向上させる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく(1時間程度)。・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく(1時間程度、ミニレポートを課す可能性あり)。・授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する(1～2時間程度)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 40%、指導案・模擬授業等 30%、試験 30%(※評価の観点：高(優レベル) ...資料や情報が盛りだくさんで、その根拠(エビデンス)に基づき自分の意見も十分に主張できている場合/中(良レベル) ...資料や情報のある程度調べ、一定の意見が主張されている場合/要努力(可レベル) ...資料や情報があいまいで、自分の意見が少ない場合/補講(不可予備軍レベル) ...提出物の未提出や、欠席・参加意欲の低い場合)

<教科書>

木野正一郎(2016年4月15日) 新発想!道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだー問題解決ワークショップで道徳性を深化する みくに出版株式会社
 押谷由夫・柳沼良太編(2014年7月7日) 道徳の時代をつくる!一道德教科化への始動ー 教育出版株式会社
 日本道徳教育学会全集編集委員会(2021年6月30日) [初頭向け]幼稚園、小学校における新しい道徳教育[中等向け]中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育 株式会社 学文社

<参考書>

文部科学省(2018年3月30日) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 株式会社 東山書房
 文部科学省(2018年3月1日) 中学校学習指導要領 特別の教科道徳編(平成29年7月) 教育出版株式会社
 田沼茂紀(2022年4月10日) 道徳教育学の構想とその展開 株式会社 北樹出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	道徳教育とは何かー道徳教育の理論と実践を学ぶー	アリストテレスの「人間がポリスの動物である」という問いから、社会に道徳が必要な理由を考え説明することができるようになる。(重要事項：アリストテレスの中庸論、道と徳の意味、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論)
2	道徳教育の現状と課題ーいのちの尊厳を守るー	いのちが存在することの意味を考え、人の尊厳を守ることが大切な理由を説明することができるようになる。(重要事項：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「特別の教科 道徳」、学校の教育活動全体で行う道徳教育観)
3	学習指導要領の理解Ⅰー道徳科の目標・内容、指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が新設された意味の面からその理念を理解し、重要事項を説明することができるようになる。(重要事項：学習指導要領「特別の教科道徳編」、「要」規定、価値葛藤、考え議論する道徳、道徳性の三側面)
4	学習指導要領の理解Ⅱー内容項目・指導計画ー	道徳的内容項目を抑え、項目毎にどのような「考え、議論する道徳」を構想できるか考えることができるようになる。(重要事項：道徳的価値の内容項目(低学年：19項目、中学年：20項目、高学年・中学生：22項目)、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方)
5	道徳教育の歴史と課題ー近世から現代までの道徳変遷史ー	日本における道徳教育の変遷史を抑え、時代ごとに要請された道徳教育観を説明することができるようになる。(重要事項：儒教・朱子学、教学聖旨、教育勅語、修身科、戦後改革、学校の教育活動全体を通じて行う道徳、道徳の時間、道徳科)

6	<p>道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理－発達心理学、社会心理学の援用－</p>	<p>発達心理学や社会心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の必要性を理解し活用することができるようになる。(重要事項：発達心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティの確立、コールバーグ、社会心理学、デュルケーム)</p>
7	<p>道徳教育の理論と方法Ⅰ【実践の体験】「小単元ユニットによる道徳科編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅰ)－</p>	<p>社会科の学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：モラル・ジレンマ、役割取得、道徳的判断力、内容項目、対立する価値分析、実生活ブレイクダウン、道徳はがき新聞)</p>
8	<p>道徳教育の理論と方法Ⅱ【実践の体験】「学校の教育活動全体で行う道徳教育編」－道徳ワークショップによる実践の体験学習(オリジナル教材の創り方Ⅱ)－</p>	<p>SDGsの学びを道徳科で補い、深め、発展させたオリジナルの実践を、実際に体験し活用することができるようになる。(重要事項：教科で行う道徳教育、道徳性の三側面(情意・認知・行動)、SDGs、ESD教育、SDGs探究はがき新聞)</p>
9	<p>道徳教育と市民性教育－共生社会における生き方教育－(*高学年では在り方教育にも触れる)</p>	<p>自己の生き方、社会における在り方について、市民教育と関連付けて理解し、説明することができるようになる。(重要事項：トマセロ、協力行動、共感性、公共科とのクロス、公民的資質、自己観(地球市民、国民、エスニック、役割・責任主体))</p>
10	<p>家庭生活、社会生活の変容と道徳教育－家庭で育む道徳教育、地域で育む道徳教育－</p>	<p>家庭や地域における道徳教育の役割を理解し、体験主義的学習を基にした理解を深めることができるようになる。(重要事項：モラトリアム、スチューデントアパシー、ニート、引きこもり、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ)</p>
11	<p>道徳授業の構想、教材選定(授業案の作成)</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かしたオリジナルの授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
12	<p>授業案の作成</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができる。</p>
13	<p>授業案の作成、相互評価軸の策定</p>	<p>提示された学習指導案のサンプルに従って、教材を探し、講義で学修した理論・体験を活かした授業を構想することができるようになる。相互評価に用い評価基準(4件法)を策定することができるようになる。</p>
14	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、仲間との相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
15	<p>模擬授業と相互評価Ⅱ、総合評価学修活動の総括「道徳教育に求められているものは何か」</p>	<p>設計した授業(マイクロ)を実践し、相互評価を通じて成果と課題をまとめることができるようになる。これからの道徳教育を展望することができるようになる。</p>
16		

科目コード	38301				区分	コア			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP免許取得者]				担当者名	坂本 康輔／中島 治彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ～Ⅲで学習した内容や教育実習での体験を下に、「学校と地域のかかわり方」や「より効果的な学校体育授業を進めることができるか」を探求していく。主に主体的な学習及び発表に焦点化した講義を行い、地域社会と学校が連携し、安全と健全な学び環境を構築するための知識を身に付ける。特に警察、消防、企業との連携に焦点を当て、地域と学校や保健体育授業のパートナーシップを築くための方法や重要性について学習する。

<授業の到達目標>

(1) 地域と学校との連携に関する理解を深め、安全で健全な学び環境を構築するための重要な役割を理解している。(2) 効果的な教授技術のあり方について基本的な考え方を理解している。(3) 学校や保健体育のニーズを理解し、自己の役割やかかわり方を見出し、将来に向けて行動することができる。(4) 模擬授業・講座を通して実践的指導力形成のあり方について理解する。

<授業の方法>

模擬授業や教育実習での課題と成果についてグループワークを通して明らかにする。また、それらの課題解決に向けた授業づくり、特に地域と学校との連携において必要なことの理解を通して授業立案・実施・反省を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席率：20% 提出物：20%、プレゼンテーション：30%、模擬授業：30%

<教科書>

<参考書>

高橋健夫 編著(2021) 「三訂版 体育科教育学入門」 大修館書店
 文部科学省(2017) 「中学校学習指導要領解説保健体育編」 東山書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明・模擬授業・教育実習の成果と課題の検討	心がまえと準備、グルーピング、模擬授業・教育実習の成果と課題の検討
2	教育実習の成果と課題を生かした地域連携について	教育実習の成果と課題をまとめ、自己の進路から学校との連携を考える
3	課題解決に向けた授業づくり①	地域と学校とのつながりについて調査する①
4	課題解決に向けた授業づくり②	地域と学校とのつながりについて調査する②
5	グループ発表	保健体育授業として関われる内容に関する発表
6	模擬授業の準備①	役割分担、授業内容の決定
7	模擬授業の準備②	模擬授業の指導案づくり
8	模擬授業の準備③	授業の実施、評価、分析の説明
9	模擬授業①	授業の実施、評価、分析(1)
10	模擬授業②	授業の実施、評価、分析(2)
11	模擬授業③	授業の実施、評価、分析(3)
12	模擬授業④	授業の実施、評価、分析(4)
13	模擬授業⑤	授業の実施、評価、分析(5)
14	模擬授業⑥	授業の実施、評価、分析(6)
15	模擬授業②の反省と授業のまとめ	模擬授業をデータから振り返る、授業のまとめ
16		

科目コード	53067			区分	コア科目				
授業科目名	幼児英語指導法Ⅲ			担当者名	Jason Witthaus／三垣 雅美				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得に着目し、理論的側面と実践的側面を融合させて学んでいきます。幼い子どもにとって、母国語の発達途上の段階で、もう1つの言語を習得させていくことは簡単ではありません。しかし、「臨界期仮説」（ある一定の時期を過ぎるとネイティブのような言語能力を身につけるのは困難になるという仮説）があるように、幼い時に新しい言語に触れることは、その後の言語習得に大きく作用します。幼児英語指導法ⅠⅡで学習した教材や教授法を応用し、こども園での実践を通して「グローバル時代に対応できる

<授業の到達目標>

幼児英語指導法のまとめとして、英語指導の実践力を高め教育者としてのグローバルな視点を獲得することを目標とします。また、こども園での実践を通して、乳幼児の発達に応じた言語活動を提供できるようにします。

<授業の方法>

領域ごとに模擬保育を計画し、乳幼児が楽しく英語に触れることができる模擬保育を計画・実践する。各国の保育では、探求学習を実施する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、将来的な保育現場での実践に向けて活用していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

指定の幼保英検テキストを購入し、指定した範囲のダイアログや単語を覚えたりする課題がある。また模擬保育に向けて、指導案の作成や準備物の作成、探求学習の課題がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬保育 30% グループへの貢献度 30% 課題提出 20% 最終課題 20%

<教科書>

一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会（2019） 幼保英語検定3、2、準1級テキストいずれか ブックフォレ

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	英語で読み聞かせ（1）	年齢に応じた教材選択や、指導法について学習し、模擬保育を計画する
3	英語で読み聞かせ（2）	模擬保育と振り返りを行う
4	英語でパネルシアター（1）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
5	英語でパネルシアター（2）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
6	英語でパネルシアター（3）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
7	英語でパネルシアター（4）	模擬保育と振り返りを行う
8	こども園での保育実践（1）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
9	こども園での保育実践（2）	こども園にて保育を行う
10	英語でアクティビティ（1）	これまでの学習の最終成果発表として実施するこども園での保育内容について検討する
11	英語でアクティビティ（2）	グループに分かれ、海外の保育や教育制度について調査する
12	英語でアクティビティ（3）	海外の保育や教育制度について調査する
13	こども園での保育実践（3）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
14	こども園での保育実践（4）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
15	こども園での保育実践（5）	こども園にて保育を行う
16		

科目コード	21320				区分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論(中等) [再履修]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では中高教員に必要となる教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。そのために「教育課程の意義」「教育課程の編成方法」「カリキュラム・マネジメント」の3つの視点から授業を展開する。

<授業の到達目標>

本講義の終了時に学生は、以下の3点を自分の言葉で説明できる。①教育課程の歴史と意義。②カリキュラムに関する基礎理論を活用した教育課程編成の実際と方法。③カリキュラム・マネジメントの意義。

<授業の方法>

講義では、ワークシート、資料、パワーポイントを使用する。学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。なお受講にあたってはパソコン必携とする。課題の管理、資料、ワークシート等の配布 Google Classroom上の質問・フォーム等を使用する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、予習(60分程度必要)すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習(60分程度)が必要な箇所を指示する。これを15コマ課するため、合計30時間の予習・復習が必要である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業(予習・復習を含む)で作成する個人課題・グループワーク課題・教育課程モデル作成(60%)、学期末試験(40%)。教育課程表は、A理論(教育課程編成の基礎理論・概念の使用状況)、B実践(実際に実践可能な計画か)、Cオリジナリティー(自分自身の理想の教育が表現されているか)の3つの観点から採点する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』
2024年4月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	教育課程の変遷	戦前の教育課程(江戸末期から太平洋戦争終戦まで)
3	学習指導要領の変遷①	戦中から戦後の教育改革(軍事主義から民主主義へ)
4	学習指導要領の変遷②	経験主義の教育課程
5	学習指導要領の変遷③	高度経済成長と系統主義の教育課程
6	学習指導要領の変遷④	新しい学力観と生きる力の教育課程
7	新しい教科をつくろう①	教科の成立要件と新しい教科の可能性
8	新しい教科をつくろう②	教育課程編成の基本原則(経験カリキュラムと教科カリキュラム)
9	新しい教科をつくろう③	グループ対抗新しい教科コンテスト
10	就学前教育の目標・内容・方法	幼稚園教育の実際(ビデオ分析)
11	遊びによる学びの実際	幼児教育カリキュラムの分析
12	カリキュラム・マネジメント①新しい学校の教育課程構造図をつくろう	教育課程の実際(全体計画・学年・学期)
13	カリキュラム・マネジメント②新しい学校の教育課程構造図をつくろう	単元指導計画・本時指導案
14	カリキュラム・マネジメント③新しい学校の教育課程構造図をつくろう	カリキュラム編成の要素、潜在的カリキュラムへの配慮、新しい学校の教育課程構造図の作成
15	教育課程の課題と評価	対象理解・目標・内容・評価の実際
16		

科目コード	21319				区分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論(初等) [再履修]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では小学校教員に必要となる教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。そのために「教育課程の意義」「教育課程の編成方法」「カリキュラム・マネジメント」の3つの視点から授業を展開する。

<授業の到達目標>

本講義の終了時に学生は、以下の3点を自分の言葉で説明できる。①教育課程の歴史と意義。②カリキュラムに関する基礎理論を活用した教育課程編成の実際と方法。③カリキュラム・マネジメントの意義。

<授業の方法>

講義では、ワークシート、資料、パワーポイントを使用する。学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。なお受講にあたってはパソコン必携とする。課題の管理、資料、ワークシート等の配布Google Classroom上の質問・フォーム等を使用する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、予習(60分程度必要)すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習(60分程度)が必要な箇所を指示する。これを15コマ課するため、合計30時間の予習・復習が必要である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業(予習・復習を含む)で作成する個人課題・グループワーク課題・教育課程モデル作成(60%)、学期末試験(40%)。教育課程表は、A理論(教育課程編成の基礎理論・概念の使用状況)、B実践(実際に実践可能な計画か)、Cオリジナリティー(自分自身の理想の教育が表現されているか)の3つの観点から採点する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』 建帛社
2024年4月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	教育課程の変遷	戦前の教育課程(江戸末期から太平洋戦争終戦まで)
3	学習指導要領の変遷①	戦中から戦後の教育改革(軍事主義から民主主義へ)
4	学習指導要領の変遷②	経験主義の教育課程
5	学習指導要領の変遷③	高度経済成長と系統主義の教育課程
6	学習指導要領の変遷④	新しい学力観と生きる力の教育課程
7	新しい教科をつくろう①	教科の成立要件と新しい教科の可能性
8	新しい教科をつくろう②	教育課程編成の基本原則(経験カリキュラムと教科カリキュラム)
9	新しい教科をつくろう③	グループ対抗新しい教科コンテスト
10	就学前教育の目標・内容・方法	幼稚園教育の実際(ビデオ分析)
11	遊びによる学びの実際	幼児教育カリキュラムの分析
12	カリキュラム・マネジメント①新しい学校の教育課程構造図をつくろう	教育課程の実際(全体計画・学年・学期)
13	カリキュラム・マネジメント②新しい学校の教育課程構造図をつくろう	単元指導計画・本時指導案
14	カリキュラム・マネジメント③新しい学校の教育課程構造図をつくろう	カリキュラム編成の要素、潜在的カリキュラムへの配慮、新しい学校の教育課程構造図の作成
15	教育課程の課題と評価	対象理解・目標・内容・評価の実際
16		

科目コード	21319				区分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論(初等) [再履修]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では小学校教員に必要となる教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。そのために「教育課程の意義」「教育課程の編成方法」「カリキュラム・マネジメント」の3つの視点から授業を展開する。

<授業の到達目標>

本講義の終了時に学生は、以下の3点を自分の言葉で説明できる。①教育課程の歴史と意義。②カリキュラムに関する基礎理論を活用した教育課程編成の実際と方法。③カリキュラム・マネジメントの意義。

<授業の方法>

講義では、ワークシート、資料、パワーポイントを使用する。学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。なお受講にあたってはパソコン必携とする。課題の管理、資料、ワークシート等の配布 Google Classroom上の質問・フォーム等を使用する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義前に、予習(60分程度必要)すべき内容と方法を指示する。講義後に、ワークシートの復習(60分程度)が必要な箇所を指示する。これを15コマ課するため、合計30時間の予習・復習が必要である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業(予習・復習を含む)で作成する個人課題・グループワーク課題・教育課程モデル作成(60%)、学期末試験(40%)。教育課程表は、A理論(教育課程編成の基礎理論・概念の使用状況)、B実践(実際に実践可能な計画か)、Cオリジナリティー(自分自身の理想の教育が表現されているか)の3つの観点から採点する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』 建帛社
2024

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	教育課程の変遷	戦前の教育課程(江戸末期から太平洋戦争終戦まで)
3	学習指導要領の変遷①	戦中から戦後の教育改革(軍事主義から民主主義へ)
4	学習指導要領の変遷②	経験主義の教育課程
5	学習指導要領の変遷③	高度経済成長と系統主義の教育課程
6	学習指導要領の変遷④	新しい学力観と生きる力の教育課程
7	新しい教科をつくろう①	教科の成立要件と新しい教科の可能性
8	新しい教科をつくろう②	教育課程編成の基本原則(経験カリキュラムと教科カリキュラム)
9	新しい教科をつくろう③	グループ対抗新しい教科コンテスト
10	就学前教育の目標・内容・方法	幼稚園教育の実際(ビデオ分析)
11	遊びによる学びの実際	幼児教育カリキュラムの分析
12	カリキュラム・マネジメント①新しい学校の教育課程構造図をつくろう	教育課程の実際(全体計画・学年・学期)
13	カリキュラム・マネジメント②新しい学校の教育課程構造図をつくろう	単元指導計画・本時指導案
14	カリキュラム・マネジメント③新しい学校の教育課程構造図をつくろう	カリキュラム編成の要素、潜在的カリキュラムへの配慮、新しい学校の教育課程構造図の作成
15	教育課程の課題と評価	対象理解・目標・内容・評価の実際
16		

科目コード	53012				区 分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校) [英語]				担当者名	伊藤 仁美/竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。模擬授業、事例研究、新しい指導技術の実践を通して教育現場で必要とされる学級経営力、生徒指導力、英語教師として教育実践力を高めます。PCを持参のうえ臨んでください。

<授業の到達目標>

①英語力を高め自己研鑽をするなど『英語教師の成長』について考え見通しを立てることができる。②教育実習の経験を踏まえうえで様々な教育課題を建設的に批判し、解決に向けての具体案を提示できる。

<授業の方法>

(1) 講義 (教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク (学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション (模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動 (まとめと発表)

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習 (1時間程度) 復習：振り返りレポート (毎回、2時間程度)

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②発表 (模擬授業) 50%、③課題・レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教職実践演習とは	教職実践演習の目的、教師に求められる資質・能力と教育実践力
2	英語教育の理論と政策	教授法の変遷と日本の英語教育
3	内容・題材論	言語の目覚め・創造性：詩について
4	指導技術 (1)	語彙指導
5	指導技術 (2)	リーディング指導
6	指導技術 (3)	リスニング指導とつまずき
7	指導技術 (4)	スピーキング指導・音読：他教科との連携
8	内容・題材論	教材を開発するとは
9	授業運営	教室内談話の分析
10	授業運営	協同学習、ペア・グループワーク
11	授業運営	様々な評価
12	学習者・教師論	動機づけ・自己効力感
13	学習者・教師論	教師教育
14	学習者・教師論	自律的学習者を育むために
15	まとめ	教育実践力磨き続けるために
16		

科目コード	53010				区 分	コア科目			
授業科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)				担当者名	檜 日佳			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学んできた教育・保育の理論や技術、教育実習や保育実習で得た学びを個別の「履修カルテ」を通して振り返り、自己課題と学習内容を明確にする。また、幼稚園・保育所・認定こども園・施設の保育者に共通して求められる資質能力及び保育活動における指導力を確かなものにするため、指導計画作成、保育実践、振り返り等を取り入れる。保育実践と振り返りを組み合わせることでより実践力を高めていく。

<授業の到達目標>

1. 保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解し、説明することができる。2. 保育者として持つべき基本的な指導力を知り、実際に指導計画を立て、実践できる。3. 保育者としての自分の力量を知り、伸ばすための方法を知り、使うことができる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。・復習：各回の講義内容について、個人またはグループで講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、試験30%

<教科書>

<参考書>

文部科学省（2018） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省（2018） 保育所保育指針解説 フレーベル館
内閣府（2018） 認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	「保育・教職実践演習」とは	授業の概要と目標、授業の流れ履修カルテの記入と分析、自己課題の設定
2	専門職としての自覚	専門性に基づく関わりの必要性教育・保育・福祉の専門家として求められる資質・能力
3	子どもの理解と人権（1）	全国保育士会『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を活用した関わりの振り返りと人権意識の再確認
4	子どもの理解と人権（2）	関わりの5つの基本と肯定的な関わりの演習
5	子どもの理解と人権（3）	個性や特性を尊重した関わりと保護者や関係機関との連携
6	保護者支援（1）	子育て支援の必要性と役割子どもにも大人にも共通する関わりの基本
7	保護者支援（2）	保護者対応の基本と演習
8	指導案の作成（1）	指導案の作成とPDCAサイクルの活用期案、月案、週案、日案の作成（1）
9	指導案の作成（2）	期案、月案、週案、日案の作成（2）
10	事例研究（1）	エピソード記録と育ちの分析（1）
11	事例研究（2）	エピソード記録と育ちの分析（2）
12	ドキュメンテーション記録（1）	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を活用した育ちを可視化するドキュメンテーション記録の作成（1）
13	ドキュメンテーション記録（2）	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を活用した育ちを可視化するドキュメンテーション記録の作成（2）
14	保育職としてのキャリア形成	専門職として学び続ける必要性と自己課題保育のやりがいとキャリア形成
15	学びの分析と学習評価	4年間の学びの分析とまとめ
16		

科目コード	53074				区 分	コア			
授業科目名	保育マネージメント演習Ⅳ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育現場がどのように運営されているかを、子どもとの関わり、保育者からのフィードバック、遊び日の企画・運営を通して身につけることを目的とする。東岡山IPUこども園でのワクワクタイムを活用し、遊びの企画・運営スキルを身につける。ワクワクタイムでは5歳児クラス約70名が、活動を行うため、そこでのコーナー保育の担当や、遊びの見守り、子どもとの関わりや、保育者の保育補助、園庭の環境整備、保育者研修の補助を実施する。

<授業の到達目標>

①遊びの企画力を身につける。②遊びの運営力を身につける①に関しては、PCを用いて指導案や、企画書、場合によっては使用教材やその金額・購入の管理を行う。②に関しては、ワクワクタイムの5歳児約70名を対象にした、コーナー保育、遊びの見守り、子どもとの関わり、保育者の保育補助を通して身につけることを目的とする。

<授業の方法>

ワクワクタイムでの遊び企画・準備

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ワクワクタイムでの遊び企画・準備・振り返り。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

遊びの企画力（遊びの考案・指導案作成30%、グループでの協力20%）遊びの運営力（保育準備30%、子どもとの関わり20%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	ワクワクタイムで子どもと関わろう	子どもの興味・関心を観察・見守りをする。
3	健康な心と体での遊び	健康な心と体での遊びが実施できるコーナー保育を展開する
4	自立心での遊び	自立心での遊びが実施できるコーナー保育を展開する
5	協同性での遊び	協同性での遊びが実施できるコーナー保育を展開する
6	道徳性・規範意識の芽生えでの遊び	道徳性・規範意識の芽生えでの遊びが実施できるコーナー保育を展開する
7	社会生活と関わりでの遊び	社会生活と関わりでの遊びが実施できるコーナー保育を展開する
8	中間振り返りでの遊び	コーナー保育の魅力、異議、必要性、課題について検討する
9	思考力の芽生えでの遊び	思考力の芽生えでの遊びが実施できるコーナー保育を展開する
10	自然との関わり・生命尊重での遊び	自然との関わり・生命尊重での遊びが実施できるコーナー保育を展開する
11	量・図形、文字等への関心・感覚での遊び	量・図形、文字等への関心・感覚での遊びが実施できるコーナー保育を展開する
12	豊かな感性と表現での遊び	豊かな感性と表現での遊びが実施できるコーナー保育を展開する
13	言葉による伝え合いでの遊び	言葉による伝え合いでの遊びが実施できるコーナー保育を展開する
14	こども園全体を通して遊びの運営	子どもの遊びがどのように発展するのかを授業全体を通してまとめる。
15	コーナー遊びの全体の振り返り	コーナー遊びの全体の振り返り
16		

科目コード	53011				区分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習(小学校)				担当者名	千葉 照久／鈺 悠介／奥山 優／安井 正郎／ 坂根 清貴／藤原 佳代子／大崎 卓己／浅野 良一／練苧 千之／木野 正一郎／三堀 仁／小 川 智勢子／藤井 健太郎／内田 仁志／高橋 章二／大野呂 浩志／林 栄昭			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教職課程等での講義及び介護体験・教育実習等で身につけた力を総合し、教師に求められる使命感や教育的愛情・人権感覚などの人間性を一層培うために、教職に就く学生の最終授業である。授業概要としては、教員に求められる共通的な資質能力及び実践的指導力の向上を図る。そのために現在までに学んだ教育理論や実習体験等を整理し、履修カルテを最大限に活用することで自分自身の弱点を補完することを目標とした授業であるので、全ての授業に参加することが最低の目標でもある。

<授業の到達目標>

児童に深い愛情を持ち適切な人間関係を築くことができるコミュニケーション能力、発達段階に応じた各教科及び領域の指導力、生徒指導力を最終学年において確かなものとする事ができる。

<授業の方法>

講義やロールプレイ、小グループでの討論に時間をかけ、実践的指導力の向上を図るために、PCを活用した演習形式による学生と教員の双方向での授業展開を行いたい。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

理解度を深めるために、授業計画のテーマに基づき、1年から4年前期までに使用した教科書・レジメ・実習ノートなどを活用して、自分の考えをまとめておくこと。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席得点(30%) 学修態度(30%) 最終レポート(40%)

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス教職実践ボランティア
2	これからの日本の教育	国が求める教育の最新動向教職実践ボランティア
3	特別支援教育の実際	障害のある児童生徒が在籍する学級経営
4	生徒指導の実際①	生徒指導の基本的な心構えほめ方と叱り方
5	学校現場が必要としている教員	教育委員会からの講話めざす教師像についてグループ協議
6	生徒指導の実際②	いじめ問題への対応不登校問題への対応
7	地域連携の実際	地域と連携した生活科の授業づくり
8	ふるさと教育のめざすもの	教育委員会の講話グループ協議
9	学校保健、学校安全の実際	学校保健、学校安全への心構えけが、食物アレルギー等への対応
10	人権教育を核とした学級づくり	教師としての心構え人権教育を核とした学級づくりの実際
11	特別活動を通した児童生徒による主体的な学級づくり	特別活動の進め方児童生徒による主体的な学級づくりの実際
12	コンプライアンス	教育委員会の講話事例によるグループ協議
13	学級経営計画案の作成	学級経営計画案の意義学級経営計画案の作成
14	社会人としての基本マナー	あいさつ 言葉遣い保護者への対応IPUを巣立つみなさんへ
15	教職実践演習のまとめ	学修のまとめレポート作成
16	赴任前後の事務手続き	

科目コード	53012				区 分	キャリア形成科目			
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校)				担当者名	早田 剛/柴山 慧/明石 啓太/田中 耕作			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、まず教職課程において学生各自が身につけてきた力量について履修カルテを元に検討することを通して、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを認識させることから始める。そして、その課題意識に応じた模擬授業の実践と振り返りを通して、不足している知識や技術、技能等を補い、教員としての力量形成を図る。その際、事実に基づいた振り返りとなるよう、データの収集や分析にICTを導入する。最後に、成果報告会において、教員として必要な資質能力の定着状況について確認する。

<授業の到達目標>

教育に対する使命感や情熱を持ち、さまざまな子どもに対しての理解力、学級経営力、生徒指導力、学習指導力等、教育現場に必要な教育実践力を身につける。また、その力で教育現場でのさまざまな課題に対し、主体的に取り組み、解決しようとする態度を身につける。

<授業の方法>

講義（アクティブラーニングの観点から履修カルテと模擬授業で解決する課題を結びつける）、模擬授業（ICT機器を用いた撮影やデータ分析を含む）、ディスカッション（Google Classroomを用いた課題管理とレポート提出を含む）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

体づくり運動、器械運動、陸上競技等、各授業テーマ、題材に沿って事前に調べておく課題、準備しておく資料がある。各授業テーマ毎に授業案を作成しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教師として授業に臨む姿勢30%、各授業でのミニレポート 40%、分析レポート 15%、演習への参加と討論への参加状況 15%

<教科書>

<参考書>

文部科学省（2017） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省（2018） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教職実践演習受講の心構え、履修カルテの記入方法
2	教育現場で必要となるICT演習①	Googleドキュメントの活用
3	教育現場で必要となるICT演習②	スプレッドシートの活用
4	教育現場で必要となるICT演習③	Googleクラスルームの運営
5	教育現場で必要となるICT演習④	JamBoardの活用
6	教育現場で必要となるICT演習⑤	これまでの振り返り
7	これからの武道教育	学校では武道の何をどう教えるべきか
8	学級経営について	1年目からでもできる良い学級経営のためのポイントとは
9	学校における体育行事	体育的行事はどう進め方がいけば良いか
10	保健体育授業のテクニック①	活動量を確保するための授業マネジメント
11	保健体育授業のテクニック②	活動の妨げにならないワークシートの作り方、使い方とは
12	保健体育授業のテクニック③	多様な他者とともに楽しむスポーツ指導を目指して
13	保健体育授業のテクニック④	体育授業中に予想外なことが起きたらどう対処するのか
14	保健体育教師の資質・能力	保健体育教師のキャリア形成
15	授業全体のふりかえり	今後の教育の方向、求められる教員の資質、役割、使命感
16		

科目コード	0			区分	コア				
授業科目名	財政学			担当者名	平野 正樹				
配当年次	2年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	2単位

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目的に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

<授業の方法>

その都度、資料を配布する。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。各講義の終わりにディスカッションを行う予定。各講義の終わりに、講義内容を踏まえた双方向のディスカッションを行う予定。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修条件として、ミクロ経済学とマクロ経済学は単位修得済みであること。予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済や財政に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	市場の失敗とは	市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(I)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(II)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(I)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(II)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	総括	財政実態の国際比較
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	民法Ⅱ				担当者名	本村 大輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

市民生活の基本法である民法のうち、債権法の領域について学ぶ。民法の大改正を受けて現代社会にマッチした法制度に改まった民法に関する知識を涵養する。また、公務員行政職（上級）で課される専門試験にも対応できるよう、民法の基礎固めをすることを目的としています。行政職志望の人は必ず履修してください。

<授業の到達目標>

- ①民法のうち債権法の基本原則を理解することができる。②債権総論と各論（特に不法行為）に関する基本的な規定を理解できる。③民法に関する知識を活用し、法的問題を論理的に解決できる。

<授業の方法>

シラバスの予定に沿い、教科書を参照しながら講義形式で進行する。学生は、あらかじめ教科書の該当箇所を熟読し、不明な点も事前に洗い出しておくこと。なお、本講義においては、各日の最後の講義（5回・10回）でGoogle Classroomを使用した小テストを行う。そして、講義最終回に試験を実施してその理解度を測定する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を熟読しておく。（60分）復習：レジュメや板書をノートにまとめる（60分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験50%、毎回の小テスト40%、受講態度（授業への取り組み）10%により授業の到達目標①～②を測定する。

<教科書>

長瀬二三男・永沼淳子（2020年8月） Nezt教科書シリーズ 民法入門 弘文堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	債権法総論(1)	総則（教科書p109～p114）
2	債権法総論(2)	債権の効力（教科書p115～p125）
3	債権法総論(3)	責任財産の保全（教科書p125～p133）
4	債権法総論(4)	多数当事者の債権および債務（教科書p133～p144）
5	債権法総論(5)	債権譲渡・債務引受（教科書p144～p150）、小テスト
6	債権法総論(6)	債権の消滅（教科書p150～p161）
7	債権法各論(1)	契約総則（教科書p166～p178）
8	債権法各論(2)	贈与・売買（教科書p178～p187）
9	債権法各論(3)	交換・消費貸借（教科書p187～p193）
10	債権法各論(4)	使用貸借・賃貸借（教科書p193～p206）、小テスト
11	債権法各論(5)	借地権（教科書p207～p218）
12	債権法各論(6)	雇用・請負・委任（教科書p208～p217）
13	債権法各論(7)	不当利得（教科書p235～p241）
14	債権法各論(8)	不法行為（教科書p241～p249）
15	試験・まとめ	
16		

科目コード	0				区分	コア科目			
授業科目名	経営戦略論				担当者名	齊藤 慎弥			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、経営学のなかでも戦略論を中心に取り上げる内容となる。経営学を学ぶ上で押さえておくべき理論について、事例などを用いながら授業を展開することで理論のみに偏った内容ではなく、イメージを持ってもらいながら経営学ないしは企業について学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

戦略論を通じて、多面的に企業について見る・考える力をつけることが最大の目標と考える。また、企業について経営学のみでなく様々な分野の学問との学際的な関連を考えることも目標とする。

<授業の方法>

板書が中心となるため、配布資料等も適宜活用しながらの進行とする。各自、資料を印刷して紙ベースでの受講あるいは資料をダウンロードしてPCで記入すること。※スマートフォンは認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎授業1時間程度の予習をおこなうこと。レポートを課すため、復習にも1.5時間程度を費やすこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間レポート 20%最終レポート 50%受講態度等 30%

<教科書>

<参考書>

講義内で紹介。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義概要説明
2	全社戦略・事業戦略	様々な戦略の類型を知る
3	多角化戦略	M&Aによる企業・組織の拡大や組織変革
4	ポジション別戦略	コストリーダーシップ戦略, 差別化戦略, 集中化戦略など
5	5 forces	5 forcesを学び、身近なビジネスや企業に当てはめて考える
6	リソースと戦略	BarneyなどのRBVに関する主要な研究者の理論を見る
7	RBVとコンピタンス, ケイパビリティ	Barney等のRBVとそれらを扱う"能力"について考える
8	中間まとめ	7回目までのまとめ&復習
9	不可視なリソース	知的リソースと戦略について見る
10	レッド/ブルーオーシャン戦略	激化している競争と競争しない競争戦略
11	イノベーション①	イノベーションの類型を学ぶ + イノベーションのジレンマについて知る
12	イノベーション②	事例で見るイノベーション, ワーク
13	外部資源の活用	アウトソーシングあるいはクラウドソーシングの活用について考える
14	ICT化と戦略	今後、成長するビジネスと衰退するビジネスについて考える
15	まとめ	総復習と最終レポートの確認
16		

科目コード	22105			区分	専門基礎科目				
授業科目名	数の理解			担当者名	上ヶ谷 友佑				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

*小学校算数科の各領域構成の詳細を提示し、小学校算数科の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識について述べる。*各講義の中で具体的な算数科教材を提示し、その算数教育的価値を考察する場を提供する。

<授業の到達目標>

*小学校算数科の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識を理解し、小学校算数科の各領域構成を体系的に説明することができる。*次の2つを副次的な目標として講義を行う。・子どもたちの数学的思考を涵養する力の育成（指導力・授業力）・算数科の教材を開発する力の育成（教材開発力）

<授業の方法>

講義形式（アクティブ・ラーニング）授業内小テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

返却された小テストを復習する。（1.5時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

3日間毎日、最後に小テストを設ける形で、1日目30%、2日目30%、最終日40%

<教科書>

文部科学省 [編] (2018) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編 日本文教出版（備考：以下のURLから電子ファイルをダウンロードすることが可能です。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm ★）

鈴木将史 [編著] (2018) 小学校算数科教育法 建帛社（備考：算数科の指導内容が体系的にまとめられているので、日々の学習の際に参考書として用いることを推奨する。★講義に持参する必要はありません。）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションおよび数の概念（整数、小数、分数）	オリエンテーションおよび数の概念（整数、小数、分数）を数学的活動を通して学習する。
2	計算の意味（加法、減法）	計算の意味（加法、減法）を数学的活動を通して学習する。
3	計算の意味（乗法、除法）、概数と見積り	計算の意味（乗法、除法）、概数と見積りを数学的活動を通して学習する。
4	式の表現と読み、四則に関して成り立つ性質	式の表現と読み、四則に関して成り立つ性質を数学的活動を通して学習する。
5	図形概念（平面図形、立体図形）	図形概念（平面図形、立体図形）を数学的活動を通して学習する。
6	図形の構成・分解	図形の構成・分解を数学的活動を通して学習する。
7	図形の性質	図形の性質を数学的活動を通して学習する。
8	角および中間テスト	角を数学的活動を通して学習する。中間テストは全体の30%
9	図形の計量（面積・体積）	図形の計量（面積・体積）を数学的活動を通して学習する。
10	量概念（長さ、重さなど）、量の大きさの比較、量の単位、量の測定	量概念（長さ、重さなど）、量の大きさの比較、量の単位、量の測定を数学的活動を通して学習する。
11	単位量当たりの大きさ、速さ	単位量当たりの大きさ、速さを数学的活動を通して学習する。
12	割合、比、比例、反比例	割合、比、比例、反比例を数学的活動を通して学習する。
13	測定値の平均	測定値の平均を数学的活動を通して学習する。
14	表、グラフ	表、グラフを数学的活動を通して学習する。
15	総復習	第1回から第14回までの内容を数学的活動を通して学習する。
16		

科目コード	23404			区分	コア科目				
授業科目名	知的障害児の心理・生理・病理			担当者名	眞田 敏／大野呂 浩志				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	集中講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業では、知的障害の心理・生理・病理の特性を脳の構造・機能に関連づけながら概説し、必要とされる基本的な支援方法について論じる。また、各種障害の特性とその特性に応じた基本的な支援方法にも言及し、知的障害の理解をより深める。特別支援教育の実践を経験した教員が授業を行う。

<授業の到達目標>

特別支援教育領域の教員として必要な知的障害に関する基礎知識を習得し、障害に伴う発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎的内容を説明することができる。

<授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1~1.5時間程度の予復習をもとに、授業での積極的な質問や授業後の課題理解の深化を測ることが望ましい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度20%、レポート提出30%、定期試験50%で評価する。

<教科書>

適宜資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	知的障害概説	知的障害の本質を理解する。
2	知的障害の生理特性：（知能機構）	知的障害につながる神経心理学的特性について理解する。
3	知的障害の生理特性：（注意機構と覚醒）	知的障害につながる脳の注意機構と覚醒について理解する。
4	知的障害の生理特性：（記憶と学習）	知的障害が呈する記憶不全と学習の不全状態について神経心理学的視点から理解する。
5	知的障害の生理特性（連合野について）	知的障害につながる前頭連合野の機能について理解する。
6	知的障害の心理特性：（認知機構）	知的障害の認知について、神経心理学的な観点から理解を深める。
7	知的障害の心理特性：（知覚機構）	知的障害児者の認知につながる知覚について、神経心理学的観点から理解する。
8	知的障害の心理特性：（問題解決メカニズム）	学校での学習場面を取り上げ、ここまでの認知的特徴の理解をもとに、知的障害児の問題解決方略の特徴について理解する。
9	知的障害の心理特性：（コミュニケーション）	知的障害の認知的特徴をもとに、具体的な場面を題材に取り、コミュニケーション上の特徴や適切な学習につながるやり取りの特徴について理解する。
10	知的障害の心理特性：（対人行動・社会性）	学校での具体的な場面を取り上げ、対人行動の特性や社会性の獲得について、知的障害の認知的特徴に紐付けながら理解する。
11	知的障害の病理特性：（染色体異常）	知的障害の状態につながる染色体異常について、具体的な症例を通じて理解をする。
12	知的障害の病理特性：（遺伝子異常）	知的障害の状態につながる遺伝子異常について、具体的な症例を通じて理解する。
13	知的障害の病理特性：（代謝異常・脳形成発達障害）	知的障害に通じる代謝異常や脳形成発達障害について、具体的な症例をもとに理解する。
14	知的障害の病理特性：（外因侵襲）	知的障害につながる外因性侵襲について、具体的な症例をもとに理解する。
15	知的障害の適応行動と家庭や医療との連携	知的障害の様々な場面の適応行動を改善するために適切な家庭や医療との連携について理解する。
16		

科目コード	35206				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクスⅡ(応用)				担当者名	明石 啓太			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いれば、身体動作を数値化し、その動作を客観的に評価することが可能となる。本授業はスポーツバイオメカニクスの応用科目として、測定・分析方法を学び、より高度な専門知識と技能を身につける。

<授業の到達目標>

スポーツバイオメカニクスの測定・分析方法を習得する。また得た知識・技能を実践できるようになる。

<授業の方法>

スポーツ科学センターを利用した演習形式で実施する。講義による説明と測定・分析を行っていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

スポーツバイオメカニクスⅠ(基礎)を履修済みであることを条件とする。授業までに図書・文献の調査(2時間)をすること。また授業時間内で終わることが出来なかった分析作業(2時間)を、次回までに完了すること。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

測定・分析方法の習得状況(30%)、レポート・プレゼン内容(70%)

<教科書>

なし

<参考書>

ゴードン・ロバートソンほか 身体運動のバイオメカニクス研究法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	授業計画, 授業の進め方, スポーツバイオメカニクスⅠの復習
2	スポーツバイオメカニクスの基礎の確認	スポーツバイオメカニクスⅠで学んだ内容の確認
3	測定①	運動の基礎的な測定手法を身につける。
4	分析①	運動の基礎的な分析手法を身につける。
5	データ解釈①	測定・分析で得られたデータの解釈について学ぶ。
6	ディスカッション①	データの解釈について履修者間でディスカッションを行う。
7	測定②	運動の応用的な測定手法を身につける。
8	分析②	運動の応用的な分析手法を身につける。
9	データ解釈②	測定・分析によって得られたデータの詳細な解釈について学ぶ。
10	ディスカッション②	データの解釈について履修者間で詳細なディスカッションを行う。
11	プロジェクト研究①	グループを作り, 研究テーマを決める。
12	プロジェクト研究②	研究テーマに合った測定方法を用いて, データを記録する。
13	プロジェクト研究③	記録したデータをパソコンで読み込み, 分析する。
14	プロジェクト研究④	研究結果を基に, プレゼン資料を作成する。
15	研究発表会	研究成果を発表する。
16		

科目コード	35213			区分	コア科目				
授業科目名	スポーツバイオメカニクス実習			担当者名	明石 啓太				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いれば、身体動作を数値化し、その動作を客観的に評価することが可能となる。本授業はスポーツバイオメカニクスの応用科目として、測定・分析方法を学び、より高度な専門知識と技能を身につける。

<授業の到達目標>

スポーツバイオメカニクスの測定・分析方法を習得する。また得た知識・技能を実践できるようになる。

<授業の方法>

スポーツ科学センターを利用した演習形式で実施する。講義による説明と測定・分析を行っていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

スポーツバイオメカニクスⅠ（基礎）を履修済みであることを条件とする。授業までに図書・文献の調査（2時間）をすること。また授業時間内で終わることが出来なかった分析作業（2時間）を、次回までに完了すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

測定・分析方法の習得状況（30%）、レポート・プレゼン内容（70%）

<教科書>

なし

<参考書>

ゴードン・ロバートソンほか 身体運動のバイオメカニクス研究法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	授業計画、授業の進め方、スポーツバイオメカニクスⅠの復習
2	スポーツバイオメカニクスの基礎の確認	スポーツバイオメカニクスⅠで学んだ内容の確認
3	測定①	運動の基礎的な測定手法を身につける。
4	分析①	運動の基礎的な分析手法を身につける。
5	データ解釈①	測定・分析で得られたデータの解釈について学ぶ。
6	ディスカッション①	データの解釈について履修者間でディスカッションを行う。
7	測定②	運動の応用的な測定手法を身につける。
8	分析②	運動の応用的な分析手法を身につける。
9	データ解釈②	測定・分析によって得られたデータの詳細な解釈について学ぶ。
10	ディスカッション②	データの解釈について履修者間で詳細なディスカッションを行う。
11	プロジェクト研究①	グループを作り、研究テーマを決める。
12	プロジェクト研究②	研究テーマに合った測定方法を用いて、データを記録する。
13	プロジェクト研究③	記録したデータをパソコンで読み込み、分析する。
14	プロジェクト研究④	研究結果を基に、プレゼン資料を作成する。
15	研究発表会	研究成果を発表する。
16		

科目コード	35206			区 分	コア科目				
授業科目名	スポーツバイオメカニクスⅡ(応用)			担当者名	明石 啓太				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いれば、身体動作を数値化し、その動作を客観的に評価することが可能となる。本授業はスポーツバイオメカニクスの応用科目として、測定・分析方法を学び、より高度な専門知識と技能を身につける。

<授業の到達目標>

スポーツバイオメカニクスの測定・分析方法を習得する。また得た知識・技能を実践できるようになる。

<授業の方法>

スポーツ科学センターを利用した演習形式で実施する。講義による説明と測定・分析を行っていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

スポーツバイオメカニクスⅠ(基礎)を履修済みであることを条件とする。授業までに図書・文献の調査(2時間)をすること。また授業時間内で終わることが出来なかった分析作業(2時間)を、次回までに完了すること。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

測定・分析方法の習得状況(30%)、レポート・プレゼン内容(70%)

<教科書>

なし

<参考書>

ゴードン・ロバートソンほか 身体運動のバイオメカニクス研究法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	授業計画, 授業の進め方, スポーツバイオメカニクスⅠの復習
2	スポーツバイオメカニクスの基礎の確認	スポーツバイオメカニクスⅠで学んだ内容の確認
3	測定①	運動の基礎的な測定手法を身につける。
4	分析①	運動の基礎的な分析手法を身につける。
5	データ解釈①	測定・分析で得られたデータの解釈について学ぶ。
6	ディスカッション①	データの解釈について履修者間でディスカッションを行う。
7	測定②	運動の応用的な測定手法を身につける。
8	分析②	運動の応用的な分析手法を身につける。
9	データ解釈②	測定・分析によって得られたデータの詳細な解釈について学ぶ。
10	ディスカッション②	データの解釈について履修者間で詳細なディスカッションを行う。
11	プロジェクト研究①	グループを作り, 研究テーマを決める。
12	プロジェクト研究②	研究テーマに合った測定方法を用いて, データを記録する。
13	プロジェクト研究③	記録したデータをパソコンで読み込み, 分析する。
14	プロジェクト研究④	研究結果を基に, プレゼン資料を作成する。
15	研究発表会	研究成果を発表する。
16		

科目コード	62016				区 分	コア			
授業科目名	救急処置 [AT]				担当者名	原 賢二			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

救急処置法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的な問題に焦点を当てて、その対処法を学ぶ。具体的には、外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについても講義を通して学ぶ。

<授業の到達目標>

スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことが出来るようになる。

<授業の方法>

講義および実技

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

実施した内容を必ず復習する

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（30%）、筆記試験（70%）により総合的に評価する

<教科書>

<参考書>

財団法人 日本体育協会 2007 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑧

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、スポーツ現場での救急処置の特徴	授業全体の説明およびスポーツ現場における救急処置の考え方について
2	熱中症の救急処置と水分補給	熱中症の分類とその対応について
3	スポーツ傷害の救急処置（RICE処置）	RICE処置について
4	スポーツ傷害の救急処置（固定法）	固定法について
5	創の処置、止血法	創の分類とその対応について
6	心肺蘇生法（CPR）の理論	CPRの意義、およびその理論について
7	CPR実技	CPR実技
8	AED実技	AEDの実技
9	CPRの実践応用	様々な場面を想定したCPRの実践について
10	頭頸部外傷の救急処置の理論	頭頸部外傷の救急処置の理論について
11	頭頸部固定実技	ネックカラーの使用法について
12	運搬法実技	バックボードの使用法について
13	緊急時の救急体制	スポーツ現場における緊急時対応計画について
14	総まとめ	総まとめ
15	筆記テスト	筆記テスト
16		

科目コード	62016				区 分	カリキュラムにより異なる			
授業科目名	救急処置 [CSCS,衛生管理者：資格取得者のみ]				担当者名	石井 英一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	カリキュラムにより異なる

<授業の概要>

BLS（ベーシックライフサポート）を中心とした救急処置の知識や技術を学ぶ。救急処置では特にCPR（心肺蘇生法）の習得とAEDの使用が重要であり、その技術の習得を目指す。

<授業の到達目標>

(1) CPRおよびAEDに関する知識と技術の習得

<授業の方法>

BLS（ベーシックライフサポート）を中心とした救急処置の知識や技術を学ぶ。救急処置では特にCPR（心肺蘇生法）の習得とAEDの使用が重要であり、その技術の習得を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

実施した内容を必ず復習する

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、実技試験70%

<教科書>

日本ライフセービング協会 心肺蘇生法教本 大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容の説明
2	ケガの手当て①	止血と固定
3	ケガの手当て②	三角巾の使用方法（上肢）
4	ケガの手当て③	三角巾の使用方法（下肢）
5	ケガの手当て④	三角巾の使用方法（その他）
6	ケガの手当て⑤	ケガの手当ての確認テスト
7	BSの基礎知識①	心肺蘇生法の意義
8	BSの基礎知識②	心肺蘇生法の理論
9	BSの基礎知識③	気道内異物の除去
10	BS（CPR+AED）の実技①	CPR①
11	BS（CPR+AED）の実技②	CPR②
12	BS（CPR+AED）の実技③	CPR③
13	BS（CPR+AED）の実技④	AED①
14	BS（CPR+AED）の実技⑤	AED②
15	BS（CPR+AED）の実技⑥	BS（CPR+AED）の確認テスト
16		

科目コード	36508				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックリハビリテーションⅡ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックリハビリテーションは、①筋力回復および筋力増強、②関節可動域回復、③神経筋協調性、⑤全身持久力回復、⑥身体組成の管理、⑦再発予防および外傷予防を主な目的としている。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

<授業の到達目標>

本講義では、「アスレティックリハビリテーション基礎」からの内容を深め、特に上肢および体幹を中心とした外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラム作成と実際に実践できる知識と技術の習得を目的とする。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。また必要に応じて実技指導も行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習を毎回60分程度、定期テスト前の勉強を兼ねた復習120分程度。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

日本体育協会（2009.9.30） 「日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティックリハビリテーション」
日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ外傷・傷害総論	スポーツ現場における下肢・競技（種目別）外傷と障害の特徴について理解
2	足・足関節のリハビリテーション 足指	足関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
3	足・足関節のリハビリテーション 足関節	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
4	下腿部のリハビリテーション-前部-	膝関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
5	下腿部のリハビリテーション-後部-	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
6	膝関節のリハビリテーション-捻挫-	大腿部の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
7	膝関節のリハビリテーション-ACL-	評価に必要な検査および測定方法の理解、患部のリスク管理
8	膝関節のリハビリテーション-MCL-	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
9	大腿部のリハビリテーション-前部-	股関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
10	大腿部のリハビリテーション-後部-	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
11	股関節のリハビリテーション-前部-	競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング（-球技-）
12	股関節のリハビリテーション-後部-	競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング（-格闘技-）
13	競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング（-球技-）	競技種目特性、競技種目の動作特性、体力特性、外傷発生機転
14	まとめ	スポーツ復帰のための機能的、体力的到達目標
15	まとめ	競技種目ごとのアスレティックリハビリテーションのプログラミング
16		

科目コード	36515			区 分	コア科目				
授業科目名	トレーニング指導実習			担当者名	江波戸 智希／國友 亮佑				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

習得した知識や技術を活かし、様々な対象へのトレーニング指導を実践する。プログラムデザインから実際の指導までをすべてひとりで実施する事で、より実践的な能力を身につけ、トレーニング指導者としての資質を養う。原則としてアスリートおよび一般の両方の指導を体験する事とする。（「健康運動実習」履修者は一部免除されます）

<授業の到達目標>

対象に応じたトレーニングプログラムを作成し、適切な指導ができるようになる。

<授業の方法>

実技および現場での実習を中心とする。2年次終了時点で、CSCS取得に必要な科目を全て履修している。また、CSCSの取得を希望する学生を優先的に20名を履修上限とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：プログラムデザイン、エクササイズテクニックについて学習する。（1時間）復習：指導した際の課題や改善方法について内容をまとめる（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

トレーニング指導実践50%、課題（指導計画、指導の振り返り）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	実習の流れ、注意事項説明
2	エクササイズテクニックと指導法の確認①	下半身エクササイズのテクニックと指導法の確認
3	エクササイズテクニックと指導法の確認②	上半身プッシュ系エクササイズのテクニックと指導法の確認
4	エクササイズテクニックと指導法の確認③	上半身プル系エクササイズのテクニックと指導法の確認
5	エクササイズテクニックと指導法の確認④	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認①
6	エクササイズテクニックと指導法の確認⑤	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認②
7	プログラムデザイン①	筋肥大プログラムの立案
8	プログラムデザイン②	最大筋力向上プログラムの立案
9	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
10	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
11	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
12	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
13	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
14	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
15	まとめ（指導内容報告会）	指導内容の振り返り
16		

科目コード	40403			区分	コア科目				
授業科目名	防災キャンプ			担当者名	伊藤 三千雄				
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、災害時を意識した野外活動を実施する。災害大国日本に住む我々は、被災時にどのような対応をすればよいのか、また被害の甚大化を防ぐには日頃どのように防災を意識しておくべきなのか、科学的見地から合理的な対処方法を学ぶ。また、体育・スポーツ人はその身体性や集団の特徴から、被災時には自らや身近な人はもちろんのこと、社会的により弱き者を助けることが求められる。体育学科生として備えておきべき資質と知識を実践的に身につける実習である。新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、大学での座学と日帰り実習（もしくは1

<授業の到達目標>

現代では、被災のファーストインパクトを回避・低減し、なおかつ被災後72時間を他者の支援を受けずとも生きながらえ、また他者を補助する余裕を持つに足る知識と技能を身に付けることが求められる。以上を踏まえた上で、近代的な社会インフラ（電気・ガス・水道など）が整っていない環境下で、衣食住を高い水準で成り立たせること。それに必要な手段や方法を理解し実践でき、他者に説明できるようになることが到達目標である。

<授業の方法>

座学と実習を組み合わせた形式をとる。座学では主に防災に関わる知識を学び、実習では実際に実演可能なスキルをグループ活動の中で学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習各地での災害対応やキャンプの基礎技術（火起こし、野外炊事、ロープワーク等）について調べる（2時間）事後学習自分が被災することを想定した防災準備（食料や防災用品の備蓄）を行うこと（2時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献 60%、最終課題40%

<教科書>

<参考書>

星野敏男ほか（2011） 野外教育入門 小学館
能條歩（2020） 人と自然をつなぐ教育—自然体験教育学入門 増補改訂版 NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション／防災キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明
2	災害とはなにか、防災活動の基礎	災害そのものについて知るとともに、防災活動の必要性や意義を学ぶ。
3	社会の防災システムと個人の努力義務	自助、共助、公助の基本的方針を学ぶ。社会制度化された防災システムを確認するとともに、個人が備えておくべき義務を知る。
4	リスクマネジメントと危険予知トレーニング	災害そのもののリスクはもちろんのこと、被災後のリスクの肥大化についても学び、対策を学ぶ。
5	集団生活と健康管理	避難所での生活をはじめ、災害時対応に多い協働作業の中で、集団的な健康リスクと対策を学ぶ。
6	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ。
7	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ。
8	火起こしと火の維持管理	野外における生活水準を大きく左右する重要な要素である火の起こし方や活用方法、そして安全対策を学ぶ。
9	野外炊飯・調理	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ
10	野外工作	生活を豊かにする物が無いなら身近なものでプリコラーージュで創り出す必要がある。安全に機能的な物を造り出す方法を学ぶ。
11	野外救急法	災害時など野外での傷病は、通常の都市生活時とは異なる対処が求められる。その具体的方法と考え方を学ぶ。
12	ロープワーク・搬送法	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ。
13	生活環境の整備	被災時にある程度長期的な生活を展望するには、持続可能な生活環境の整備が必要である。1週間～2週間を超える長期の野外生活を念頭に考え方と方法を学ぶ。
14	各種アクティビティの振り返りと交流	座学的な知識と実践的な技能を有意に掛け合わせて機能させる考え方を学ぶ。
15	実習全体のまとめと振り返り	実習の各局面での「あの時・あの場所」の出来事を「いま・ここ」の視点からまとめ

科目コード	40304			区分	コア科目				
授業科目名	野外活動			担当者名	浦 佑大				
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業では、災害時を意識した野外活動を実施する。災害大国日本に住む我々は、被災時にどのような対応をすればよいのか、また被害の甚大化を防ぐには日頃どのように防災を意識しておくべきなのか、科学的見地から合理的な対処方法を学ぶ。また、体育・スポーツ人はその身体性や集団の特徴から、被災時には自らや身近な人はもちろんのこと、社会的により弱き者を助けることが求められる。体育学科生として備えておきべき資質と知識を実践的に身につける実習である。新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、大学での座学と日帰り実習（もしくは1

<授業の到達目標>

現代では、被災のファーストインパクトを回避・低減し、なおかつ被災後72時間を他者の支援を受けずとも生きながらえ、また他者を補助する余裕を持つに足る知識と技能を身に付けることが求められる。以上を踏まえた上で、近代的な社会インフラ（電気・ガス・水道など）が整っていない環境下で、衣食住を高い水準で成り立たせること。それに必要な手段や方法を理解し実践でき、他者に説明できるようになることが到達目標である。

<授業の方法>

座学と実習を組み合わせた形式をとる。座学では主に防災に関わる知識を学び、実習では実際に実演可能なスキルをグループ活動の中で学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習各地での災害対応やキャンプの基礎技術（火起こし、野外炊事、ロープワーク等）について調べる（2時間）事後学習自分が被災することを想定した防災準備（食料や防災用品の備蓄）を行う（2時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献 60%、最終課題40%

<教科書>

<参考書>

星野敏男ほか（2011） 野外教育入門 小学館

能條歩（2020） 人と自然をつなぐ教育—自然体験教育学入門 増補改訂版 NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション／防災キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明
2	災害とはなにか、防災活動の基礎	災害そのものについて知るとともに、防災活動の必要性や意義を学ぶ。
3	社会の防災システムと個人の努力義務	自助、共助、公助の基本的方針を学ぶ。社会制度化された防災システムを確認するとともに、個人が備えておくべき義務を知る。
4	リスクマネジメントと危険予知トレーニング	災害そのもののリスクはもちろんのこと、被災後のリスクの肥大化についても学び、対策を学ぶ。
5	集団生活と健康管理	避難所での生活をはじめ、災害時対応に多い協働作業の中で、集団的な健康リスクと対策を学ぶ。
6	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ。
7	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ。
8	火起こしと火の維持管理	野外における生活水準を大きく左右する重要な要素である火の起こし方や活用方法、そして安全対策を学ぶ。
9	野外炊飯・調理	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ
10	野外工作	生活を豊かにする物が無いなら身近なものでプリコラーージュで創り出す必要がある。安全に機能的な物を造り出す方法を学ぶ。
11	野外救急法	災害時など野外での傷病は、通常の都市生活時とは異なる対処が求められる。その具体的方法と考え方を学ぶ。
12	ロープワーク・搬送法	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ。
13	生活環境の整備	被災時にある程度長期的な生活を展望するには、持続可能な生活環境の整備が必要である。1週間～2週間を超える長期の野外生活を念頭に考え方と方法を学ぶ。
14	各種アクティビティの振り返りと交流	座学的な知識と実践的な技能を有意に掛け合わせて機能させる考え方を学ぶ。
15	実習全体のまとめと振り返り	実習の各局面での「あの時・あの場所」の出来事を「いま・ここ」の視点からまとめ

科目コード	40112				区分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎) [次世代+再履修者用]				担当者名	明石 啓太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1: 本授業は学外施設で実施する。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、水泳理論①	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ。
2	水泳理論②	安全な水泳授業の実施について学ぶ。
3	水泳理論③	各泳法の技術理論や指導法について学ぶ。
4	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
5	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
6	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
7	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
10	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
11	グループ別練習①	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
12	グループ別練習②	習熟度別のグループで各泳法の練習をする。
13	水中運動	水中でのウォーキングやアクアビクスを体験する。
14	泳力テスト	泳力の習熟レベルをチェックする。
15	まとめ	授業で学んだことを総括する。
16		

科目コード	53015			区分	コア科目				
授業科目名	キャンプ実習 [1年生用]			担当者名	浦 佑大				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業では、統制不可能な自然環境の中で集団的・自律的生活を体験し、自己を見つめるとともに、他者との協同の重要性について学ぶ。そして、体育学科生として備えておくべき資質と知識、キャンプスキルを実践的に身につける。本授業では、グループでの活動を基本とし、オリエンテーリングなどの自然体験活動、ブライントツアーなどのアクティビティ体験を通し、集団でのコミュニケーションや自己および他者の理解、リーダー（フォロアー）シップ等の協調性、社会性など非認知能力の涵養を図る。なお、本授業は世界最古の庶民のための公立学校である

<授業の到達目標>

i. 自然環境におけるキャンプの意義・目的を理解し、スキルを身につける ii. アクティビティ体験を通し、協調性、社会性などを身につける iii. 世界最古の庶民のための公立学校で、体育を学ぶ意味を理解する

<授業の方法>

講義と実技、宿泊を伴う実習として展開する。講義においては、レクリエーション活動や野外炊事等キャンプに必要な内容を学習する。実習は岡山県内の自然体験活動が可能な施設にて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

キャンプの方法論などに関する事前学習（2時間）、活動の振り返りやまとめレポート（2時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、最終課題60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

日本野外教育研究会 キャンプテキスト 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	キャンプを理解するために	キャンプの意義と目的・歴史・環境教育
2	キャンプを理解するために	キャンプとマナー、キャンプの計画と組織、キャンプの指導者の役割
3	キャンプを理解するために	キャンプの安全管理、キャンプでの調査と評価
4	対象に応じたキャンプ	オートキャンプ
5	対象に応じたキャンプ	組織キャンプ
6	対象に応じたキャンプ	学校キャンプ
7	キャンプの生活技術	天候変化の予測方法、キャンプ用具とその使い方
8	キャンプの生活技術	野外炊事、テント、ロープワーク
9	キャンプの生活技術	キャンプにおける安全対策と応急処置の方法
10	キャンプのプログラム	レクリエーションゲーム
11	キャンプのプログラム	自然に親しむゲーム、環境プログラム
12	キャンプのプログラム	天候に応じたプログラム、体験プログラム
13	キャンプファイアーの理論と実際	キャンプファイアーの種類とねらい
14	キャンプファイアーの理論と実際	キャンドルファイアーの特徴・準備・バリエーション
15	キャンプファイアーの理論と実際	キャンプファイアーのプログラム・作成上の留意点
16		

科目コード	40401			区 分	コア科目				
授業科目名	インクルーシブスポーツ [レスキュースノーケラー用]			担当者名	三浦 孝仁/佐々木 史之				
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、インクルーシブスポーツの一つとして位置づけられるスノーケリングについて、その理論と実技を学ぶ。水難事故が増えている昨今において、水辺活動の安全教育や救助活動における知識とスキルを身につけた人材は、教育現場や地域で必要とされている。本授業では、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会並びに海上保安庁玉野海上保安部の協力も得て、海上保安官という職業を理解し、安全に水辺活動ができる能力を身に付け、教育現場や地域で指導できる能力を身に付けることをねらいとする。また履修条件としては①健康で、体力に

<授業の到達目標>

①安全な水辺活動の方法を理解し、スノーケリング技術を習得する②溺者の救助方法を身に付ける③日本海洋レジャー安全・振興協会公認のレスキュースノーケラー検定を受け、合格する

<授業の方法>

座学と実技を組み合わせた形式をとる。座学では主にスノーケリングに関する基礎知識を学び、実技ではスノーケリング、スキンドайビング、救助スキルを学び、指導方法も学んでいく。実技は岡山県スポーツ協会玉野スポーツセンターにて1泊2日で実施する予定である。受講に当たって別途受講料が必要となる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：オンデマンド学習で学んだことをまとめると共に、さらに調べ学習を行う(30分)。復習：実技内容について振り返り、ポイントをまとめる(30分)。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度50%、テスト30%、レポート課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要について説明し、インクルーシブスポーツの意義や必要性について学ぶ
2	スノーケリング概論	スノーケリングについて、独自性や特性、教育的意義等を学ぶ
3	海況・自然環境について	気象や海況、危険な生物等、自然環境について学ぶ
4	スキンドайビングについて	スキンドайビングの物理、生理、実際について学ぶ
5	ブール実技1	浮き身、スカーリング、エレメンタリーバックストロークについて学ぶ
6	ブール実技2	ベットボトル浮きと救助、ヘッドアップクロール、曳航について学ぶ
7	ブール実技3	ハンドシグナル、スノーケル・マスククリア、フィンキックについて学ぶ
8	ブール実技4	けいれん対処、フットブッシュ、チューブレスキュー、救助、引き揚げ方法について学ぶ
9	ブール実技5	チームレスキューについて学ぶ
10	海の安全について(講義)	海の安全、海でのルールとマナーについて学ぶ
11	ブール実技6	スノーケリング指導法について学ぶ
12	ブール実技7	技能検定を実施する
13	ブール実技8	デブリーフィングを実施し、器材の洗浄・乾燥・収納を行う
14	レポート課題	指定されたレポート課題に取り組む
15	授業のまとめと総合テスト	授業の学びを振り返り、まとめ、総合テストを実施する
16		

科目コード	40401			区分	コア科目				
授業科目名	インクルーシブスポーツ [ネット型スポーツ]			担当者名	白石 翔				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

インクルーシブスポーツとは、共生的な社会の実現に向けて障がいの有無や程度にかかわらず多様な人々が共に実施できるスポーツを指す。本授業では、インクルーシブスポーツとは何か、共生社会とどのように関わっていくのかということを実践を通して修得する。本授業を通じて学生が、誰もが同じ社会の中で共に生きるためにどのように工夫・協力し合えばよいかを考え、行動に移す力を身につけ、新たなスポーツやゲームを考案することによって指導と実践に必要な基本的知識について理解することを目的とする。担当教員の実務経験を活かし、実践的な授業

<授業の到達目標>

多様な人々が共に実施できるインクルーシブスポーツの意義や必要性について理解し、その改善や向上に向けた取り組みや指導が出来るようになることを目標とする。

<授業の方法>

担当教員の実務経験を活かし、種目を選択する。グループ活動を中心とし、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションし、誰もが共にスポーツをするために、どのような工夫・協力し合えばよいかを考え、最善の方法を見つけ出し、実践をしていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信された資料からポイントをまとめ、誰もが共にスポーツをするための技術や体力を向上させるルールを考える（30分）。復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる（30分）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度70%、 レポート課題30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション及びインクルージョンの概念	授業全体の概要を理解し、受講上の注意、評価方法、講義の概念を説明する
2	対象種目に関するオリエンテーション	実践からルールを学ぶ。
3	対象種目における工夫されたインクルーシブスポーツを実践する	障害の有無、年齢、性別など身体特性に依存することなく、「共に楽しむ」ことができるインクルーシブスポーツという一般的な概念を実践する。
4	学校体育におけるインクルーシブスポーツ（指導者の意識）の課題把握	学校体育で実施されているインクルーシブスポーツを体験し、実践者・指導者の意識変容プロセスについて学ぶ。
5	学校体育におけるインクルーシブスポーツ（子供の意識）の課題把握	学校体育で実施されているインクルーシブスポーツを体験し、子供の意識変容プロセスについて学ぶ。
6	学校体育におけるインクルーシブスポーツの課題を踏まえたグループ検討	グループにおいて、全ての児童達が「共に楽しむ」ことができるインクルーシブスポーツのルール検討する。
7	学校体育におけるの課題改善するインクルーシブスポーツ実践①	子供を対象とした「共に楽しむ」ことができるインクルーシブスポーツを実践する①。
8	学校体育におけるの課題改善するインクルーシブスポーツ実践②	子供を対象とした「共に楽しむ」ことができるインクルーシブスポーツを実践する②。
9	高齢者を対象としたインクルーシブスポーツからの課題把握	高齢者を対象としたインクルーシブスポーツにおける意識変容プロセスについて学ぶ。
10	高齢者を対象としたインクルーシブスポーツの課題を踏まえたグループ検討	グループにおいて、高齢者と「共に楽しむ」ことができるインクルーシブスポーツのルール検討する。
11	高齢者を対象とした問題点を改善するインクルーシブスポーツ実践	高齢者を対象とした「共に楽しむ」ことができるインクルーシブスポーツを実践する。
12	障がい者を対象としたインクルーシブスポーツからの課題把握	障がい者を対象としたインクルーシブスポーツにおける意識変容プロセスについて学ぶ。
13	障がい者を対象としたインクルーシブスポーツの課題を踏まえたグループ検討	障がい者を対象としたインクルーシブスポーツにおける意識変容プロセスについて学ぶ。
14	障がい者を対象とした問題点を改善するインクルーシブスポーツ実践	障がい者を対象とした「共に楽しむ」ことができるインクルーシブスポーツを実践する。
15	まとめ	今までの実践を踏まえたグループで自由討論を行い、レポートを提出する。
16		

科目コード	53015			区 分	コア科目				
授業科目名	キャンプ実習 [1年生用]			担当者名	田中 耕作				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業は、グループ活動や自然の中での活動を中心とする自然体験型の野外活動キャンプを学習する。実習を通して共同生活や野外活動に対する理解を深め、人間関係作りを行っていく。様々なアクティビティを実施し、キャンプにおける実践力を身に付けると共に他者とのコミュニケーションを取り、自己および他者理解につなげていく。さらに、リーダー（フォロワー）シップ、協調性、社会性等の非認知能力の涵養を図り、大学生として備えておくべき資質と知識を実践的に身に付けていく。

<授業の到達目標>

本実習では以下の3つを到達目標とする。(1) 自然の中で集団的、自律的生活をすることによって自己理解・他者理解につなげ、チーム力を高める。(2) 自然に対して親しみをもち、様々な野外活動を通してキャンプに対する理解を深める。(3) 将来、キャンプを指導する立場に置かれたときに役立つ実践力を身に付ける。

<授業の方法>

座学と実習を組み合わせた形式をとる。座学では主に野外活動に関わる知識を学び、実習では実際に実演可能なスキルをグループ活動の中で学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

実習の事前準備に関しては、決められた役割について責任をもって取り組めるよう準備をする。また、キャンプにおけるリスクマネジメントについて事前に学習しておく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献 60%、レポート課題40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

2020 人と自然をつなぐ教育—自然体験教育学入門 NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター

2011 野外教育入門 小学館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション／キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明する
2	野外教育について（講義）	社会環境の変化等による自然への理解や認識の不足、自然への対応力の不足が指摘される中で、今日に求められる野外教育について学習する
3	自然体験活動の安全管理	自然体験活動における安全管理について考え、危険を回避するための方法を学ぶ
4	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ
5	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ
6	ロープワーク	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ
7	ネイチャーワーク(1)	チームで計画を立て、協力し合い、チャレンジハイクに取り組む
8	ネイチャーワーク(2)	チームでの振り返りと全体でミーティングを行う
9	キャンプファイヤー	チームでスタンツ考え、発表し、キャンプファイヤーを実施する
10	ナイトハイク	人工の光が入らない暗闇の中で、五感を生かし団結し、チームでナイトハイクを行う
11	フィールドワーク	自然の中に繰り出し、植物や生き物を感じながら語らい、指定された課題に取り組みコースを回る
12	野外炊飯・調理(1)	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ
13	野外炊飯・調理(2)	火や刃物に注意し、野外での調理を実践する
14	野外工作	フィールドワークで収集した材料でクラフト作りを行う
15	実習全体の振り返りとまとめ	実習での学びを振り返り、まとめる
16		

科目コード	34123			区分	コア科目				
授業科目名	幼児と環境			担当者名	平松 美由紀				
配当年次	1年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

領域「環境」の指導に関して必要となる感性を養い、保育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代における幼児を取り巻く環境との関わりの発達等について学ぶ。

<授業の到達目標>

(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。(2) 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。(3) 幼児期の標識、文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

<授業の方法>

講義では、領域「環境」に関するワークシート、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、PCのグループワークツールを使用する。各個人がワークシートに自己の体験、経験や自己の考えを記入する活動を15分程度、保育における基本である「環境を通して行う保育・教育」の在り方や、領域「環境」の「ねらい」、「内容」、「内容の取扱い」に関する理解や、乳幼児の発達と領域「環境」の関連に関して習得するための講義45分程度、ビデオ分析やグループ討議30分程度を組み合わせた講義を展開する。なおこの授業は

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、身近な環境に興味・関心をもったり、授業に必要な資料や教材、用具等の準備をしたりしておく。(30分～1時間程度) また、授業内に提示された課題は、次回の授業までの作成に取り組んだり、準備学習(予習・復習等)をしたりする。(1時間程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲、グループワークの参加態度(30%) 課題やワークシート、レポート提出と内容(40%) 小テスト等(30%) ワークシート・レポート、小テストに関しては①キーワード(授業内の内容) ②記載内容の質と量 ③自分自身の考えの記載について評価し、その後は学生にフィードバックする。

<教科書>

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

<参考書>

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	現代社会における幼児を取り巻く環境(OECD調査を踏まえ)	現代社会における「環境」について考える。(演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明)
2	幼児を取り巻く環境と今後の課題(持続可能な社会を踏まえ)	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の比較
3	領域「環境」を学ぶ意義(幼児教育の視点から)	保育内容 領域「環境」が示す基本的な保育の考え方
4	乳幼児期の発達における環境とのかかわり	乳幼児期の発達を踏まえた保育における領域「環境」の関連
5	乳幼児期から児童期への発達と環境とのかかわり	乳幼児期の身近な環境との関わりと児童期との接続に関する内容
6	乳幼児期の生活におけるものとのかかわり	身近な環境「モノ」との関わりに関する保育内容
7	乳幼児期の生活における数と図形とのかかわり	身近な環境「数と図形」との関わりに関する保育内容
8	乳幼児の自然とのかかわり①(具体的な自然の遊び)	身近な環境「自然」との関わりに関する保育内容(具体的な自然の遊び)
9	乳幼児の自然とのかかわり②(具体的な飼育・栽培)	身近な環境「自然」との関わりに関する保育内容(具体的な飼育・栽培)
10	乳幼児の標識・文字等とのかかわり①(乳幼児を取り巻く標識と文字環境)	身近な環境「標識・文字等」との関わりに関する保育内容(具体的な乳幼児を取り巻く標識と文字環境)
11	乳幼児の標識・文字等とのかかわり②(具体的な生活の中で)	身近な環境「標識・文字等」との関わりに関する保育内容(具体的な園生活の中で)
12	乳幼児の生活に関わる地域や施設的环境	園を取り巻く地域社会における具体的な環境
13	乳幼児の生活に関わる施設等を考える(学内自然探索マップ)	身近な自然探索マップの作成

14	乳幼児の生活における環境プレゼンテーション	身近な自然探索マップの作成を基にグループ発表
15	保・幼・こども園と小学校との連携並びにまとめ、全体総括	学習の振り返り、まとめ
16		

科目コード	34116				区分	コア科目			
授業科目名	保育内容「環境」指導法				担当者名	平松 美由紀			
配当年次	2年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

領域「環境」の指導に関して必要となる感性を養い、保育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代における幼児を取り巻く環境との関わりの発達等について学ぶ。

<授業の到達目標>

(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。(2) 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。(3) 幼児期の標識、文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

<授業の方法>

講義では、領域「環境」に関するワークシート、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、PCのグループワークツールを使用する。各個人がワークシートに自己の体験、経験や自己の考えを記入する活動を15分程度、保育における基本である「環境を通して行う保育・教育」の在り方や、領域「環境」の「ねらい」、「内容」、「内容の取扱い」に関する理解や、乳幼児の発達と領域「環境」の関連に関して習得するための講義45分程度、ビデオ分析やグループ討議30分程度を組み合わせた講義を展開する。なおこの授業は

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、身近な環境に興味・関心をもったり、授業に必要な資料や教材、用具等の準備をしたりしておく。(30分～1時間程度) また、授業内に提示された課題は、次回の授業までの作成に取り組んだり、準備学習(予習・復習等)をしたりする。(1時間程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲、グループワークの参加態度(30%) 課題やワークシート、レポート提出と内容(40%) 小テスト等(30%) ワークシート・レポート、小テストに関しては①キーワード(授業内の内容) ②記載内容の質と量 ③自分自身の考えの記載について評価し、その後は学生にフィードバックする。

<教科書>

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

<参考書>

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	現代社会における幼児を取り巻く環境(OECD調査を踏まえ)	現代社会における「環境」について考える。(演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明)
2	幼児を取り巻く環境と今後の課題(持続可能な社会を踏まえ)	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の比較
3	領域「環境」を学ぶ意義(幼児教育の視点から)	保育内容 領域「環境」が示す基本的な保育の考え方
4	乳幼児期の発達における環境とのかかわり	乳幼児期の発達を踏まえた保育における領域「環境」の関連
5	乳幼児期から児童期への発達と環境とのかかわり	乳幼児期の身近な環境との関わりと児童期との接続に関する内容
6	乳幼児期の生活におけるものとのかかわり	身近な環境「モノ」との関わりに関する保育内容
7	乳幼児期の生活における数と図形とのかかわり	身近な環境「数と図形」との関わりに関する保育内容
8	乳幼児の自然とのかかわり①(具体的な自然の遊び)	身近な環境「自然」との関わりに関する保育内容(具体的な自然の遊び)
9	乳幼児の自然とのかかわり②(具体的な飼育・栽培)	身近な環境「自然」との関わりに関する保育内容(具体的な飼育・栽培)
10	乳幼児の標識・文字等とのかかわり①(乳幼児を取り巻く標識と文字環境)	身近な環境「標識・文字等」との関わりに関する保育内容(具体的な乳幼児を取り巻く標識と文字環境)
11	乳幼児の標識・文字等とのかかわり②(具体的な生活の中で)	身近な環境「標識・文字等」との関わりに関する保育内容(具体的な園生活の中で)
12	乳幼児の生活に関わる地域や施設的环境	園を取り巻く地域社会における具体的な環境
13	乳幼児の生活に関わる施設等を考える(学内自然探索マップ)	身近な自然探索マップの作成

14	乳幼児の生活における環境プレゼンテーション	身近な自然探索マップの作成を基にグループ発表
15	保・幼・こども園と小学校との連携並びにまとめ、全体総括	学習の振り返り、まとめ
16		

科目コード	52008			区 分	コア科目				
授業科目名	保育実習 I B (施設)			担当者名	松本 好生／檜寄 日佳／酒井 健太郎／大久保 諒				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、児童福祉施設・障害者施設等において観察・参加・部分実習を行う。
・児童福祉施設・障害者施設での実習を通して、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設・障害者施設の役割や機能を具体的に理解する。
・観察や利用者との関わりを通して利用者の理解を深める。
・既習の教科の内容を踏まえ、利用者の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
・支援の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。
また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価100%、事前オリエンテーション、事後学習、実習ノートにより加点

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2021） 保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習（1）	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	観察実習（利用者の様子の把握）
3	保育実習（3）	観察実習（職員の様子の把握）
4	保育実習（4）	参加実習（業務に参加することによる利用者の実際の様子の把握）
5	保育実習（5）	参加実習（業務に参加することによる職員の実際の様子の把握）
6	保育実習（6）	参加実習（業務に参加することによる利用者と職員の相互関係の把握）
7	保育実習（7）	部分実習（朝の食事介助等指導）
8	保育実習（8）	部分実習（午前のレクリエーション指導）
9	保育実習（9）	部分実習（昼の食事介助等指導）
10	保育実習（10）	部分実習（午後のレクリエーション指導）
11	保育実習（11）	部分実習（夜の食事介助等指導）
12	保育実習（12）	半日指導（午前）
13	保育実習（13）	半日指導（午後）
14	保育実習（14）	部分実習（最終レクリエーション）
15	保育実習（15）	実習施設における実習反省会
16		

科目コード	62017				区分	コア科目			
授業科目名	スポーツと食事 [AT用]				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

食事摂取・栄養補給の重要性を理解し、競技特性の異なる競技者に対する栄養サポートについて知る。また、栄養不足による疾病の予防やトレーニング状況に応じた栄養サポートを考える。さらに、サプリメントの正しい選び方と使用方法について理解し、管理栄養士と連携した栄養サポートの方法・必要性を学ぶ。

<授業の到達目標>

本講義は、アスレティックトレーナーにおいても求められる競技者の身体組成の測定方法、ウェイトコントロール、水分補給方法などのスポーツ栄養学に関する内容を学ぶ。栄養不足に基づく疾病と対策、期分けによる食事、競技者の栄養指導および栄養教育の実施を学び、競技現場において適切な指導ができる能力を身につける。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として事前に教科書の範囲を読んで授業に出席することが望ましい。授業内で配布した資料は必ず目を通し、アスレティックトレーナー資格試験の過去問題を復習として解くこと。(2時間程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の課題・小テスト 50%、最終課題 50%

<教科書>

公益財団法人 日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第9巻 スポーツと栄養 文光堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ栄養サポートとは	競技者における食事摂取・栄養補給の意義
2	スポーツ栄養マネジメントとは	スポーツ栄養マネジメントの概要、競技種目の特性
3	アスリートの身体組成	競技者の身体組成の特徴、身体組成の測定方法
4	アスリートのからだ作り、骨づくり	増量と減量
5	アスリートの糖質摂取と回復のための食事	糖質摂取とグリコーゲン回復
6	アスリートの水分補給	運動と体温調節、水分補給方法
7	栄養不足に基づく疾病と対策①	ビタミン不足と症状、対策
8	栄養不足に基づく疾病と対策②	鉄、エネルギー不足と症状、対策
9	栄養素の過剰摂取	たんぱく質、脂質、ビタミンの過剰摂取と対策
10	期分けによる食事①	試合前、当日の食事
11	期分けによる食事②	試合後、オフ期の食事
12	期分けによる食事③	遠征、合宿時の食事
13	サプリメントと栄養エルゴジェニック①	サプリメントの目的や分類、効果
14	サプリメントと栄養エルゴジェニック②	サプリメントとドーピング
15	まとめ	本講義の復習
16		

科目コード	52007				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習 I A (保育所)				担当者名	檜 日佳 / 小崎 遼介 / 宮原 舞 / 服部 由美子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2019） 保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習 (1)	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習 (2)	実習園において指導のもとに観察実習 (1)
3	保育実習 (3)	実習園において指導のもとに観察実習 (2)
4	保育実習 (4)	実習園において指導のもとに参加実習 (1)
5	保育実習 (5)	実習園において指導のもとに参加実習 (2)
6	保育実習 (6)	実習園において指導のもとに参加実習 (3)
7	保育実習 (7)	実習園において指導のもとに参加実習 (4)
8	保育実習 (8)	実習園において指導のもとに参加実習 (5)
9	保育実習 (9)	実習園において指導のもとに部分実習 (1)
10	保育実習 (10)	実習園において指導のもとに部分実習 (2)
11	保育実習 (11)	実習園において指導のもとに部分実習 (3)
12	保育実習 (12)	実習園において指導のもとに部分実習 (4)
13	保育実習 (13)	実習園において指導のもとに部分実習 (5)
14	保育実習 (14)	実習園において指導のもとに半日実習
15	保育実習 (15)	実習園における実習反省会
16		

科目コード	62001				区分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナーの役割				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、まずスポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割を具体的に示しながら、日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景を紹介する。そのうえで、アスレティックトレーナー業務を組織的に運営していく方法、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家と連携を取って選手をサポートしていく方法など、アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識の養成を図る。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生

<授業の到達目標>

日本におけるアスレティックトレーナーの歴史とその役割、具体的な業務、さらにはアスレティックトレーナーを目指す上で必要な知識や技術、資質について理解することをねらいとする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ(=授業において自分がしっかり聞いておかないといけなところ)を把握する、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30% (出席評価、授業への積極的な参加)、課題レポート (適宜出される課題、最終レポート) 70%

<教科書>

財団法人日本体育協会 (2007. 3. 31) 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①」 日本体育協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	アスレティックトレーナーとは-日本のAT-	アスレティックトレーナーの起源、歴史的背景から現在の制度発足に至るまでの経緯
3	アスレティックトレーナーとは-海外のAT-	諸外国のトレーナー状況
4	アスレティックトレーナーの役割-任務と役割-	アスレティックトレーナーの任務、役割、求められる資質
5	アスレティックトレーナーの役割-7つの業務-	主な業務内容 (スポーツ外傷・傷害の予防、救急措置、リハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、組織運営、教育的指導)
6	アスレティックトレーナーの役割-実際の活動-	日本におけるトレーナーの実情と問題点。競技別におけるトレーナーの活動状況。
7	医科学スタッフとの連携・協力-スタッフの構成と役割-	サポートスタッフ構成の中でのアスレティックトレーナーの役割
8	医科学スタッフとの連携・協力-ドクター・コーチとの連携-	スポーツドクター、コーチ、他の医科学スタッフとの連携協力
9	組織運営と管理-ATチームの組織と運営-	アスレティックトレーナーの組織作り、運営方法
10	組織運営と管理-データ管理-	アスレティックトレーナーが扱うデータの管理方法
11	アスレティックトレーナーと倫理-ATの社会的立場と秩序-	アスレティックトレーナーとして知っておくべきATの社会的立場。また、アスレティックトレーナーに求められる倫理と社会の秩序。
12	アスレティックトレーナーと倫理-医療関係法規-	アスレティックトレーナーが関わる可能性のある医療関係法規。また、海外におけるATの倫理。
13	アスレティックトレーナーと倫理-法的諸問題-	アスレティックトレーナーとして、留意すべき法的諸問題と裁判事例。
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	アスレティックトレーナーの役割に関する総合討議
16		

科目コード	36510				区分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定について、その目的と意義を理解して具体的に実践できるまでの能力を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

関節可動域測定法、徒手筋力検査法、スポーツ動作分析など各種検査測定手法ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

コンディショニングルーム、実技実習室内で講義・実習を進めていく。適宜レポート提出、復習テストなどを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にテキストを読み、機能解剖、検査・測定に関する予習を60分以上行い授業を受講すること。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行うこと。現場において救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、レポート）、検査測定実技達成度 70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤ 検査・測定と評価（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスレティックトレーナーに必要な評価	アスレティックトレーナーによる評価の目的、意義および役割
2	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法①	姿勢・アライメントの観察、計測方法
3	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法②	関節弛緩性に関する検査方法
4	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法③	関節可動域の検査方法
5	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法④	筋タイトネスの検査方法
6	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法⑤	筋委縮や筋肥大の測定方法
7	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法⑥	徒手筋力検査の測定方法
8	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法⑦	機器を用いた筋力および筋持久力の測定方法
9	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法⑧	全身持久力の測定方法
10	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法⑨	身体組成の測定方法
11	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定の手法⑩	各測定方法のまとめ
12	スポーツ動作の観察・分析①	歩行動作、走動作の分析方法
13	スポーツ動作の観察・分析②	投動作の分析方法
14	スポーツ動作の観察・分析③	ストップ、方向転換動作の分析方法
15	まとめ	検査・測定と評価における総合実習
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PP3年生以上かつAT希望者 用]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	カリキュラ ムにより異 なります。	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本講義では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともにスポーツ心理学の代表的な理論やトピックスについて解説する。なお、スポーツの現場で直面する問題と関連させながら、実践に役立つ知見を最新の研究動向を交えて講義することで、受講生が今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。

<授業の到達目標>

スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。

<授業の方法>

本授業は対面を基本とし、状況によってオンラインで実施することも視野に入れ進めていく。はじめにGoogle Classroomから出される事前課題に取り組んでもらい、授業に参加してもらう。授業は講義後にディスカッションをする時間を設け、お互いの意見を共有し、授業終わりには振り返りを行なってまとめてもらう。全授業後に最終レポート課題に取り組んでもらう。オンラインの場合は授業動画を視聴し、授業課題に取り組んでもらう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する(1時間程度)・復習として、授業内容を振り返り、学習内容を整理する(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時の課題30%、小テスト30%、最終テスト40%

<教科書>

<参考書>

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で活きるスポーツ心理学」 杏林書院
楠本恭久編著（2015年1月15日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	スポーツ心理学の研究法	スポーツ心理学の研究領域、研究方法
3	スポーツと発達	遺伝と環境、発達、身体と運動の発達
4	スポーツと学習	スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり
6	スポーツと動機づけ	動機づけのメカニズム、目標設定
7	スポーツと社会心理学	スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在
8	競技の心理 (1)	競技の心理特性、競技者の心理
9	競技の心理 (2)	指導者の心理、けがと心理
10	メンタルトレーニング (1)	メンタルトレーニングとは、資格制度
11	メンタルトレーニング (2)	競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル
12	メンタルトレーニング (3)	心理的技法の実践
13	心理臨床技法のスポーツへの応用	自律訓練法、イメージ療法、交流分析等
14	健康スポーツの心理	運動・スポーツの心理的効果
15	スポーツと臨床	バーンアウト、イップス
16		

科目コード	52002			区 分	コア科目				
授業科目名	保育実習Ⅱ(保育所)			担当者名	檜 嵯 日佳／小崎 遼介／宮原 舞				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。・保育実習ⅠAの自己課題をもとに、保育実習Ⅱへの課題を明確にする。・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会 保育所実習の手引き

<参考書>

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習 (1)	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習 (2)	実習園において指導のもとに観察実習 (1)
3	保育実習 (3)	実習園において指導のもとに観察実習 (2)
4	保育実習 (4)	実習園において指導のもとに参加実習 (1)
5	保育実習 (5)	実習園において指導のもとに参加実習 (2)
6	保育実習 (6)	実習園において指導のもとに部分実習 (1)
7	保育実習 (7)	実習園において指導のもとに部分実習 (2)
8	保育実習 (8)	実習園において指導のもとに部分実習 (3)
9	保育実習 (9)	実習園において指導のもとに観察・参加実習 (1)
10	保育実習 (10)	実習園において指導のもとに半日実習 (1)
11	保育実習 (11)	実習園において指導のもとに観察・参加実習 (2)
12	保育実習 (12)	実習園において指導のもとに半日実習 (2)
13	保育実習 (13)	実習園において指導のもとに観察・参加実習 (3)
14	保育実習 (14)	実習園において指導のもとに全日実習
15	保育実習 (15)	実習園における実習反省会
16		

科目コード	36303				区分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖・生理学実習Ⅱ				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖見学実習を中心として構成し、授業展開する。将来、柔道整復師として医療の一端を担うには人体の正常な構造、位置、形を理解する事は重要である。教科書の平面的な記載と実際とをよく見比べ、立体的、三次元的な理解を深める為に解剖見学実習を行う。解剖見学実習に向かい、心得、手順、禁止事項等を十分に把握し、篤志献体により提供された御遺体を解剖見学実習により、生と死についての洞察を得、将来の生命倫理の基礎をつくる。

<授業の到達目標>

人体の正常な構造、位置、形を三次元的に把握し、実習を通して解剖学、生理学、運動学の講義で習った身体構造と機能を理解し、説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

各授業で、テーマに沿ってグループワーク実をい、Dropboxを用いレポートを提出する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

プリントに記された実習内容に関する項目について、解剖学や生理学及び運動学で習った事を復習する。授業内容(小テスト・講義・討論)をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート(A4-1枚程度)を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

【Web授業】①課題内容90% ②意見交換10%【対面授業】実習参加意欲30%・実習試験70%

<教科書>

<参考書>

監訳 坂井 建雄/松村 譲児 発行 2013年03月 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	事前説明	解剖・生理学実習を行うにあたり事前説明を実施する。
2	参加選抜試験	解剖・生理学実習に参加するにあたり選抜試験を実施する。
3	上肢の骨	上肢の骨を理解する。
4	上肢の筋	上肢の筋を理解する。
5	上肢の神経	上肢の神経を理解する。
6	下肢の筋	下肢の筋を理解する。
7	下肢の骨	下肢の骨を理解する。
8	下肢の神経	下肢の神経を理解する。
9	全身の脈管系	全身の脈管系を理解する。
10	胸部内蔵	胸部内蔵を理解する。
11	腹部内蔵	腹部内蔵を理解する。
12	解剖見学実習1	上肢の解剖見学実習
13	解剖見学実習2	下肢の解剖見学実習
14	解剖見学実習3	体幹の解剖見学実習
15	解剖見学実習事後指導	実習に対する全体討議、個人発表
16		

科目コード	36507			区 分	コア科目				
授業科目名	アスレティックリハビリテーションⅠ			担当者名	江波戸 智希				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックリハビリテーションは、①筋力回復および筋力増強、②関節可動域回復、③神経筋協調性、⑤全身持久力回復、⑥身体組成の管理、⑦再発予防および外傷予防を主な目的としている。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

<授業の到達目標>

本講義では、「アスレティックリハビリテーション基礎」からの内容を深め、特に上肢および体幹を中心とした外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラム作成と実際に実践できる知識と技術の習得を目的とする。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。また必要に応じて実技指導も行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する毎回予習（30分程度）。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強を兼ねた復習である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

日本体育協会（2009.9.30）「日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティックリハビリテーション」
日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ外傷・傷害総論	スポーツ現場における上肢・体幹の外傷と障害の特徴について理解
2	肩関節のリハビリテーション	肩関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
3	肩関節のリハビリテーション	評価に必要な検査および測定方法の理解、患部のリスク管理
4	肩関節のリハビリテーション	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
5	肘関節のリハビリテーション	肘関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
6	肘関節のリハビリテーション	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習手
7	手首・指関節のリハビリテーション	手首・指関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
8	手首・指関節のリハビリテーション	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
9	腰部のリハビリテーション	腰部の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
10	腰部のリハビリテーション	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
11	頸部のリハビリテーション	頸部の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
12	頸部のリハビリテーション	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
13	コンディショニング実習-上肢-	上肢および体幹を中心としたコンディショニング方法の実習
14	コンディショニング実習-下肢-	下肢および体幹を中心としたコンディショニング方法の実習
15	コンディショニング実習-体幹-	体幹を中心としたコンディショニング方法の実習
16		

科目コード	62011				区 分	コア			
授業科目名	予防とコンディショニングⅡ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの観点から、スポーツ現場においてよく発生すると思われるスポーツ外傷・障害を中心に、その評価方法や応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングの理論と方法を学ぶ。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

<授業の到達目標>

比較的高い頻度で発生する外傷・障害について、スポーツ現場における評価方法や応急処置、安全に早期の競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション・コンディショニングが立案・指導できることを目標とする。

<授業の方法>

教科書に沿って講義や実技練習レポート課題、小テスト等を行い、必要に応じて資料を配布する。学生がさまざまな傷害、競技特性に応じたコンディショニングについて発表し、その内容を基に学生同志のディスカッションを積極的に行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し授業の理解を深め、授業当日のプレゼンテーション資料を作成する（2時間）。事後学習として、自身のプレゼンテーション発表の反省と、参加者からの意見をまとめる（1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

（公財）日本体育協会、2007 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥・予防とコンディショニング」、日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の概要説明、注意事項
2	股関節の損傷	グロインペイン等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
3	大腿部の損傷	肉離れ等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
4	膝関節の損傷	靭帯損傷等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
5	足関節の損傷	捻挫等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
6	下腿部と足部の損傷	シンスプリント等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
7	肩関節の損傷	脱臼等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
8	上肢の損傷	投球障害肩等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
9	体幹の損傷	腰痛等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
10	冬季競技の特性	スキーやスケート等における傷害とコンディショニング
11	記録系競技の特性	陸上や競泳等における傷害とコンディショニング
12	採点競技・格技系競技の特性	サッカーやラグビー等における傷害とコンディショニング
13	採点競技・格技系競技の特性	器械体操や柔道等における傷害とコンディショニング
14	総括テスト	これまでの振り返り、総括テスト
15	総括授業	総括テストの解説
16		

科目コード	36512			区 分	コア科目				
授業科目名	アスレティックトレーナー現場実習Ⅳ			担当者名	江波戸 智希／河野 儀久				
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーの役割の中で、主にアスレティックリハビリテーションについて実習を行う。アスレティックリハビリテーションの概念と定義を理解し、運動療法、物理療法と捕装具の使用に関する基礎知識を活かし、競技特性に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラムの作成および実践を行う。

<授業の到達目標>

各種疾患、各種競技におけるアスレティックリハビリテーションプログラムの作成、適切な指導ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

トレーニングセンターにて実習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に主にアスレティックリハビリテーションのテキストを読む、プログラムを作成するなど予習を60分以上行い実習の準備をする。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）30%、実技試験70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックリハビリテーション実習①	柔道選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
2	アスレティックリハビリテーション実習②	剣道選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
3	アスレティックリハビリテーション実習③	レスリング選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
4	アスレティックリハビリテーション実習④	ダンス選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
5	アスレティックリハビリテーション実習⑤	陸上短距離選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
6	アスレティックリハビリテーション実習⑥	陸上長距離選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
7	アスレティックリハビリテーション実習⑦	陸上投擲選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
8	アスレティックリハビリテーション実習⑧	ラグビー選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
9	アスレティックリハビリテーション実習⑨	バスケットボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
10	アスレティックリハビリテーション実習⑩	ハンドボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
11	アスレティックリハビリテーション実習⑪	サッカー選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
12	アスレティックリハビリテーション実習⑫	バレーボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
13	アスレティックリハビリテーション実習⑬	野球選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
14	アスレティックリハビリテーション実習⑭	ソフトボール選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施
15	アスレティックリハビリテーション実習	自転車競技選手のアスレティックリハビリテーションプログラム作成、実施

科目コード	53014			区 分	コア科目				
授業科目名	インターンシップ [FC][不開講]			担当者名	宮原 舞				
配当年次	3年	配当学期	集中講義	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

<授業の到達目標>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を醸成する。」「残りの学生生活ですべきことを明確にする」科目である。教育経営学科のディプロマポリシー4に記されている「周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。」またディプロマポリシー6に記されている「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての成長を目指した生涯学習力を身に付けている。」を目標に学ぶ。

<授業の方法>

講義と実習を年間を通して15コマ実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として希望する企業調べを実施する。事後学習として実習企業の分析をする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後学習における課題への取組：100%＜内訳＞1）キャリアセンター主催のガイダンスへの参加し、レポート：10%2）企業インターンシップ等への5回参加後レポート（詳細はルーブリックの内容確認）の平均値：90% ※6回以上の参加については、加点する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前指導1	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前指導2	本学におけるインターンシップ申し込みシステム
4	事前指導3	企業研究 1
5	事前指導4	企業研究 2
6	事前指導5	外部講師によるマナー講座
7	事前指導6	インターンシップ書類作成 1
8	事前指導7	インターンシップ書類作成 2
9	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
10	インターンシップ2日目	担当業務への従事、日誌の作成 1
11	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成 2
12	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成 3
13	インターンシップ5日目	担当業務への従事・日誌の作成 4
14	インターンシップ振り返り	受け入れ先へのお礼状、体験報告書の作成
15	事後指導	インターンシップ報告会
16		

科目コード	36516				区分	コア			
授業科目名	サービスラーニング I				担当者名	十河 直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかがわりながら現場において学ぶことがサービスラーニングの魅力です。

<授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。*ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

<授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日以上（もしくは20時間以上）の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動をグループで行い、発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間以上（もしくは20時間以上）とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることとなります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：30%グループにおける振り返り発表：30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	1) サービスラーニングとは何か 2) フィールドの説明
2	事前学習 (1)	フィールドの調査・理解
3	事前学習 (2)	フィールドでの実施計画の立案
4	現地調査 (1)	現地での課題をヒアリングする
5	現地調査 (2)	現地調査結果を集約する
6	現地調査 (3)	現地調査結果から課題を抽出し、改善案を検討する
7	現地調査 (4)	現地調査からの改題改善策について発表する
8	現地フィールド実施 (1)	現地フィールドでの実践準備を行う
9	現地フィールド実施 (2)	現地フィールドでの実践を行う (参加者把握)
10	現地フィールド実施 (3)	現地フィールドでの実践を行う (参加者ニーズ把握)
11	現地フィールド実施 (4)	現地フィールドでの実践を行う (本番)
12	現地フィールド実施 (5)	現地フィールドでの実践を行う (本番2)
13	現地フィールド実施 (6)	現地フィールドでの実践を行う (満足度調査等)
14	結果省察発表 (1)	実施内容・満足度調査をまとめる
15	結果省察発表 (2)	省察を発表する
16		

科目コード	36517				区 分	コア			
授業 科目名	サービスラーニングⅡ				担当者名	柴山 慧			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学ぶことがサービスラーニングの魅力です。

<授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。*ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

<授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日以上（もしくは20時間以上）の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動をグループで行い、発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間以上（もしくは20時間以上）とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることとなります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

活動状況や意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：30%グループにおける振り返り発表：30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	1) サービスラーニングとは何か 2) フィールドの説明
2	事前学習 (1)	フィールドの調査・理解
3	事前学習 (2)	フィールドでの実施計画の立案
4	現地調査 (1)	現地での課題をヒアリングする
5	現地調査 (2)	現地調査結果を集約する
6	現地調査 (3)	現地調査結果から課題を抽出し、改善案を検討する
7	現地調査 (4)	現地調査からの改題改善策について発表する
8	現地フィールド実施 (1)	現地フィールドでの実践準備を行う
9	現地フィールド実施 (2)	現地フィールドでの実践を行う (参加者把握)
10	現地フィールド実施 (3)	現地フィールドでの実践を行う (参加者ニーズ把握)
11	現地フィールド実施 (4)	現地フィールドでの実践を行う (本番)
12	現地フィールド実施 (5)	現地フィールドでの実践を行う (本番2)
13	現地フィールド実施 (6)	現地フィールドでの実践を行う (満足度調査等)
14	結果省察発表 (1)	実施内容・満足度調査をまとめる
15	結果省察発表 (2)	省察を発表する
16		

科目コード	36518				区分	コア			
授業科目名	サービスラーニングⅢ				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかがわりながら現場において学べるのがサービスラーニングの魅力です。

<授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。*ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

<授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日以上（もしくは20時間以上）の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動をグループで行い、発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間以上（もしくは20時間以上）とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることとなります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：30%グループにおける振り返り発表：30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	1) サービスラーニングとは何か 2) フィールドの説明
2	事前学習 (1)	フィールドの調査・理解
3	事前学習 (2)	フィールドでの実施計画の立案
4	現地調査 (1)	現地での課題をヒアリングする
5	現地調査 (2)	現地調査結果を集約する
6	現地調査 (3)	現地調査結果から課題を抽出し、改善案を検討する
7	現地調査 (4)	現地調査からの改題改善策について発表する
8	現地フィールド実施 (1)	現地フィールドでの実践準備を行う
9	現地フィールド実施 (2)	現地フィールドでの実践を行う (参加者把握)
10	現地フィールド実施 (3)	現地フィールドでの実践を行う (参加者ニーズ把握)
11	現地フィールド実施 (4)	現地フィールドでの実践を行う (本番)
12	現地フィールド実施 (5)	現地フィールドでの実践を行う (本番2)
13	現地フィールド実施 (6)	現地フィールドでの実践を行う (満足度調査等)
14	結果省察発表 (1)	実施内容・満足度調査をまとめる
15	結果省察発表 (2)	省察を発表する
16		

科目コード	51007				区 分	カリキュラムによって異なります			
授業科目名	介護等体験実習 《通年》				担当者名	林 栄昭／高橋 章二／大野呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

介護等体験は小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする人に義務付けられている。個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性の観点から、社会福祉施設や特別支援学校において、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの方との交流等を体験する。

<授業の到達目標>

社会福祉施設や特別支援学校において合計7日間の実習を行い、様々な活動体験を行う。また、そのための事前指導では、介護等体験の意義や目的、方法などについて学習する。社会福祉施設の利用者や特別支援学校で学ぶ子どもに触れることで、教員としての視野を広げ、幅広い人権意識を身に付けることを目的とする。

<授業の方法>

オリエンテーションでの「ガイダンス」、社会福祉施設と特別支援学校それぞれでの事前指導に参加し、各自が施設や学校にて体験をしたのち、報告書などの提出をする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

介護等体験の手引きを読み、自分が行く施設や学校の特色や内容に応じた参考書にも目を通しておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ガイダンス、事前指導等への参加状況（遅刻やスーツでない等は減点もしくはその時点で参加取り止めとなる）、書類や各種の手続きの締め切り遵守の状況、事後のお礼状や報告書の提出状況、日誌の書き方などを総合的に評価する。

<教科書>

「介護等体験の手引き」

<参考書>

現代教師養成研究会(2020年2月1日) 教師を目指す人の介護等体験ハンドブック 五訂版 大修館書店
 全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟(2020年2月10日) 介護等体験ガイドブック 新フィリア 株式会社ジアース教育新社
 増田雅暢他(2018年5月31日) 第5版 よくわかる社会福祉施設一教員免許志願者のためのガイドブック 社会福祉法人全国社会福祉協議会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前指導 (1)	介護等体験の概要、意義、手続きについて
2	事前指導 (2)	社会福祉施設での実習について
3	事前指導 (3)	特別支援学校での実習について
4	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
5	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
6	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
7	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
8	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
9	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
10	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
11	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
12	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
13	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
14	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
15	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
16		

科目コード	53013				区分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア [FC][不開講]				担当者名	宮原 舞			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	集中講義	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、2年～4年が受講可能で前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をレポートにまとめて第15回にて発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを明確にしておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。(1時間程度)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート及び発表の内容 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。
16		

科目コード	51004				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習 I (中学校・高等学校) [保健体育]				担当者名	白石 翔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・学校の役割や機能を具体的に理解する。・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、反省会10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習
15	教育実習	実習校における実習反省会
16		

科目コード	51001			区 分	コア科目				
授業科目名	教育実習 I (幼稚園)			担当者名	檜 日佳／小崎 遼介／宮原 舞／塚本 千晴 ／未定				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、反省会10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習園における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習園において指導のもとに実習
3	教育実習	実習園において指導のもとに実習
4	教育実習	実習園において指導のもとに実習
5	教育実習	実習園において指導のもとに実習
6	教育実習	実習園において指導のもとに実習
7	教育実習	実習園において指導のもとに実習
8	教育実習	実習園において指導のもとに実習
9	教育実習	実習園において指導のもとに実習
10	教育実習	実習園において指導のもとに実習
11	保育実習	実習園において指導のもとに実習
12	保育実習	実習園において指導のもとに実習
13	保育実習	実習園において指導のもとに実習
14	保育実習	実習園において指導のもとに実習
15	保育実習	実習園における実習反省会
16		

科目コード	51005				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(中学校)[保健体育]				担当者名	大井 理緒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・学校の役割や機能を具体的に理解する。・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、反省会10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習
15	教育実習	実習校における実習反省会
16		

科目コード	51002			区 分	コア科目				
授業科目名	教育実習Ⅱ(幼稚園)			担当者名	檜 日佳/小崎 遼介/宮原 舞/塚本 千晴 /未定				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、反省会10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習園における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習園において指導のもとに実習
3	教育実習	実習園において指導のもとに実習
4	教育実習	実習園において指導のもとに実習
5	教育実習	実習園において指導のもとに実習
6	教育実習	実習園において指導のもとに実習
7	教育実習	実習園において指導のもとに実習
8	教育実習	実習園において指導のもとに実習
9	教育実習	実習園において指導のもとに実習
10	教育実習	実習園において指導のもとに実習
11	保育実習	実習園において指導のもとに実習
12	保育実習	実習園において指導のもとに実習
13	保育実習	実習園において指導のもとに実習
14	保育実習	実習園において指導のもとに実習
15	保育実習	実習園における実習反省会
16		

科目コード	53016				区分	コア科目			
授業科目名	健康運動実習 [健康運動指導士用]				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては、学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について

<授業の到達目標>

健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立つ。また、実務能力を身に付けることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解することを目標としている。

<授業の方法>

教科書を基に、様々な環境における現場実習を行う。特にクライアント（お客様）とコミュニケーションをとっていくことにより、現在のニーズや最新のトレーニング方法について学習する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し、現場での運動指導に関する予習を行い（約1時間）、実習に臨む。この実習を積極的に体験することで、授業の理解を深める。1日置きにレポートをまとめることにより、次の日の目標を明確にしていく（約1時間）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、実践運動指導 30%、個別対応理解 30%

<教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 株式会社 南江堂

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	利用者サポート	一般利用者への接遇・顧客管理・個人情報保護・個別対応
2	施設管理 (1)	救急法の資格の必要性・救急時対応・施設連絡網の確認・安全確保手順
3	施設管理 (2)	避難経路の確認と誘導・救急対応の範囲、救急器具、消火器、消火装置の確認
4	施設管理 (3)	機器の基本的な使用法・調整法・メンテナンス・衛生管理
5	健康評価と体力測定 (1)	運動参加に関する医学的状況の把握・運動参加の禁忌、条件付参加
6	健康評価と体力測定 (2)	説明と同意 安静時血圧・心拍数等の把握技術 形態測定技術・リスク・評価
7	運動プログラム提供 (1)	実際の運動機器を使った有酸素トレーニングの効果と説明、注意点
8	運動プログラム提供 (2)	実際の運動機器を使った筋力トレーニングの効果と説明、注意点
9	運動プログラム提供 (3)	運動時の循環器、代謝、整形外科系への配慮（高齢、腰痛、肥満等）
10	運動プログラム提供 (4)	適切な負荷の提供・記録の重要性・運動開始前の評価
11	運動プログラム提供 (5)	プログラムの進め方・運動処方説明
12	運動プログラム提供 (6)	具体的方法、プログラミング
13	総合応用 (1)	運動指導実践1（受付業務、顧客管理業務）
14	総合応用 (2)	運動指導実践2（個人レッスン）
15	総合応用 (3)	運動指導実践3（グループレッスン）
16		

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（20,000字程度を目安）を完成することを目標とする。

<授業の到達目標>

ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って卒業論文を執筆する。①研究テーマは、自分で決める。②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

<授業の方法>

4年前期：ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。
4年後期：卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。研究（計画書作成）方法

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（20,000字程度を目安）を完成することを目標とする。

<授業の到達目標>

ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。①研究テーマは、自分で決める。②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

<授業の方法>

4年前期：ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。
4年後期：卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。研究（計画書作成）方法

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも1時間程度必要）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

<教科書>

各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		